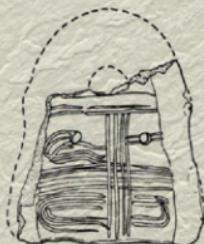


一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告書

堀町遺跡



2000.3

三重県埋蔵文化財センター



銅鑄形土製品

序

埋蔵文化財は、土に埋もれた、あるいは刻まれた過去の記録で、私たちの祖先がその時代を懸命に生きた証です。

一般国道42号松阪・多気バイパス路線内にも埋蔵文化財が多く残っていることがわかりました。これらは、一度破壊してしまうと二度と復元できないかけがえのないものであることは言うまでもありません。しかし一方で、自動車の運搬力や起動力は現代の生活に欠くことができないものとなり、道路の建設や改良は公共事業の緊急課題となっています。

三重県教育委員会では、これらの埋蔵文化財の保護と道路建設との調和を図るため、建設省等関係機関と協議を重ねてきました。その結果、バイパスの建設工事によって、どうしても保存のできない遺跡については、発掘調査によって記録として残すことになりました。平成元年度から始まった路線内の埋蔵文化財発掘調査事業も、今年度の堀町遺跡の報告をもって終了となります。ご協力を頂いた関係諸機関に感謝申し上げます。

平成12年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 大井興生

例　　言

- 1 本書は、三重県教育委員会が建設省中部地方建設局から委託を受けて実施した、一般国道42号松阪・多気バイパス建設予定地内に所在する埋蔵文化財発掘調査事業のうち、平成9～11年度に整理・報告書作成業務を実施した、堀町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 現地発掘調査及び整理・報告書作成にかかる費用は、建設省中部地方建設局の全額負担による。
- 3 本書に掲載した各遺跡の概要については、すでに当センター発行の『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報』(V)～(VII)で紹介しているが、本書の記述をもって最終報告とする。
- 4 本書に使用した事業計画図面は、建設省紀勢国道工事事務所の提供により、他に建設省国土地理院発行の地形図、松阪市作成の都市計画図を使用した。
- 5 本書に掲載した写真の撮影、遺構・遺物図面の作成は、調査・報告担当者、調査補助員・業務補助員を中心に行った。現地調査の担当者は第4表に示したとおりである。執筆分担は目次に示し、さらに文末にも記した。
- 6 図面における方位は、国土座標第VI系を基準とする座標北を用いた。
- 7 写真図版の遺物番号は、実測図の番号に対応している。写真図版は特に断らない限り縮尺不同である。
- 8 本書で報告した記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。
- 9 現地調査及び報告書作成期間中には、下記の方々に専門的な御指導と御助言をいただいた。記して感謝の意を表したい。(五十音順、敬称略)

天本洋一	池田公一	伊藤正人	岩野見司	上村安生	榎村寛之
草野誠司	楠木正士	蒲原宏行	川副麻理子	久保慎子	近藤 広
七田忠昭	土本典生	堤 安信	外山秀一	中村健二	原 直樹
柄口秀信	藤瀬慎博	前田達男	向田雅彦	森岡秀人	吉本健一
- 10 本書では、土層及び遺物の色調について、小山・竹原編『新版標準土色帖』(9版1989)を使用した。
- 11 本書で使用した遺構表示略記号は下記による。

S B : 据立柱建物	S D : 溝・環濠	S E : 井戸	S K : 土坑	S R : 旧河道
S X : 墓	S Z : その他・不明			
- 12 スキャニングによるデーター取り込みのため、若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目 次

I	前 言	(小演 学)	1
II	位置と歴史的環境	(森川常厚・小演 学)	8
III	遺 構	(小演 学)	11
IV	遺 物	(小演 学)	77
V	自然科学分析	(パリノ・サーヴェイ株式会社・小演 学)	261
VI	結 語	(小演 学)	273

挿図目次

I 前言	
第1図 路線、工区、道路位置図	2
II 位置と歴史的環境	
第2図 遺跡位置図	9
第3図 第1次調査区地区割図	10
第4図 第2～4次調査区地区剖面図	10
第5図 調査区位置図	10
目 道構	
第6図 調査区西壁土層断面図①	12
第7図 調査区西壁土層断面図②	13
第8図 調査区西壁土層断面図③	14
第9図 調査区西壁土層断面図④	15
第10図 調査区東西壁土層断面図①	16
第11図 調査区東西壁土層断面図②	17
第12図 調査区東西壁土層断面図③	18
第13図 SB257・258・374・487 実測図	19
第14図 SK1・360 実測図	20
第15図 SK8・29・31 実測図	21
第16図 SK14・15・SE37 実測図	22
第17図 SK302・305・310・326 実測図	23
第18図 SK330・340・359・372 実測図	24
第19図 SK410・420・434 実測図	25
第20図 SK421・426 実測図	26
第21図 SE327 実測図	27
第22図 SD303, SK398, SZ399 実測図	28
第23図 SD303 実測図	29
第24図 SB489・492 実測図	30
第25図 SK27・396, SZ230・362・370 実測図	31
第26図 SB35・36 実測図	32
第27図 SB391・399・393・394 実測図	33
第28図 SB488 実測図	34
第29図 SB18 実測図	35
第30図 SE64・65・66 実測図	36
第31図 SB377 実測図	37
第32図 SB378・379 実測図	38
第33図 SB382 実測図	39
第34図 SB60・63 実測図	40
第35図 SB383・384 実測図	41
第36図 SR375・376・381・490 実測図	42
第37図 SB385・386・387・388・589・390 実測図	43
第38図 SK6・48・51・61・450 実測図	44
第39図 SK44・45 実測図	45
第40図 SK215・324・341 実測図	46
第41図 SK43, SE47 実測図	47
第42図 SE253・363・451 実測図	48
第43図 SR54・217・218・323 実測図	49
第44図 SF337・345・357・358, SX318・419 実測図	50
第45図 SB380・491 実測図	51
第46図 SB247・248・249 実測図	52
第47図 SB250・251・252・253 実測図	53
第48図 SB255・256・259・262・264 実測図	54
第49図 SB250・261 実測図	55
第50図 SK220・223・407・415 実測図	56
第51図 SK418・471, SD472 実測図	57
第52図 SE46・55・208・225 実測図	58
第53図 SE207 実測図	59
第54図 SK222, SE221・224・232・233 実測図	60
第55図 SK226・231・368 実測図	61
第56図 SK25・26 実測図	62
第57図 SK313 実測図	63
第58図 SR210・1層断面図, SZ227・228 実測図	64
第59図 SR210 遺物出土分布図	65
IV 道物	
第60図 SB257, SK1・29・41・53・61 出土道物実測図	78
第61図 SK15 出土道物実測図	79
第62図 SK31 出土道物実測図①	80
第63図 SK31 出土道物実測図②	81
第64図 SK31 出土道物実測図③	82
第65図 SK302 出土道物実測図	83
第66図 SK305 出土道物実測図①	84
第67図 SK305 出土道物実測図②	85
第68図 SK305 出土道物実測図③	86
第69図 SK305 出土道物実測図④	87
第70図 SK305 出土道物実測図⑤	88
第71図 SK310・317・330・343・361 出土道物実測図	89
第72図 SK320 出土道物実測図①	90
第73図 SK320 出土道物実測図②	91
第74図 SK320 出土道物実測図③	92
第75図 SK326 出土道物実測図④	93
第76図 SK326 出土道物実測図⑤	94
第77図 SK341 出土道物実測図	95
第78図 SK350 出土道物実測図	96
第79図 SK372 出土道物実測図	97
第80図 SK410 出土道物実測図	98
第81図 SK420 出土道物実測図	99
第82図 SK421・434 出土道物実測図	100
第83図 SK426 出土道物実測図	101
第84図 SE327 出土道物実測図①	102
第85図 SE327 出土道物実測図②	103
第86図 SE327 出土道物実測図③	104
第87図 SD303 出土道物実測図①	105
第88図 SD303 出土道物実測図②	106
第89図 SD303 出土道物実測図③	107
第90図 SD303 出土道物実測図④	108

第91回	SD303 出土遺物実測図⑤	109
第92回	SD303 出土遺物実測図⑥	110
第93回	SD12・303・329・336, SZ399 出土遺物実測図	111
第94回	SK8・398 出土遺物実測図	112
第95回	SB489・492 出土遺物実測図	113
第96回	SK27・51・398 出土遺物実測図	114
第97回	SK446 出土遺物実測図	115
第98回	SE37 出土遺物実測図①	116
第99回	SE37 出土遺物実測図②	117
第100回	SE230・362 出土遺物実測図	118
第101回	SE370 出土遺物実測図	119
第102回	SB35・36・63・65・376・378・383・384 ・391・392・393・394・488 出土遺物実測図	120
第103回	SB18・60・381・385・386・387・390・490 出土遺物実測図	121
第104回	SK24・42 出土遺物実測図	122
第105回	SK6 出土遺物実測図	123
第106回	SK45 出土遺物実測図①	124
第107回	SK45 出土遺物実測図②	125
第108回	SK48・215 出土遺物実測図	126
第109回	SK324・341・450 出土遺物実測図	127
第110回	SE47 出土遺物実測図①	128
第111回	SE47 出土遺物実測図②	129
第112回	SE47 出土遺物実測図③	130
第113回	SK353 出土遺物実測図①	131
第114回	SK353 出土遺物実測図②	132
第115回	SE363 出土遺物実測図	133
第116回	SE451 出土遺物実測図	134
第117回	SE54 出土遺物実測図①	135
第118回	SE54 出土遺物実測図②	136
第119回	SE217 出土遺物実測図①	137
第120回	SE217 出土遺物実測図②	138
第121回	SE218 出土遺物実測図①	139
第122回	SE218 出土遺物実測図②	140
第123回	SE323 出土遺物実測図①	141
第124回	SE323 出土遺物実測図②	142
第125回	SE323 出土遺物実測図③	143
第126回	SE337 出土遺物実測図	144
第127回	SE345 出土遺物実測図	145
第128回	SE357 出土遺物実測図	146
第129回	SE358 出土遺物実測図	147
第130回	SD21・28・39 出土遺物実測図	148
第131回	SD4 出土遺物実測図①	149
第132回	SD4 出土遺物実測図②	150
第133回	SD4 出土遺物実測図③	151
第134回	SD4 出土遺物実測図④	152
第135回	SX318・419 出土遺物実測図	153
第136回	SB491, SK10・22・43 出土遺物実測図	154
第137回	SK220 出土遺物実測図	155
第138回	SK367 出土遺物実測図	156
第139回	SK223・407・415・418 出土遺物実測図	157
第140回	SE46 出土遺物実測図①	158
第141回	SE46 出土遺物実測図②	159
第142回	SE46 出土遺物実測図③	160
第143回	SE46 出土遺物実測図④	161
第144回	SE46 出土遺物実測図⑤	162
第145回	SE46 出土遺物実測図⑥	163
第146回	SE46 出土遺物実測図⑦	164
第147回	SE46 出土遺物実測図⑧	165
第148回	SE46 出土遺物実測図⑨	166
第149回	SE55 出土遺物実測図	167
第150回	SE209 出土遺物実測図	168
第151回	SE221 出土遺物実測図	169
第152回	SE224・225・226 出土遺物実測図	170
第153回	SE231 出土遺物実測図	171
第154回	SE232・233 出土遺物実測図	172
第155回	SE208・368, SD472 出土遺物実測図	173
第156回	SK25・313・423 出土遺物実測図	174
第157回	SK356 出土遺物実測図	175
第158回	SD204・206・370 出土遺物実測図	176
第159回	SZ227 出土遺物実測図	177
第160回	SR210 出土遺物実測図①	178
第161回	SR210 出土遺物実測図②	179
第162回	SR210 出土遺物実測図③	180
第163回	SR210 出土遺物実測図④	181
第164回	SR210 出土遺物実測図⑤	182
第165回	SR210 出土遺物実測図⑥	183
第166回	SR210 出土遺物実測図⑦	184
第167回	SR210 出土遺物実測図⑧	185
第168回	SR210 出土遺物実測図⑨	186
第169回	SR210 出土遺物実測図⑩	187
第170回	SR210 出土遺物実測図⑪	188
第171回	SR210 出土遺物実測図⑫	189
第172回	SR210 出土遺物実測図⑬	190
第173回	SR210 出土遺物実測図⑭	191
第174回	SR210 出土遺物実測図⑮	192
第175回	SR210 出土遺物実測図⑯	193
第176回	SR210 出土遺物実測図⑰	194
第177回	SR210 出土遺物実測図⑱	195
第178回	SR210 出土遺物実測図⑲	196
第179回	SR210 出土遺物実測図⑳	197
第180回	SR210 出土遺物実測図㉑	198
第181回	SR210 出土遺物実測図㉒	199
第182回	SR210 出土遺物実測図㉓	200
第183回	SR210 出土遺物実測図㉔	201
第184回	SR210 出土遺物実測図㉕	202
第185回	SR210 出土遺物実測図㉖	203
第186回	SR210 出土遺物実測図㉗	204
第187回	杜穴 出土遺物実測図	205
第188回	匂合瓦 出土遺物実測図㉘	206

第189図	包含層 出土遺物実測図②	207
第190図	包含層 出土遺物実測図③	208
VII 結語		
第191図	遺構の変遷①	274
第192図	遺構の変遷②	275
第193図	後期前半弥生土器分類(案)①	277
第194図	後期前半弥生土器分類(案)②	278
第195図	後期前半弥生土器分類(案)③	279

第196図	後期前半弥生土器統計結果①	281
第197図	後期前半弥生土器統計結果②	282
第198図	車車型式分類(案)	284
第199図	S R 210祭祀木製品出土状況	285
第200図	祭祀木製品統計結果	286
第201図	移埴内道路祭祀木製品統計結果	287

付図 堀町遺跡遺構平面図

写 真 図 版 目 次

銅鐸形土製品	卷頭図版	
調査前風景		289
第1次調査区空中写真		289
第2次調査区空中写真		289
第3次調査区空中写真		289
S B 2 5 7 - 2 5 8		290
S B 4 8 0		290
S K 1 5		290
S K 3 4 0		290
S K 3 1	出土状況	291
S K 3 1	銅鐸形土製品出土状況	291
S K 3 0 5	出土状況	291
S K 3 0 5	横出土状況	291
S K 3 2 6	出土状況	292
S K 3 2 6	柱穴出土状況	292
S K 4 1 0	出土状況	292
S K 4 2 0	出土状況	293
S K 4 2 1	出土状況	293
S K 4 2 6	出土状況	293
S K 4 2 6	土器集中地点	293
S E 3 2 7	上層出土状況	294
S E 3 2 7	下層出土状況	294
S E 3 2 7	集水槽出土状況	294
S E 3 2 7	袋狀土製品出土状況	294
S D 3 0 3	土器集中状況	295
S D 3 0 3	出土状況	295
S D 3 0 3	上層断面	295
S Z 3 9 9		295
S K 8	出土状況	296
S K 8	多層出土状況	296
S B 4 9 2		296
S B 4 9 2	柱穴出土状況	296
S B 4 8 9		297
S K 4 8 - 5 1		297
S E 3 7	出土状況	297
S E 3 6 2	出土状況	297
S E 3 7 0	出土状況	298
S B 3 5		298
S B 3 8 4		298
S B 3 8 5 ~ 3 9 5		298
S B 4 8 8		299
S B 4 8 8	柱穴出土状況	299
S B 4 9 0		299
S B 4 9 0	柱穴出土状況	299
S K 6	出土状況	300
S E 2 1 8	出土状況	300
S E 3 2 3	出土状況	300
S E 4 5 1		300
S X 4 1 9		301
S K 2 2 3	出土状況	301
S E 4 6		301
S E 4 6	調査状況	301
S E 2 0 7		302
S Z 2 2 7		302
S R 2 1 0		302
S R 2 1 0	稲作出土状況	302
遺物写真1		303
遺物写真2		304
遺物写真3		305
遺物写真4		306
遺物写真5		307
遺物写真6		308
遺物写真7		309
遺物写真8		310
遺物写真9		311
遺物写真10		312
遺物写真11		313
遺物写真12		314
遺物写真13		315
遺物写真14		316
遺物写真15		317
遺物写真16		318
遺物写真17		319
遺物写真18		320
遺物写真19		321
遺物写真20		322
遺物写真21		323

遺物写真22	324
遺物写真23	325
遺物写真24	326
遺物写真25	327
遺物写真26	328
第1次調査 木材・炭化材1	329
第1次調査 木材・炭化材2	330
第1次調査 木材・炭化材3	331
第1次調査 木材・炭化材4	332
第1次調査 木材・炭化材5・種実遺体	333
第2次調査 木材	334
第1～3次調査 種実遺体	335
第1・3次調査 木材	336

表 目 次

I 総計	
第1表 道跡概況	3
第2表 現地説明会一覧表	5
第3表 松坂・多気バイパス調査結果表	5
第4表 発掘調査道跡一覧	7
II 道構	
第5表 道構一覧表①	66
第6表 道構一覧表②	67
第7表 道構一覧表③	68
第8表 道構一覧表④	69
第9表 道構一覧表⑤	70
第10表 道構一覧表⑥	71
第11表 道構一覧表⑦	72
第12表 道構一覧表⑧	73
第13表 道構一覧表⑨	74
第14表 道構番号対照表①	75
第15表 道構番号対照表②	76
IV 遺物	
第16表 遺物観察表①	209
第17表 遺物観察表②	210
第18表 遺物観察表③	211
第19表 遺物観察表④	212
第20表 遺物観察表⑤	213
第21表 遺物観察表⑥	214
第22表 遺物観察表⑦	215
第23表 遺物観察表⑧	216
第24表 遺物観察表⑨	217
第25表 遺物観察表⑩	218
第26表 遺物観察表⑪	219
第27表 遺物観察表⑫	220
第28表 遺物観察表⑬	221
第29表 遺物観察表⑭	222
第30表 遺物観察表⑮	223
第31表 遺物観察表⑯	224
第32表 遺物観察表⑰	225
第33表 遺物観察表⑱	226
第34表 遺物観察表⑲	227
第35表 遺物観察表⑳	228
第36表 遺物観察表㉑	229
第37表 遺物観察表㉒	230
第38表 遺物観察表㉓	231
第39表 遺物観察表㉔	232
第40表 遺物観察表㉕	233
第41表 遺物観察表㉖	234
第42表 遺物観察表㉗	235
第43表 遺物観察表㉘	236
第44表 遺物観察表㉙	237
第45表 遺物観察表㉚	238
第46表 遺物観察表㉛	239
第47表 遺物観察表㉜	240
第48表 遺物観察表㉝	241
第49表 遺物観察表㉞	242
第50表 遺物観察表㉟	243
第51表 遺物観察表㉟	244
第52表 遺物観察表㉟	245
第53表 遺物観察表㉟	246
第54表 遺物観察表㉟	247
第55表 遺物観察表㉟	248
第56表 遺物観察表㉟	249
第57表 遺物観察表㉟	250
第58表 遺物観察表㉟	251
第59表 遺物観察表㉟	252
第60表 遺物観察表㉟	253
第61表 遺物観察表㉟	254
第62表 遺物観察表㉟	255
第63表 遺物観察表㉟	256
第64表 遺物観察表㉟	257
第65表 遺物観察表㉟	258
第66表 遺物観察表㉟	259
第67表 遺物観察表㉟	260
V 自然科学分析	
第68表 樹種同定結果①	263
第69表 時代別・用途別樹種構成	264
第70表 種実同定結果①	265
第71表 樹種同定結果②	267
第72表 種実同定結果③	271
第73表 種実同定結果④	272
第74表 樹種同定結果⑤	272

I 前 言

1 はじめに

一般国道42号は和歌山県和歌山市を起点とし、三重県津市に至る幹線道路である。東紀州方面から松阪市への入口の堀田川に架かる両郡橋付近は、道路幅員が狭いため慢性的な交通渋滞に悩まされてきた。また、松阪市内の幹線道路も市街地に集中しているため、交通渋滞が繰り返されており、交通環境の悪化が懸念されていた。これらの状況を開拓する方策として、多気郡多気町仁田から松阪市古井町に至る延長11.9kmの、周辺の地域活性化も視野に入れた一般国道42号松阪・多気バイパスが計画されたのである。堀町道路はその計画の第12工区内にある。なお、松阪・多気バイパス建設事業の全体についての調査に至る経過等については、第1分冊に詳しいのでご参照願いたい。

2 調査の体制

調査の体制については、いわゆる三者体制を当該事業では採り入れた。三重県教育委員会は建設省と調査に関する委託契約を結ぶ一方、建設省は外郭団体である(社)中部建設協会と現場作業に係る作業員の任用や労務管理、各種機材の手配等といった土工部門に関する委託契約を結ぶ。そして、この三者間の協力関係を明らかにするため三者で協定を結ぶことで、当該事業を推進しようという方法である。詳細については、第1分冊に譲りたい。

また、平成5年～9年度には「県教育委員会・市町村教育委員会職員人事交流実施要綱」に基づいて、松阪市および多気町の教育委員会から各1名、計2名の職員の派遣を得て調査体制を強化、充実させた。以下は、堀町道路に関わった調査体制及び整理体制である。

[平成5年度]

所長 久保富子

次長 若林祥男、山澤義貴

主幹兼調査第2課長 伊藤克幸

主査 倉田直純

第2係長 田村陽一

主事 東 良樹、宇河雅之

西村修久(多気町より派遣)

小濱 学(松阪市より派遣)

総務課長 小柳 清

主事 伊藤直樹、寺前秀紀

[平成6年度]

所長 川村政敬

次長 若林祥男、山澤義貴

主幹兼調査第2課長 伊藤克幸

主査兼第2係長 田村陽一

主事 下平康弘、東 良樹

西村修久(多気町より派遣)

小濱 学(松阪市より派遣)

総務課長 小柳 清

主事 伊藤直樹、橋川 功

[平成7年度]

所長 川村政敬

次長 田中 守、山澤義貴

主幹兼調査第2課長 伊藤克幸

主査兼第2係長 田村陽一

主事 下平康弘、松木美先、小林 秀

西村修久(多気町より派遣)

小濱 学(松阪市より派遣)

総務課長 中西勝之

主事 伊藤直樹、橋川 功

[平成8年度]

所長 奥村敏夫

次長 田中 守、山澤義貴

主幹兼調査第2課長 山田 猛

第2係長 森川常厚

主事 松木美先、小濱 学

兼吉 健(松阪市より派遣)

小山志一(多気町より派遣)



第1図 路線、工区、遺跡位置図 (1 : 50,000) (国土地理院 松阪・国東山 1 : 25,000)

番号	遺跡名	所在地	確認面積 (m ²)	現状	種類	時代	概要	丁区
1	明気窓跡群	多気町相可字明気	2,000	山林	散布地 窓跡	古墳	平成4～5年度調査。須恵器窓5基、竪穴住居等を確認。	
2	明気古墳群	多気町相可字明気	900	山林	古墳	古墳	平成3年度多気町教委試掘で7号墳確認。 監護の結果、多気町教委が調査を実施。	
3	甘精遺跡	多気町荒荷字甘精	2,650	畑	散布地 水田	中世	平成3年度試掘調査実施。後世の開闢等で削平され本調査除外地となる。	
4	吳漫遺跡 (多氣条里)	多気町荒荷字吳漫ほか	7,500	水田	散布地 条里	古墳 ～中世	平成5年度調査。明確な条里構造は確認できず。前方後方型周溝系を検出したほか、石棺出土。	
5	上ノ垣外遺跡	多気町荒荷字上ノ垣外	6,000	畑 水田	散布地 集落跡	縄文 古墳 ～中世	平成5年度第1次、6年度第2次調査実施。縄文～中世の遺構・遺物。	9 工 区
	梅ノ坂古遺跡	多気町相可字梅ノ坂古		宅地	散布地	中世	上ノ垣外遺跡3次調査として平成8年度に実施。弥生～古墳・平安・室町時代の遺物が出土。	
6	新徳寺遺跡	多気町相可字新徳寺	2,400	畑 水田	散布地	縄文	平成6年度第1次、平成8年度第2次調査。縄文時代後期前葉の堅穴住居や土坑を多数確認。	
7	鴻ノ木遺跡	松阪市射和町字鴻ノ木・ 水引湯・久保田ほか	11,200	水田 宅地	集落跡	縄文 弥生 ～中世	平成2～6年度調査。縄文時代早期、弥生・奈良～平安時代の集落跡、墓跡等を確認。	
8	朱中遺跡	松阪市射和町字朱中	5,200	水田	集落跡	縄文 古墳 ～中世	平成3年度調査。奈良～平安時代の集落跡確認。	
9	朱中古墳	松阪市射和町字朱中	400	山林	古墳	古墳	平成2年度試掘調査実施。後世の開闢等により墳形等不明。須恵器樽形罐、蓋片、円筒埴輪片出土。	
10	中野前遺跡 (右津洋)	松阪市下村町字右津	4,200	水田	散布地	中世	平成6年度試掘調査実施。遺構は確認できず、遺物は客土からのため、本調査にいたらず。	11 工 区
	廿子遺跡 (東牛込)	松阪市上川町字廿子		水田	散布地	中世	平成7年度調査。高堤整備時に削平を受け、遺構の残存わずか。	
11	北上遺跡	松阪市上川町字北上	3,700	水田	散布地	古墳 ～奈良	古代官道の検出を目的に平成7年度確認調査。官道は検出できず。古墳～奈良の自然流水路検出。	
12	堀町遺跡	松阪市朝田町字堀町ほか	14,300	水田	散布地	弥生 ～中世	平成6～9年調査。弥生～室町時代の遺構を多数確認。同時代の土器・銅鋳形土製品・資串出土。	12 工 区
13	御堂山遺跡	松阪市西野ヶ町字御堂山	8,100	水田	散布地	奈良 ～中世	平成4年度試掘調査実施。遺構・遺物ともに確認できず、本調査除外地となる。	工 区
14	山ノ花遺跡	松阪市吉井町字山ノ花	4,100	水田	散布地	中世	平成7年度調査。中世の遺構をわずかに検出。遺跡の周辺部と判断。	工 区
15	大日山古墳群	多気町荒荷字大日山	600	山林	古墳	古墳	平成5年度工事中発見。直徑約20m、高さ約2mの円墳。主体部なし。他に丘陵斜面に主體部2基。	9 工 区

第1表 遺跡概況

総務課長 広瀬雅晴

廣田洋子 山路麗子 山分孝子 脇葉輝美

主事 尾崎嘉春、橋川 功

〔平成9年度〕

所長 奥村敏夫

次長 中山 孝、山澤義貴

主幹兼調査第2課長 山田 猛

第2係長 森川常厚

主事 小濱 学

兼古 慶（松阪市より派遣）

小山嘉一（多気町より派遣）

総務課長 宏瀬雅晴

主事 尾崎嘉春、橋川 功

〔平成10年度〕

所長 大井興生

次長兼総務G L 三井利男

次長兼資料普及G L 山澤義貴

主幹兼調査第2課長 吉水康夫

第2係長 筒井正明

主事 小濱 学、小山忠一

総務G主幹 広瀬雅晴

主事 尾崎嘉春、長谷川 登

〔平成11年度〕

所長 大井興生

次長兼総務G L 三井利男

次長兼資料普及G L 山澤義貴

主幹兼調査第2課長 吉水康夫

第2係長 筒井正明

主事 小濱 学、小山忠一

総務G主幹 広瀬雅晴

主事 尾崎嘉春、長谷川 登

* Gはグループ、G Lはグループリーダーを指す

以上のほか、各種調査記録類の整理や出土遺物の整理、実測などで以下の方々の補助を得た。

調査補助作業員

奥 明子（松阪女子高校）加藤里江（皇學館大学）

瀬野弥知世（皇學館大学）河角龍典（立命館大学）

高谷典子（松阪女子高校）塙田幸子（皇學館大学）

松井理栄子（橘女子大学）中島沙恵（佛教大学）

業務補助員

北川ゆき 白石みよ子 中里輝子 瀬野弥知世

中村敬子 服部美奈子 広瀬麻代 谷久保美知代

3 調査の方法

地区割については、4m方眼で設定しており、適切な道路中心杭2点を結ぶ延長方向に、北から南へ数字を、これと直行する方向には西から東へアルファベットを与え、各地区の北西杭をその地区的名称とした。

遺構カードは原則として4m×4mの地区ごとに作成する。略図は遺構検出後、掘り下げまでに記入することとし、遺構の重複関係、埋土の色調・状態等を明示することとした。遺構番号は通し番号を付け、ピットについては各グリッドごとに通し番号を付した。また、遺構の検討や遺物の整理等のため、遺構カードをもとに、100分の1の遺構略図を作成した。

遺構等の写真撮影は、原則として6×7cm版（モノクロ、カラーPOジ）を使用した。この他全景や特殊遺構などについては4×5インチ版（モノクロ、カラーポジ）、報道依頼関係に使用するカラーネガ（35ミリ版）も必要に応じて使用した。

使用したカメラは、アサヒペンタックス6×7、ニコンF301、ウイスタS P（4×5インチ版）、マミヤR Z 67である。

遺構実測については、国土座標系に基づいておこなった。当地域は第VI座標系に属する。現地調査期間の短縮のため、空中写真測量を原則としつつ、1:20手書き実測も一部実施した。また、各遺構の遺物出土状況図など詳細な実測図は、全て1:10手書き実測を行った。

4 調査の経過

堀町遺跡の現地発掘調査については、平成5年度に範囲確認調査を実施し、本調査面積9,700m²を確定した。本調査が進むにつれて、当初の範囲確認の結果よりも遺跡範囲が広がる可能性が出てきた。そのため、平成8年度に現地調査の合間をぬって、再度範囲確認調査を行った。その結果を受け、本調査面積を14,300m²に変更した。範囲確認調査の限界と

難しさを痛感する結果となった。今後、より精度のある範囲確認調査が必要となろう。

また、現地調査が終了し、遺構実測が終了もしくはほぼ終わる段階で、一般住民を対象に可能な限り現地説明会を実施した。事業全体では、延べ1,000人以上の参加を得た。なお、現地説明会の時には説明資料として「国道42号バイパス松阪・多気発掘調査だより」を刊行している。なお、小学校の依頼に

による体験発掘も実施した。鴻ノ木遺跡では津市立片山小学校が、新守遺跡では多気町立相可小学校が発掘調査を体験した。堀町遺跡では、松阪市教育委員会の依頼による『親子体験発掘』を実施した。さらに、松阪市立徳和小学校が整理所見学に訪れている。

以下に、堀町遺跡の調査が行われた年度毎の事業概要について記す。

遺跡名	所在地	開催年月日	参加人員
鴻ノ木遺跡第1次	松阪市射和町	平成 3年 3月16日	60
朱中遺跡	松阪市射和町	平成 4年 2月 1日	100
明氣 1・2号窯	多気郡多気町相可	平成 5年 2月13日	150
明氣 3・5号窯	多気郡多気町相可		
鴻ノ木遺跡第4次	松阪市射和町	平成 5年 7月31日	150
鴻ノ木遺跡第5次	松阪市中町方		
上ノ垣外遺跡第1次	多気郡多気町荒井	平成 5年12月 4日	140
渠邊遺跡	多気郡多気町荒井		
上ノ垣外遺跡第2次	多気郡多気町荒井	平成 6年 7月30日	120
新寺寺遺跡第1次	多気郡多気町相可		
堀町遺跡第1次	松阪市朝田町	平成 7年 2月 4日	100
堀町遺跡第2次	松阪市朝田町	平成 8年 1月20日	120
新寺寺遺跡第2次	多気郡多気町相可	平成 8年 6月 1日	100
堀町遺跡第3次	松阪市朝田町	平成 8年12月21日	130
堀町遺跡第4次	松阪市朝田町	平成 9年11月 1日	80

第2表 現地説明会一覧表

区 No.	測量点	測量点位置(㎡)					測量点理(㎡)						備 考	
		地盤主張	3.4.1施設	9.3.31現在	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	明治新道跡	2,000	2,900	2,900	—	—	—	—	1,400	範1	—	—	—	平成4年度多気町教委公査
2	明治新道跡	900	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	試験調査の結果、本路線の必要なし
3	甘利通路	2,600	0	0	—	範144	—	—	—	範1	—	—	—	多気町条例通路を名町変更
4	通路跡	7,500	2,300	2,300	—	範908	—	—	2,000	範1	—	—	—	—
工 区	上ノ坂外道跡	—	—	—	5,000	範65	—	—	1,950	3,020	範1	—	—	—
	上ノ坂古道跡	6,000	8,000	—	—	—	—	範112	範64	範48	50	範114	—	上ノ坂古道迹3次調査を名町変更
	上ノ坂古道跡	—	—	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	新谷合道跡	2,400	(2,400)	1,600	—	—	—	範96	1,100	範48	550	範114	—	—
	新谷合道跡	—	—	—	—	—	—	範333	—	—	—	—	—	—
7	上ノ坂古道跡	11,200	13,800	12,500	範172	460	3,500	5,800	1,350	—	—	範17	—	高橋、初多岐のため複数に4名
8	篠ノ木道跡	—	—	—	1,500	—	—	2,211	2,200	—	—	—	—	—
9	朱の瀬通路	5,200	5,200	5,200	範154	—	4,800	—	400	—	範V	—	—	—
10	朱の瀬古道	400	0	0	—	範96	—	—	1,000	—	範V	—	—	—
11	大日向古道跡	600	—	600	—	—	—	—	600	範1	—	—	—	平成5年度工事中に発見
12	中野通路	4,200	4,200	0	—	—	—	—	—	範175	—	範V	—	—
13	甘利通路	2,700	3,700	—	—	—	—	—	—	範144	—	—	—	古道跡名を名町変更、本路線の必要なし
14	中野通路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,600	範V	—	東牛込通路を名町変更
15	山ノ坂通路	9,200	9,200	14,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トレンチ直直
16	山ノ坂通路	8,100	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	試験調査の結果、本路線の必要なし
17	山ノ坂通路	4,100	4,100	1,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西 工 区	範175直直	—	—	—	632	1,052	850	452	498	96	270	—	—	範175、複数直直のため複数に3名
	本路線	—	—	—	1,500	5,260	5,000	12,450	9,450	6,000	12,250	3,500	—	48,410
	合計	—	—	—	範850	範900	範2,211	範2,312	範397	—	範114	—	—	6,894
	貯	68,150	52,800	47,410	範850	範900	範2,211	範2,312	範297	—	範114	—	—	52,248
西 工 区	範175直直	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	範175、複数直直のため複数に3名
	本路線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西 工 区	合計	—	—	—	2,122	6,312	5,850	12,902	9,948	6,096	5,520	3,500	0	—
	貯	—	—	—	範850	範900	範2,211	範2,312	範297	—	範114	—	—	6,894

第3表 松阪・多気バイパス調査経過表

(範...範例確認調查、報...報告書作成、審...下級面積)

〔平成5年度〕

新徳寺・堀町遺跡の範囲確認調査2件計452m²、明氣窓跡群・巣渡・上ノ垣外・鴻ノ木遺跡の本調査4件計11,450m²を行い、上ノ垣外遺跡で112m²、鴻ノ木遺跡で2,200m²の下層調査を追加している。また、大日山2号墳を伐採工事中に発見し、協議の結果、平成6年度に調査を実施することになった。

また、報告書作成業務を開始し、明氣窓跡群・片繪・巣渡遺跡の遺物整理作業を行った。

なお、バイパスの工事計画や用地買収の進捗などから建設省との二者協定や(社)中部建設協会との三者協定の変更が必要ができた。協議の結果、協定の変更を実施することになった。

〔平成6年度〕

中野前・廿チ・山ノ花遺跡の範囲確認調査3件計496m²、大日山古墳群・上ノ垣外・新徳寺・鴻ノ木・朱中・堀町遺跡の本調査6件計9,450m²を行い、上ノ垣外遺跡で64m²、新徳寺遺跡で333m²の下層調査を追加している。堀町遺跡は第1次調査を行い、弥生時代後期の銅鐸形土器が出土し注目を浴びた。報告書作成業務は、「一般国道松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ」を刊行し、上ノ垣外・新徳寺・朱中遺跡、朱中占墳群の遺物整理作業を行った。

〔平成7年度〕

梅ノ世古・新徳寺遺跡の範囲確認調査2件計96m²、廿チ・山ノ花・堀町遺跡の本調査3件の計6,000m²を行い、廿チ遺跡の調査の際に、古道確認の目的で、北上遺跡のトレンチ調査を行っている。堀町遺跡については、第2次調査を行い大量の糞中が出土した川河岸等を確認し、調査区より遺跡が広がることが判明したため、平成8年度に再度範囲確認調査を行うこととなった。報告書作成業務は、「一般国道松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ、Ⅴ」を刊行し、中野前・廿チ・北上・御堂山・山ノ花・鴻ノ木遺跡の遺物整理作業を行った。

〔平成8年度〕

堀町遺跡の範囲確認調査1件270m²、根ノ世古・新徳寺・堀町遺跡の本調査3件の計4,150m²の調査を実施した。堀町遺跡の範囲確認調査では、新たに3,500m²の調査が必要となり、平成9年度に第4次

調査として行うこととなった。堀町遺跡は、第3次調査を行い弥生時代後期の環濠等を確認し、環濠集落であることが判明した。報告書作成業務については、「一般国道松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ、Ⅵ」を刊行し、鴻ノ木遺跡の遺物整理作業を行った。

また、第9工区の工事進展に伴い、整理所の移転が必要となった。そこで、第10工区内の松阪市上川町に6月に移転し、平成10年の業務終了まで発掘調査や遺物整理の基地とした。

〔平成9年度〕

現地調査の最終年度にあたり、堀町遺跡(3,500m²)の発掘調査1件のみである。報告書作成業務では、鴻ノ木遺跡の報告書作成と堀町遺跡の遺物整理作業を行った。なお、鴻ノ木遺跡の報告書は、業務量過多のため、平成10年度刊行とした。

〔平成10年度〕

報告書作成業務のみ行った。鴻ノ木遺跡の報告書を刊行し、堀町遺跡の報告書作成と遺物整理作業を行った。なお、堀町遺跡の報告書は、業務量過多のため、平成11年度刊行とした。

〔平成11年度〕

堀町遺跡の報告書の刊行。

(小濱 学)

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積(㎡)	担当者
1	明氣古墳群	多気町相可字明氣	平成4(1992)年8月28日～9月30日(試掘) 平成4(1992)年10月18日～平成5(1993)年2月28日 平成5(1993)年4月19日～10月29日 *平成4年6月17日～6月25日予備調査(磁気探査)	530 1,500 1,400 計 3,430	田村陽一・宇河雅之 田村陽一・宇河雅之 宇河雅之・西村修久
2	明氣古墳群	多気町相可字明氣		—	多気町教育委員会
3	甘檜塚跡	多気町荒井字甘檜	平成3(1991)年8月26日～10月11日(試掘)	144 計 144	田中喜久雄・野原宏司
4	荒井塚跡	多気町荒井字果瀬	平成3(1991)年8月26日～10月11日(試掘) 平成5(1993)年4月23日～平成6(1994)年1月27日 *遺跡名を変更、旧遺跡名は【多気郡桑里遺跡】	908 2,300 計 3,208	田中喜久雄・野原宏司 西村修久・東 良樹
5 9	上ノ坂外遺跡 ほか	多気町荒井字上ノ坂外	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘)	68	河原信幸
		多気町荒井字上ノ坂外	平成5(1993)年1月28日～2月1日(試掘)	96	田村陽一・宇河雅之
		多気町荒井字上ノ坂外	平成5(1993)年8月23日～平成6(1994)年1月27日	1,950 *112	西村修久
		多気町荒井字上ノ坂外	平成6(1994)年4月18日～8月31日	3,050 *64	東 良樹・下平康弘
		多気町荒井字上ノ坂外	平成8(1995)年2月6日(試掘)	48	田村陽一・松本美先
		多気町荒井字上ノ坂外	平成8(1995)年2月11日～5月10日 *遺跡名を変更、旧遺跡名は【上ノ坂外遺跡3次調査】	50 計 5,262 *176	松本美先・小山雅一
		多気町荒井字上ノ坂外	平成8(1995)年7月9日～7月12日(試掘)	96	宇河雅之
		新宿寺遺跡	平成6(1994)年5月23日～8月24日	1,100 *333	小瀬 学・西村修久
		多気町相可字新宿寺	平成6(1994)年6月2日(試掘)	48	田村陽一・松本美先
		多気町相可字新宿寺	平成8(1996)年4月11日～6月27日	500 *114	松本美先・小山雅一
				計 1,744 *447	
6 工 区	木水遺跡	松阪市射和町字木水	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘)	272	河原信幸
		松阪市射和町字木水	平成2(1990)年10月11日～平成3(1991)年3月19日	1,500 *850	宇河雅之・小林 秀
		松阪市射和町字木水	平成3(1991)年4月23日～5月31日	450	田中喜久雄・野原宏司
		松阪市射和町字木水	平成4(1992)年5月11日～8月31日	3,500 *2,321	宇河雅之・田村陽一
		松阪市射和町字木水	平成4(1992)年4月19日～8月29日	3,600 *400	東 良樹・小瀬 学
		松阪市射和町字木水	平成5(1993)年8月23日～平成6(1994)年3月31日	2,200 *1,800	小瀬 学・田村陽一
		松阪市射和町字木水	平成6(1994)年8月23日～平成7(1995)年1月25日	1,300	下平康弘
				計 12,832 *5,371	
7 8 9	朱中古墳	松阪市射和町字朱中	平成2(1990)年7月23日～9月12日(試掘)	184	河原信幸
		松阪市射和町字朱中	平成2(1990)年8月1日～8月24日	2,300	田中喜久雄・野原宏司
		松阪市射和町字朱中	平成3(1991)年10月14日～平成4(1992)年3月13日	2,500 *900	田中喜久雄・野原宏司
		松阪市射和町字朱中	平成6(1994)年9月5日～9月22日	400	東 良樹
		松阪市射和町字朱中		計 5,384 *900	
10 11 12 13 14 15	中野前遺跡 前・王子	松阪市上川町字中野前・王子	平成6(1994)年9月26日～10月5日(試掘) *遺跡名を変更、旧遺跡名は【石舟遺跡】	176 計 176	東 良樹
		松阪市上川町字中野前・王子	平成6(1994)年10月6日～10月4日(試掘) *遺跡名を変更、旧遺跡名は【東牛込遺跡】	144	東 良樹
		松阪市上川町字北	平成7(1995)年6月7日～名月19日 (範囲確認)	1,600 計 1,744	下平康弘・小林 秀
12 13 14 15	道町遺跡 ほか	松阪市朝田町字道町・ 道宮ほか	平成5(1993)年7月19日～7月23日(試掘) 平成6(1994)年4月26日～平成7(1995)年2月20日 平成7(1995)年8月7日～平成8(1996)年1月24日 平成8(1996)年7月15日～8月19日～21日(試掘) 平成8(1996)年7月15日～平成9(1997)年1月31日 平成9(1997)年5月6日～平成9(1997)年12月10日 (範囲確認)	355 3,000 3,100 270 4,700 3,500 計 14,926	宇河雅之 小瀬 学 小瀬 学・松本美先 小瀬 学・黄吉 様 小瀬 学・黄吉 様 小瀬 学・兼吉 様
		松阪市西野町字御堂山	平成5(1993)年1月26日～1月27日(試掘)	224 計 224	宇河雅之
		松阪市古井町字山ノ花	平成6(1994)年10月17日～10月20日(試掘) 平成7(1995)年5月10日～5月26日	176 1,300 計 1,476	東 良樹 松本美先・西村修久
		多気町荒井字大日山	平成6(1994)年4月7日～6月10日	600 計 600	西村修久・小瀬 学

第4表 発掘調査遺跡一覧

II 位置と歴史的環境

松阪市は、南北に細長い三重県のほぼ中央に位置している。北は伊勢湾及び一志郡三尖町、南は多気郡多気町・勢和村、東は多気郡明和町、西は一志郡嬉野町及び飯山郡飯南町に接している。

市内には複数の河川が流入しているが、そのなかでも櫛田川は最大規模を誇っている。櫛田川は、紀伊山地に源を発し中央構造線に沿って東流するが、松阪市南部の丘陵地帯から平野に出るあたりで北方に向きを変え、伊勢湾に注ぐ総延長約84kmの三重県を代表する大河川である。この屈曲点から分流し、本流の東側を北流する萩川が本流の河道とされるが、乱流を繰り返し、11世紀後半の大洪水により現流路に移行したものと考えられている。この乱流の結果、松阪市東部には堀町遺跡(12)も立地する広大な沖積平野が形成された。

この沖積平野は櫛田川低地と呼ばれており、櫛田川、萩川などによってつくられた氾濫平野とその前面の三角洲と海岸平野及び干拓地を含んだ地域を指す。氾濫平野については砂質土壌からなる崩状地性の平野、三角洲についてはシルト・粘土からなり低湿、海岸平野については砂堆と一般地からなること、干拓地については強クライ質の細砂からなり低湿であるという特徴がそれぞれみられるということである。

櫛田川低地を含む沖積平野及び周辺の丘陵部分には、多くの遺跡が存在する。ここでは、堀町遺跡が存続した時期である弥生時代以降について概観したい。

沖積平野を望む周辺の低位丘陵には、弥生から古墳時代にかけての有力な遺跡が存在する。草山遺跡(5)は発掘調査の結果、竪穴住居や方形周溝墓が多数検出され、弥生時代後期の大集落であることが判明した。杉原外遺跡(20)は弥生時代後期の環濠の存在が認められ、堀町遺跡から西へ1.8kmと指呼の位置関係である。また、同じ弥生時代後期で出土遺物から杉原外遺跡、堀町遺跡よりは若干新しい時期と考えられる阿形遺跡も環濠が認められた遺跡である。

また、堀町遺跡から東へ約2.3kmには、前方後方型周溝墓を多数確認した瀬戸遺跡(21)があり、撲点集落の存在を窺わせる。古地図により直径55mの周溝を伴う円墳であったことがわかる茶臼山古墳(7)、それと同様な規模で残存する久保古墳(4)は、4世紀後半頃の築造と考えられる大型墳である。前者からは内行花文鏡、後者から三角縁神獣鏡のいずれも舶載鏡の出土が伝えられている。³ 5世紀代の築造では、全長95mを測り、伊勢国最大の前方後円墳である宝塚1号墳(1)、全長72mの造出し付き円墳の2号墳(2)があり、強大な権力者の存在を示している。

遺跡は沖積平野にも広がり、弥生時代中期の涌岸遺跡(6)、後期の堀町遺跡(12)の両者から、近年の発掘調査で銅鋸形土製品が出土した。⁴ 銅鋸を模倣した遺物としては、前述した草山遺跡からも銅鋸形銅製品が出土している。⁵ 西山遺跡(15)では、古墳時代後期の堅穴住居が検出され、全長45mの前方後円墳に推定される大塚山古墳を中心とする佐久美古墳群(8)は、出土遺物から5世紀後半に築造されたものと考えられる。このように、河川の氾濫が相繼いだと想われる沖積平野にも、弥生時代以来人々は拠点を構えていたようである。

山ノ花遺跡(14)、御堂山遺跡(13)、廿チ遺跡(11)、北上遺跡(9)は、いずれも沖積平野に、中野前遺跡(10)は低位丘陵から緩やかに傾斜する崩状地の先端部に位置している。これらの遺跡の周辺は、「和名抄」に記載のある飯野郡黒沼郷、長田郷、神戸郷に比定されている。古代官道は、現在の駿駿田町(3)から早馬瀬町(18)へまっすぐ延びていたと推定されており、町の名は、それに間連するものと考えられる。都と唐宮・伊勢神宮、あるいは志摩方面を結ぶ交通路で、唐土群行等、盛んな往来があったものと思われる。

伊勢神宮の勢力は、中世にはいっても無視できず、西黒郷町には黒部御厨が設置された。しかし、北畠氏が徐々に支配を強化し畿内人化するにつれて、

神宮の力は後退する。西黒部町周辺は、中世後期には北畠氏の支配下にあり、塩業を行っていたことが古文書に記されている。そしてそれを裏付けるかのように、同町の池ノ上遺跡(16)、小糸遺跡(17)からは、周囲に粘土を貼りつけたかん水槽をはじめとする製塩遺構が検出されている。²⁰

〔註〕

- ① 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査月報』(1982~1985年)。
- ② 西田克・久松倫生・下村登良男「松阪市」『日本歴史地名大系24三重の地名』(1983年)。
- ③ 福山 昭『面早崎遺跡発掘調査報告』(松阪市教育委員会、1992年)。
- ④ ③に同じ。

その北畠氏も織田氏に支配され、蒲生氏郷により松坂城(19)やそれに伴う城下町が建設され、三井家をはじめとする松坂商人が活躍することになる。そしてこの伝統は現在に受け継がれ、松阪市は人口10万人をこえる商都として繁栄しているのである。

(森川常厚・小瀬 学)

⑤ 三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財センター年報4』(1993年)。

⑥ ⑤に同じ。

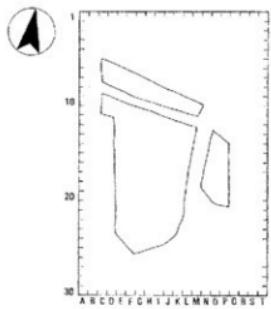
⑦ 足利義充『大和から伊勢神宮への古代の道』『探訪古代の道第1巻』(1988年)。

⑧ ⑦に同じ。

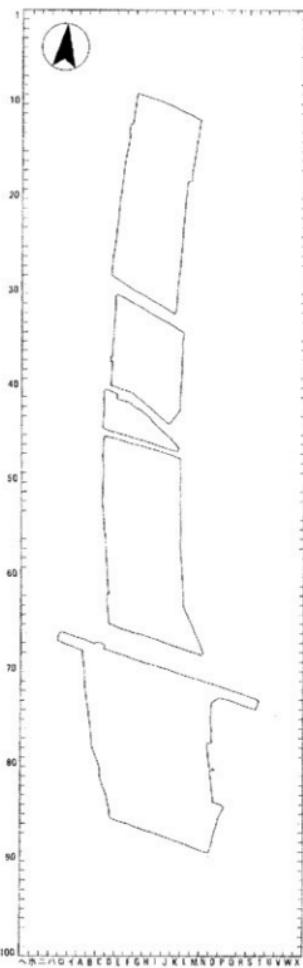
⑨ ⑦に同じ。



第2図 遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院・松阪港・松阪 1:25,000)



第3図 第1次調査区地区割図（1：2,000）



第4図 第2～4次調査区地区割図（1：2,000）



第5図 調査区位置図（1：5,000）

III 遺構

1 基本層序

道路建設予定地の調査があるので、南北に細長い調査区となった。層序については、基本的に上から現代の耕作土、床土、包含層、遺構検出面である。

遺跡の現況は、水田あるいは畠地である。耕作土と床土については遺跡全体に分布している。包含層については、遺跡全体にあるわけではない。包含層自体厚くても20cm程度である。場所によっては、2層の包含層が存在する場合や、土色が違っている場合もある。黒色粘質土(10YR3/1)、黄灰色シルト(2.5Y4/1)、暗黃灰色粘質砂混土(2.5Y4/2)や、灰オリーブ色シルト(5Y4/2)が包含層としてみられる。自然条件の違いや後世の変容などの影響がでたのだろうか。また、調査区によっては、包含層がなく耕作土、床土を除けばすぐ遺構検出面であることもある。このことは、新地整理などにより、遺跡全体が削平されている可能性を示している。

遺構検出面については、全体的には、シルト質か、それに近い性質である。包含層と同様に、場所により土色の違いがある。暗オリーブ色シルト(5Y4/3)、灰オリーブ色砂(5Y5/2)、灰オリーブ色シルト(7.5Y6/2)、黄灰色砂質粘土混土(2.5Y4/1)、灰色粘質砂混土(7.5Y6/1)、褐灰色シルト(10YR6/1)、灰白色土(8N8/0)、暗黃灰色粘質砂混土(2.5Y4/2)、黄灰白色砂質粘土混土(2.5Y6/2)や灰白色砂質土(2.5Y7/1)がみられた。土色の違いは、場所によっての自然条件の違いや後世の変容などの影響がでたのだろうか。また、遺跡のはば中央の遺構検出面直下には、暗褐色粘質土(7.5YR3/3)の安定した土層が存在しており、水田などの遺構の存在を想定していたが、試掘の結果、遺構は存在しないことが判明した。

2 遺構

発掘遺跡は、第1次～第4次にわたり調査されて

いる。遺構番号については、調査時のものを生かすこととし、その番号の頭に整理の便宜上、第2次調査では2を、第3次調査では3を、第4次調査では4を冠するものとする（例：第2次調査のS E 7はS E 207となる）。なお、詳細については、第14・15表遺構番号対照表を参照されたい。井戸の部分名称や分類については、先行の研究を参考にしている。また、遺構数もかなりの数にのぼるため、主要な遺構については詳述するものとし、それ以外のものについては、遺構一覧表をご覧いただきたい。

弥生時代

掘立柱建物

S B257（第13図）

規模は梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。棟方向についてはE111.0° Sである。柱穴は、0.25～0.43mの掘形があり、底部で0.05～0.1mの柱痕跡を検出した。遺構検出面での検出時には柱痕跡は確認できなかった。柱穴内の一つから中期末から後期にかけてのLI縁鉢片が出土しているが、環塗内に位置していることから考えて後期に属するものであろう。住居というよりは倉庫的なものと考えられる。

S B258（第13図）

梁行1間、桁行1間である。棟方向についてはN11.0° Eで、S B257と接っている。柱穴は、0.25～0.35mの掘形があり、底部で0.05～0.1mの柱痕跡を検出した。柱穴内からは出土遺物はなかった。棟方向が同一であることと環塗内に位置していることから考えて後期に属するものであろう。住居というよりは倉庫的なものであろう。

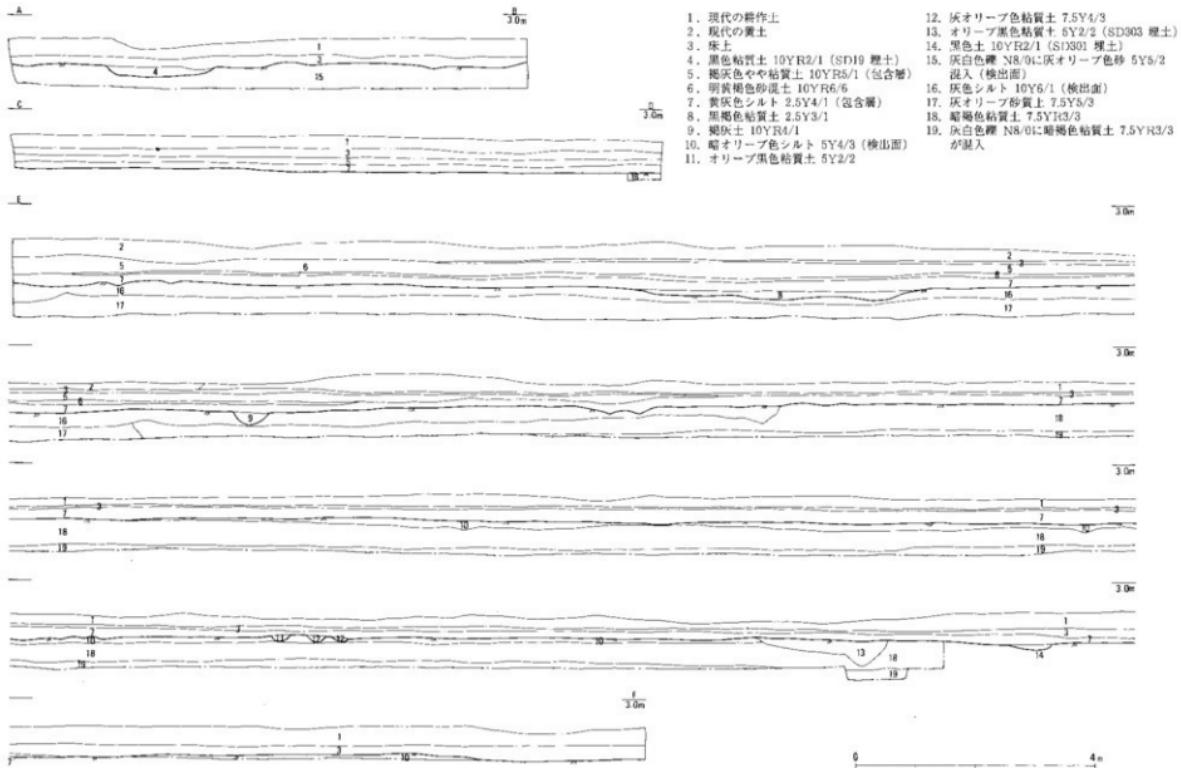
S B374（第13図）

梁行1間、桁行4間の南北棟建物である。棟方向についてはN34.0° EでS B257・258とは若干違う。時期差があるのか。柱穴からの遺物の出土がないので判断に苦しむ。

S B487（第13図）

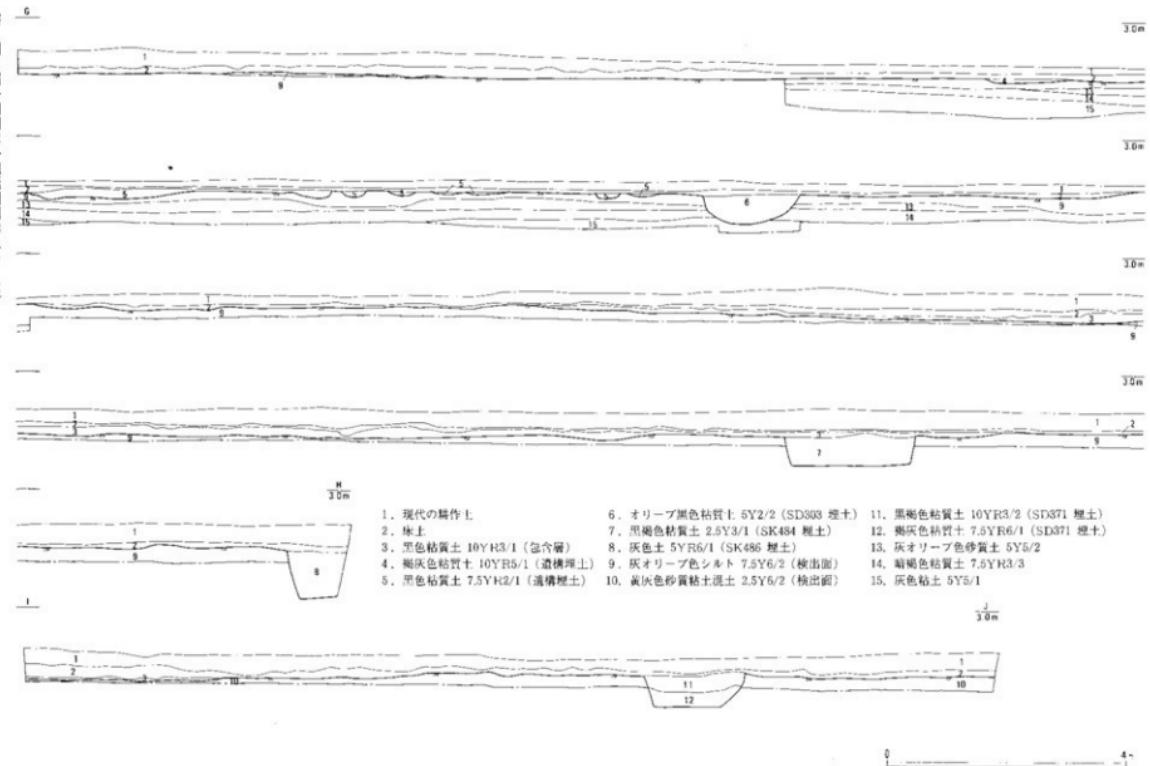
梁行1間、桁行2間の東西棟建物である。棟方向

第6図 調査区西壁土壌断面図(1) (1 : 80)



第7図 調査区西壁土層断面図(2) (1 : 80)

— 13 —



についてはE12.5° Sである。小規模でもあり、住居とは考えにくい。棟方向も他建物とは若干違う。柱穴からの遺物の出土もなかった。

土坑

S K 1 (第14図)

平面形は不整形な楕円を呈している。長軸2.9m、短軸1.55m、深さ0.08~0.11mの浅い土坑である。埋土からは、弥生土器壺・高杯などが出土しているが、量としては少ない。後期に属するものであろう。

S K 15 (第16図)

平面形は不整形円を呈し、長軸4.2m、短軸2.95m、深さ0.69~0.76 mである。埋土は2層で上から、黄灰色砂質土・灰黄褐色粘質土である。遺物の出土量はそれほど多くなく、底部において、横斧などの木製品や弥生土器壺などが出土した。何らかの理由で投げ入れられたものと考えられる。祭祀が行われていた可能性もある。SK14、SE37とSB18の柱穴に切られている。後期に属すると考えられる。

S K 29 (第15図)

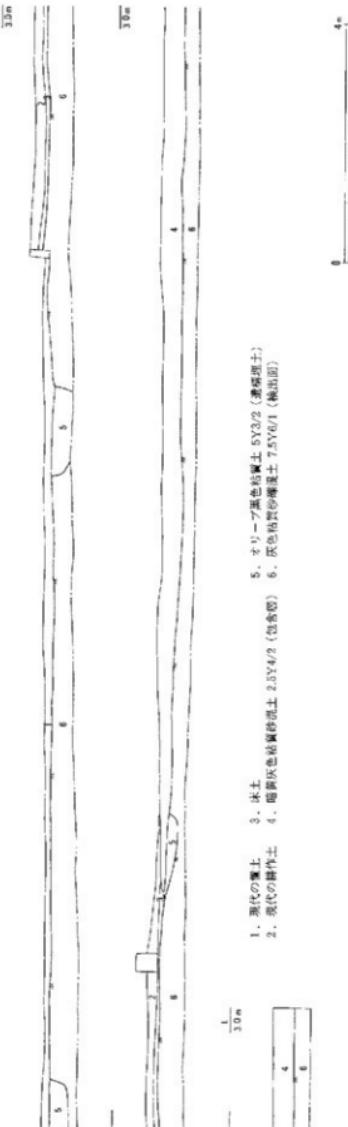
平面形は楕円形。長軸1.27m、短軸0.83m、深さ0.29mの小型の土坑である。埋土からは、弥生土器壺・高杯などが出土しているが、量的には少ない。後期に属すると考えられる。

S K 31 (第15図)

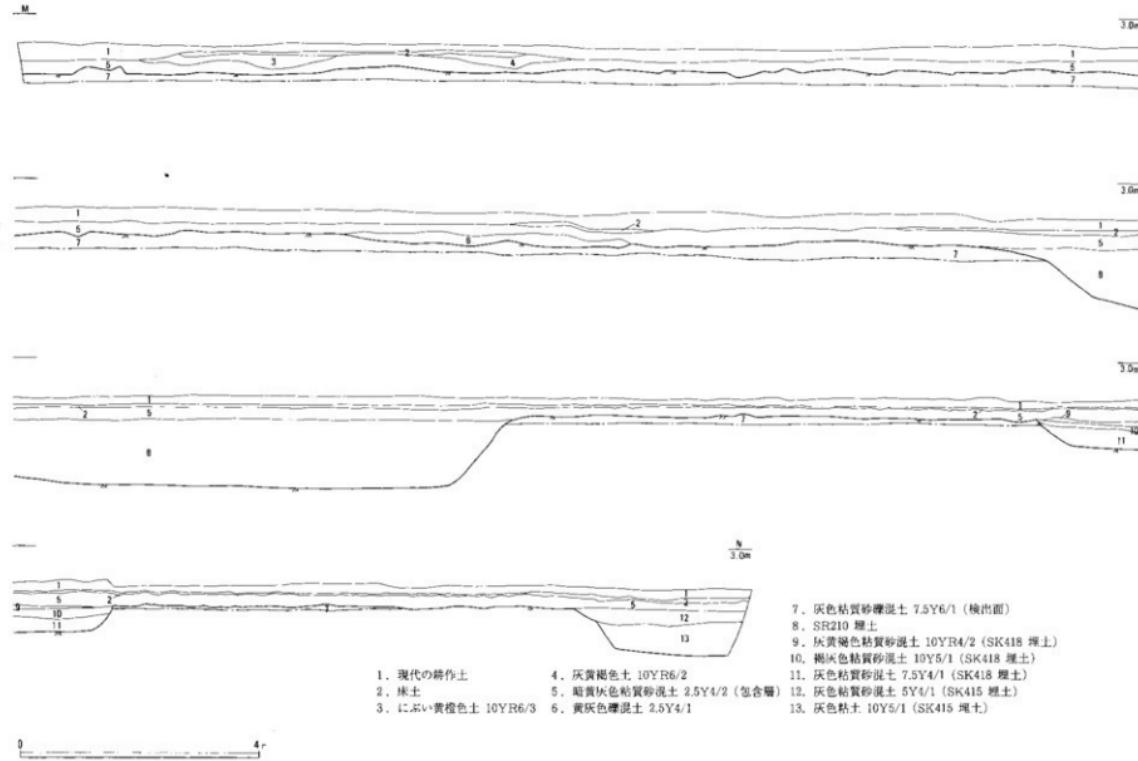
平面形は円形を呈し、長軸4.12m、短軸3.74m、深さ0.75mである。埋土は2層であった。遺構検出直近くの埋土と底部近くで遺物の集中がみられた。底部近くでは、完形の壺や壺などの土器類、斧の柄や泥除けなどの木製農具や自然木が折り重なって出土した。また、それらを取り除くと砂質土が顔を出し大量の湧水があった。底面直上からは、逆位の状態で銅鐸形土製品が割れて出土している。銅鐸形土製品は埋納というよりは投げ入れられたものであろう。この遺構の周辺で何らかの祭祀が行われていた可能性が考えられる。後期に属するものと考えられる。

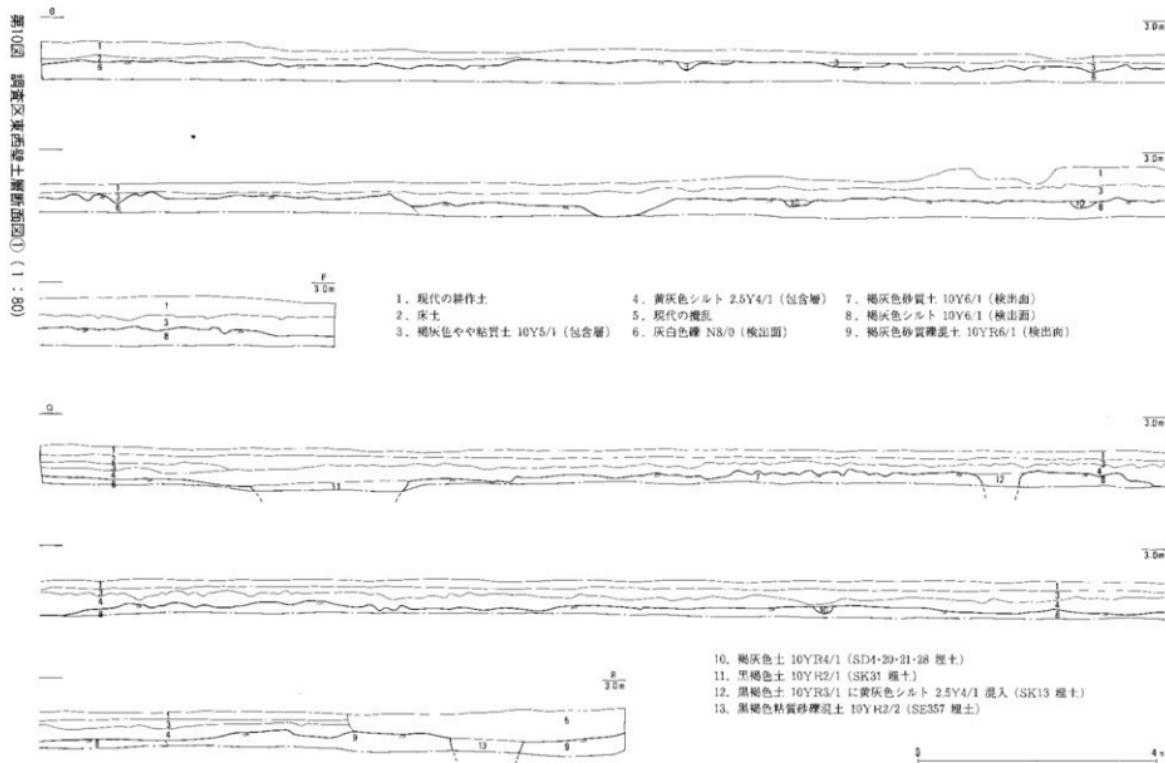
S K 302 (第17図)

平面形はほぼ円形で、径1.8m、深さ0.50~0.56mである。埋土は3層で、上から灰黄褐色粘質砂混土・黒褐色粘質土・黑色粘質土である。弥生土器壺・高杯などが底部近くから出土している。後期に属する

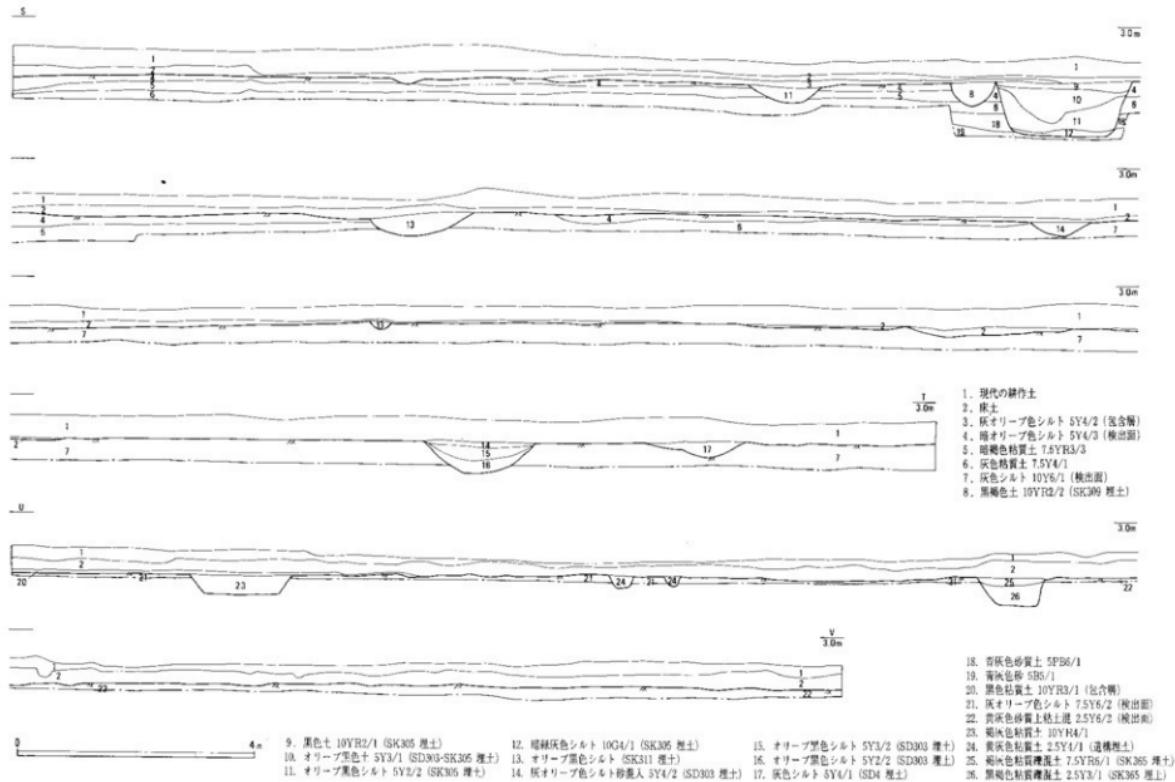


第8図 調査区西壁土層断面図③ (1 : 80)



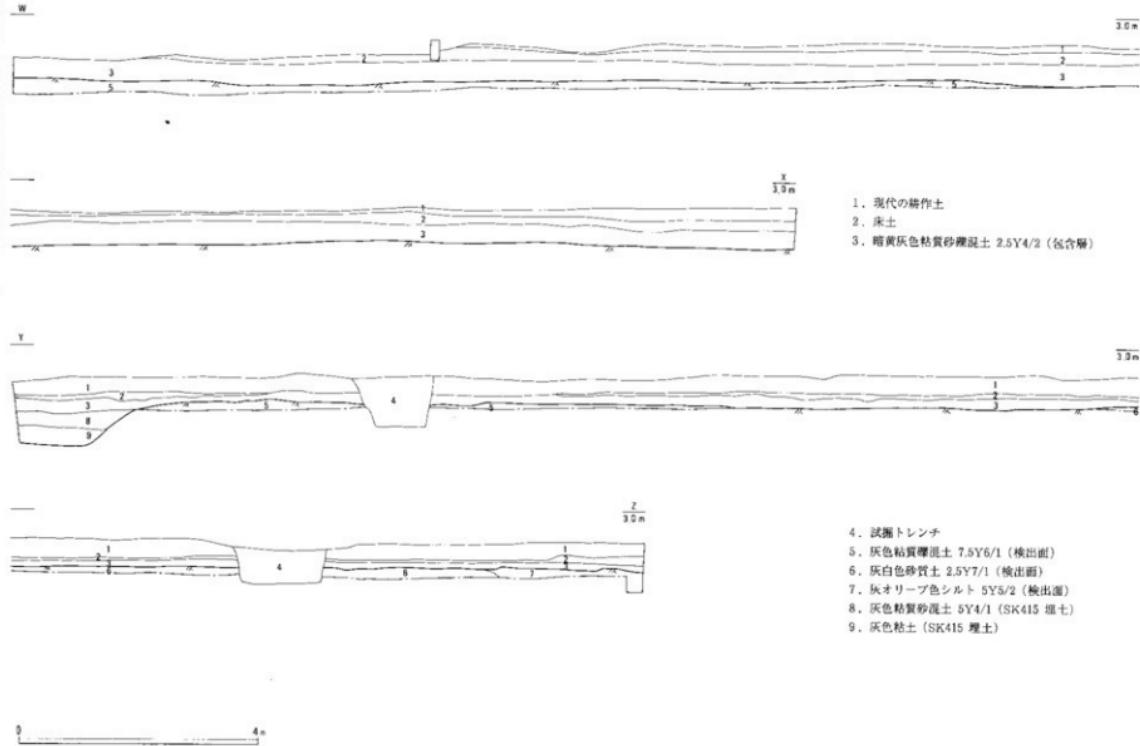


第11図 調査区東西縦断面図(2) (1:80)



第12図 調査区東西縦土質断面図(3) 1:80

- 18 -



ものと考えられる。

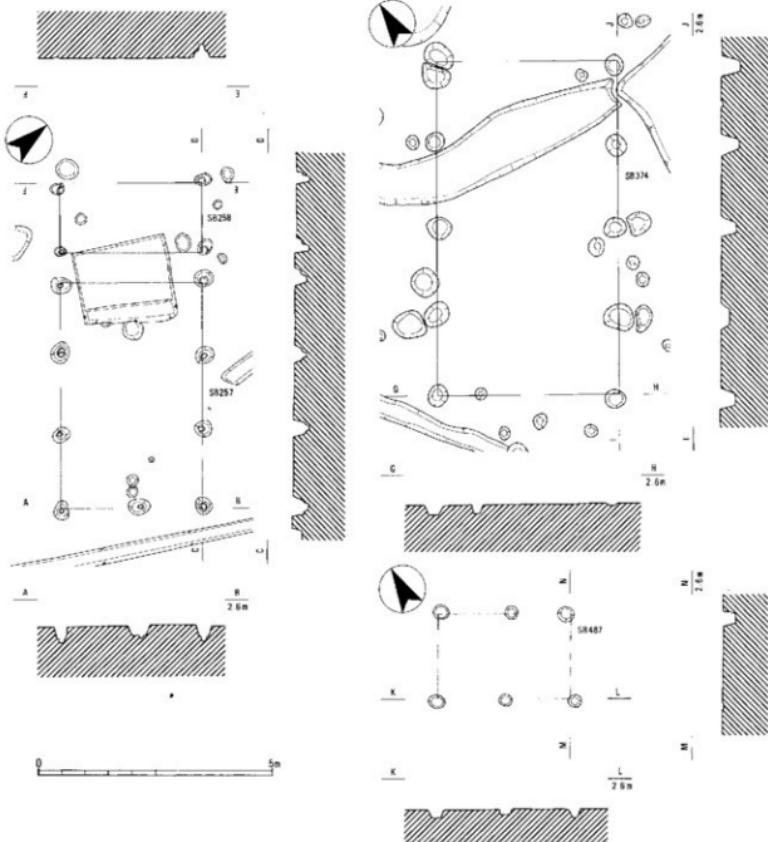
S K305 (第17図)

平面は円形を呈し、径2.49m、深さ0.85~0.92mである。遺構検出面に近い遺構の上面から土器の集中がみられた。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなる。弥生土器壺・甕・高杯・鉢・ミニチュア土器などが多く出土した。また、脚付櫛や杭などの木製品もみられた。なお、底部近くで完形の壺や高杯などの土器類や木製櫛が出土した。櫛を取り上

げると、その直下に口縁部が欠失した壺が櫛を支えるような形で出土した。それらを取り除くと砂質土が齒を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものと考えられる。

S K310 (第17図)

平面形は不整形な楕円、長軸1.79m、短軸0.74m、深さ0.10~0.23mの浅い遺構である。遺構埋土から弥生土器高杯の脚などが底部近くから出土している。後期に属するものであろう。



第13図 SB257・258・374・487実測図 (1:100)

S K 326 (第17図)

平面形は不整形な楕円を呈し、長軸3.68m、短軸2.15m、深さ0.53~0.74mである。検出時から弥生土器の集中がみられた。遺構埋土は4層に分かれ。遺構検出面に近い遺構上面に多くの土器が集中し、出土遺物は弥生土器壺・甕・高杯・鉢・ミニチュア土器などが大量に出土した。それらを取り除くと、底部に近づくにつれて遺物の出土が少くなり、砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものと考えられる。

S K 330 (第18図)

平面形は不整形円を呈し、長軸3.2m、短軸2.46m、深さ0.33~0.62mである。遺構埋土は4層に分かれ。遺物の出土は遺構の底部近くに少量みられた。出土遺物は弥生土器壺や高杯で、自然木も出土した。それらを取り除くと砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものであろう。

S K 340 (第19図)

平面形は不整形円形を呈し、長軸1.92m、短軸1.69m、深さ0.7~0.91mである。遺構検出面から少し掘り下げたところで土器の集中がみられた。弥生土器壺や甕がみられた。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなった。底部近くでは、なにも出土しなくなり、砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものであろう。

S K 359 (第18図)

平面形は不整形円形で、長軸2.01m、短軸1.96m、深さ0.57~0.71mである。遺構検出面から少し掘り下

げたところで土器の集中がみられた。弥生土器壺・甕・高杯がみられた。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなった。それらを取り除くと砂質土が顔を出し水が大量に湧いてきた。後期に属するものと考えられる。

S K 372 (第18図)

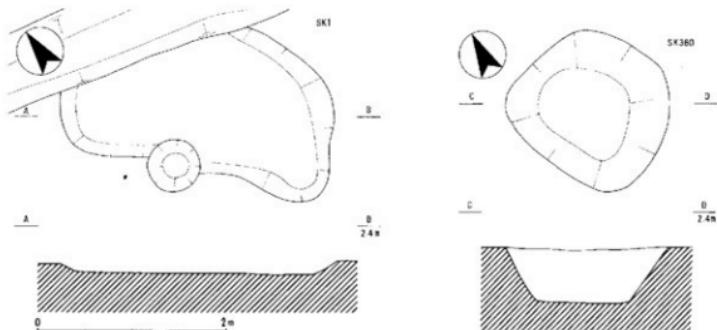
平面形は不整形な楕円である。長軸2.72m、短軸2.31m、深さ0.23~0.39mである。遺構検出面と同レベルから土器の集中がみられた。弥生土器壺・甕・高杯が出土した。掘削を続けていくと、遺物の出土が少なくなった。後期に属するものと考えられる。

S K 410 (第19図)

平面形は楕円形で、長軸2.76m、短軸2.05m、深さ0.13~0.67mの規模である。埋土上方から土器等が集中して出土した。底部に近づくにつれて土器の出土量は少くなり、湧水点に達した。土器群については、出土状況から投げ入れられたものといえよう。土器については、壺・甕・高杯等が良好な状態で出土しており、そのなかにはあまり類例のない把手付鉢がみられた。底部から水が湧き出ていることから、その当時も同様の様相を呈していたことが考えられる。井戸とも考えられるが現状では判断に苦しむ。また、何らかの祭祀に関わった遺構ともいえなくもない。後期に属するものと考えられる。

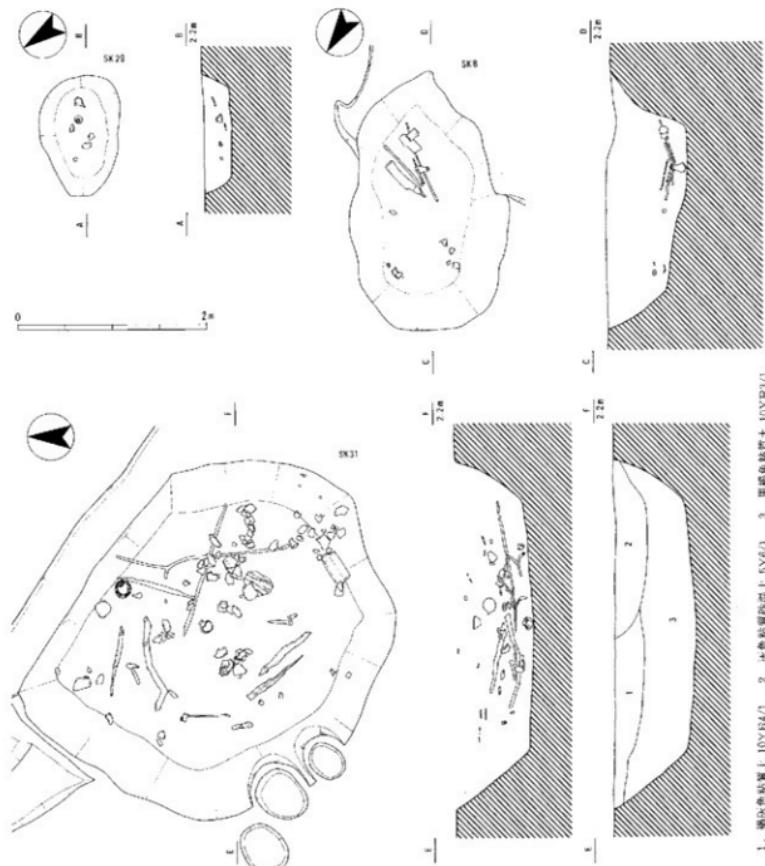
S K 420 (第19図)

平面形は楕円形で、長軸2.6m、短軸1.76m、深さ0.47~0.54m。遺構の北東部分では後世の掘乱が見られた。埋土は3層で、上から1層目から土器等が



第14図 SK1 + 360実測図 (1:50)

集中して出土した。底部に近づくにつれて上器の出土量は少なくなり、湧水点に達した。土器群については、埋納というよりも、土器のほとんどが割れていることや出土状況から投げ入れられたものといえよう。上器については、壺、甕、高杯等が良好な状態で出土している。井戸や何らかの祭祀に関わった遺構ともいえなくもない。後期に属するものと考えられる。



第15図 SK8・29・31実測図 (1:50)

S K42! (第20図)

平面形は不整形円形で、長軸2.71m、短軸2.51m、深さ0.54~0.71mである。遺構の西側は後世の擾乱が見られた。埋土は3層で、上から1層目から土器等が集中して出土した。底部に近づくにつれて土器の出土量は少くなり、湧水点に達した。土器群については、十種のほとんどが割れていることや出土状況から投げ入れられたものといえよう。土器については、壺、甕、高杯、ミニチュア土器等が良好な

状態で出土している。水が大量に底部から湧き出ていることからも、井戸とも考えられなくもない。後期に属するものと考えられる。

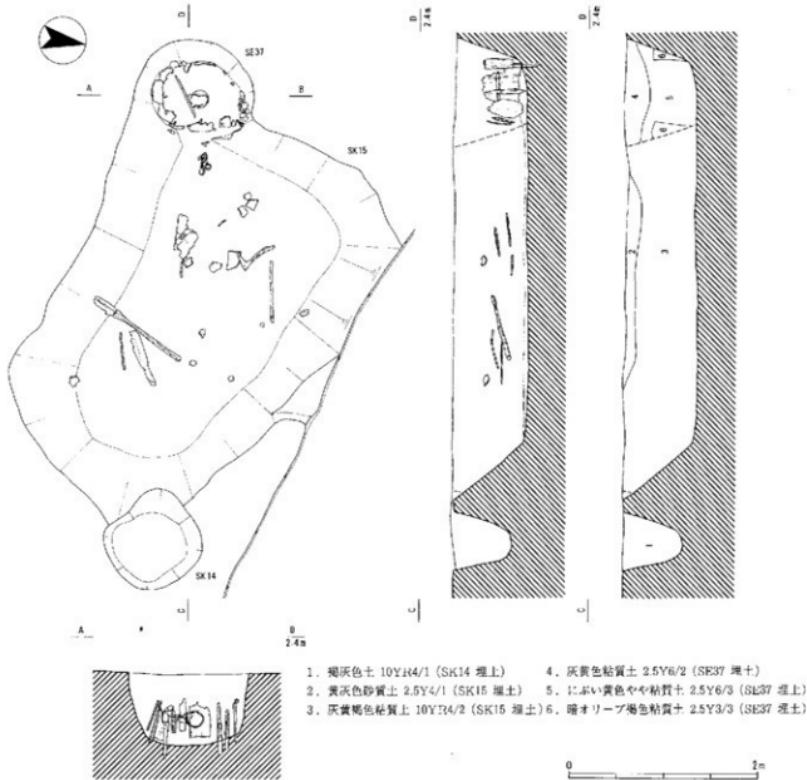
S K426 (第20図)

平面形は不整円形、長軸2.24m、短軸2.05m、深さ1.04~1.14mである。埋土上方から上器等が集中して出土した。底部に近づくにつれて上器の出土量は少くなり、湧水点に達した。土器群については、埋土上方から出土の土器については、土器のはほとんどが壊れていることや出土状況から投げ入れられたものといえるが、底部出土のものについてはまるで扱えられたような状況を呈していた。土器について

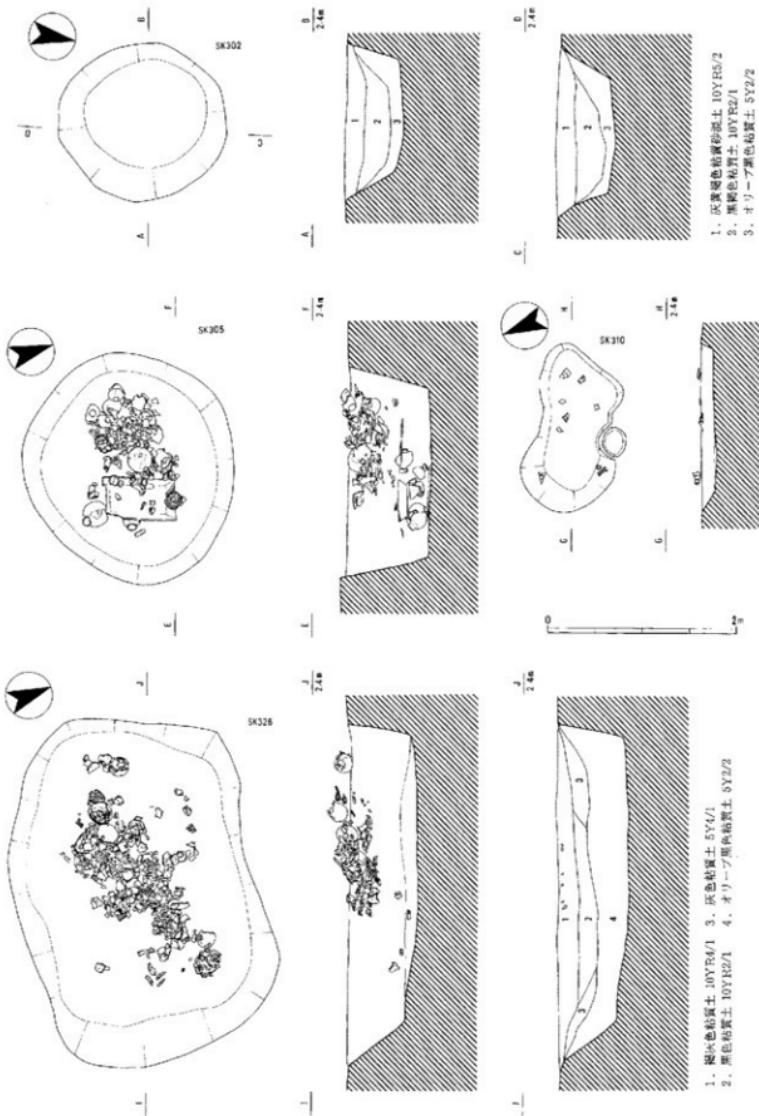
は、壺、甕、高杯、器台、ミニチュア土器、土錐等が良好な状態で出土した。他の遺構と同様に井戸である可能性や何らかの祭祀に関わった遺構とも考えられる。後期に属するものと考えられる。

S K434 (第19図)

平面は不整楕円形を呈し、長軸1.06m、短軸0.65m、深さ0.06~0.07mである。遺物の出土状況については、検出面から土器が浮いている状態であった。本来はもう少し深い遺構であったことが想定できる。土器については、甕、高杯等が出土している。後期に属するものと考えられる。

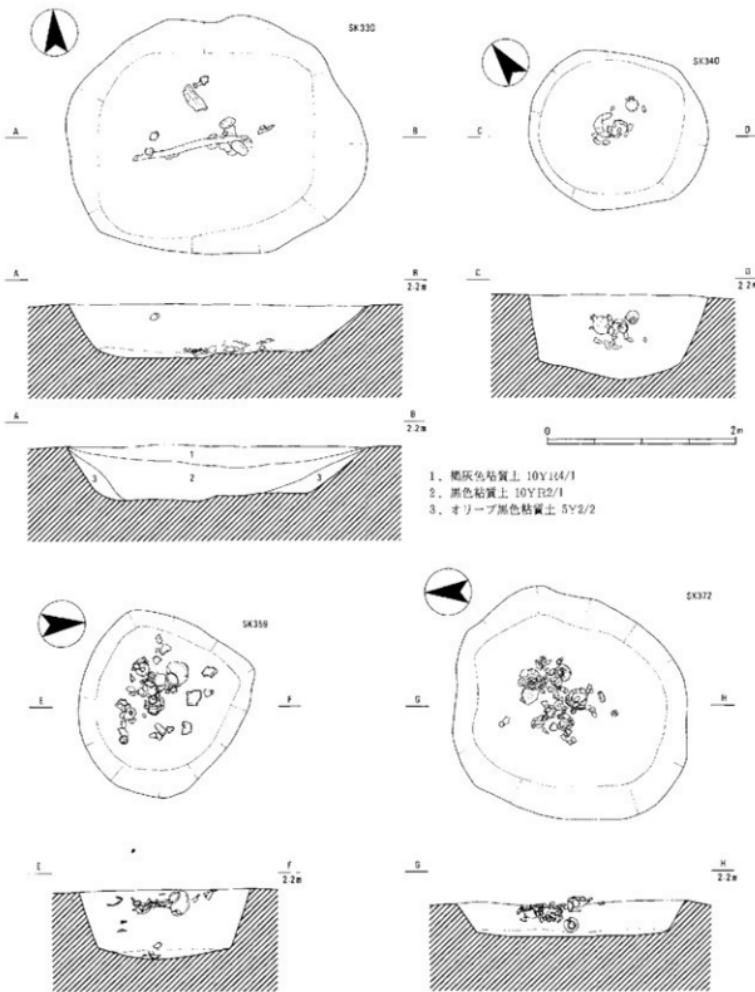


第16図 SK14・15、SE37実測図 (1 : 50)



1. 深灰色粘土 10YR6/1 3. 灰色粘土 5Y4/1
 2. 黑色粘土 10YR5/1 4. オリーブ色粘土 5Y2/2

第17図 SK302・305・310・326実測図 (1 : 50)



第18図 SK330・340・359・372実測図 (1 : 50)

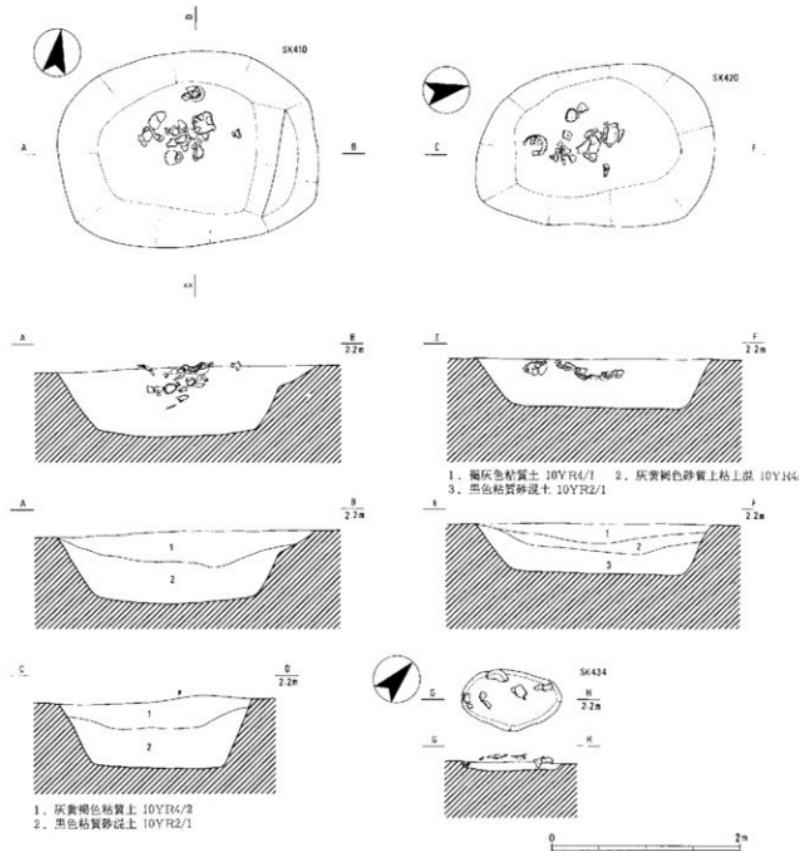
SK 8 (第15図)

平面形は不整規円形で、長軸2.74m、短軸1.68m、深さ0.64～0.84mである。底部付近ではかなりの湧水がみられた。埋土は、黒褐色土の一層である。底部の南側に弥生土器壺・高杯や杵・陽物形などの木製品の集中がみられた。遺構北側隣で黒漆塗結歛櫛が出土した。陽物形や堅櫛の出土は何か特異な感を受ける。末期に属するものと考えられる。

井戸

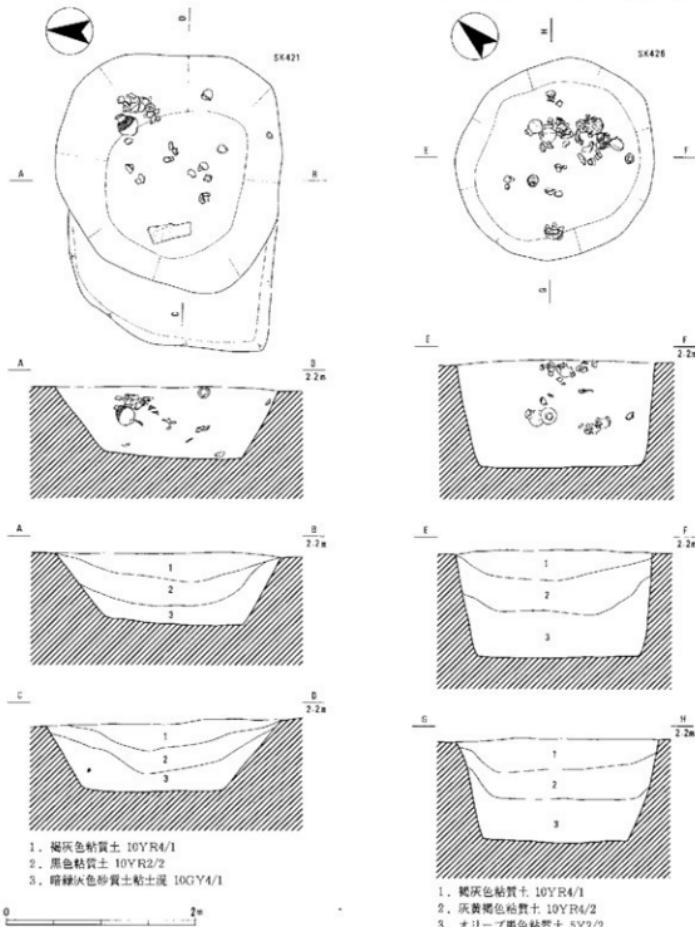
S E 327 (第21図)

平面は不整規円形を呈し、長軸3.07m、短軸2.34m、深さ0.53～0.72mである。遺構縁上は3層に分かれ。遺構縁上面に近い遺構の上面から土器の集中がみられた。底部に近づくにつれ、遺物の出土が少なくなる。出土遺物は弥生土器壺・甕や高杯などが大量に出土した。なお、遺構の底部付近では大量の湧水がみられた。また、遺構底部には割れた大型



第19図 SK410・420・434実測図 (1:50)

の弥生土器壺が据えられていた。その壺の直近から袋状土製品も出土している。それらを取り除くとすり鉢状の配石が頬を出した。水を集めための施設の集水造構と考えるのが妥当であろう。このような形態の井戸の検出例はなく判断に苦しんだが、すり鉢状配石の存在から井戸と考えたい。後期に属するものであろう。



第20図 SK421・426実測図 (1:50)

環濠

S D 303 (第22・23図)

幅1.2~1.6m、深さ0.23~0.52m の規模がある。本來は幅、深さとももう少し大きかったと思われる。第2・3・4次調査区にまたがっている。断面形はU字状を呈している。第2・4次調査区においては、調査区を東西に横切っており、この部分が環濠の北

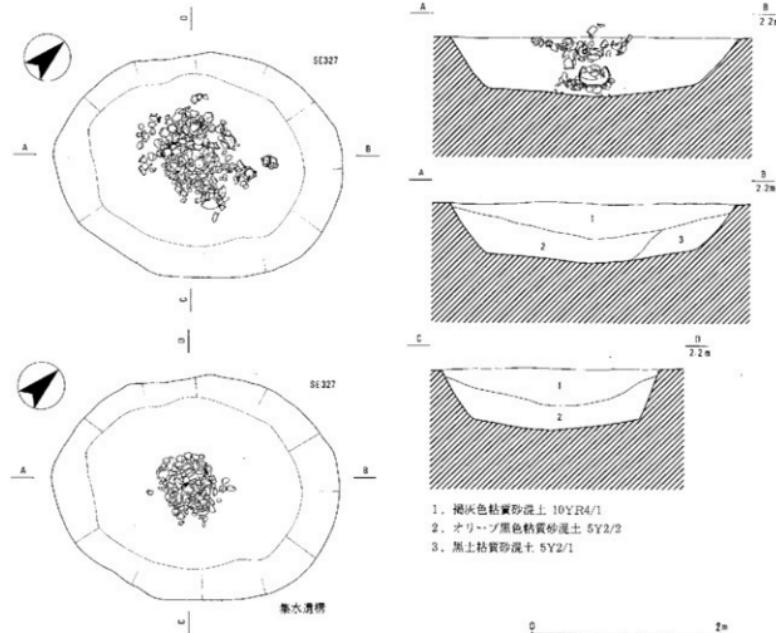
端と考えられる。そこから、調査区外の東側に少し延び、南側に向かって曲がっていくものと思われる。そして、第3次調査区においては、調査区の東西両端で環濠の一端を検出した。東側は土橋により途中で途切れるが、ゆるやかに曲がり南に延びていく。西側は東側よりも短く、検出できたのはほんの一部分であるが、南に遺構が延びていく様子がわかる。これらより南側では、環濠は調査区内では検出されていない。第1次調査区の南側は、旧河川であることが、地形から読み取れるので調査は行っていない。おそらく環濠は、この旧河川にぶつかるように掘削されたものがあるいは後世の氾濫により旧河川ができる削り取られている可能性も否定できない。出土遺物については、自然木を数点確認したが製品は出土しておらず全て土器であった。第2・4次調査区分と第3次調査区分の西側については土器の出土はそれほど多くない。第3次調査区分の東側は、土橋

をはさみ土器の集中がみられた。弥生土器壺・甕・高杯・鉢・ミニチュア土器などが、環濠の底部近くで折り重なるように出土したものがほとんどであった。後期に属するものと考えられる。

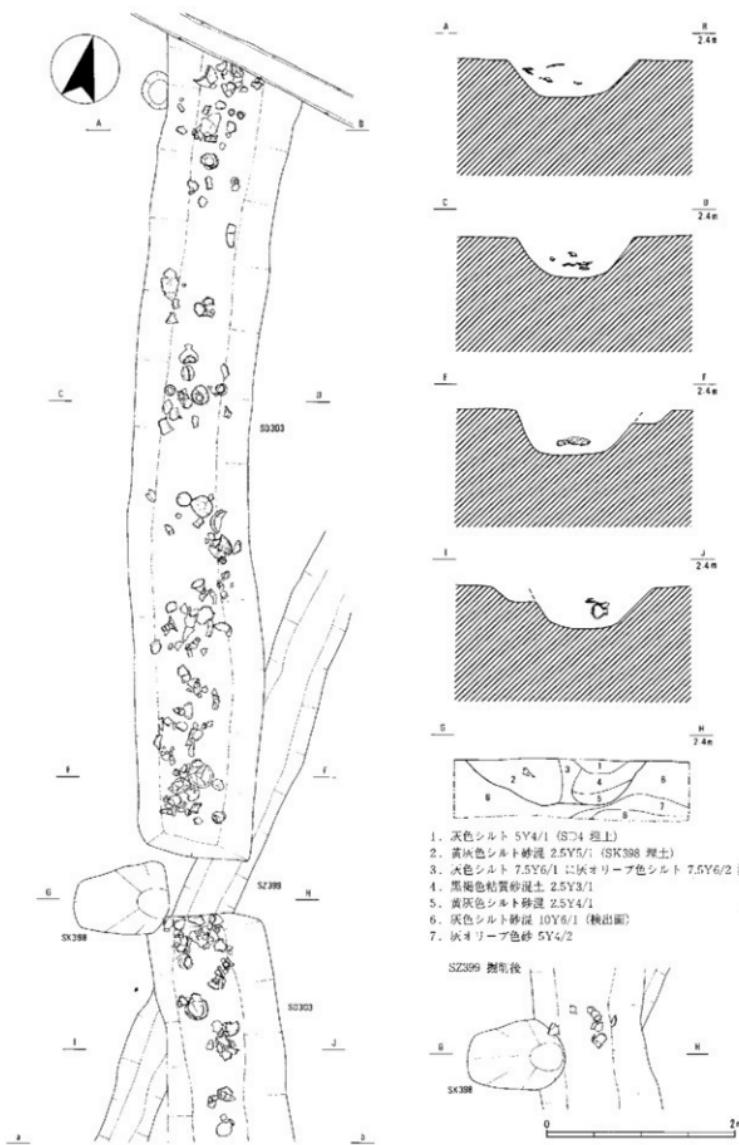
橋状遺構

S Z399 (第22図)

環濠の第3次調査区分の東側にある。長さ1.23m、幅0.63m、深さ0.4 ~0.44mが残存していた。本末の規模はもう少し大きかったと思われる。検出時には環濠掘削時に橋の部分を残して掘削したものと思われたが、土橋の断面観察の結果、環濠を掘削後に土を入れて築造したものであることが判明した。土をたたきしめたりといった手は加えられていなかった。後期に属するものと思われる。



第21図 SE327実測図 (1:50)



第22図 SD303, SK398, SZ399実測図 (1 : 50)

奈良時代

掘立柱建物

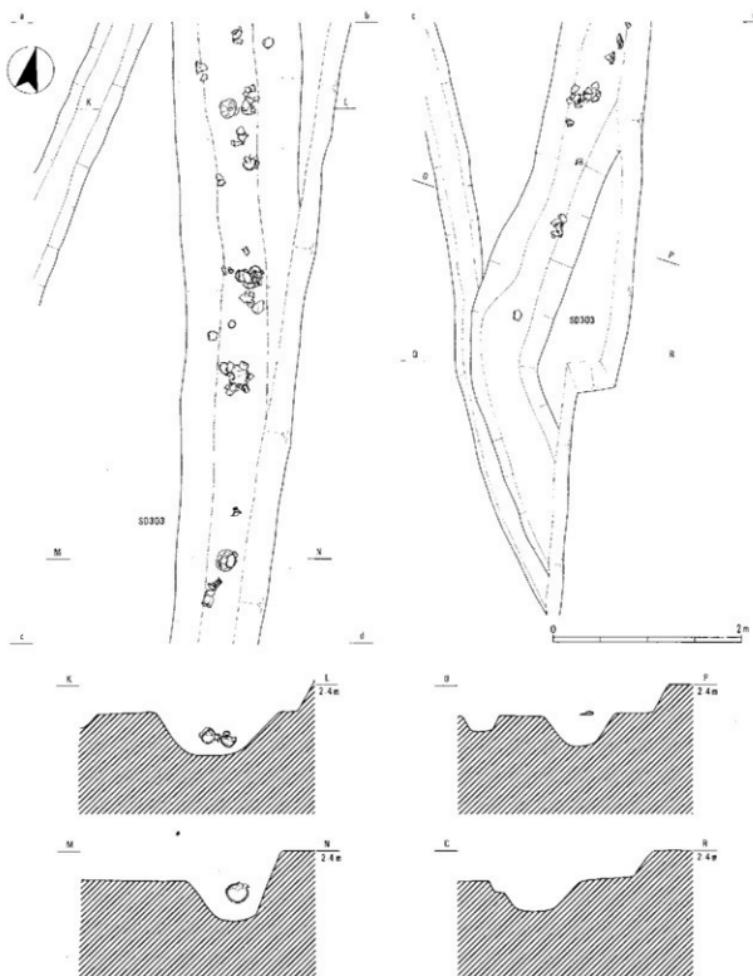
S B492 (第24図)

梁行2間、桁行2間で、柱間は不等間である。棟方向はN 14.5° Eである。柱穴からは、弥生土器片

と土師器片が出土していた。S B492 に隣接している。

S B492 (第24図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は
桁行と梁行それぞれ等しくなっている。棟方向はE



第23図 SD303実測図 (1:50)

4.5° S である。柱穴の一つからは、遺構検出面よりも上で土師器甕が逆位の状態で出土した。

土坑

S K27 (第25図)

平面形は楕円である。長軸2.42m、短軸2.12m、深さ0.55~0.61mである。遺構埋土は2層に分かれ。遺物は少量の出土を確認した。そのほとんどが底部に近いところで出土で、土師器甕・瓶、須恵器甕・壺・杯を確認した。

S K51 (第38図)

平面形は円形である。径2.50m、深さ0.48mである。遺物は少量の出土を確認した。土師器甕・杯、須恵器甕などを確認した。S K48に切られている。

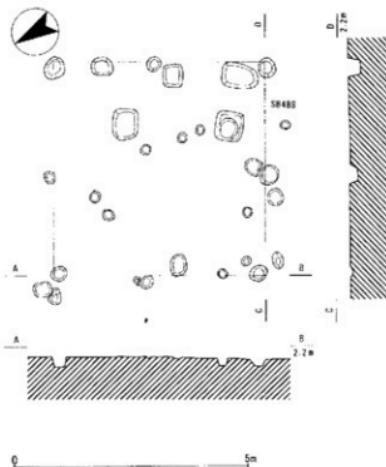
S K396 (第25図)

平面はほぼ円形。径1.01m、深さ0.76~0.79mである。遺物は、そのほとんどが底部に近いところでの出土で、土師器甕・甕を確認した。S D371と重複している。

井戸

S E 37 (第16図)

木綿円形板組無支持型井戸。掘形は楕円形を呈し、長軸1.28m、短軸1.0m、深さ0.67~0.78mである。板組のすぐ外側に丸状のものを10本確認した。



第24図 SB489・492実測図 (1:100)

添板であろうか。井側は疊らで抜き取りなどがあったのだろうか。また、掘形と井側の間には、拳大的な石が土と共に詰められている部分も確認できた。底部から少し上で口縁部から底部にかけて斜めに割れた土師器甕が横位で出土している。これ以外には土師器甕や須恵器甕の破片を確認した。

S E 230 (第25図)

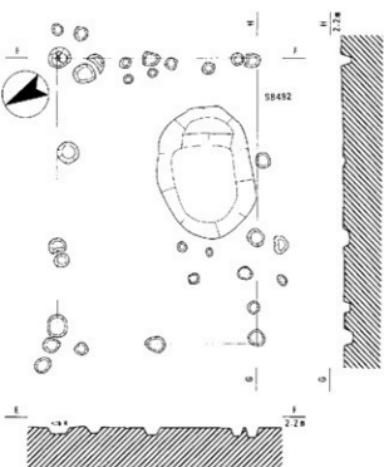
素掘り井戸か。掘形は楕円形で、長軸2.47m、短軸2.20m、深さ0.74~0.80m。掘形底部中央には径0.55mの円形の掘り込みを確認した。曲物などの抜き取り痕の可能性もある。この部分に土師器甕ばかりが集中していた。

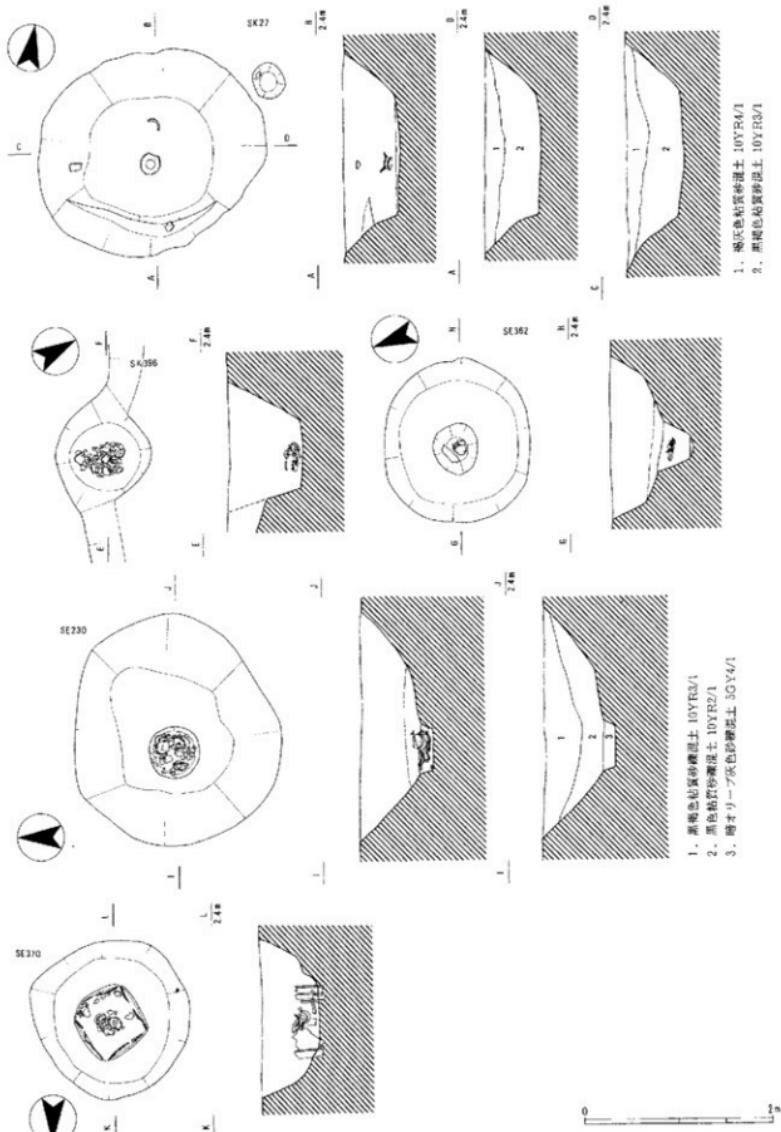
S E 362 (第25図)

素掘り井戸か。掘形は楕円形、長軸1.74m、短軸1.54m、深さ0.83~0.84mである。掘形底部中央には径0.55mの円形の掘り込みを確認した。曲物などの抜き取り痕であろうか。この掘り込みに土師器甕・甕や木片が集中していた。

S E 370 (第25図)

木綿方形板組無支持型井戸。掘形は円形で、径1.75m、深さ0.61~0.64mである。井側は疊らで、抜き取りや腐食などの可能性がある。井戸内中央で土師器甕が集中していた。須恵器片は1点だけ確





第25図 SK27・396、SE230・362・370実測図 (1 : 50)

認した。

平安時代

掘立柱建物

S B 393 (第27図)

梁行2間、桁行2間で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向はN18.5° Eである。前期に属するものと考えられる。

S B 488 (第28図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向は、N16.5° Eである。前期に属するものと考えられる。

S B 35 (第26図)

梁行2間、桁行4間の東西棟建物である。柱間は梁行、桁行でそれぞれ等しい。棟方向は、E 12.0° Sである。柱穴からは、ほとんどが土師器片で、須恵器片が少量出土している。S B 36とは、棟方向が同一方向である。SK23と重複する。後期に属するものと思われる。

S B 36 (第26図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は等間である。棟方向はE 12.0° Sである。柱穴からは、ほとんどが土師器片で、須恵器片が少量出土している。SK23と重複する。後期に属するものと思われる。

S B 63 (第34図)

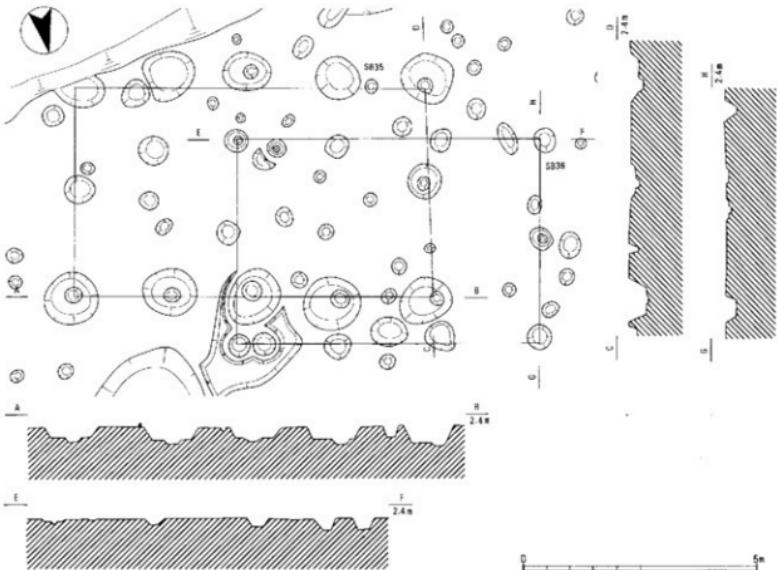
梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN17.0° Eである。柱穴から、土師器皿、甕片や須恵器片が出土した。後期に属するものと考えられる。

S B 65 (第30図)

梁行2間、桁行2間の純柱建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。棟方向はE 1.0° Nである。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片である。須恵器片が1点だけ出土した。後期に属するものと考えられる。

S B 376 (第36図)

梁行1間、桁行4間の東西棟建物で、柱間は不等



第26図 SB35・36実測図 (1:100)

間である。棟方向はE17.0° Sである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。後期に属するものか。

S B377 (第31図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。棟方向はN12.0° Eである。柱穴からの出土遺物は土師器片がほとんどであった。後期に属するものと考えられる。

S B378 (第32図)

梁行2間、桁行2間の純柱建物である。柱間は梁行は不等間であるが、桁行については等しくなっている。棟方向はE22.0° Sである。梁行の柱穴が一ヶ所ない。柱穴からは土師器片等が出土した。後期に属するものと考えられる。

S B383 (第35図)

梁行2間、桁行2間で、柱間は等間である。棟方向はN22.5° Eである。柱穴からの出土遺物は土師器片がほとんどであった。後期に属するものと考えられる。

S B384 (第35図)

梁行1間、桁行2間で、柱間は不等間である。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はN20.0° Eである。後期に属するものと思われる。

S B391 (第27図)

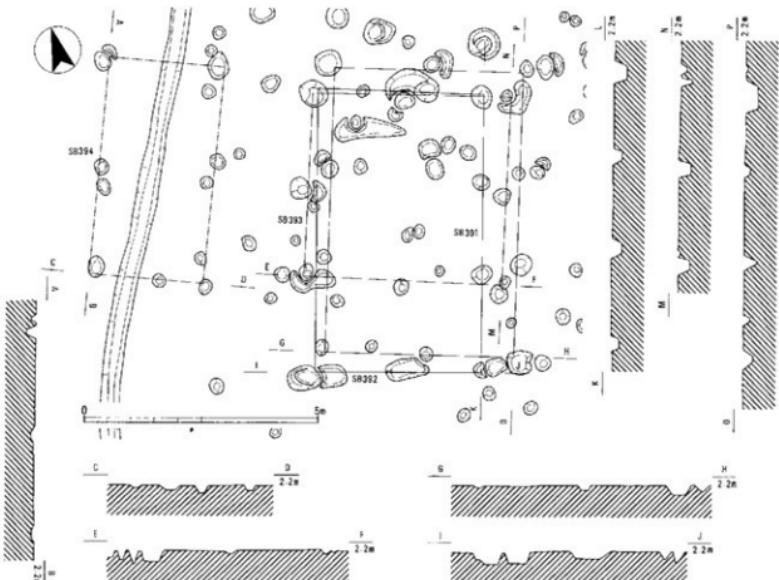
梁行2間、桁行3間の南北棟建物で、柱間は等間である。棟方向はN17.5° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。S B392と重複する。後期に属するものと考えられる。

S B392 (第27図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向はN16.0° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。後期に属するものと考えられる。

S B394 (第27図)

梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、柱間は不等間である。棟方向はN21.5° Eである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。後期に属するものと



第27図 SB391・392・393・394実測図 (1:100)

考えられる。

S B18 (第29図)

梁行3間以上、桁行4間の縦柱建物で、柱間は増っていない。棟方向はE16.0° Sである。柱穴の一つからは山茶碗が遺構検出面よりも上で出土した。末期に属するものと思われる。

S B60 (第34図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は等間である。棟方向はN23.0° Eである。柱穴から、土師器皿・甕・椀片や山茶椀片が出土した。末期に属するものである。

S B64 (第30図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向についてはN26.0° Eである。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。須恵器片が1点だけ出土した。末期に属するものと考えられる。

S B66 (第30図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN39.0° Eである。柱穴からの出土遺物は、土師器片と製塙土器片である。末期に属するものと思われる。

S B379 (第32図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。梁行の柱穴は一ヶ所検出できなかった。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はE13.0° Sである。末期に属するものと考えられる。

S B385 (第37図)

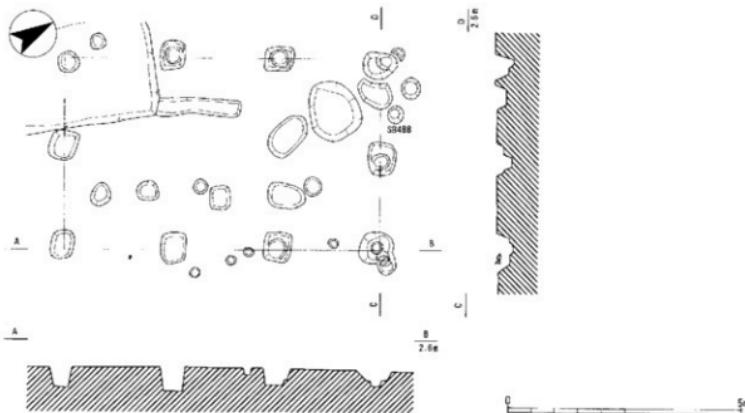
梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE27.0° Sである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。末期に属するものと考えられる。

S B386 (第37図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はN21.0° Eである。末期に属するものと考えられる。

S B387 (第37図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は等間である。柱穴からの出土遺物は、ほとんどが土師器片であった。棟方向はE25.0° Sである。末期に属するものと考えられる。



第28図 SB488実測図 (1:100)

S B389 (第37図)

梁行1間、桁行2間の南北棟建物、柱間は不等間である。棟方向はN36.5° Eである。柱穴からは上部器片等の出土を確認した。S K354、S B387に切られる。末期に属するものと考えられる。

S B390 (第37図)

梁行1間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しくなっている。棟方向はE20.5° Sである。柱穴からは土師器片等の出土を確認した。末期に属するものと考えられる。

S B490 (第36図)

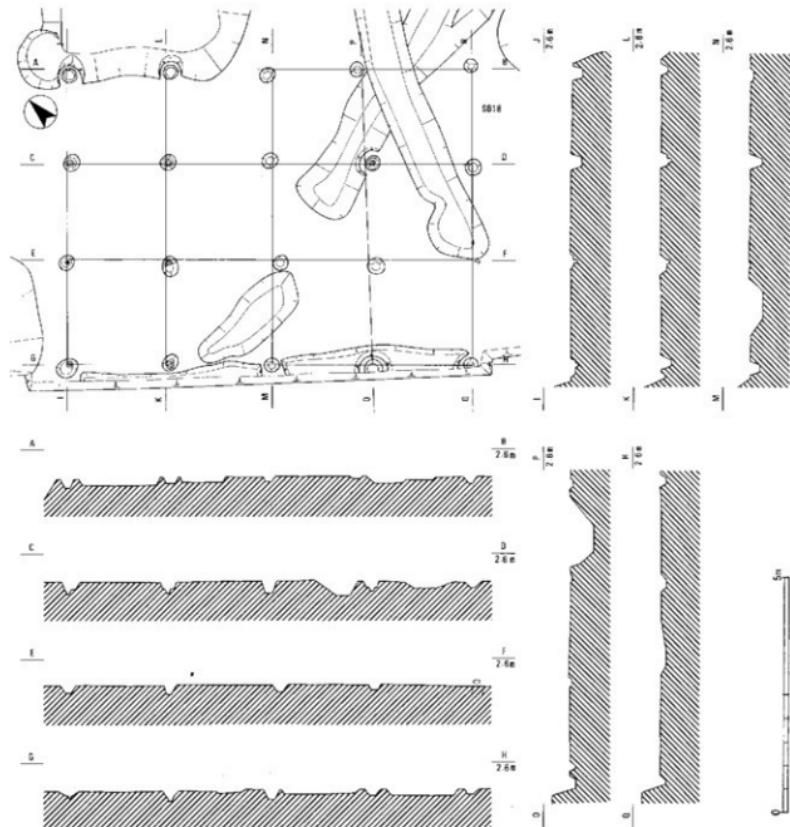
梁行2間、桁行2間で、柱間は不等間である。棟方向はN10.5° Eである。末期に属するものと考えられる。

S B375 (第36図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物で、柱間は不等間である。棟方向はN45.5° Eである。

S B381 (第36図)

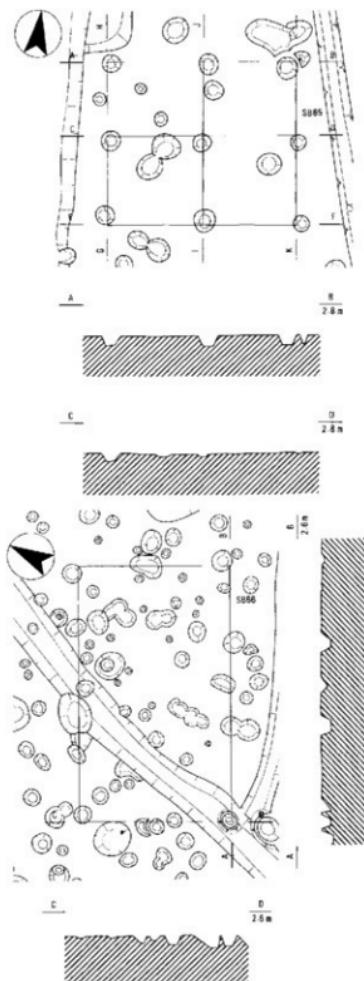
梁行1間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE22.0° Sである。



第29図 SB18実測図 (1:100)

S B 382 (第33図)

梁行2間、桁行4間の東西棟で矩柱建物である。
柱間は不等間である。棟方向はE8.5° Sである。

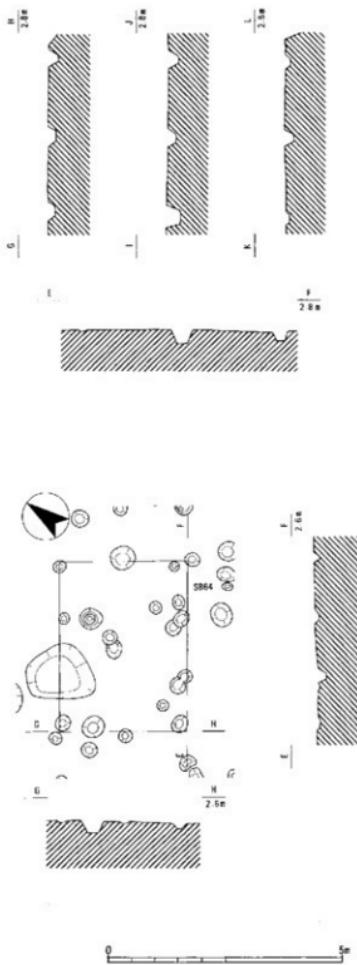


第30図 SB64・65・66実測図 (1 : 100)

土坑

S K 6 (第38図)

平面形はほぼ円形で、長軸4.3m、短軸3.6m、深さ
0.57~0.65m である。遺物はほとんどが底部近くか
らの出土で、土師器壺・杯、ロクロ製土師器皿、山



茶碗片、須恵器片、加工円錐、壺中、植物種子片、牛骨などを確認した。壺中や牛骨などの出土は、何か特異な感を受ける。末期に属するものと思われる。

S K 26 (第56図)

平面形は方形である。長軸5.83m、短軸4.05m、深さ0.06~0.10mである。遺物の出土は少量である。土師器壺片、瓦片などを確認した。

S K 45 (第39図)

平面形は不規格円形で、長軸2.92m、短軸2.54m、深さ0.61~0.63mである。土師器壺、ロクロ製土器皿が大量に出土した。これら以外には須恵器片、山茶碗片、製埴土器片、瓦器片、瓦片、土鍬などの出土を少量ではあるが確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 48 (第38図)

平面形は不規格円形で、長軸2.08m、短軸1.83m、深さ0.48~0.50mである。土師器壺、山茶碗底部片等を少數ではあるが確認した。本期に属するものと考えられる。

S K 215 (第40図)

平面形は方形を呈し、半分以上が調査区外に延びる。調査区内で少し落ち込む。長軸5.4m、短軸4.1m、

深さ0.13~0.68mである。土師器壺・皿、山茶碗、山皿を確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 324 (第40図)

平面形は円形で、径2.45m、深さ0.57~0.63mである。遺構埋土は5層に分かれる。遺物は少量の出土を確認した。山茶碗片を確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 341 (第40図)

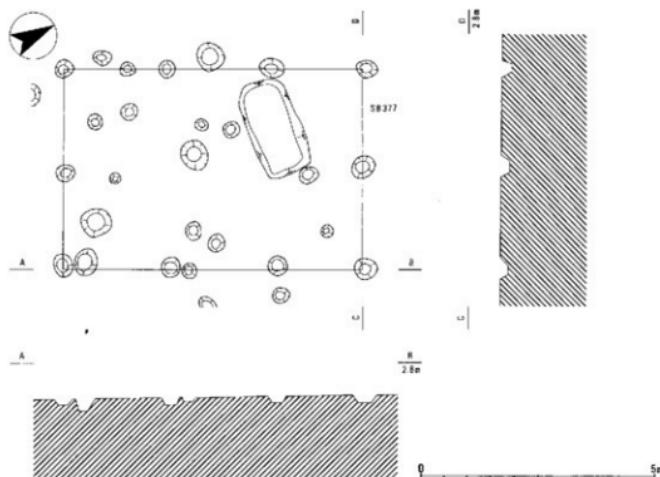
平面形は楕円形で、長軸3.5m、短軸2.85m、深さ0.71~0.80mである。遺構埋土は上から2層に分かれる。土師器皿、山茶碗片などを確認した。

S K 450 (第38図)

平面形は不整形方形で、長軸3.28m、短軸1.5m、深さ0.25~0.29mである。遺構埋土は上から2層に分かれる。土師器皿・高杯片、ロクロ製土器皿片、須恵器片などを確認した。末期に属するものと考えられる。

S K 471 (第51図)

平面形は方形である。半分以上が調査区外に延びる。長軸2.55m、短軸1.68m、深さ0.22~0.25mである。遺構埋土は上から2層に分かれる。土師器高杯片、山茶碗片などを確認した。S D472 を切り、S D



第31図 SB377実測図 (1 : 100)

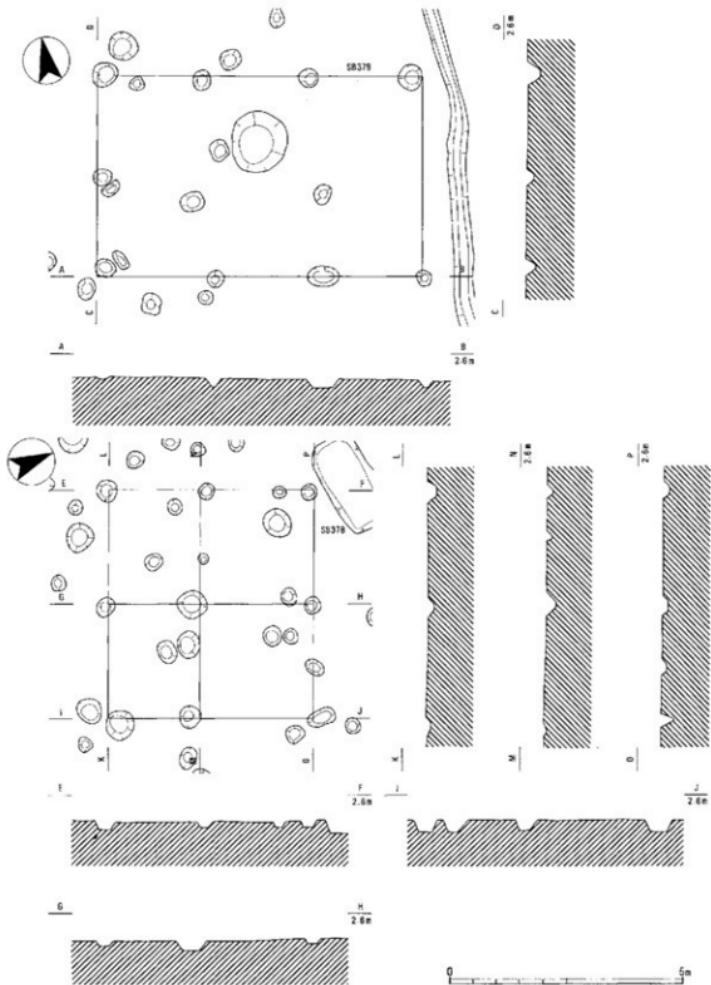
467 に切られている。宋期に属するものと考えられる。

井戸

S E 47 (第41図)

木組方形縦板組横栈型井戸。掘形は梢円形で、長

軸3.12m、短軸2.94m、深さ0.94mである。井側の辺は0.9mである。横栈は包込み柄組み。出土土器はほとんどが土師器片であった。土師器杯・皿や須恵器杯・甕片を確認した。前期に属するものと思われる。



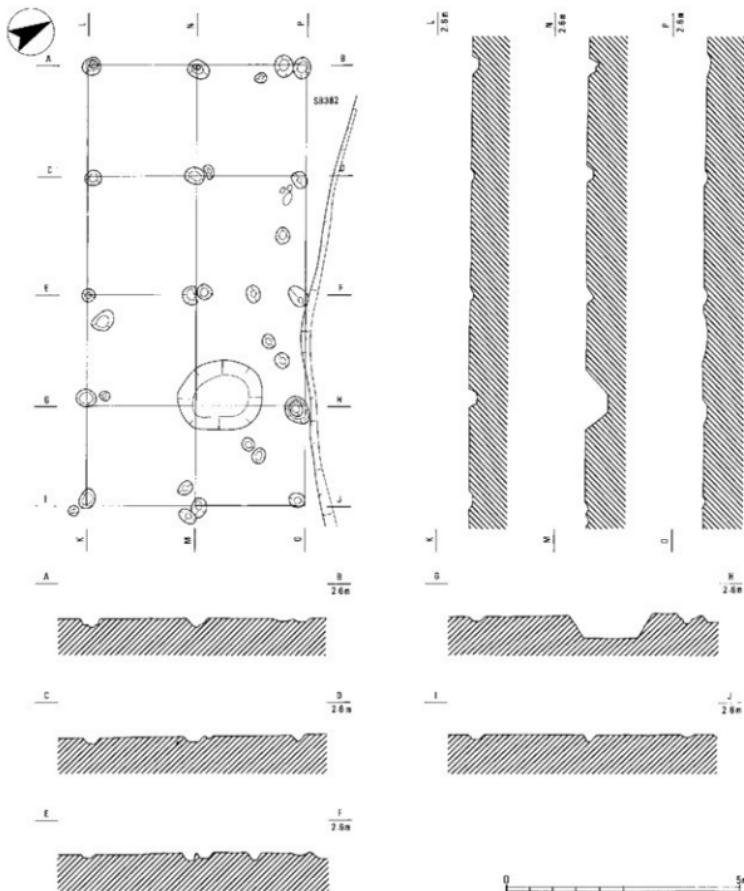
第32図 SB378・379実測図 (1 : 100)

S E 353 (第42図)

木組方形板組横棟型井戸。掘形は円形、径1.83m、深さ0.71~0.73mの規模である。横棟は目違い柄組みであった。井側底部で曲物を1点確認した。土師器壺・瓦片や多量の製塩土器が出土した。前期に属するものと思われる。

S E 363 (第42図)

木組方形板組横棟型井戸か。堀穴が一方の横棟



第33図 SB382実測図 (1 : 100)

だけに施され、それらが組み合わさる。「片欠き納組み」とでも呼称しようか。板組については一部残存のみである。掘形は梢円形を呈し、長軸2.43m、短軸2.13m、深さ0.55~0.63mである。井側は一辺0.8mである。遺構検出面直近と井側内で上師器皿・瓦片の出土を確認した。土器内面に「九字」⁹を表すドーマンの線刻がある土師器皿が出土している。

S E 451 (第42図)

掘形は円形で、径1.86m、深さ0.39~0.50mである。底部には長軸0.92m、短軸0.55m、深さ0.15mの格円形の掘り込みが確認できた。曲物などの抜き取り痕である可能性もあるが、現状としては、素掘り井戸と考える。遺構検出面に近いレベルで土師器杯・皿・碗・瓶・鍋、高杯片や須恵器片が出土した。前期に属するものと思われる。

S E 54 (第43図)

横板組+縦板組横桟型の木組方形井戸。掘形は不整格円形で、長軸1.68m、短軸1.52m、深さ0.75~1.06mである。井筒は、一辺0.6mを測り、南北方向は縦板組の一部が残存、東西方向は縦4段の横板組で、横板に穴穴を穿ち横桟を挿入している。井筒底部東側には曲物が1点えらべていた。出土土器については、土師器皿片、須恵器片、山茶碗などを確認した。末期に属するものと思われる。

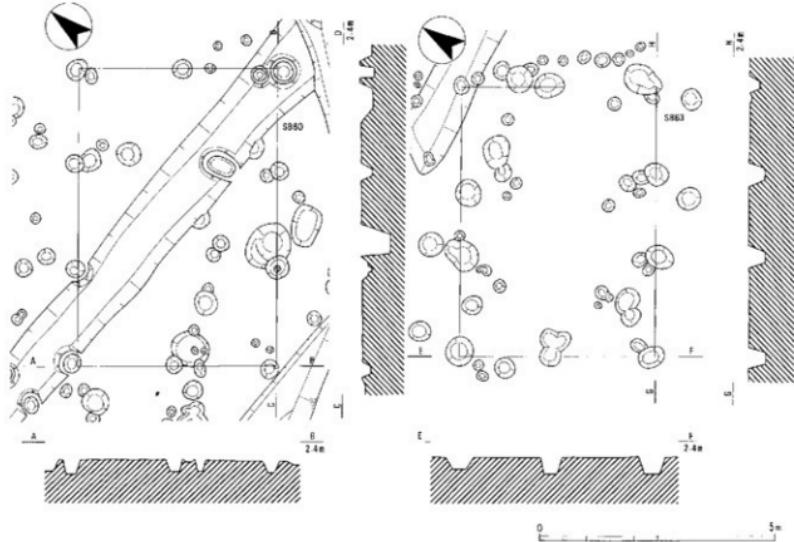
S E 217 (第43図)

木組方形井戸。現状では縦2段の横板組が明確なだけであるが、1段目には横桟を挿入する穴穴が存

在することや東側の薄板などから横板組+縦板組横桟型である可能性が考えられる。縦板や横桟は高食か汲き取られたのかもしれない。掘形は格円形で、長軸1.83m、短軸1.52m、深さ0.76~0.84mである。遺構検出面から0.5m下で井筒を確認した。井筒底部には曲物が1点えらべていた。出土土器については、土師器皿片、山茶碗などを確認した。末期に属するものと思われる。

S E 218 (第43図)

木組円形井戸。丸太くり抜き+曲物積み上げ型。掘形は不整格円形で、長軸1.53m、短軸1.13m、深さ0.29~1.18mである。遺構南端部分はテラス状になり、そこから落ち込む形になる。遺構検出面から0.3m下で井筒を確認した。上から半円状のものを2つ合わせた丸太くり抜きの井戸枠1段、そして曲物が2段に積み上げられている。井筒と掘形の間には石が込められていた。また、曲物の直ぐ外側には支柱と考えられる4本の棒が垂直方向に打ち込まれていた。出土土器は、土師器皿・皿・鍋片・山茶碗などを確認した。末期に属するものと思われる。



第34図 SB60・63実測図（1:100）

S E 323 (第43図)

木組方形井戸。縦板組+縦板組横桟型と考えられる。縦板組は段2段で、上から2段目に舟穴が片欠きの状態で施され、柵桟が挿入されている。縦板については東側部分だけで残存している。もう一方についてては東側部分だけが残存している。もう一方については舟穴か抜き取りがあったのだろうか。掘形は円形で、径2.86m、深さ0.69~0.80mである。遺構検出面から0.3m下で長方形の井側を確認し、長辺が横桟組、短辺が縦板組であった。2段目の縦板上面よりやや低い位置で曲物を確認した。曲物の周辺には石が込められており、曲物自体を留めるためのものなのだろうか。出土土器については、土師器皿片、須恵器壺片、山茶碗片などを確認した。末期に属するものと思われる。

S E 337 (第44図)

木組円形井戸。現状では曲物積み上げ型と考えられる。掘形は円形を呈し、長軸1.61m、短軸1.28m、深さ0.97~1.02mである。底部で、上から大小の順で曲物を2段確認した。出土土器はほとんどが土師器皿片であった。土師器皿片や灰釉陶器片を確認した。末期に属するものと思われる。

S E 345 (第44図)

木組方形井戸。縦板や横桟は一部しか残存していないが木組は存在したのだろう。縦板組横桟型+曲物積み上げ型の複合型であったのだろう。掘形は椭

円形で、長軸1.79m、短軸1.51m、深さ0.12~0.15mの浅い掘り込みがあり、その中央部には径1m、深さ0.9mの深い掘り込みを確認した。そこには方形の井戸枠、その直下に曲物が上から大中小の順で3個の曲物が積み上げられていた。出土土器は土師器皿片、壺片、ロクロ製土師器皿片、山茶碗片などが出土している。末期に属するものと思われる。

S E 357 (第44図)

木組方形井戸。縦板や横桟はごく一部しか残存していないが縦板組横桟型であったことが窺える。掘形は円形を呈し、径1.35m、深さ1.02mである。底部には曲物を1点確認した。曲物内埋土から土師器皿片、ロクロ製土師器皿片や木製挽齒横櫛が出土した。末期に属するものと思われる。

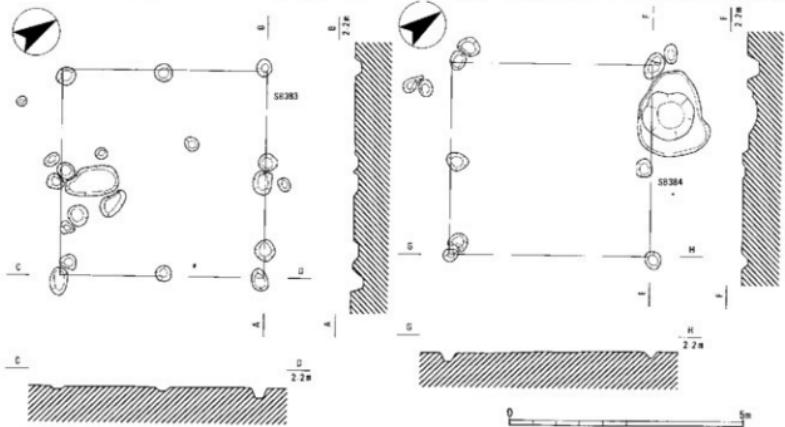
S E 358 (第44図)

木組方形井戸。縦板や曲物は一部しか残存していないが縦板組無支持型であったことが窺える。横桟の右無は不明である。掘形は楕円形で、長軸1.72m、短軸1.53m、深さ0.88~1.04mである。井戸底部中央に長軸0.96m、短軸0.75m、深さ0.4mの楕円形の掘り込みを確認した。出土土器は、土師器皿片などが出土した。末期に属するものと思われる。

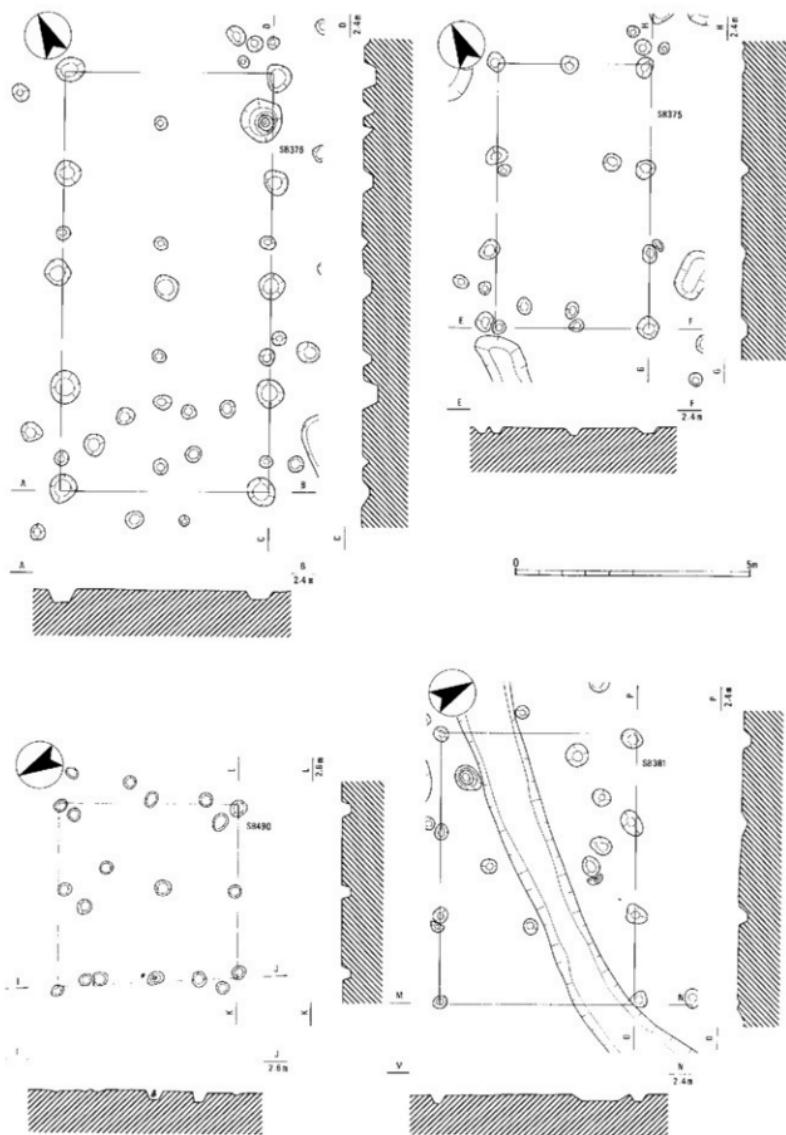
墓壙

S X 318 (第44図)

平面形は楕円形を呈している。長軸0.71m、短軸



第35図 SB383・384実測図 (1:100)



第36図 SB375・376・381・490実測図 (1 : 100)

0.51m、深さ0.23~0.26mである。遺構検出面より上で山茶椀2点が重なって出土した。これらは藏骨器として使用されたものであろう。末期に属するものと考えられる。

S X419 (第44図)

平面形は不整形な格円形を呈している。長軸1.15m、短軸0.53m、深さ0.17~0.22mである。遺構北端底部に山茶椀が1点ええられていた。これ以外にも土師器片が少量遺構埋土から出土している。末期

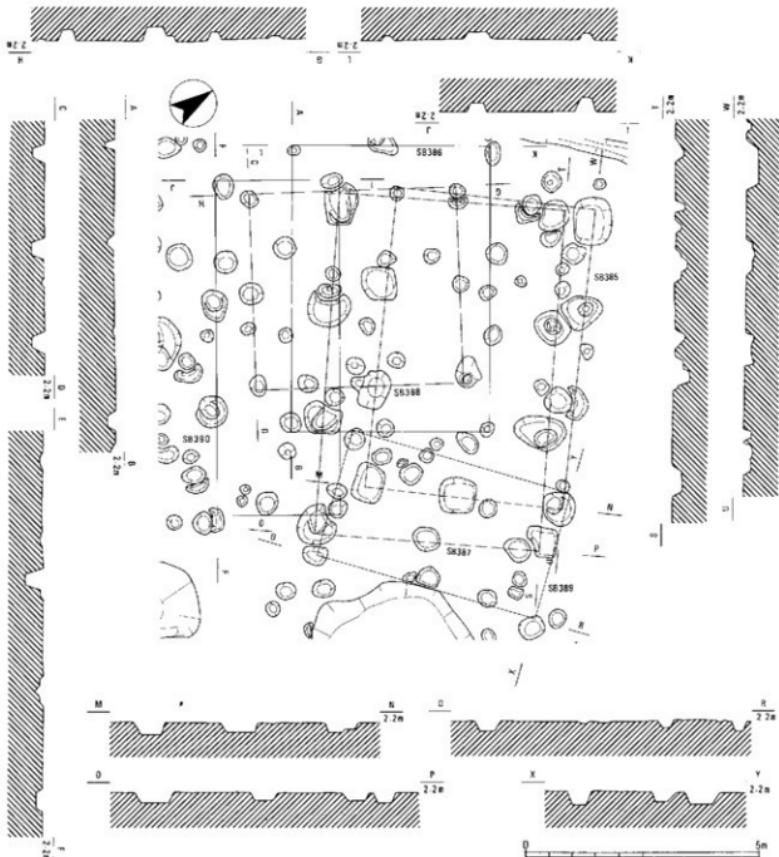
に属するものと思われる。

鎌倉時代

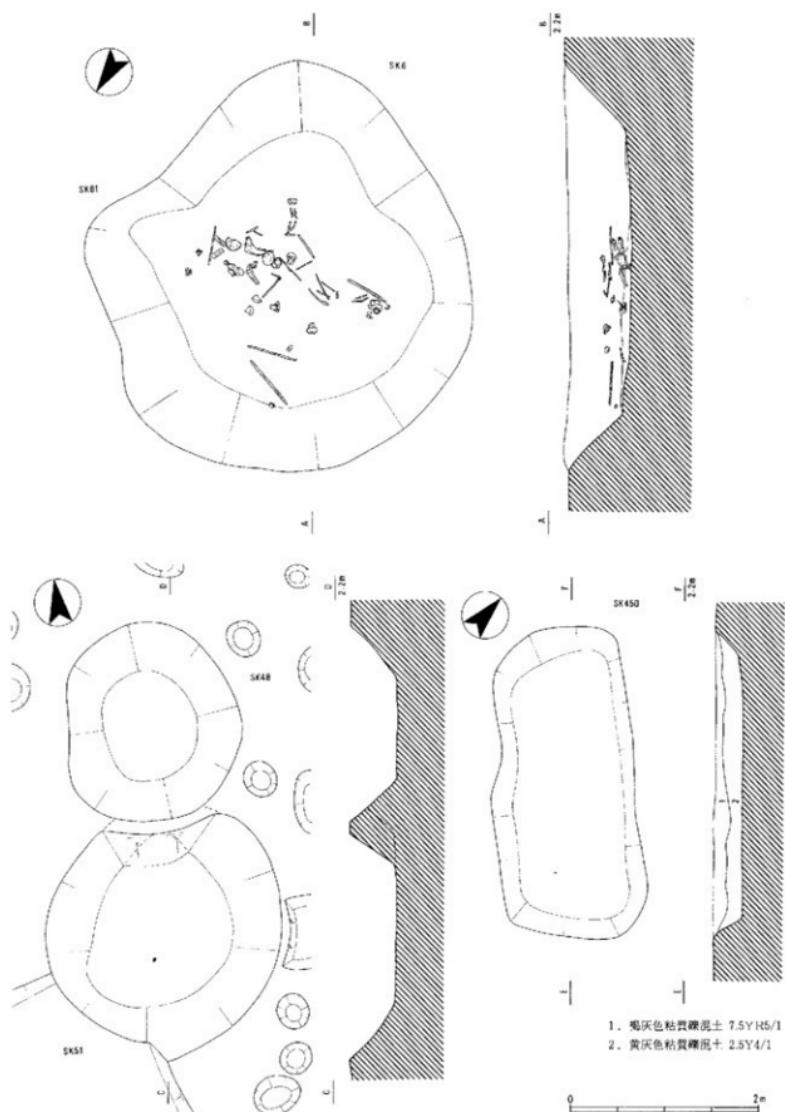
掘立柱建物

S B247 (第46図)

梁行1間以上、桁行3間、柱間は不等間である。棟方向はN 3.0° Eである。柱穴からは遺物の出土ではなく遺構形態などから判断した。



第37図 SB385・386・387・388・389・390実測図 (1:100)



第38図 SK6・48・51・61・450実測図 (1 : 50)

S B248 (第46図)

梁行1間以上、桁行3間以上で、柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向はN27.0° Eである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B249 (第46図)

梁行3間、桁行4間の南北棟建物である。柱間は梁行と桁行でそれぞれ等しい。棟方向は、N1.0° Eである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B250 (第47図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN1.0° Eである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B251 (第47図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE9.5° Sである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B252 (第47図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物で、柱間は不等

間である。棟方向はE8.0° Nである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B253 (第47図)

梁行2間、桁行2間以上の南北棟建物か。柱間は不等間である。棟方向はN29.0° Eである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B255 (第48図)

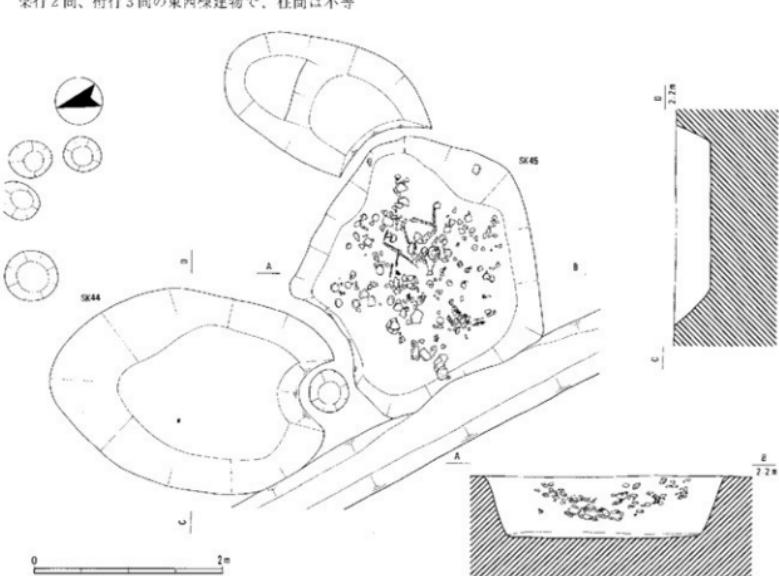
梁行2間、桁行2間以上の南北棟建物か。柱間は等間である。棟方向はN1.0° Wである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B256 (第48図)

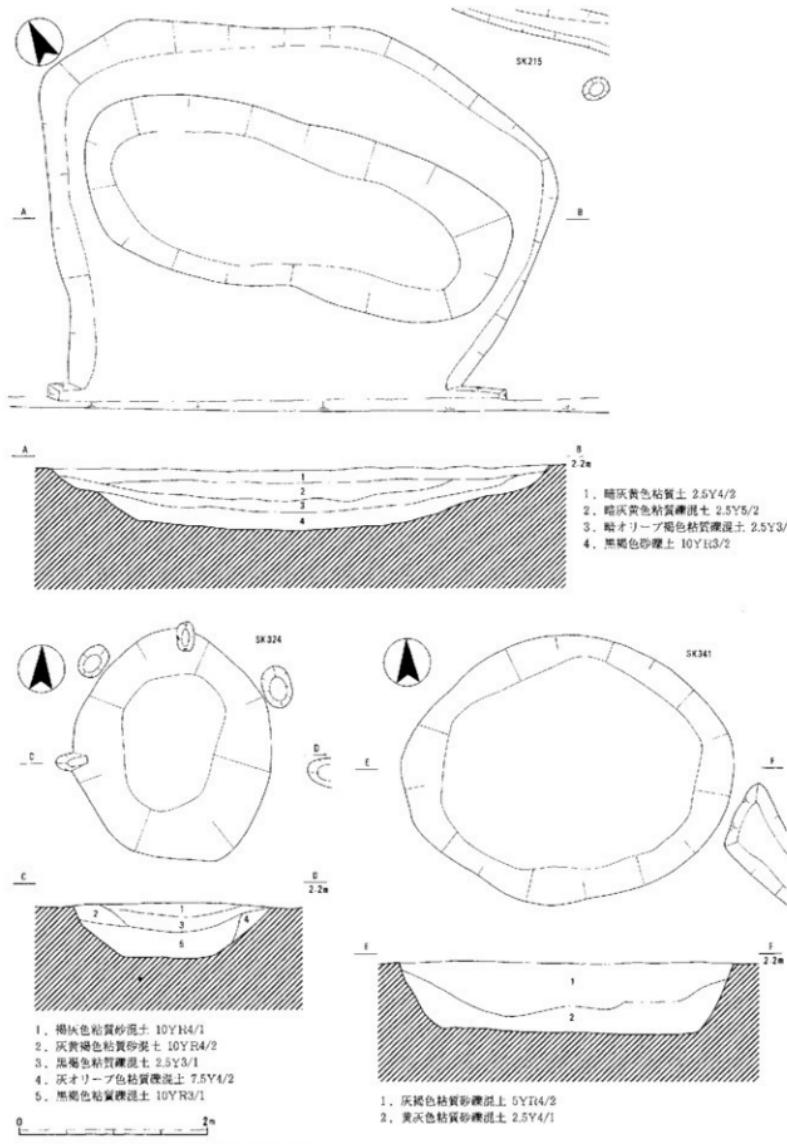
梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE5.5° Sである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。

S B259 (第48図)

梁行1間以上、桁行2間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN2.5° Eである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造形形態などから判断した。



第39図 SK44・45実測図 (1:50)



第40図 SK215・324・341実測図 (1:50)

S B260 (第49図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE3.0° Sである。柱穴からは遺物の出土ではなく、遺構形態などから判断した。

S B261 (第49図)

梁行2間、桁行2間の純柱建物である。柱間は不等間である。棟方向はE5.0° Nである。柱穴から

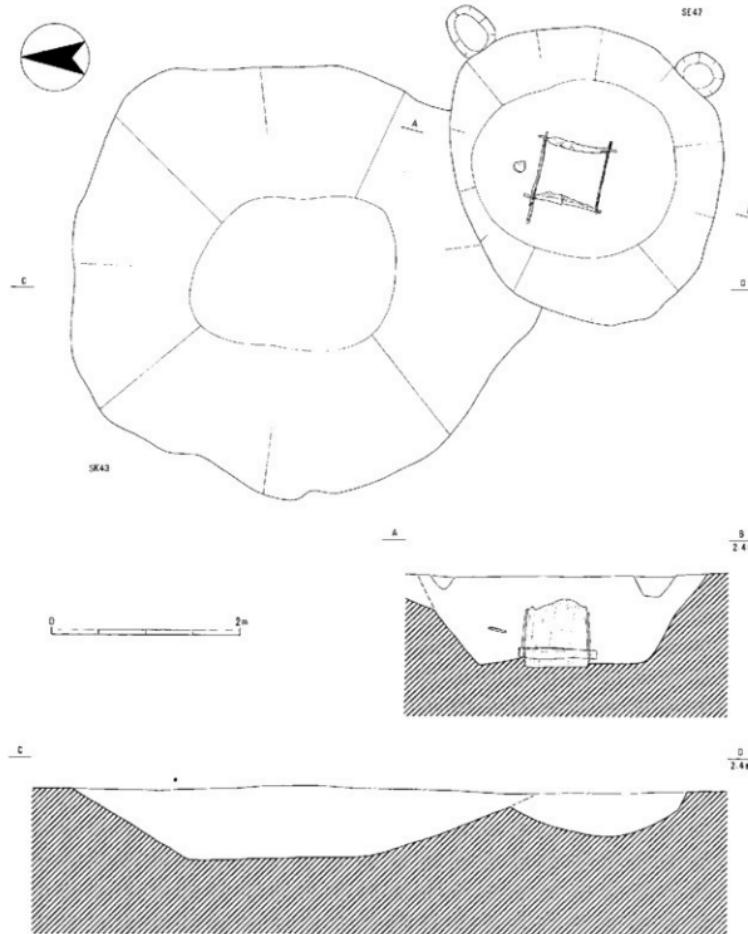
は遺物の出土ではなく、遺構形態などから判断した。

S B262 (第48図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はE18.0° Sである。柱穴からは遺物の出土ではなく、遺構形態などから判断した。

S B264 (第48図)

梁行2間、桁行3間の南北棟建物である。柱間は



第41図 SK43, SE47実測図 (1:50)

不等間である。棟方向はN21.5° Wである。柱穴からは遺物の出土ではなく、造構形態などから軒断した。

S B 380 (第45図)

梁行2間、桁行3間の東西棟建物である。柱間は等間である。棟方向はE22.0° Sである。

S B 388 (第37図)

梁行2間、桁行2間。柱間は不等間である。棟方向はN18.5° Eである。

S B 491 (第45図)

梁行2間、桁行2間の南北棟建物である。柱間は不等間である。棟方向はN27.0° Eである。

土坑

S K 44 (第39図)

平面形は不整格円形で、長軸3.03m、短軸2.08m、深さ0.57~0.63mである。調査区外に造構が伸び、本来の形は判然としない。出土遺物は、ほとんどは土師器片だが、山茶椀片なども若干確認した。

S K 220 (第50図)

平面形は不整格円形で、長軸7.30m、短軸6.25m、深さ0.59~1.10mである。複数造構の重複が考えられるが、土削断面の観察からは確認できなかった。出土遺物は、土師器皿・甕片、土器内面に漆が付着していた山皿、山茶椀片、陶器片などを確認した。

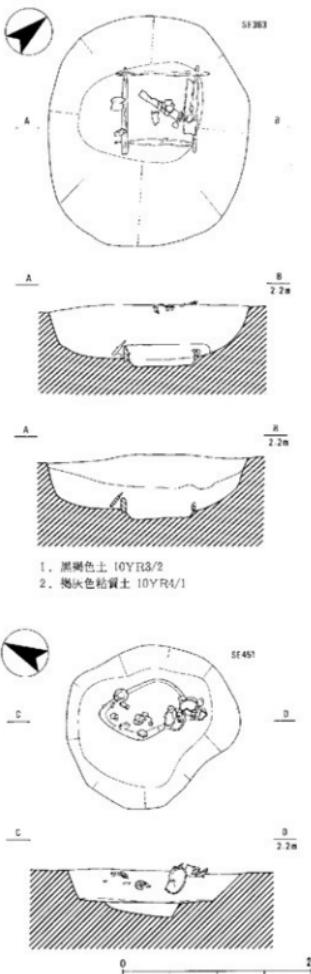
S K 223 (第50図)

平面形は格円形である。長軸1.95m、短軸1.44m、

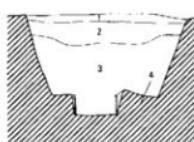
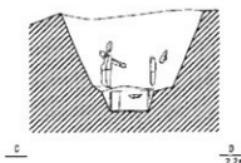
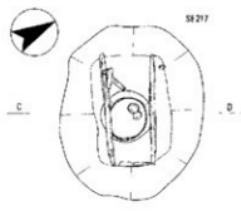
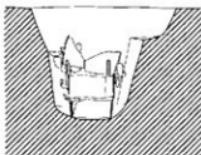
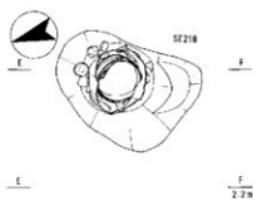
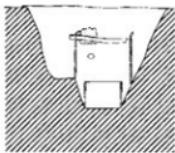
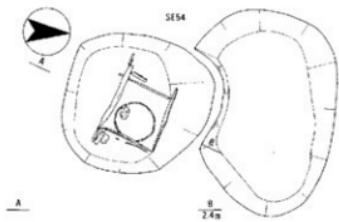
深さ0.51~0.57mの規模がある。土師器皿片、山茶椀片の出土を確認した。

S K 407 (第50図)

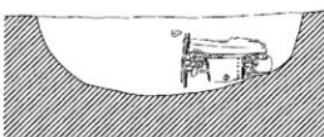
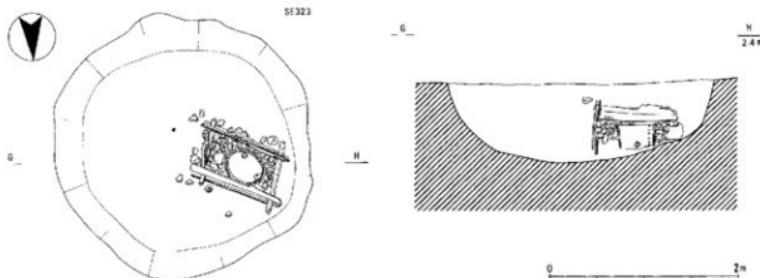
平面形は不整格円形で、長軸2.07m、短軸1.59m、深さ0.69~0.76mの規模がある。出土遺物は、土師



第42図 SE353・363・451実測図 (1:50)

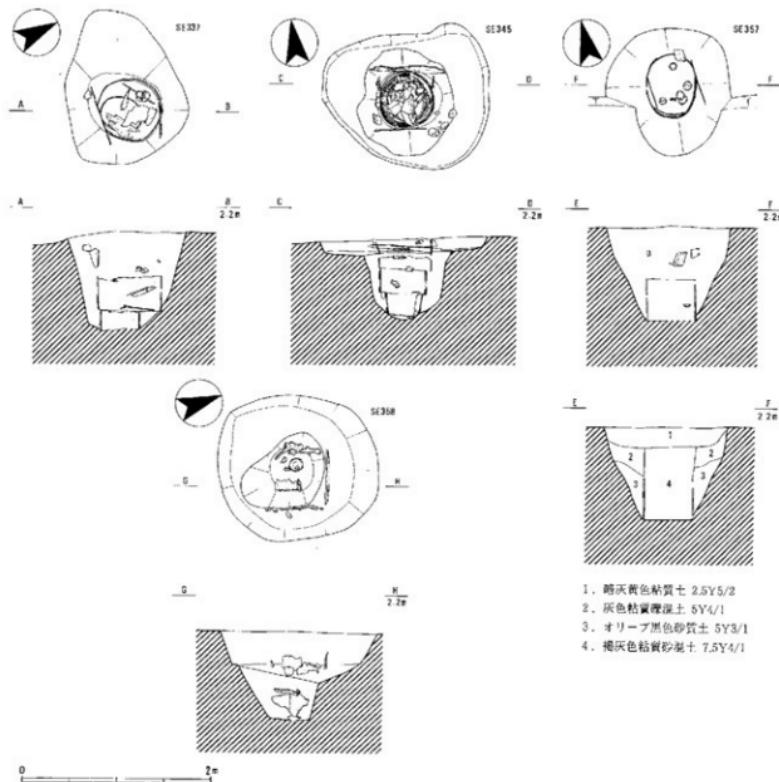


1. 暗灰色粘質砂礫土上 10YR5/1
2. 暗灰色粘質土 10YR6/1
3. 黄灰シルト粘土混 2.5Y5/1
4. 黄灰色粘質土 2.5Y4/1



$0 \quad 2m$

第43図 SE54・217・218・323実測図 (1 : 50)



第44図 SE337・345・357・358、SX318・419実測図 (1:50, SX318・419は1:40)

器皿片、山茶椀片、陶器壺片などを確認した。

S K 415 (第50図)

平面形は本來は円形か。調査区外に遺構が延びて全容はわからない。長軸3.12m、短軸2.22m、深さ0.48~0.78mの規模がある。土師器片、山茶椀片などが出土している。ほとんどが山茶椀片であった。

S K 418 (第51図)

平面形は本来は楕円形か。調査区外に遺構が延びている。長軸4.67m、短軸3.74m、深さ0.54~0.59mである。土師器皿・甕・鍋、山皿、山茶椀片、須恵器片などが出土している。

井戸

S E 46 (第52図)

木組円形井戸。縦板組無支持型+曲物積み上げ型の複合型。掘形は不整円形で、径3.40m、深さ1.0~1.42mである。遺構検出面から0.25m下で井筒を確認した。縦板は二重であつたり疊らであつたりする部分もあり、その間には拳大秤の石が詰められていた。乱雜に縦板を打ち込んだ感は拭えない。曲物の積み上げは3段で上2段については入れ子のよう

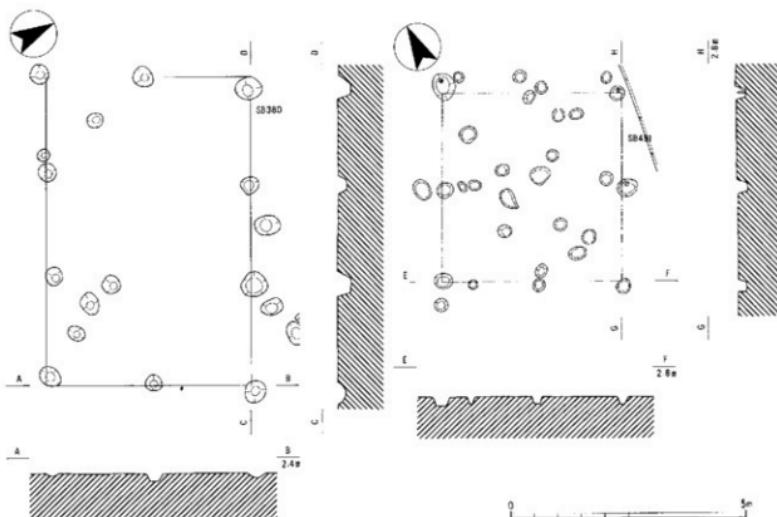
な状態であった。曲物の外側に、長さ1.3m、幅0.25m、厚み0.15mの線路の枕木状のものを確認したが方形には組まれておらず南北方向に並行にすえられていた。横棟とは考えにくい。出土土器については、土師器皿・壺片、ロクロ製土師器皿片、須恵器片、綠釉陶器片、黒色土器片、山茶椀片、瓦片、製塙土器片などを確認した。

S E 55 (第52図)

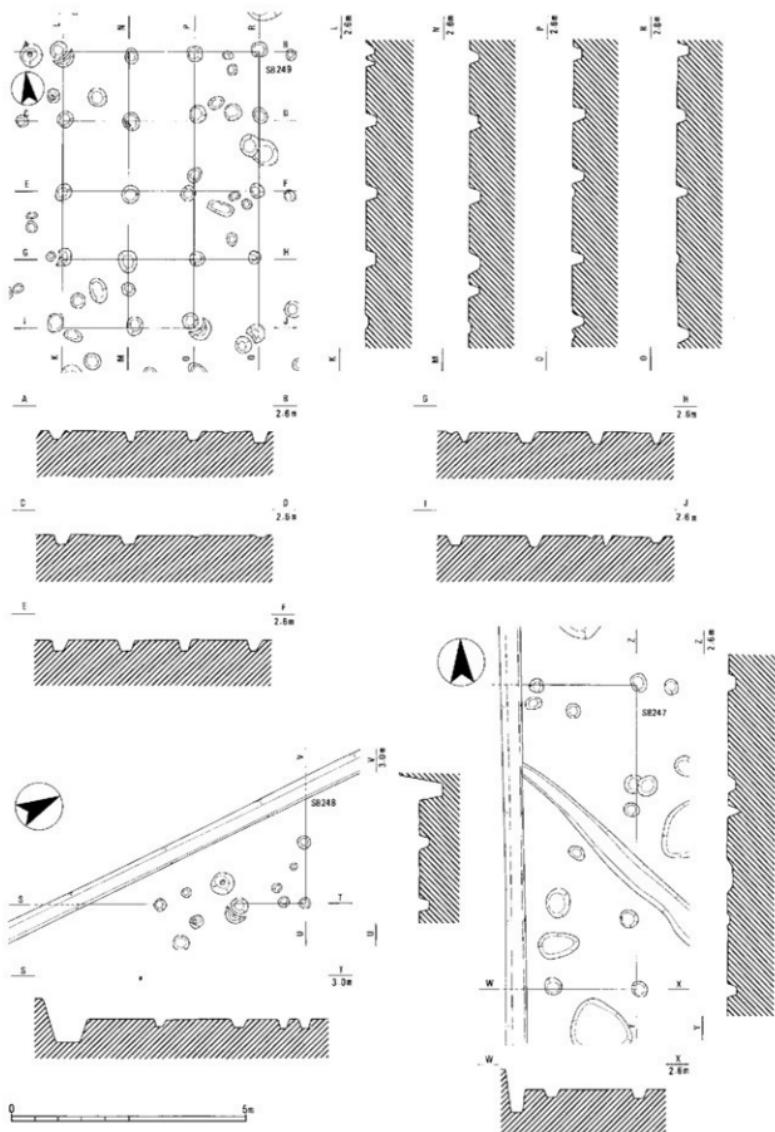
木組円形曲物積み上げ型井戸である。掘形は円形で、径1.77m、深さ0.45~1.00mである。遺構検出面から0.5m下で2段に積み上げられた曲物を確認した。出土土器については、土師器皿・甕片、須恵器片・山茶椀片などを確認した。

S E 207 (第53図)

木組円形井戸。掘形は不整楕円形で、長軸5.93m、短軸4.38m、深さ1.06~1.15mである。掘形底端底部で曲物を確認した。「曲物単独型」という呼称はどうだろう。以後、S E 207と同形態のものについてはそのように呼称する。一つの遺構としては大きく、遺構が重複している可能性が高い。底部中央に



第45図 SB380・491実測図 (1 : 100)



第46図 SB247・248・249実測図 (1 : 100)

は、長軸1.2m、短軸0.5m、深さ0.15m程の浅い掘り込みがあり、曲物などの抜き取り痕の可能性もあるが、検出時や上部断面の観察時に確認できなかった。出土遺物は、土師器皿片、山茶碗片、黒漆塗り木製梳、扇骨などを確認した。

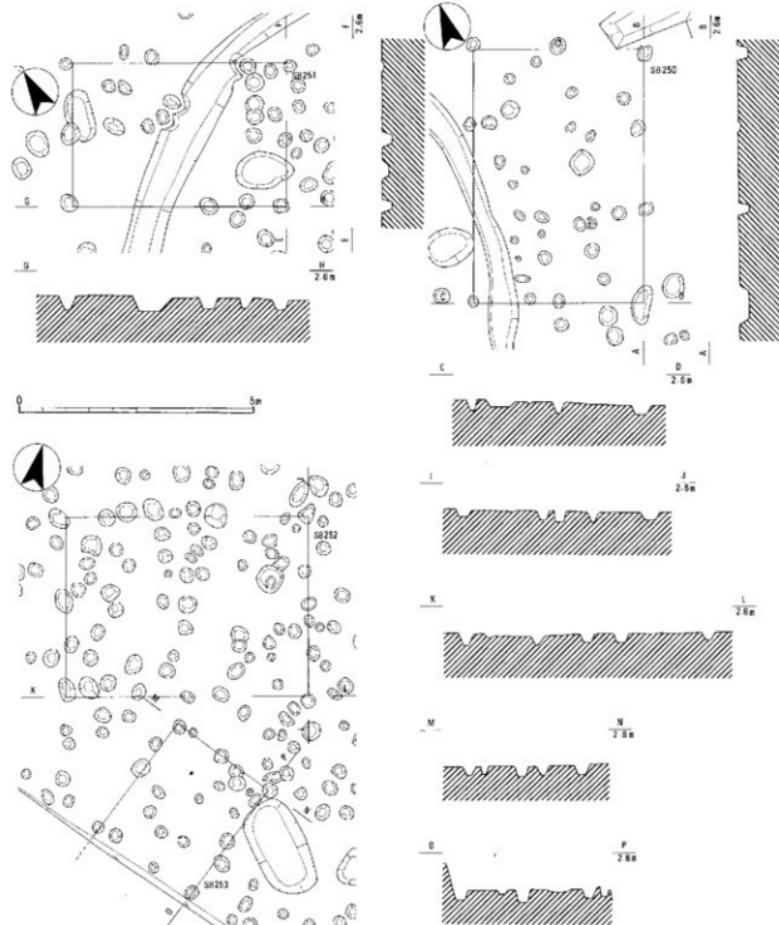
S E 208 (第52図)

木組円形曲物単独型井戸。掘形は格円形を呈し、

長軸2.78m、短軸2.19m、深さ0.56~1.15mである。造構南端には径1m程の掘り込みを確認した。その底部で曲物を1点確認した。出土土器については、弥生土器片、山茶碗片を確認した。

S E 221 (第54図)

木組円形曲物積み上げ型井戸。掘形は格円形で、長軸1.97m、短軸1.39m、深さ0.33~0.53mである。

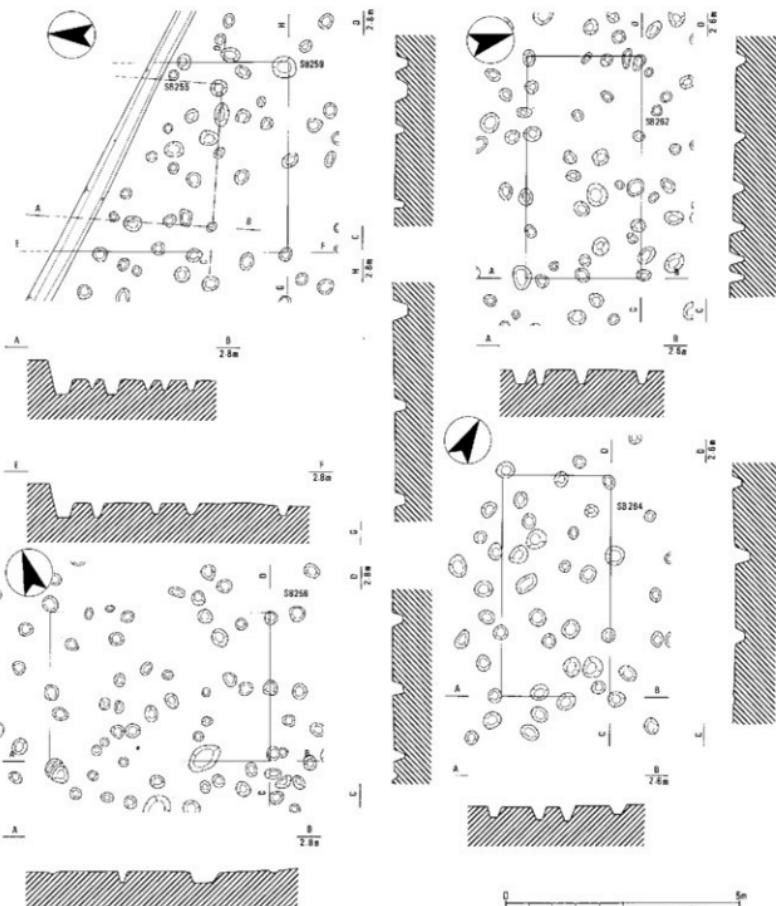


第47図 SB250・251・252・253実測図 (1:100)

遺構検出面から0.5m下に板状木製品を数点と曲物を2段確認した。板状木製品は井戸枠破片とも考えられるが曲物積み上げ型と考える。出土土器は、土師器皿・甕片・山茶輪片などを確認した。

S E 224 (第54図)

茶掘り井戸。掘形は楕円形で、長軸1.16m、短軸1.01m、深さ1.30~1.28mである。遺構検出面から0.7m下に板状木製品や土師器片、須恵器片、山茶碗



第48図 SB255・256・259・262・264実測図 (1 : 100)

片を確認した。投げ込まれたような状況であった。それらを取り除くと底部に達するまで遺物の出土がみられなかった。

S E 225 (第52図)

茶掘り井戸か。掘形は楕円形で、長軸1.41m、短軸1.14m、深さ0.61~0.68mである。底部には、径0.5m程の円形の掘り込みが確認できた。曲物などの抜き取り痕の可能性も考えられる。出土遺物は、土

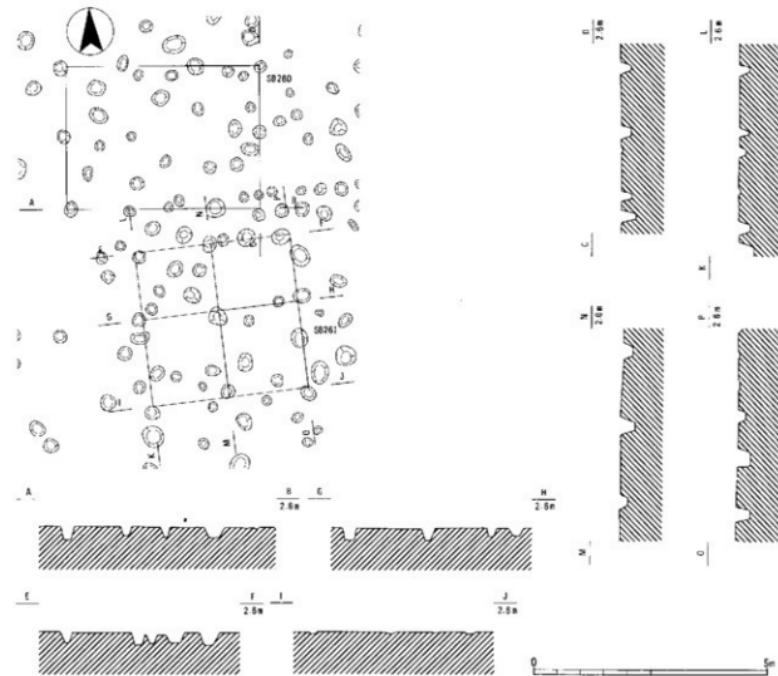
師器皿、墨書き山茶椀片を確認した。

S E 226 (第55図)

土器組+曲物单独型の円形井戸。掘形は楕円形で、長軸2.31m、短軸2.12m、深さ1.27~1.33mである。底部には径0.7m程の円形の掘り込みが確認でき、その部分に曲物と半分欠失の土器器皿がすえられていた。土器器皿が曲物の外側にあった。曲物の補強か曲物の機能を果たしていたのだろうか。出土土器は、土器器皿以外には土器器皿片、山茶椀片などを確認した。

S E 231 (第55図)

木組円形曲物積み上げ型井戸か。掘形は楕円形で、長軸2.39m、短軸2.10m、深さ0.99~1.15mである。掘形底部中央に曲物を1点確認した。曲物内埋土からは板状木製品が出土した。曲物などが崩壊したものであろうか。本来は曲物が複数存在していたもの



第49図 SB260・261実測図 (1:100)

であろう。出土土器は、土器器皿・壺・鍋片、須恵器片、山茶椀片などを確認した。

S E 232 (第54図)

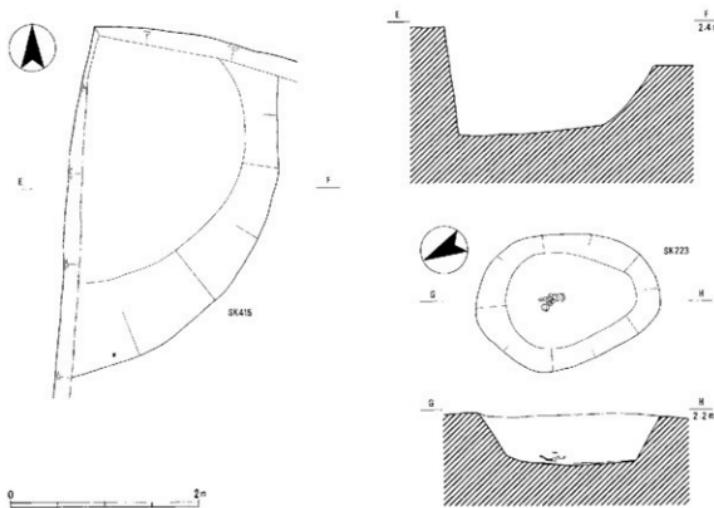
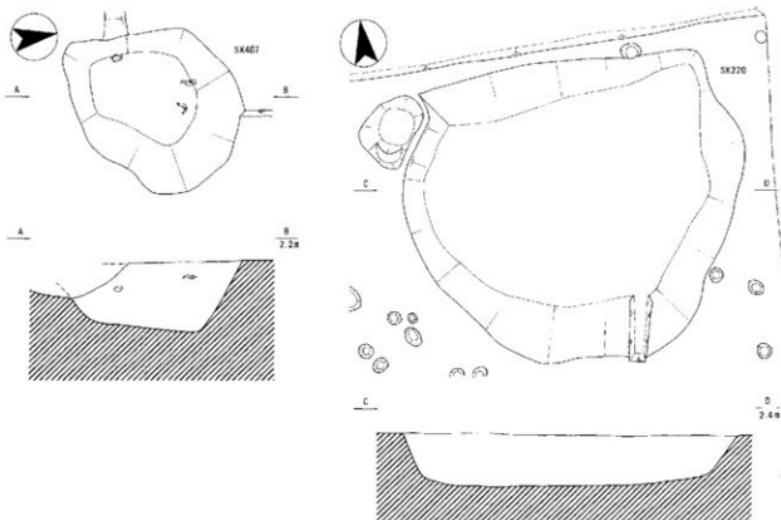
木組円形曲物单独型井戸。掘形はS E 233との重複のためよくわからないが円形と考えられる。規模は径2.2m、深さ1.1mである。掘形の底部中央に長軸0.8m、短軸0.55m、深さ0.35mの掘り込みがあり、その中に曲物を1点確認した。出土土器については土器器皿片や須恵器片を確認した。

S E 233 (第54図)

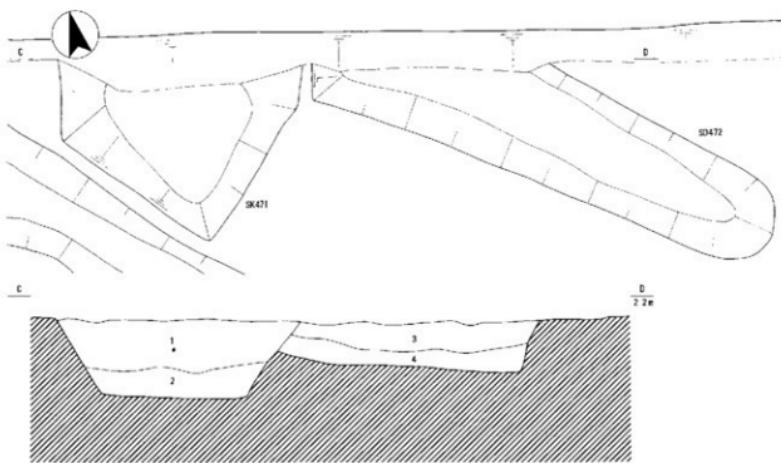
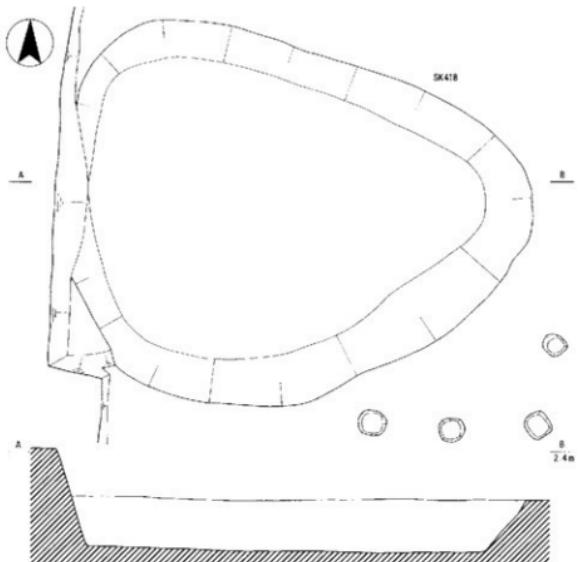
木組円形曲物積み上げ型井戸。掘形は不整円形で、長軸1.90m、短軸1.36m、深さ0.90mである。底部のほぼ中央に曲物が2段積み上げられていた。出土土器については土器器皿片や須恵器片を確認した。

S E 368 (第55図)

木組円形曲物単独型井戸か。掘形は楕円形で、長



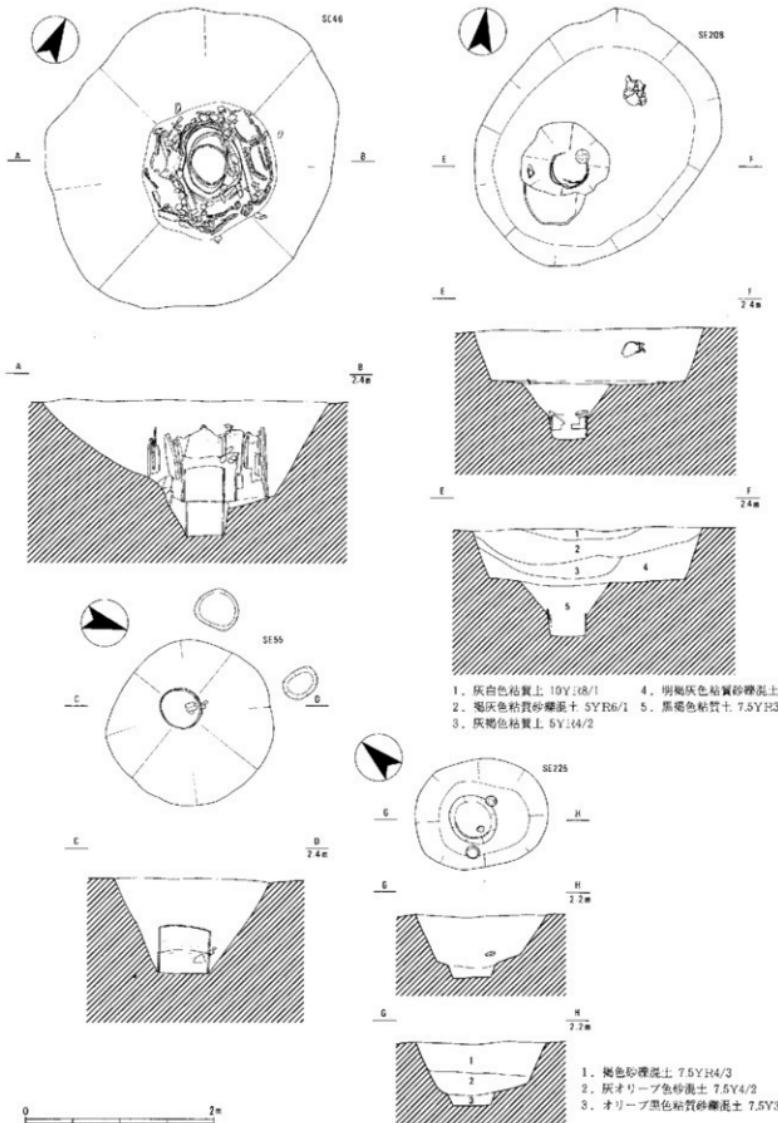
第50図 SK220・223・407・415実測図（1：50）



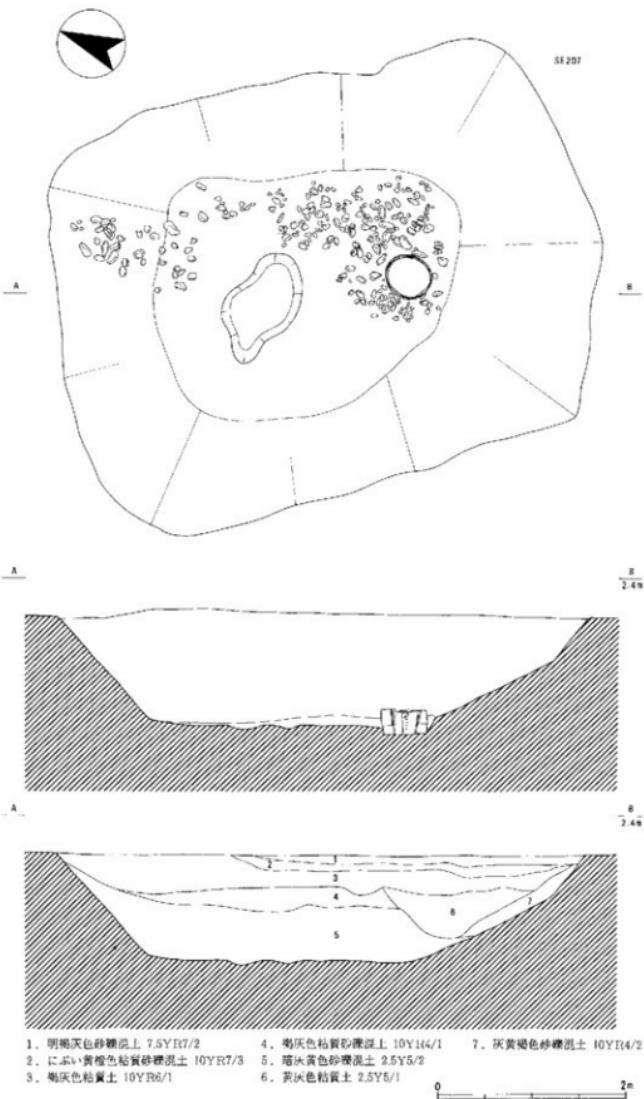
1. 暗灰色粘質膠泥土 10YR4/1 3. 黑褐色粘質膠泥土 10YR3/1
2. 灰色粘質沙泥土 5Y4/1 4. 灰黃褐色粘質膠泥土 10YR4/2

第51図 SK418・471, SD472実測図 (1:50)

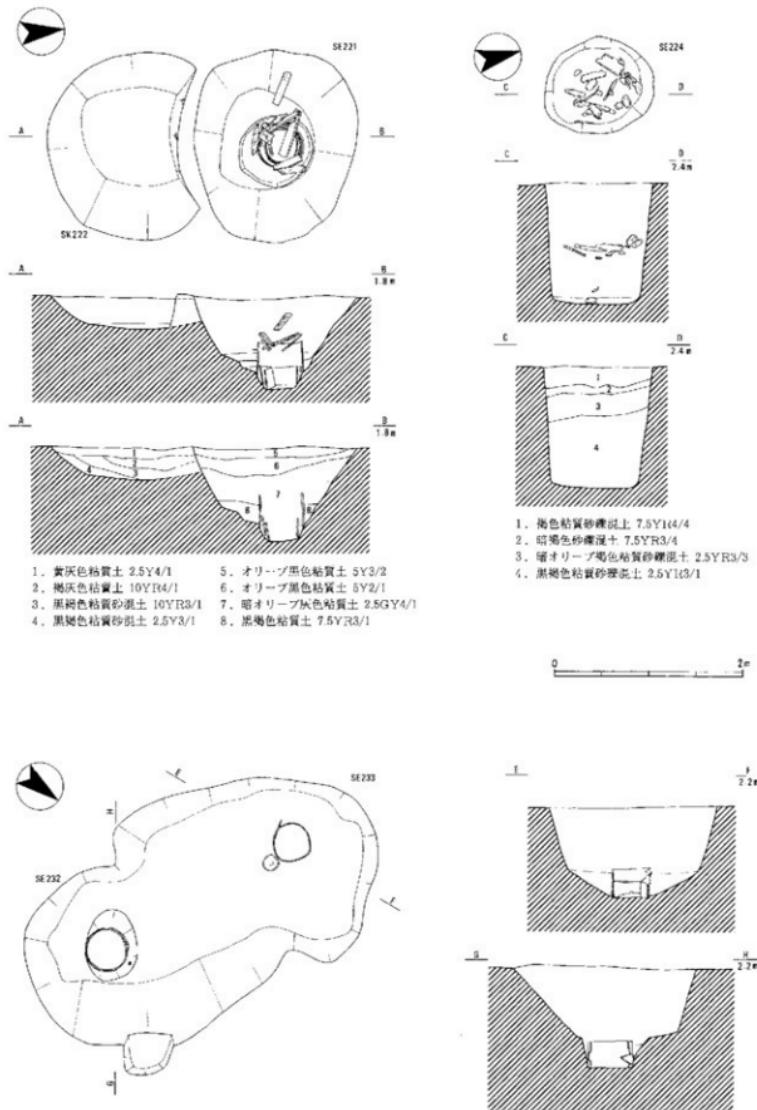




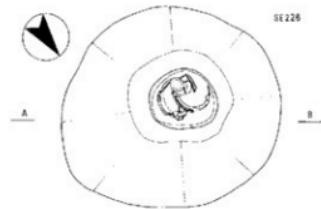
第52図 SE46・55・208・225実測図 (1 : 50)



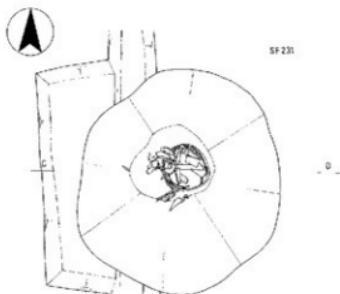
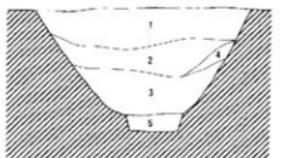
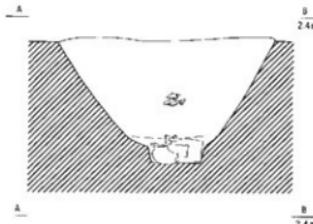
第53図 SE207実測図 (1 : 50)



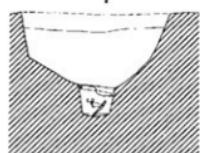
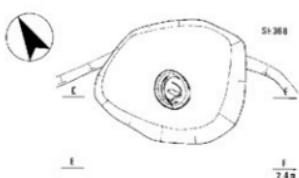
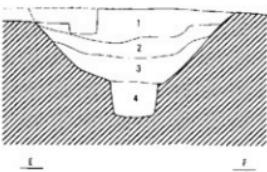
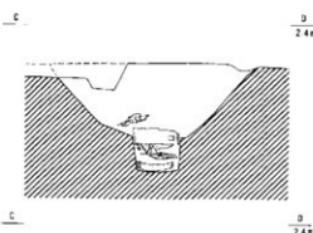
第54図 SK222, SE221・224・232・233実測図 (1 : 50)



1. 黒褐色粘質砂礫土 10Y4/3/2
2. 黒褐色花崗岩上 10Y1/2/1
3. 暗褐色やや粘質砂土 10YR3/3
4. 黄灰色やや粘質砂土 2.5Y4/1
5. オリゾン黑色粘質砂礫土 5Y3/1



1. にじむ黄褐色粘質砂礫土 10YR4/3
2. 黒褐色粘質砂礫土 2.5Y3/1
3. 黄灰色やや粘質砂土 2.5Y4/1
4. 黑褐色粘質砂礫土 10YR3/2



1. 嘴灰色粉質礫土 10YRA/1
2. 灰黃褐色粘質礫土 10YR4/2
3. 黑褐色粘質土 10YR3/2

0 1 2m

第55図 SE226・231・368実測図 (1 : 50)

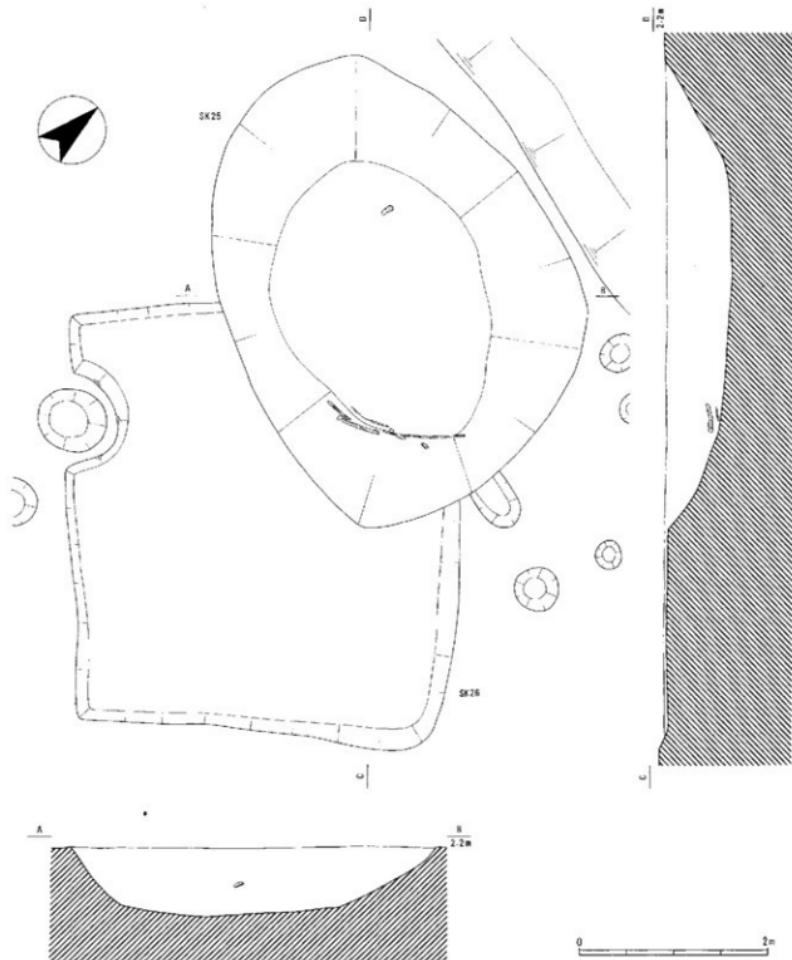
軸1.67m、短軸1.32m、深さ0.27~0.55mである。底部中央には曲物を確認した。曲物の残存状況が悪いので判断に苦しむ。出土土器は、土師器皿・甕・鍋片、山茶椀片などを確認した。

室町時代以降

土坑

SK 25(第56図)

平面形は橢円形で、長軸2.47m、短軸1.95m、深さ0.30~0.36mである。出土遺物は、土師器小皿、



第56図 SK 25・26実測図 (1:50)

漆塗木製瓶、陶器片などを確認した。室町時代に属するものであろう。

S K 313 (第57図)

平面形は不整円形で、径9.30m、深さ0.62~0.94mである。複数遺構の重複の可能性も考えられるが、土層断面の観察からは確認できなかった。池遺構と考えられなくもない。出土遺物は、土師器皿・甕片、山皿、山茶碗片、陶器片などを確認した。また、埋土からヒシの実が大量に出土した。室町時代に属するものであろう。

不明遺構

S Z 227 (第58図)

平面形は不整円形で、長軸2.84m、短軸1.90m、深さ0.59~0.69mである。出土遺物は、土師器皿片、山茶碗片、陶器片、元豈通宝を含む鈎貨5枚、人や馬の骨なども確認した。人骨や鈎貨の出土だけをみれば墓壙と考えられるが、馬骨の出土を考えると判断に苦しむ。室町時代に属するものか。

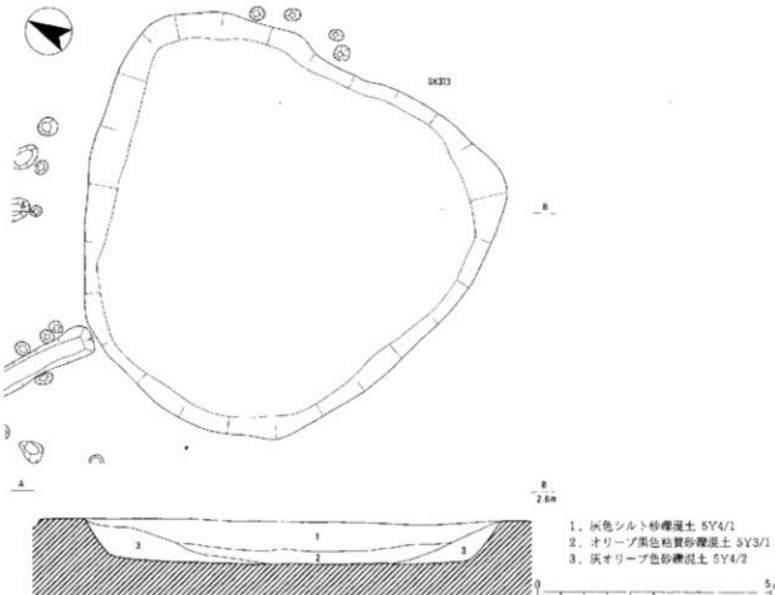
S Z 228 (第58図)

平面形は円形で、径1.83m、深さ0.19~0.27mである。出土遺物は、人や馬の骨片が大量に出土した。人骨の出土だけをみれば墓壙と考えられるが、馬骨の出土を考えるとS Z 227同様に墓壙とは考えにくく、判断に苦しむ。室町時代に属するものか。

旧河道

S R 210 (第58・59図)

幅10.25~14.50m、深さ1.02~1.53mの規模を有する旧河道である。調査区を北西から南東にかけて横切る。埋土については、基本的には5層に分かれている。ゆっくり堆積していく土が水量などにより擾拌されたようである。調査は、土層を分層しつつ掘り下げていったが、河道の最も深い部分でも山茶碗が出上る状況であったため、層位で時期区分はできなかった。埋土の上層は中世土器の占める割合が多く、下層はいけばいくほど古代の土器の占める割合が多くなる傾向がみられる。出土遺物は、奈良時



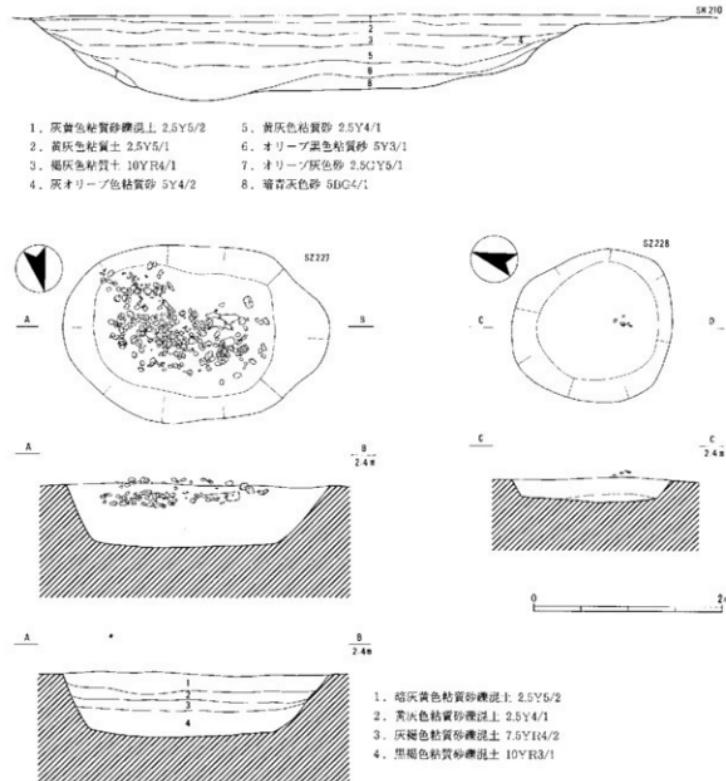
第57図 SK313実測図 (1:100)

代から室町時代にかけての土器類や木製品を中心に、調査区内の河道全面ではほんべんなく出土した。土器については、墨書きや模様が施されたものが多く見られた。ほとんどがローリングを受けておらず遺跡に近接する場所から投げ入れられ、流れ込んだものと思われる。木製品については、日常使用されていたもの以外にも、舟車・人形・舟形などの祭祀木製品が大量に出土している。いわゆる「祓い」などに関わる祭祀が道路周辺で行われていた可能性が高いといえよう。特に舟車は149点を数え、県内最多の出土量を誇る松阪市杉原内遺跡に匹敵する出土量である。

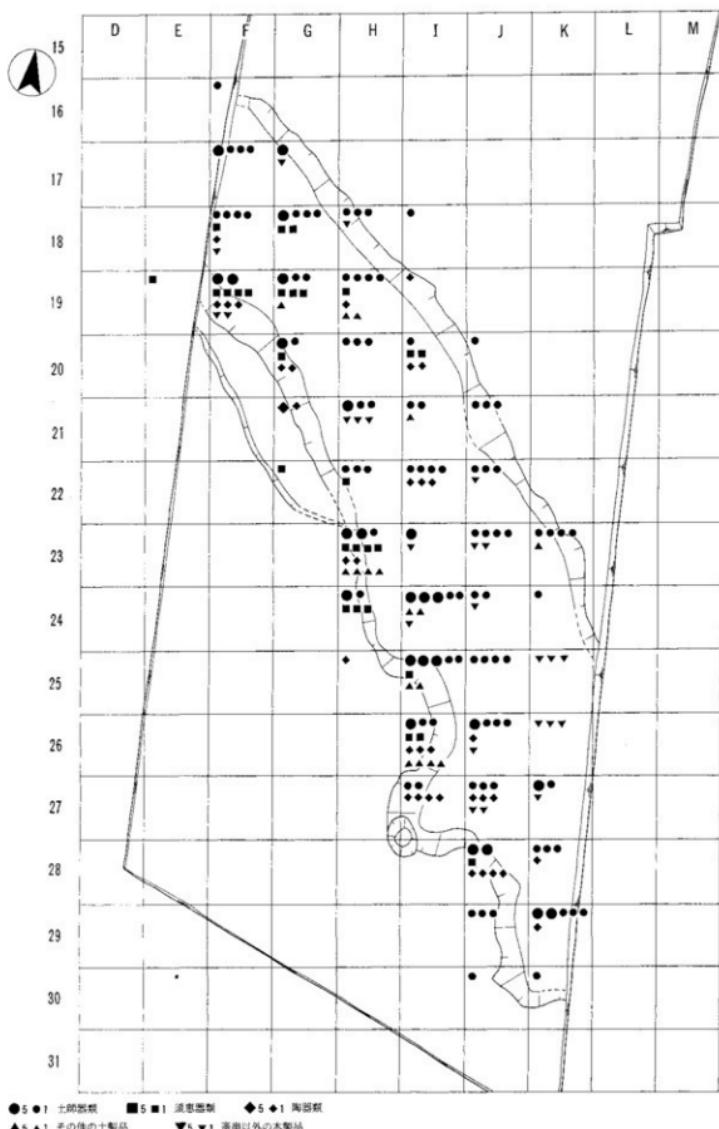
(小濱 學)

[註]

- ① 法務省草原千利町遺跡調査研究所『草原千利町遺跡発掘調査報告書V』(1996年)。
- ② V：自然科学分析を参照。以後の植物遺体などについてもVを参照されたい。
- ③ 横田竹也ほか「IV. 阿形道路」「ヒタキ廃寺・打田道路・阿形道路ほか」(三重県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ④ 三重県立大学外洋考古学研究会「昭和61年度収集品鑑定報告会」(1989年)。
- ⑤ ④と同じ。



第58図 SR210土層断面図、SZ227・228実測図 (1 : 50)



第59図 SR210遺物出土分布図（1：300）

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
SK1	土坑	1	L10	弥生後期	不整形円形 / $2.90 \times 1.55 \times 0.08 \sim 0.11m$
SK2	土坑	1	I-J8-9 K9	平安	楕円形 ? / $5.70 \times 0.65 \times 0.12 \sim 0.23m$ SD4に切られる
3					矢番
SD4	溝	1	I II J 9~11ほか	平安末期	0.35~0.95 × 0.01~0.29m SK2~5, SD28~56+303~306-344を切る SD57に切られる, 製埴土器が出土
SK5	土坑	1	J 9-10	平安前期	不整形 ? / $1.40 \times 0.38 \times 0.05m$ SD4に切られる
SK6	土坑	1	H-19-10	平安末期	円形 / $4.30 \times 3.80 \times 0.57 \sim 0.65m$ SK61を切る, 磷灰や生糞出土
SD7	溝	1	H-110	平安	0.35~0.60 × 0.08 ~ 0.10m
SK8	土坑	1	H8-9	弥生末期	不整形円形 / $2.74 \times 1.68 \times 0.64 \sim 0.84m$ 黒漆塗漆器出土
SK9	土坑	1	H9	弥生後期	不整形円形 / $1.30 \times 0.90 \times 0.41m$
SK10	土坑	1	G8	縄文	円形 / $2.68 \times 2.38 \times 0.77 \sim 0.82m$ SD12を切る
11					矢番
SD12	溝	1	E~H8 G7	弥生後期	1.05~1.60 × 0.31~0.65m SD16に切れる
SK13	土坑	1	F-G7	平安	不整形 ? / $1.23 \times 1.03 \times 0.38m$
SK14	土坑	1	F7	古墳	方形 / $1.05 \times 1.05 \times 0.55m$ SK15を切る
SK15	土坑	1	E6-7 F7	弥生後期	不整形円形 / $4.20 \times 2.95 \times 0.69 \sim 0.78m$ SK14, SE37に切られる
SD16	溝	1	F7~9	平安	0.93~1.15 × 0.10~0.15m SD12を切る
SK17	土坑	1	C-D8	縄文	円形 ? / $3.93 \times 2.55 \times 0.57 \sim 0.68m$
SB18	掘立柱建物	1	D-E7~8 F8~9 G8	平安末期	3m以下 × 4間 / 線柱建物 (2.00+2.00+2.10+…×2.30+1.90+2.30+2.10m) SD12, SK15, SE37を切る
SD19	溝	1	C11 D11-12	不明	0.53~1.15 × 0.07~0.12m
20					→SD4C
SD21	溝	1	J 12 K13-14 L14~16	平安前期	0.25~0.45 × 0.60~0.12m SD28に切られる
SK22	土坑	1	I 12-13 J 12	縄文	不整形円形 / $3.20 \times 2.85 \times 0.26 \sim 0.32m$ SK23を切る
SK23	土坑	1	H-I 12-13	平安?	不整形 / $2.80 \times 1.93 \times 0.07 \sim 0.10m$ SK22, SB35-36と重複
SK24	土坑	1	J 15	平安	楕円形 / $1.63 \times 0.83 \times 0.35m$
SK25	土坑	1	H 15~17 I 16-17	平安	楕円形 / $2.47 \times 1.95 \times 0.30 \sim 0.36m$ SK26を切る
SK26	土坑	1	H 16-17 I 15~18	平安	方形 / $0.83 \times 0.05 \times 0.06 \sim 0.10m$ SK25に切れる
SK27	土坑	1	I-J 17	奈良	楕円形 / $2.42 \times 2.12 \times 0.56 \sim 0.61m$
SD28	溝	1	J 15~20 K13-18-19 L15~18	平安	0.23~0.65 × 0.08 ~ 0.15m SD21, SK33を切る / SD4, SK34に切られる
SK29	土坑	1	L-M13	弥生後期	楕円形 / $1.27 \times 0.83 \times 0.29m$
SK30	土坑	1	L13-14	平安	不整形 / $1.90 \times 1.58 \times 0.28 \sim 0.30m$
SK31	土坑	1	D6-7	弥生後期	円形 / $4.12 \times 3.74 \times 0.75m$ SK38を切る 鍛錬形工芸品出土
SK32	土坑	1	D~F9	平安	不整形 ? / $8.30 \times 0.58 \times 0.10 \sim 0.15m$ SD67を切る
SK33	土坑	1	L16-17	平安	円形 / $2.28 \times 0.78 \times 0.45m$ SD28に切れる
SK34	土坑	1	L17-18	縄文	円形 ? / $2.85 \times 1.35 \times 0.58 \sim 0.77m$ SD28を切る
SB35	掘立柱建物	1	G13 H12~14 I13-14	平安後期	2間 × 4間 / 東西棟建物 (2.20+2.20) × 1.90 + 1.90 + 1.90 + 1.90m (2.30+2.10) (1.80) SK23と重複
SB36	掘立柱建物	1	G-H12-13 I12	平安後期	2間 × 3間 / 西側建物 (2.15+2.15) × 2.15 + 2.15 + 2.15m SK23と重複
SE37	井戸	1	D-E7	奈良	楕円形円形 / $1.28 \times 0.60 \times 0.67 \sim 0.78m$ / 并傍本組円形 SK15を切る / SB18に切られる

第5表 遺構一覧表①

遺構番号	性 格	調査次	地 区	時 期	特 微・形 状・計 測 数 量など
S K38	土坑	1	C-D6	弥生後期?	不整形? / $2.70 \times 1.53 \times 0.05 \sim 0.22m$ S K31に切られる
S D39	溝	1	N14~19 O13~14	平安後期	0.33~0.43 × 0.09~0.20m S D40を切る / S D82に切られる
S D40	溝	1	N15 O14~15	奈良	0.43~1.05 × 0.09~0.18m S D39に切られる
S K41	土坑	1	P15	弥生後期	円形? / $1.40 \times 0.38 \times 0.33m$
S K42	土坑	1	P18~19	平安	方形? / $3.85 \times 2.13 \times 0.08 \sim 0.08m$
S K43	土坑	1	G-H17~19	縄文	椭円形 / $2.76 \times 2.45 \times 0.82m$ S E47を切る
S K44	七坑	1	D-E19~20	縄文	不整椭円形 / $3.03 \times 2.08 \times 0.57 \sim 0.63m$ S K45を切る
S K45	土坑	1	D-E20~21	平安末期	不整椭円形 / $2.92 \times 2.54 \times 0.61 \sim 0.63m$ S K44に切られる
S E46	井戸	1	E21~22	縄文	椭円不整椭円形 / $3.40 \times 1.00 \sim 1.42m$ / 并側木組円形
S E47	井戸	1	G-H18~19	平安前期	椭円横円形 / $3.12 \times 2.84 \times 0.94m$ / 并側木組方形 S K43に切られる
S K48	土坑	1	H-I19	平安末期	不整椭円形 / $2.08 \times 1.83 \times 0.48 \sim 0.50m$ S K51を切る
S K49	七坑	1	K-L19~20	縄文	円形? / $6.50 \times 0.83 \times 0.15 \sim 0.20m$ S D66を切る
S D50	溝	1	J-K20~21	縄文	0.98~1.28 × 0.15~0.21m S K49に切れる / S B63を切る
S K51	土坑	1	H19~20	奈良	円形 / $2.50 \times 0.45m$ S K48に切られる
S K52	土坑	1	H-I20~21	不明	椭円形 / $2.20 \times 1.48 \times 0.09 \sim 0.31m$
S K53	土坑	1	H21	弥生後期	円形 / $2.18 \times 1.50 \times 0.18m$ S E54に切られる
S E54	井戸	1	H21	平安末期	椭円不整椭円形 / $1.88 \times 1.52 \times 0.75 \sim 1.08m$ / 并側木組方形 S K53を切る
S E55	井戸	1	H22~23	縄文	椭円形 / $1.77 \times 0.45 \sim 1.60m$ / 并側木組円形
S D56	溝	1	F25~26 G24~25 H-124 J-K23~24	平安	0.93~1.78 × 0.18~0.26m S D4~57, S B60に切られる
S D57	溝	1	J24 K21~24	平安	0.58~0.88 × 0.24~0.30m S D4~56を切る
S K58	土坑	1	H22~23	縄文	方形? / $1.83 \times 1.25 \times 0.56m$
S K59	土坑	1	O24	弥生後期	不整形? / $2.98 \times 2.00 \times 0.23 \sim 0.34m$
S B60	掘立柱建物	1	I24 J23~25 K23	平安末期	2面X3間 / 南北横建物 (2.10+2.10×2.10+2.10+2.10m) S D56を切る
S K61	土坑	1	I9	弥生後期	円形? / $1.43 \times 0.38 \times 0.68m$ S K61に切られる
S D62	溝	1	M19~20 N15~20 O15~18	近世以降	1.13~3.30 × 0.12~0.36m 橈丸か?
S B63	掘立柱建物	1	I22 J21~23 K21~22	平安後期	2面X3間 / 南北横建物 (2.29+2.20×2.10+1.20+2.20m) (1.90+1.90+1.90) S D50に切られる
S B64	掘立柱建物	1	F-G22~23	平安末期	2面X3間 / 南北横建物 (1.35+1.35×1.20+1.20+1.20m)
S B65	掘立柱建物	1	O-P16~17	平安後期	2面X2間 / 掘立柱建物 (1.70+1.70×2.00+2.00m) 柱穴より縄繩陶器出土
S B66	掘立柱建物	1	I19~ J-K18~19	平安末期	2面X3間 / 南北横建物 (1.60+1.60×1.40+2.40+1.80m) (1.50+1.50+2.20)
S D67	溝	1	E8~9	平安?	0.58~1.00 × 0.16~0.23m
S D201	溝	2	E22 F22~25 G23~25	縄文	0.28~0.65 × 0.07~0.12m
S K202	土坑	2	F24	縄文	椭円形 / $1.93 \times 0.78 \times 0.31m$ → S E208に
203		2			
S D204	溝	2	E28 F27~28 G-H26~27	室町	0.43~1.08 × 0.23~0.32m
205		2			
S D206	溝	2	G25	不明	0.40~0.80 × 0.16m
S E207	井戸	2	F~H25~26	縄文	椭円不整椭円形 / $5.93 \times 4.38 \times 1.06 \sim 1.15m$ / 并側木組円形
S E208	井戸	2	E26	縄文	椭円横円形 / $2.78 \times 2.19 \times 0.56 \sim 1.15m$ / 并側木組円形

第6表 遺構一覧表②

構造番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K209	土坑	2	E 27	不明	不整形／ $1.65 \times 0.45 \times 0.13m$
S R210	田面道	2	E 19-20 F 16-20 G 6-23 H 17-25-27 I 19-28 J 29-30 K 21-31 L 24-29	奈良～中世	10.25～14.50×1.02～1.53m S K211, S D216, S E217と重複 祭木製品多量に出土
S K211	土坑	2	H-I 27-28	不明	不整形円形／ $2.50 \times 1.80 \times 1.08 \sim 1.18m$ S R210を切る
S D212	溝	2	J 18	室町以降	0.65～0.75×0.10～0.13m 欠番
213					
S K214	土坑	2	K 30-31	平安	不整形円形？／ $1.98 \times 1.20 \times 0.14 \sim 0.15m$
S K215	土坑	2	I-J 30-31 K 31	平安末期	方形／ $5.40 \times 4.10 \times 0.13 \sim 0.68m$
S D216	溝	2	J 30-I 31	鎌倉？	0.25～0.45×0.04～0.12 S R210と重複
S E217	井戸	2	K 21	平安末期	椭円形円形／ $1.83 \times 1.52 \times 0.76 \sim 0.84m$ ／井側木組円形 S R210と重複
S E218	井戸	2	J 19	平安末期	椭円形不整形円形／ $1.53 \times 1.13 \times 0.29 \sim 1.18m$ ／井側木組円形 → S K220に
219					
S K220	土坑	2	J ~ L 19-20	鎌倉	不整形円形／ $7.30 \times 6.25 \times 0.59 \sim 1.10m$
S E221	井戸	2	J 18	鎌倉	椭円形木組円形／ $1.97 \times 1.39 \times 0.33 \sim 0.53m$ ／井側木組円形 S K222を切る
S K222	土坑	2	J 18-19	不明	四形？／ $2.04 \times 1.74 \times 0.56 \sim 0.62m$ S E221に切られる
S K223	土坑	2	J 40	鎌倉	橢円形／ $1.95 \times 1.44 \times 0.51 \sim 0.57m$
S E224	井戸	2	J 35-39 K 39	鎌倉	椭円形木組円形／ $1.16 \times 1.61 \times 1.20 \sim 1.28m$ ／高麗式
S E225	井戸	2	E-F 39	鎌倉	椭円形木組円形／ $1.41 \times 1.14 \times 0.61 \sim 0.68m$ ／高麗式
S E226	井戸	2	I-J 45	鎌倉	椭円形木組円形／ $2.31 \times 2.12 \times 1.27 \sim 1.33m$ ／井側土器+陶物
S Z227	不明遺構	2	H-I 38	室町	不整形円形／ $2.64 \times 1.90 \times 0.59 \sim 0.69m$ 骨片多出出土
S Z228	不明遺構	2	G 38-39	室町？	四形／ $1.83 \times 0.19 \sim 0.27m$ 骨片多出土
S K229	土坑	2	J 41-42	鎌倉	橢円形／ $2.37 \times 2.10 \times 0.48 \sim 0.51m$
S E230	井戸	2	E 36	奈良	椭円形木組円形／ $2.47 \times 2.20 \times 0.74 \sim 0.80m$ ／素振り
S E231	井戸	2	D-E 37	鎌倉	椭円形木組円形／ $2.39 \times 2.10 \times 0.99 \sim 1.16m$ ／井側木組円形
S E232	井戸	2	J-K 37-38	鎌倉	椭円形木組円形／ $2.29 \times 1.10m$ ／井側木組円形 S E233と重複
S E233	井戸	2	K 37-38	鎌倉	椭円形不整形円形／ $1.90 \times 1.36 \times 0.9m$ ／井側木組円形 S E232と重複
S D234	溝	2	D 61-62 E 62 F-G 62-63 H 63-64 I 64	鎌倉	0.98～1.90×0.03～0.11m S D235に切られる、S K239を切る
S D235	溝	2	E 58-62 F 57-58	室町	0.53～1.78×0.04～0.20m S K239-240, S D234-238-363を切る
S D236	溝	2	F 61-62	不明	0.28～0.53×0.02～0.11m
S D237	溝	2	D 61	不明	0.20～0.23×0.05～0.07m
S D238	溝	2	D 60-61	弥生後期	0.20～0.30×0.07～0.10m S D235に切られる
S K239	土坑	2	D-E 61	弥生後期	椭円形？／ $2.87 \times 1.23 \times 0.06 \sim 0.07m$ S D234-235に切られる
S K240	土坑	2	E 60-61	弥生後期	不整形？／ $3.43 \times 1.70 \times 0.11 \sim 0.14m$ S D235に切られる
241		2			+ S D303に 現存
S D242	溝	2	H-J 57 I 58	鎌倉？	0.55～0.75×0.06～0.15m S D303を切る
S D243	溝	2	H-J 55 F-H 56 E-F 57	鎌倉？	0.23～0.58×0.04～0.22m S K439を切る
S D244	溝	2	D-E 57	鎌倉	0.23～0.30×0.09～0.11m
245					欠番
246					欠番

第7表 遺構一覧表③

遺構番号	性 格	調査次	地 区	時 期	特 徴・形 状・計 測 数 量など
S B247	孤立柱建物	2	E・F21-22	鍾乳	1間以上×3(?)回 {2.15+…×2.15+2.15m} (1.90+…)
S B248	孤立柱建物	2	E23-24	鍾乳	1間以上×3間以上 (1.40+…×1.50+1.50+…m)
S B249	孤立柱建物	2	E・F24-25	鍾乳	3間×4間／南北棟經柱建物 (1.40+1.40+1.40×1.45+1.45+1.45m) S B248に切られる
S B250	孤立柱建物	2	F・G23-24	鍾乳	2段×3間／南北棟建物 (1.80+1.80×1.70+1.80+1.90m)
S B251	孤立柱建物	2	E～G27 H26	鍾乳	2間×3間／東西棟建物 (1.50+1.50×1.50+1.30+1.70m) (1.50+1.50+1.50)
S B252	孤立柱建物	2	G・H28-29	鍾乳	2間×3間／東西棟建物 (1.90+1.90×2.00+1.35+1.90m) (1.90+1.90+1.45)
S B253	孤立柱建物	2	G29-30 H29	鍾乳	2間×2間以上／南北棟建物 (1.20+1.20×1.30+1.30+…m) (1.30+1.40+…)
254					久慈
S B255	孤立柱建物	2	H32-33 I33	鍾乳	2間×2間以上／南北棟建物 (2.00+2.00+…+2.20m) (…+2.00+2.00)
S B256	孤立柱建物	2	H33-34 I34	鍾乳	2間×3間／東西棟建物 (1.55+1.55×1.50+1.50+1.65m) (1.55+1.55+1.55)
S B257	孤立柱建物	2	F～H59-60	弥生後期	2(1) 鏡×3回／東西棟建物 (1.50+1.50×1.60+1.50+1.60m) (3.00)
S B258	孤立柱建物	2	F・G59-60	弥生後期	1間×1間 (1.95×3.00)
S B259	孤立柱建物	2	H32-33 I33	鍾乳	1間以上×2間／南北棟建物 (…+1.80×1.50+1.50m)
S B260	孤立柱建物	2	F・G34-35	鍾乳	2間×3間／東西棟建物 (1.50+1.50×1.35+1.50+1.20m) (1.00+1.75+1.30)
S B261	孤立柱建物	2	F・G35-36	鍾乳	2間×2回／南北棟建物 (1.65+1.60×1.40+1.85) (1.65+1.65)
S B262	孤立柱建物	2	G～I 35 H36	鍾乳	2間×3回／東西棟建物 (1.20+1.20×1.90+0.95+1.70m) (1.55+1.55+1.55)
253					久慈
S B264	孤立柱建物	2	F・G37-38	鍾乳	2間×3回／南北棟建物 (1.15+1.15×1.70+1.70+1.25m) (1.00+1.30) (1.65+1.70+1.35)
S K265	土坑	2	L 56-57	不明	楕円形 ? × 2.30×0.52×0.24~0.28m
S D301	溝	3	B 57-68 A 68~70 B 70~72 C 72~74 D 74	弥生	0.35~0.65×0.05~0.09m
S K266	土坑	3	B・C75-76	弥生後期	円形 / 1.80×0.50~0.55m
S D303	溝	3	A 65-69 B 68 D ~ K 57-58 N 72~76 O 74~77	弥生後期	1.20~1.50×0.23~0.52m S K304, S D306を切る S D4-233-242に切られる 第33区溝区東側に十器集中
S K304	土坑	3	A・B 69	不明	不整形 / 0.25×0.18×0.23~0.27m
S K305	土坑	3	B・C 68	弥生後期	円形 / 2.49×0.85~0.92m 木製 構出上 / 弥生土器大量出土
S D306	溝	3	B ~ D 69 D ~ G 70 G ~ J 71 J ~ L 72 L ~ M 73 M 74 M ~ N 75 N 76 O 77~78	弥生?	0.28~1.28×0.05~0.13m S K314-316-341, S D303に切られる

第8表 遺構一覧表④

遺構番号	性 格	調査次	地 区	時 期	特 徴・形 状・計 測 数 値など
S D307	溝	3	B79	平安?	0.58~1.28×0.05~0.13m S K325を切る
308		3	C-D79-80		→ S K316
			E~G80		
S K309	土坑	3	B68	弥生?	楕円形? / 1.25×0.33×0.17~0.23m
S K310	土坑	3	D-E72-73	弥生後期	不整楕円形 / 1.79×0.74×0.16~0.23m
S K311	土坑	3	E69	平安?	円形? / 1.15×0.53×0.04~0.11m
S K312	土坑	3	C-D78-79	鍛冶	楕円形 / 4.46×3.21×0.49~0.72m
S K313	土坑	3	C74-75	奈町	不整円形 / 9.30×0.62~0.94m/池?
			D-E74~76		Hシの実を出土
S K314	土坑	3	D69	不明	不整形 / 1.65×0.80×0.18~0.19m S D306を切る S K316に切られる
S D315	溝	3	D69	鍛冶?	0.55~1.35×0.02~0.09m
S K316	土坑	3	C-D69-70	不明	方形 / 3.85×1.90×0.14~0.23m S D306, S K314を切る 機知か?
S K317	土坑	3	F70	弥生後期	楕円形 / 1.40×0.75×0.23~0.26m
S X318	墓塚	3	E77	平安末期	楕円形 / 0.71×0.51×0.23~0.26m 墓器(山茶碗)あり
S K319	土坑	3	G70	不明	楕円形? / 1.70×0.60×0.10~0.13m
S K320	土坑	3	G72	不明	不整形 / 1.25×0.68×0.09~0.10m
S K321	土坑	3	F73	弥生?	不整形 / 3.05×0.85×0.14~0.53m G73-74
S K322	土坑	3	F-G75	鍛冶	円形 / 2.00×0.33~0.38m
S R323	井戸	3	F77-78	平安末期	楕円形? / 2.86×0.59~0.80m / 片側木組方形
S K324	土坑	3	F75-76	平安末期	円形 / 2.45×0.57~0.63m
S K325	土坑	3	F80	弥生後期	円形? / 1.73×1.58×0.59~0.64m S D307に切られる
S K326	土坑	3	G-H75-76	弥生後期	不整楕円形 / 3.68×2.15×0.53~0.74m S K325を切る 弥生七腰型出土
S E327	井戸	3	G75-76-77	弥生後期	楕円形 不整楕円形 / 3.07×2.34×0.53~0.72m / 底部に配石 弥生七腰型出土
S K328	土坑	3	F-G75	弥生後期	不整円形? / 1.85×1.11×1.78~1.79m S K325に切られる
S D329	溝	3	F-G86	弥生後期?	0.73~1.58×0.12~0.15m
S K330	土坑	3	G-H79	弥生後期	不整楕円形 / 3.20×2.45×0.33~0.62m S D344を切る
S K331	土坑	3	G80	平安	円形 / 1.40×0.36~0.43m
S K332	土坑	3	F81-82	不明	楕円形 / 1.63×0.65×0.18~0.21m
S K333	土坑	3	F-G85-86	平安末期~鍛冶	楕円形 / 2.75×0.95×0.07~0.10m
S K334	土坑	3	H74-75	不明	楕円形 / 2.20×0.80×0.16~0.19m
S K335	土坑	3	I33	不明	円形 / 1.30×0.41~0.42m
S D336	溝	3	G~I-K80	弥生後期	0.85~1.83×0.12~0.17m
S E337	井戸	3	H80	平安末期	楕円形 楕円形 / 1.61×1.28×0.97~1.02m / 片側木組方形 → S D303に 鍛冶
338		3			→ S D4に
339		3			→ S D4に
S K340	土坑	3	I78	弥生後期	不整円形 / 1.92×1.69×0.70~0.91m
S K341	土坑	3	I-L-M73-74	平安末期	楕円形 / 3.50×2.85×0.71~0.80m S D306を切る
					矢番
342					
S K343	土坑	3	I-81-82	弥生後期	楕円形 / 1.80×1.45×0.47~0.52m
S D344	溝	3	H-J79	弥生後期	0.38~0.68×0.06~0.23 S D4, S K330に切られる
			J~N80		
			M-O81		
S E345	井戸	3	H-I83-84	平安末期	楕円形 楕円形 / 1.79×1.51×1.02~1.05m / 片側木組方形
S K346	土坑	3	M77	平安後期	円形 / 1.30×0.55~0.59m
347		3			→ S D303に 鍛冶
S K348	土坑	3	G87	不明	円形 / 1.25×0.42~0.44m
S K349	土坑	3	H86	不明	細長い楕円形 / 4.18×1.23×0.06~0.14m
			I86-87		
S K350	土坑	3	I86	平安後期?	不整楕円形 / 3.30×2.30×0.20~0.24m
			J86-87		
S K351	土坑	3	L83	鍛冶	不整円形 / 3.50×3.25×0.54~0.57m
			M82-84		
352		3			→ S D4に
S E353	井戸	3	N87	平安前期	楕円形 楕円形 / 1.83×0.71~0.73m / 片側木組方形 S K355に切られる

第9表 遺構一覧表⑤

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K354	土坑	3	O-86-87	縹倉	円形／ $3.52 \times 3.20 \times 0.54 \sim 0.64m$ S B389を切る
S K355	土坑	3	N-O-87-88	縹倉以降	方形？／ $2.69 \times 2.33 \times 0.61 \sim 0.63m$ S K356に切られる／S K353を切る
S K356	土坑	3	N-O-88-89	室町以降	不規則円形？／ $3.11 \times 1.41 \times 0.43 \sim 0.72m$ S K355を切る
S E357	井戸	3	N-89-90	平安末期	椭円形円形／ $1.35 \times 1.02m$ ／井側木組方形
S E358	井戸	3	D-42	平安末期	椭円形円形／ $1.72 \times 1.53 \times 0.88 \sim 1.04m$ ／井側木組方形
S K359	土坑	3	H-45-46	弥生後期	椭円形？／ $2.01 \times 1.96 \times 0.57 \sim 0.71m$
S K360	土坑	3	I-48	弥生後期？	椭円形／ $1.70 \times 1.70 \times 0.51 \sim 0.55m$
S K361	土坑	3	G-H-45	弥生後期	椭円形／ $1.00 \times 0.99 \times 0.64 \sim 0.65m$
S E362	井戸	3	J-45	奈良	椭円形円形／ $1.74 \times 1.54 \times 0.83 \sim 0.84m$ ／黒塗り
S E363	井戸	3	J-K-45-47	平安	椭円形円形／ $2.43 \times 1.13 \times 0.55 \sim 0.63m$ ／井側木組方形 ↑-7-楕円側部器皿出土
S K364	土坑	3	H-45	縹倉	不規則円形／ $1.20 \times 0.93 \times 0.29 \sim 0.32m$
S K365	土坑	3	G-46	平安	円形？／ $1.18 \times 0.68 \times 0.45 \sim 0.49m$
S K366	土坑	3	E-F-45	縹倉	椭円形／ $1.25 \times 0.60 \times 0.39 \sim 0.32m$
S K367	土坑	3	E-F-44-45	縹倉	不規則／ $4.60 \times 3.05 \times 0.48 \sim 0.68m$ S D371に切られる
S E368	井戸	3	G-H-44	縹倉	椭円形円形／ $1.87 \times 1.32 \times 0.27 \sim 0.55m$ ／井側木組円形
S K369	土坑	3	H-44	平安	椭円形／ $1.40 \times 1.10 \times 0.45m$
S E370	井戸	3	F-43	奈良	椭円形円形／ $1.75 \times 0.81 \sim 0.64m$ ／井側木組方形
S D371	溝	3	C-E-42	室町	2.10×0.29~0.47m S K367-397を切る／S K396と重複
S K372	土坑	3	D-E-42	弥生後期	不規則円形／ $2.72 \times 2.31 \times 0.23 \sim 0.39m$
S K373	土坑	3	F-42	近世	椭円形／ $0.95 \times 0.95 \times 0.41 \sim 0.46m$
S B374	掘立柱建物	3	H-69~71	弥生？	1間×4間／南北棟建物 ($3.80 \times 3.50 + 3.50 + 3.50 + 3.50m$)
S B375	掘立柱建物	3	H-74~75	平安	2間×3間／南北棟建物 ($1.60 + 1.60 \times 2.10 + 1.85 + 1.80m$) ($1.90 + 1.90 + 1.65$)
S B376	掘立柱建物	3	I-L-75	平安後期	1間×4間／東西棟建物 ($4.40 \times 2.29 + 2.20 + 2.20 + 2.20m$)
S B377	掘立柱建物	3	K-T-74~76	平安後期	2間×3間／南北棟建物 ($2.10 + 2.10 \times 1.90 + 2.10 + 2.30m$) ($2.10 + 2.10 + 2.10$)
S B378	掘立柱建物	3	K-M-75	平安後期	2間×2間／掘立柱建物 ($2.40 + 1.90 \times 2.40 + 2.40m$)
S B379	掘立柱建物	3	L-M-76	平安後期	1(2)間×3間／東西棟建物 ($4.20 \times 2.30 + 2.30 + 2.30m$) ($2.10 + 2.10$)
S B380	掘立柱建物	3	J-M-78	縹倉	2間×3間／東西棟建物 ($2.15 + 2.15 \times 2.15 + 2.15 + 2.15m$)
S B381	掘立柱建物	3	K-T-77~79	平安	1間×3間／東西棟建物 ($4.20 \times 1.80 + 1.80 + 2.10m$)
S B382	掘立柱建物	3	L-78~79	平安	2間×4間／東西棟建物 ($2.30 + 2.30 \times 2.10 + 2.30 + 2.30 + 2.30m$)
S B383	掘立柱建物	3	F-G-81~84	平安後期	2間×2間 ($2.15 + 2.15 \times 2.15 + 2.15m$)
S B384	掘立柱建物	3	J-80~81	平安	1間×3間／東西棟建物 ($4.20 \times 1.80 + 1.80 + 2.10m$)
S B385	掘立柱建物	3	J-80~82	平安	2間×4間／東西棟建物 ($2.30 + 2.30 \times 2.10 + 2.30 + 2.30 + 2.30m$)
S B386	掘立柱建物	3	H-81~82	平安	2間×2間／東西棟建物 ($2.30 + 2.30 \times 2.10 + 2.30 + 2.30m$)
S B387	掘立柱建物	3	H-83~85	平安後期	1間×2間 ($4.20 \times 2.00 + 2.00m$)
S B388	掘立柱建物	3	I-84~85	平安	2間×3間／東西棟建物 ($2.10 + 2.10 \times 2.00 + 2.00 + 2.00m$)
S B389	掘立柱建物	3	M-84~85	平安末期	2間×3間／東西棟建物 ($2.10 + 2.10 \times 2.10 + 2.10 + 2.10m$) S B388に切られる
S B390	掘立柱建物	3	N-O-85~86	平安末期	2間×3間／南北棟建物 ($2.10 + 2.10 \times 2.00 + 2.00 + 2.00m$) S B388を切る／S B385-386-390と重複
S B391	掘立柱建物	3	L-86	縹倉	2間×2間 ($2.05 + 2.05 \times 2.20 + 2.20m$) S B385を切る
S B392	掘立柱建物	3	M-N-85~86	縹倉	1間×2間／南北棟建物 ($2.45 \times 2.4 + 2.4m$) (2.4) (3.1~1.7) S K354, S B387に切られる

第10表 遺構一覧表⑥

遺構番号	性格	層次	地 区	時 期	特 徴・形 状・計 測 数 値など
S B390	掘立柱建物	3	L-B65-B6	平安末期	1間×2面／東向横建物 (2.6×2.35+2.35+2.35m) S B387と重複
			M-B65-B6		
			N-B65-B6		
S B391	掘立柱建物	3	L-B66-B8	平安後期	2間×2面／南北横建物 (2.00+2.00+2.00+2.00+2.00m) S B392と重複
			N-B7		
S B392	掘立柱建物	3	L-B65-B8	平安後期	2間×2面／南北横建物 (1.75+1.75×1.90+1.90+1.90m) S B391-393と重複
			M-B67-B8		
S B393	掘立柱建物	3	L-B65-B7	平安前期	2面×2面／東西横建物 (2.00+2.00+2.10+2.10m) S B394と重複
			M-B67-B8		
S B394	掘立柱建物	3	K-L-B65-B7	平安後期	1面×2面／南北横建物 (2.40×2.50+2.10m) (2.30+2.30)
					欠番
S K395	土坑	3	F-G44	奈良	円形／1.01×0.75~0.78m S D371と重複
S K397	土坑	3	D-E43-44	平安?	人形／3.15×2.45×0.13~0.21m S D371に切られる
S K398	土坑	3	N74	弥生末期	椭円形／1.04×0.72×0.38~0.41m S D303に切られる
S Z399	橋状遺構	3	N74	弥生後期	1.23×0.63×0.40~0.44m S D42に切られる
S K401	土坑	4	K-L-15	鎌倉	椭円形／1.18×0.88×0.09~0.13m S D402
	溝	4	L15-B-18	平安	0.23~0.53×0.06~0.11m S K405に切られる
S K403	土坑	4	K15-16	平安?	円形／1.19×0.15~0.17m
S K404	土坑	4	J-K17-18	平安末期	椭円形／2.12×1.34×0.18~0.22m
S K405	土坑	4	K18	鎌倉	椭円形／2.64×0.73×0.08~0.09m S D402に切る
S D406	溝	4	I10-12	不明	0.18×0.39×0.04~0.14m
			J10-12		
S K407	土坑	4	J17-18	鎌倉	不整椭円形／2.07×1.59×0.69~0.76m
S K408	土坑	4	I16	不明	不整椭円形／2.75×1.18×0.24~0.38m
S K409	土坑	4	H16	不明	不整椭円形／1.94×1.10×0.06~0.33m
S K410	土坑	4	H-I14	弥生後期	椭円形／2.76×2.05×0.13~0.67m 弥生土器多量出土
S K411	土坑	4	I12-13	平安?	椭円形／1.27×1.11×0.19~0.21m
			I12	平安?	椭円形／1.00×0.76×0.08~0.14m
S K413	土坑	4	G16-17	鎌倉?	不整椭円形／3.42×2.72×0.30~0.59m
S K414	土坑	4	I12	平安?	椭円形／0.78×0.51×0.15~0.16m
S K415	土坑	4	F8-10	鎌倉	円形？／3.12×2.25×0.48~0.78m
S K416	土坑	4	H10-11	不明	不整椭円形／2.16×1.73×0.05~0.08m
S K417	土坑	4	G10-11	不明	椭円形？／2.41×0.66×0.08~0.17m
S K418	土坑	4	E-F12~14	鎌倉	椭円形？／1.67×3.74×0.54~0.59m
S X419	墓塚	4	H16-17	平安末期	不整椭円形／1.16×0.53×0.17~0.22m 磁器器（山茶瓶）出土
S K420	土坑	4	N67-B8	弥生後期	椭円形／2.60×1.76×0.47~0.54m 弥生土器多量出土
S K421	土坑	4	L65	弥生後期?	不整椭円形／2.71×2.51×0.54~0.71m 撫子に切られる 弥生土器多量出土
S K422	土坑	4	K68	鎌倉	椭円形？／3.75×1.35×0.85~0.89m
S K423	土坑	4	G-H66-B7	室町	円形？／6.25×1.35×0.67~0.89m
			I67		
S K424	土坑	4	I-J67	不明	不整椭円形？／2.18×2.40×0.91~1.09m
S K425	土坑	4	L-M68	不明	不整椭円形／1.75×0.75×0.22~0.23m
S K426	土坑	4	K61	弥生後期	椭円形／2.24×2.05×1.04~1.14m 弥生土器多量出土
S K427	土坑	4	K-L-59-B6	不明	椭円形？／3.38×2.40×0.91~1.09m - S D234C - S D243C - S D303C 漏溝 - S D242C
428		4			
429		4			
430		4			
431		4			
S K432	土坑	4	I62	弥生後期?	不整椭円形／2.48×0.60×0.08m
S D433	溝	4	H-I58-B9	不明	0.30~0.50×0.09~0.11m 第2次剖面Kへのびび
S K434	土坑	4	I61	弥生後期	不整椭円形／1.05×0.65×0.06~0.07m
S K435	土坑	4	J60-B1	弥生後期	不整椭円形／1.08×0.65×0.09m

第11表 遺構一覧表⑦

遺構番号	性格	調査次	地区	時期	特徴・形状・計測数値など
S K436	土坑	4	F-G56	不明	楕円形 / $1.00 \times 0.78 \times 0.29 \sim 0.30m$
S D437	溝	4	K53~55	平安?	$0.40 \sim 0.53 \times 0.06 \sim 0.12m$ S K478, S K479を切る
S K438	土坑	4	J55	平安?	円形 / $1.33 \times 0.07 \sim 0.08m$ S K439を重複
S K439	土坑	4	J55-56	不明	不整椭円形 / $4.25 \times 2.95 \times 0.14 \sim 0.32m$ S D243Cを切られる / S K438と重複
S K440	土坑	4	H-I52~54	平安後期	不整方形 / $5.35 \times 5.03 \times 0.07 \sim 0.19m$ S K449-461-481を切る
S D441	溝	4	H49 I49-50 J50-51 K51-52	平安末期	$0.65 \sim 1.20 \times 0.08 \sim 0.27m$ S D442を切る
S D442	溝	4	I-J50-51 K51-52	平安?	$0.15 \sim 0.85 \times 0.06 \sim 0.10m$ S D441, S K444, S K452に切られる
S K443	土坑	4	J51-52	平安?	楕円形 / $1.25 \times 0.98 \times 0.11 \sim 0.12m$
S K444	土坑	4	G52 H51-52	平安?	不整方形 / $3.43 \times 3.13 \times 0.06 \sim 0.18m$ S K449を切る
S K445	土坑	4	K51	奈良	不整椭円形 / $1.78 \times 0.90 \times 0.08 \sim 0.10m$
S K446	土坑	4	K50	奈良	不整椭円形 / $2.01 \times 1.57 \times 0.66 \sim 0.76m$
S K447	土坑	4	J52	平安?	楕円形 / $1.38 \times 1.13 \times 0.21 \sim 0.24m$
S K448	土坑	4	J-K52	平安?	不整形 / $2.00 \times 1.50 \times 0.05 \sim 0.05m$ S D442, S K452を切る
S K449	土坑	4	H-I52	平安?	不整形? / $2.73 \times 1.73 \times 0.07m$ S K440-444に切られる
S K450	土坑	4	J-K49-50	平安末期	不整方形 / $3.28 \times 1.50 \times 0.25 \sim 0.29m$
S E451	井戸	4	J47-48	平安前期	楕円形 / $1.86 \times 0.39 \sim 0.50m$ / 焦黒り
S K452	土坑	4	J51-52	平安?	楕円形? / $2.51 \times 0.40 \times 0.14m$ S D442を切られる
S K453	土坑	4	J52	平安?	楕円形? / $1.40 \times 0.40 \times 0.05m$ S K448に切られる
S K454	土坑	4	E48-49	平安後期	不整椭円形 / $1.90 \times 1.15 \times 0.40 \sim 0.42m$
S K455	土坑	4	H51	平安?	不整円形 / $1.30 \times 0.93 \times 0.26m$
S K456	土坑	4	D-E48	平安後期	楕円形 / $3.25 \times 1.43 \times 0.12 \sim 0.19m$
S D457	溝	4	H49	平安?	$0.50 \sim 0.53 \times 0.14 \sim 0.31m$
S K458	土坑	4	E45	不明	楕円形 / $1.05 \times 0.68 \times 0.20m$
S D459	溝	4	G48 H48-49	平安末期	$0.28 \sim 0.83 \times 0.17 \sim 0.34m$
S D460	溝	4	F47 G47-48	鍾乳	$0.50 \sim 0.88 \times 0.29 \sim 0.34m$
S K461	土坑	4	H52-53	不明	楕円形? / $1.23 \times 1.10 \times 0.07 \sim 0.12m$ S K440を切られる
S K462	土坑	4	E46-47 F46	不明	不整方形? / $2.33 \times 1.85 \times 0.51 \sim 0.54m$ S D465-466を切る
S K463	土坑	4	E47	平安後期	楕円形 / $0.88 \times 0.68 \times 0.18 \sim 0.50m$
S D464	溝	4	F46-47	不明	$0.30 \sim 0.45 \times 0.11 \sim 0.12m$
S D465	溝	4	D-E46	不明	$0.18 \sim 0.40 \times 0.05 \sim 0.07m$ S D462-466に切られる
S D466	溝	4	D-E46	平安後期	$0.23 \sim 0.85 \times 0.17 \sim 0.31m$ S K462-469-470に切られる
S D467	溝	4	F46-47 G48~48 F47-48	窓町	$0.58 \sim 1.25 \times 0.12 \sim 0.34m$ S K471を切る
S K468	土坑	4	H48	平安?	楕円形 / $1.03 \times 0.50 \times 0.18m$
S K469	土坑	4	E46	平安?	楕円形 / $0.83 \times 0.73 \times 0.31 \sim 0.32m$ S D466を切る
S K470	土坑	4	E46	鍾乳	不整椭円形 / $1.18 \times 0.43 \times 0.18 \sim 0.20m$ S D466を切る
S K471	土坑	4	G46-47	平安末期	円形 / $2.55 \times 1.68 \times 0.22 \sim 0.25m$ S D472を切る / S D467に切られる
S D472	溝	4	G-H47	平安	$0.95 \sim 1.20 \times 0.38 \sim 0.49m$ S K471に切られる
S K473	土坑	4	H-I50	鍾乳	不整方形 / $0.88 \times 0.83 \times 0.44 \sim 0.51m$
S K474	土坑	4	H-I48-49	鍾乳	楕円形 / $1.45 \times 0.58 \times 0.08m$
S K475	土坑	4	I48	不明	楕円形 / $1.28 \times 0.88 \times 0.11m$
S K476	土坑	4	I52	不明	円形 / $0.80 \times 0.11m$
S K477	土坑	4	J52-53	不明	楕円形 / $2.00 \times 1.00 \times 0.12m$
S K478	土坑	4	K53-54	不明	不整椭円形 / $3.35 \times 1.60 \times 0.05 \sim 0.07m$ S D437に切られる
S K479	土坑	4	K54-55	不明	楕円形? / $4.78 \times 2.03 \times 0.05 \sim 0.07m$ S D437に切られる

第12表 遺構一覧表(8)

遺構番号	性 格	調査次	地 区	時 期	特 徴・形 状・計 測 数 値など
S K 480	土坑	4	I 52-53	不明	楕円形／ $0.65 \times 0.60 \times 0.07 \sim 0.08m$
S K 481	土坑	4	I 53	不明	円形？／ $1.15 \times 0.68 \times 0.08m$ S K 440に切られ
S K 482 483	土坑	4	E 66	弥生後期	円形／ $1.00 \times 0.90 \times 0.32 \sim 0.35m$ → S D 235へ
S K 484	土坑	4	C-D 48	縄文	円形？／ $2.33 \times 0.27 \sim 0.38m$
S K 485	土坑	4	C 47	縄文	楕円形／ $0.85 \times 0.43 \times 0.23m$
S K 486	土坑	4	C-D 45-46	不明	楕円形？／ $2.39 \times 1.18 \times 0.51 \sim 0.75m$ S D 465を切る（位置か？）
S B 487	掘立柱建物	4	L 12	弥生？	1間×2間／東西柱建物 ($1.80 \times 1.30 + 1.60m$) ($1.40 + 1.40$)
S B 488	掘立柱建物	4	H 13 I 11～13 J 11-12	平安前期	2間×3間／南北柱建物 ($2.00 + 2.00 \times 2.25 + 2.25 + 2.25m$) 柱穴より 土師器長颈甌 出土
S B 489	掘立柱建物	4	H-I 11-12	奈良	2間×2間 ($2.25 + 2.25 \times 2.40 + 2.10m$) ($2.00 + 2.50$) ($2.25 + 2.25$)
S B 490	掘立柱建物	4	I-J 14-15	平安末期	2間×2間 ($1.90 + 1.90 \times 1.85 + 2.00m$) ($2.00 + 1.80$) ($1.95 + 1.95$) 柱穴ヶ所から 藤神陶器 上部器皿 山田 が同時に出土
S B 491	掘立柱建物	4	I-J 16-17	縄文	2間×2間／南北柱建物 ($1.90 + 2.10 \times 2.00 + 2.00m$) ($1.80 + 2.00$)
S B 492	掘立柱建物	4	H-I 13-14	奈良	2間×3間／東西柱建物 ($2.10 + 2.10 \times 2.00 + 2.00 + 2.00m$)

第13表 遺構一覧表⑨

<遺構一覧表凡例>

遺構番号：本文、図版、遺構番号対照表の番号に対応する。

性格：土坑、井戸、溝などの遺構の性格を記入している。

調査次：第1次調査は1、第2次調査は2というように数字を記入している。

地区：遺構が位置する地区を記入している。

時期：時期区分の考え方や遺構の時期は本文と対応している。

特徴・形狀・計測数値など：特徴や形狀は、遺物の出土状況や遺構の形狀などを、計測数値は、土坑・

井戸ならば（長軸×短軸×深さ、径×深さ）、溝ならば（幅×深さ）、掘立柱建物ならば（梁行×桁行／○+○×○+○+○+○m）というように表記している。

第 1 次 調査

造構番号	概 報	調査時	備 考
S K 1	1	S K 1	
S K 2	2	S K 2	
S K 3	3	S K 3	
S D 4	4	S D 4	
S S K K 5	5	S S K K 5	
S S K K 6	6	S S K K 6	
S S K K 7	7	S S K K 7	
S S K K 8	8	S S K K 8	
S S K K 9	9	S S K K 9	
S S K K 10	10	S S K K 10	
S D 11	11	S D 11	
S S K K 12	12	S S K K 12	
S S K K 13	13	S S K K 13	
S S K K 14	14	S S K K 14	
S S K K 15	15	S S K K 15	
S S D 16	16	S S D 16	
S B D 17	17	S B D 17	
S B D 18	18	S B D 18	
S B D 19	19	S B D 19	
S D 20	20	S D 20	
S S K K 21	21	S S K K 21	
S S K K 22	22	S S K K 22	
S S K K 23	23	S S K K 23	
S S K K 24	24	S S K K 24	
S S K K 25	25	S S K K 25	
S S K K 26	26	S S K K 26	
S S K K 27	27	S S K K 27	
S S K K 28	28	S S K K 28	
S S K K 29	29	S S K K 29	
S S K K 30	30	S S K K 30	
S S K K 31	31	S S K K 31	
S S K K 32	32	S S K K 32	
S S K K 33	33	S S K K 33	
S S K K 34	34	S S K K 34	
S S B S 35	35	S S B S 35	
S B S D 36	36	S B S D 36	
S S K D 37	37	S S K D 37	
S S K D 38	38	S S K D 38	
S S K D 39	39	S S K D 39	
S S K D 40	40	S S K D 40	
S S K K 41	41	S S K K 41	
S S K K 42	42	S S K K 42	
S S K K 43	43	S S K K 43	
S S K K 44	44	S S K K 44	
S S K K 45	45	S S K K 45	
S S E S 46	46	S S E S 46	
S S K K 47	47	S S K K 47	
S S K K 48	48	S S K K 48	
S S K K 49	49	S S K K 49	
S S D K 50	50	S S D K 50	
S S S K K 51	51	S S S K K 51	
S S S K K 52	52	S S S K K 52	
S S E S 53	53	S S E S 53	
S S E S 54	54	S S E S 54	
S S E S 55	55	S S E S 55	
S S E S 56	56	S S E S 56	
S S K K 57	57	S S K K 57	
S S K K 58	58	S S K K 58	
S S K K 59	59	S S K K 59	
S S K K 60	60	S S K K 60	
S S K K 61	61	S S K K 61	
S S B B 62	62	S S B B 62	
S S I L 63	63	S S I L 63	
S S I L 64	64	S S I L 64	
S S B B 65	65	S S B B 65	
S S I L 66	66	S S I L 66	
S D 67	67	S D 67	

第 2 次 調査

造構番号	概 報	調査時	備 考
S D 20 1	1	S D 1	
S K 20 2	2	S K 2	
S K 20 3	3	S K 3	
S D 20 4	4	S D 4	
S D 20 5	5	S D 5	
S S E 20 6	6	S S E 6	
S S E 20 7	7	S S E 7	
S S E 20 8	8	S S E 8	
S S E 20 9	9	S S E 9	
S S R 21 0	10	S S R 10	
S K 21 1	11	S K 21 1	

第14表 造構番号対照表①

欠番	
	S K 22 0 i
	S K 22 0 i
	S D 3 0 3 i
	S D 3 0 3 i
欠番	
	S B 6 6 4
欠番	
	S K 10 1

第 3 次 調査

造構番号	概 報	調査時	備 考
S D 3 0 1	1	S D 1	
S K 3 0 2	2	S K 2	
S D 3 0 3	3	S D 3	
S D 3 0 4	4	S D 4	
S D 3 0 5	5	S D 5	
S D 3 0 6	6	S D 6	
S D 3 0 7	7	S D 7	
S D 3 0 8	8	S D 8	
S K 3 0 9	9	S K 9	
S K 3 1 0	10	S K 10	
S K 3 1 1	11	S K 11	
S K 3 1 2	12	S K 12	
S K 3 1 3	13	S K 13	
S K 3 1 4	14	S K 14	
S K 3 1 5	15	S K 15	
S K 3 1 6	16	S K 16	
S K 3 1 7	17	S K 17	
S X 3 1 8	18	S X 18	
S X 3 1 9	19	S X 19	
S S 3 2 0	20	S S 20	
S S 3 2 1	21	S S 21	
S S 3 2 2	22	S S 22	
S S 3 2 3	23	S S 23	
S S 3 2 4	24	S S 24	
S S 3 2 5	25	S S 25	
S S 3 2 6	26	S S 26	
S S 3 2 7	27	S S 27	
S X 3 2 8	28	S X 28	

第4次調査			
遺構番号	概報	調査時	備考
SK401		1 2 3 4 5 6 7 8 9	SK DK KK KK KK KK KK KK KK
SD402			
SKK403			
SKK404			
SKK405			
SK406			
SK407			
SK408			
SK409			
S D 3 3 4 0			
S S K 3 3 4 5			
S S K 3 3 5 6			
S S E 3 3 5 7			
S 3 3 5 8			
S K K 3 3 4 2			
S K D 3 4 4 3			
S S E 3 4 4 5			
S S K 3 4 4 6			
S K K 3 4 4 7			
S S K 3 4 4 8			
S S K 3 4 4 9			
S K 3 4 5 0			
S S K 3 4 5 1			
S S K 3 4 5 2			
S S K 3 4 5 3			
S S K 3 4 5 4			
S S K 3 4 5 5			
S S E 3 4 5 6			
S K K 3 4 5 7			
S S K 3 4 5 8			
S S K 3 4 5 9			
S K 3 4 6 0			
S S E 3 6 1			
S S E 3 6 2			
S S K 3 6 3			
S S K 3 6 4			
S S K 3 6 5			
S S K 3 6 6			
S S E 3 6 7			
S S K 3 6 8			
S S K 3 6 9			
S S K 3 6 0			
S D 3 7 1			
S S K 3 7 2			
S S K 3 7 3			
S S B 3 7 4			
S S B 3 7 5			
S S B 3 7 6			
S S B 3 7 7			
S S B 3 7 8			
S S B 3 7 9			
S S B 3 8 0			
S S B 3 8 1			
S S B 3 8 2			
S S B 3 8 3			
S S B 3 8 4			
S S B 3 8 5			
S S B 3 8 6			
S S B 3 8 7			
S S B 3 8 8			
S S B 3 8 9			
S S B 3 9 0			
S S B 3 9 1			
S S B 3 9 2			
S S B 3 9 3			
S S B 3 9 4			
S S B 3 9 5			
S K 3 9 6			
S K 3 9 7			
S K 3 9 8			
S Z 3 9 9	土壙		
欠番			
S D 3 0 3			
欠番			
S D 4			
S D 5			
S D 6			
S D 7			
S D 8			
S D 9			
S D 10			
S D 11			
S D 12			
S D 13			
S D 14			
S D 15			
S D 16			
S D 17			
S D 18			
S D 19			
S D 20			
S D 21			
S D 22			
S D 23			
S D 24			
S D 25			
S D 26			
S D 27			
S D 28			
S D 29			
S D 30			
S D 31			
S D 32			
S D 33			
S D 34			
S D 35			

第15表 遺構番号対照表(2)

N 遺物

遺物の調整・技法・法量などの詳細な観察については、観察表に譲ることとし、本稿では概要を述べることとする。時期区分については、弥生時代は弥生時代後期・末期、古墳時代、奈良時代は奈良時代、平安時代は前・中・後・末期とし、それぞれ「奈宮跡の土器」の初期・前Ⅰ・Ⅱ期、中期・後Ⅰ・Ⅱ期、末期に相当する。鎌倉時代は鎌倉時代、室町時代は室町時代と記述するものとする。中世土器類については前川嘉宏氏や伊藤裕作氏の編年によっている。山茶碗の編年については藤澤良祐氏の編年に依っている。⁹ 第〇型式というように記述するものとする。なお第4型式については平安時代末期、第5型式からは鎌倉時代とした。須恵器、黒色土器などについても先行の研究を参考している。木製品の名稱などは、「木器集成図録—近畿古代編一」に依っている。また、弥生土器および墓中の型式分類については、目で評述するものとし、分類番号は遺物観察表を参照されたい。

弥生時代

S B257出土遺物（第60図）

1は口縁端部に、ボタン状浮文がみられる壺。中期末から後期のものか。2は壺底部と考えられる。弥生時代後期前半に属するものといえよう。

S K 1出土遺物（第60図）

3は壺底部、4は壺口縁部で受け口状口縁部の外側には刺突文が施されている。5は有段高杯の杯部である。口縁端部には波状文が施されている。6は器台。上器外面は全面ミガキ、透孔は2段施されている。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K 15出土遺物（第61図）

7～18は壺。7～12は広口壺である。7は口縁端部及び口頭部内面に刺突文がみられる。8は口縁端部に刺みが施されている。9は口縁端部及び口頭部内面に刺突文がみられる大型品。13・14は直口壺である。15～18は底部片である。19～24は壺である。

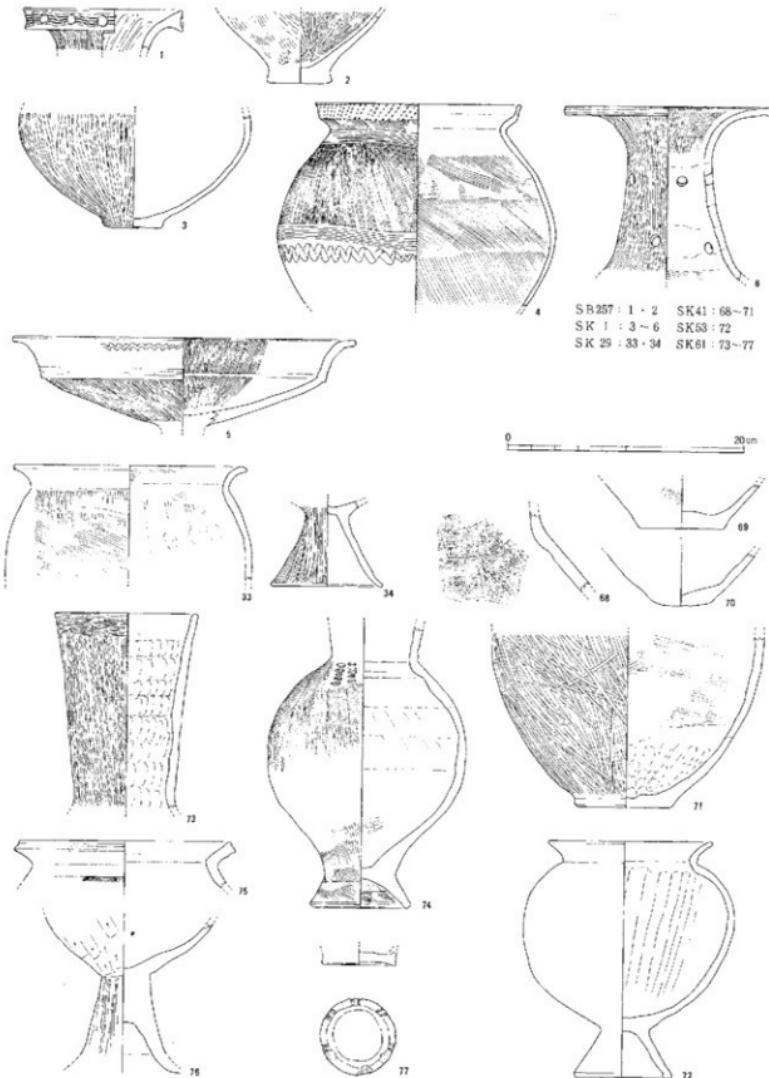
19～21は口縁部片で、22は壺底部片、23・24は台付壺の脚部である。25～27は高杯。25は杯部に段があるもの、26はワイングラス形のもの、27は脚部である。28は小型壺で口縁部から体部上半まで残る。29は口縁部に段のある鉢である。30はミニチュア土器である。鉢を意識しているものか。31は板状木製品で用途は不明。32は斧台の後面が平坦でなく徐々にすばまっている斧頭柄である。横斧。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、モモの種実遺体も確認している。¹⁰

S K 29出土遺物（第60図）

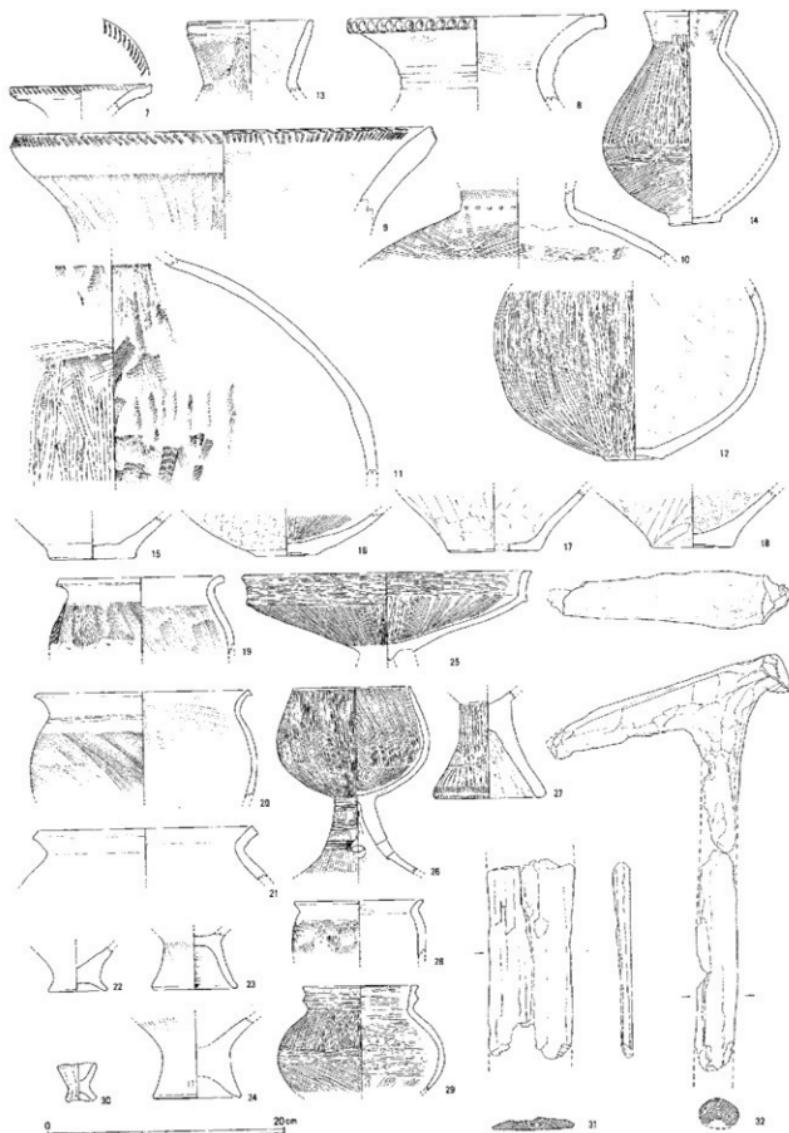
33は壺。体部七半まで残存する。34は台付壺の脚部である。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K 31出土遺物（第62～64図）

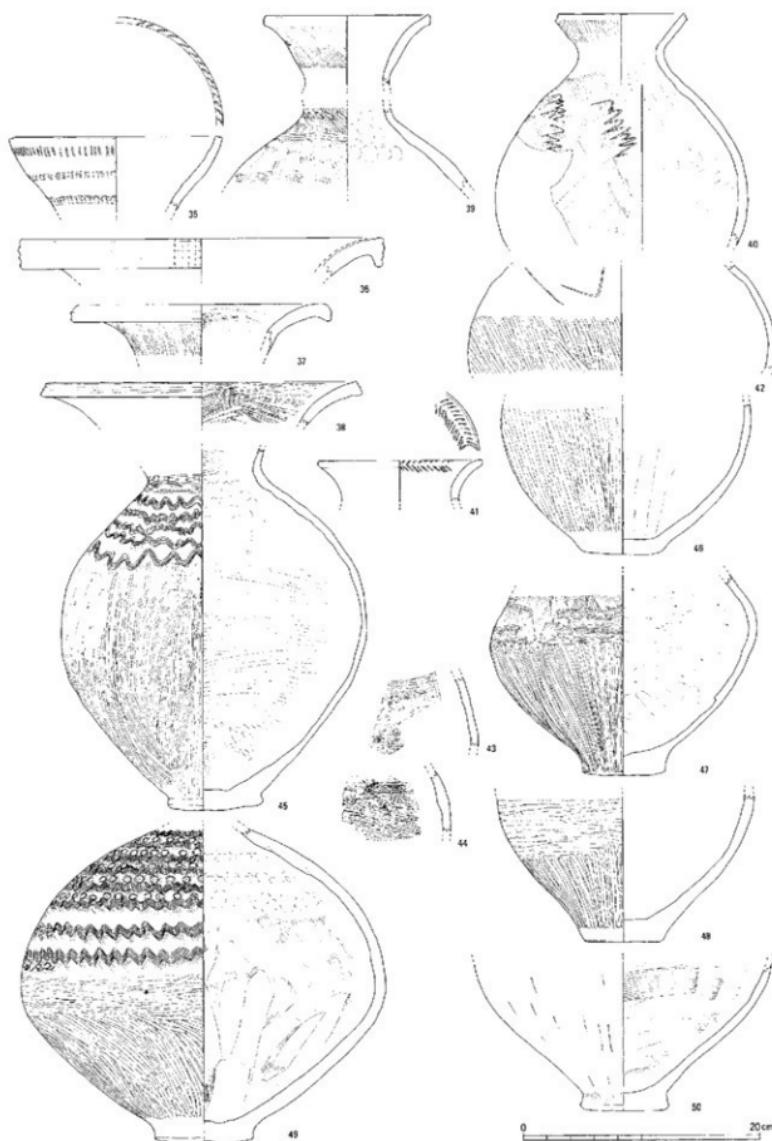
35～53は壺である。35は口頭部が少し内窪し、端部には刺突文がみられる。36～41は口頭部片である。38は口頭部内面に点状の赤彩が施される。40は肩部には縦に波状の縦刻が施される。42～44は体部片である。42は肩部の一部に線刻、43は擦状の文様、44は波状文が施されている。45～50は体部から底部にかけて残存しているものである。45は外表面に波状文、49は外表面肩部から体部上半に波状文で文様間に竹管による刺突が見られる。52は口頭部に3ヶ所の穿孔がみられる。53は外表面全体ミガキの長頸壺である。54・55は壺、56は台付壺、凹底に近い底部である。57～59は高杯脚部である。60は銅鐸形土製品である。県下において6例目である。流水平文や袈裟模様、鉢や型もたせ孔など銅鐸そのものように模倣されている。61は敲石、62は加工痕がみられるが器種は不明である。63～67は木製品である。63は斧頭柄。一本で作ったのではなく組み合わせの座柄か。横斧と考えられる。64は斧頭柄。横斧と考えられる。65は泥除け、66・67は加工痕はあるが用途は不明である。何らかの木製品という可能性もある。弥生時代後期前半のものと考えられる。これらに混じり、モモの種実遺体やコガネムシ類の羽の昆虫化



第60図 SB257, SK1・29・41・53・61出土遺物実測図 (1 : 4)



第61図 SK15出土遺物実測図 (1 : 4)



第62図 SK31出土遺物実測図① (1:4)

石も出土した。

S K41出土遺物（第60図）

68は壺肩部で外面には縦状文が施される。69～71は壺の底部である。これらは弥生時代後期前半のものであろう。

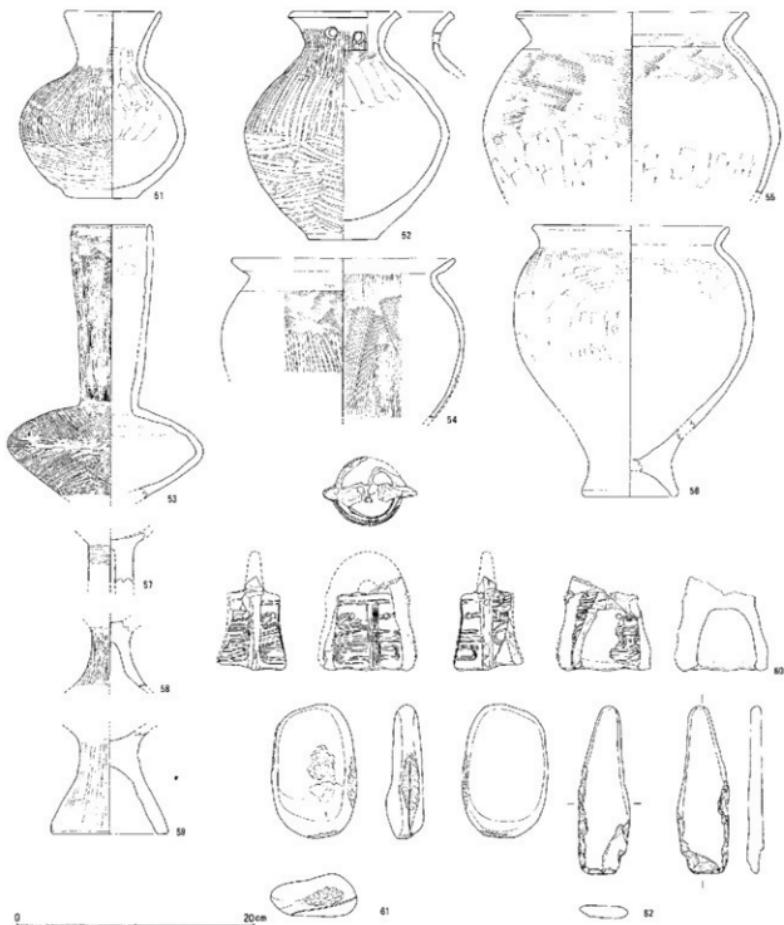
S K53出土遺物（第60図）

72は口縁部外反し、体部球形に近い台付壺である。

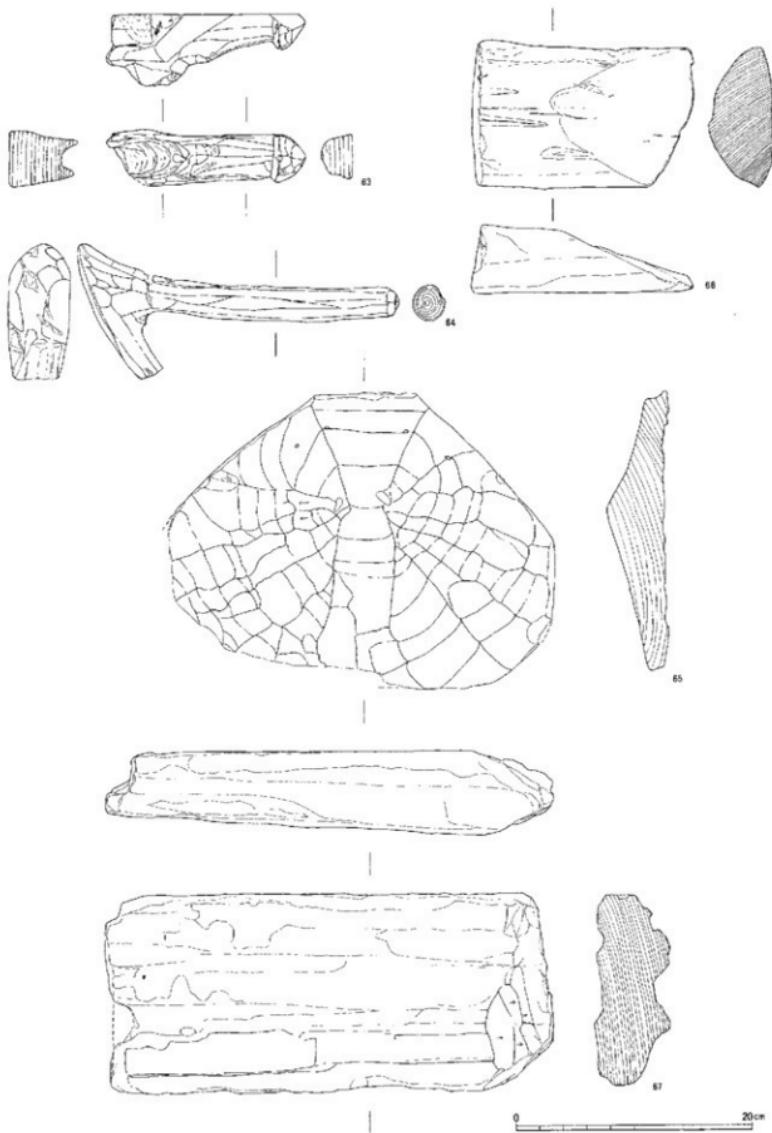
調整は廃滅などで判然としない。弥生時代後期前半のものと考えられる。

S K61出土遺物（第60図）

73は長頸壺の口頭部片、74は肩部に縦5ヶ所2列の刺突状の列点が施されている台付壺である。75は口縁端部に沈線を施す甕口縁部片。76は高杯の脚部で杯底部が一部残存する。77は底部片であるが2個



第63図 SK31出土遺物実測図② (1 : 4)



第64図 SK31出土遺物実測図③ (1 : 4)

1組の刺みが6ヶ所に施されている。これらは弥生時代後期前半のものと思われる。

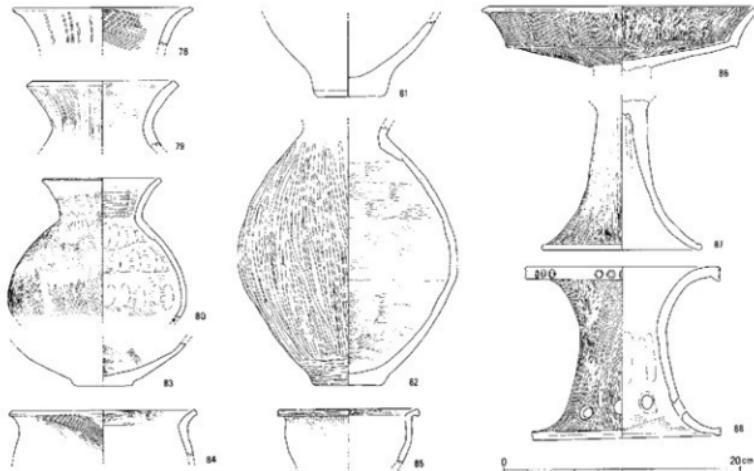
S K 302出土遺物（第65図）

78～83は壺である。78・79は口頭部片、80は口頭部から体部下半まで残存する。82は肩部から底部にかけて残存する体部があり張り出さないものである。81・83は底部片である。84は甕口縁部片、85は口縁部が大きく外反する鉢口縁部片である。86は有段高杯の杯部、87は高杯脚部である。88は口縁端部に3個1組の竹管が7ヶ所、裾部近くで2個1組の三方透孔が施された器台である。弥生時代後期前半のものであろう。

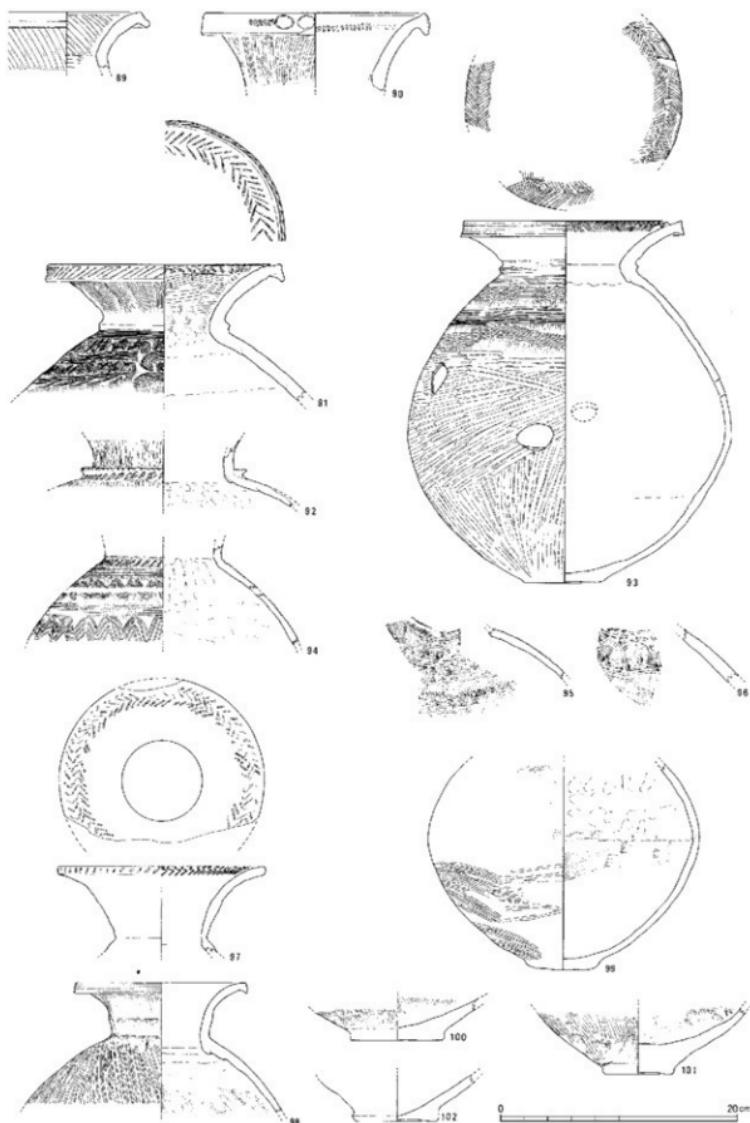
S K 305出土遺物（第66～70図）

89～117は壺である。90は口縁端部に2個一对のボタン状浮文と刺突文が施される。いわゆるパレススタイルの壺。91は口頭部下部には隆帯が施されているパレススタイルの壺。92は口頭部下部に刻目隆帯がみられる。93は口頭部下部には隆帯、口頭部内面には2個1組の浮文が3ヶ所、また体部には4ヶ所の穿孔が施されているパレススタイルの壺。94～96は波状文と横線文の組み合わせがみられる体部片である。97は口頭部内面に絞形状の刺突文が巡る。98は口頭部から肩部まで残存する。99～102は底部

片である。103～106は口頭部が直線的に外反し、体部があまり張り出さないもの。104・105は肩部上部に刺突文が巡る。106は口頭部下部に刻目隆帯が巡り、肩部に2条の曲線が線刻されている。107は頭部に刺突文が巡り、体部下半が膨らむ。108は口縁部が外反し体部が張り出す。体部に大きな穿孔がみられる。109は肩部から底部まで残存する小型品である。110は口縁部に2個一对の穿孔が2ヶ所施された無頸壺である。111は底部片。112・113は底部片。114～117は小型壺である。116は体部下半に1ヶ所穿孔がみられ、117は体部下半が膨らむ器形である。118～136は甕である。118・119は口頭部が短く外反し口縁端部が内外面に肥厚する。120～125は外反する口縁部から肩部まで残存する。126・127は外反する口頭部から体部下半まで残存するもの。128は口頭部がゆるやかに外反し体部があまり張り出さないものである。129～131は受口状口縁で口径よりも体部径が大きくなるもの。近江系甕の影響を受けたものと考えられる。132は口縁端部に刺みが施されている。133は小型甕、134～136は底部片。137～141は台付甕である。137・138は肩部から体部上半が張る。139～141は台部片である。142～161は高杯である。142・143は、



第65図 SK302出土遺物実測図（1：4）



第66图 SK305出土遗物实测图① (1 : 4)

口縁部が大きく外反し杯底部が直線的な有段高杯の杯部。144～150はフイングラス形である。151～152は杯部が皿状のものである。153～161は脚部片である。162は器台基部である。163は口縁部から底部にかけて直線的に外反する鉢。164は口縁部が外反する鉢である。165・166は木製品。165は尖った部分がみられる。杭と考えられる。166は脚付槽である。本采は4ヶ所の脚があったものと考え

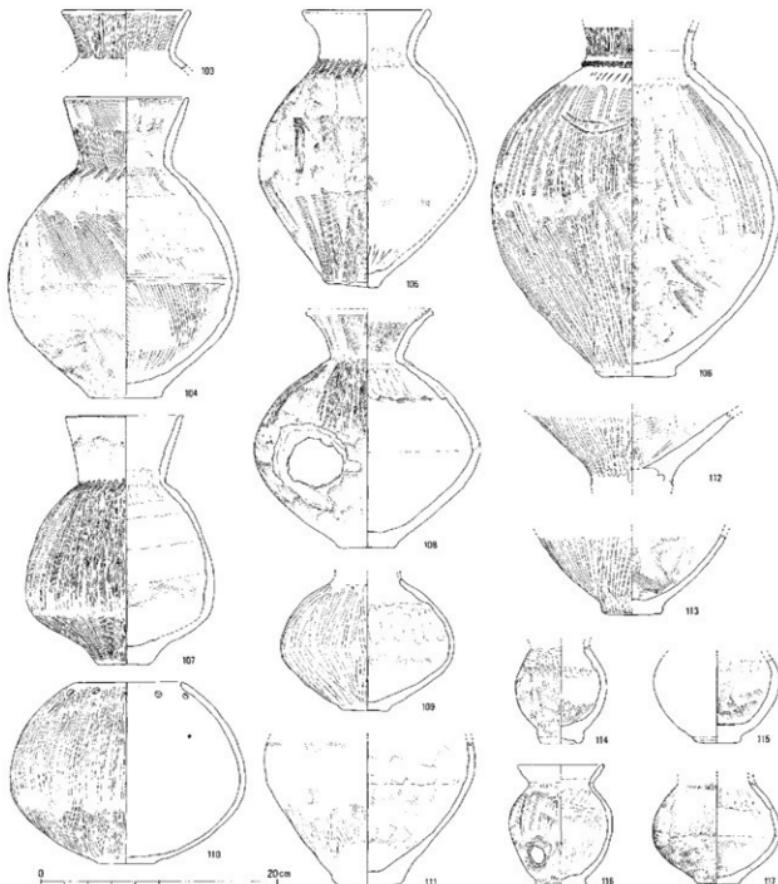
られる。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 310出土遺物（第71図）

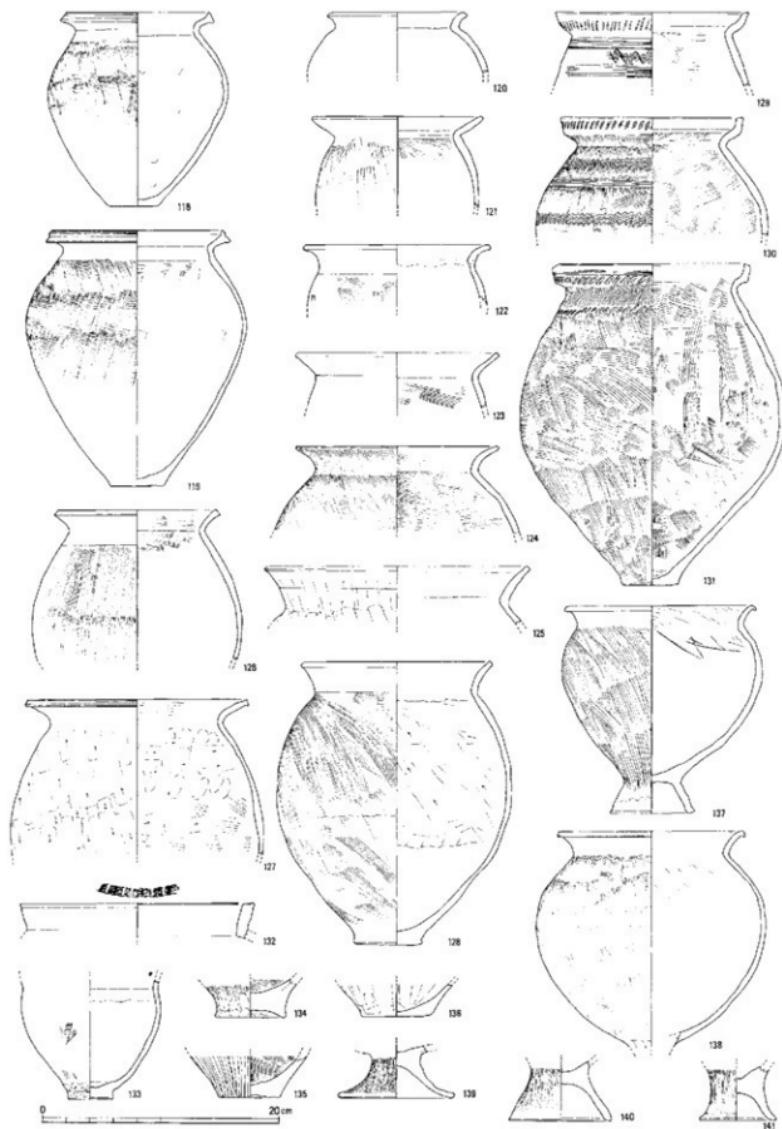
167・168は蓋口頭部片である。169は台付壺脚部、170・171は高杯脚部である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 317出土遺物（第71図）

172は壺底部片、173は石鐵。石材はサスカイト



第67図 SK305出土遺物実測図② (1 : 4)



第68図 SK305出土遺物実測図③ (1 : 4)

である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

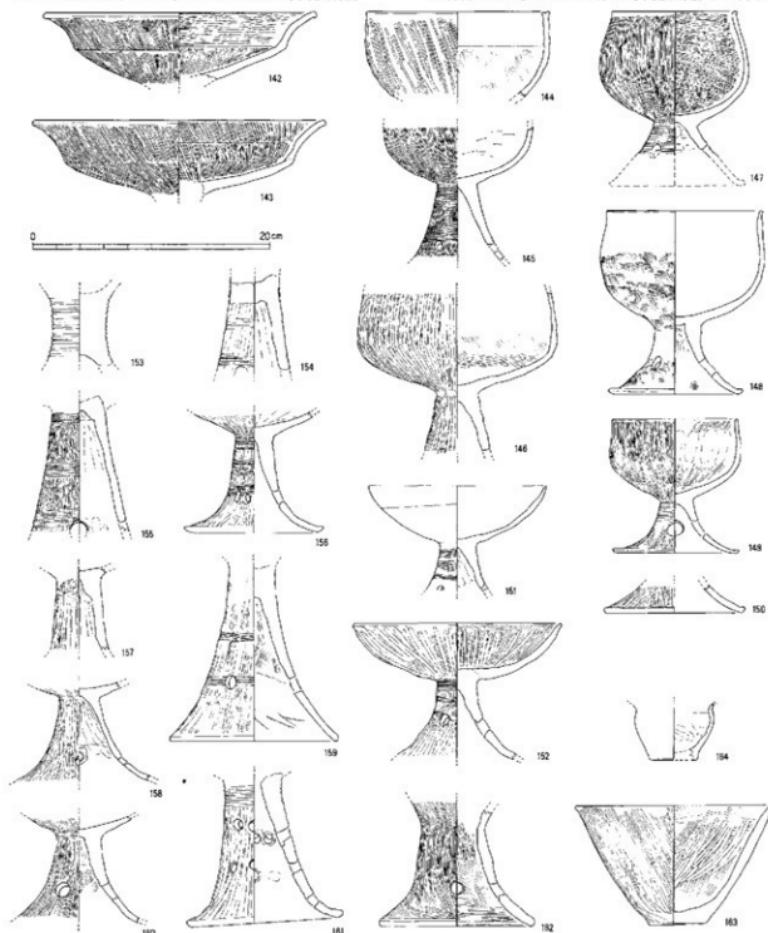
S K 330出土遺物（第71図）

174 は波状文の施された壺頭部片。175 は小型の口縁部が直線的に立ち上がる壺。176 は口頭部から体部まで残る壺である。177 は台付壺の脚部。178・179 は高杯脚部である。これらは弥生時代後期前

半に属するものと考えられる。

S K 343出土遺物（第71図）

180・181 は口縁部がやや受け口状で、頭部が細長く外面に横線文、体部上半には波状文が施された壺である。182 は口頭部に 2 条の波状文が施された壺である。183 は壺口縁部片。184・185 は台付壺の脚部である。これらは弥生時代後期前半に属する



第69図 SK 305出土遺物実測図④（1：4）

ものと考えられる。

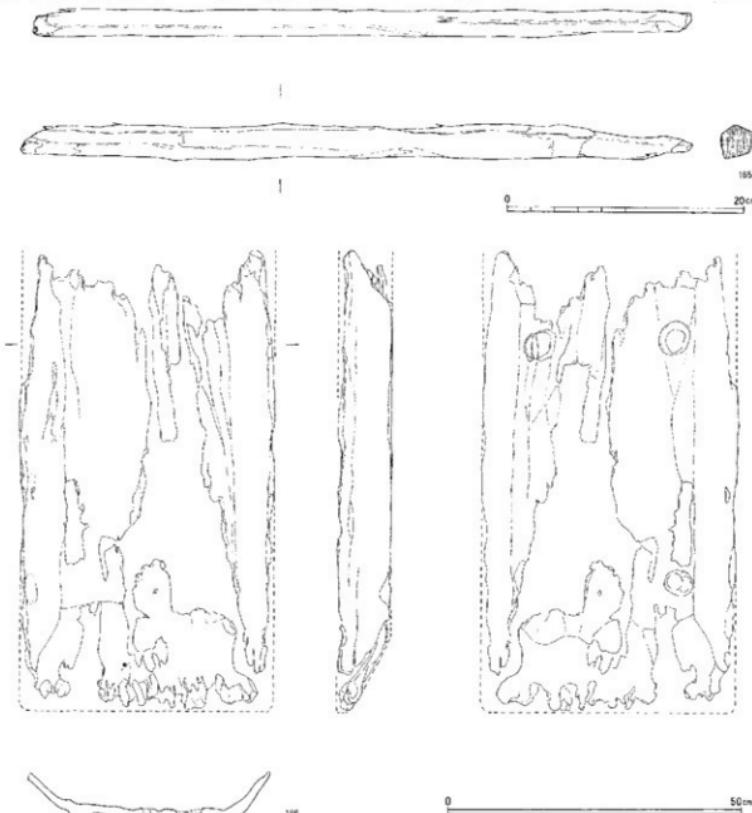
S K 361出土遺物（第71図）

186は壺の底部片である。187は口縁部が外反する壺。188は高杯の脚部である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 326出土遺物（第72～76図）

189～220は壺である。189は口頭部が大きく広がる。190は口頭部下部に隆起、以下に横線文と波状文が施されている。191～198は口頭部が189ほど広がらず、体部上半が少し張り出すもの。193は肩部に波状文と横線文が、196は体部に穿孔が施さ

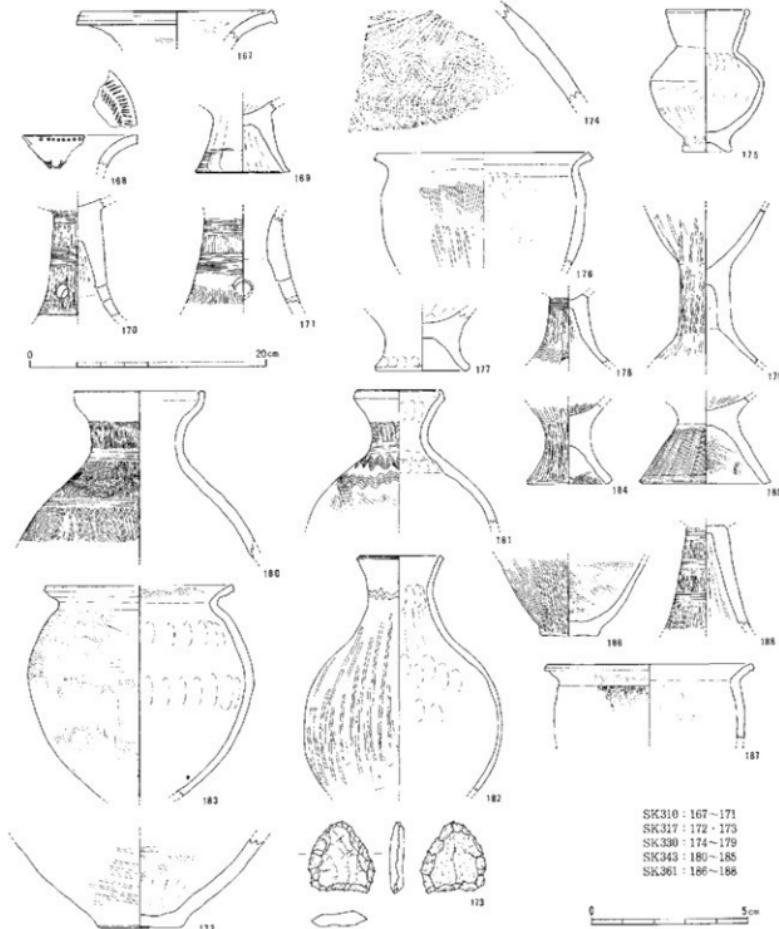
れている。199～201は体部片。201は3条の縦割がみられる。202・203は底部片。204～209は口縁部が上方に向かい直線的に延びる。210は口頭部がほぼ90度に外反し口縁端部が上下に肥厚し、肩部から体部上半にかけて波状文と横線文が施されている。体部下半が少しもぶくれになる。211～213は体部が張り出す小型のものである。214は体部が球形のもの。215は口頭部が強く外反し、体部下半が少しもぶくれ状になる台付壺である。216～219は小型のもので、216は体部上半が張るもの、217・218は体部の張りがあまりないもの、219は体部下



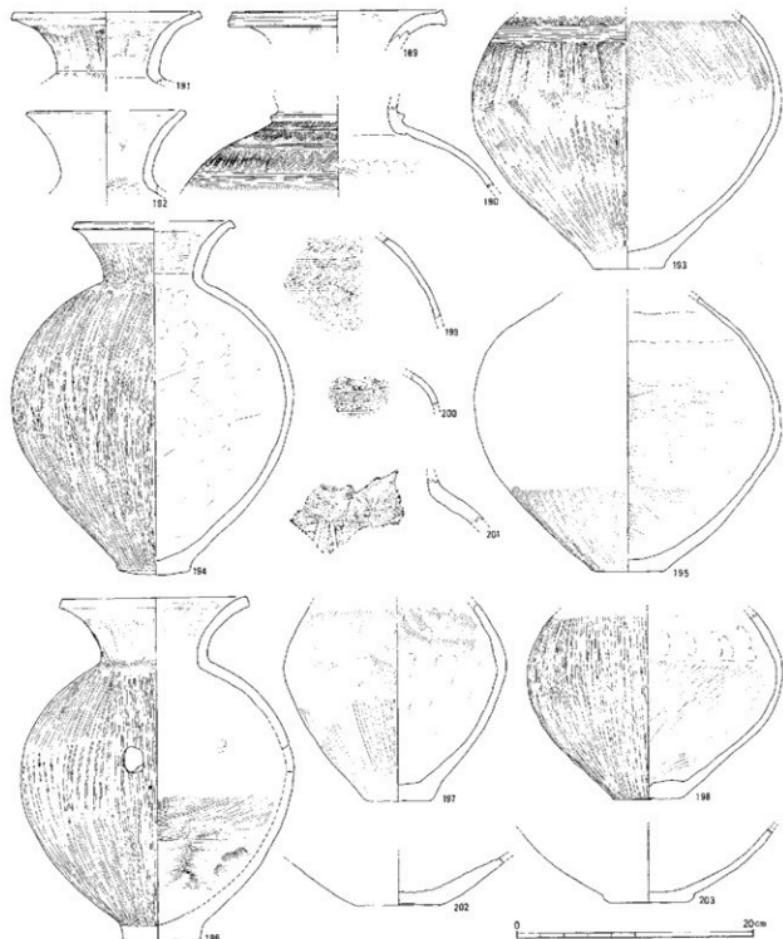
第70図 SK305出土遺物実測図(5) (1:4, 166は1:8)

半がしもぶくれ状になるものである。220 は口縁部に 2 個の穿孔が 2 ヶ所施されている無頭壺である。221～245 は甕である。221～232 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り底部に向かってほぼ直線的である。233 は口縁部は大きく外反し、体部はそれほど張り出さない。底部に穿孔がみられる。234～236 は口縁部が大きく外反し、体部が球形になる。

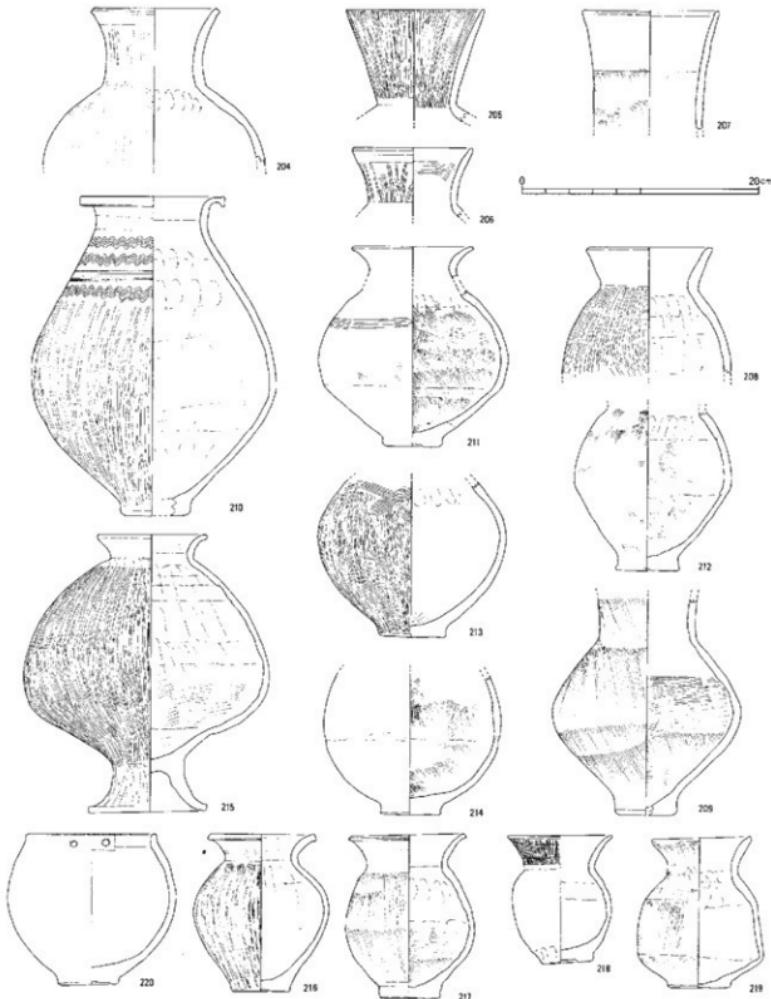
234 は口縁端部に刺みが施されている。237～239 は受け口状口縁で体部がそれほど張り出さないものである。237・238 ともに口縁部に刺突窓、体部上半に横模文が施されている。239 は受け口部分の屈曲が緩い。240～244 は台付甕である。240・241 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り出すもの、242 は体部が大きく張り出し球形に近いもの。243



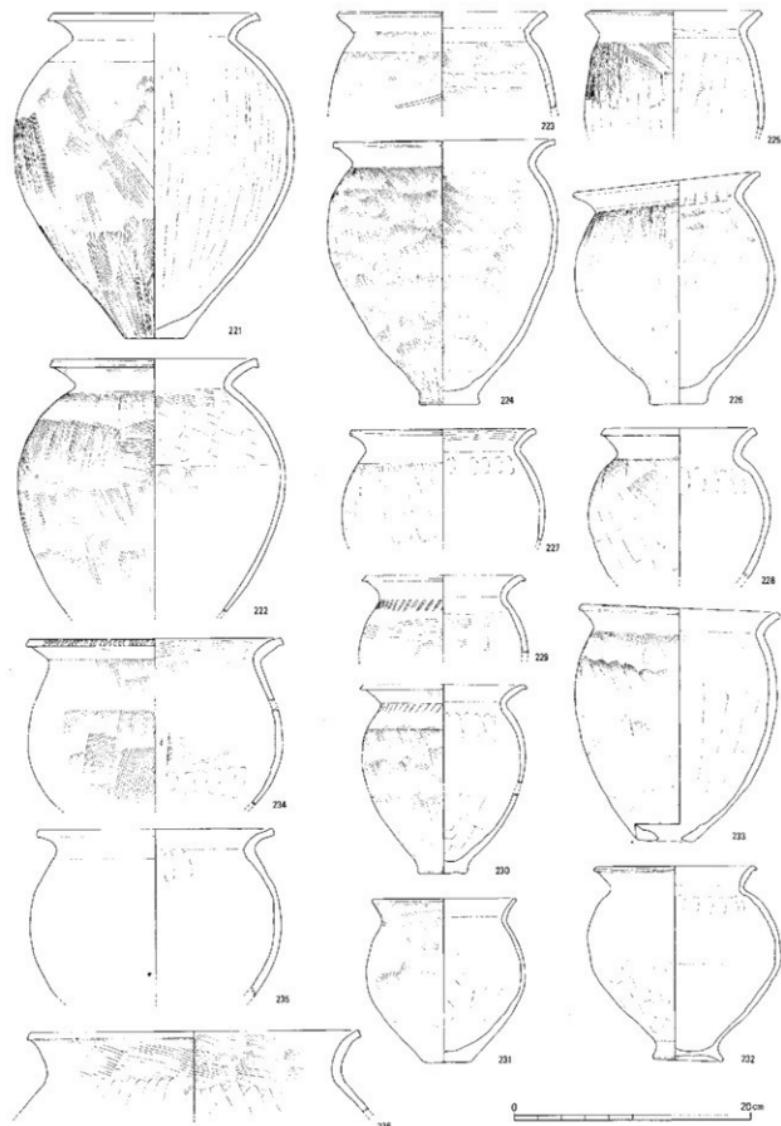
第71図 SK310・317・330・343・361出土遺物実測図（1：4, 173は2：3）



第72図 SK326出土遺物実測図① (1 : 4)



第73図 SK326出土遺物実測図② (1:4)



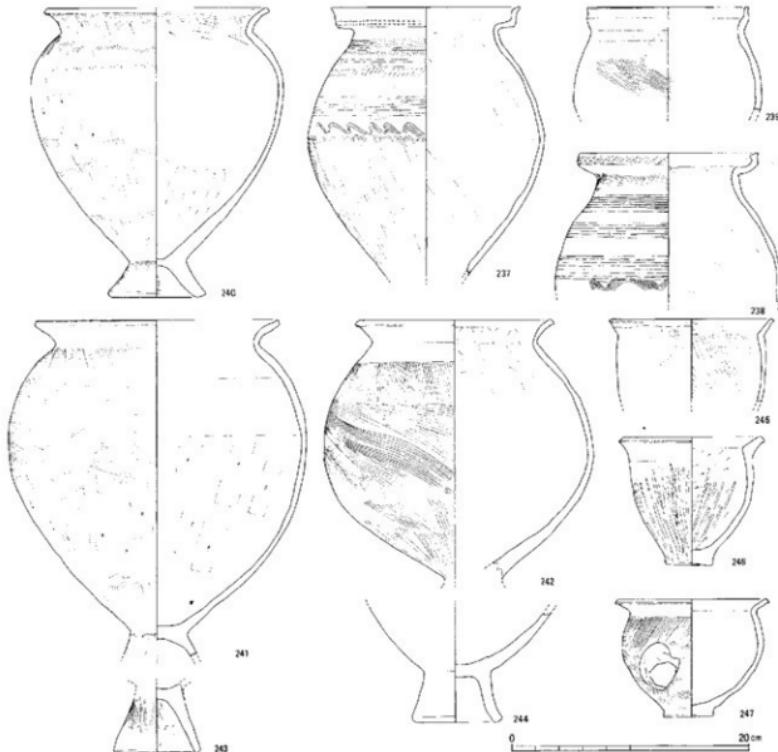
第74図 SK326出土遺物実測図③ (1 : 4)

・244 は脚部片である。245 は小壺の壺。246 は口縁部外反する鉢とするが、壺といつてもいいかもしれない。247 は器底が低く体部の径より口径の方が広い鉢である。体部に大きな穿孔がみられる。248 ~ 270 は高杯である。248 ~ 257 は有段高杯。248 は口縁部がほぼ垂直に上に延びる杯部。249 は口縁端部が水平に延びる杯部。250 ~ 252 は口縁部外反、杯底部が直線的で外面に加飾のない杯部。253 ~ 256 は口縁部外反、杯底部が少し曲線的で外面に加飾のないものである。257 は段の屈曲が緩く脚部も低いものの。258 ~ 270 は脚部片である。258 ~ 259 ~ 266 は裾部が接地部分近くで大きく外反する。265 は接地部分まで直線的である。267 ~ 269 はワイングラ

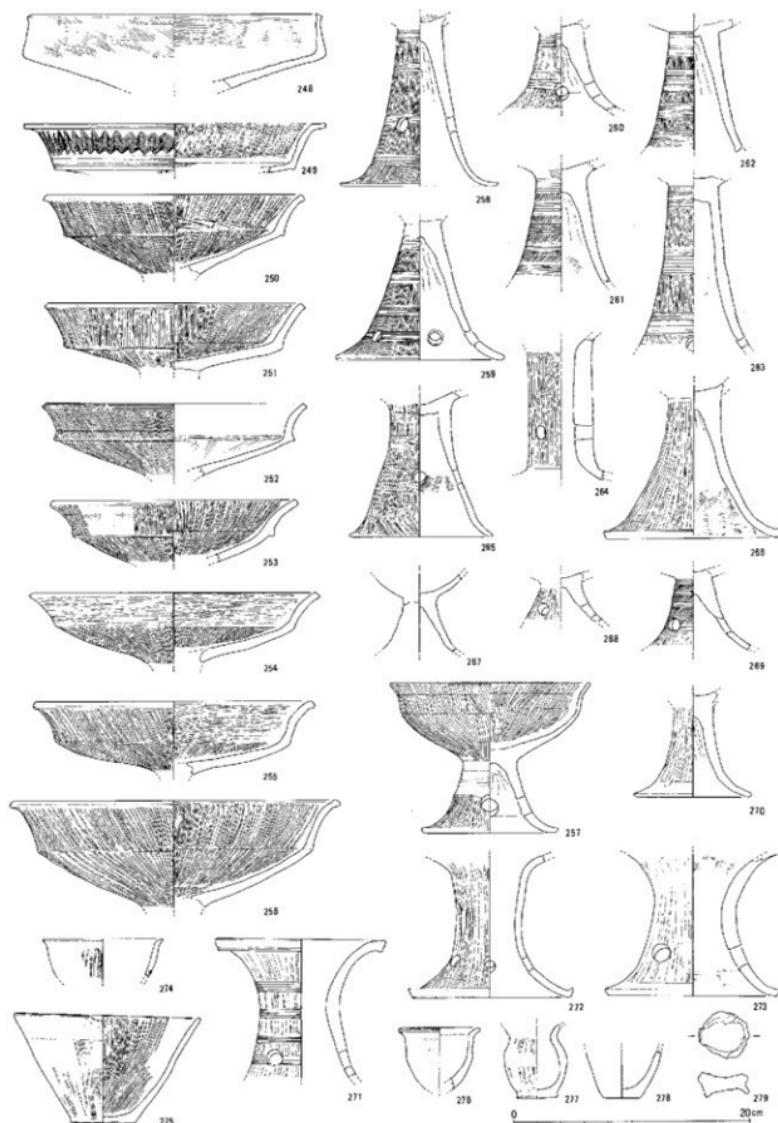
ス形の脚部であろう。271 ~ 273 は器台である。271 は柱状部に横帆文が4段施され、裾部の接地部分近くで穿孔がみられる。272 ~ 273 は外面ミガキで裾部の接地部分近くで透孔がみられる。274 は楕状の鉢。外面に赤彩がみられる。275 は注口が1ヶ所のみられる鉢である。底部内面や注口部内面に朱の付着がみられる。朱焰装に使用されたものか。276 ~ 278 はミニチュア土器である。279 は底部を使った加工円盤である。これらは、弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、土器以外にもモモヤヒヨウタン類の椎実遺体が出土した。

S K 340出土遺物(第77図)

280 ~ 285 は壺である。280 ~ 281 は口縁端部に



第75図 SK326出土遺物実測図④ (1:4)



第76図 SK326出土遺物実測図(5) (1 : 4)

刻みが施されたもの。282 は緩く外反する口頭部片。283 は緩く外反する口頭部で体部があまり張り出さない器形である。284・285 は底部片。286～288 は甕である。286 は端部に刻みのある口縁部が外反する。287・288 は口縁部が外反し、体部が象形になるものである。289・290 は台付甕である。289 は口縁部が外反し、体部下半がしもぶくれになる。290 は底部片である。291～293 はワイングラス形

の高杯である。294 は壺形のミニチュア土器。295 はミニチュア土器底部片である。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K 359出土遺物（第78図）

296～302 は壺である。296 は緩く外反する口頭部片。297・298 は口頭部が上方に向かい直線的に延びるもの。299 は口頭部が上方に直線的にひき端部で外反するものである。300 は肩部近くに波状文



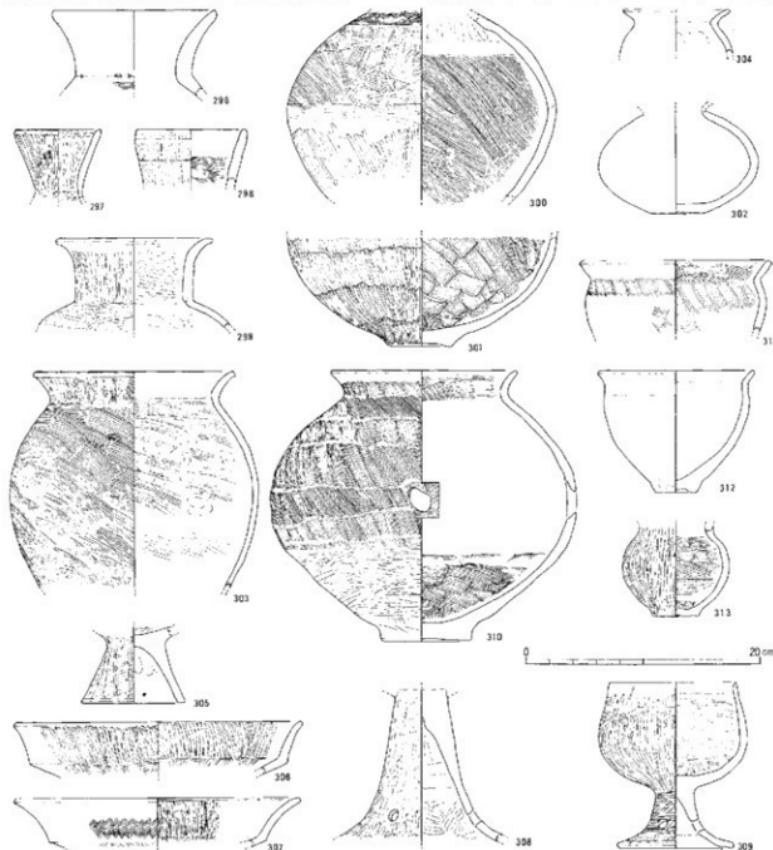
第77図 SK340出土遺物実測図（1：4）

と横線文を施すもの、301 は体部がかなり張り出す底部片である。302 は小型の壺で口縁部は上方に向かい直線的にのびるのが付いていたのだろうか。303 は口頭部が外反し、体部があまり張り出さない壺である。304 は小型の壺口縁部片。305 は台付甕底部片である。306～309 は高杯。306・307 は口縁部外反し、杯底部が直線的な有段の杯部である。308 は三方透孔の底部片。309 はワイングラス形で脚は低い。310 は口頭部が短く外反し、口径よりも体部径がかなり大きくなるものである。体部には穿

孔が 1 ヶ所みられる鉢。311・312 は鉢。壺といつてもおかしくはない。311 は器高が低く体部が張り出すもの、312 は口縁から体部にかけて外に広がるものである。313 は壺形のミニチュア上器である。口頭部は欠けている。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K372出土遺物（第79図）

314～320 は壺である。314～316 は大きく外反する口頭部片、316 は口縁端部や口頭部内面に刺突文が施されている。いわゆるパレススタイルのもの。



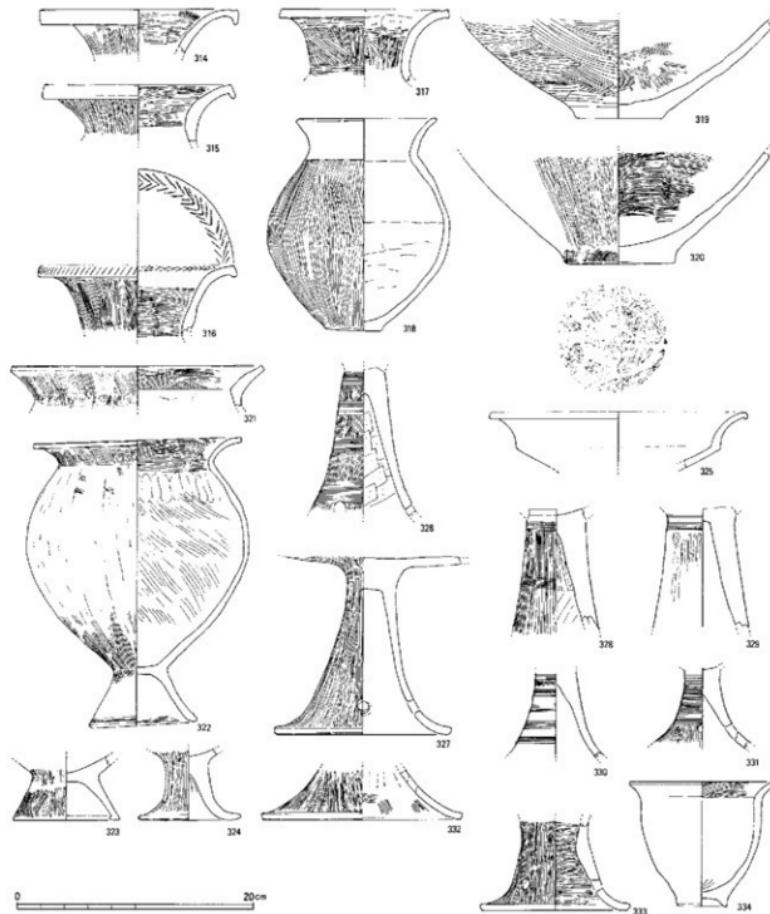
第78図 SK359出土遺物実測図（1：4）

317は大きく外反する口頸部片である。318は口頸部は緩く外反し、体部はあまり張り出さないものである。319・320は底脚片、体部がかなり張り出すものと考えられる。320は底部外面に木査痕が残る。321は口縁部が外反する臺である。322は口縁部が大きく外反し、体部上半が少し膨れる台付臺である。323・324は台付臺の脚部片である。325～332は

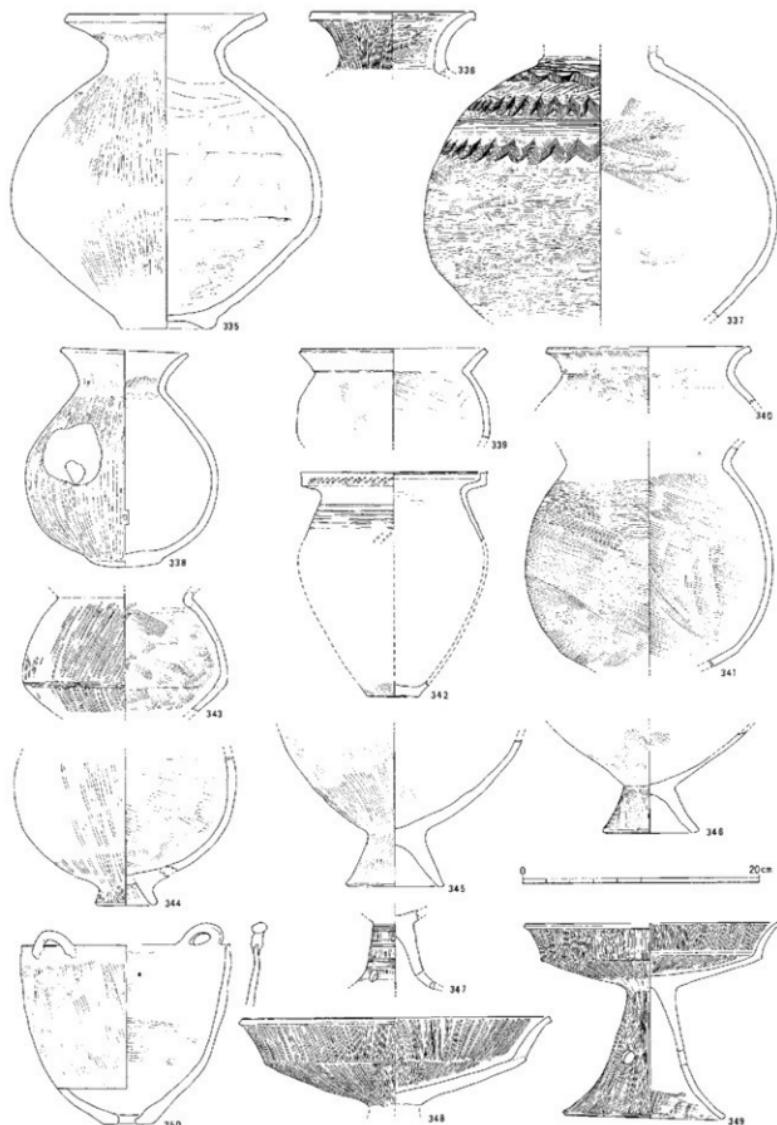
高杯である。325は口縁部が大きく外反、杯底部が直線的な有段の杯部である。326～328は脚部片である。333は器台の裾部。334は口縁部から体部にかけて外反気味の鉢である。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K410出土遺物（第80図）

335～338は臺である。335は口頸部が大きく外



第79図 SK372出土遺物実測図（1：4）



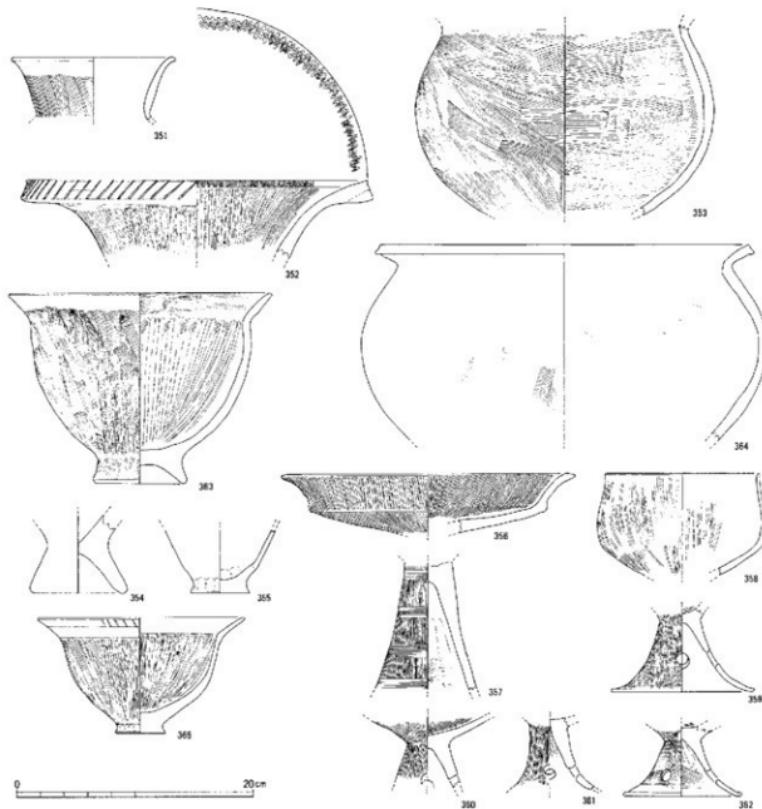
第80図 SK410出土遺物実測図 (1 : 4)

反し、体部下半がかなり張り出すもの。336 は大きく外反する口頭部片。337 は頸部に隆帯、以下に横線文、波状文、刺突文が施されている。338 は口頭部が緩く外反し、体部下半が張り出す器形で、体部上半に大きな穿孔がみられる。339～343 は壺である。339 は口頭部が直線的に外反する。340 は口頭部が緩く外反する。341 は体部下半がかなり張り出すものである。342 は外面に刺突文が施された受け口状口縁で、体部上部に横線文がみられる。343 は体部下半がかなり張り出す小型の壺だろうか。344～346 は台付壺の体部下半から脚部にかけてのもの。

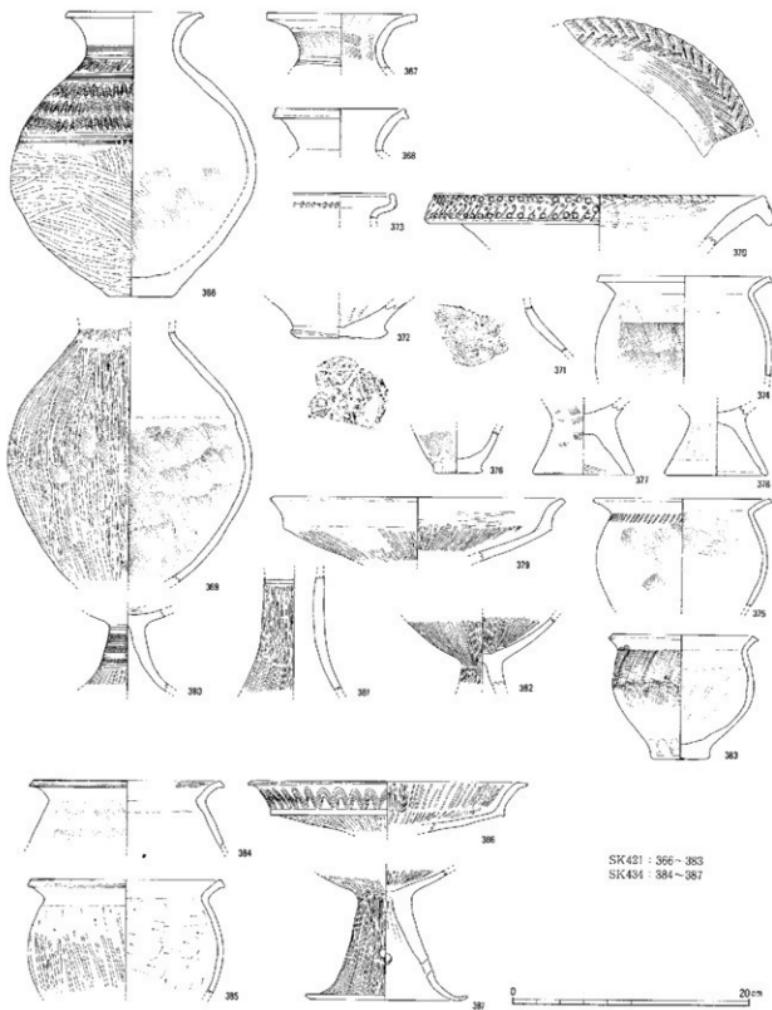
347～349 は高杯。347 は脚部片。348・349 は有段高杯。口縁部が緩く外反、杯底部が直線的である。350 は 2ヶ所の把手のある鉢で、底部穿孔である。あまり類例をみない。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K420出土遺物（第81図）

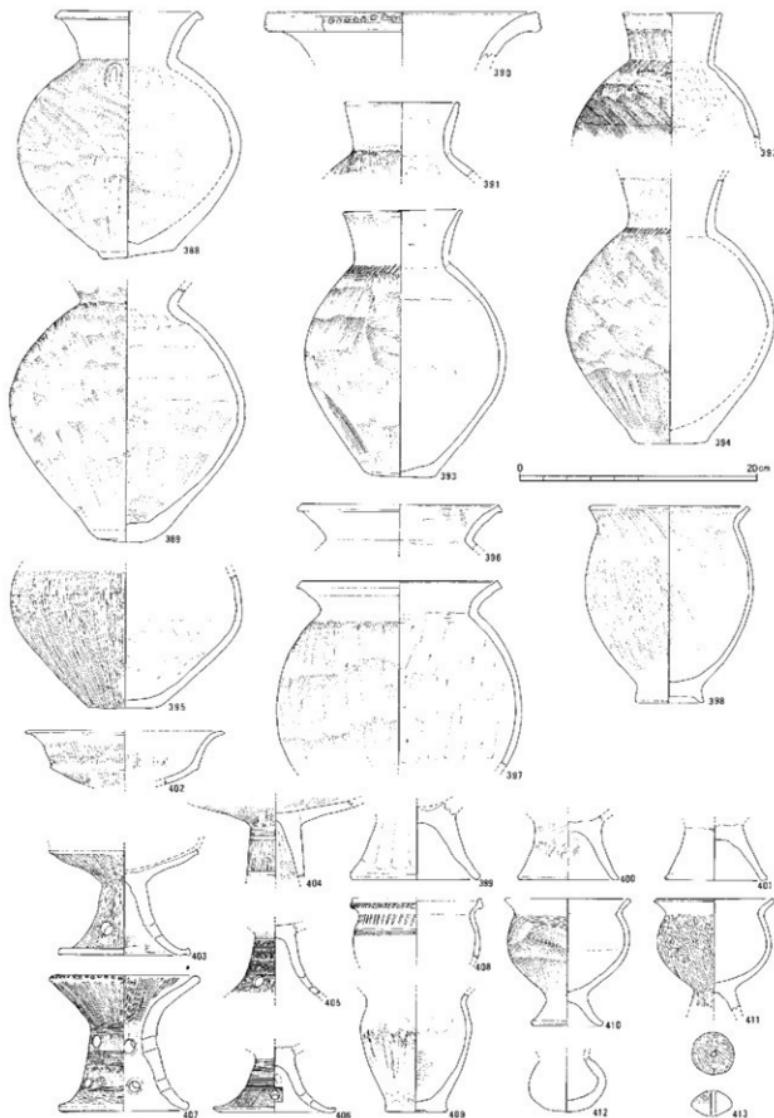
351・352 は壺である。351 は緩く外反する口頭部片、352 は口頭部は大きく外反し、口縁端部に刺突文、内面に波状文が施されている。353～355 は壺である。353 は体部が大きく張り出す。354 は台付壺脚部片である。355 は小型壺の底部片。356～



第81図 SK420出土遺物実測図 (1 : 4)

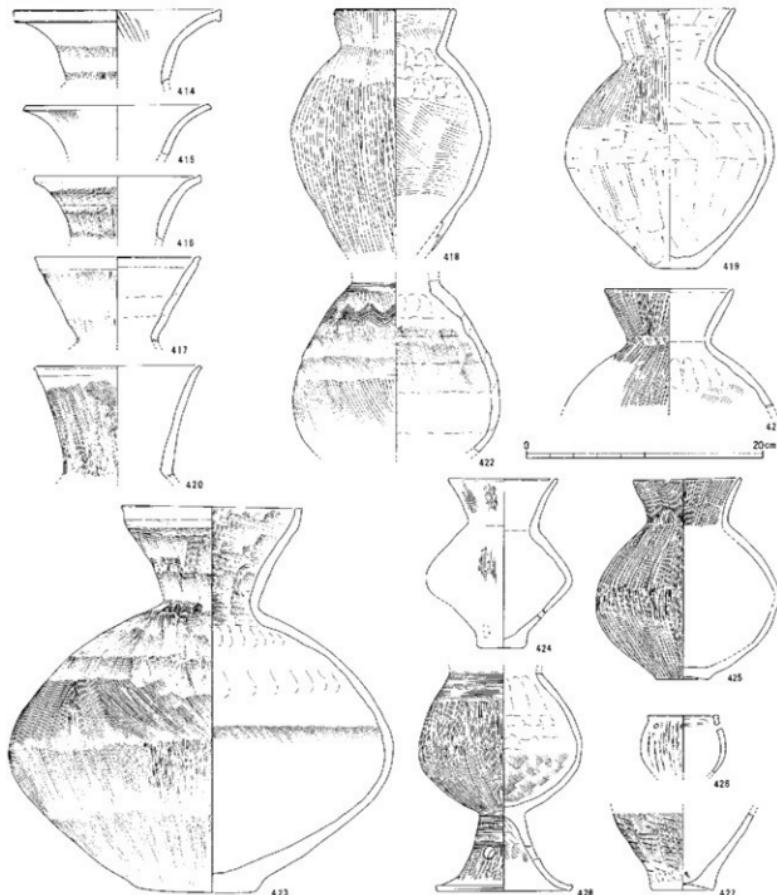


第82図 SK421・434出土遺物実測図 (1:4)



第83図 SK426出土遺物実測図 (1:4)

362 は高杯である。356 は口縁部が大きく外反し、杯底部が直線的である。357 は脚部片。358 はワイングラス形。359 ～362 は質部片である。363 は口縁から体部にかけて外に広がる台付鉢。364 は口縁部が外反し、体部がかなり膨れるずんぐりとした大型の鉢。365 は口縁から体部にかけて外に広がる小型の鉢である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。



S K 421出土遺物（第82図）

366 ～372 は壺である。366 は口頭部は大きく外反し、体部が張り出す。口頭部下部に横線文、以下に横線文、刺突文、波状文が施されている。367 は大きく外反する口頭部片。368 は緩く外反する口頭部片。369 は体部があまり張り出さない。370 は口頭部は大きく外反し、口縁部には2列の竹管文と刺突文が、口縁部内面には矢羽根状の刺突文が施さ

第84図 SE327出土遺物実測図①（1：4）

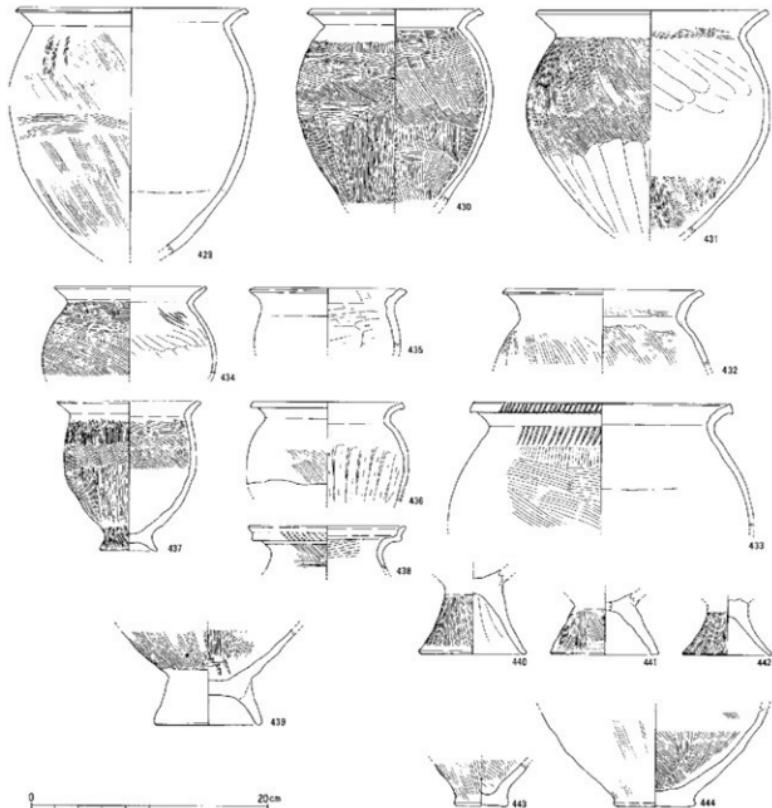
れている。パレススタイルのもの。371 は波状文のみられる体部片。372 は外面に木葉痕がみられる底盤片である。373 ~378 は蓋である。373 は受け口状口縁部片。374 は口縁部が外反し、体部が少し張り出るもの。375 は肩部に刺突文がみられる小型蓋である。376 は小型蓋の底部片か。377 ~378 は台付焼脚部片である。379 ~382 は高杯である。379 は口縁部が大きく外反し、杯底部が直線的な有段の杯部である。380 ~382 は脚部片。383 は口縁から体部にかけて外反する鉢である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

S K 434出土遺物（第82図）

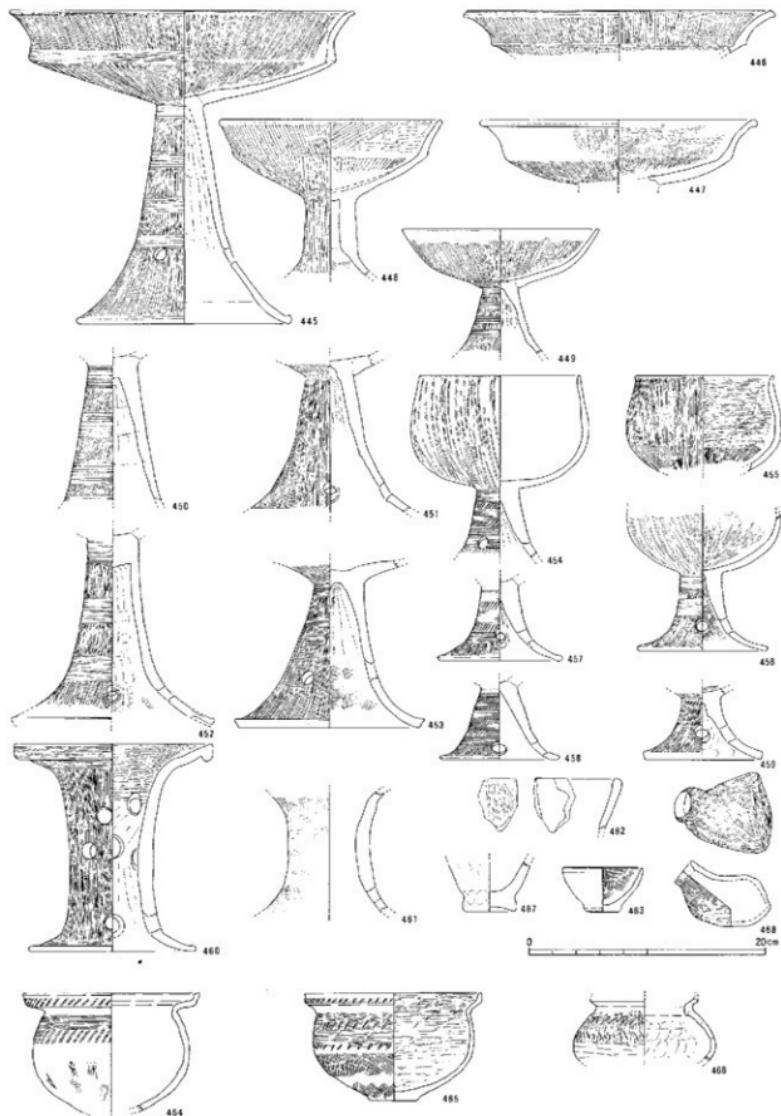
384 ~385 は蓋で、口縁部が外反し体部が少し張り出す。386 は口縁部が大きく外反し、杯底部が直線的な有段高杯の杯部である。口縁部に波状文が施されている。387 は高杯脚部片。これらは弥生時代後期前半に属するものと思われる。

S K 426出土遺物（第83図）

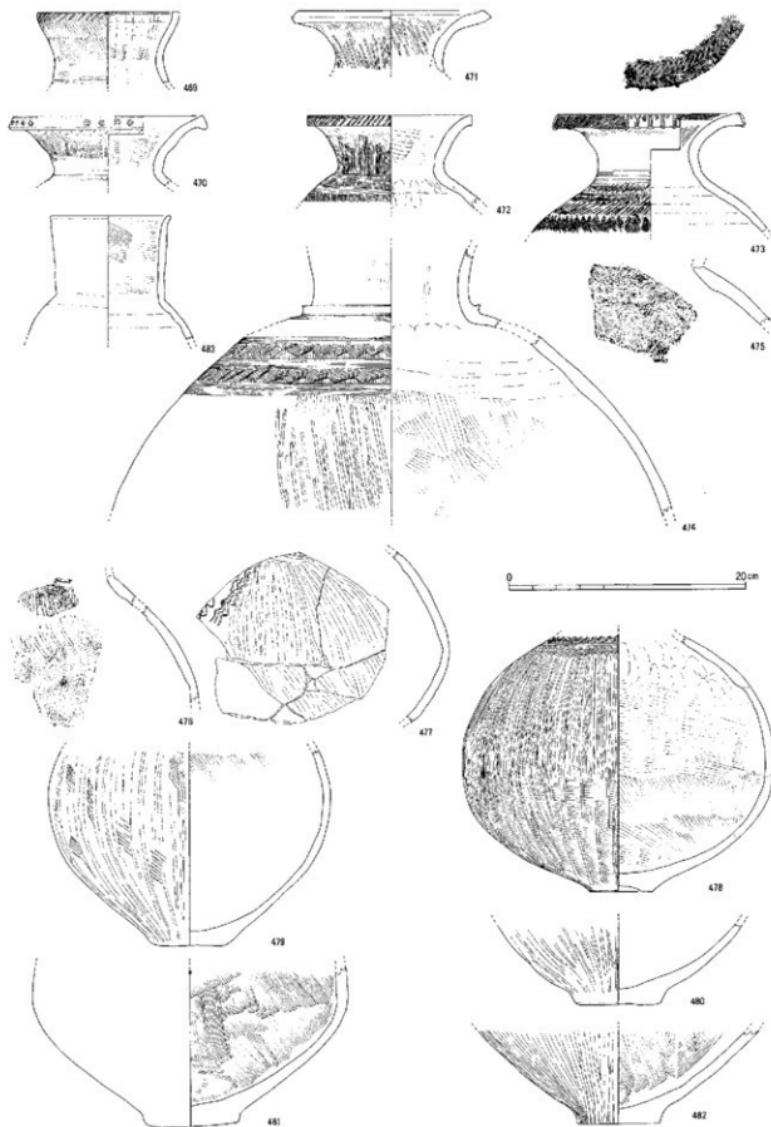
388 ~395 は蓋である。388 は口頭部は大きく外反し体部が張り出す。頭部下に粘土塊を土器外面に付着させ指で押さえつけたような浮文がみられる。389 は口頭部は大きく外反し、体部が張り出すもの



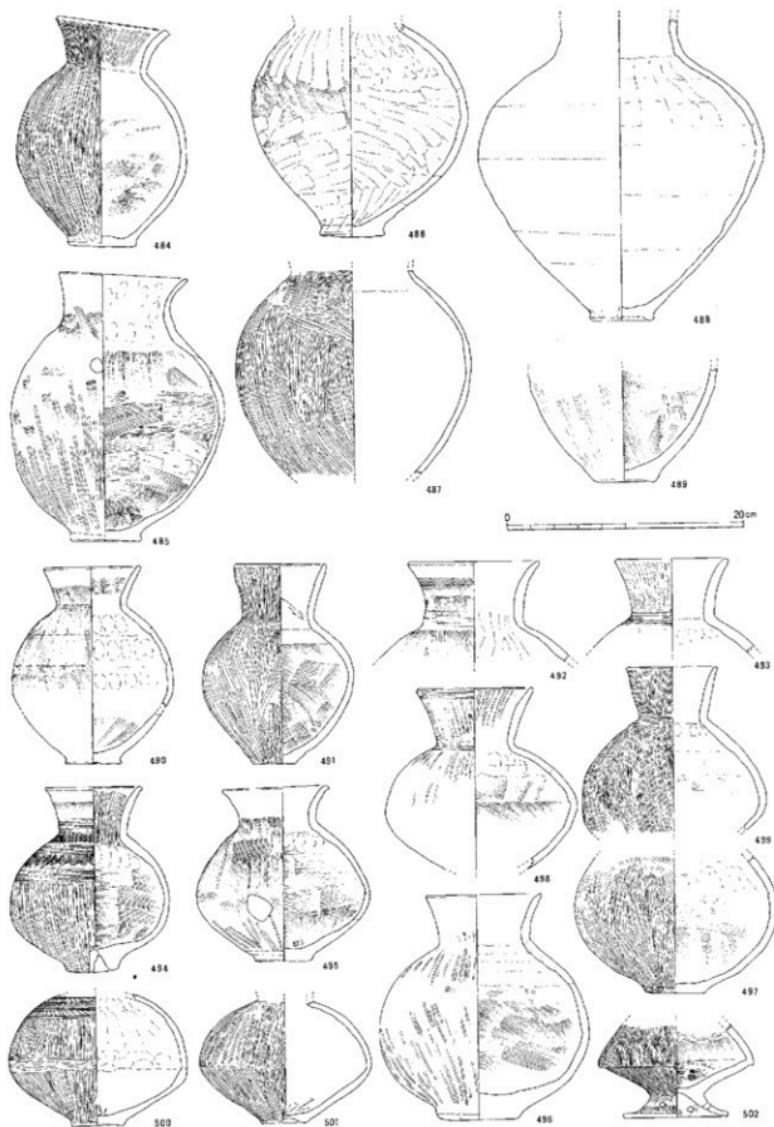
第85図 SE327出土遺物実測図② (1:4)



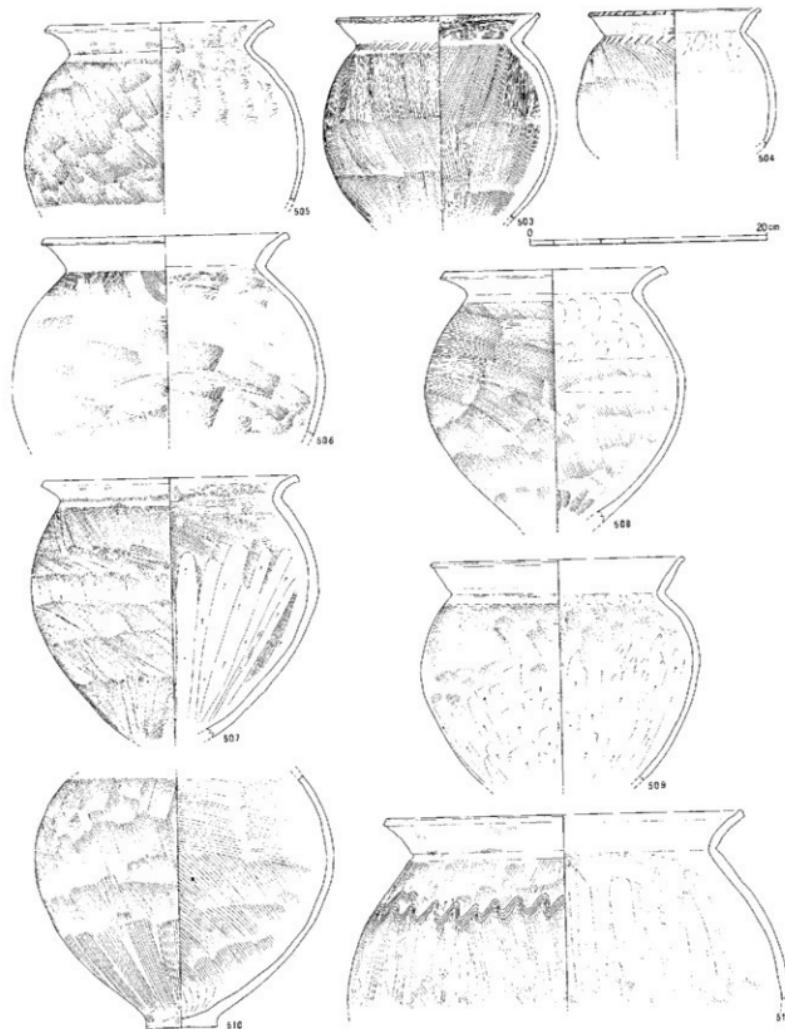
第86図 SE327出土遺物実測図③ (1 : 4)



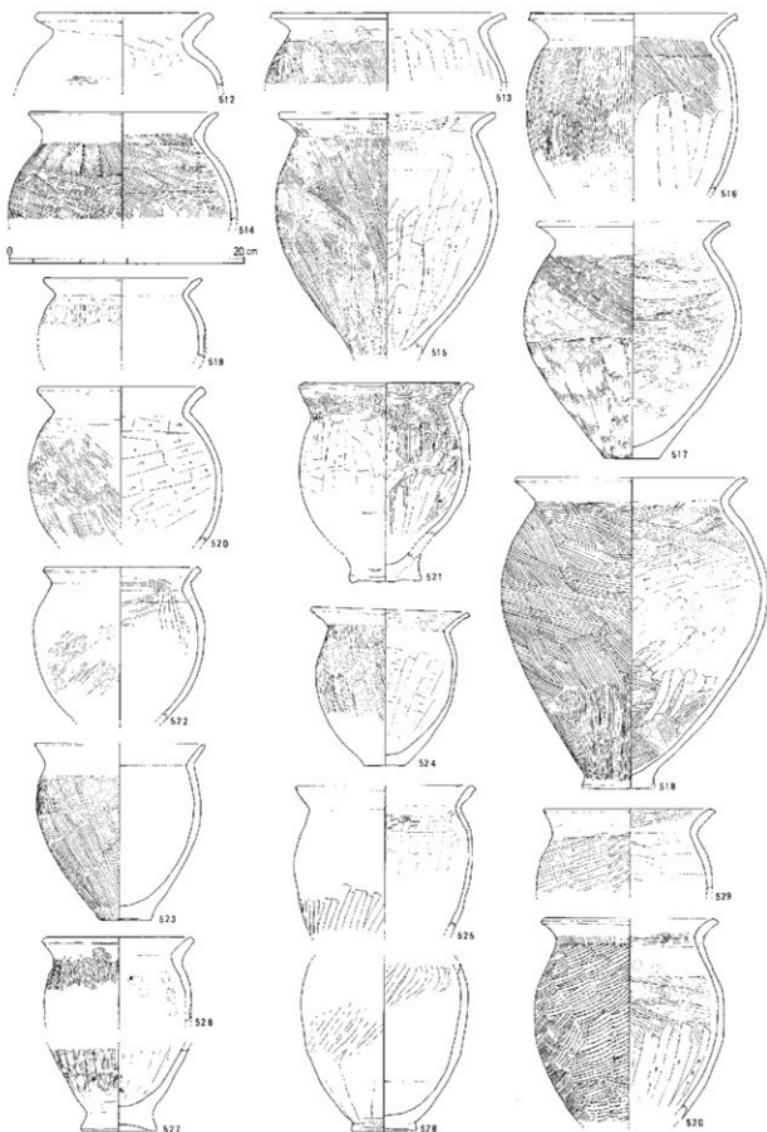
第87図 SD303出土遺物実測図① (1 : 4)



第88図 SD303出土遺物実測図② (1 : 4)



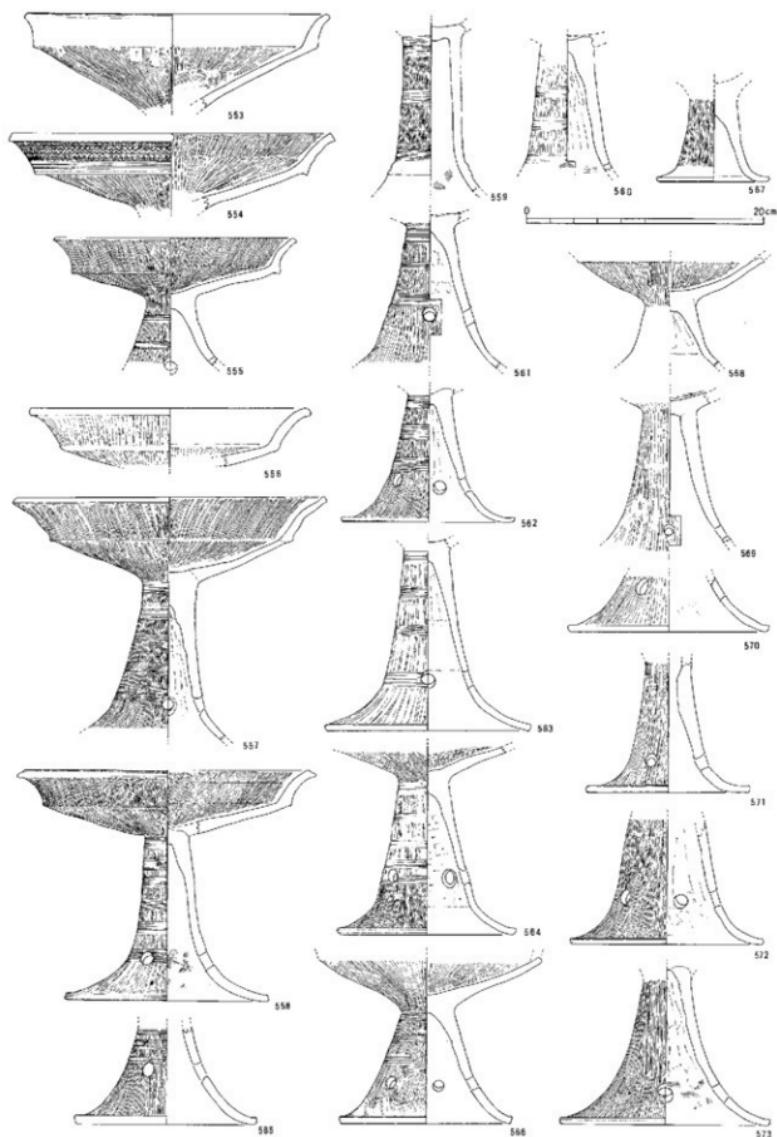
第89図 SD303出土遺物実測図③ (1:4)



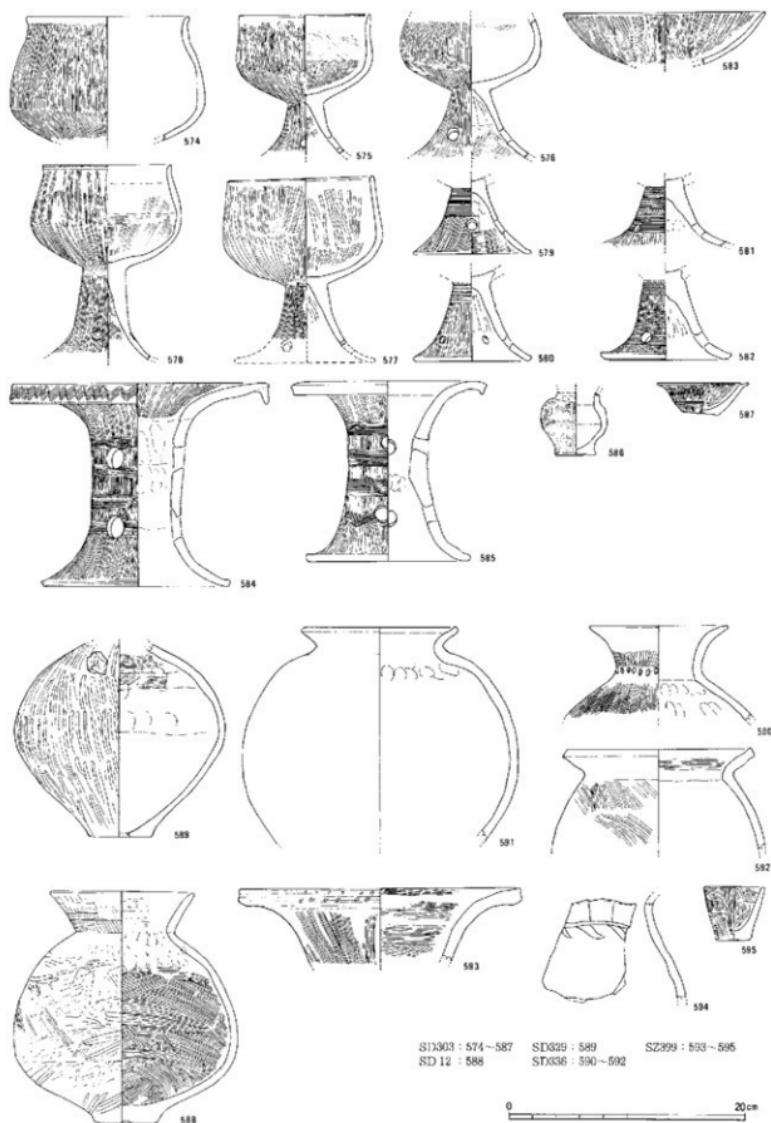
第90図 SD303出土遺物実測図④ (1 : 4)



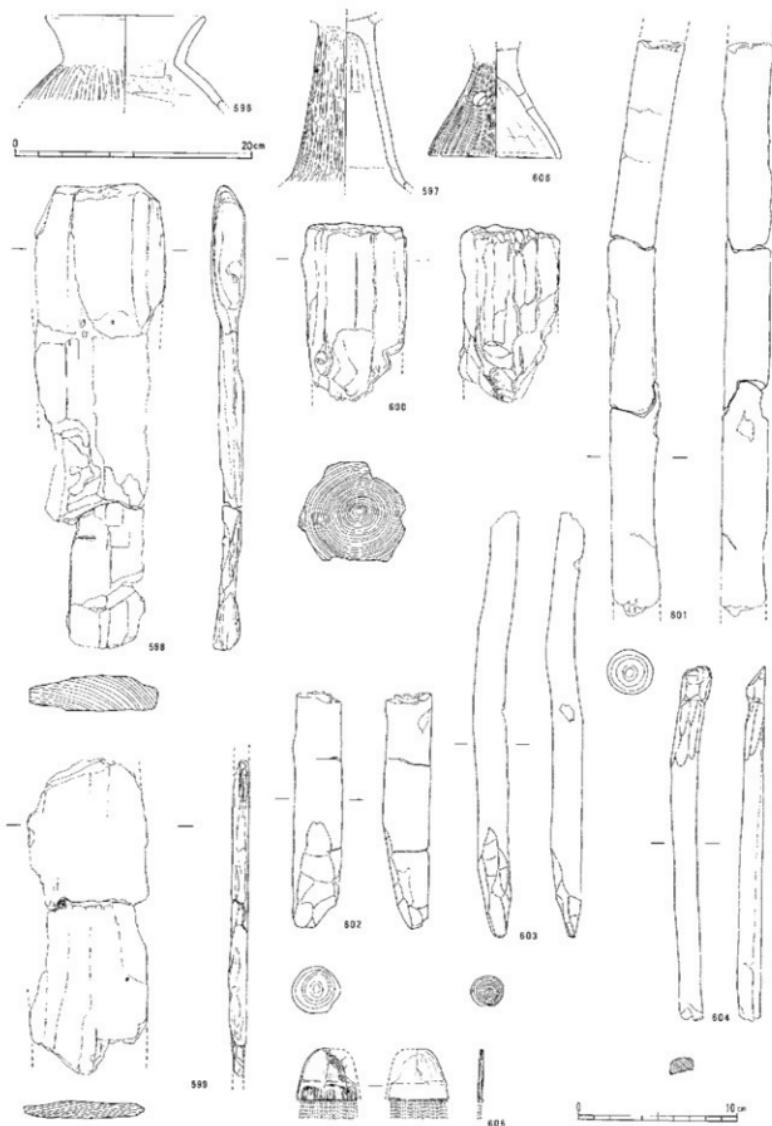
第91図 SD303出土遺物実測図⑤ (1 : 4)



第92図 SD303出土遺物実測図⑥ (1 : 4)



第93図 SD12・303・329・336, SZ399出土遺物実測図 (1 : 4)



第94図 SK8-398出土遺物実測図 (1:4, 605は1:3) ※ SK8:596~605, SK398:606

か。390 は大きく外反する口頭部片。口縁端部に竹管文が施されている。391 ~ 394 は直線的に外反する口頭部で、体部が細長い器形である。393 ~ 394 は頭部に刺突文が巡る。395 は体部下半が大きく張り出す器形である。396 ~ 398 は甕である。396 は外反する口頭部片。397 は口縁部が外反し、体部が張り出すもの。398 は小型の甕で、口縁部が外反し、体部が少し張り出す。399 ~ 401 は台付甕脚部片である。402 ~ 406 は高杯である。402 は口縁部が大きく外反し、杯底部が丸みを帯びる。403 ~ 406 は脚部片。403 は 402 のような杯部が付くと考えられる。405 ~ 406 はワイングラス形の杯部が付くと考えられる。407 は口縁端部には竹管文、柱状部に五方透孔が 2 段ある器台である。408 ~ 411 は鉢である。408 ~ 409 は口縁から体部にかけて外に広がる鉢である。410 ~ 411 は口縁部が外反し体部が張り出す。台付鉢である。台付甕がそのまま小さくなつた感がある。411 の体部外面には綫に 5 条の粗光状縦刻が施されている。鎌野町天花寺遺跡においても同様のものが確認されている。412 は丸底のミニチュア土器片である。413 は算盤玉のような形態である。荷輪車であろう。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

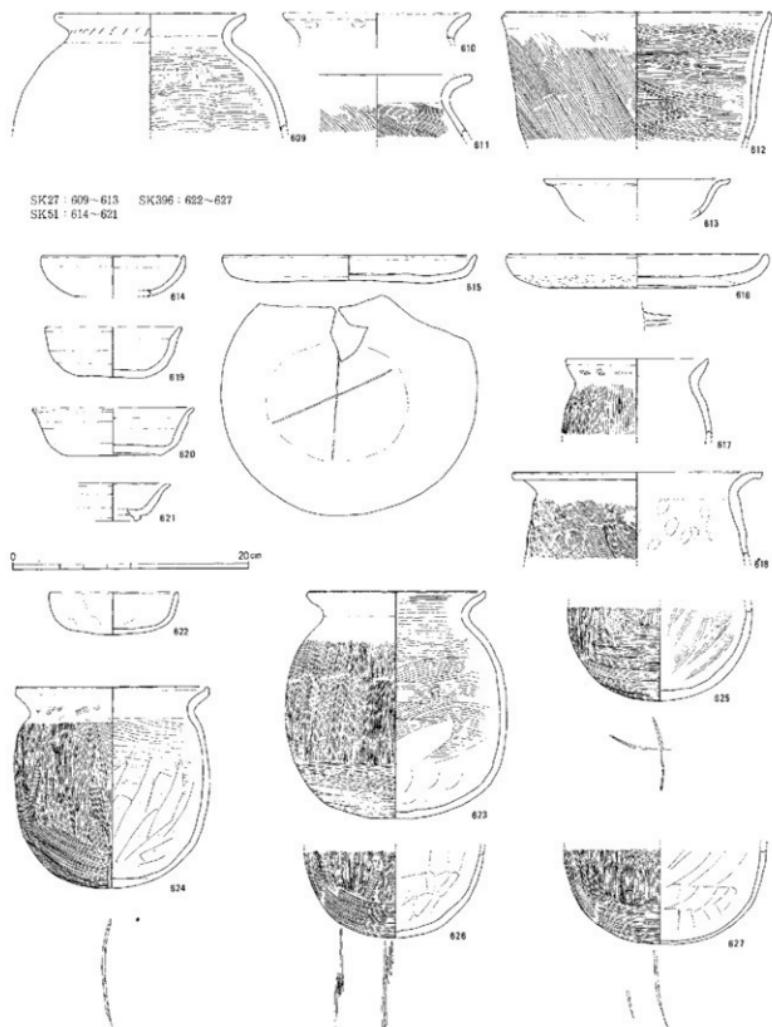
S E 327出土遺物（第84~86図）

414 ~ 427 は甕である。414 ~ 416 は口頭部が大きく外反する。417 は口縁端部に面取りがみられ、口頭部が直線的に外反するものである。418 は口縁端部に面取りが少しみられ、口頭部が直線的に外反し体部が細長い。419 は口頭部が直線的に外反し体部が少し張り出す。420 は口頭部が直線的に外反する。421 は口頭部が直線的に外反し体部が少し張り出すものか。422 は肩部に横線文、体部上半に波状文が施され、体部下半が張り出してもぶくれるもの。423 は受け口状口縁の端部には面取りがみられ、口頭部が直線的に外反する。体部は算盤玉形に大きく張り出す。424 は小型甕で、口頭部が直線的に外反し、体部は算盤玉状に鋸歯的に張り出す。425 は小型甕で、口頭部が直線的に外反し、体部は丸く大きく張り出す。426 はミニチュア土器甕。無頸甕形である。口縁部には 2 ヶ所の穿孔がみられる。427 は底脚部。428 は肩部に横線文、体部下半が張り出す

台付甕である。429 ~ 444 は甕である。429 ~ 432 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り底部に向かってゆるやかな曲線を呈している。433 は口縁端部と頭部に刺突文が施されている。434 は口縁部は大きく外反し、体部はそれほど張り出さない。435 は口縁部は外反し、体部はあまり張り出さない。436 は口縁部が大きく外反し、体部が球形でざんぐりとしたもの。437 は口縁部は外反し、体部の張り出しあまりない。438 は受け口状の口縁部片である。439 ~ 442 は台付甕脚部片である。443 ~ 444 は底脚部片である。445 ~ 459 は高杯。445 は有段高杯で口縁部が大きく外反し、杯底部は直線的である。脚部がすらりと伸び 4 段の横線文、三方透孔が施され、裾部近くで広がる。446 は有段高杯で口縁部が大きく外反する。447 は有段高杯で口縁部が大きく外反し、杯底部は丸みを帯びる。448 は有段高杯で口縁部が直線的で、杯底部はやや丸みを帯びる。脚部上部は垂直に延び裾部で広がるようである。449 は杯部が皿状のもの。450 ~ 453 は脚部片。杯部は有段のものが付くのだろうか。454 ~ 456 はワイングラス形の高杯である。457 ~ 459 は脚部片。杯部はワイングラス形のものが付くのだろうか。460 ~ 461 は器台である。460 は柱状部に透孔が 3 段に施されている。受部の端部断面は丸みを帯びている。462 は鉢口縁部片か。内外面とも赤彩である。463 は椀状の鉢。464 ~ 466 も鉢である。464 は受け口状口縁部の外側に刺突文、頭部には上から横線文、刺突文が施されている。体部が丸みを帯びざんぐりとした器形である。465 は受け口状口縁部の外側に刺突文、頭部には上から刺突文、横線文、刺突文が施されている。体部が丸みを帯びざんぐりとした器形である。



第95図 SB489・492出土遺物実測図（1：4）



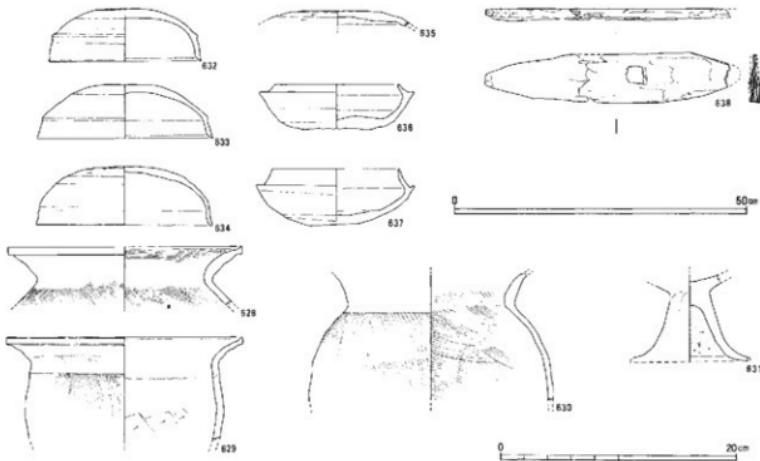
第96図 SK27・51・396出土遺物実測図（1：4）

ある。466 は体部上半に刺突文が施されている。体部は丸みを帯びずんぐりとしている。467 は鉢底部片か。468 は性格・用途が不明である。袋状土製品という呼称はどうだろうか。出土状況から祭祀に何らかの関わりがあるものと考えられる。口が上に延び、真上からは二等辺三角形が少し崩れた形である。愛知県高井遺跡に類似したものが出土している。これらは、弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、配石の間から、コナラ属の種実遺体も出土した。

S D303出土遺物（第87～93図）

469～502 は壺である。469 は内寄する口縁端部には面取りがみられ、端部に近い外側に刺突文が施される。470 は口頭部が大きく外反し、口縁端部に4個1組の竹管文が6ヶ所施されている。471 は大きく外反した口頭部片である。472 は口頭部が大きく外反し、口縁端部に刺突文、頭部に横線文、波状文が施されている。473 は口頭部が大きく外反し、口縁端部に回転繩文を施し、4ヶ所に5個1組の棒状隆脊、口頭部内面にも回転繩文が施されている。以下に横線文、波状文、回転繩文が施されている。474 は口頭部下に隆脊、以下に横線文、波状文を施す。475 は横位の波状文がみられる体部片、476 は

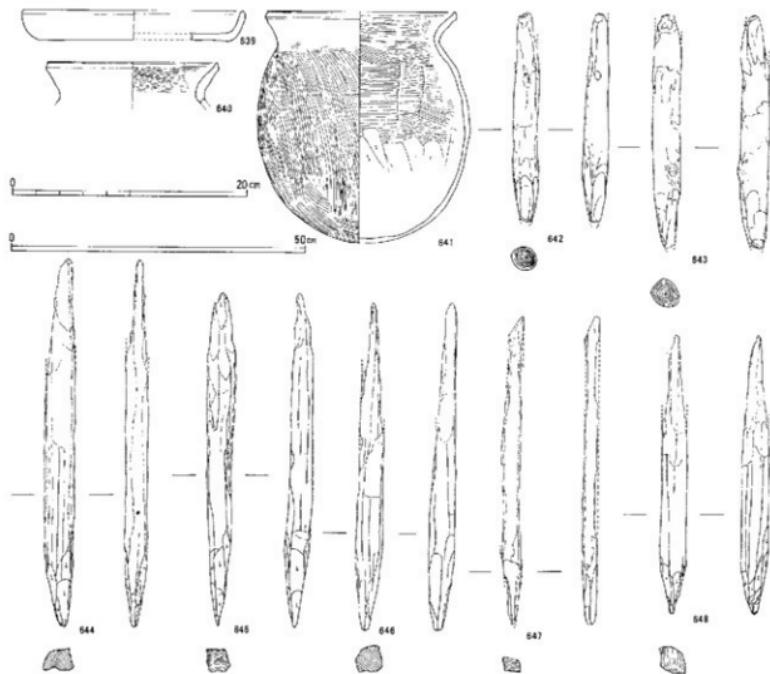
6条の曲線状の線刻が施された体部片、477 は縦位に4条の波状文が施されている体部片である。478 は頭部に波状文と横線文が施され、体部が球形に大きく張り出す。479・481 は体部が大きく膨れる。480・482 は底部片である。484 は口頭部がほぼ垂直で口縁端部が若干外反するもの。484・485 は口頭部が緩く外反し体部が細長いもの。486・487 は体部が少し張り出す。488 は体部上半が大きく張り出し底部に向かい窄んでいく器形である。489 は底部片である。490・491 は口頭部が外反し体部が少し張り出す。492・493 は口頭部が緩く外反するもの。494～496 は口頭部が緩く外反し、体部下半が丸く張り出す。497 は体部下半が丸く張り出す体部片である。498・499 は口頭部が直線的に外反する。外部は算盤玉状に張り出す。500・501 は体部片は算盤玉状に張り出す。502 は体部上半がきつく張り出し、体部下半が直線的で、低い脚部がつく台付壺である。503～542 は甕である。503～511 は口縁部が大きく外反し体部上半が張り底部に向かってゆるやかな曲線を呈するもの。503・504 は口縁端部と肩部に刺突文が施されている。511 は体部上半に波状文が巡る。512～530 については口縁部が外反し、体部はそれほど張り出さない。529・530 は体



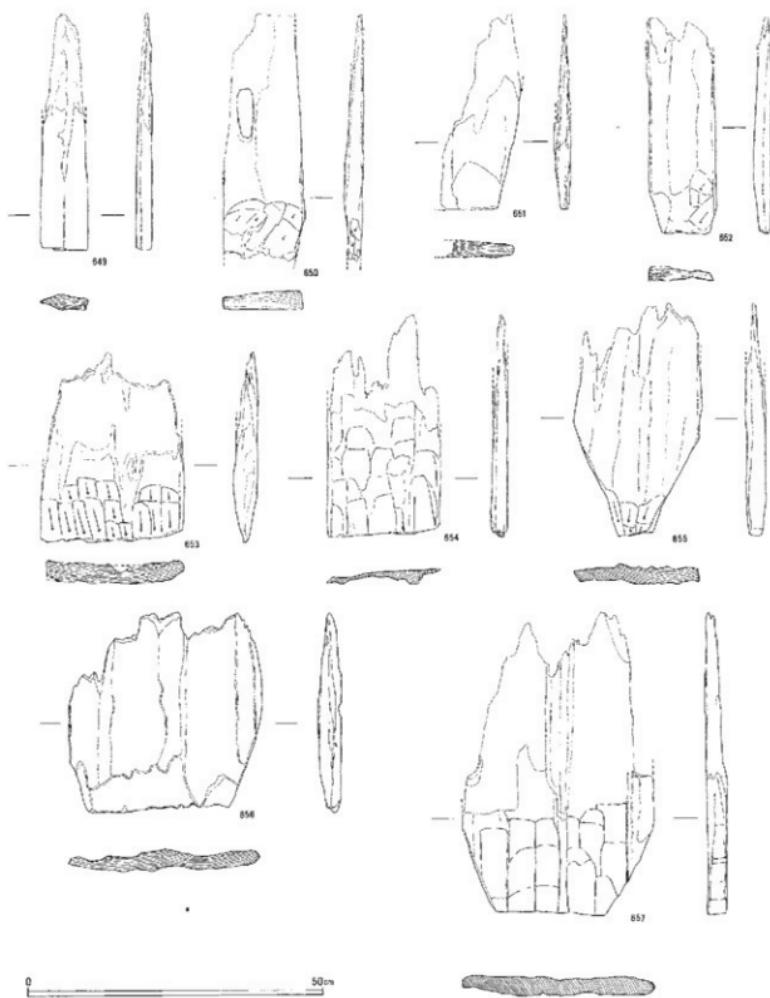
第97図 SK446出土遺物実測図（1：4, 638は1：8）

部外面にタタキが施される。近畿地方の影響を受けたものであろう。531～534は、口縁部外反し、体部上半が少し張り出す小型の鉢。535は口縁部外面に刺突文が施された受け口状口縁部片である。536は口縁部が大きく外反し、底部に向かって直線的な器形である。磨滅などで調整は不明である。537～542は台付鉢。537は部形が口径よりも大きい。538は小型のもので、脚部もそれほど高さはない。539～542は肩部片。543～547は口縁部外反、器高が低くすんぐりとした鉢。545は肩部から体部上半にかけてタタキがみられる鉢。546は受け口状口縁部の外面に刺突文、肩部には上から横線文、刺突文が施されている。体部が丸みを帯びすんぐりとしている鉢。548は口縁部短く外反し、口径よりも体部が大きいすんぐりとした鉢である。549は焼成前穿孔が底部にみられる鉢。550は注口部の成形が粗

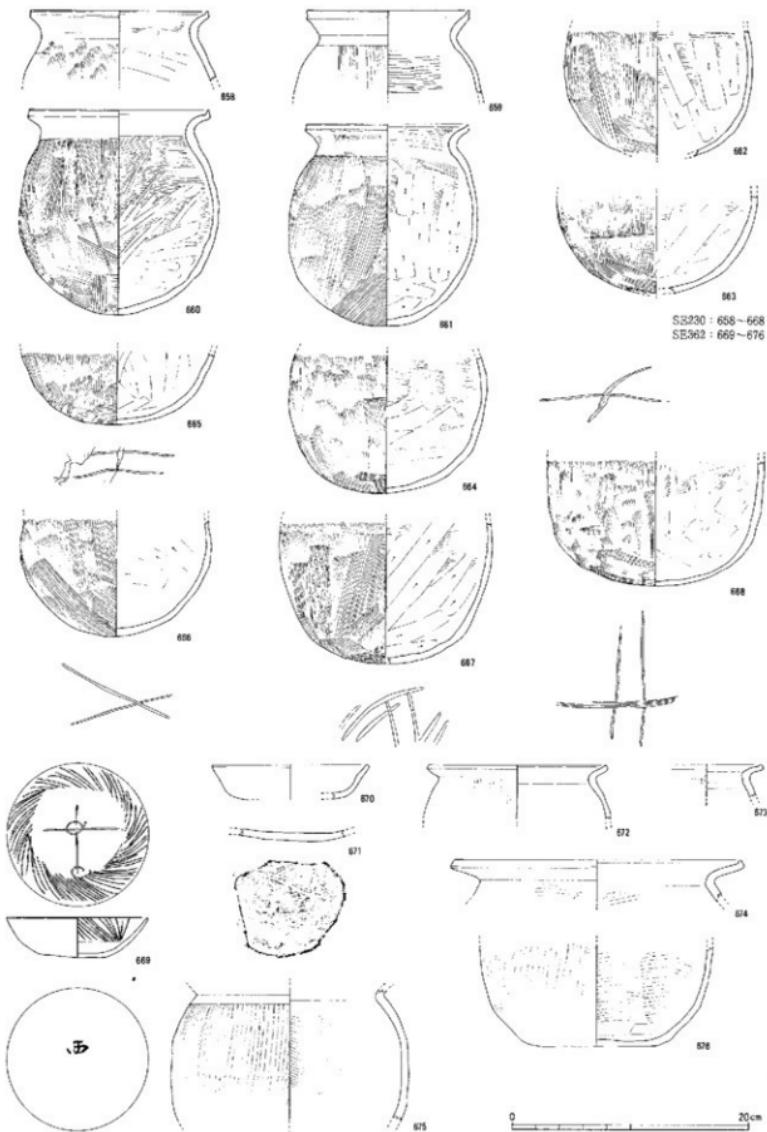
雑な鉢である。551は底部をそのまま転用したような椀状の鉢である。552は口縁部が大きく外反し、口縁端部と頂部に刺突がみられる大型品である。大型の鉢と考えたい。553～583は高杯である。553～573は有段高杯である。553は口縁部がほぼ垂直に立ち上がり杯底部は直線的である。554～558は口縁部が大きく外反し杯底部は直線的である。559～573は脚部片である。559～566は外面上に横線文が施されているものである。567～573は外面上全体にミガキが施されている。574～582はワイングラス形である。574～578は口縁端部が少し外反するもの。579～582は外面上に横線文や刺突文が施されている脚部片。583は杯部が皿状になる高杯である。584～585は器台である。584は口縁端部に波状文、2段の三方透孔である。585は柱状部に横線文が4段、2段の四方透孔が施されている。586はミニチ



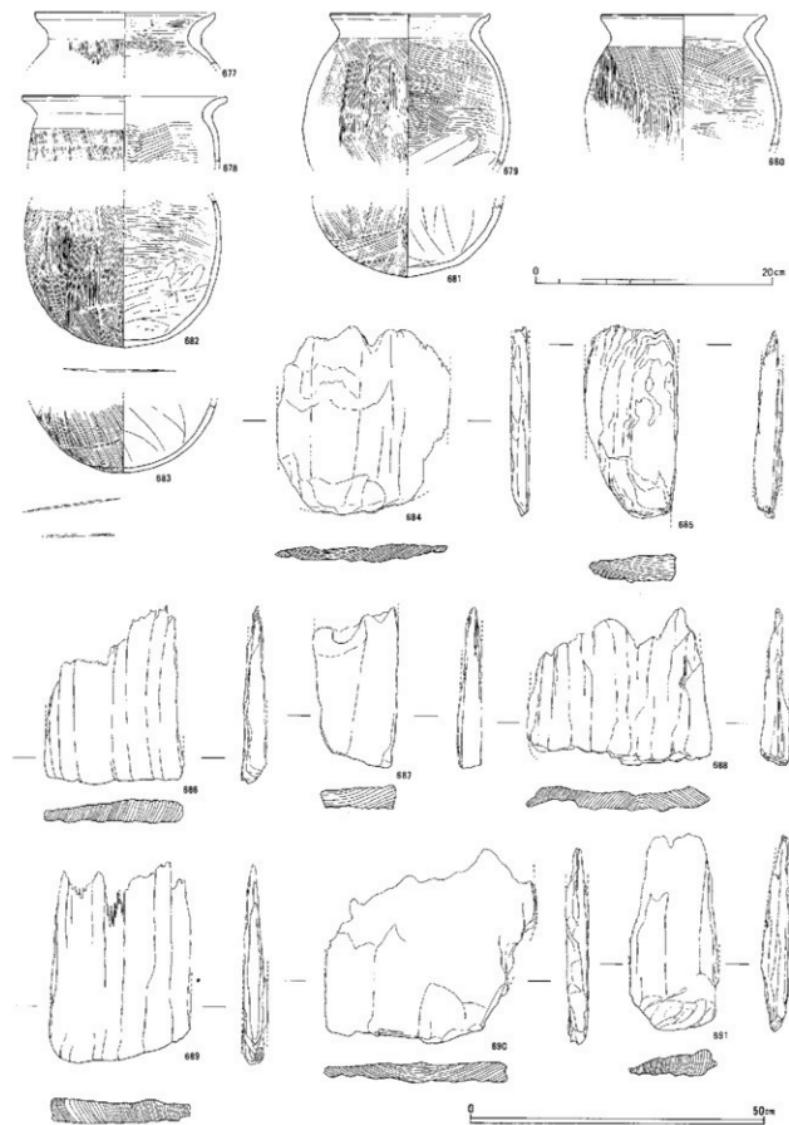
第98図 SE37出土遺物実測図① (1:4, 642~648は1:8)



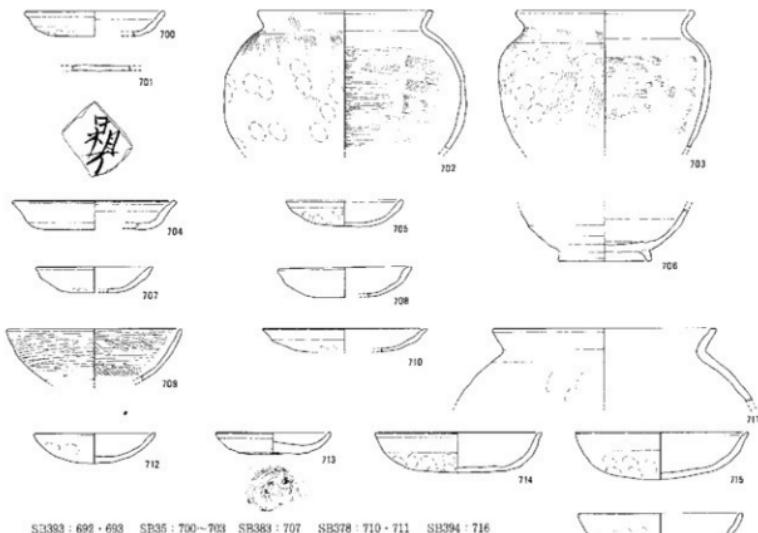
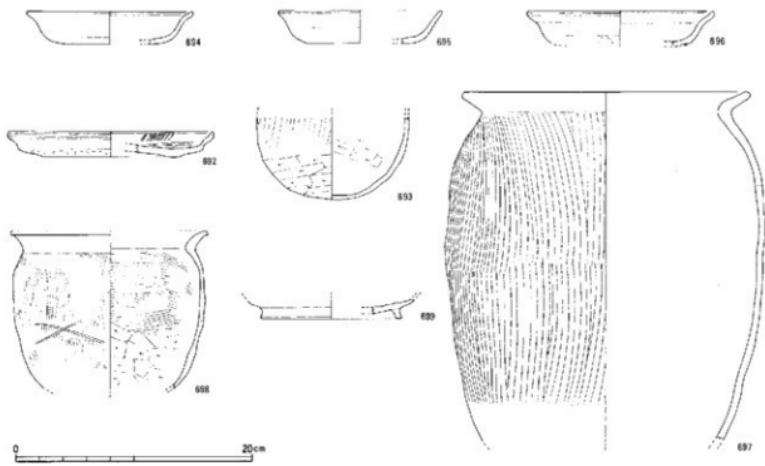
第99図 SE37出土遺物実測図② (1 : 8)



第100図 SE230・362出土遺物実測図 (1 : 4)



第101図 SE370出土遺物実測図 (1 : 4, 684~691は1 : 8)



SB393 : 696 · 693 SB35 : 700 · 703 SB383 : 707 SB378 : 710 · 711 SB394 : 716
SB486 : 694 · 697 SB63 : 704 SB384 : 708 SB391 : 712 · 713
SB36 : 698 · 699 SB65 : 705 · 706 SB376 : 709 SB392 : 714 · 715

第102図 SB35 · 36 · 63 · 65 · 376 · 378 · 383 · 384 · 391 · 392 · 393 · 394 · 488出土遺物実測図 (1 : 4)

ュア土器の壺形、587 はミニチュア土器の鉢形のものである。外面には波状文や横線文がみられる。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S D 12出土遺物（第93図）

588 は口頭部が少し外反し、体部下半が張り出す壺である。弥生時代後期のものか。

S D 329出土遺物（第93図）

589 は外面ミガキの壺部片で頸部から底部まで残存している。弥生時代後期前半のものと考えられる。

S D 336出土遺物（第93図）

590 は肩部に刺突がみられる壺口頭部片。591 は

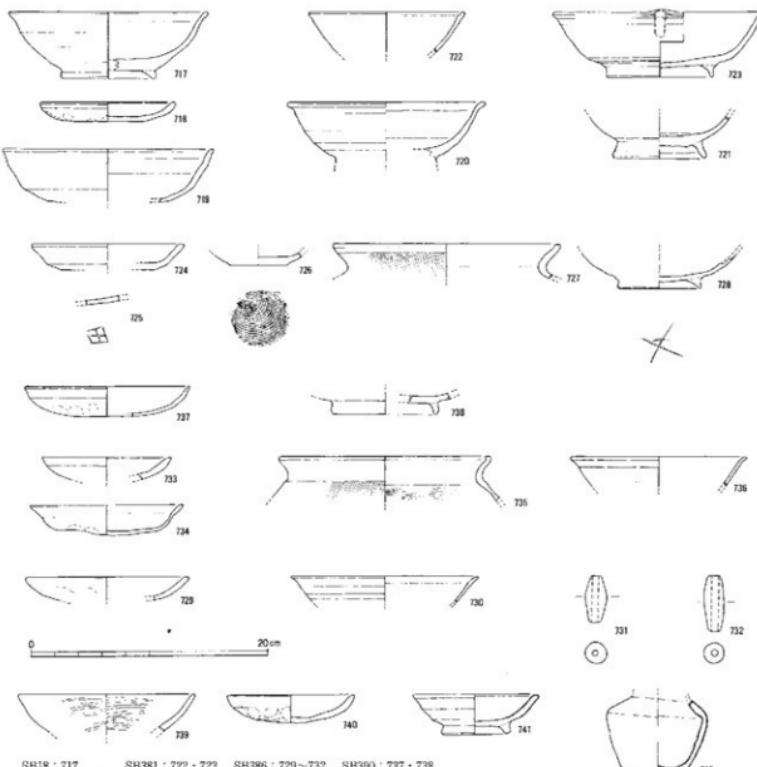
口径より体部径の方が大きい壺、592 は口縁部が外反し体部が591ほど張り出さない壺である。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。

S Z 399出土遺物（第93図）

橋状遺構内土からの出土である。593 は口縁端部に刺突文を施した壺口頭部片である。594 は壺体部上半である。外面には横位に2条の縦刻があり、横線から数状の線刻が延びる。「龍」の絵をモチーフとしたものであろうか。595 はミニチュア土器である。猪口のような形状である。

S K 8 出土遺物（第94図）

596 は口頭部が直線的に外反する壺である。597



SB18: 717 SB381: 722~723 SB386: 729~732 SB390: 737~738
SB60: 718~721 SB385: 724~728 SB387: 733~736 SB490: 739~742

第103図 SB18・60・381・385・386・387・390・490出土遺物実測図 (1:4)

は高杯の脚部で外側にミガキが施されている。598・599 は木製農具の可能性が考えられるが依存状態が悪く器種などは判断に苦しむ。600 は木製片の破片であろう。601～603 は杭状木製品と考えられる。604 は木製陽物形で半截した棒の曲線を利用してい。605 は結歎堅篠で外側には黒漆が塗布されている。内部は残存していない。これらは弥生時代末期のものと思われる。これ以外にも、土器に混じりエゴノキ属の種実遺体も出土した。

S K 398出土遺物（第94図）

606 は高杯底部。弥生時代末期のものと思われる。

奈良時代

S B 489出土遺物（第95図）

607 は土師器杯の底部片。

S B 492出土遺物（第95図）

608 は土師器甕。外反する口縁部から体部下半まで残る。

S K 27出土遺物（第96図）

609 は口縁部から体部上半まで残る弥生土器甕。弥生時代後期に属するものか。610・611 は土師器甕口縁部片である。612 は内外面とも細かいハケメの土師器甕である。613 は土師器鉢であろうか。

S K 51出土遺物（第96図）

614 は口縁部が内鷺気味の土師器杯。615 は底部外面に「イ」の線刻が施された土師器皿、616 は底部外面に3条の線刻が残る土師器皿。線刻の一部だけの残存であるので全体は判然としない。617 は口

縁部があまり外反しない土師器甕。体部は球形になると思われる。618 は口縁部が大きく外反する土師器甕である。619・620 は口縁端部が少し外反気味の須恵器杯。621 は須恵器台付杯である。

S K 396出土遺物（第96図）

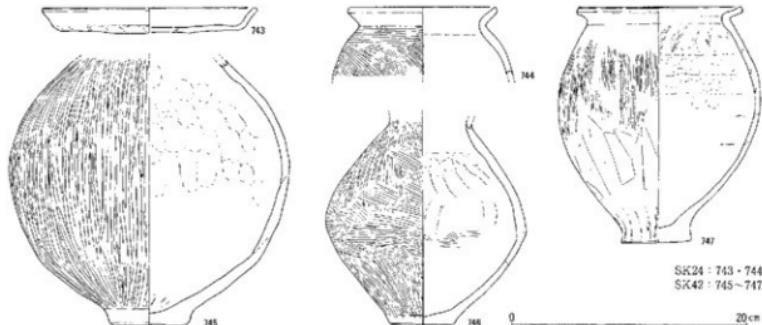
622 は土師器杯。口縁部が内鷺気味のもの。623・627 は土師器甕である。623 は口縁端部が面取りされ、体部が球形で体部径が口径よりも大きいもの。624 は口縁端部が面取りされているもので体部球形、底部外面には線刻が1条施されている。625～627 は体部球形になる土師器甕底部片。外面には数条の線刻が施されている。

S K 446出土遺物（第97図）

628～630 は土師器甕である。628・629 は口縁端部に面取りがみられる口縁部片。630 は頸部から体部上半までが残る。631 は土師器高杯の脚部で揚部が接地面近くで大きく外反する。632～635 は須恵器杯蓋。635 は大井部分だけの残存である。636・637 は須恵器杯身である。立ち上がりの長さが少し差がある。638 はほぼ中央に方形の穿孔がみられる木製品。上から俯瞰すると船の形にみえるがどのように使用されていたのかよくわからない。須恵器については時代は遡る可能性がある。

S E 37出土遺物（第98・99図）

639 は口縁端部が肥厚する土師器皿。640 は土師器甕の口縁部片、641 は土師器甕。口縁端部が面取りされ、体部球形で体部径が口径よりも大きくなる。642～648 は杭状のもの。井戸棒の補強あるいは添



第104図 SK24・42出土遺物実測図（1：4）

板として使用されたものであろうか。尖っている部分が地山に打ち込まれていた。649～657は板状のもの。井戸枠擬板である。先端部の腐食が進んでいる。650・651・652・655・656・657は地山への埋設部分の先が少し窄まっている。これら以外に641内の埋土からモモの種実遺体が出土した。

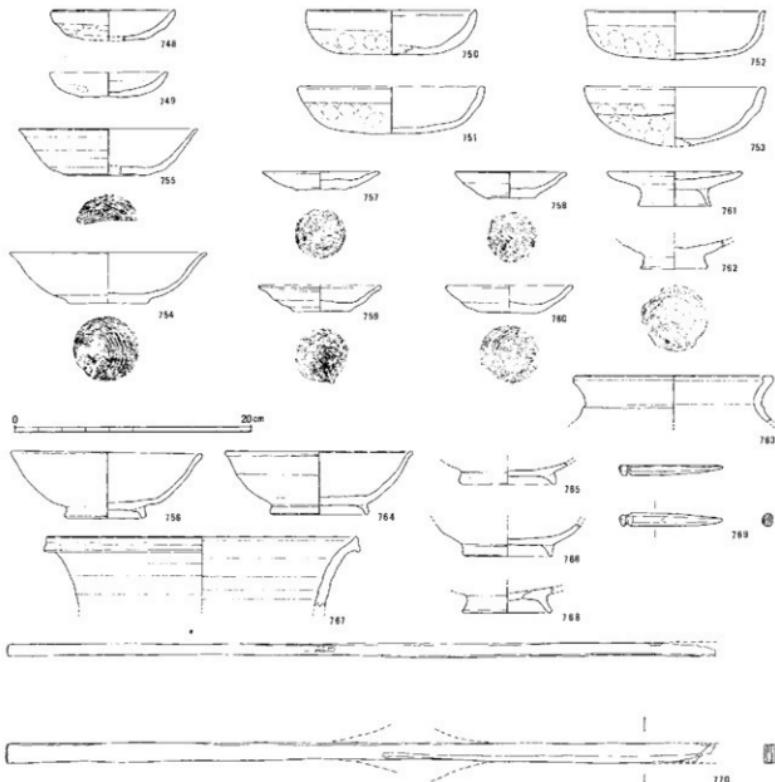
S E 230出土遺物（第100図）

出土遺物についてはすべて口縁部外反し体部球形になる土師器壺であった。658・659は口縁端部が面取りされている口縁部片。660・661は口縁端部が面取りされ、体部径が口徑よりも大きい。662～668は土師器壺の底部片である。663は体部外面に

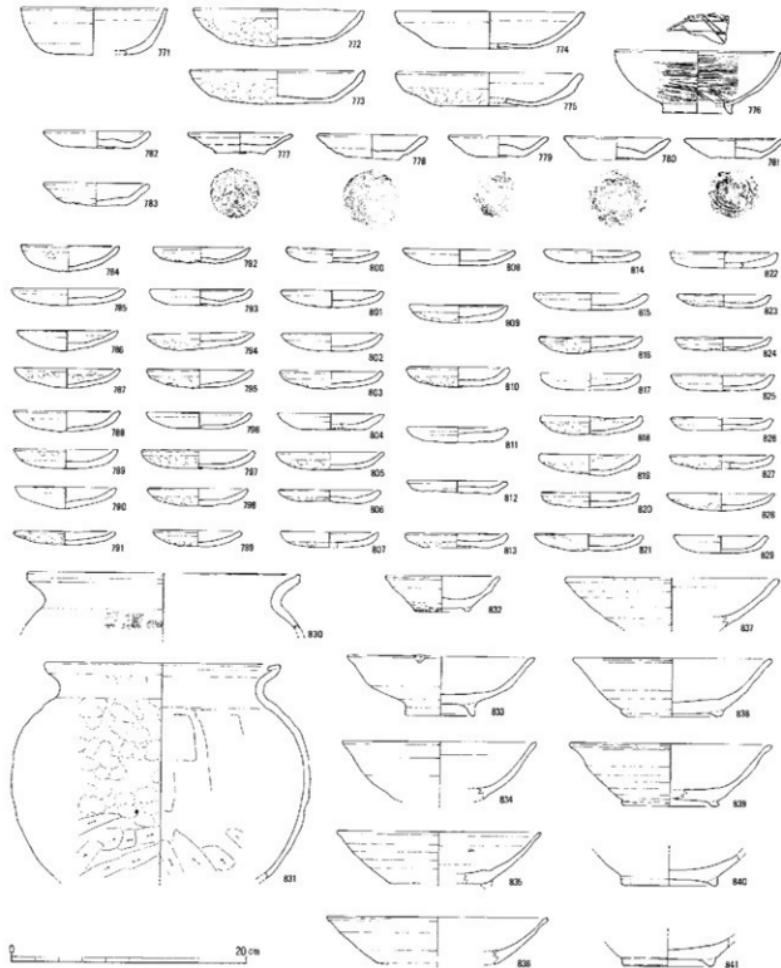
「一」、664は体部外面に「~」、665は底部外面に「=」、666は底部外面に「>」、667は底部外面に数条、668は底部外面に「×」の線刻がそれぞれ施されている。

S E 362出土遺物（第100図）

669は内面に放射状暗文と一部螺旋暗文が施され、底部外面中央に「西」の墨書きがみられる土師器杯である。670は口縁部が若干外反する土師器杯である。671は土師器皿底部片。「×」の線刻がみられる。672～674は土師器壺の口縁部片、675は土師器壺、頭部から体部下半まで残る。676は土師器壺底部片である。底部平坦になっているもの。これら以外に



第100図 SK6出土遺物（1：4）



第106図 SK45出土遺物実測図① (1 : 4)

もマツ属の種実遺体が出土した。

S E 370出土遺物（第101図）

677～680は土師器壺口縁部片、679・680は口縁部から体部下半まで残る。体部球形になるものである。681～683は底部が丸みを帯びているもの。682は底部外面に「一」の線刻が施されている土師器壺底部片。683は底部外面に「一」の線刻が施されている土師器壺底部片。684は板状、井戸枠板である。684・685・691は堆山への埋設部分の先が少し窄まる。これら以外にスモモの種実遺体が出土した。

平安時代

S B 393出土遺物（第102図）

692は口縁部が少し外反し底部の調整が粗雑な土師器皿である。693は土師器壺の底部。これらは平安時代前期のものと考えられる。

S B 488出土遺物（第102図）

694～696は口縁部が大きく外反する土師器杯である。697は土師器長胴壺である。ハケメも粗く粗雑に作られている。これらは平安時代前期のものであろうか。

S B 36出土遺物（第102図）

698は体部下面に「×」の線刻が施された壺である。699はロクロ製土師器壺底部片。これらは平

安時代後期のものと思われる。

S B 35出土遺物（第102図）

700・701は土師器皿。701は底部外面に「中期万」の墨書が施された土師器皿底部片。「中期万」については氏名の可能性もある。702・703は口縁部が肥厚する土師器壺である。これらは、平安時代後期のものと考えられる。

S B 63出土遺物（第102図）

704は土師器杯、口縁部が若干外反する。平安時代後期のものか。

S B 65出土遺物（第102図）

705は粗製の土師器皿。706は絵錦陶器碗の底部片である。底部内面には、三叉トチノの痕がみられる。平安時代後期のものか。

S B 383出土遺物（第102図）

707は口縁部ヨコナデの土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。

S B 384出土遺物（第102図）

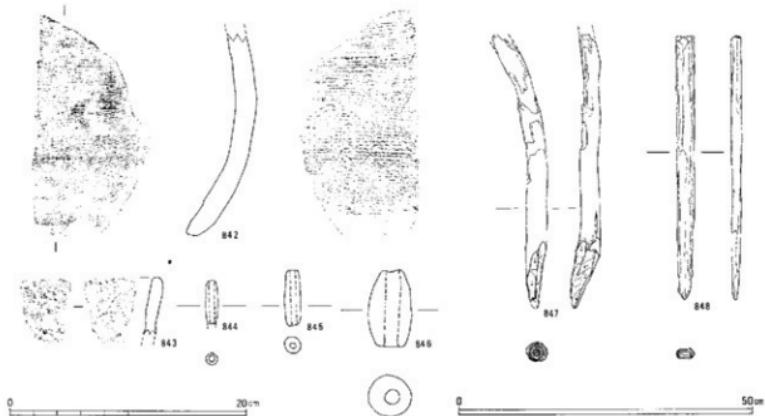
708は口縁部ヨコナデの深めの土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。

S B 376出土遺物（第102図）

709は内外面ともミガキが施された深めの土師器碗である。平安時代後期のものか。

S B 378出土遺物（第102図）

710は浅い土師器皿である。711は土師器壺の口



第107図 SK45出土遺物実測図② (1 : 4, 847・848は1 : 8)

縁部片である。平安時代後期のものか。

S B 391出土遺物（第102図）

712 は浅い粗製の土師器皿、713 は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものか。

S B 392出土遺物（第102図）

714・715 は底部近くでユビオサエがみられる土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。

S B 394出土遺物（第102図）

716 は土師器杯で、平安時代後期のものか。

S B 18出土遺物（第103図）

717 は口縁端部が少し外反し、しっかりした貼り付け高台が底部にみられる山茶椀である。第4型式

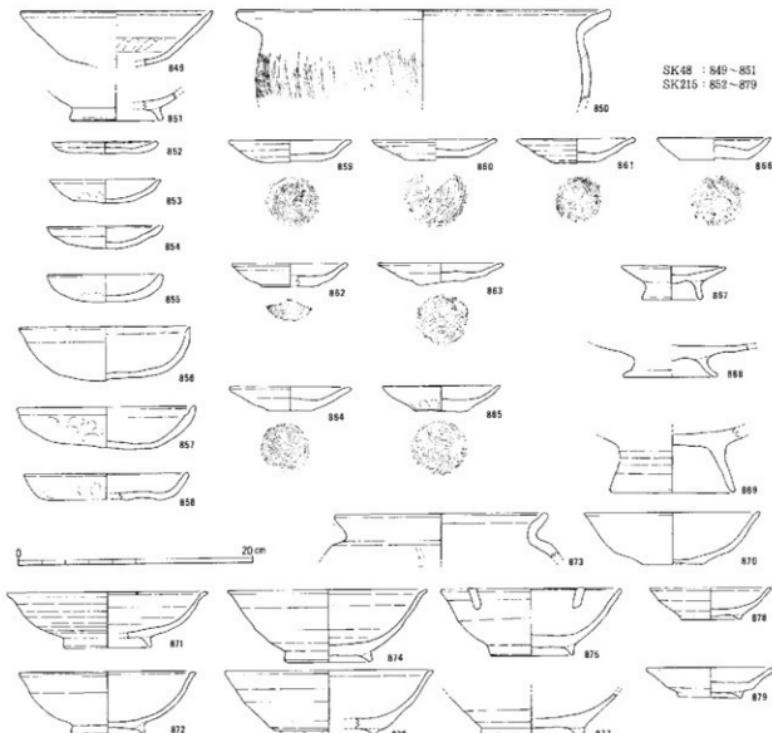
に属するものであろう。

S B 60出土遺物（第103図）

718 は口縁部ヨコナゲの土師器皿。719 は深めの土師器皿と考えられる。これらは平安時代後期のものと思われる。720 は山茶椀口縁部片、721 は高台がしっかりしている山茶椀底部片。これらは第4型式のものと思われる。

S B 381出土遺物（第103図）

722 は口縁部が直線的な山茶椀である。723 は口縁端部が少し外反し、口縁部には輪花がみられる山茶椀である。これらは、第4型式に属するものと考えられる。



第108図 SK48・215出土遺物実測図（1：4）

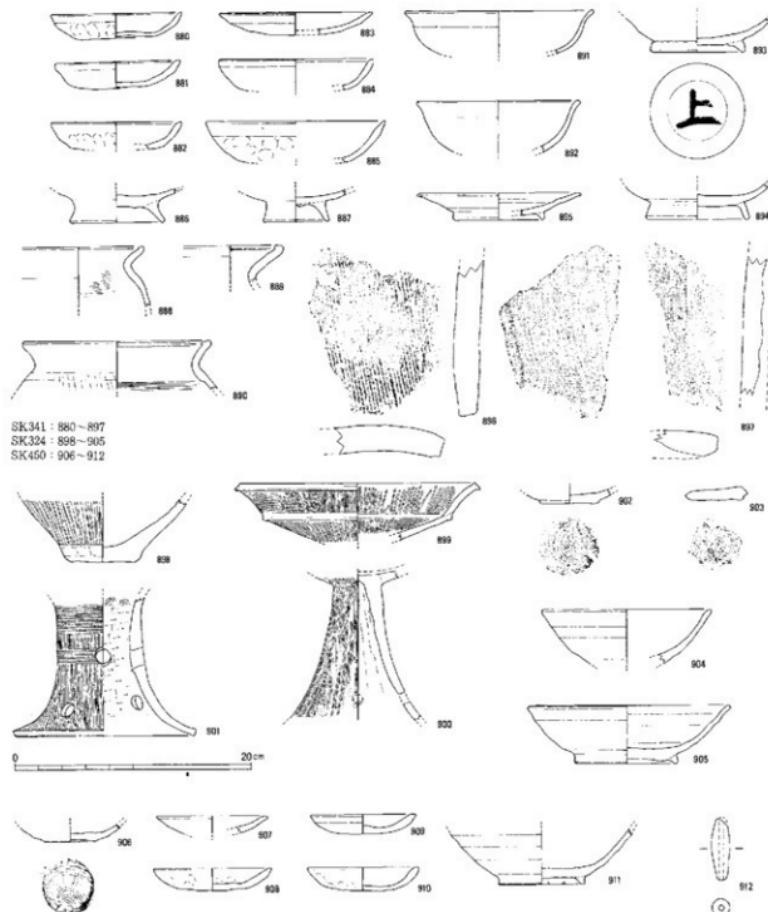
S B 385出土遺物（第103図）

724 は底部が平坦で、口縁部が外反する土師器杯。
725 は底部外面に「田」と思われる線刻がみられる
土師器杯の底部片。726 はロクロ製土師器皿、底部
外面には糸切り痕が残る。727 は頸部にハケメ調整
がみられる土師器甕口縁部片。728 は底部外面に
「木」の線刻がみられる黒色土器碗底部片。これら

は平安時代後期～末期のものと思われる。

S B 386出土遺物（第103図）

729 は土師器杯。口縁部断面が弓状になっている。
平安時代後期～末期のものと思われる。730 は口縁
端部が少し外反する山茶碗口縁部片である。第4型
式に属するものであろう。731・732 は土錘である。



第103図 SK324・341・450出土遺物実測図（1：4）

S B 387出土遺物（第103図）

733 は口縁部ヨコナヂの土師器皿。734 は、底部が未調整で凹凸があり口縁部が外反する土師器皿。
735 は口縁端部が内弯気味の上蓋器皿口縁部片。これらは平安時代後期～末期のものと思われる。736 は口縁端部が少し外反する山茶椀口縁部片である。
第4型式に属するものであろう。

S B 390出土遺物（第103図）

737 は薄手の上飴器杯。口縁部断面が弓形になっている。平安時代後期～末期のものと考えられる。
738 は高台がしっかりしている山茶碗底部片。第4型式に属するものであろう。

S B490出土遺物（第103図）

739 は黒色土器碗か。内面が黒化している。740 は粗製の浅い土器皿、741 は高台がしっかりとした山皿。第 4 式型に属するものか。742 は縦線陶器小壺で口縁部が欠失している。平安時代末期のものか。742 については時期が遅ると思われる。

S K24出土遺物（第104図）

743 は口縁部が少し外反する浅い土師器皿である。
744 は土師器壺の口縁部片である。平安時代前期の
ものと考えられる。

S K42出土遺物（第104圖）

745～747は混入遺物である。平安時代の遺物は
破片が多く割愛した。745は弥生土器壺で口縁部が

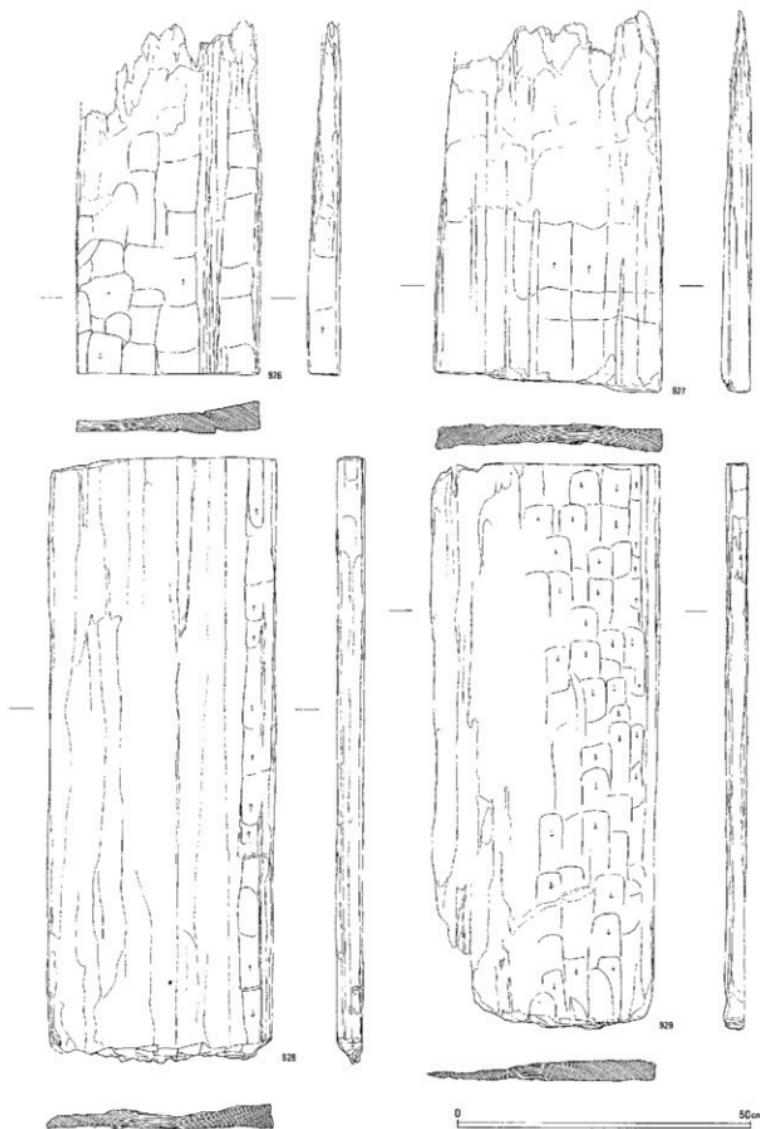
欠ける。丸みを帯びた器形である。746は弥生土器壺で体部が算盤玉のような器形である。口縁部は欠ける。747は口縁部が大きく外反する弥生土器壺である。弥生時代後期前半のものと考えられる。

SK 6 出土遺物（第105回）

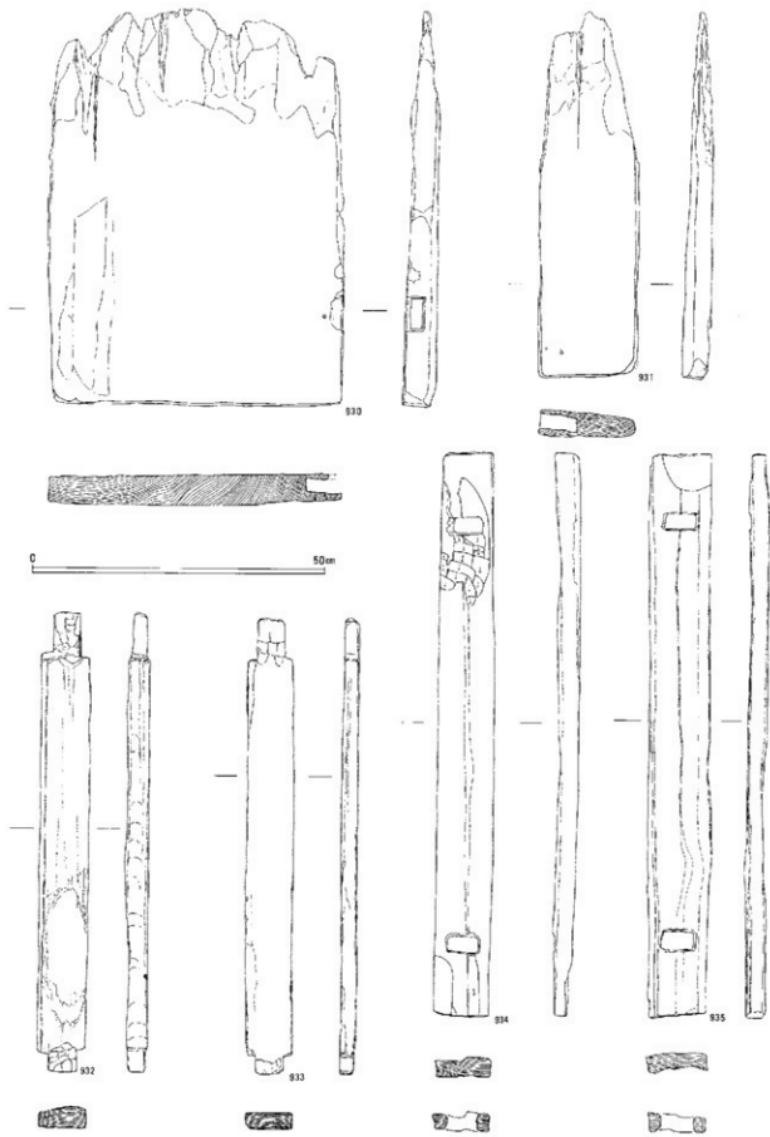
748・749は底部に凹凸がみられる浅い土師器小皿。750～753は口縁部断面が弓状の土師器杯である。754は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器碗である。755は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器碗である。756は口縁部少し外反するロクロ製土師器碗である。757～760は底部内面が少し盛り上がるロクロ製土師器皿である。759は灯明皿と考えられる。761・762はロクロ製土師器台付皿である。763は口縁端部が内弯気味の土師器窓口縁部片。これらは概ね平安時代後期～末期のものと考えられる。764は口縁端部が少し外反する山茶椀である。765・766は山茶椀底部片。第4型式に属するものか。767は須恵器窓の口縁部片。平安時代に属するものか。768はロクロ製土師器底部を使用した加工円盤である。769は木製の留針と思われる。770は直串。切込みが左右2ヶ所に確認できる大型品である。これらに混じって、ムクノキの種実遺体やオオゴミムシとアオゴミムシの羽と牛の下顎骨と脛骨などが出たした。牛骨は何らかの儀礼的な意味を持って土坑内に入れられたのかもしれないが、推定の境をでな



第110図 SE47出土遺物実測図①(1:4)



第111図 SE47出土遺物実測図② (1 : 8)



第112図 SE47出土遺物実測図③ (1 : 8)

S K 45出土遺物（第106・107図）

771 は口縁部断面が弓状の土師器皿である。平安時代後期のものであろう。772～775 は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。平安時代末期のものと考えられる。776 は外表面ともミガキの瓦器碗である。777・778 は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器皿である。これらは平安時代後期のものと考えられる。779～783 は底部内面が少し盛り上がるロクロ製土師器皿である。784～829 は口縁部ヨコナデ、以下ナデ調整とユビオサエがみられる土師器小皿である。これらは平安時代末期のものか。830 は口縁端部ヨコナデの土師器堷口縁部片。平安時代前期のものか。831 は口縁端部が内弯する土師器堷口縁部片。平安時代末期のもの。832 は口縁端部が少し外反する山皿。833～839 は口縁

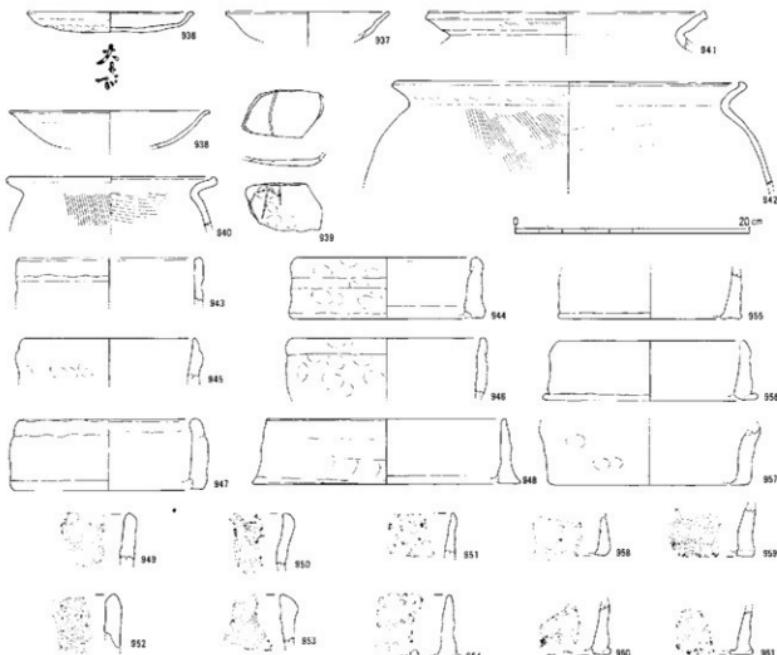
部が少し外反する山茶碗である。第4型式に属するものであろう。840・841 は山茶碗底部片。これらは、第4型式に比定できよう。842 は瓦片。843 は製塙上器口縁部片。いわゆる「志摩式製塙土器」である。844～846 は筒状の土錠。847 は先端が尖っている木製杭。848 は板状木製品である。用途は不明である。

S K 48出土遺物（第108図）

849 は古式土師器高杯の杯部である。古墳時代のもの。850 は口縁部が大きく外反する土師器堷口縁部片。奈良時代のものと考えられる。851 は高台がしっかりしている山茶碗底部片。第4型式に比定できよう。

S K 215出土遺物（第109図）

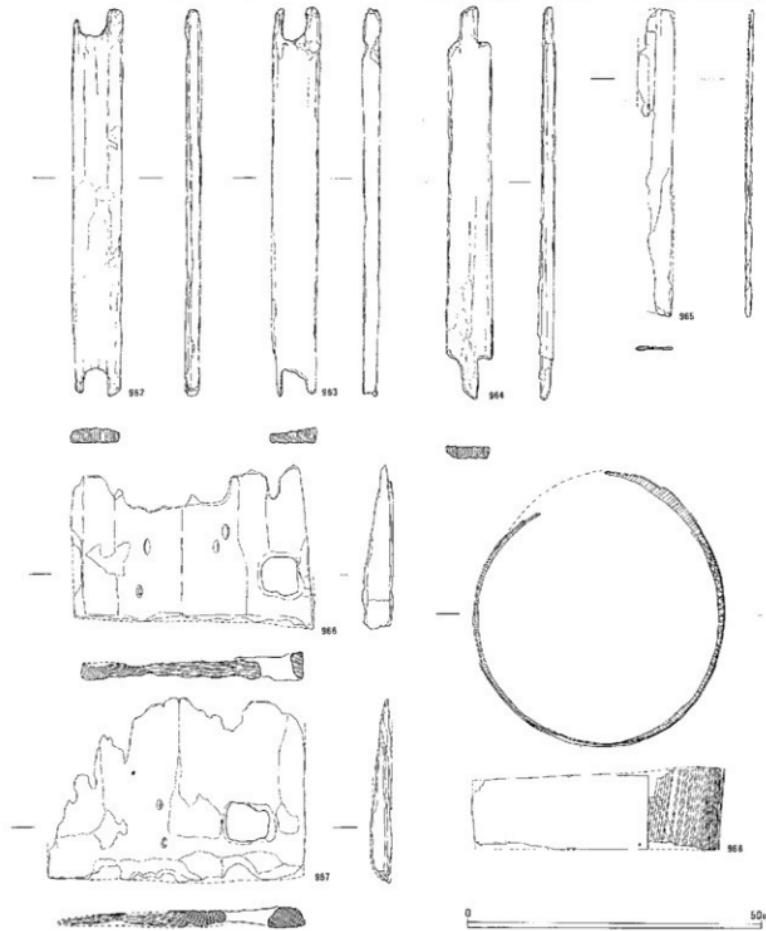
852 は底部の調整が粗雑な浅い土師器小皿である。853～855 は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の



第113図 SE353出土遺物実測図①（1：4）

土師器小皿である。856・857は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器杯である。858は底部が平坦で口縁部が外反する土師器杯である。これらは平安時代末期のものと思われる。859～865は底部に糸切り痕の残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものと考えられる。866は底部内面が少し盛り上がるロクロ製土師器皿である。867～869は

ロクロ製土師器台付皿である。867・868は小型、869は大型である。870はロクロ製土師器碗で底部には糸切り痕が残る。871・872は口縁端部が外反し底部に高台がみられるロクロ土師器碗。873は内外面ともナデの土師器毫口縁部片。これらは平安時代後～末期のものか。874～876は口縁端部が少し外反し、底部から口縁部にかけて直線的な山茶輪で



第114図 SE353出土遺物実測図(②) (1:8)



第115図 SE363出土遺物実測図 (1 : 4, 978~983は1 : 8)

ある。877 は山茶碗底部片、878・879 は口縁端部が少し外反する山皿である。これらは、第4型式に属するものと考えられる。

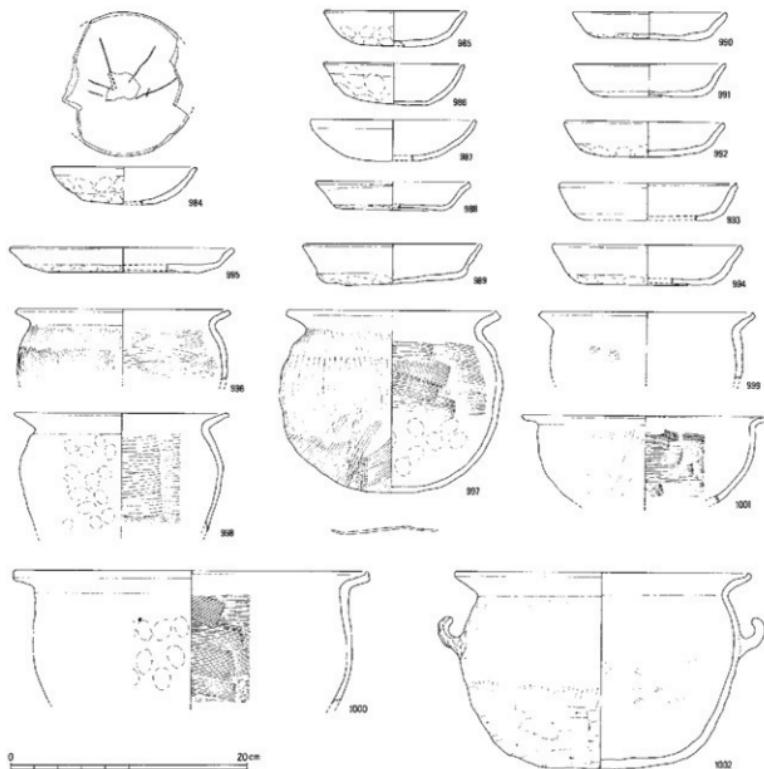
S K 341出土遺物（第109図）

880～885 は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。886・887 はロクロ製土師器台付皿である。888～890 は口縁端部が肥厚する土師器皿口縁部片。これらは平安時代末期に属するものと思われる。891・892 は口縁端部が外反する山茶碗。893・894 は山茶碗底部片。893 は底部外面に「上」の墨書きがみられる。895 は口縁部が直線的に外反する山皿か。これらは、第4型式に比定できよう。

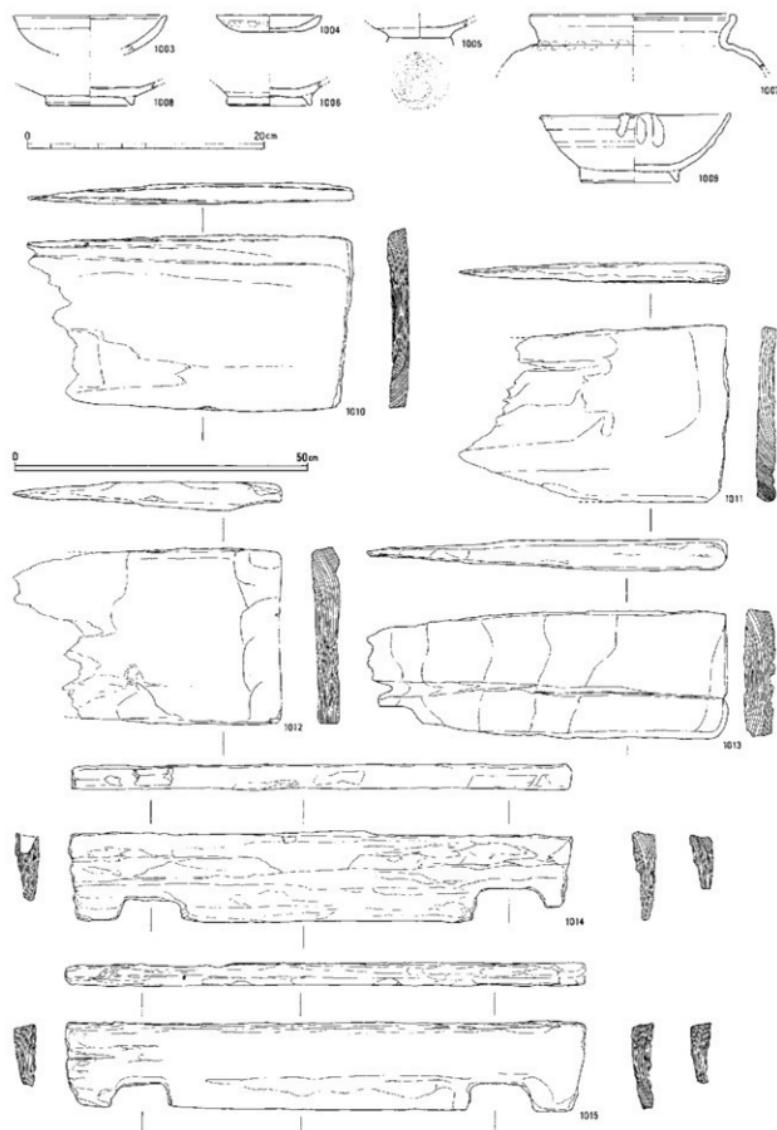
う。896・897 は平瓦片である。これらに混じり、モソの種実遺体が多量に出土した。

S K 324出土遺物（第109図）

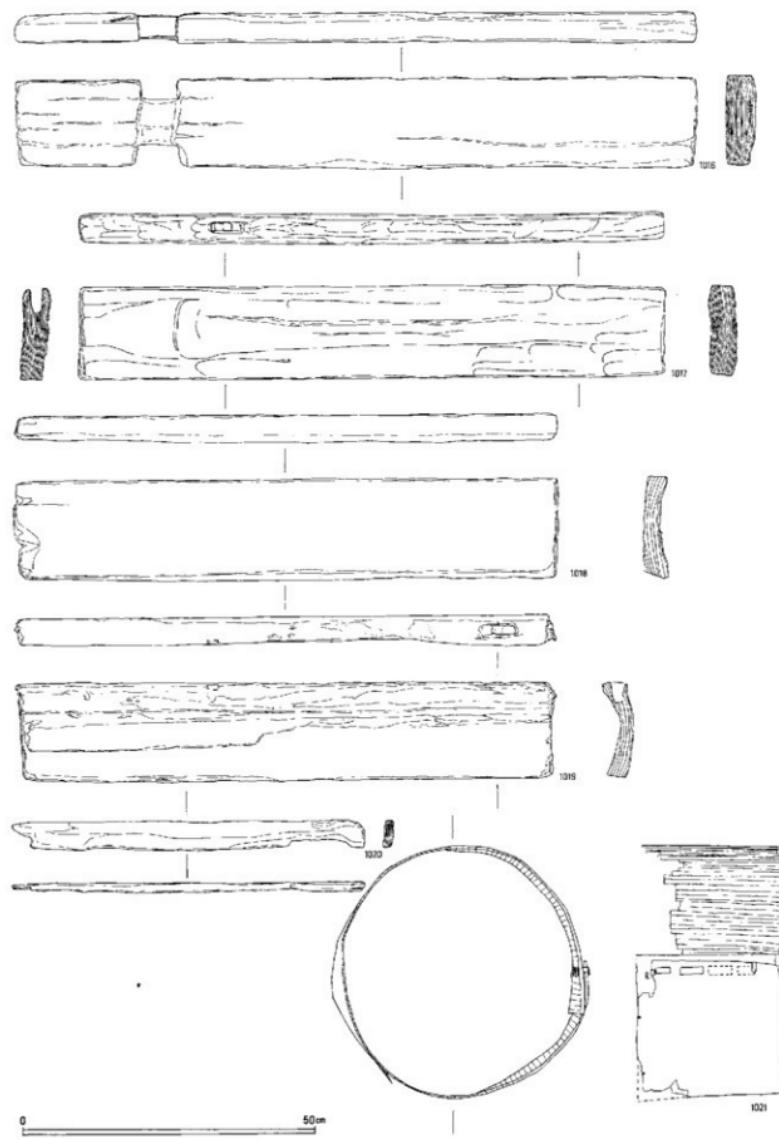
898～901 は弥生土器。898 は壺底部、899 は高杯部、900 は高杯脚部、901 は器台裾部分である。これらは混入遺物で、弥生時代後期前半のものと考えられる。902 はロクロ製土師器皿の底部で糸切り痕が残る。903 はロクロ製土師器皿あるいは碗の底部を利用した加工円盤である。これらは、平安時代末期のものか。904・905 は底部から少し丸みを帯びながら外反する山茶碗。これらは第4型式に比定できよう。



第116図 SE451出土遺物実測図 (1:4)



第117図 SE54出土遺物実測図① (1:4, 1010~1015は1:8)



第118図 SE54出土遺物実測図② (1 : 8)

S K 450出土遺物（第109図）

906 はクロコ製土師器皿の底部で糸切り痕が残る。907 ~ 910 は底部が平坦で口縁部断面が弓状の土師器小皿である。これらは平安時代末期のものと考えられる。911 は底部から少し丸みを帯びながら外反する山茶碗。第4型式に属するものであろう。912 は土壇である。

S E 47出土遺物（第110~112図）

913 ~ 916 は土師器皿である。913 ~ 915 は底部にケズリがみられる。これらは奈良時代のものと考えられる。916 は底部外面に「#」の線刻であろうか。これは修験者が用いた護身呪法の「九字」を表す。志摩地方では「ドーマン」と呼ばれているものを略したものと考えられる。917 ~ 918 は土師器杯である。919 は内面に3条の線刻が重なっている。土師器皿か。920 は内面に3条の線刻が施されているが、何を表しているのかは不明である。土師器皿か。921 ~ 923 は土師器皿口縁部片である。923 は大型品である。924 は外面ミガキの土師器高杯か。これらは平安時代前期のものと思われる。925 はいわゆる「志摩式製塙器」の口縁部片である。平安時代のものであろう。926 ~ 935 は井戸枠である。926 ~ 931 は板状の井戸枠縦板である。930 と 931 は調査時は1つのものと考えていたが、取り上げ後1ヶ所の柄穴による柄組であることが判明した。板枠組a類に相当する。932 ~ 935 で井戸枠横桟で、方形に組まれていた。932, 933 が934, 935 に入れ込んである、包み込み柄組みと考えられる。これらに混じり、モモの種実遺体も出土した。

S E 353出土遺物（第113・114図）

936 は底部外面に「大吉」の墨書きがある口縁部外反する土師器皿、937, 938 は口縁部が少し外反する土師器杯であろう。939 は上部器皿の底部か。内外面ともに線刻が施されているが、何を表しているのかは不明である。940 ~ 942 は土師器皿の口縁部

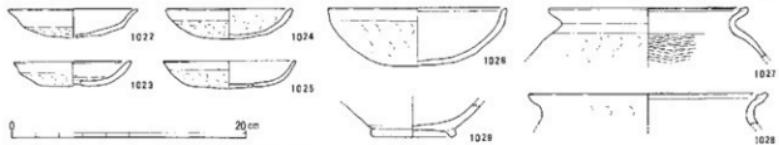
片。942 は大型品。これらは平安時代前期のものと考えられる。943 ~ 961 はいわゆる「志摩式製塙土器」である。943 ~ 954 は口縁部片である。947 ~ 948, 954 のように破片ではあるが口縁部から底部まで残存していることがある。955 ~ 961 は底部片である。962 ~ 967 は井戸枠。962 ~ 964 は形状は細長い。井戸枠の横桟で方形に組まれていたもので、目違い柄組みと思われる。965 は横桟の一部と思われるが、出土状況からは判断に苦しむ。966 ~ 967 は板状のもので井戸枠縦板である。横桟の外側にえらべられていた。968 は井戸底にえらべられた曲物である。残存状況は不良である。側板内面に縦平行線のケビキがみられる。一部に斜行しているケビキと重複している部分がある。これらに混じり、モモの種実遺体も出土した。

S E 363出土遺物（第115図）

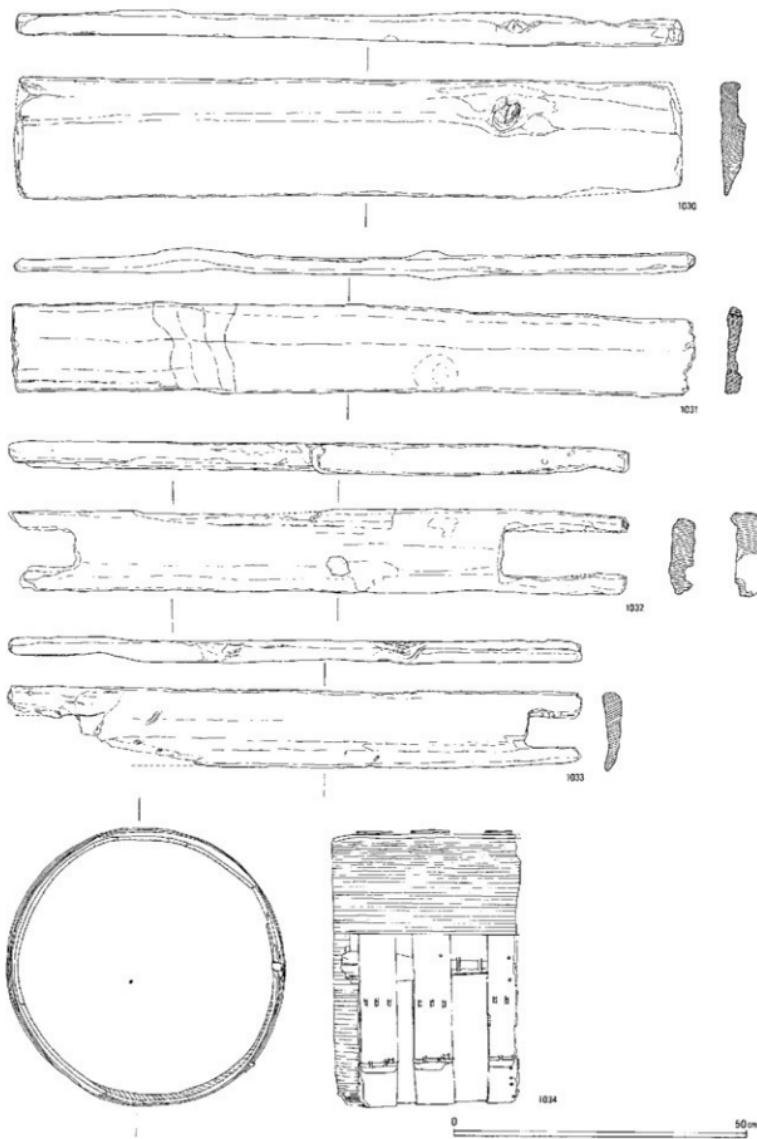
969 ~ 972 は口縁部外反し、口縁部が肥厚する土師器杯である。969 ~ 971 は底部内面に線刻が施されている。これらは「ドーマン」を省略したものと思われる。973 ~ 977 は土師器皿の口縁部片である。973 ~ 976 はきつく屈曲した口縁部が特徴的である。977 は口縁部の屈曲がそれほどなく、口縁部から部体上半まで残る。これらは平安時代前期のものと思われる。978 ~ 979 は井戸枠縦板の一部と考えられるが、どのように使用されていたのか出土状況からでは何ともいえない。980 ~ 983 は井戸枠横桟。一方の横桟だけに柄穴を穿ち方形に組んでいたものである。

S E 451出土遺物（第116図）

984 ~ 987 は土師器杯。底部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。984 は土器内面に放射状の5条の線刻が確認できる。988 ~ 994 は土師器杯。底部の調整が粗雑で口縁部が少し外反気味のもの。995 は土師器皿。底部の調整が粗雑で口縁部が少し外反する。996 ~ 999 は土師器皿である。997 は体



第119図 SE217出土遺物実測図① (1:4)



第120図 SE217出土遺物実測図② (1 : 8)

部球形で外面は粗いハケメ、底部外面に1条の線刻が施されたもの。998・999は調整が粗雑な体部球形になる壺である。1000~1002は口縁部の外反が強く底部が平坦な土師器皿。1002は体部上半に把手がつくものである。これらは、平安時代前期に属するものであろう。

S E 54出土遺物（第117・118図）

1003は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。1004は口縁部ヨコナア、底部の調整が粗雑な土師器皿。1005は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1006は底部に高台がみられるロクロ製土師器碗である。1007は口縁端部は内湾し内外面ともナデの土師器壺口縁部片。これらは平安時代末期のものと思われる。1008は山茶椀底部片。1009は口縁端部に輪花が施された山茶椀である。これらは第4型式に属するものと考えられる。1010~1020は井戸杓。1010~1013は井戸杓擬板である。井戸の上面に近い部分ほど腐食がすんでいる。1014~1019は井戸杓横板である。1014・1015は横板を挿入するための枘穴を2ヶ所に施しているのがわかる。1016~1019は切斷面の腐食が激しい。1016は一部分が切り取られている。井戸杓を組むためや横板を組むというよりは不要になった板材を転用し、横板として使用したものと考えたい。1020は井戸杓横板と考えられるが原形をとどめないほど腐食が激しい。1021は曲物である。壺は落ちてしまったのか確認で

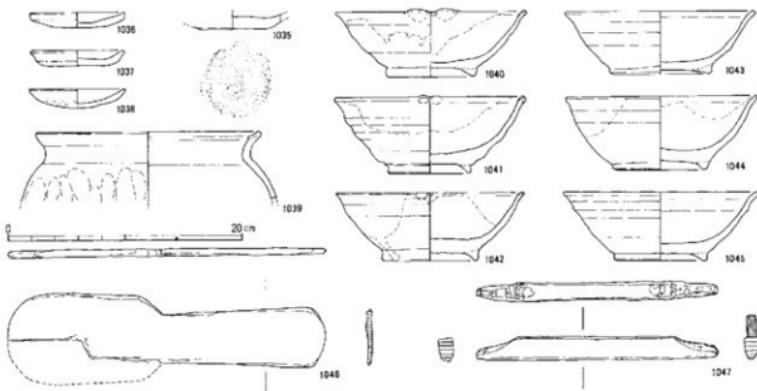
きなかった。側板は1列の棒皮縫じ、内面には継平行線のケビキがみられる。これら以外にも、モモの種実遺体が出土した。

S E 217出土遺物（第119・120図）

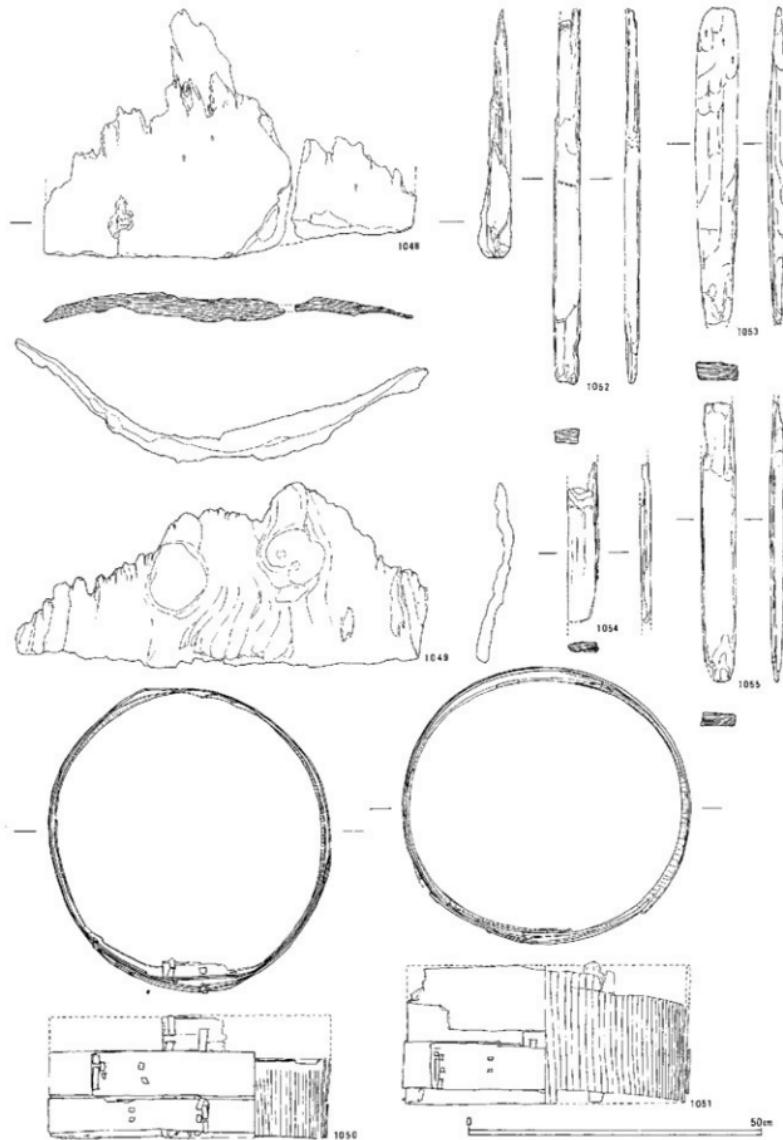
1022は底部の調整が粗雑で口縁部が外反する土師器皿である。平安時代後期のものと思われる。1023~1025は口縁部ヨコナア、底部の調整が粗雑な土師器皿。1026は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器杯である。1027・1028は口縁端部は内湾し内外面ともナデの土師器壺口縁部片。これらは平安時代末期のものと思われる。1029は山茶椀底部片。第4型式に属するものと考えられる。1030~1033は井戸杓横板である。1032・1033は横板を挿入するための枘穴を両端に入れているが、横板は出土状況から確認できなかった。しかしながら、本米は横板が存在したものと考えられる。1034は円形曲物である。蓋は2列の棒皮縫じがされているものが3段、蓋と側板の間1ヶ所添木を挿入している。側板は1列の棒皮縫じで、内面には継平行線のケビキをいれている。

S E 218出土遺物（第121・122図）

1035は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。平安時代後期のものと考えられる。1036は底部の調整が粗雑で口縁部ヨコナアの土師器小皿、1037は底部が平坦で口縁部が外反する土師器小皿、1038は底部の調整が粗雑で口縁部断面が弓状の土師



第121図 SE218出土遺物実測図① (1:4)



第122图 SE218出土遗物实测图② (1:8)

器小皿である。これらは平安時代末期のものと思われる。1039は口縁端部は肥厚し内外面ともナデの土師器甕口縁部片。平安時代末期のものと思われる。1040～1042は口縁端部が少し外反し、口縁部に輪花が施されている山茶碗である。1043～1045は口縁端部が少し外反する山茶碗である。これらは、第4型式に属するものと考えられる。1046は杓子形木器、1047は糸車の一部であろう。1048・1049は井戸枠。木の外縁を利用したものか。1050・1051は円形曲物。1052は柳皮縫じ2列の稚が2段残る。側板は柳皮縫じ2列で、内面には縦平行線のケビキをいれています。1051は稚は1段残り、2列の柳皮縫じである。稚と側板の間一ヶ所添木を挿入している。側板内面には縦平行線のケビキをいれています。1052～1055は曲物などの添板として使用されていたものと考えられる。

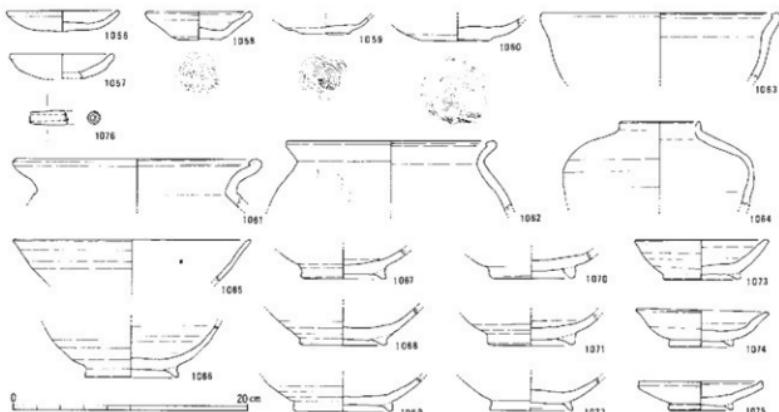
S E 323出土遺物（第123～125図）

1056・1057は底部が平坦で口縁部断面が弓状の土師器皿である。1058～1060は底部内面が若干隆起し、底部外面には糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1061・1062は口縁端部は内弯し内外面ともナデの土師器甕口縁部片。これらは平安時代末期のものと思われる。1063は土師器鉢か。口縁端部内弯し内外面ともナデである。1064は須恵器短頭壺である。これらは平安時代のものと考えられる。1065は口縁部が直線的な山茶碗口縁部片、1066～1072は山茶碗底

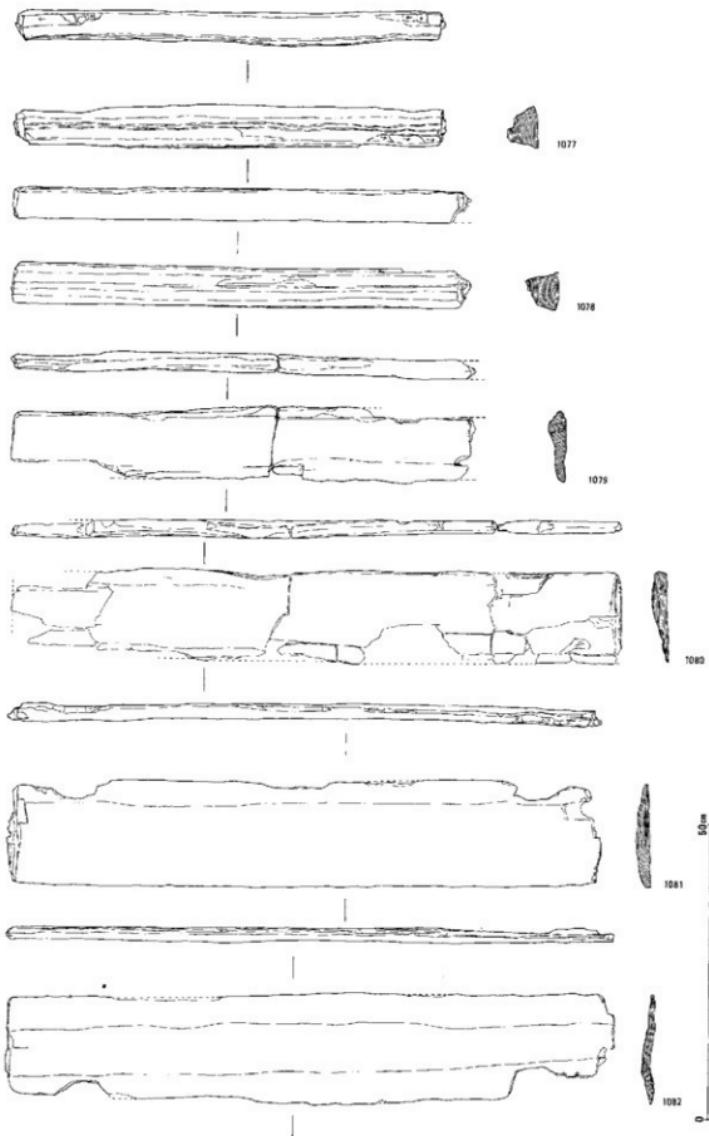
部片。高台の形状は様々である。1073～1075は山皿。口縁部が外反するものや直線的なものがみられる。これらは第4型式に属するものと考えられる。1076は筒状の土鍾。1077・1078は井戸枠横桟。1079～1082は井戸枠横板として埋設されていたものである。1079・1080は横桟を挿入する枘穴が1ヶ所確認できるが、遺存状態が悪く全容がわからない。1081・1082の両端に近い部分に横桟を挿入する枘穴を2ヶ所施している。1083～1089は井戸枠の縦板として使用されていた。横板の周りに打ち込まれていた。1090は円形曲物である。稚は2段残りそれぞれ3列の柳皮縫じである。側板は1列の柳皮縫じで内面には縦平行線のケビキがいれられている。これら以外に、ヒメビシやモソなどの種実遺体が多量に出土した。

S E 337出土遺物（第126図）

1091は底部が平坦で口縁部が外反する土師器皿、1092～1094は底部の調整が粗く口縁部断面が弓状の土師器皿である。これらは平安時代末期に属するものといえよう。1095はロクロ製土師器台付皿である。平安時代後～末期のものか。1096は口縁端部が外反する高台が高い山茶碗である。1097は口縁部少し外反する山茶碗である。これらは第4型式に比定できよう。1098・1099は井戸枠、どのように使用されていたのかは出土状況からも判断しづらいが横桟と思われる。1100・1101は円形曲物である。1100は稚は



第123図 SE323出土遺物実測図①（1：4）

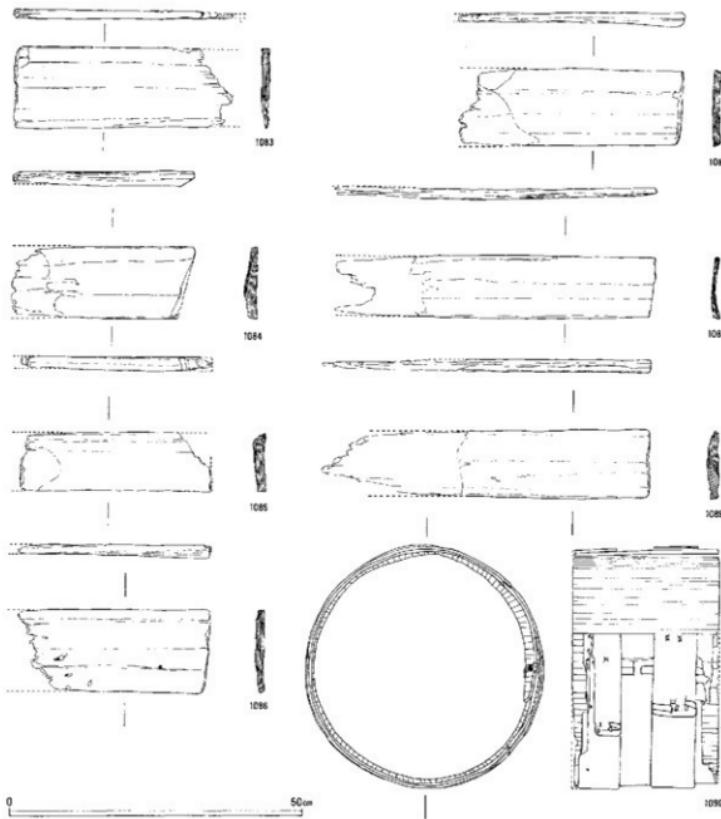


第124図 SE323出土遺物実測図② (1 : 8)

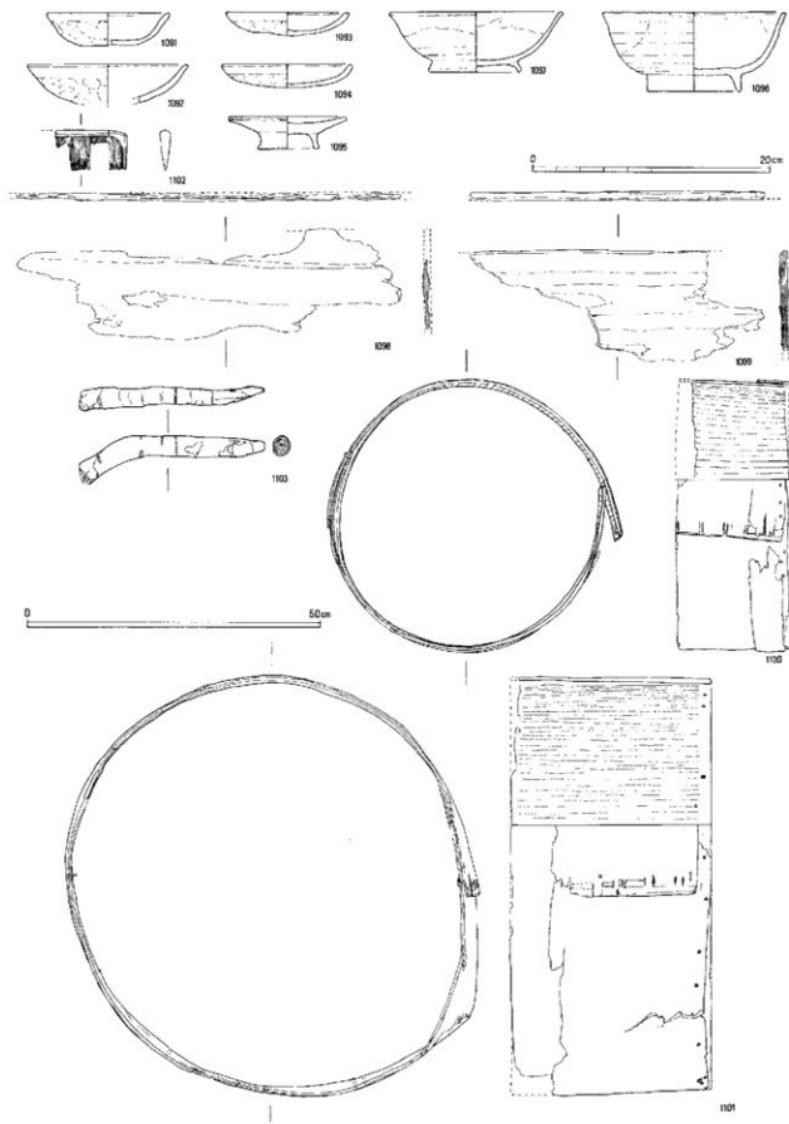
1段残り縦じ合わせの部分が欠けている。側板と結合するための結合孔が下方にみられる。側板は1列の桿皮縫じ、内面には縦平行線のケビキがいれられている。蓋を固定するための結合孔が下部にみられる。1101は蓋ではなく側板が1列の桿皮縫じで留められているのがわかる。また、側板内面には縦平行線のケビキがいれられ、下部には蓋を固定する結合孔が施されている。1102は挽歛横櫛。1103は先端が削られ尖っている。杭と考えられる。

S E 345出土遺物（第127図）

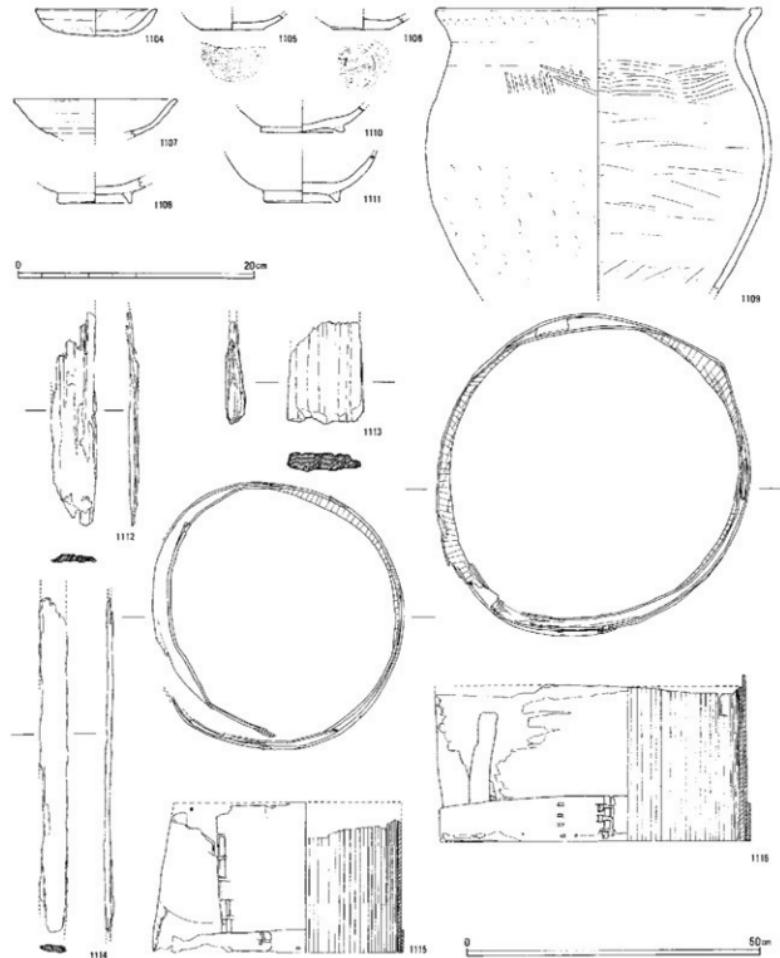
1104は口縁部ヨコナデの土師器皿。1105・1106は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1107は口縁部が少し外反する口縁部片、1108は高台の残る底部片。これらはロクロ製土師器碗である。1109は口縁端部が肥厚する土師器甕である。これらは平安時代後期～末期に属するものと思われる。1110・1111は山茶碗底部片である。これらは第4型式のものか。1112～1114は井戸枠と思われる。破片であるため判断に苦しむが、1112・1113は縦板、1114は横



第125図 SE323出土遺物実測図③（1：8）



第126図 SE337出土遺物実測図 (1:4, 1098~1101は1:8)



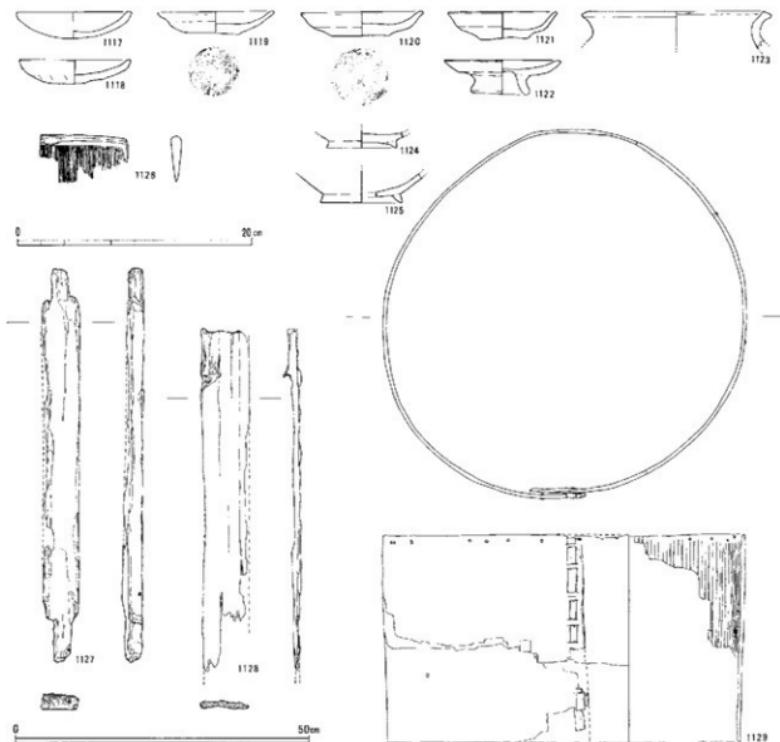
第127図 SE345出土遺物実測図（1：4, 1112～1116は1：8）

棟か。1115は円形曲物である。1列の桿皮綴じの箇が1段残り、側板は1列の桿皮綴じで、内面には桿平行線のケビキがみられる。箇と側板には下部に結合孔がみられる。1116は円形曲物である。3列の桿皮綴じの箇が1段残り、側板は縫じ合わせ部分が欠失し、内面には桿平行線のケビキがみられ、下部には箇を固定する結合孔もみられる。また、箇と側板の間には添木が3ヶ所挿入されている。これら以外に、モモ、ウメ、ヒヨウタン類などの種実遺体が出土した。

S E 357出土遺物（第128図）

1117・1118は口縁部ヨコナダネの土師器皿である。

1119～1121は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土師器皿である。1122はロクロ製土師器台付皿である。高台の脚部が外に開く。1123は口縁部が外反する土師器焼口縁部片である。これらは平安時代後期～末期のものと考えられる。1124・1125は山茶施の高台がしっかりした底部片である。第4型式に属するものと考えられる。1126は挽歛横櫛の破片である。齒の部分も残存する。1127・1128は井戸枠と考えられるが、どのように使用されていたのかは不明である。敢えていうなら横桟部分であろうか。1129は曲物である。側板は1列の桿皮綴じ、箇は残存していないかった。上部には箇を留めていたであろう結合孔が施



第128図 SE357出土遺物実測図（1：4, 1127～1129は1：8）

されている。側板内面には縦平行線のケビキがみられる。

S E 358出土遺物（第129図）

1130は口縁部が外反する土師器杯である。1131・1132は土師器壺の口縁部片である。1131の口縁部はあまり外反しない。1133は土師器壺の底部片である。これらは平安時代後期のものか。1134は陶器の底部片。平安時代末期のものと思われる。1135は「志摩式製塙土器」の底部片である。1136は土鍤である。粗雑な作り方である。1137・1138は井戸柱と考えられるが、どの部分に使用されていたのかは不明である。敢ていうなら縦板部分か。1139は挽歯横櫛の破片で歯の部分も若干残存している。これら以外に、そぞの種実遺体も出土した。

S D 21出土遺物（第130図）

1140は弥生土器壺の体部から底部にかけてのもの。弥生時代後期前半のものと考えられる。混入遺物である。1141は底部が平坦で口縁部が若干外反する須恵器杯。奈良時代のものと考えられる。1142は内外面ともナデ調整の土師器壺である。平安時代前期のものか。

S D 28出土遺物（第130図）

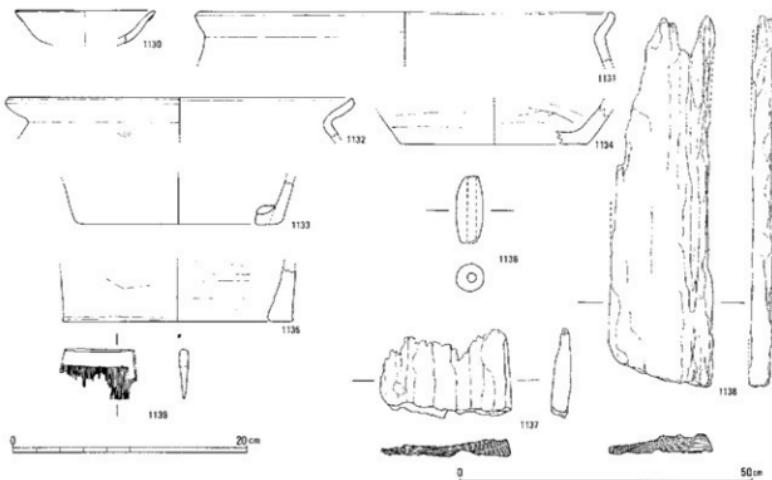
1143は底部が平坦で口縁部断面が弓形の土師器皿、平安時代前期のものか。1144は「志摩式製塙土器」で、底部から口縁部近くまで残存する。平安時代のものと思われる。

S D 39出土遺物（第130図）

1145は底部が平坦で口縁部が少し外反する土師器杯である。平安時代後期のものと考えられる。

S D 4 出土遺物（第131～134図）

1146・1147は土師器長頸壺口縁部片である。1148は内弯気味に口縁部が立ち上がり、1149は口縁部がほぼ水平に外反する土師器高杯の杯部である。1150は土製龜か。1151は底部から鋭角的に外反する須恵器杯。1152は須恵器台付皿。1153は須恵器長頸壺である。口縁端部が屈曲する口縁から頭部にかけてのもの。1154は須恵器長頸壺。底部が台付の体部片である。これらは奈良時代のものと思われる。1155～1166は土師器皿。1155～1161は底部が水平で、口縁部断面が弓状のもの。1160の内外面には修飾者の渡身祝法に関わる「ドーマン」の線刻が施されている。1162～1166は底部は平坦、口縁部は少し外反し口縁



第129図 SE 358出土遺物実測図 (1 : 4, 1137・1138は1 : 8)

端部が少し肥厚するものである。1167～1185までは底部は平坦、口縁部は少し外反し口縁端部が少し肥厚する土師器杯である。1167は底部内面には、「ドーマン」を省略したものと考えられる「#」と、「×」と考えられる線刻が施されている。1170は底部外面に墨書きがみられる。「田」であろうか。1178は底部内面に「#」と考えられる線刻がみられる。「ドーマン」を省略したものと考えてもよいであろう。1186は底部は平坦、口縁部は少し外反し口縁端部も少し外反するものである。これらは平安時代前期に属すると考えられる。1187は底部外面に数条の線刻が施された杯底部片か。1188は底部は平坦、口縁部が受け口状になる杯である。これは時期は若干遅るものか。1189～1192は体部球形の土師器壺。1193～1196は口縁部が外反し、内外面ともハケメ調整の土師器鍋。これらは奈良時代に属するものか。1197～1199は口径が体部最大径よりも大きく底部が平坦で偏平な土師器鍋である。これらは平安時代前期のものと思われる。1200～1213は「志摩式製塙土器」である。多量の出土があった。その一部である。これらは平安時代のもの。1214～1216は須恵器壺の口縁部片、1217は陶器壺の底部片である。平安時代のものか。1218は丸瓦片。1219は山茶椀の口縁部片。1220は山茶椀底部片。第4型式のものと考えられる。

1221・1222は円筒状の土錐。

S X318出土遺物（第135図）

1223は口縁端部外反し、口縁部に輪花がみられる山茶椀、1224は口縁端部が外反する山茶椀である。藏骨器として使用されていたと考えられる。これらは、第4型式に属するものであろう。

S X419出土遺物（第135図）

1225は口縁端部が外反する山茶椀である。藏骨器として使用されていたものか。これらは、第4型式に属するものであろう。

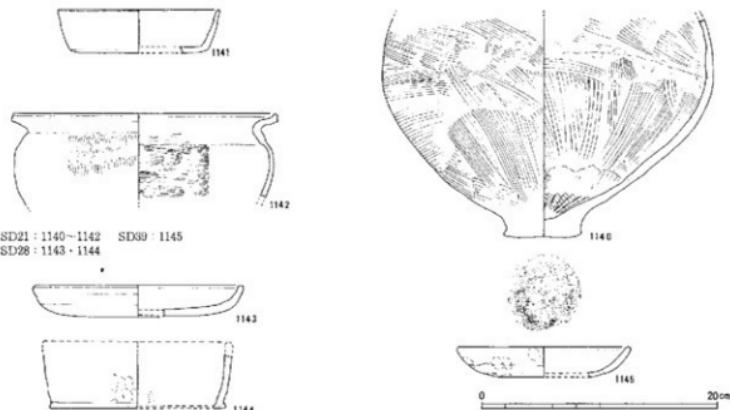
鎌倉時代

S B491出土遺物（第136図）

1226・1227は口縁部ヨコナデの土師器小皿。これらは平安時代末期のものと思われる。1228は口縁端部が少し外反する山皿である。第4型式と考えられる。1229は口縁部が直線的な山茶椀である。第5型式に属するものであろう。1230は山茶椀底部片である。1229と同時期といえよう。

S K10出土遺物（第136図）

1231・1232は口縁部ヨコナデの土師器小皿である。1233は底部に糸切り痕が残るロクロ製土師器碗である。1234・1235は土師器甕。口縁部内弯するもの。これらは、平安時代後期～末期のものと思われる。



第130図 SD21・28・39出土遺物実測図（1：4）

1236は山茶椀底部片。高台部分が高くなっている。1237・1238は口縁部が外反する山茶柄。これらは第4～5型式に属するものと思われる。1239・1240は山茶椀底部片である。高台が低く、口縁部が直線的に外反するものか。第5型式に比定できるものか。

S K 22出土遺物（第136図）

1241は口縁部外反し、頭部に數枚横線文がみられる弥生土器蓋、1242は弥生土器底部片。これらは弥生時代後期前半のものと考えられる。1243は古式土器小型丸底壺。古墳時代のもの。1244は口縁部が内弯する土器壺口縁部片である。平安時代末期のものといえよう。1245・1246は山茶椀底部片。高台の形状から第5型式に属するものであろう。

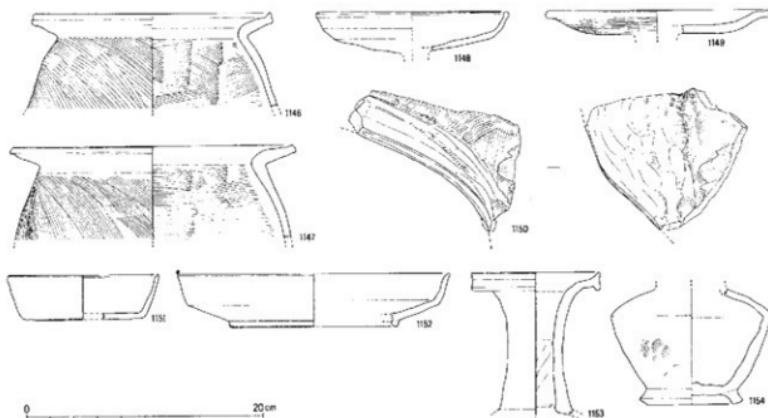
S K 43出土遺物（第136図）

1247は弥生土器蓋。1248は口縁端部に刺突文、内弯する口縁部には横線文が施されている弥生土器蓋口縁部片である。1249は土器外面ミガキの弥生土器蓋底部片。これらは弥生時代後期前半のものといえよう。1250・1251は底部が平坦で調整が粗く口縁部が外反する土器杯である。1252は口縁端部が少し外反するロクロ製土器皿である。底部外面に糸切り痕が残る。1253は口縁部が底部から直線的に開くロクロ製土器台付皿である。これらは概ね平安時代後期のものであろう。1254は口縁部ヨコナデの上

師器小皿。平安時代末期のものといえよう。1255は土器器蓋。平安時代前期～中期のものか。1256は口縁部外反し、頭部の屈曲が顕著な土器器蓋。平安時代のものか。1257は底部の調整が粗く底部から口縁部にかけて内弯する薄手の土器器皿。鎌倉時代のものと考えられる。1258は口縁端部外反する山茶碗口縁部片、1259・1260は貼り付け高台の山茶椀底部片である。第5型式に比定できよう。1261は製塩土器口縁部片。「志摩式製塩土器」である。1262は筒状で中央部分が膨らむ土錘である。

S K 220出土遺物（第137図）

平安時代後期から鎌倉時代までの遺物が混在する。1263・1264は底部が平坦で調整が粗く口縁部が外反する土器器杯である。1265はロクロ製土器碗底部片。底部外面に糸切り痕が残る。1266は底部から口縁部にかけて直線的なロクロ製土器皿である。底部外面に糸切り痕が残る。これらは概ね平安時代後期のものであろう。1267は口縁沿部が少し外反するロクロ製土器皿。底部内面が隆起、外面には糸切り痕が残る。1268・1269は口縁部端部が肥厚し、頭部の屈曲が顕著な土器器蓋の口縁部である。これらは平安時代後～末期のものと考えられる。1270は口縁部ヨコナデの浅い土器器皿。鎌倉時代のものと考えられる。1271は土器内面に漆の付着がみられる

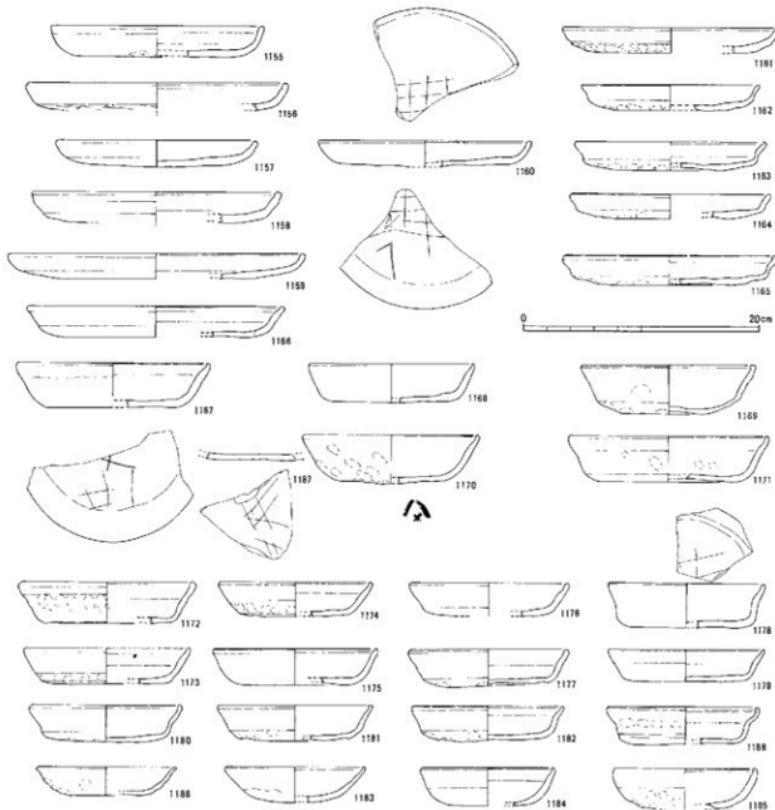


第131図 SD4出土遺物実測図① (1:4)

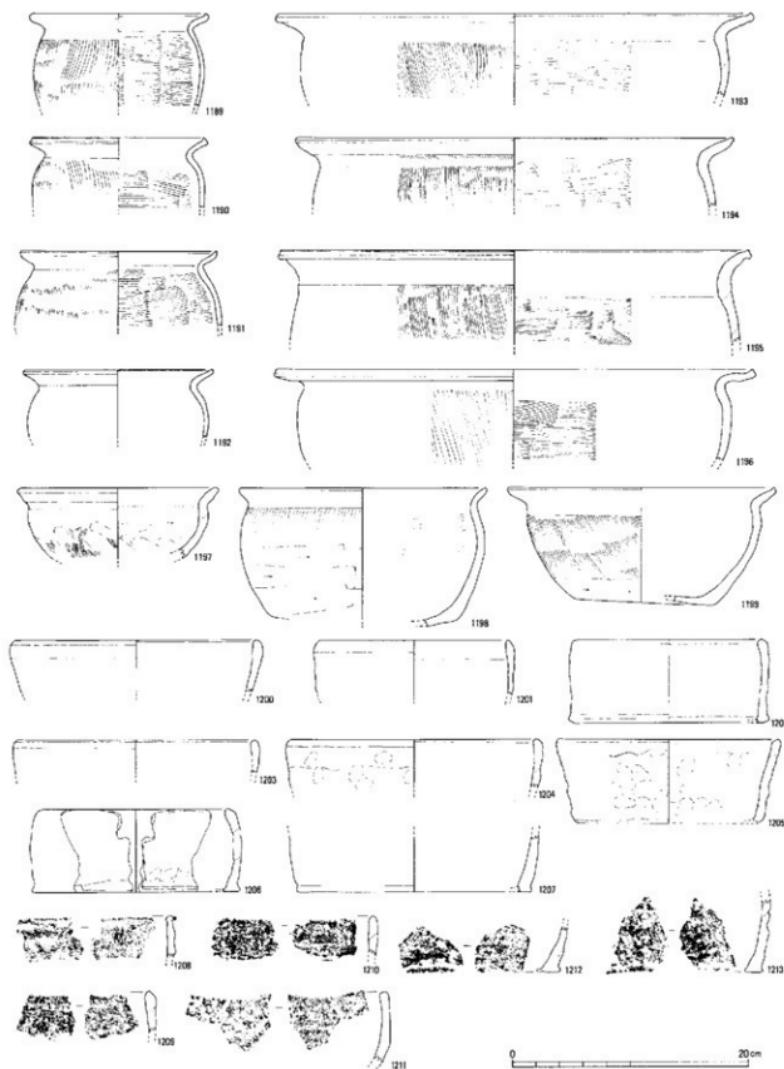
山皿、1272は口縁端部外反の山皿である。これらは第4型式に属するものであろう。1273～1276は口縁端部外反の山茶椀。1277～1282は貼り付け高台の山茶椀底部片である。1280の底部外面には「十」の墨書きがみられる。これらは概ね第5型式に比定できるのではないか。1283は陶器壺あるいは壺の底部か。鎌倉時代のものと思われる。1284・1285は土鍤である。SK367出土遺物（第138図）

1286～1290は口縁部の断面形が弓状の土師器皿片。平安時代後期のものと思われる。1291～1300は口縁

部ヨコナデ、底部調整が粗雑な土師器小皿である。これらは平安時代末期に属すると考えられる。1301～1305はロクロ製土師器碗である。底部外面に糸切り痕が残る。1306～1311はロクロ製土師器皿。底部外面に糸切り痕が残る。1312はロクロ製土師器台付皿の高台部分で、土器内面に墨書きがみられる。これらは概ね平安時代後期のものであろう。1313・1314は口縁部が肥厚し頸部屈曲が強い土師器壺口縁部片。これらは平安時代末期～鎌倉時代のものと考えられる。1315は口縁部が内寄し底部の調整が粗い薄手の



第138図 SD4出土遺物実測図② (1 : 4)



第133図 SD4出土遺物実測図③ (1 : 4)

土師器皿片である。鎌倉時代のものと考えられる。1316・1317は口縁部外反、高台が低い山廻である。1317の底部外面には「上」の墨書きがみられる。これらは第4型式に比定できよう。1318は口縁部が外反する山茶碗口縁部片。1319・1320は口縁部から底部にかけて直線的な山茶碗。これらは第5型式に属するものであろう。1321・1324は低い貼り付け高台の山茶碗底部片である。1321は底部外面に墨書きが見られるが判読できない。1325は山茶碗の底部片か。底部外面には線刻がみられる。判読はできない。これらは概ね第5～6型式の範囲であろう。1326は木製杭である。これら以外に、モモの種子遺体も出土した。

S K223出土遺物（第139図）

平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1327はロクロ製土師器碗底部片。底部外面に糸切り痕が残る。1328はロクロ製土師器皿の底部片。底部外面に糸切り痕が残る。これらは概ね平安時代後～末期のものであろう。1329～1334は口縁部が内

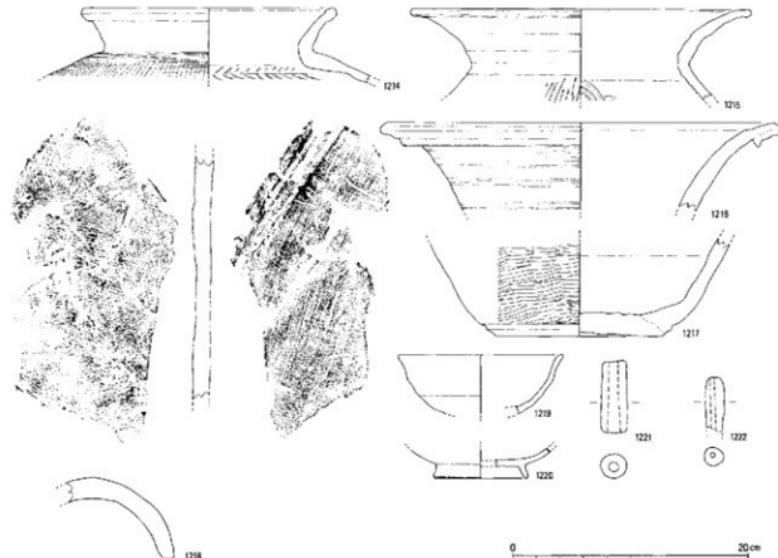
寄し底部調整が粗雑な薄手の土師器皿である。1335～1342は底の調整が粗雑で薄手の土師器小皿。これらは鎌倉時代に属するものであろう。1343は低い貼り付け高台の山茶碗底部片である。第5～6型式に比定できるのではないか。

S K407出土遺物（第139図）

1344は底部が平坦で、口縁部が外反する土師器杯である。底部の調整粗い。平安時代前期のものか。1345～1347は口縁部が内寄し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。

S K418出土遺物（第139図）

1348は底部が平坦で口縁部が直線的に立ち上がる土師器皿である。底部の調整粗雑である。平安時代前期のものか。1349は口縁部断面が弓状の土師器小皿である。平安時代末期のものと考えられる。1350は口縁部が外反する薄手の土師器小皿である。1351は南伊勢系の土師器鍋口縁部片である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1352は低い貼り付け高台



第134図 SD4出土遺物実測図④ (1 : 4)

の山皿。第4型式に属するものであろう。1353は高台がわかりにくい山皿である。1354・1355は口縁端部外反、高台が低い山茶碗。1356は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗である。これらは概ね第5型式に属するものであろう。

S K415出土遺物（第139図）

1357は、口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。鎌倉時代のものと考えられる。1358は口縁端部外反がきつい山茶碗口縁部片。1359は高台の低い山茶碗底部片である。これらは概ね第5型式に比定できよう。

S E 46出土遺物（第140～148図）

1360～1379は口縁部ヨコナデ、底部調整が粗雑な土師器小皿。1380～1382は口縁部内弯し頭部の屈曲が強い土師器皿。これらは平安時代末期に属するものであろう。1383はロクロ製土師器皿である。1384・1385は口縁部が外反し、低い貼り付け高台の山皿。第4型式に属するものであろう。1386は口縁部外反の山茶碗口縁部片。1387・1388は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗である。これらは概ね第5型式に属するものであろう。1389は底部外面に「上」の墨書きがみられる山茶碗底部片。1390は黒色土師器、平安時代後期のものか。1391はロクロ製土師器の底部を使用した加工円盤。1392は陶器底部を使用した加工円盤。1393は円形曲物である。土圧か何らかの力が加わって現状は梢円形である。兼は1段残り2列の桙皮縫じ、側板は1列の桙皮縫じで内面には綫平行線のケビキが施されている。兼と側板の間には4ヶ所に添木が挿入されている。1394は円形曲物。兼は2段残りそれぞれ2列の桙皮縫じで内面には綫平行線のケビキをいれている。側板は1列の桙皮縫じで内面には綫平行線のケビキをいれている。1395は円形曲物、土圧か何らかの力が加わって現状は梢円形を呈している。兼は2段残り、それぞれ2ヶ所の桙皮縫じである。側板は1列の桙皮縫じで内面には綫平行線のケビキをいれている。兼と側板の間には

ヶ所添木が挿入している。1396～1433は井戸棒の縱板として埋設されていたもの。縱板の先端は腐食の度合いが激しく細くなっているものが多い。1397～1405は木の形状を利用して立体的に木取りされているもの。1406～1433は板状のものであるが、1409・1410・1412・1415などは板状であったのかどうか疑問ではある。1396は容器として使用されていた曲物の底部分であろう。井戸棒の縱板に転用されていた。1429・1431も転用の可能性がある。1434～1436は横位に埋設されていたものである。曲物を固定するために使われていたようだが、横様とは考えにくい。これら以外に、モモの種実遺体が出土した。

S E 55出土遺物（第149図）

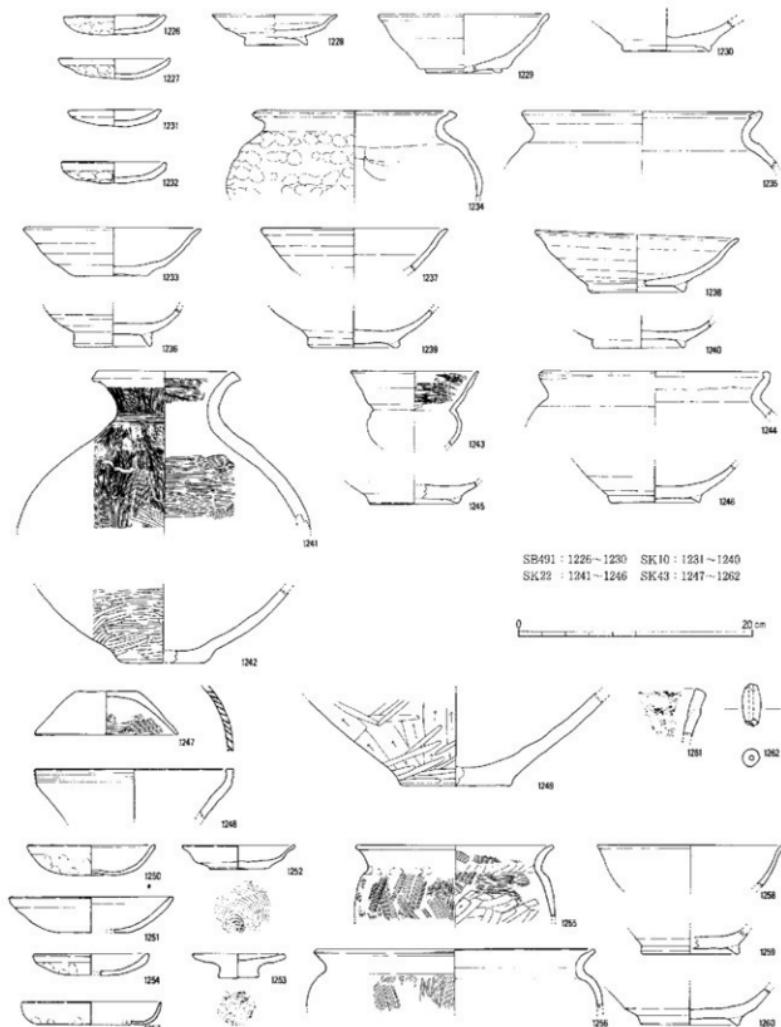
平安時代末期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1437は底部平坦で口縁部断面が弓状の土師器小皿である。平安時代末期に属するものと考えられる。1438は山茶碗底部片である。概ね第4～5型式に比定できよう。1439・1440は円形曲物。1439は兼は1段残り、縫じ合わせ部分は欠失している。側板は1列の桙皮縫じで内面には綫平行線のケビキがいれられている。1440は2列の桙皮縫じの兼が2段残り、側板は1列の桙皮縫じで内面には綫平行線のケビキをいれている。

S E 207出土遺物（第150図）

平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1441はロクロ製土師器皿の底部片。底部外面に糸切り痕が残る。平安時代後期のものといえよう。1442は口縁部が内弯し、頭部の屈曲がみられる土師器皿である。平安時代末期のものと考えられる。1443・1444は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1445は口縁部外反し、高台が低い山茶碗。1446は山茶碗底部片である。これらは概ね第4～5型式に属するものであろう。1447は漆塗布の木製椀の底部片。底部内面に漆の塗布がみられる。1448は棒状木製品。1449は板状木製品。これらは、井戸棒とし



第135図 SX318・419出土遺物実測図（1：4） ※ SX318：1223・1224, SX419：1225



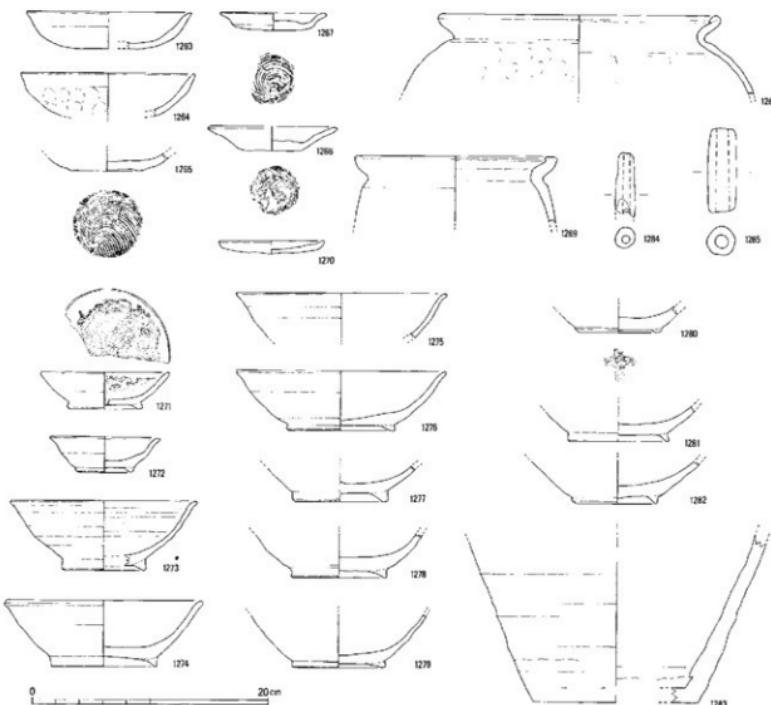
第136図 SB491、SK10・22・43出土遺物実測図（1：4）

て使用した可能性も否定はできない。1450は円形曲物である。雅は1段残り桿皮縫じされている。側板は2列の桿皮縫じで、内面には縦平行線のケビキがいれられている。雅と側板の間には1ヶ所添木が挿入されていた。1451は容器の円形曲物の底部分であろう。1452は斎串、主頭を作り左右に1ヶ所切り込みがみられる。これら以外に、コナラ箇、オニグルミやモモなどの種実遺体が出土した。

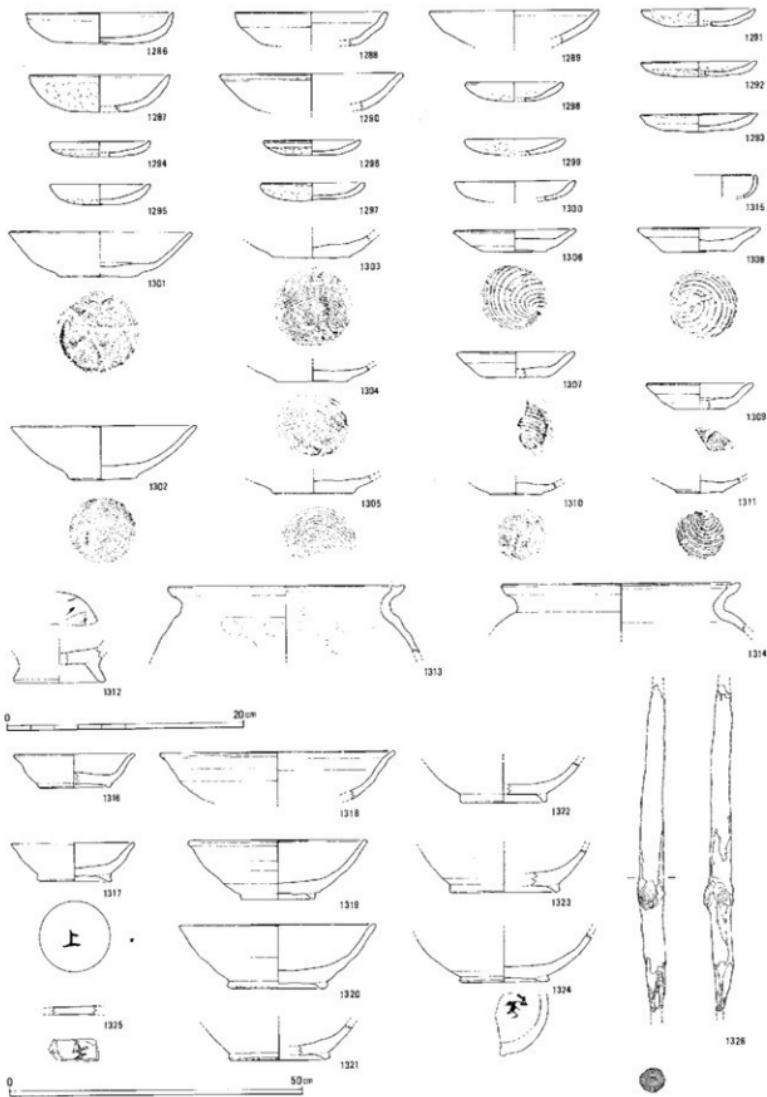
S E 221出土遺物（第151図）

平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が混在する。1453はクロ釦土師器皿の底部片。底部外間に糸刺痕が残る。これは平安時代後期のものといえよう。1454・1455は口縁部が内寄り、頸部の屈曲がみられる土師器皿である。平安時代末期のものと

考えられる。ここには掲載していないが口縁部内寄する薄手の土師器皿の細片が出土している。細片のため実測は割愛した。1456は山茶碗底部片である。これらは概ね第4～5型式に属するものであろう。1457～1461は板状木製品。井戸枠として使用した可能性も考えられるが出土状況からは判断に苦しむ。1462は円形曲物である。雅は1段残り2列の桿皮縫じである。側板は1列の桿皮縫じで、内面には縦平行線のケビキがいれられている。1463も円形曲物である。雅は残っていないが、側板に結合孔がみられるので本来は存在したことが推測できる。側板は1列の桿皮縫じで、内面には縦平行線のケビキがいれられている。これら以外に、モモの種実遺体が出土した。



第137図 SK220出土遺物実測図（1：4）



第138図 SK367出土遺物実測図（1：4、1326は1：8）

S E 224出土遺物（第152図）

1464・1465は底部未調整の薄手の土師器小皿である。1466は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1467は高台部分が低い山茶碗底部片である。第6型式に属するものであろう。1468は板状木製品。井口枠として使用した可能性が考えられる。

S E 225出土遺物（第152図）

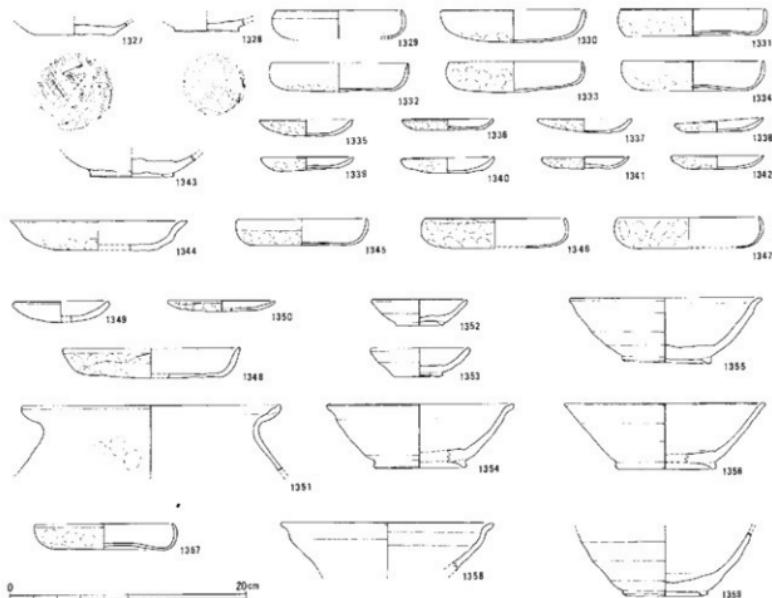
1469・1470は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1471は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗口縁部片、底部に近い外面に「ドーマン」を略したものと考えられる「#」の墨書きがみられるものの。第6型式に属するものと思われる。1472は円形曲物の一部分である。内面にはケビキが施されていないのがわかる。蓋の一部分である可能性もある。

S E 226出土遺物（第152図）

1473・1474は口縁部が内弯し底部の調整が粗雑な薄手の土師器皿である。1475は南伊勢系の土師器皿である。これらは鎌倉時代のものと思われる。1476は底部から口縁部にかけて直線的な山茶碗である。1477は口縁部が少し外反する山茶碗で、底部外面には「お」の墨書きがみられる。これらは第6型式に属するものか。1478は円形曲物、蓋や側板綴じ合わせ部の樹皮も残っていない。側板だけのもので、内面には縱平行線のケビキがいれられている。また、下部には蓋との結合孔が残る。1479は円形曲物の一部分である。桿皮綴じの痕が残る。蓋である可能性もある。1480は中央部分が膨らんだ筒状の土錐である。

S E 231出土遺物（第153図）

1481は底部の調整が粗く薄手の土師器小皿。1482は底部の調整が粗雑で口縁部断面が弓状の土師器皿



SK223 : 1327～1343 SK418 : 1348～1356
SK407 : 1344～1347 SK415 : 1357～1359

第139図 SK223・407・415・418出土遺物実測図（1：4）

である。1483は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代のものといえよう。1484は口縁部が外反し、底部に墨書きがみられる山茶椀。1485は口縁部から底部にかけて直線的な山茶椀口縁部片である。これらは概ね第6型式に属するものであろう。1486は円形曲物。側板の下部だけ残ったものと思われる。底や側板縁じ合わせ部の樹皮も残っていない。側板内面には綫平行線のケビキがみられる。1487は円形曲物。側板は1列の桿皮縁じで、内面には綫平行線のケビキがいれられている。

S E 232出土遺物（第154図）

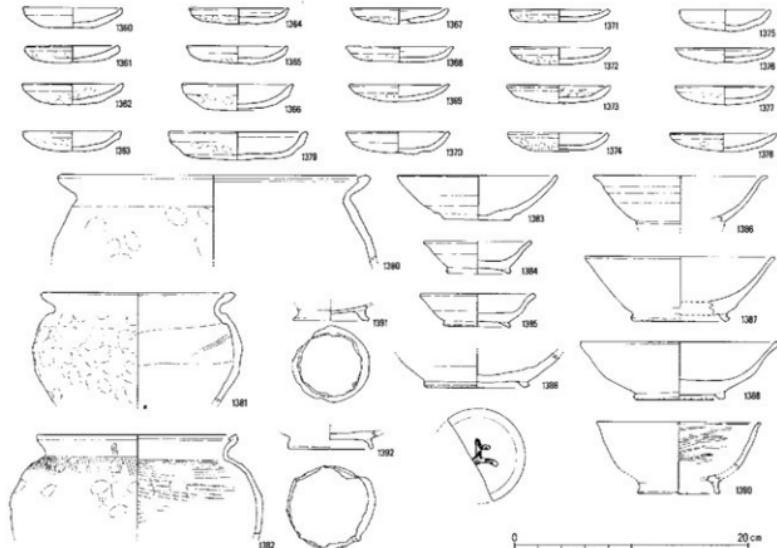
1488は口縁部が外反する土師器杯。平安時代後期のものか。1489は板状木製品。井戸枠の一部分か。判断に苦しむ。1490は円形曲物。底は2列の桿皮縁じのものが1段残る。側板は1列の桿皮縁じで、内面には綫平行線と一部に斜格子のケビキがみられる。ここには掲載していないが山茶椀底部片がこれらの遺物とともに出土している。

S E 233出土遺物（第154図）

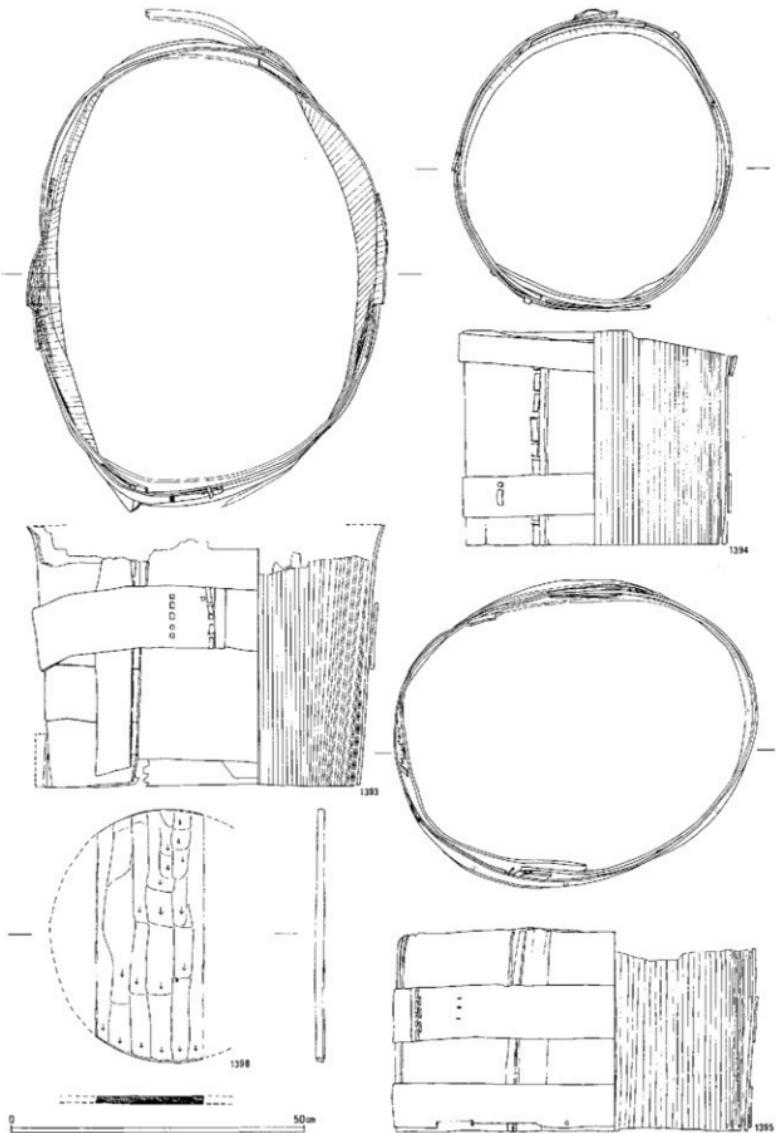
1491は口縁部が少し外反する山茶椀である。第5型式と思われる。1492は円形曲物。底は一段で一部残る。側板は1列の桿皮縁じである。また、側板内面には綫平行線と一部に斜格子のケビキがみられる。1493は円形曲物。底は1段残り、1列の桿皮縁じである。側板は1列の桿皮縁じで、内面には綫平行線のケビキがみられる。側板の上下には底を固定する結合孔がみられる。

S E 368出土遺物（第155図）

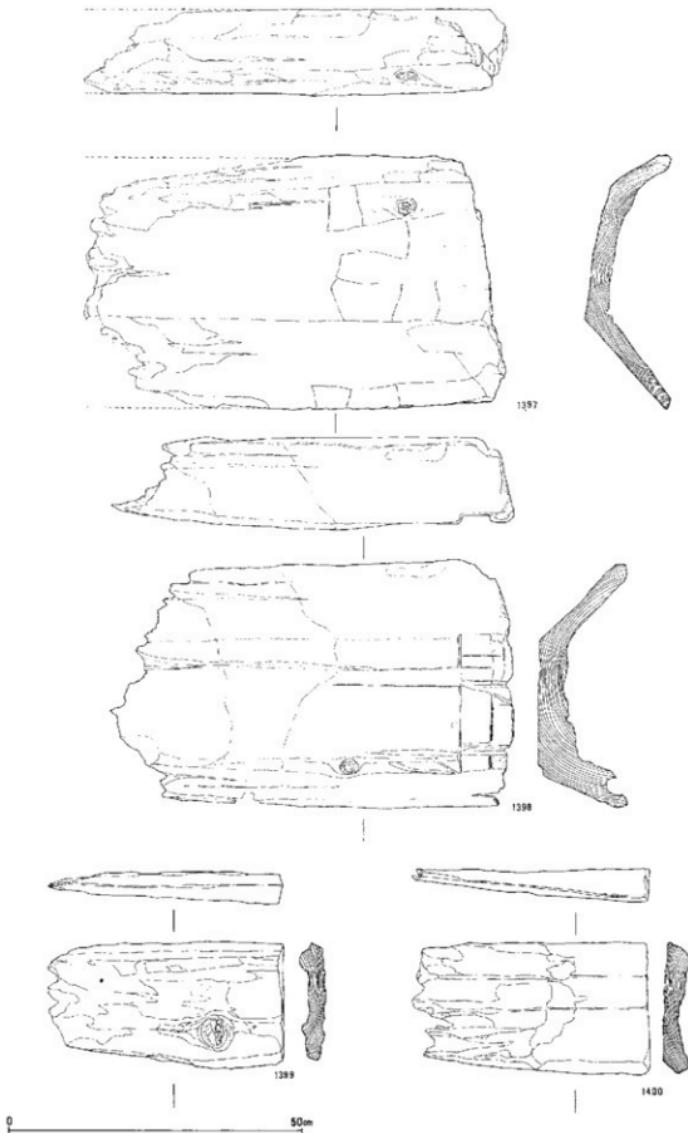
1494・1495は底部調整が粗雑で薄手の土師器皿。1496・1497は口縁部断面が弓状になる薄手の土師器皿。1498・1499は口縁部内弯する薄手の土師器皿。1500～1503は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代に属するものであろう。1504は口縁部外反する山茶椀口縁部片。1505は低い高台の山茶椀底部片である。これらは第5型式に属するものと考えられる。



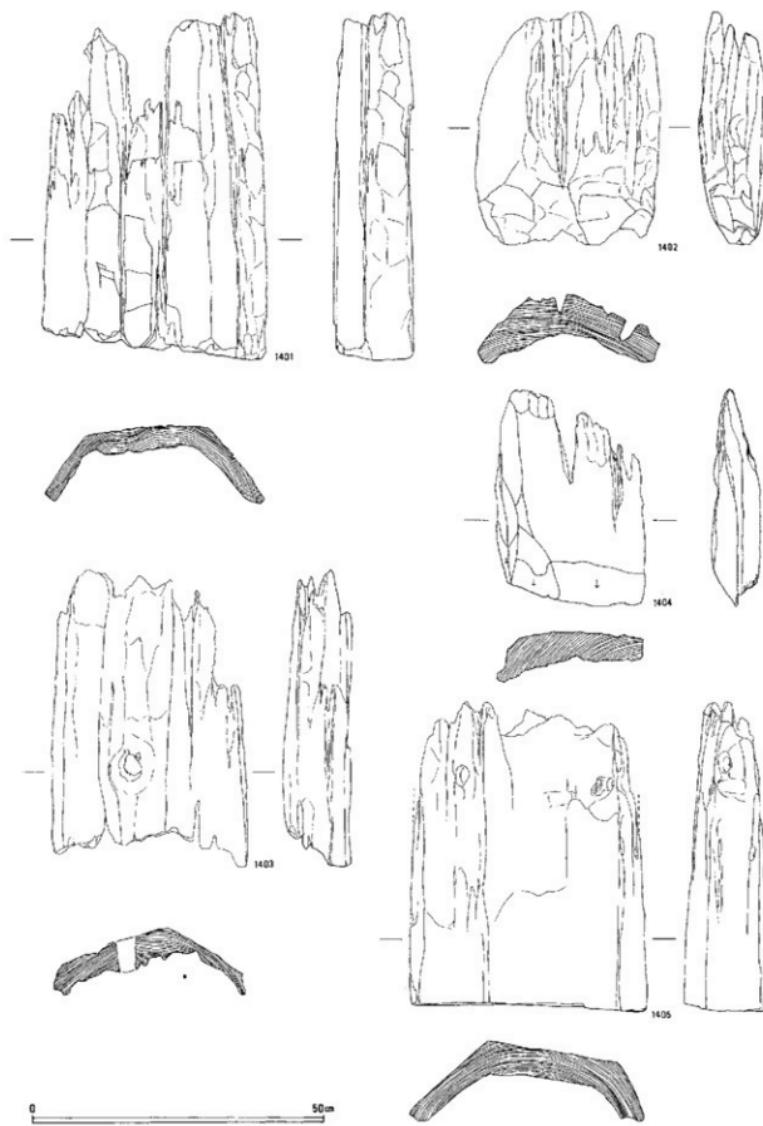
第140図 SE46出土遺物実測図①（1：4）



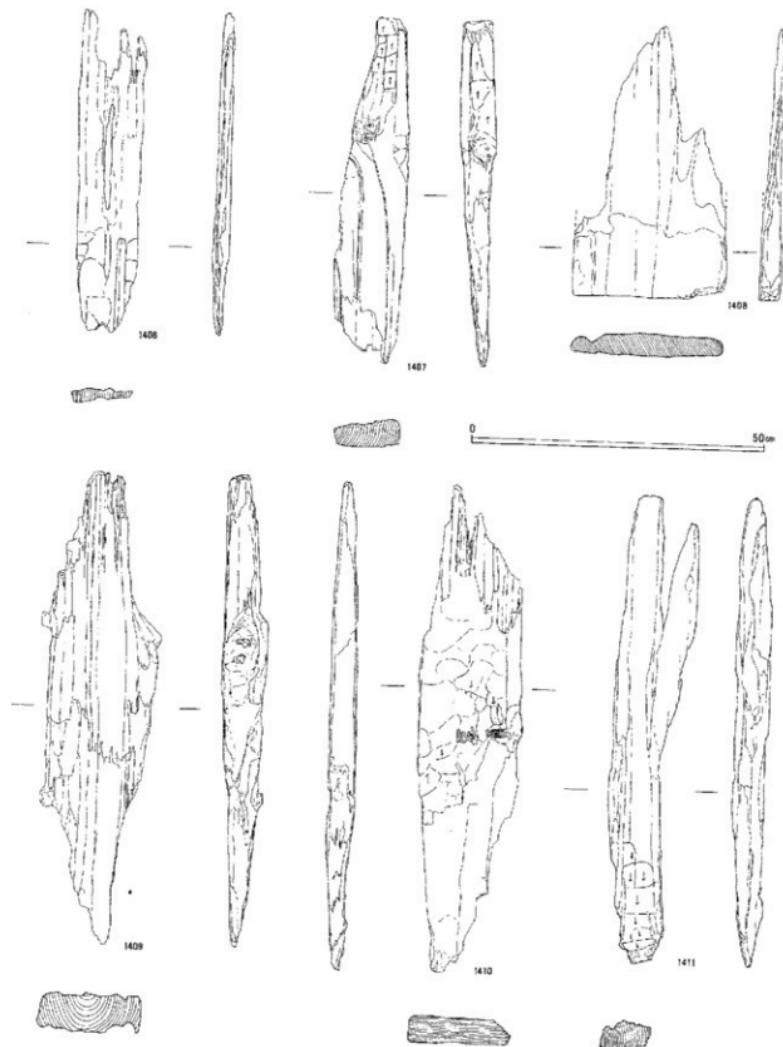
第141図 SE46出土遺物実測図② (1 : 8)



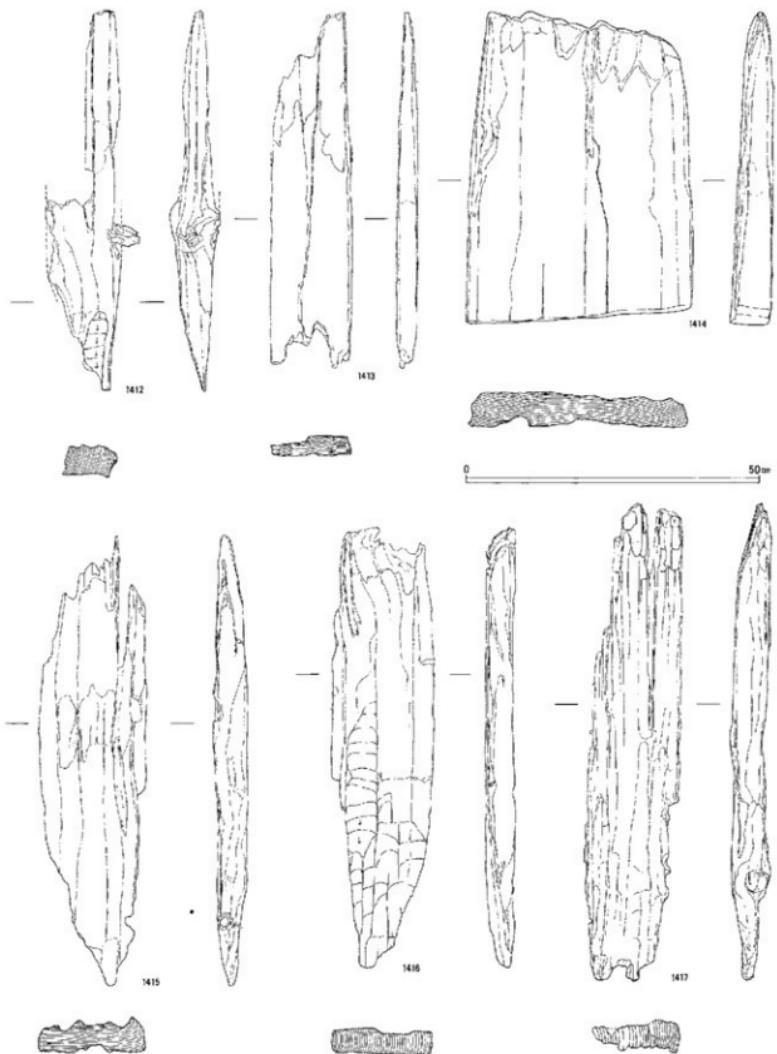
第142図 SE46出土遺物実測図③ (1 : 8)



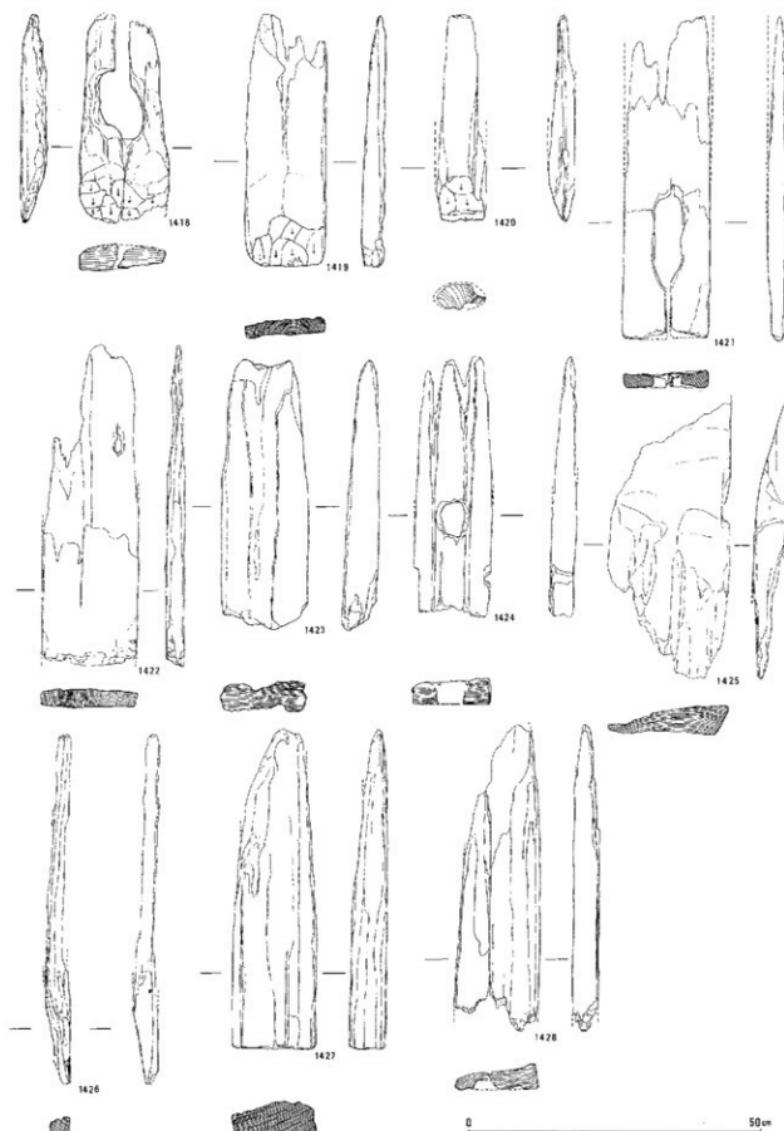
第143图 SE46出土遗物实测图④ (1 : 8)



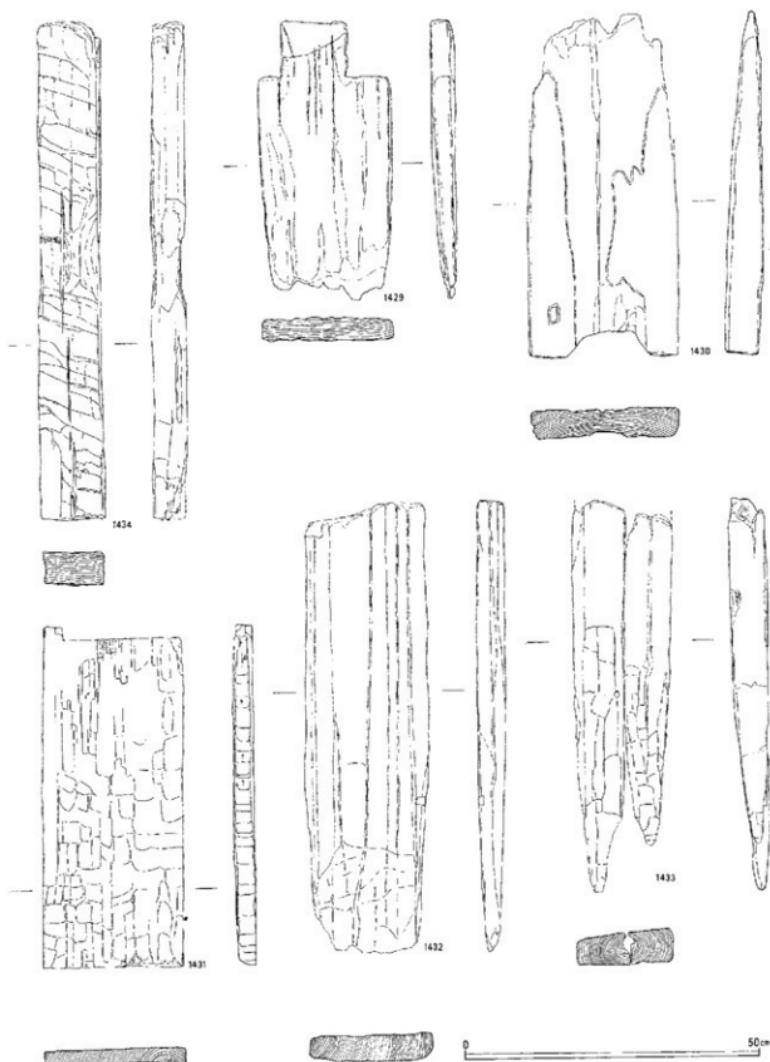
第144図 SE46出土遺物実測図⑤ (1 : 8)



第145図 SE46出土遺物実測図⑥ (1 : 8)



第146図 SE46出土遺物実測図⑦ (1 : 8)



第147図 SE46出土遺物実測図⑧ (1:8)

S E 208出土遺物（第155図）

1506～1508は口縁部外反する山茶碗である。1509は低い高台の山茶碗底部片である。これらは第5型式に比定できよう。1510は弥生土器壺、弥生時代末期のものか。混入遺物である。1511・1512は円形曲物の一部分である。縫や組じ合わせ部分は残ってい

ない。それぞれの側板内面には縦平行線のケビキがいれられている。1511は下部に窓の結合孔とおもわれる孔列が残る。

S D 472出土遺物（第155図）

弥生時代後期から鎌倉時代までの遺物が混在する。1513はミニチュア土器の蓋。弥生時代後期前半のも



第148図 SE46出土遺物実測図⑨（1：8）

のか。1514はロクロ製土師器皿。平安時代後期のものといえよう。1515は上師器皿。1516は口縁部内凹する土師器皿。これらは平安時代末期に属するものであろう。1517は口縁部外反する山茶碗である。1518・1519は山茶碗底部片である。これらは第5型式に比定できよう。

室町時代以降

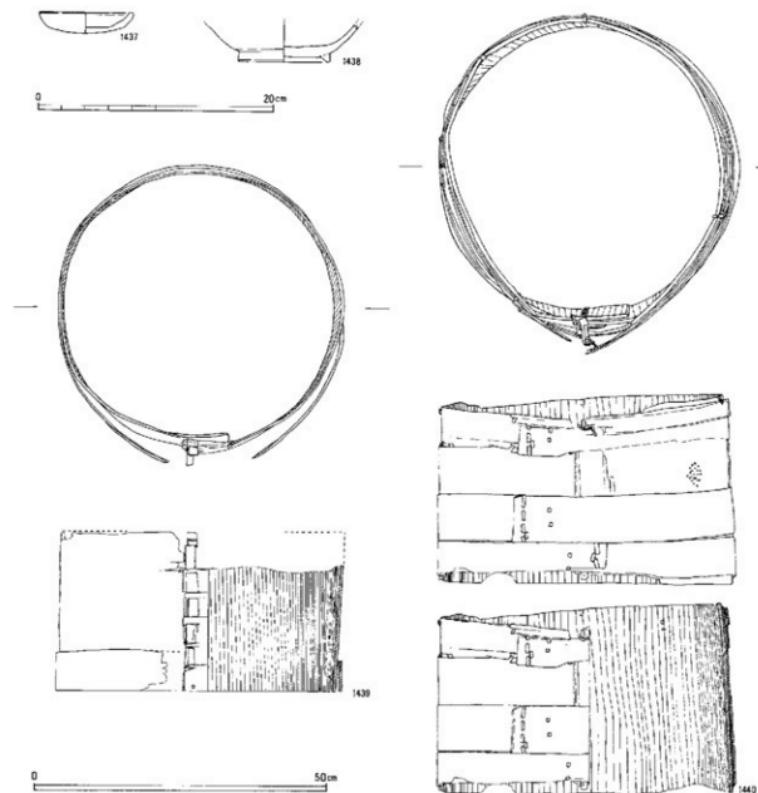
S K 25出土遺物（第156図）

1520は口縁部外反する土師器皿である。平安時代前期のものか。1521は口縁部ヨコナデの土師器皿。

平安時代末期のものであろう。1522は底部の調整が粗い薄手の土師器皿。鎌倉時代のものか。1523は底部調整が粗雑で薄手の土師器皿。1524～1527は口縁部が内凹する薄手の土師器皿。これらは室町時代に属するものであろう。1528・1529は陶器壺の底部か。これらも、室町時代のものであろう。1530は木製椀。内面に朱漆と黒漆の塗布がみられる。これら以外に、マツ属やモモの種実遺体が出土した。

S K 313出土遺物（第156図）

1531～1533は底部に糸切り痕が残るロクロ製上師器皿である。平安時代後期のものであろう。1534・



第149図 SE55出土遺物実測図（1：4, 1439・1440は1：8）

1535は口縁部内寄する土師器甕。1536は土師器碗である。これらは、平安時代末期のものといえよう。1537は山茶椀片。第6型式に属するものであろう。1538～1541は口縁部が内寄する器厚が薄い土師器皿。1542～1545は底部調整が粗雑で薄手の土師器小皿。これらは、室町時代のものであろう。1546は板状木製品。用途は不明である。これら以外に、ヒメビシの種実遺体が大量に出土した。

S K 423出土遺物（第156図）

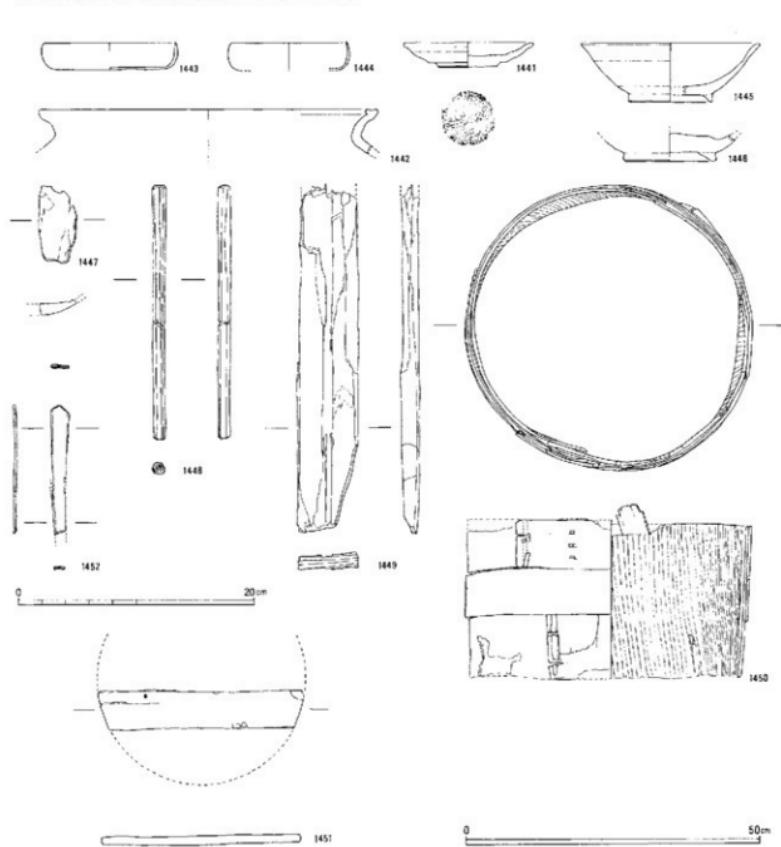
1547は高台の低い山茶椀底部片である。これは第

5型式に比定できよう。1548は南伊勢系の土師器鍋である。鎌倉時代に属するものであろう。1549は南伊勢系の土師器鍋である。室町時代に属するものであろう。1550は陶器甕の底部片。室町時代のものか。

1551は球形の土鉢か。

S K 356出土遺物（第157図）

1552は土師器羽釜である。室町時代のものであろう。1553～1558は木製杭。先端を削って尖らせていく。これら以外に、ヒメビシの種実遺体が出土した。



第150図 SE207出土遺物実測図（1：4, 1450は1：8）

S D 204出土遺物（第158図）

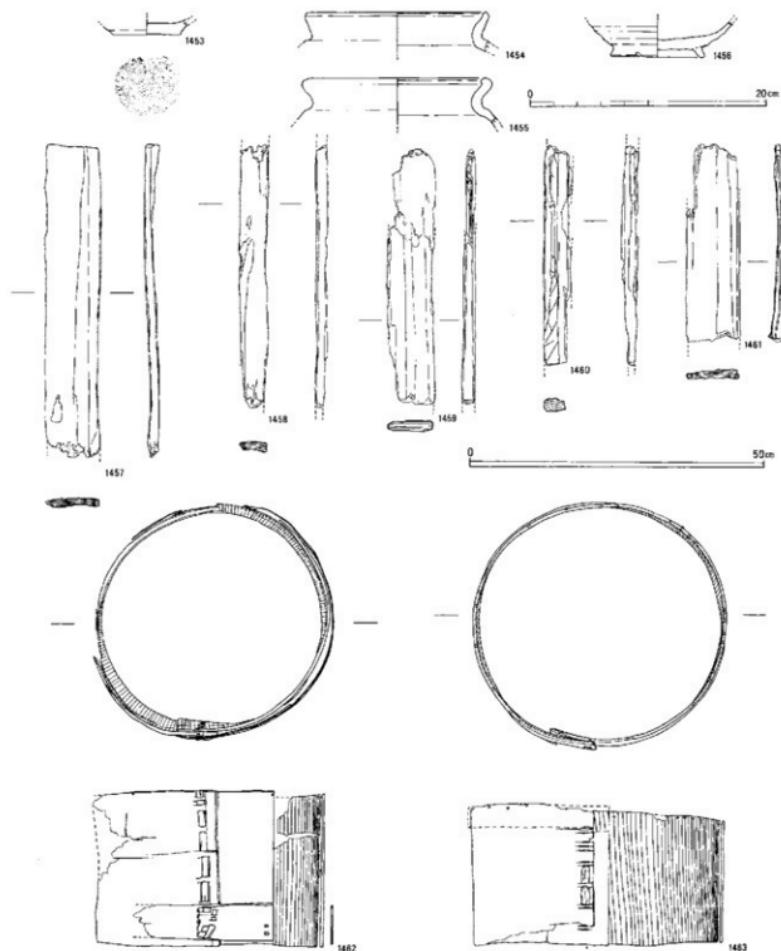
1559は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。1560は陶器碗の底部片である。1561は土錐。これらは室町時代のものと考えられる。

S D 206出土遺物（第158図）

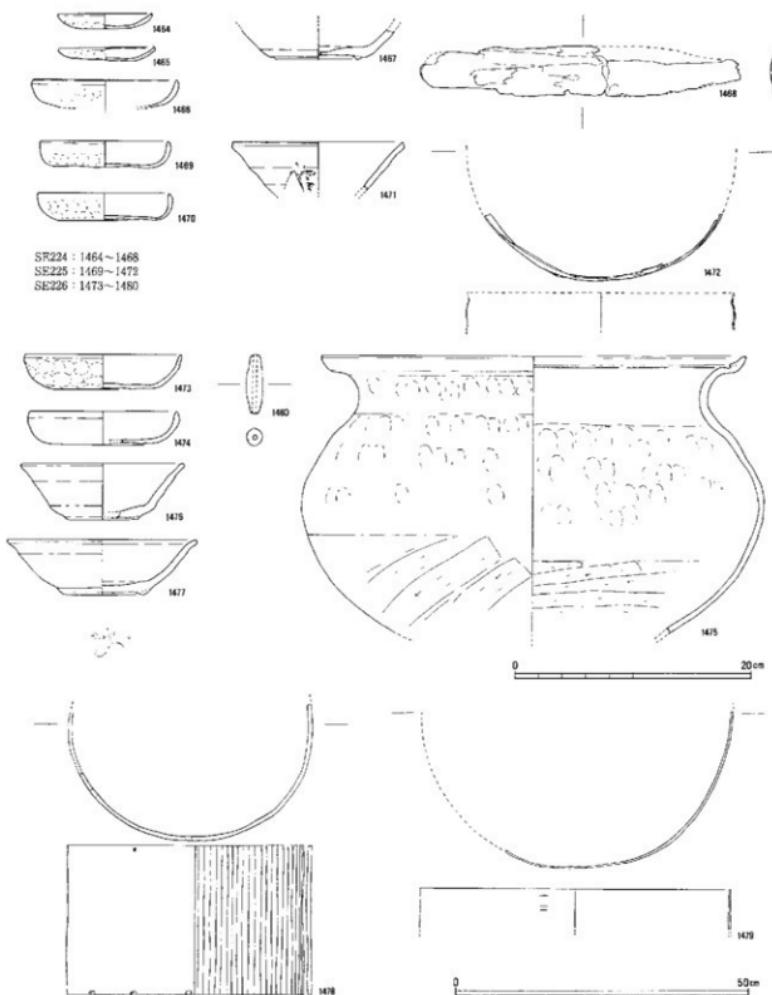
1562・1563は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代のものと考えられる。

S D 371出土遺物（第158図）

1564～1573は底部調整が粗雑で薄手の土師器小皿。



第151図 SE221出土遺物実測図（1：4、1457～1463は1：8）



第152図 SE224・225・226出土遺物実測図 (1:4, 1468・1472・1478・1479は1:8)

1574～1588は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代のものと考えられる。1589は口縁部ヨコナデの土師器皿。1590～1592は南伊勢系の土師器鍋である。これらは鎌倉時代に属するものであろう。1593～1596は山茶柄口縁部片。1597～1605は高台の低い山茶椀底部片である。1601の底部外面には「よね」と墨書きされている。これらは第5～6型の範疇であろう。松阪市朱中遺跡などでも同様の墨書きが出土している。氏名ではなく計量カップ的なものと考えている。1606は陶器壺の口縁部片。室町時代のものか。これら以外に、マツ属やモモの種実遺体が多量に出土した。

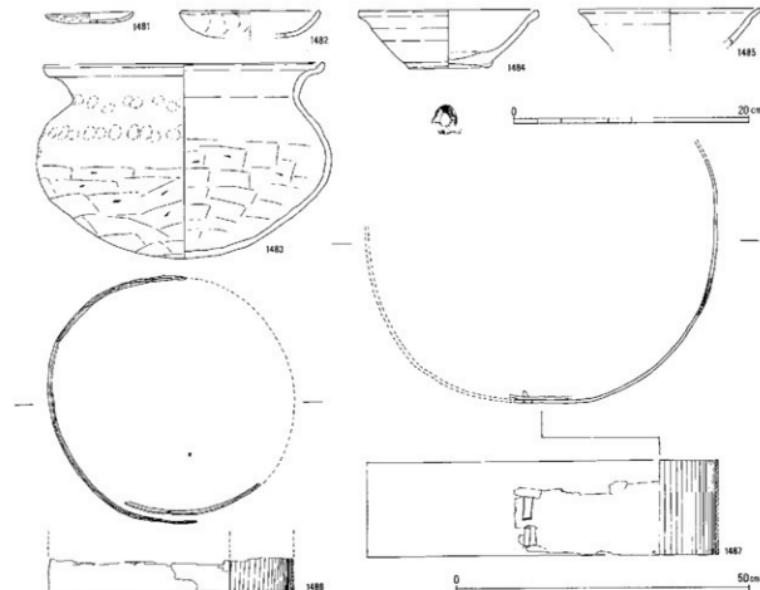
S Z227出土遺物（第159図）

1607は山皿。第4型式に比定できよう。1608は山茶椀底部片。第5型式か。1609は底部調整が粗雑で薄手の土師器皿。1610は口縁部が内弯する薄手の土師器皿。これらは室町時代のものと考えられる。1611は土鍤。1612～1616は鉛物。北宋系のもので、

1612・1614は「元豊通寶」、1616は「元祐通寶」である。1617は木製枕。先端部分以外では腐食が激しくかなり細くなっている。これらに混じり人骨や馬骨が出土した。

S R210出土遺物（第160～186図）

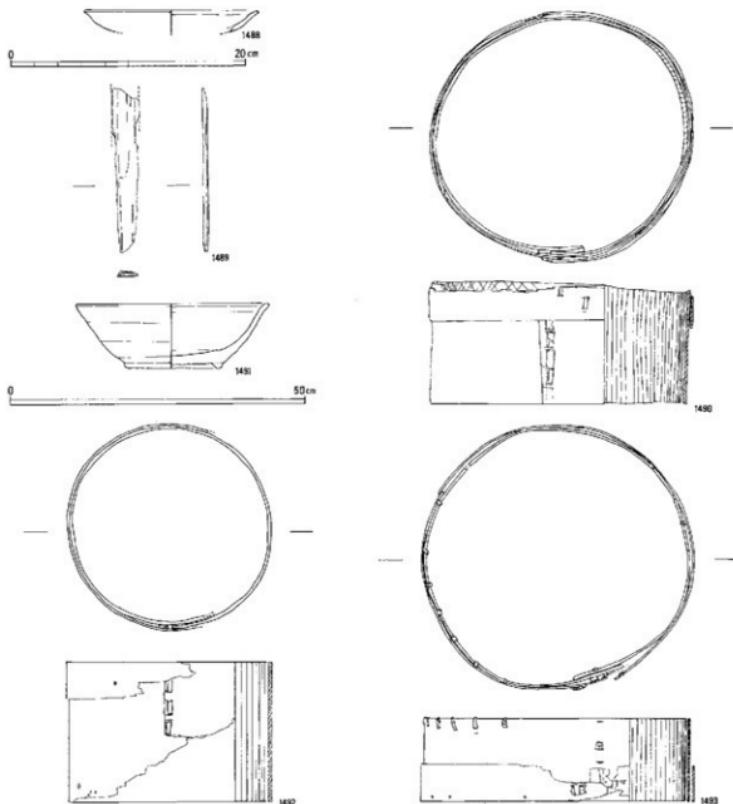
1618は底部が平坦で、口縁部が内弯気味の土師器皿である。口縁部内面には放射状暗文、底部内面には螺旋暗文が施されている。1619は底部が平坦で、口縁部が内弯気味の土師器皿である。口縁部内面には放射状暗文、底部内面には螺旋暗文が施されている。1620・1621は底部が平坦で、口縁部が外反する口縁部ヨコナデ、底部ケズリの土師器皿。1620は底部外面に「人」の線刻がみられる。1622～1632は底盤が平坦で、口縁部が外反し口縁端部が内弯する土師器杯である。調整は口縁部ヨコナデ、底部ケズリである。1622は底部に近い外面に「ドーマン」を省略したと考えられる線刻が施される。1627は土器内面に放射状暗文と螺旋暗文が施されている。1629は



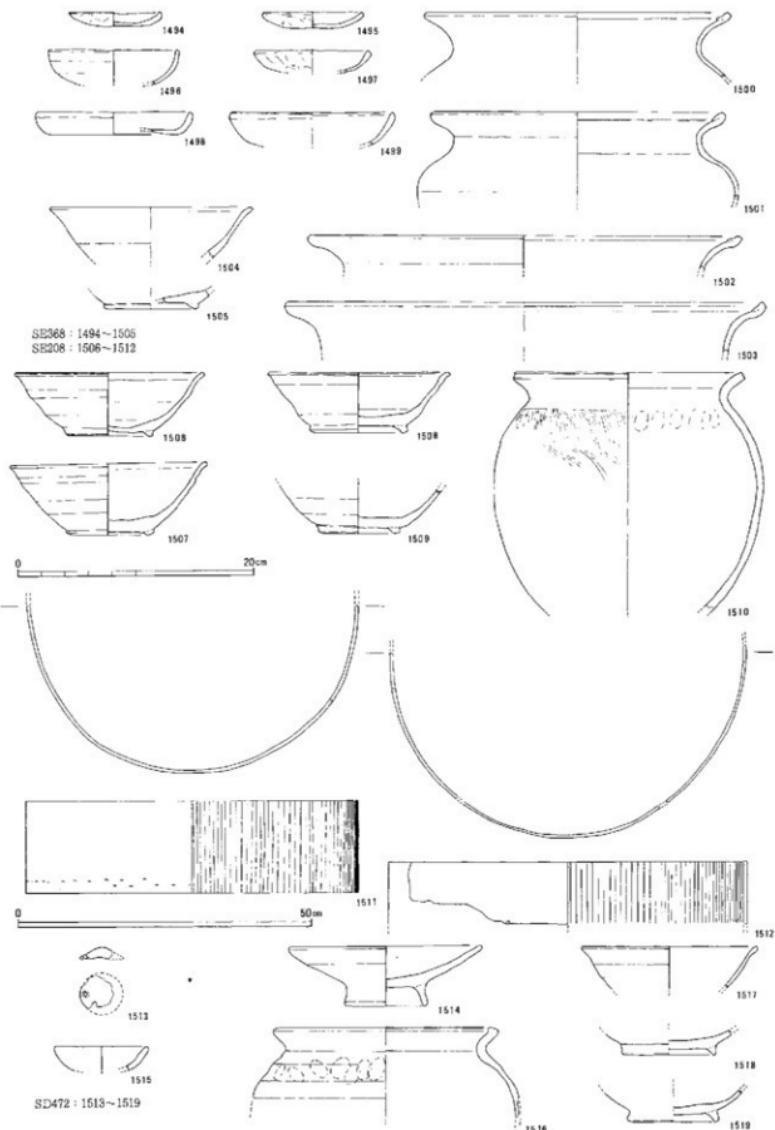
第153図 SE231出土遺物実測図（1：4, 1486・1487は1：8）

土器内面が黒く、黒色土器の可能性もある。1633～1655は口縁部が内弯気味の土師器杯である。1633は口縁端部付近内面に漢字7～8文字、底部外面には「上」の墨書きが施されている。1634は底部外面に「中」あるいは「宮」と考えられる墨書きが施されている。1637の底部内面には「ノ」の線刻がみられる。1640は底面部に「ム」の線刻がみられる。1654は底部の外側に「×」の線刻が施されている。1656～1662は底部平坦で、口縁部外反し端部が内弯する土師器杯である。1656は底部内面に螺旋暗文、1658は

土器内面に放射状暗文、底部外面に「ドーマン」を省略したものと考えられる「ガ」の線刻、1659は底部内面には「升」、底部外面には「ニ」の線刻がみられる。これらも「九字」を表す「ドーマン」を省略したと考えられる。1660は底部内面には螺旋暗文、底部外面に「ドーマン」を表すと考えられる線刻が施されている。1663～1665は底部平坦で、口縁部外反し端部も外反する土師器杯である。1663は土器内面に放射状暗文と螺旋暗文、1664・1665は底部内面に螺旋暗文が施されている。1666～1670は底部平坦



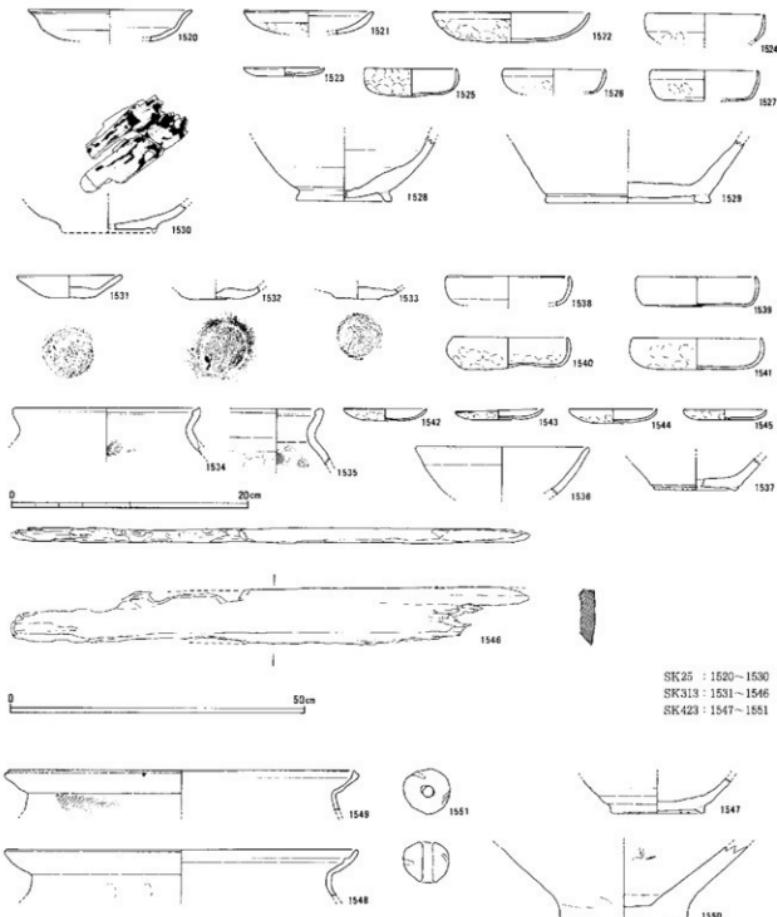
第154図 SE232・233出土遺物実測図（1：4, 1489・1490・1492・1493は1：8）
※SE232：1488～1490 SE233：1491～1493



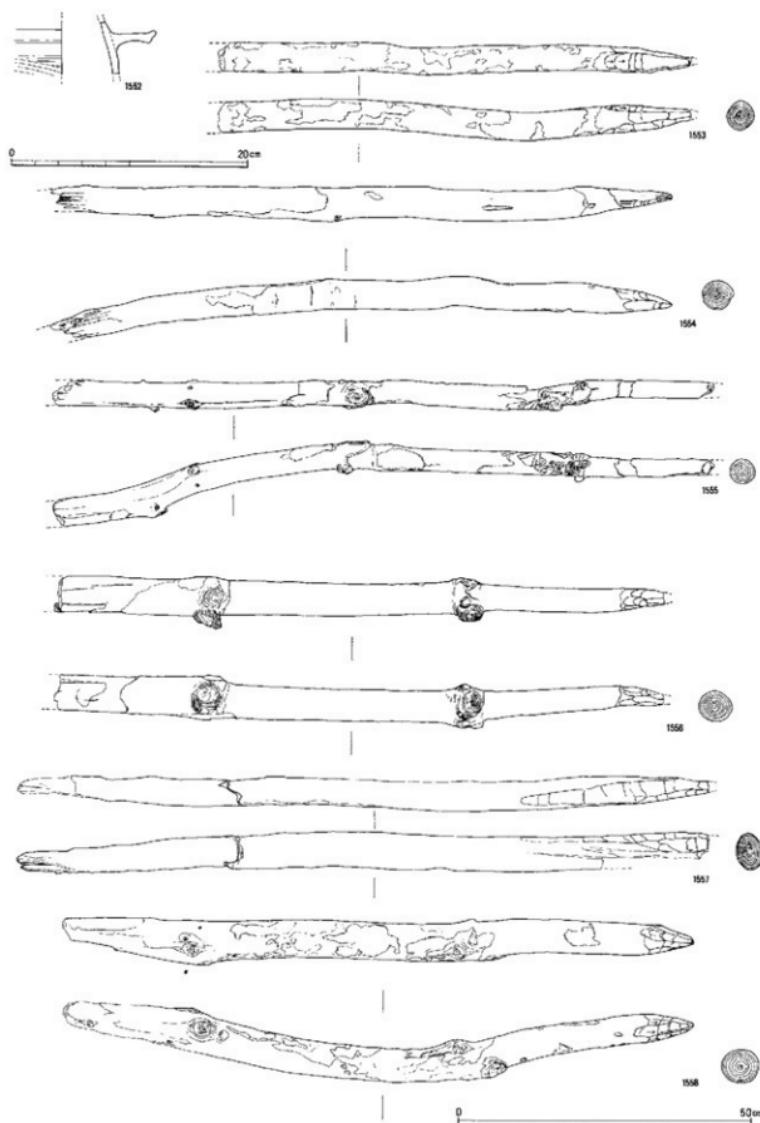
第155図 SE208・368、SD472出土遺物実測図 (1 : 4, 1511・1512は1 : 8)

で、口縁部が直線的に外反する土器器杯。1667は底部内面には「ヰ」、底部外面には「ヰ」の線刻が施されている。これらは「ドーマン」を略しているものと思われる。1671～1673は口縁部が内穹気味で器厚が厚い土器器杯である。1671は内面には「ヰ」の線刻、1672は口縁部内面に放射状暗文が施されて

いる。1674～1696は土器器長脛甕である。1683は頸部が明確で、土器外面には底部に至るまで細かいハケメがみられる。1697～1709は口縁部外反し体部球形の土器器甕である。土器外面に底部に至るまで細かいハケメが施されるものもある。1697～1706は口縁部片である。1707は時代が遡る可能性がある。



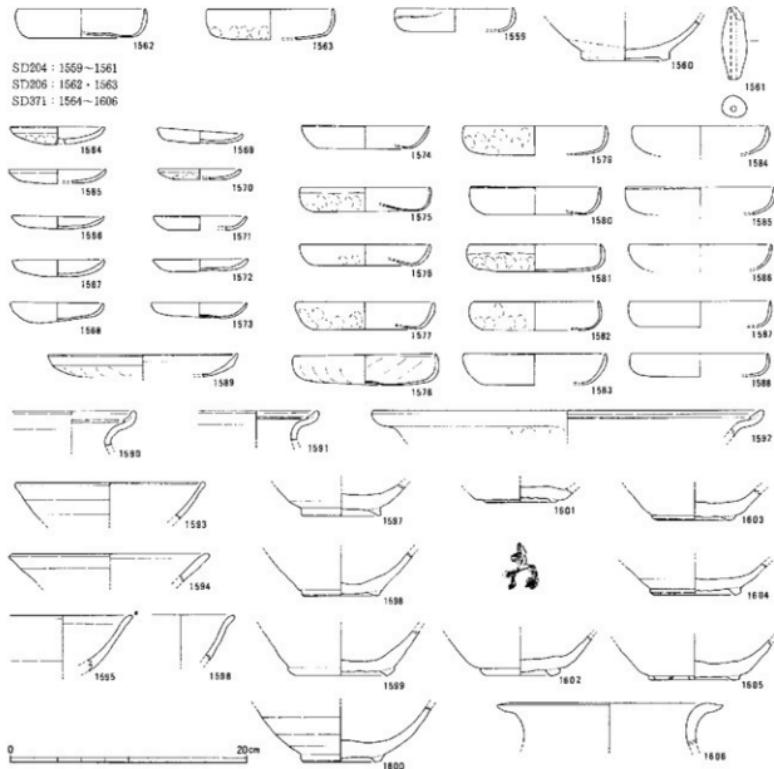
第156図 SK25・313・423出土遺物実測図（1：4, 1546は1：8）



第157図 SK356出土遺物実測図 (1 : 4, 1553~1558は1 : 8)

1708は底部外面に「×」の線刻が施されている底部片である。1710～1712は把手付の土師器鍋。1713～1719は、口径より体部径が大きくなるざんぐりとした土師器鍋である。体部には細かいハケメが施される。1720は口径が体部径より大きくなる偏平な土師器鍋である。1721～1728は土師器盤である。体部は細かいハケメが施されているものがほとんどである。1721・1727には把手が付く。1729～1731は移動式壺である。1731はまるで鍋を天地逆にしたような形状である。1732・1733は土師器高杯の杯部、内面に放射状暗文、螺旋暗文が施されている。1734は土師器高杯の脚部で、基部で大きく聞くものである。1735

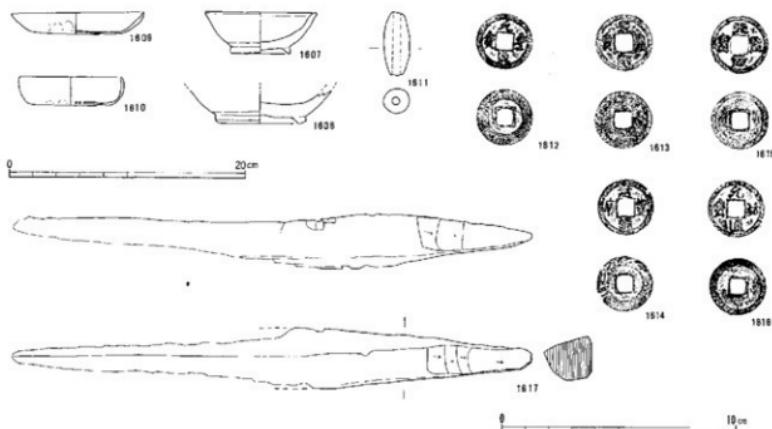
～1738は須恵器杯蓋。天井部にツマミが付く。1739～1748は底部平坦で口縁部が直線的に外反する須恵器杯である。1749～1753は須恵器壺。1749は口縁部が大きく外反する口縁部片。1750・1751は頸部周辺、1752は頸部から台付底部まで残る。1753は口縁端部が外反する大型品である。1754は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる短頸壺である。1755は須恵器壺底部片。1756・1757は須恵器小型短頸壺。1756は底部外面に「ト」の線刻がみられる。1758は須恵器小型壺底部と考えられる。1759は脚部が低い須恵器高杯である。1760は須恵器平瓶。把手と注口部分については欠失している。1761は須恵器壺体部片、1762は口縁部外



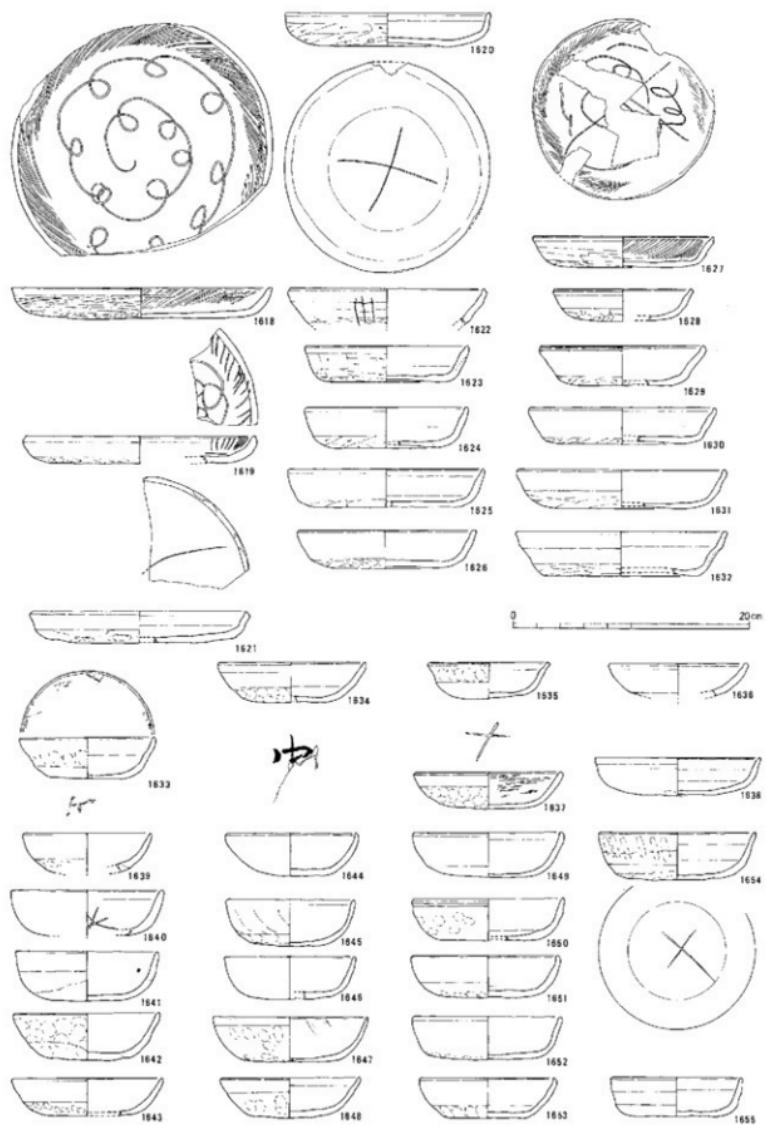
第158図 SD204・206・371出土遺物実測図 (1 : 4)

反する須恵器甕である。口縁部外面には波状文、体部内面には青海波状文が施されている大型品である。1762までは奈良時代に属するものであろう。1763～1765は口縁部が内湾気味の土師器皿である。1764の口縁部内面に「サ」の線刻がみられる。1766～1768は底部平坦で、口縁部が外反する土師器皿である。1767は底部外面に「才」、1768は底部外面に一部ではあるが「土」という墨書がみられる。1769・1770は底部と口縁部の境界がわかりにくく土師器皿で、浅いものである。1771は底部内面に放射状の線刻が施された土師器皿である。底部だけの残存である。1772は底部はほぼ平坦で、口縁部外反する土師器皿である。底部外面には修業者の護身呪法の「九字」を表すように線刻は9本を数える。志摩地方では「ドーマン」と呼称している。1773～1781は底部は、ほぼ平坦で口縁部外反し端部が内弯する土師器杯である。1775は「年」か、1776は「宮」、1781は「秋木」の墨書が底部外面にみられる。1777は土器内面に「干」、底部外面に「一」の線刻を施す。1782～1790は底部の調整が粗く口縁部が外反する土師器杯である。1782は底部外面に「律」、1788は底部外面に判読できないが墨書がみられる。1791は底部が平坦で、直線的な口縁部が外反する土師器杯である。

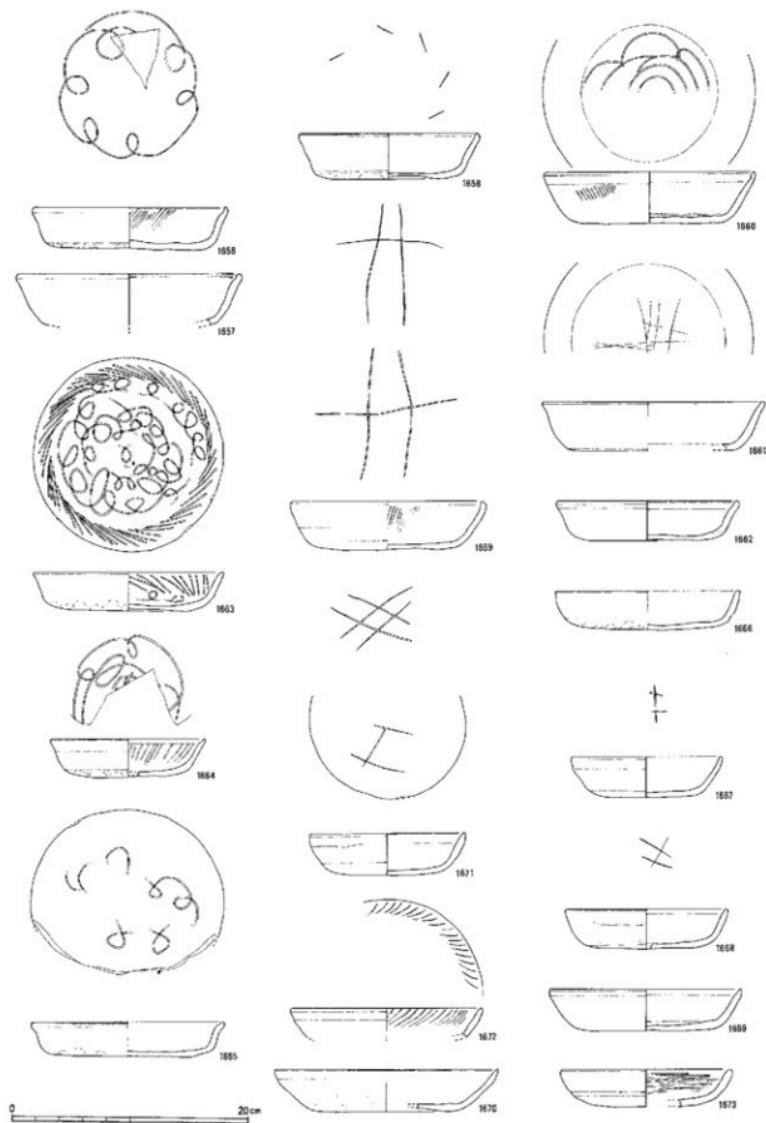
1792～1800は底部が平坦で直線的な口縁部が外反し、口縁端部が内弯する土師器杯である。1796は底部外面には墨書がみられる。墨書が完全に残っていないが、「林」であろうか。1800は底部内面に墨書がみられるが判読できない。1801は底部が丸みを帯び、口縁部外反する土師器杯である。底部外面には墨書「年」であろうか。1802は底部が丸みを帯び、口縁部外反する土師器杯である。底部外面には墨書「宮」の部首の部分がみられる。1803は1801・1802と同じ形状の土師器杯底部。底部外面にかな文字で4文字の墨書がみられる。「□□らる」と読めなくもない。平仮名としては県内最古級のものか。1804～1818は底部が平坦で、口縁部断面が弓状になる土師器杯である。1805は底部内面に「セ」の線刻がみられる。1806は底部外面に「律」と考えられる墨書、1807・1810は底部外面に「竹」あるいは「千千」と考えられる墨書がみられる。1819～1823は体部球形の土師器甕。体部上半はハケメ、体部下半はケズリのものもみられる。1821は口縁部屈曲し体部にハケメが施された土師器長胴甕である。1825は土師器臺。体部にハケメがみられるが残存が良好でない。1826は内面を黒く塗した黒色土器碗である。1826までは平安時代前期に属するものと考えられる。1827は口縁部



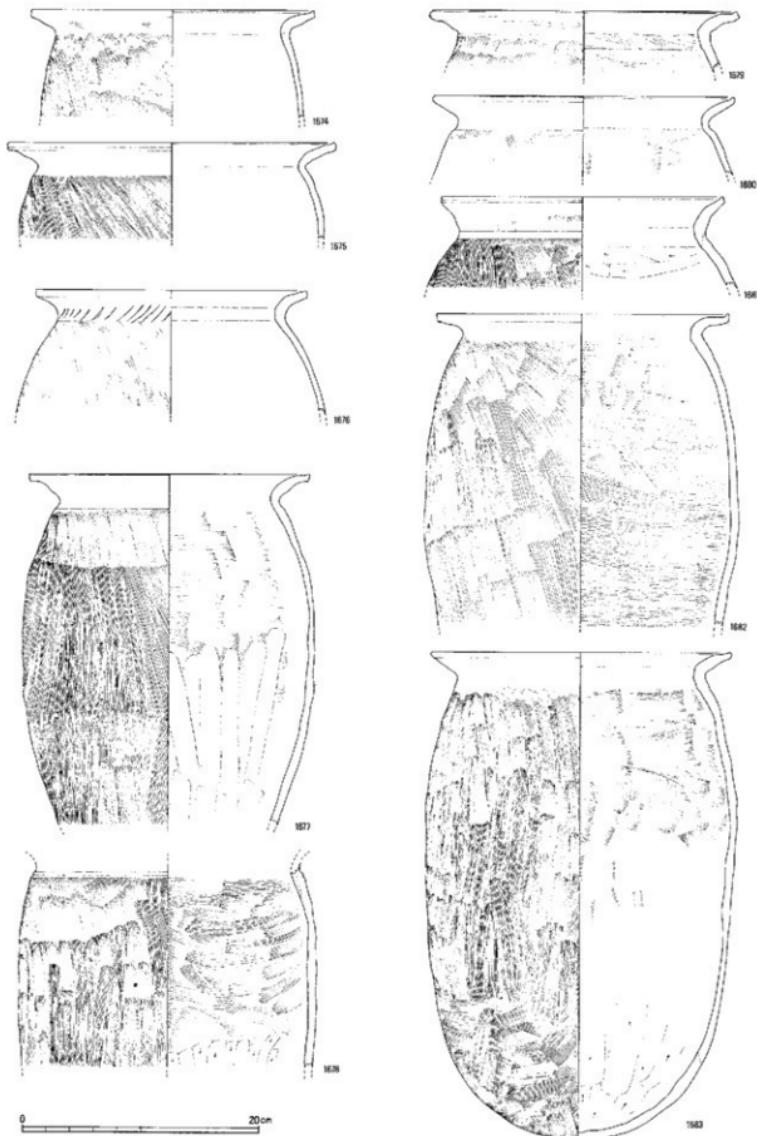
第159図 S227出土遺物実測図（1：4、1612～1616は1：2）



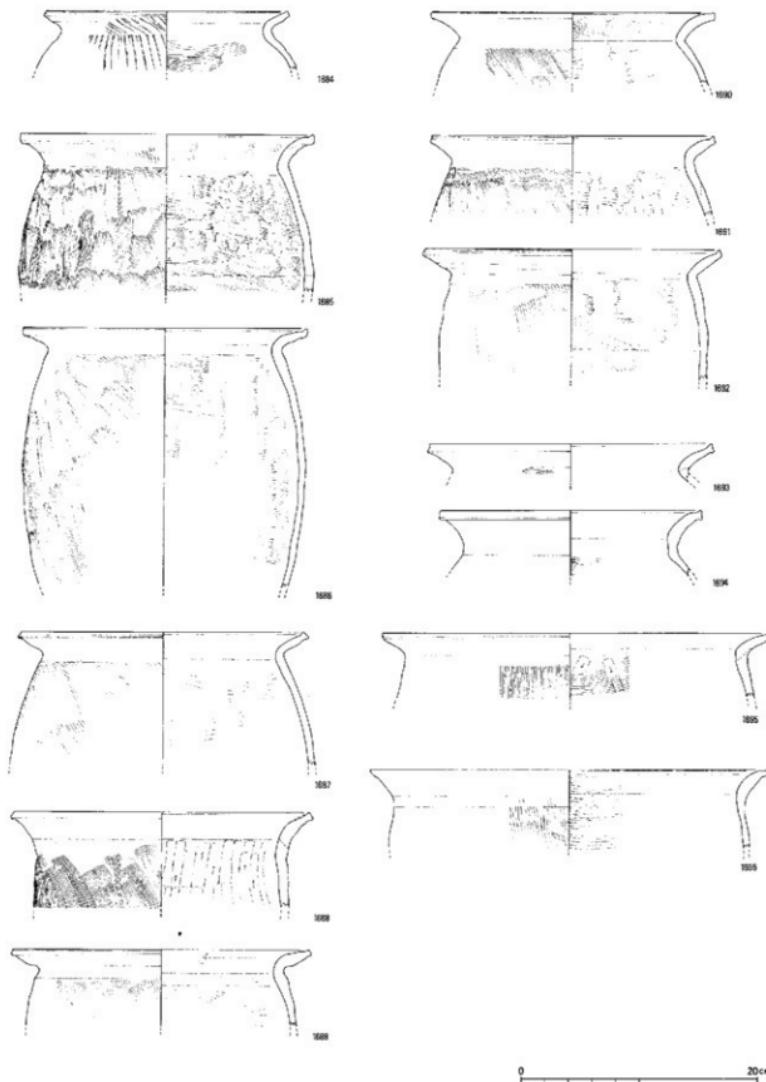
第160図 SR210出土遺物実測図① (1 : 4)



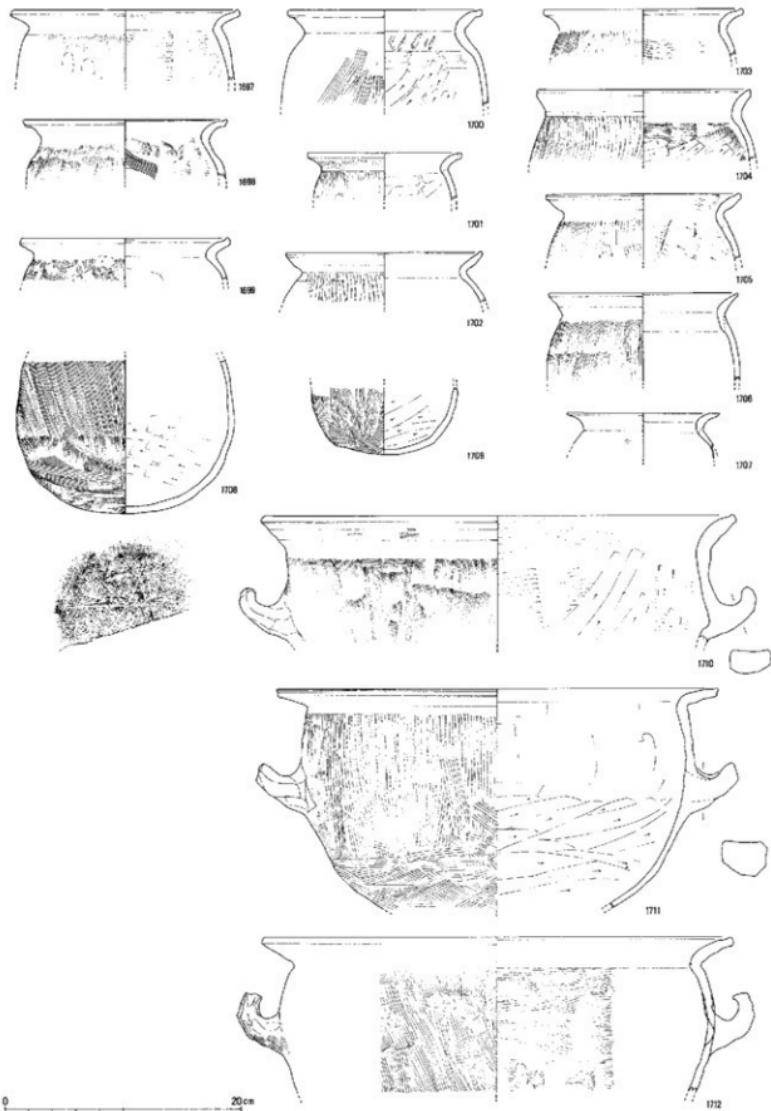
第161図 SR210出土遺物実測図(2) (1 : 4)



第162図 SR210出土遺物実測図③ (1 : 4)



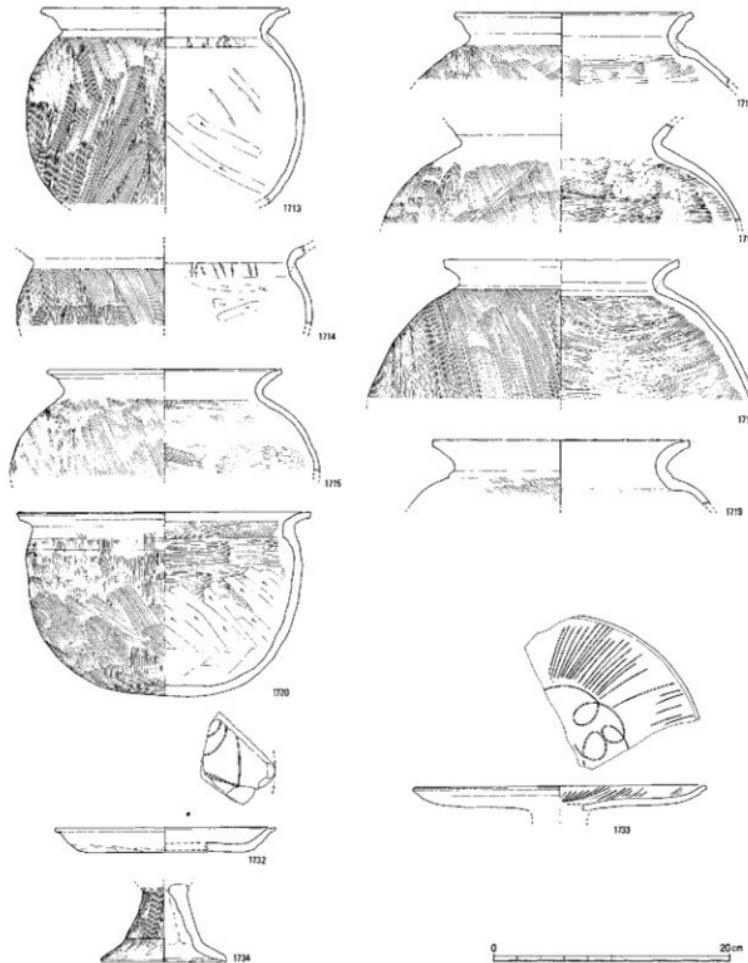
第163図 SR210出土遺物実測図④ (1 : 4)



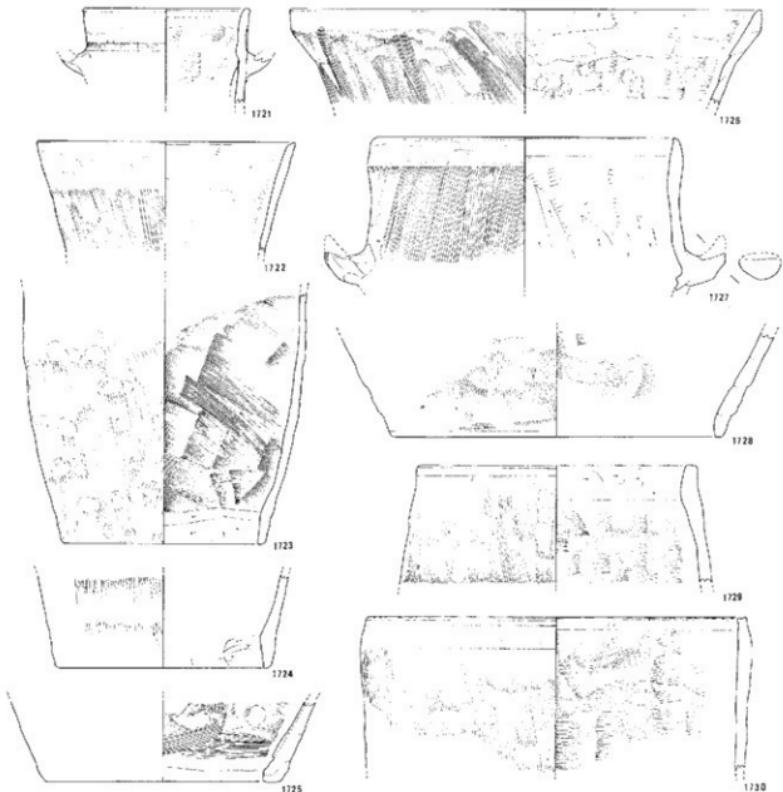
第164図 SR210出土遺物実測図⑤ (1:4)

ヨコナデの土師器皿。1828～1830はロクロ製土師器皿で、底部外面には糸切り痕が残る。1831・1832はロクロ製土師器台付皿、底部外面には糸切り痕が残る。1833はロクロ製土師器椀底部で高台が残る。1834はロクロ製土師器椀、底部外面には糸切り痕が

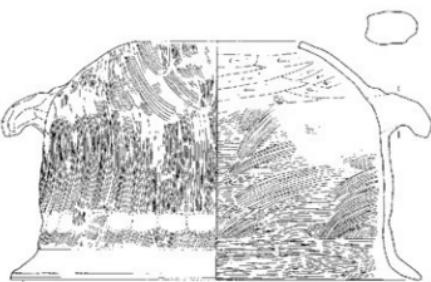
残る。1835は口縁部が外反する土師器甕。1835までに平安時代後期に属するものであろう。1836・1837は口縁部が屈曲し口縁端部が内弯する土師器甕である。これらは平安時代末期のものといえよう。1838は底部ナデの土師器甕底部片、平安時代のものか。



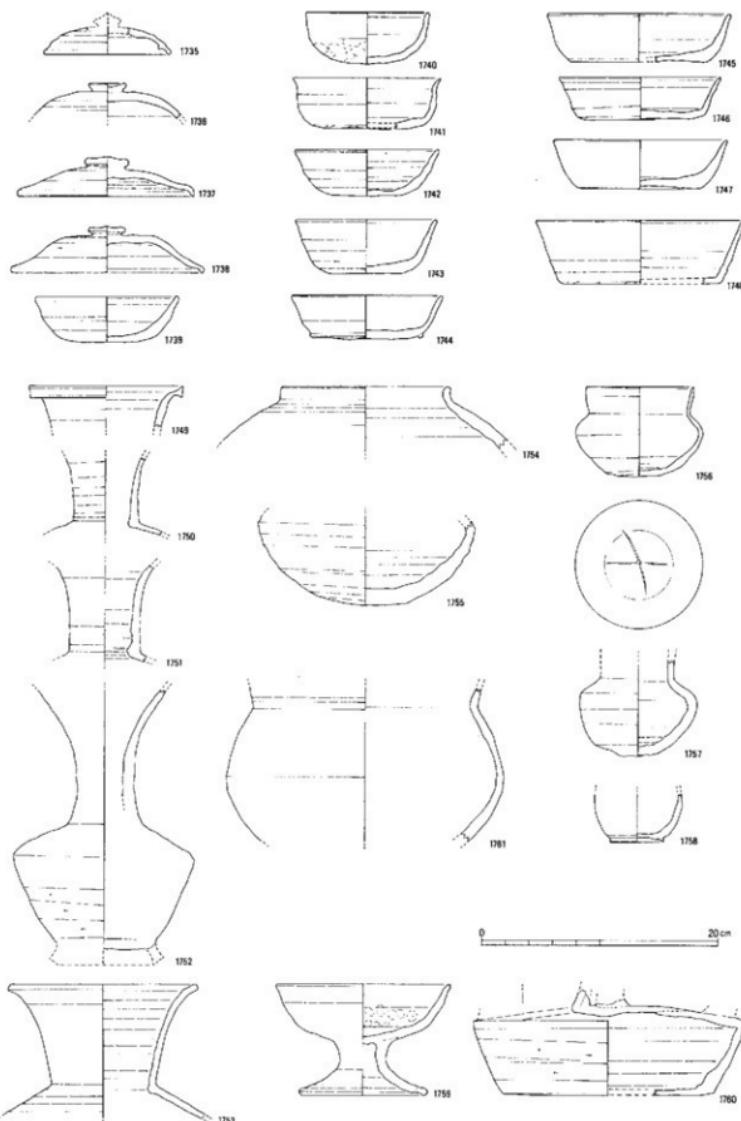
第165図 SR210出土遺物実測図(⑥) (1 : 4)



0 20cm



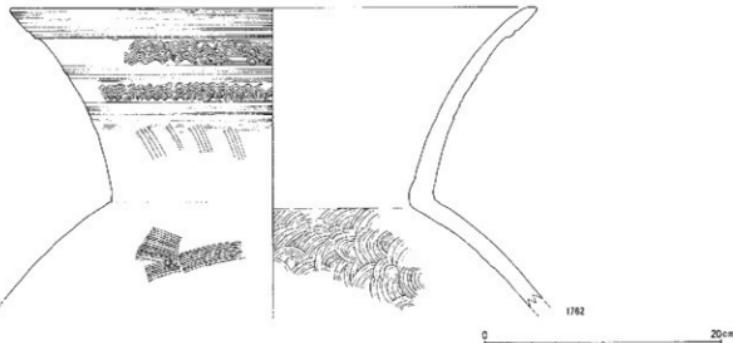
第166図 SR210出土遺物実測図⑦ (1:4)



第167図 SR210出土遺物実測図⑧ (1 : 4)

1839～1843はいわゆる「志摩式製塙土器」である。1839・1840は口縁部片、1841～1843は底部片である。平安時代のものと考えられる。1844～1855は底部の調整が粗く、L字縁部断面が弓状の土師器小皿。1856～1861は、底部平坦で口縁部が内寄する土師器皿である。1862～1872は筒状の土錐、1873は球形の土錐。これらは鎌倉時代のものと考えられる。1874は縫釉陶器小碗か。平安時代のものか。1875～1877は口縁部がほぼ直線的に外反する山皿、1878・1879は高台の残る山皿底部である。これらは第4型式に属するものと思われる。1880～1882は口縁部が外反する山茶碗である。1883～1906は高台の残る山茶椀底部片である。1885の底部外面には「上」の墨書きがみられる。これらは第5型式の範囲であろう。1907は瓦器碗の底部片である。1908～1910は陶器壺の底部片か。1911は陶器片口鉢か。1912・1913は陶器壳であろう。これらは鎌倉時代のものと思われる。1914～1919は円形曲物の底部分である。1915には「+」の墨痕か。非常に薄く判別しがたい。1920は木製皿。挽物皿である。高台はない。半分欠失している。1921は糸車の一部分。1922・1923は浮子と考えられる。1924は板状木製品で何かと繋ぐための結合孔に留具が挿入してある。1925・1926は穿孔がある板状木製品である。1927～1929は棒状木製品である。1930は杵の先端部分。1931～1934は板状木製品。1931は一部に穿孔がみられる。1935は棒状木製品。箸の可能

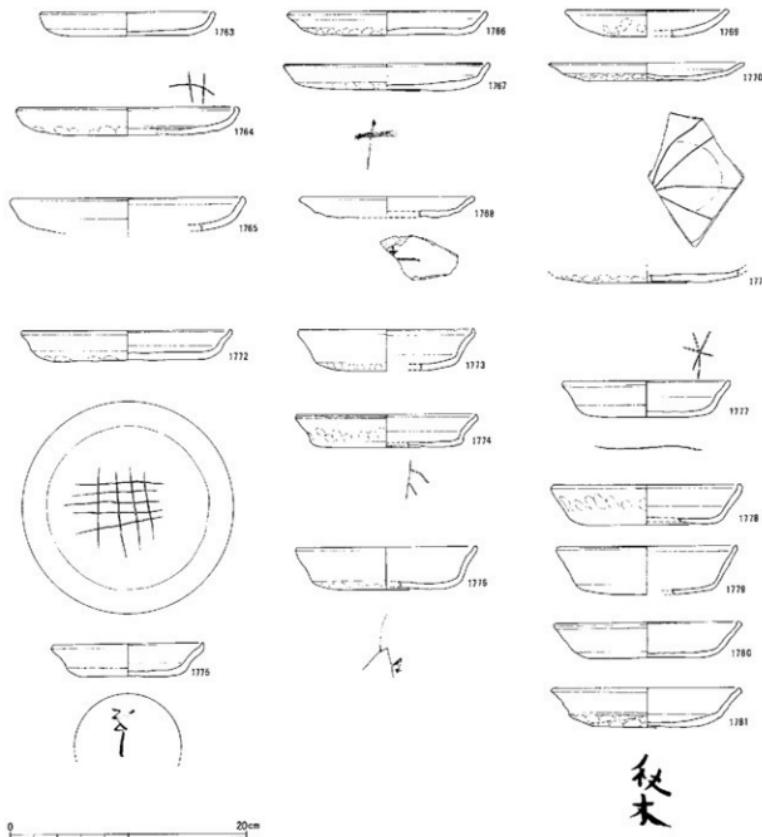
性も考えられる。1936～1938は木製杭。樹皮が一部に残存している。1939～2076は祭祀木製品の肅車である。細長い薄い板状のもので、両端を尖らせ左右の側面に切込みをいれるのが一般である。1939は板材の片側の先端を一側面から斜めに切り落としたものである。切込みはない。1940は板材の片側の先端を一側面から斜めに切り落としたもの。切込みは4ヶ所にみられ、全て複数の切込みがある。1941は板材の上端部は主頭状になっている。下端部は剣先状になっていると考えられる。切込みが入らないものといえる。1942は板材の上端部は主頭状になり下端部は剣先状になっている。側面には切込みをいれないもの。1943・1944は板材の上端部は主頭状になり、下端部は剣先状になっている。側面を割り裂くように上端の木口から割れ目をいたるものである。1945・1946は上端部は主頭状になり、下端部は剣先状になっている。側面の左右1ヶ所に切込みをいたるものである。切込み回数は1回。1947～1961は上端部は主頭状で、下端部は剣先状になっている。側面の左右2ヶ所以上に切込みをいたものである。1962～1975は上端部は主頭状で、側面の左右2ヶ所以上に切込みをいたものである。下端部は欠失しているものの剣先状になっていると思われる。1976～1991は下端部は剣先状になっている。側面の左右2ヶ所以上に切込みがある。上端部は欠失しているものの主頭状になっていると思われる。1992～1994は上端部は



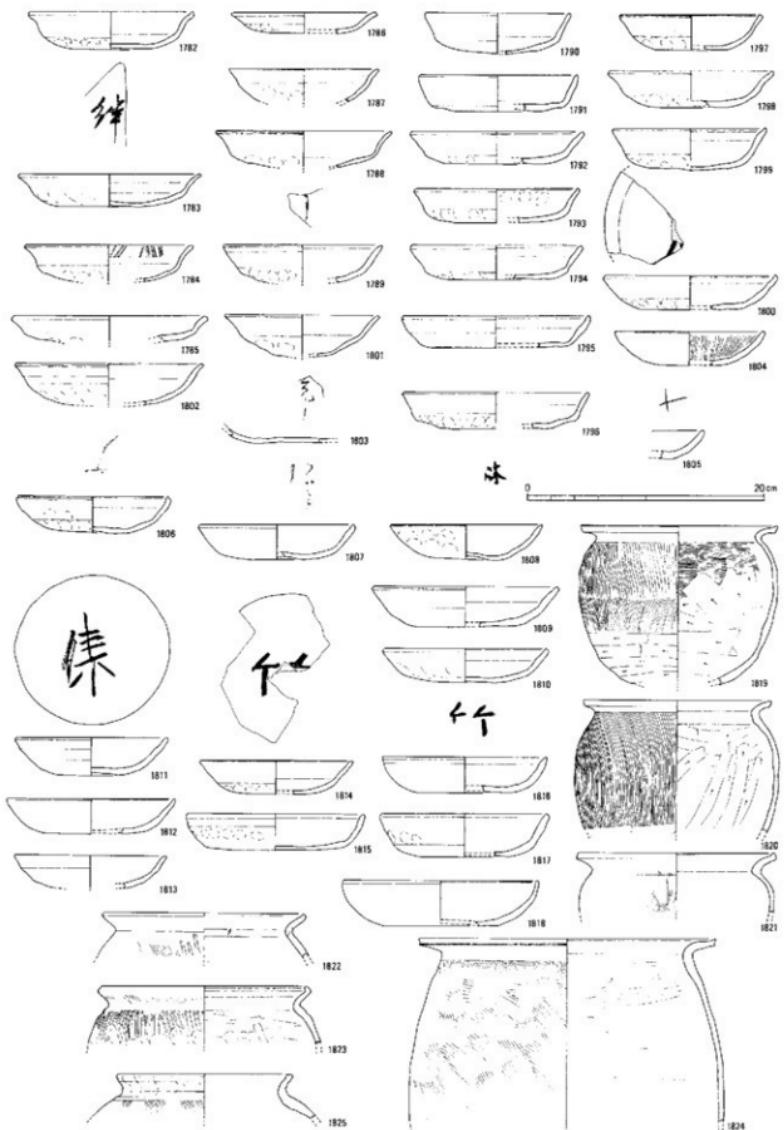
第168図 SR210出土遺物実測図⑨（1：4）

圭頭状で、下端部は剣先状になっている。側面の左右2ヶ所以上に切込みをいたるものである。1ヶ所の切込み回数が複数に及ぶものである。大型品になるものがほとんどである。1995～2003は上端部は圭頭状で、側面の左右2ヶ所以上に切込みをいたものである。下端部は欠失しているものの剣先状になるものと思われる。大型品になるものが多い。2004～2008は下端部は剣先状で、側面の左右2ヶ所以上に

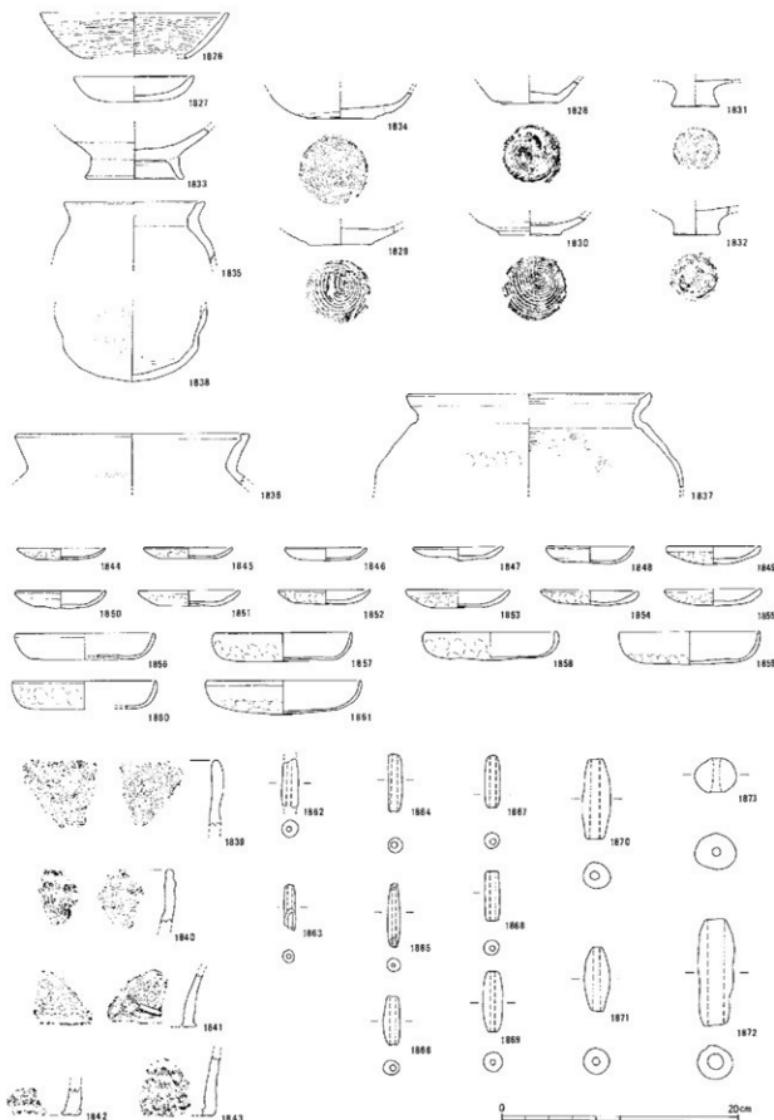
切込みをいたるものである。1ヶ所の切込み回数が複数に及ぶものである。上端部は欠失しているものの圭頭状になっていると思われる。大型品になるものがほとんどである。2009～2025は上端部が圭頭状で、下端部は欠失していないものの剣先状になると考えられる。切込み部分が確認できないものである。2026～2076は下端部が剣先状になり、上端部が欠失しているものの圭頭状であると考えられるものである。切込み部分は確認できない。2077～2081は舟形



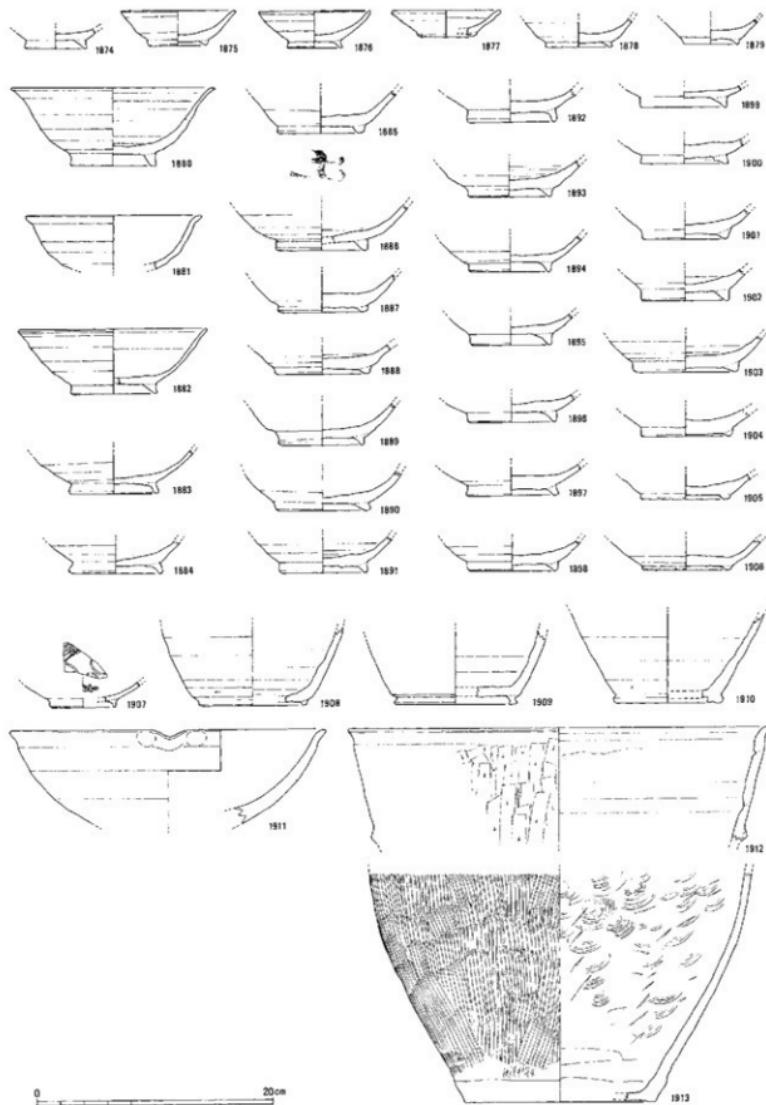
第169図 SR210出土遺物実測図⑩ (1 : 4)



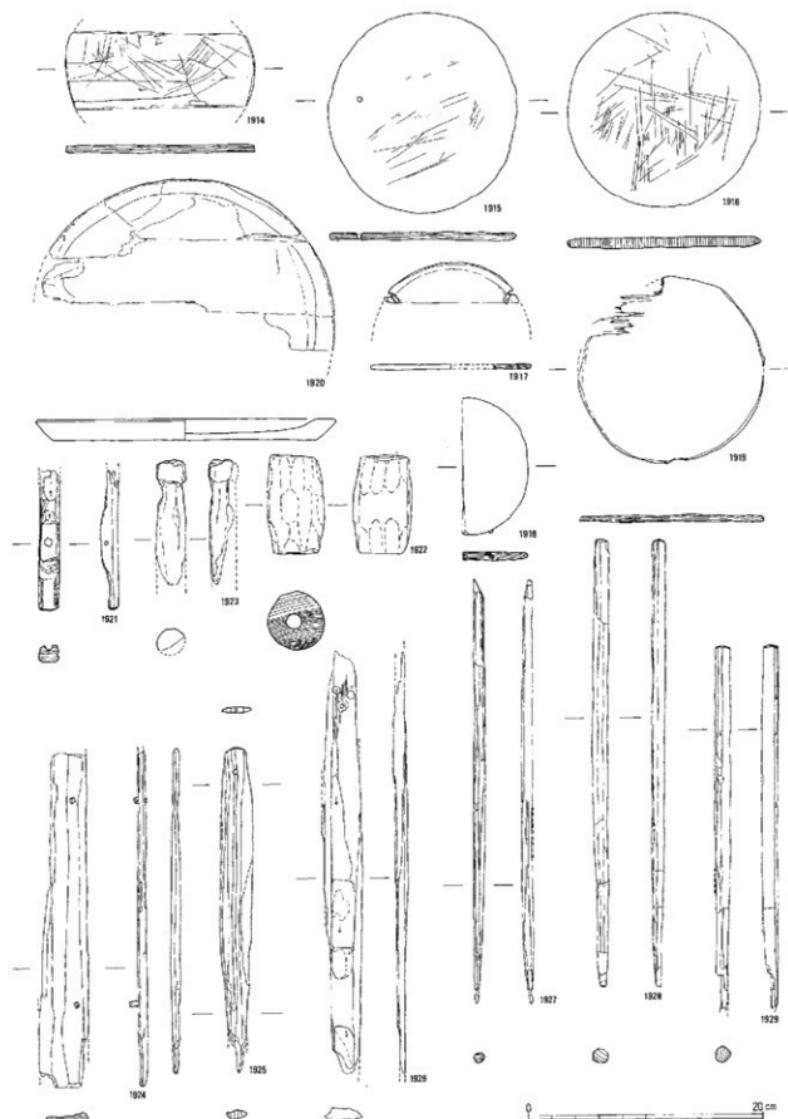
第170図 SR210出土遺物実測図① (1 : 4)



第171図 SR210出土遺物実測図(1:4)



第172図 SR210出土遺物実測図(3) (1 : 4)

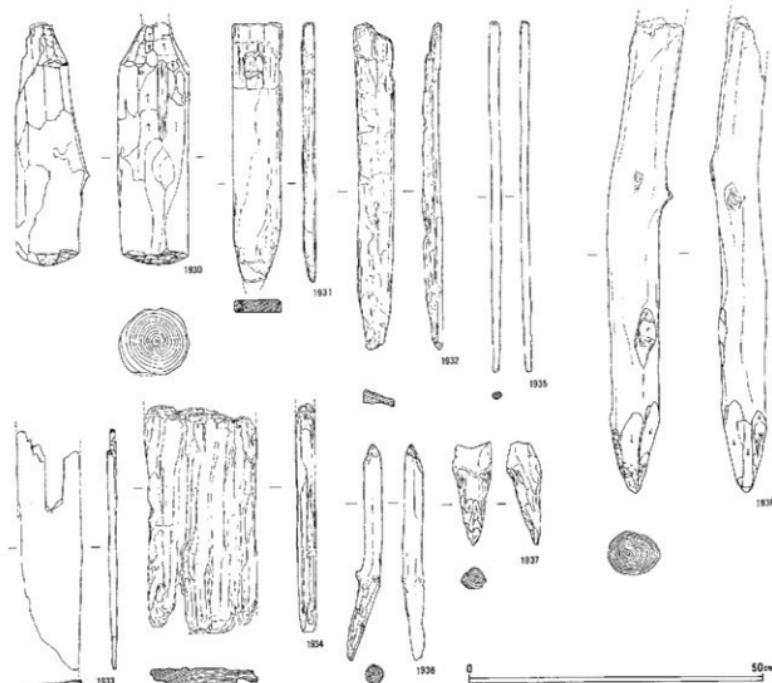


第173図 SR210出土遺物実測図(1:4)

木製品である。2077～2079のように船体部分をくり抜いているものと、2080・2081のようにくり抜いていないものに分けられる。2082は人形木製品である。頭部と胴体部は明確に分かれ、腕の表現もみられる。下端部は舟車と同様に剣先状である。松阪市杉垣内遺跡出土のものは、より人間に似せてあり顔の表情などが墨書きにより表現されているが、堀町遺跡出土のものはそのようなものはなく少し簡略化しているものと考えられる。静岡県神明原・元宮川遺跡においても同様の形態をした人形木製品の出土が確認されている。また、これら以外にも、モモ、コナラ属、オニグルミ、トチノキ、スモモ、エゴノキ属やクリなどの種実遺体が大量に出土した。

柱穴出土遺物（第187図）

2083～2088は弥生土器。弥生時代後期前半に属するものと考えられる。2083・2084は上器外面ミガキの壺、2085は、口縁端部が内弯し頸部に刺突が施された壺、2086は甕、2087は台付壺、2088は有段高杯部分である。2089～2104は平安時代のものと考えられる。2089・2090は底部平坦で口縁部外反する土器杯、2091・2092は口縁部断面が弓状の土器皿である。2093～2097は口縁部断面が弓状の土器皿である。2098～2100はロクロ製土器台付皿である。2098は底面部外側に糸切り痕が残る。2101は底部から口縁部にかけて直線的なロクロ製土器碗である。2102は口縁部が内弯する土器壺。2103は土製支脚、2104・2105は製塙土器の小片。いわゆる

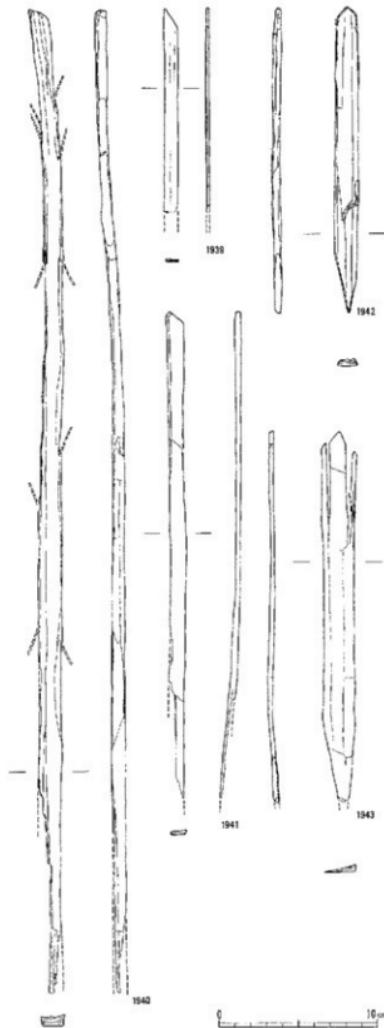


第174図 SR210出土遺物実測図(1 : 8)

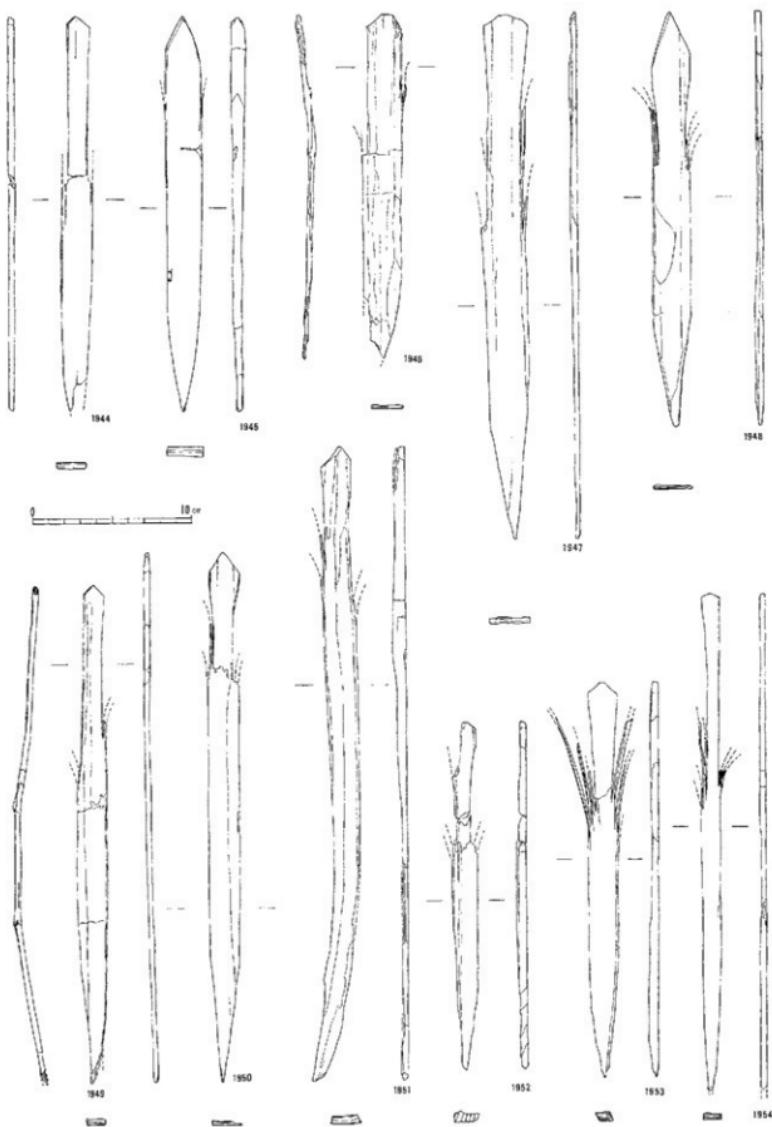
「志摩式製塙土器」である。2106～2108は底部調整が粗雑な薄手の土師器小皿。これらは鎌倉時代のものと思われる。2109は高台が残る山皿。第4型式に属するものと考へられる。2109～2111は口縁部が外反する山茶碗。第4型式に属するものか。2112は口縁部が直線的な山茶碗である。第6型式に属するものと思われる。

包含層出土遺物（第188～190図）

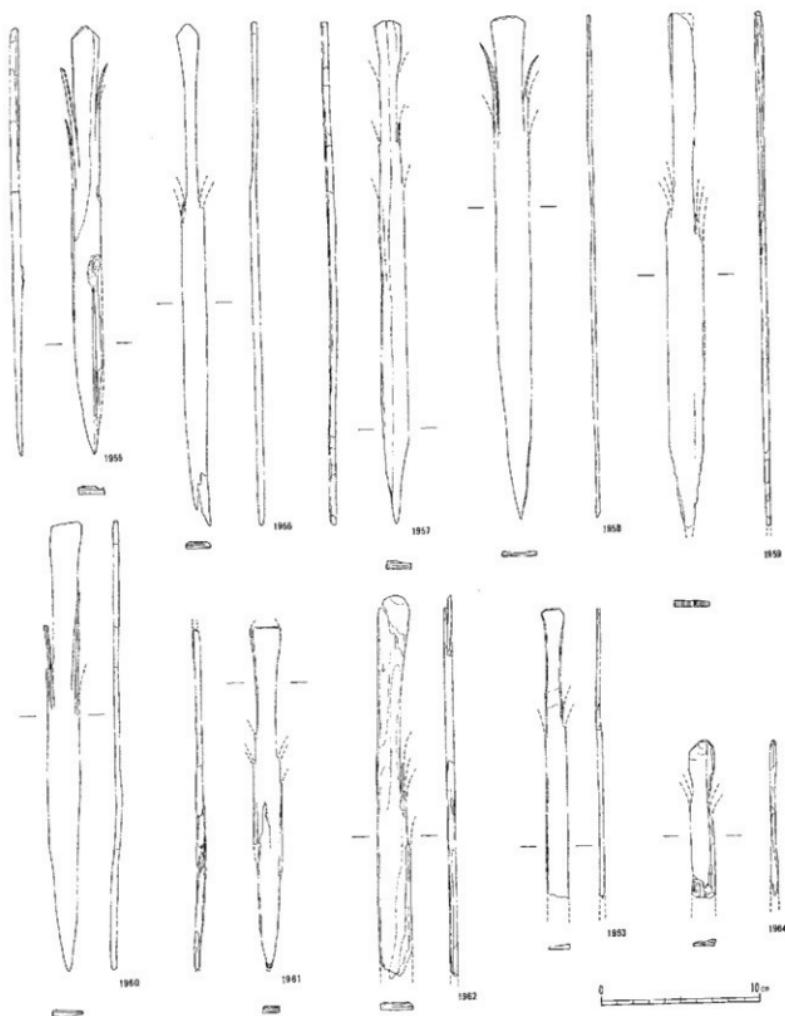
2113～2134は弥生時代後期前半に属するものであろう。2113は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる弥生土器壺、2114は短い口縁部がほぼ垂直に立ち上がる弥生土器壺、2115～2117は口縁部が外反する弥生土器壺、2118は頸部に刺突文が巡る弥生土器壺、2119は口縁端部に刻みが施された弥生土器壺、2120は口縁部受け口状の台付壺である。2121は体部下半に穿孔がみられる弥生土器鉢、2122～2124は弥生土器鉢である。2125は壺あるいは壺の底部ではと思われる弥生土器鉢である。2126は椀といつてもおかしくないが弥生土器鉢と考えたい。2127～2129はミニチュア土器壺、2130・2131はミニチュア土器壺、2132はミニチュア土器鉢である。2133は無茎三角錐。石材はチャートである。2134は石臼の一部分であろう。2135～2138は古墳時代のものと考へられる。2135は口縁部が垂直に立ち上がる古式土器壺、2136は口縁部が受け口状の小型丸底壺、2137・2138は古式土器高杯である。2139・2140は須恵器杯身である。これらは飛鳥～奈良時代のものか。2141～2171は平安時代に属するものと考へられる。2141～2143は底部平坦で口縁部が外反する土器器皿である。2141は底部内外面に「ヰ」「ヰ」の線刻、2142は口縁部外面に「ヰ」の線刻、2143は底部外面に全部残存していないが「ドーマン」を略したものと考へられる線刻が施されている。2144・2145は、口縁部外反し底部は丸みを帯びる土器器皿である。2146～2148は口縁部断面が円状の土器器皿である。これらは平安時代前期のものと考へられる。2149・2150はロクロ製土器台付皿、2151～2156は口縁部が直線的なロクロ製土器器皿である。底部外面には糸切り痕が残る。2157・2158は底部外面に糸切り痕が残るロクロ製土器器皿である。2159・2160は口縁部内寄気味の土器器皿である。これらは平安時代後期のものと思われる。



第175図 SR210出土遺物実測図⑩ (1 : 3)



第176図 SR210出土遺物実測図① (1 : 3)

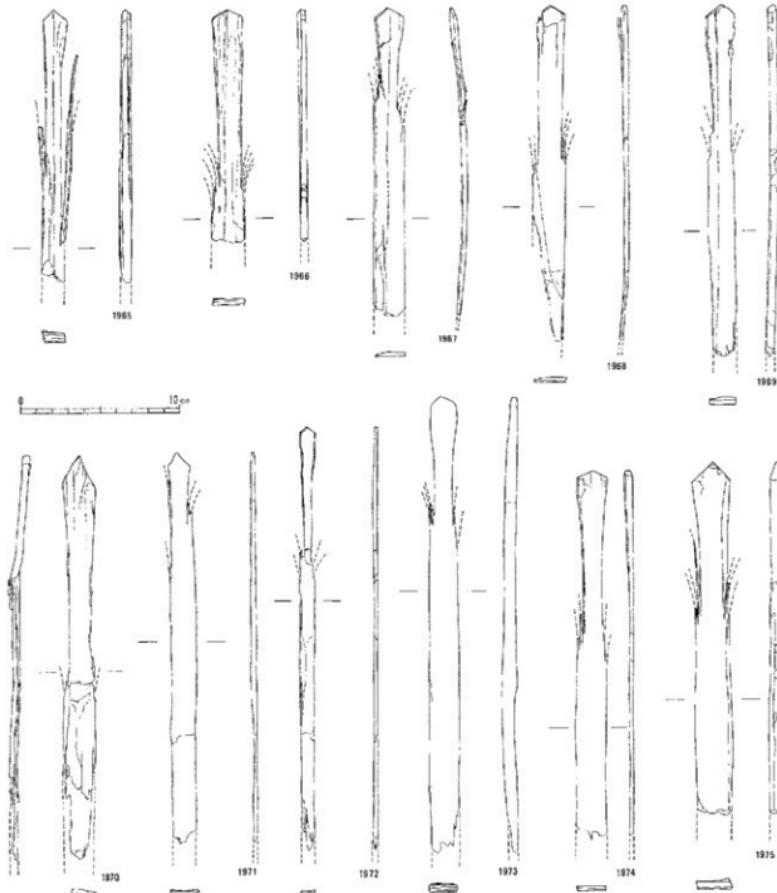


第177図 SR210出土遺物実測図⑩ (1 : 3)

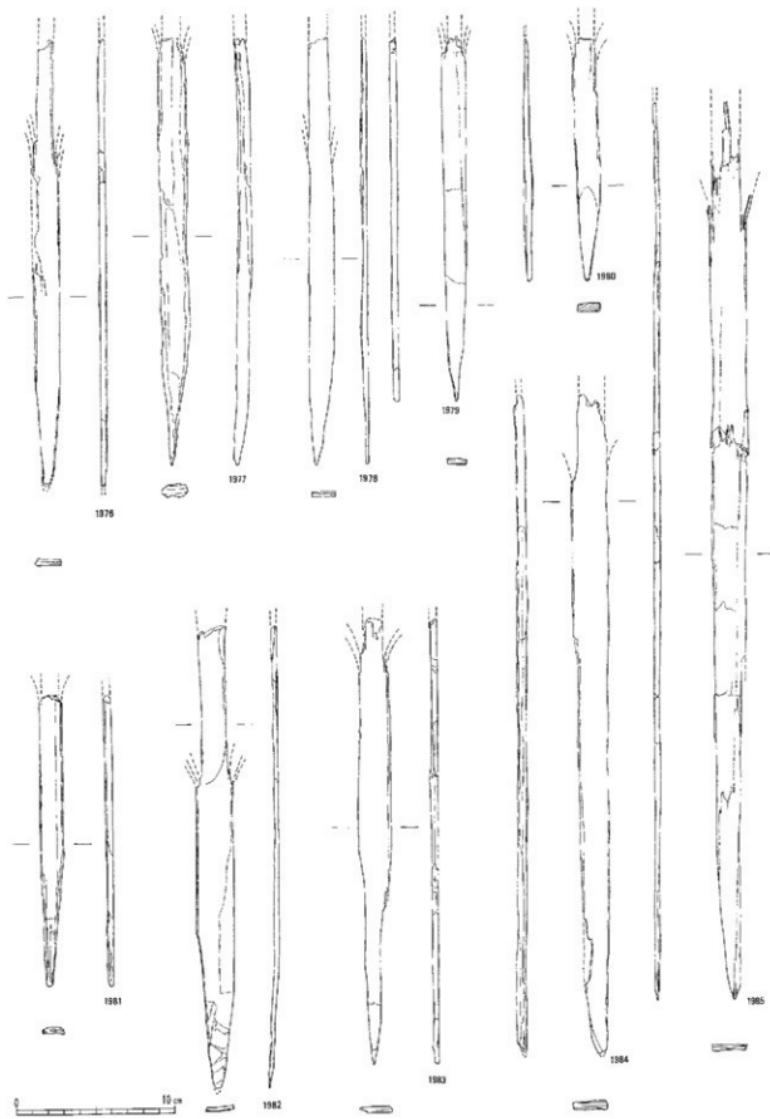
る。2161・2162は口縁端部が内弯する土師器甌である。2163～2167は口縁部ヨコナデで底部調整が粗雑な土師器小甌である。2168・2169はU縁部断面が弓状で薄手の土師器甌である。2170・2171は底筋から口縁部にかけて曲線的なロクロ製土師器甌。これらは平安時代末期のものと考えられる。2172・2173は「志摩式製塙土器」である。口縁部から体部にかけ

て残存している。平安時代のものと思われる。2174・2175は高台が残る山皿。2176は底部外面に「匁」の線刻がみられる山茶碗底部片。これらは第4型式と思われる。2177～2182は口縁端部が外反する山茶碗である。これらは第5型式と思われる。2183・2184は筒状の土錘。2185は銅貨。「寛永通寶」である。江戸時代のものである。

(小瀬 学)



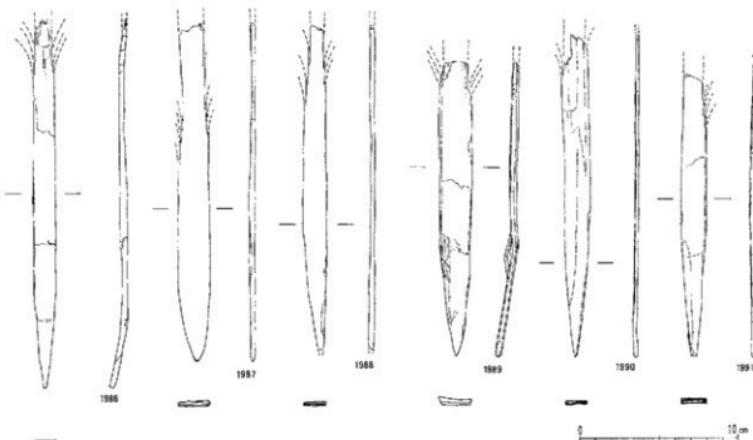
第178図 SR210出土遺物実測図(9) (1 : 3)



第179図 SR210出土遺物実測図(1:3)

[註]

- ① 奈宮跡調査事務所「奈宮跡の上師器」「奈宮跡調査事務所年報」(1984年)。
- ② 前川嘉宏「V. 調査のまとめ」『近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊一 蛭山道路左郡地区(三重県埋蔵文化財センター、1993年)。
- ③ 伊藤裕作「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history vol.1』(三重県史文化研究会、1990年)。
- ④ 那須良祐「山茶碗と中世集落」『尾邑』(瀬戸市教育委員会、1990年)。
- 那須良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第3号』(三重県埋蔵文化財センター、1994年)。
- ⑤ 田辺照三『陶邑古窯址群』(平安学園考古クラブ、1966年)。
- 大川勝宏「奈宮の黒色土器」『奈宮歴史博物館 研究紀要二』(奈宮歴史博物館、1993年)など。
- ⑥ 奈良国立文化財研究所「木器集成図録-近畿古代編一』(1985年)。
- ⑦ V. 自然科学分析を参照。以後の植物遺体や動物遺体についてもV.を参照されたい。
- ⑧ 三重県埋蔵文化財センター原田恵理子氏のご教示による。
- ⑨ 川崎志乃「木銀朱精製に関する予察」『研究紀要第9号』(三重県埋蔵文化財センター、2000年)。
- ⑩ 豊橋市教育委員会「高井道路」(1996年)
- ⑪ 三重県埋蔵文化財センター原田恵理子氏のご教示による。
- 奈宮歴史博物館村村寛之氏のご教示による。
- ⑫ V. 自然科学分析を参照。
- ⑬ 山本雅雄「第10回 三重県」『日本土器製造研究』(青木書店、1994年)
- ⑭ 福田哲也ほか「N.、阿形遺跡」「ヒキヤ廃寺・打田遺跡、阿形遺跡はか」(三重県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ⑮ 野村史郎「伊勢・志摩海民の進捗と信仰」「伊勢と熊野の海」(小学館、1992年)。



第180図 SR210出土遺物実測図(1:3)

- ⑯ 宇野隆夫・井戸孝「史林 第65巻第5号」(1982年)。
- ⑰ 広島県草戸千軒町遺跡調査研究会「草戸千軒町遺跡発掘調査報告書V」(1996年)。
- ⑱ ⑯と同じ。
- ⑲ 水久美男ほか『中世の出土鐵』(兵庫埋蔵鉄調査会、1994年)。
- ⑳ 河瀬信吉ほか「N. 杉垣内遺跡」『昭和61年度農業基盤整備事業地域 埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告』(三重県教育委員会、1990年)。
- ㉑ 萩野克己ほか『人谷川I』(財)農府博物館付属静岡県埋蔵文化財調査研究会、1984年)

[参考文献]

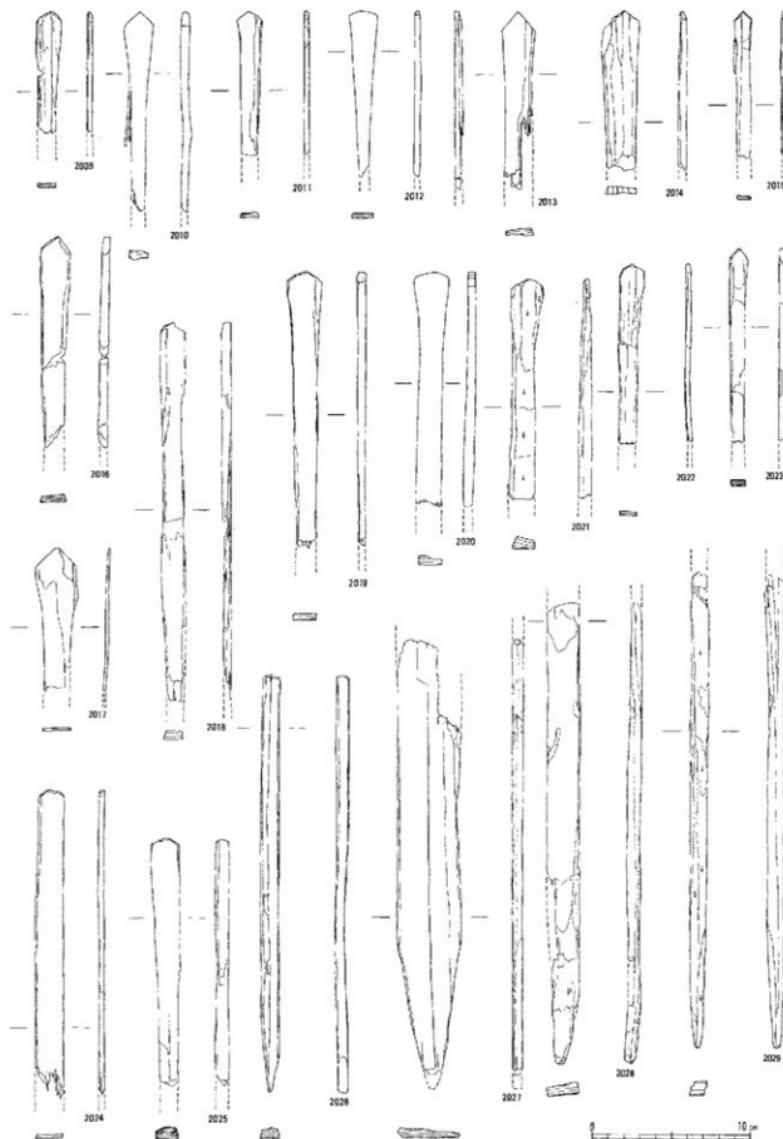
- ・ 小塚次郎ほか『山中遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ・ 森本六助・小林行雄「弥生式土器聚成」(1939年)。
- ・ 守沢廣・森岡秀人ほか「弥生土器の様式と編年-近畿編I-」(1989年)。
- ・ 守沢廣・森岡秀人ほか「弥生土器の様式と編年-近畿編II-」(1990年)。
- ・ 東海考古学フォーラム「鍋と甕そのデザイン」(1996年)。
- ・ 三重県埋蔵文化財センター「一般国道42号松阪・多気バイパス 埼玉県埋蔵文化財発掘調査概報V-VI」(1995~1998)。



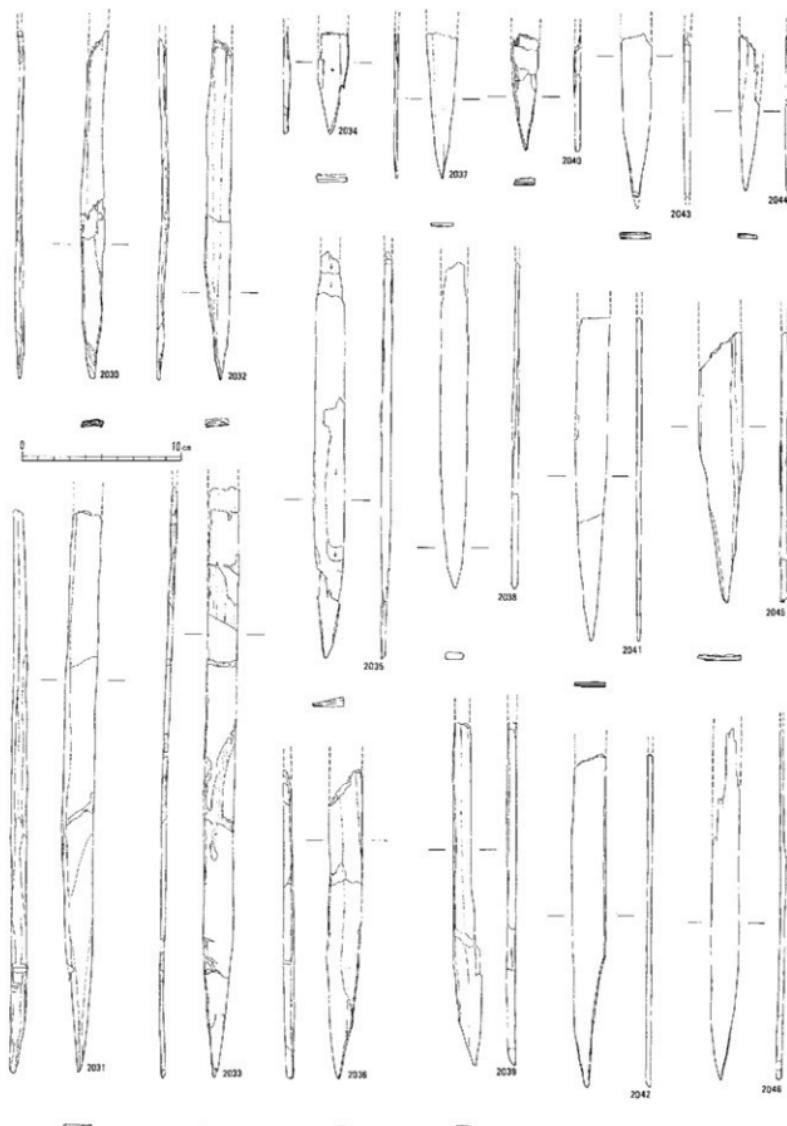
第181図 SR210出土遺物実測図② (1 : 3)



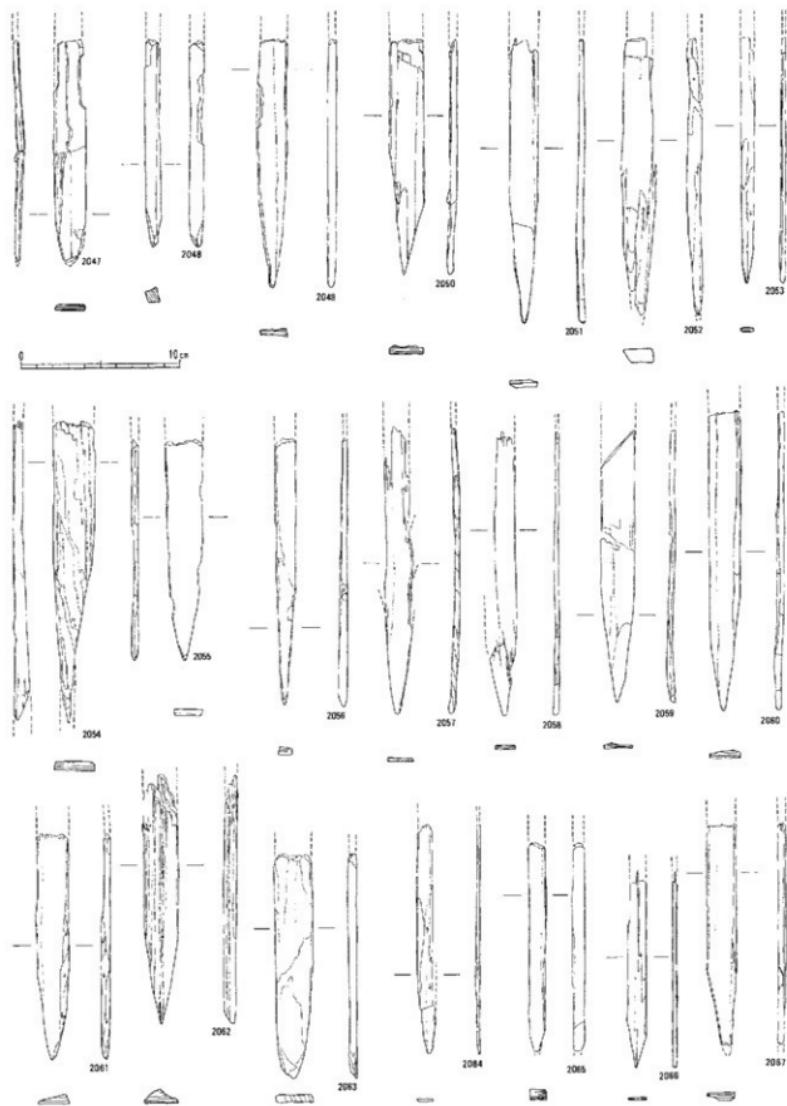
第182図 SR210出土遺物実測図② (1 : 3, 2006~2008は1 : 4)



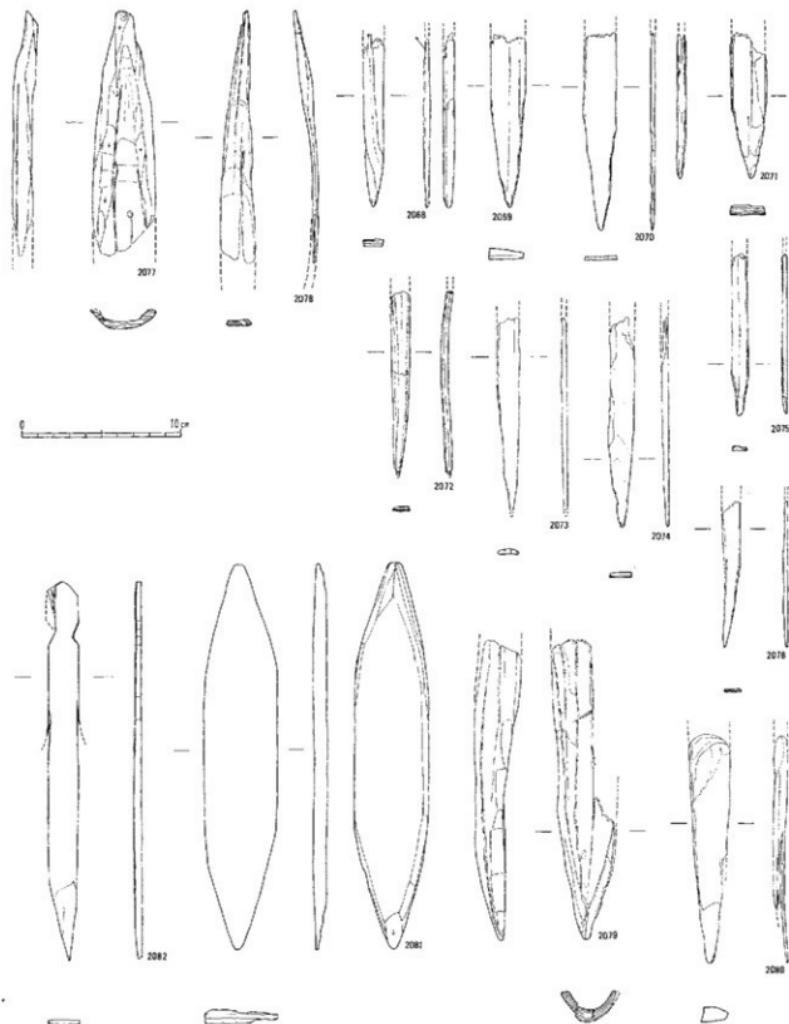
第183図 SR210出土遺物実測図29 (1 : 3)



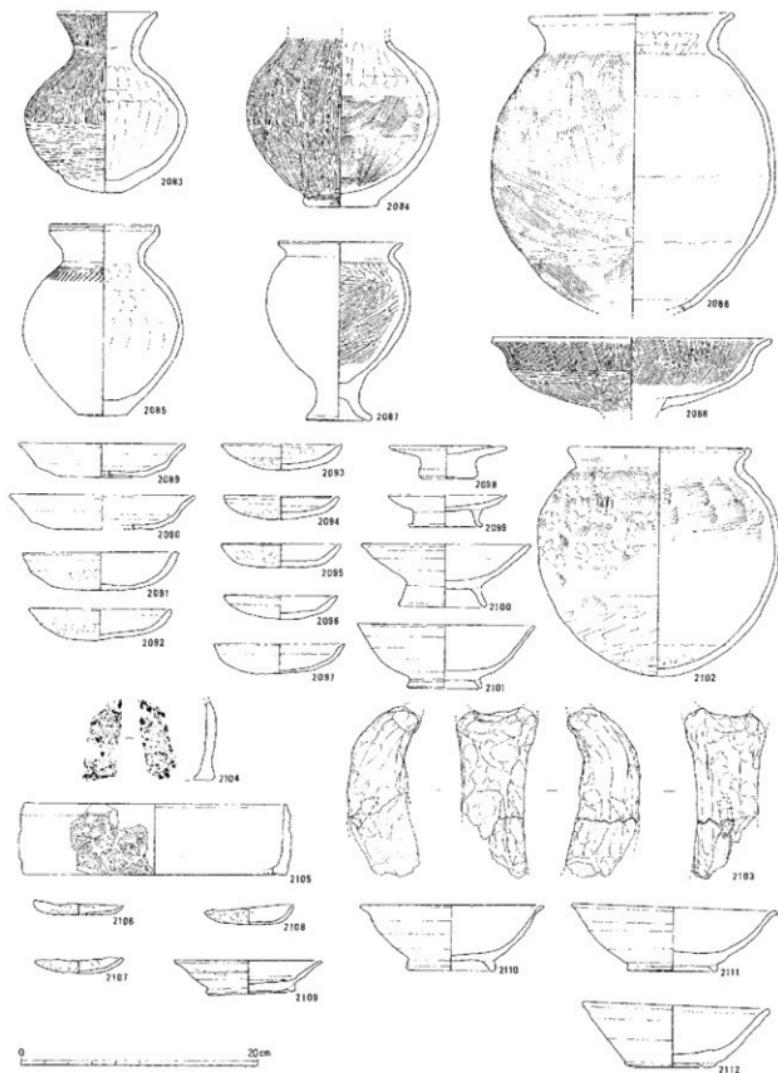
第184図 SR210出土遺物実測図(1:3)



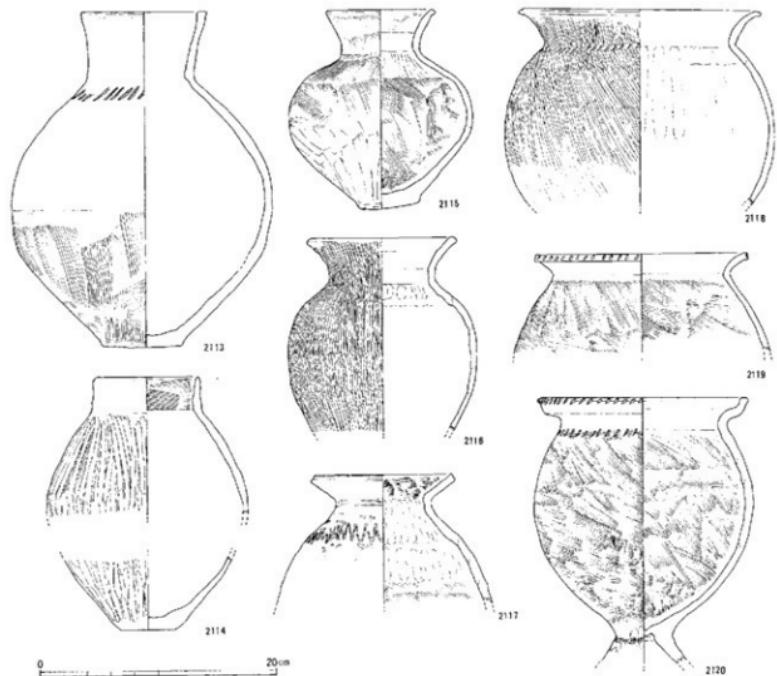
第185図 SR210出土遺物実測図◎ (1 : 3)



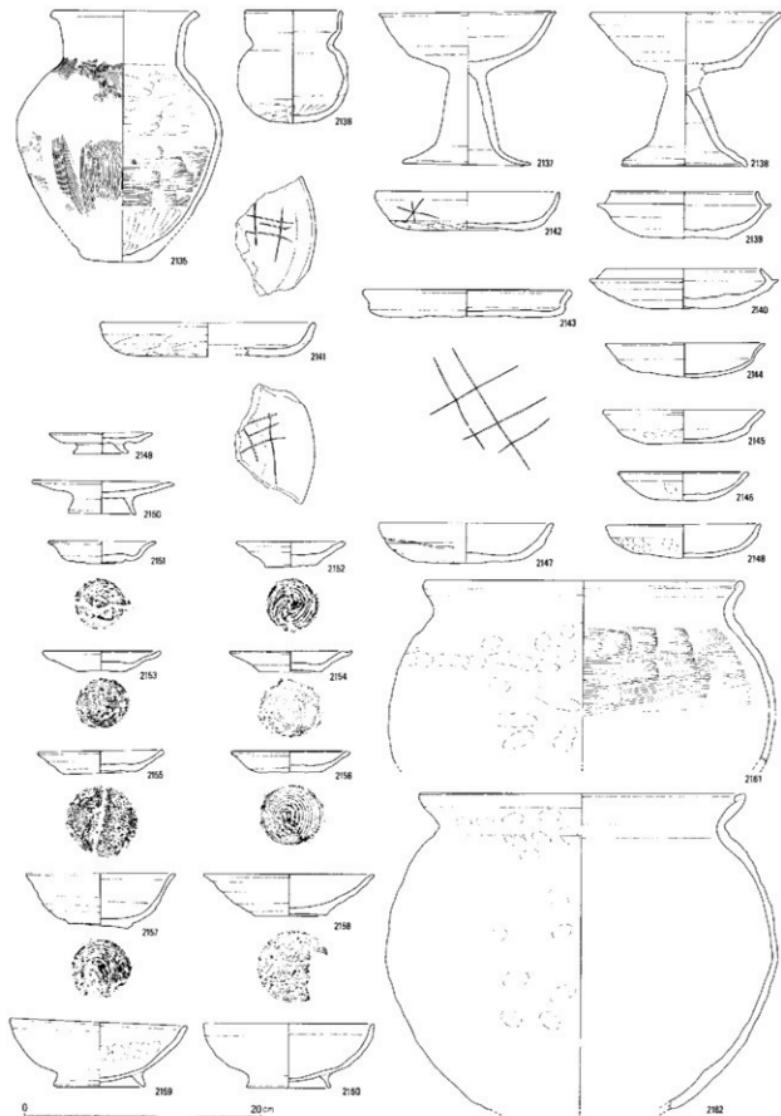
第186図 SR210出土遺物実測図2 (1 : 3)



第187図 柱穴出土遺物実測図（1：4）



第188図 包含層出土遺物実測図① (1:4, 2133・2134は2:3)



第189図 包含層出土遺物実測図② (1 : 4)

<遺物観察表凡例>

番号：文章と図版内の番号に対応する。

実測番号：遺物実測図の番号に対応する。

種類：弥生土器、土師器、須恵器などを記入している。

器種・分類：壺、甕、高杯、器台、皿などといった器種と本文で行った分類記号を記入している。

出土位置：出土した遺構、層位、地区、取り上げ番号などを記入している。

法量：基本的には、口縁、底径、器高の数値を記入しているが、それ以外のものについてはそれぞれ

の欄にどこの部位の数値か明記してある。なお、() 付の数値は復元値である。

調整技法の特徴：外面と内面の調整技法を遺物の上方から順次記入している。

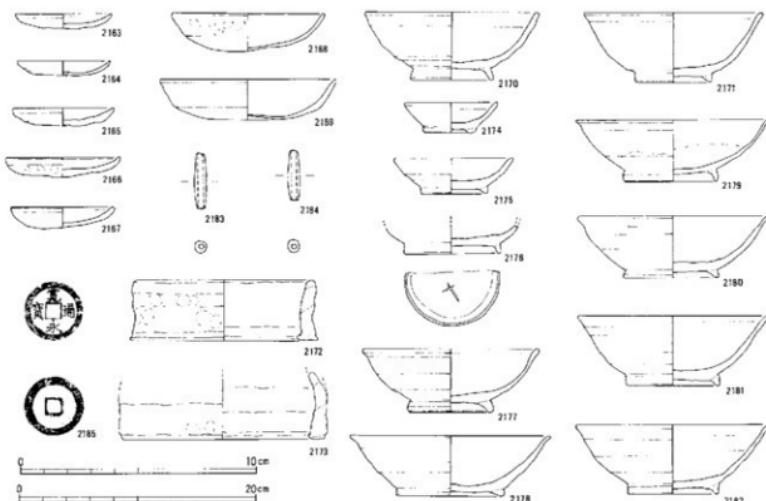
胎土：密、やや密、粗、やや粗の内から記入している。

焼成：良、並、不良の内から記入している。

色調：外面と内面をそれぞれ記入している。1色のみの表記の場合は内外面とも同一色ということになる。

残存：○分の○という表記で、残存部位によっては口縁 1/3 というように記入している。

備考：前述以外の情報を記入している。木製品の樹種や朱の付着など。



第190図 包含層出土遺物実測図③ (1 : 4, 2185は1 : 2)

番号	種類	被覆分類	出土位置	法規 (C-II)		調査技術の特徴	地 質	色 調	既存	備考
				日付	遺物					
1	500-01	新生土層	■	SB257	H60 Pic3	13.5	外-内 ダーティーグリーン/茶 内-褐色/茶(茶) [10cm] (茶) [10cm] (茶) [10cm]	少 少 少	青 青 青	高い緑の青/74 緑/4
2	500-02	新生土層	■	SB257	G60 Pic2	5.5	外-カーネル/白/オーナード 内-カーネル/白/オーナード	少 少	青 青	白/76 青/6
3	376-01	新生土層	C3	SK1	No.8-10-11-14	5.0	外-ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	青/51/1 青/51/1
4	387-01	新生土層	B1	SK1	No.11	(37.4)	外-カーネル/オーナード 内-カーネル/オーナード	密 密	青 青	黄緑/51/5/1 灰灰/25/5/1
5	388-01	新生土層	A3a	SK1	No.7	(29.0)	外-カーネル/白/オーナード 内-カーネル/白/オーナード	密 密	青 青	黄/5/5 青/4
6	376-02	新生土層	B1	SK1		(37.0)	外-カーネル/オーナード 内-カーネル/オーナード	少 少	青 青	白/76 青/6
7	387-02	新生土層	A3	SK1	H7	(22.0)	外-内 ナチュラル、青緑の青/茶 内-ナチュラル	少 少	青 青	青/51/5/2 青/51/2
8	387-02	新生土層	B1	SK15	No.114	(21.5)	外-カーネル/オーナード/オーナード 内-カーネル/オーナード	少 少	青 青	緑葉/7.5/6/2 緑葉/7.5/6/2
9	385-02	新生土層	A2	SK15	No.112	(38.2)	外-カーネル/オーナード 内-カーネル/オーナード	少 少	青 青	灰灰/10/5/2 灰灰/10/5/2
10	387-02	新生土層	A1	SK15	No.115		外-カーネル/オーナード 内-カーネル/オーナード/オーナード	少 少	青 青	青/5/5/3 青/5/5/3
11	374-02	新生土層	A3	SK15	No.8-113-116~118		外-内 ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	青/51/5/1 青/51/1
12	384-02	新生土層	B2	SK15	No.6-8	(22.0)	外-カーネル/オーナード/オーナード 内-ナチュラル	少 少	青 青	黄緑/51/5/3 青/51/3
13	373-02	新生土層	B2	SK15	No.10	(8.4)	外-カーネル/オーナード 内-カーネル/オーナード	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
14	387-02	新生土層	B2	SK15	No.11	7.4	4.2 外-カーネル/オーナード/オーナード	少 少	青 青	青/5/5/4 青/5/5/4
15	384-02	新生土層	■	SK15		(7.5)	外-ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	青/5/5/1 青/5/5/1
16	384-02	新生土層	■	SK15	No.9	(3.0)	外-カヌエーチ 内-ナチュラル	少 少	青 青	青/5/5/1 青/5/5/1
17	387-02	新生土層	■	SK15		(8.0)	外-カーネル/オーナード 内-ナチュラル	少 少	青 青	青/5/5/1 青/5/5/1
18	384-02	新生土層	■	SK15	No.109	7.2	外-ナチュラル 内-カーネル/オーナード	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
19	385-02	新生土層	A2	SK15	No.5	(4.0)	外-カーネル/オーナード/オーナード 内-カーネル/オーナード/オーナード	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
20	387-02	新生土層	A1	SK15	No.5	(16.0)	外-カーネル/オーナード/オーナード 内-カーネル/オーナード/オーナード	少 少	青 青	青/5/5/1 青/5/5/1
21	385-02	新生土層	A2	SK15		(18.2)	外-内 ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
22	386-02	新生土層	■	SK15		(4.8)	外-内 ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
23	383-02	新生土層	■	SK15	No.5	7.4	外-カーネル/オーナード/オーナード 内-カーネル/オーナード/オーナード	少 少	青 青	青/5/5/1 青/5/5/1
24	387-02	新生土層	■	SK15		(7.5)	外-カーネル/オーナード/オーナード/ナチュラル 内-カーネル/オーナード/ナチュラル	少 少	青 青	青/5/5/1 青/5/5/1
25	381-02	新生土層	A1	SK15	No.13	(24.5)	外-内 ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
26	386-02	新生土層	■	SK15	No.3-6	(3.0)	外-カーネル/オーナード/カーネル/オーナード 内-ナチュラル ナチュラル/ナチュラル/オーナード	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
27	381-02	新生土層	■	SK15		9.5	外-内 ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
28	386-02	新生土層	■	SK15		(10.5)	外-カーネル/ナチュラル/ナチュラル 内-カーネル/ナチュラル/ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
29	385-02	新生土層	D3	SK15	No.101	(0.4)	外-内 ナチュラル 内-内 ナチュラル/カーネル/カーネル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
30	387-02	新生土層	C2	SK15		(9.3)	(2.5) 外-カーネル/ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
31	388-02	新生土層	A3	SK15	No.120	(16.9)	外-内 ナチュラル 内-ナチュラル/カーネル/カーネル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
32	298-02	木製品	木製品	SK15	No.105	(16.9)	外-内 ナチュラル 内-ナチュラル/カーネル/カーネル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
33	385-02	新生土層	A2	SK29	No.1	(20.0)	外-カーネル/オーナード 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
34	387-02	新生土層	■	SK29	No.1	3.6	外-カーネル/ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
35	381-02	新生土層	■	SK31	No.17	(18.2)	外-カーネル/ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
36	384-02	新生土層	A1	SK31		(31.2)	外-カーネル/ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
37	387-02	新生土層	A2	SK31	No.54	(22.2)	外-カーネル/ナチュラル 内-カーネル/ナチュラル/ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
38	317-02	新生土層	A3	SK31	No.43	(26.6)	外-ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
39	314-02	新生土層	D2	SK31		(14.2)	外-カーネル/ナチュラル/カーネル 内-カーネル/ナチュラル/カーネル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
40	386-02	新生土層	D2	SK31	No.49	(10.7)	外-カーネル/ナチュラル/カーネル 内-カーネル/ビューリーナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
41	389-02	新生土層	B2	SK31		(4.0)	外-カーネル/ナチュラル 内-カーネル/ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
42	310-02	新生土層	C2	SK31	No.52		外-ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1
43	310-02	新生土層	■	SK31			外-ナチュラル 内-ナチュラル	少 少	青 青	白/5/5/1 白/5/5/1

第16表 遺物觀察表①

番号	測量 場所 場所 番号	種類	標高分類	出土位置	位置 [cm]		開発段階の特徴	地 質	色 調	保存	備 考	
					口径	進路						
44	305- 06	弥生土器 壺	SK31				黄・シロ・白・灰交遊 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/灰	未	灰・灰・薄緑色/0.987/3 未・薄緑色/0.7	
45	307- 01	弥生土器 壺	SK31		8.1		月・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7	碧	灰 灰・灰・薄緑色/0.987/3 灰・薄緑色/0.7	未	外蓋開閉に凸凹 外蓋に付着	
46	310- 01	弥生土器 壺	SK31	No.25	6.8		灰・シロ・白・灰交遊 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	外蓋に黒斑あり	
47	313- 01	弥生土器 壺	SK31	No.1-2/4-5	7.0- 7.4		黄・シロ・白・灰交遊 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・灰・薄緑色/0.987/5 灰・灰・薄緑色/0.987/5	未	外蓋・一部黒斑あり 蓋部に黒斑あり	
48	318- 01	弥生土器 壺	SK31	No.46	6.6		黄・シロ・ナガリ・ナガリ	碧	灰 灰・薄緑色/0.987/3 灰・薄緑色/0.7	未	外蓋開閉	
49	315- 02	弥生土器 壺	C1	SK31	No.20	(8.4)	灰・シロ・白・灰交遊 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/2 灰・薄緑色/0.7	未	直腹/2 直腹/2 竹青色/0.7m	
50	316- 01	弥生土器 壺	C1	SK31	No.51	7.5	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/2	未	直腹開閉	
51	308- 01	弥生土器 壺	E2	SK31	4.0	5.5	18.7	灰・シロ・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ	碧	灰 灰・シロ・白・灰交遊/4	未	口
52	364- 01	弥生土器 壺	E1a	SK31	8.5	5.8	13.3 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4	未	灰・シロ・白・ 2.5mm幅	
53	317- 01	弥生土器 壺	F	SK31	No.34	(8.4)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ 内・ナガリ	碧	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	口	
54	312- 02	弥生土器 壺	A1	SK31	No.45	(9.3)	灰・シロ・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	直腹/2 直腹/2 内全面に模様有 内口部に黒斑あり	
55	375- 01	弥生土器 壺	A3	SK31	No.41	(9.4)	灰・シロ・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7	碧	灰 灰・直腹/2 内・ナガリ・薄緑色/0.987/2	未	外蓋に付着	
56	347- 01	弥生土器 壺	D1	SK31	No.47	16.4	9.8 G3.0 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ハケル・残部・ハラク7/7	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4 灰・薄緑色/0.987/4	未	口	
57	316- 01	弥生土器 壺	SK31	No.13			灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/6	未	口	
58	358- 04	弥生土器 壺	SK31	No.7			灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4	未	口	
59	339- 01	弥生土器 壺	SK31	No.33		10.0	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/1	未	口	
60	369- 01	土製品 陶製品	SK31		7.5	4.3	直腹/3 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4	未	口	
61	311- 01	石器	SK31	No.49	11.3	7.2	3.2 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4	未	直腹 重量30kg	
62	311- 01	石器	SK31	No.15	11.3	4.3	1.7 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4	未	直腹 重量10.4kg	
63	216- 01	木製品 漆桶	SK31		16.7	4.8	6.0 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	直腹 内全面に朱色刷り 外蓋	
64	209A- 01	木製品 漆桶	SK31	No.61	27.2	5.3	12.8 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	カコ・コナラ里属 ウツキ	
65	209B- 01	木製品 漆桶	SK31	No.42	26.5	5.3	12.8 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	カコ・コナラ里属 ウツキ	
66	209C- 01	木製品 漆桶	SK31	No.60	18.8	12.2	5.7 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	カコ・コナラ里属 ウツキ	
67	217B- 01	木製品 漆桶	SK31	No.32	26.5	16.0	7.1 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	カコ・コナラ里属 ウツキ	
68	346- 01	羽林装	SK41				シダ・葉・纏枝文・枝 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/2	未	直腹 直腹	
69	344- 01	羽林装	SK41				シダ・葉・纏枝文・枝 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	直腹 外蓋開閉	
70	345- 01	羽林装	SK41				シダ・葉・纏枝文・枝 内・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	直腹 直腹開閉	
71	244- 01	弥生土器 壺	B3	SK41		7.7	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	直腹 外蓋開閉に黒斑あり	
72	277- 01	弥生土器 壺	D1	SK53	H21	13.6	8.2	20.0 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/7.7/未	未	直腹 外蓋開閉に黒斑あり
73	271- 01	弥生土器 壺	P	SK61	No.3	(11.0)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/4	未	直腹 直腹	
74	370- 01	弥生土器 壺	G4	SK61	19	7.0	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/0.987/3	未	直腹/8 外蓋に付着	
75	370- 02	弥生土器 壺	A1	SK61	19	(7.0)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
76	371- 01	弥生土器 壺	新C2	SK61	No.4		灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
77	371- 02	弥生土器 壺	SK61	No.3	6.2		灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹開閉	
78	235- 03	弥生土器 壺	B3	SK62	B75	(11.3)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 外・直腹/5.9/未	
79	231- 01	弥生土器 壺	B3	SK62	C75	(12.0)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
80	357- 02	弥生土器 壺	B1a	SK62	C75	(9.7)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
81	233- 01	弥生土器 壺	B3	SK62	C75	(9.2)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
82	238- 01	弥生土器 壺	B3	SK62	C75	6.0	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ・一部ケリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
83	234- 01	弥生土器 壺	F2	SK62	C75	5.0	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
84	235- 04	弥生土器 壺	A1	SK62	C75	(11.0)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	
85	235- 05	弥生土器 壺	C1	SK62	C75	(12.0)	灰・シロ・白・ナガリ・ナガリ 内・ナガリ・ナガリ	今小 葉	灰 灰・薄緑色/5.9/未	未	直腹 直腹	

第17表 遺物観察表②

番号	実物番号	種類	種類分類	出土位置	法面 (cm)	口徑 直径 厚さ	調査歴沿の発見		治 縫 風	色 調	残存 状 況	備考
							口徑	直径	厚さ			
86	036-01	寄生土器	高杯 AII	SK305	C75	022.40	井内 ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・明治時代SY53/6 内に・井戸壁SY53/4	井戸井	
87	036-01	寄生土器	高杯	SK305	C75	13.13	井内 土器不明→1.5cm	井内	小今 風	井内に・井戸壁SY53/3	底部3/8	
88	037-01	寄生土器	高杯 A	SK305	C75	16.3 (15.2)	14.75 井内 ナメル→ガラーネル	井内	小今 風	井内に・井戸壁SY53/4	井戸井/3 井戸壁三方透孔	
89	034-01	寄生土器	高杯 AII	SK305	C68	12.0	井内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内底SY53/2	井戸井	
90	028-01	寄生土器	高杯 A1	SK305	C68	09.00	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル	井内	小今 風	井内底SY53/2	井戸井	井戸内に一級品目あり
91	008-01	寄生土器	高杯 A2	SK305	C68 第2層 No.29-1B-198	19.5	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/4 内 (井内) ナメル	井戸井/3 井戸壁SY53/2	
92	017-01	寄生土器	高杯 A2	SK305	C68	12.0	井内 ナメル→1.5cm	井内	不規 則	井内 (井内) 井戸壁SY53/2 内 (井内) ナメル	井戸井/3	
93	001-01	寄生土器	高杯 A2	SK305	C68 No.57	118.43 (15.0)	30.6 井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル	井内	小今 風	井内SY53/2	井戸井 1/3	井戸内面に浮文2枚 底部摩耗4-5所
94	017-01	寄生土器	高杯 A2	SK305	C68 第2層 No.120-125	12.0	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3 内 (井内) SY53/1	井戸井	
95	026-01	寄生土器	高杯 A2	SK305	C68 第2層	12.0	井内 土器不明	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	
96	026-03	寄生土器	高杯 A2	SK305	C68 No.36	12.0	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	
97	014-01	寄生土器	高杯 B1	SK305	C68	19.5	井内 ナメル	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井	
98	027-02	寄生土器	高杯 A1	SK305	C68 第2層 No.177	15.0	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル	井内	小今 風	井内SY53/2	井戸井	井戸内に黒斑あり
99	013-02	寄生土器	高杯 B2	SK305	C68 第3層 No.182-193	(4.8)	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内SY53/2	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
100	016-05	寄生土器	高杯	SK305	C68 第2層 No.93	8.0	井内 ハナメル→1.5cm 内 (井内) ハナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/4 内 (井内) SY53/1	井戸井/3	
101	011-01	寄生土器	高杯	SK305	C68 No.5-	12.0	井内 ハナメル→1.5cm 内 (井内) ハナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
102	023-01	寄生土器	高杯	SK305	C68	6.8	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル	井内	小今 風	井内SY53/2	井戸井	遺物現象
103	016-01	寄生土器	高杯 E2	SK305	C68 第3層 No.58-188	10.7	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3	井戸井	
104	032-01	寄生土器	高杯 E2	SK305	C68 No.15-20-15- 25-37-40- 41-49-55- 91-102- 104	10.7	井内 ハナメル→1.5cm 内 (井内) ハナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内に炭化物付着
105	038-01	寄生土器	高杯 E1e	SK305	C68 No.206	10.5	3.7 井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3	井戸井/3	井戸内に工具痕
106	012-01	寄生土器	高杯 B2	SK305	C68 No.210	6.2	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内面に擦痕 底部摩耗
107	008-02	寄生土器	高杯 E3	SK305	C68 No.235	10.0	4.1 井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
108	007-02	寄生土器	高杯 C3	SK305	C68 第3層 No.201	4.4	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3	井戸井/3	井戸内に工具痕
109	021-01	寄生土器	高杯 C3	SK305	C68 No.28A-D	4.0	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内に工具痕
110	009-01	寄生土器	高杯 I	SK305	C68 第2層 No.201	5.2	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
111	019-01	寄生土器	高杯	SK305	C68 No.209	12.2	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
112	015-01	寄生土器	高杯	SK305	C68	12.0	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/4	井戸内に黒斑あり
113	031-01	寄生土器	高杯	SK305	C68 No.60-61- 62	5.0	井内 ハナメル→1.5cm 内 (井内) ハナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
114	007-01	寄生土器	高杯 H1	SK305	C68 No.25	2.8	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/2	井戸井/3	井戸内に黒斑あり
115	025-02	寄生土器	高杯 H3	SK305	C68	4.0	井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/3 内 (井内) 井戸壁SY53/4	井戸井/3 井戸井/4	井戸内に黒斑あり
116	006-02	寄生土器	高杯 H2	SK305	C68 第2層 No.111	17.22	3.6 井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/5	井戸井/2 井戸井/3	井戸内に黒斑
117	031-04	寄生土器	高杯 H3	SK305	C68 No.22-39	3.5	井内 ハナメル→1.5cm 内 (井内) ハナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内・井戸壁SY53/4	井戸井	井戸内に黒斑
118	033-02	寄生土器	高杯 C	SK305	C68 第2層 No.69-84~ 86-115- 120-154- 180	12.3	4.1 井内 ナメル→1.5cm 内 (井内) ナメル→1.5cm	井内	小今 風	井内SY53/1	井戸井/2 井戸井/3	井戸内に黒斑

第18表 遺物観察表③

番号	実測 番号	種類	種類分類	出土位置	法面 (cm)			調査方法の特徴	地 主	地 成	色 調	性 別	備 考	
					高 さ	幅 度	厚 さ							
119	G33- 01	朽生土器	壺 C	SK305	C65 第2層 No. 116- 118- 129-132~ 136-138~ 141-143- 154-159- 174	14.5	4.5	21.7	内:コナゲ→ハケ→J1:12.5/内:ナゲ 内:コナゲ→工具ナゲ	粗	風	灰褐色の砂/白色	女	
120	025- 01	朽生土器	壺 A1	SK305	C68	0.0.0		外:内:コナゲ→J1:1	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5		
121	016- 02	朽生土器	壺 A2	SK305	C68	0.4.2		外:田ナゲ→風化不明 内:コナゲ→壺:内:ナゲ→ナゲ	硬	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5	外側に付着物	
122	027- 03	朽生土器	壺 A2	SK305	C68 第3層	0.6.0		外:田ナゲ→風化不明 内:コナゲ→壺:内:ナゲ	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5		
123	025- 03	朽生土器	壺 A2	SK305	C69 No. 55	0.7.0		外:コナゲ→風化不明 内:コナゲ→J1:1	粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5		
124	027- 03	朽生土器	壺 A2	SK305	C68 No. 72	0.7.0		外:ハケ→風化ナガハケ/内:J1:1 内:ハケ→風化ナガハケ→J1:1-J1:2	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5		
125	016- 03	朽生土器	壺 A2	SK305	C68 第3層 No. 76-169	0.8.1		外:コナゲ→工具ナゲ 内:コナゲ	硬	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5	外側に付着物	
126	031- 03	朽生土器	壺 A2	SK305	C44 第3層 No. 76-169	0.4.2		内:田ナゲ→J1:1 内:コナゲ	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5		
127	029- 01	朽生土器	壺 A2	SK305	C68 No. 87-89- 100-102- 109-138- 147-153- 155	0.8.7		外:田ナゲ→J1:1 内:田ナゲ→工具ナゲ→オサニ→カフ→オサニ→ 工具ナゲ→カフ	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/4		
128	004- 01	朽生土器	壺 A2	SK305	C68 第3層 No. 195-197	0.5.0	0.7	外:田ナゲ→ハケ→風化ナガハケ 内:田ナゲ→ナガハケ→J1:1	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/3	表面凹凸	
129	031- 05	朽生土器	壺 B1	SK305	C68 第3層 No. 170	0.6.5		外:田ナゲ→J1:1 内:田ナゲ→ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/4		
130	034- 01	朽生土器	壺 B1	SK305	C68 第3層 No. 115	0.5.0		外:田ナゲ→ナメル/内:J1:1 内:田ナゲ→ナメル/内:J1:1	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/3	成形・焼成線は同一箇所	
131	011- 01	朽生土器	壺 B1	SK305	C68 第3層 No. 181-203	0.5.0	0.8	外:ハケ工具によるナガハケ/内: 内:コナゲ→工具/内:J1:1-J1:2	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
132	025- 04	朽生土器	壺	SK305	C68	0.0.0		外:ナガハケ、風化ニギサ 内:コナゲ	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/5		
133	023- 04	朽生土器	壺 B1	SK305	C68 No. 44-56	3.8		外:田ナゲ→ナガハケ/内:J1:1 内:コナゲ→工具ナゲ	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
134	017- 03	朽生土器	壺	SK305	C68	6.0		外:ハケ工具/内:J1:1 内:コナゲ	硬	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
135	032- 03	朽生土器	壺	SK305	C68	6.2		外:田ナゲ→ナガハケ/内:J1:1	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
136	016- 01	朽生土器	壺	SK305	C68	6.2		外:ナガハケ/内: 内:コナゲ	硬	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
137	016- 01	朽生土器	壺 D1	SK305	C68 No. 4-9-19	0.7	1.2	外:田ナゲ→ハバハバ/内:コントロ 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
138	030- 02	朽生土器	壺 D1	SK305	C68 第3層 No. 64-110	0.6.0		外:田ナゲ→ナメル/内:ナメル 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
139	017- 02	朽生土器	壺	SK305	C68	0.0.0		外:ナメル/内:田ナゲ→ナメル 内:ナメル	硬	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
140	023- 02	朽生土器	壺	SK305	C68 No. 44	8.6		外:ナメル/内:田ナゲ→ナメル 内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
141	024- 01	朽生土器	壺	SK305	C68	8.5		外:ナメル/内:田ナゲ→ナメル 内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
142	005- 02	朽生土器	高杯 A2	SK305	C68 第3層 No. 187	23.0		外:内:田ナゲ→ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/4		
143	027- 02	朽生土器	高杯 A2	SK305	C68	0.0.0		外:内:田ナゲ→ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	外側に一部剥離あり	
144	020- 02	朽生土器	高杯 B2	SK305	C68 第4層	0.0.0		外:田ナゲ→ナメル 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	硬	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	表面凹凸	
145	029- 02	朽生土器	高杯 B2	SK305	C68 第3層 No. 200	3.8		外:田ナゲ→ナメル 内:田ナゲ→ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	
146	015- 02	朽生土器	高杯 B2	SK305	C68 第3層 No. 149	3.8		外:田ナゲ→ナメル 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	
147	006- 02	朽生土器	高杯 B1	SK305	C68 No. 207	10.0		外:田ナゲ→風化程度重い/内:田ナゲ→工具 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔φ 1.2mm	
148	006- 01	朽生土器	高杯 B2	SK305	C68 No. 208	13.1	10.6	外:田ナゲ→ナメル/内:田ナゲ→ナメル 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔φ 1.5mm	
149	021- 02	朽生土器	高杯 B2	SK305	C68 第3層 No. 171-175	0.0.0		外:田ナゲ→ナメル 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	
150	024- 04	朽生土器	高杯 C	SK305	C68	0.0.0		外:ナメル/内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	
151	020- 03	朽生土器	高杯 C	SK305	C68	0.0.0		外:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	
152	022- 01	朽生土器	高杯 C	SK305	C68	17.6		外:田ナゲ→ナメル/内:ナメル 内:田ナゲ→ナメル/内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	
153	026- 01	朽生土器	高杯 C	SK305	C68			外:ナメル 内:ナメル	今 粗	風	灰褐色の砂/白色	口調1/2	三方透孔	

第19表 遺物観察表④

番号	表面 墨号	種類	層位分類	出土位置	法面 (cm)	器物技術的特徴		地 質	色 調	残存	備考
						口径	底径				
154	G28- 02	陶生土器	高杯	SK305	C68			外:上円内:斜直壁厚約1.2段	赤	黒口・縁V9H7/4	縫隙/2 三方透孔?
155	G18- 01	陶生土器	高杯	SK305	O68 No.34			外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段	赤	外:灰・内:灰・縁V9H7/4 内:灰・内:灰・縁V9H7/4	四方透孔 外底に墨跡あり
156	G21- 01	陶生土器	高杯	SK305	O68	(11.1) 10.0		外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段 内:工具ナメ 制限内ナメ	赤	黒市博O9H5/8 内:灰・内:灰・縁V9H7/4	縫隙/2 三方透孔
157	G18- 02	陶生土器	高杯	SK305	C68 No.30			外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段	赤	黒口・工具厚 内:ナメ	縫隙/2 三方透孔
158	G20- 02	陶生土器	高杯	SK305	C68 No.32	3.5 8.4		外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段	赤	黒口・縁V9H6/6 内:灰・内:灰・縁V9H6/4	縫隙/2/4 四方透孔
159	G65- 02	陶生土器	高杯	SK305	C68 No.48	14.2		外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段 内:工具ナメ 制限内ナメ	赤	黒口・縁V9H6/6	縫隙/2 三方透孔
160	G28- 01	陶生土器	高杯	SK305	C68 No.28			外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段 内:ナメ	赤	黒口・V9H6/2段	縫隙/2 三方透孔±1.5cm
161	G19- 02	陶生土器	高杯	SK305	C68 No.24	(12.1) 12.7		外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段 内:ナメ	赤	黒口・内:灰・縁V9H7/2段	縫隙/2 三方透孔±八方透孔 内:灰・縫隙/5
162	G63- 02	陶生土器	高台	SK305	C68 No.52	13.0		外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段 内:ナメ	赤	黒口・V9H6/2段	縫隙/2 四方透孔
163	G63- 01	陶生土器	高台	SK305	C68 No.1	16.6	4.7	10.2 内:ナメ	赤	黒口・内:灰・縁V9H6/4段	縫隙/2 五方透孔
164	G18- 01	陶生土器	高台	SK305	C68 No.149	0.8		外:上カサ内:斜直壁厚約1.2段	赤	黒口・縁V9H6/2段	縫隙/2 三方透孔
165	22-1	木製品	板	SK305	C68 No.293			外:木質内:漆塗	赤	黒口・漆塗	漆塗/2 ヒノキ
166	22-01	木製品	板	SK305	No.206	最大長さ:45.0 幅:4.0 厚:1.0		外:木質内:漆塗	赤	黒口・漆塗 漆塗状況なし	漆塗/2 漆塗不可
167	G28- 05	陶生土器	盤 A	SK310	D72 No.4	(6.2)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
168	G28- 05	陶生土器	盤 A	SK310	D72			外:ナメナメ・内:縦横目凹凸・質状況	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 小口
169	G59- 02	陶生土器	盤	SK310	D72	8.0		外:ナメナメ・内:ナメ	赤	黒口・縁V9H7/2段	縫隙/2
170	G59- 04	陶生土器	高杯	SK310	D72 No.2			外:ナメ内:縦横目凹凸	赤	黒口・縁V9H7/2段	縫隙/2 三方透孔
171	G59- 02	陶生土器	高杯	SK310	D72 No.5			外:ナメ内:漆塗	赤	黒口・漆塗	漆塗/2 四方透孔
172	G59- 01	陶生土器	盤	SK317	F70	16.0		外:ナメナメ	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
173	27-8	石器	石器	SK317	F70	最大長さ:2.0 幅:2.1 厚:0.8		外:石内:無	白		サメカド 2.4g
174	G18- 03	陶生土器	盤	SK330	G79			外:ナメナメ・内:点状文 内:ナメ	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 小口
175	G18- 01	陶生土器	盤	SK330	G79 No.1	(7.0) 4.3	12.8	外:ナメナメ・内:縦横目凹凸・ナメ	赤	黒口・縁V9H7/2段	縫隙/2 小口
176	G18- 02	陶生土器	盤	SK330	G79	(18.0)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・縁V9H7/2段	縫隙/2 小口
177	G18- 03	陶生土器	盤	SK330	G79	(8.0)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
178	G18- 04	陶生土器	高杯	SK330	G79			外:ナメ内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 透孔あり
179	G17- 02	陶生土器	高杯 D	SK330	G79 No.3			外:ナメ内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 透孔あり
180	G18- 01	陶生土器	盤 D	SK343	BH1	10.9		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸・漆塗	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
181	G18- 02	陶生土器	盤 D	SK343	BH1	(7.0)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸 内:ナメナメ	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
182	G18- 01	陶生土器	盤 D	SK343	BH1	6.8		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
183	G18- 01	陶生土器	盤 A	SK343	BH2	15.8		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底に縫隙
184	G18- 03	陶生土器	盤	SK343	BH1	6.8		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底/4
185	G18- 02	陶生土器	盤	SK343	BH1	(10.0)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底・小口
186	G18- 02	陶生土器	盤	SK361	H45	4.6		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底・小口
187	G18- 04	陶生土器	盤 A	SK361	H45	(17.0)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底・小口
188	G18- 05	陶生土器	高杯	SK361	H45			外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
189	G18- 03	陶生土器	盤 A	SK365	G75-76	(7.7)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸・縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
190	G17- 02	陶生土器	盤 A	SK326	G76-139- 141-143			外:ナメナメ・内:縦横目凹凸・縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
191	G66- 02	陶生土器	盤 B	SK326	G76- No.32	(16.0)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
192	G66- 02	陶生土器	盤 B	SK326	G76- No.32	(13.7)		外:ナメナメ・内:縦横目凹凸	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2
193	G66- 02	陶生土器	盤 B	SK326	G76-139- 140	6.0		外:ナメナメ・内:ナメ	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底・小口
194	G66- 02	陶生土器	盤 B	SK326	G76-139- 140-166	13.5 8.0	30.0	外:ナメナメ・内:ナメ	赤	黒口・V9H7/2段	縫隙/2 外底・小口

第20表 遺物観察表(5)

番号	測量 場所	測量分類	出土位置	遺物 (cm)	形状	寸法	測量方法の特徴	地 質	成 分	色 調	測序	備考			
195	050- 01	新生土層	■ B2	SK326 No.46	GTS-76	6.3	外: 鋼管不規則カーブ状調整 内: 鋼管不規則ハムテ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/4号	測量充て				
196	052- 01	新生土層	■ B1	SK326 No.61-63-	GTS-76	15.6	8.6	28.0	外: 鋼管ナットメタルゴム一端調整不規 内: 鋼管ナットメタルゴム	小 石 子	白 灰	肉桂紅/7号/4	測量充て 半端な隙孔		
197	067- 01	新生土層	■ B3	SK326 No.77	GTS-76	6.0	内: 鋼管ナットメタルゴム一端調整不規 外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/2	測量充て				
198	072- 01	新生土層	■ B2	SK326 No.93	GTS-76	6.6	外: ハムメタルX型/1.6mm-ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て 内部に一部黒泥が付着				
199	089- 04	新生土層	■ B3	SK326 No.104	GTS-76	-	外: ハムメタルX型/1.6mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/2	測量充て				
200	089- 04	新生土層	■ B3	SK326	GTS	-	外: ナット 鋼管2段、鉄丸2段 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/2	測量充て				
201	063- 02	新生土層	■ B	SK326	GTS	-	外: ナット一部ハムテ 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/3	測量充て 表面に錆跡がある				
202	066- 02	新生土層	■ B	SK326	GTS	(7.2)	外: ナット 内: 鋼管不規	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/8	測量充て				
203	044- 02	新生土層	■ B	SK326	GTS	6.6	外: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て				
204	045- 01	新生土層	■ D2	SK326	GTS	10.4	外: 鋼管ナットメタルゴム/2 内: 鋼管ナットメタルゴム/2	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/2	測量充て				
205	070- 01	新生土層	■ D2	SK326 No.151	GTS-76	11.8	外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て				
206	047- 03	新生土層	■ D2	SK326 No.154	GTS-76	10.0	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て				
207	068- 01	新生土層	■ F	SK326 No.66	GTS	11.0	外: 鋼管ナットメタルゴム/ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/2	測量充て				
208	089- 02	新生土層	■ E1a	SK326 No.86	GTS-76	(10.0)	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/8	測量充て				
209	044- 01	新生土層	■ E1a	SK326	GTS	(8.0)	外: ハムメタルX型 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/8	1/2				
210	081- 01	新生土層	■ D3	SK326 No.154-160- 165	GTS-76 No.154-160- 165	(12.8)	(6.0)	(27.0)	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て 表面に黒泥あり		
211	061- 03	新生土層	■ E2	SK326	GTS	(10.2)	8.2	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/3	測量充て			
212	061- 02	新生土層	■ E1a	SK326	GTS-76	8.4	外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/2	測量充て				
213	077- 01	新生土層	■ E2	SK326	GTS-76	8.7	外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/3	測量充て				
214	051- 01	新生土層	■ E2	SK326	GTS	8.1	外: ナット 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て				
215	056- 01	新生土層	■ G1	SK326 No.5-15-21	GTS-76	(9.3)	(10.0)	(23.0)	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て 表面に黒泥あり 表面に黒泥あり		
216	046- 05	新生土層	■ H2	SK326	GTS-76	1.9	5.0	12.4	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/2	測量充て 表面に黒泥あり		
217	073- 01	新生土層	■ H1	SK326 No.67	GTS-76	4.8	4.0	14.0	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て 表面に黒泥あり		
218	048- 01	新生土層	■ H1	SK326	GTS-76	8.7	4.3	10.8	外: ナット 内: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ 外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ 内: ナット	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/3	測量充て		
219	046- 04	新生土層	■ H4	SK326 No.25	GTS-76	8.5	5.1	12.9	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て		
220	077- 01	新生土層	■ I	SK326	GTS-76	11.1	5.2	12.6	外: ハムメタルX型/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/5	測量充て 内縫に黒泥2箇所有り		
221	055- 01	新生土層	■ A1	SK326 No.19	GTS-76	(17.0)	(8.0)	(27.0)	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て		
222	055- 01	新生土層	■ A1	SK326	GTS-76	17.7	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て		
223	066- 01	新生土層	■ A2	SK326	GTS-76	18.0	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て 表面に黒泥有り		
224	049- 01	新生土層	■ A1	SK326 No.117-175	GTS-76	18.8	8.2	22.4	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/2	測量充て		
225	064- 01	新生土層	■ A2	SK326	GTS	(14.3)	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/3	測量充て		
226	075- 01	新生土層	■ A2	SK326 No.96	GTS-76	19.3	5.1	19.0	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	1/2		
227	064- 02	新生土層	■ A1	SK326	GTS-76	19.3	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て 表面に黒泥有り		
228	047- 01	新生土層	■ A1	SK326 No.44	GTS-76	(12.0)	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/3	1/2		
229	048- 02	新生土層	■ A1	SK326 No.162	GTS-76	19.0	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/3	1/2		
230	067- 02	新生土層	■ A1	SK326 No.116-140	GTS-76	14.9	4.0	16.2	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	測量充て		
231	046- 01	新生土層	■ A1	SK326	GTS	(12.0)	3.9	-4.2	13.5	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	測量充て	
232	075- 01	新生土層	■ A1	SK326 No.24-109	GTS-76	(13.0)	(5.7)	(16.0)	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/2	1/2		
233	049- 02	新生土層	■ A2	SK326 No.59	GTS-76	(17.2)	5.2	10.2	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/4	1/2		
234	046- 01	新生土層	■ A3	SK326 No.91-164	GTS-76	(21.4)	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/7/4	1/2		
235	076- 01	新生土層	■ A3	SK326 No.38	GTS-76	(21.2)	-	-	外: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ 内: 鋼管ナットメタルゴム/2.0mm-工具ナダ	小 石 子	白 灰	肉桂紅/5号/6/2	1/2		

第21表 遺物観察表⑥

番号	測定 条件	種類	振幅分類	出土位置	法線 (cm)			調整技術の特徴	地 土	色 調	指 標	備 考	
					口径	裏形	裏高						
236	063- 01	赤生土器	A1	SK326	G75-6	(29.4)		赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ	今今 赤	赤: R45-7.5W7.7/3 白: R45-7.5W7.7/3	口締り/6		
237	074- 02	赤生土器	B1	SK326	G75-76	(32.4)	18.0	赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W4.6/3 白: 黄褐色R15W4.6/3	口締り/3		
238	074- 01	赤生土器	B1	SK326	G75-76	(No.167-168)	15.0	赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W3.1 白: 黄褐色R15W3.1	口締り/3		
239	062- 02	赤生土器	B2	SK326	G75-76	(33.7)		赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W3.1 白: 黄褐色R15W3.1	口締り/2		
240	074- 01	赤生土器	D1	SK326	G75-76	(No.54)	19.6	7.2	GL45 赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ セメントハラキ	今今 白	赤: 白10W8.8/2 白: 白10W8.8/2	口締り/6 外観に柱付着	
241	079- 01	赤生土器	D1	SK326	G75-76	(No.71-75- 137)	(20.3)	赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W6.7/3 白: 黄褐色R15W6.7/3	口締り/3		
242	081- 01	赤生土器	D1	SK326	G75-76	(No.156)	16.9	赤: ナーベルク3/ダーリー2/真ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W6.7/3 白: 黄褐色R15W6.7/3	口締り/2		
243	055- 02	赤生土器	E1	SK326	G75-76	(No.156)	7.5	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W6.7/3 白: 黄褐色R15W6.7/3	台脚凹凸		
244	048- 03	赤生土器	E1	SK326	G75-76	(No.6)	6.5	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 白10W8.8/2	黒頭部形		
245	047- 02	赤生土器	E1	SK326	G75-76	(No.45)	(13.5)	赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 白10W8.8/1	口締り/3		
246	046- 02	赤生土器	C1	SK326	G75-76	(No.14-20- 145)	12.4	4.0	10.0 赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 黄褐色R15W3/2 白: 黄褐色R15W3/2	口締り/8	
247	074- 02	赤生土器	C2	SK326	G75-76	(No.111)	13.1	4.4	10.0 赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.6/4 白: R45-7.5W8.6/4	口締り/4 体部に穿孔	
248	060- 01	赤生土器	C3	SK326	G75	(24.3)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/3 白: R45-7.5W8.7/3	口締り/6		
249	065- 02	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.112)	(25.8)	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/5		
250	062- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.113)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: 白10W8.8/1 白: 白10W8.8/1	口締り/4 外観に穿孔あり		
251	057- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.18)		赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/4		
252	047- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.18)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/4 内側に一般蒸気孔		
253	067- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.119)	(21.0)	赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/2 白: R45-7.5W8.7/2	口締り/4		
254	065- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.120)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/3 白: R45-7.5W8.7/3	口締り/3		
255	046- 01	赤生土器	C3	SK326	G75	(No.40)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/2		
256	062- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.41)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/2		
257	059- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-75	(No.150)	17.2	11.7	12.8 赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/2 白: R45-7.5W8.7/2	口締り/4 内側に一般蒸気孔	
258	068- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.138)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/2 三重透孔φ1.2cm		
259	066- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.1)	(14.4)	赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/3 白: R45-7.5W8.7/3	口締り/3 五重透孔φ1.1cm		
260	068- 04	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.87)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/4 双方透孔φ1.2cm		
261	069- 02	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.47)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/2 白: R45-7.5W8.7/2	柱状隙		
262	069- 02	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.48)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/2 白: R45-7.5W8.7/2	柱状隙		
263	071- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.49)		赤: 内: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/3 白: R45-7.5W8.7/3	柱状隙		
264	045- 02	赤生土器	C3	SK326	G75			赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/2 白: R45-7.5W8.7/2	柱状隙 三方透孔		
265	070- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.50)	12.0	内: ハンドル3/2段、横筋文2本 外: ハンドル3/2段	今今 白	赤: 白10W8.8/2 白: 白10W8.8/2	掘削 双方透孔		
266	075- 02	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.31)	(14.5)	赤: ハンドル3/2段、横筋文2本 外: ハンドル3/2段 内: ハンドル3/2段、横筋文2本 外: ハンドル3/2段	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	掘削 一方透孔		
267	067- 06	赤生土器	C3	SK326	G75-76			赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	柱状隙 一方透孔		
268	054- 04	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.181)		赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	柱状隙 三方透孔φ1.2cm		
269	053- 05	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.138)		赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/6 白: R45-7.5W8.7/6	柱状隙 四方透孔φ1.2cm		
270	070- 05	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.74)	(15.0)	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	柱状隙 透孔φ1.1cm		
271	071- 03	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.11)	14.0	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	三方透孔		
272	071- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.17)	13.0	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/3 白: R45-7.5W8.7/3	三方透孔 四方透孔		
273	071- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.133)	14.5	赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	三方透孔 三方透孔		
274	062- 05	赤生土器	C3	SK326	G75	(No.22)		赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段 内: ナーベルク工具ナメ	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	柱状隙 余計		
275	061- 01	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.42)	(15.0)	5.6	3.4 赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/6 内面に丸み 透孔φ1.1cm	
276	062- 03	赤生土器	C3	SK326	G75-76	(No.7)		チリ-7 赤: ナーベルク3/ダーリー2/ナメ 青: 成文化段	今今 白	赤: R45-7.5W8.7/4 白: R45-7.5W8.7/4	口締り/4		

第22表 遺物観察表⑦

番号	西暦 墓号	種類	埋蔵分類	出土位置	法量 (cm)	調査技術の特徴	出土 地 点	地 質	性 質	性 別	備 考		
									口径	底径	壁厚		
277	642- 54	朽生土器	ニチア トモ A1	SK325	G76-76	3.3	外・内ガラ・オーナメント 内・ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
278	643- 53	朽生土器	ニチア トモ A1	SK326	G76	0.0	外・内ナダ	今今 地 板	貝	貝	貝	貝殻充実	
279	659- 62	朽生土器	工円筒	SK326	G75	-	調査不利用	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物	
280	639- 54	朽生土器	トモ A2	SK340	J76	0.3-0	外・内 調査不規、口縁端に孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
281	635- 53	朽生土器	トモ A2	SK340	J75	0.4-0	外・内 内・外ナダ→セラ・ロ・縁端側面に孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
282	639- 53	朽生土器	トモ B3	SK340	J78	0.3-0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
283	643- 51	朽生土器	トモ B3	SK340	J78	0.5-0	6.4 外・内 内・外ナダ→孔ナダ→ハケ付上部→調査不規	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	外側に黒褐色	
284	640- 55	朽生土器	トモ B3	SK340	J78	4.2	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
285	640- 54	朽生土器	トモ B3	SK340	J78 No.2	5.8	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
286	637- 52	朽生土器	トモ D1	SK340	J78	0.0-0	外・内 内・外ナダ→ハケ付下部、口縁端に孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
287	642- 55	朽生土器	トモ D1	SK340	J78 No.3	16.6	外・内 内・外ナダ→エヌ・ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
288	641- 51	朽生土器	トモ D1	SK340	J78	0.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	外側に保有層	
289	642- 57	朽生土器	トモ D2	SK340	J78	(3.0) 7.6 0.0-0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ→ハケ付下部→調査不規	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
290	640- 53	朽生土器	トモ E	SK340	J78	8.4	外・内 内・外ナダ→孔ナダ→ハケ付下部	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
291	646- 53	朽生土器	高所	SK340	J78	-	外・内 内・外ナダ→調査標本3本付、到達工具 内・土柱 窓壁開	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
292	646- 53	朽生土器	高所	SK340	J78	-	外・内 内・外ナダ→窓壁開	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
293	639- 51	朽生土器	高所 B1	SK340	J78 No.1	10.5 -11.0	外・内 内・外ナダ→調査標本3本付(0.6cm段) 内・土柱	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	四面透かし	
294	640- 57	朽生土器	高所 A1	SK340	J78	7.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	外側に黒褐色	
295	646- 57	朽生土器	高所	SK340	J78	3.7 -4.1	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
296	649- 53	朽生土器	E1a	SK340	H45	-	外・内 内・外ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
297	649- 53	朽生土器	E1a	SK340	H45 No.24	7.2	-	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実
298	649- 53	朽生土器	E1a	SK340	H45 No.25	0.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
299	649- 51	朽生土器	E1a	SK340	H45 No.16	0.0-0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
300	647- 51	朽生土器	高所	SK340	H78	-	外・内 内・外ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
301	643- 52	朽生土器	トモ A1	SK359	No.40-42~ 44	4.6	外・内 内・外ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
302	642- 52	朽生土器	トモ C3	SK359	H45 No.26	(4.0)	外 調査不規、内・外ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
303	643- 52	朽生土器	トモ A2	SK359	H45 No.4-5-0	17.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
304	645- 52	朽生土器	トモ C3	SK359	H45	0.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
305	648- 52	朽生土器	トモ E1a	SK359	H45 No.18	-	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
306	646- 52	朽生土器	トモ E1a	SK359	H45 No.31	8.8	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
307	646- 51	朽生土器	高所 A2	SK359	H45 No.31	8.8	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
308	646- 51	朽生土器	高所 A2	SK359	H45 No.32	9.0-0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
309	648- 51	朽生土器	高所	SK359	H45 No.4-6-25	-	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	三方透孔	
310	646- 53	朽生土器	高所	SK359	H45 No.33-37 39-41	(0.7) (0.5)	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
311	654- 51	朽生土器	トモ B	SK359	H45 No.1	15.4	7.0 22.2 外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実 剥離付	
312	651- 51	朽生土器	トモ C2	SK359	H45 No.18	-	外・内 内・外ナダ→孔ナダ→調査不規	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	外側に保有層	
313	645- 51	朽生土器	トモ C1	SK359	H45 No.27	13.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
314	647- 51	朽生土器	トモ A1	SK371	H45 No.10	3.8	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
315	646- 51	朽生土器	トモ A1	SK371	H45 No.44	15.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
316	646- 51	朽生土器	トモ A1	SK372	H42 No.52	16.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
317	646- 51	朽生土器	トモ A3	SK372	H42 No.19-29	14.0	外・内 内・外ナダ→孔ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
318	646- 52	朽生土器	トモ E1a	SK372	No.53	11.5	4.5 16.0 外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	
319	647- 51	朽生土器	トモ A1	SK372	No.49	7.5	外・内 内・外ナダ→孔ナダ	今今 地 板	陶器	陶器	陶器	遺物充実	

第23表 遺物観察表⑧

番号	測量 基準	種類	種群分類	出土位置	位置 (cm)			器物法則の特徴	地 質	色 調	性 質	考 察
					口径	底厚	部高					
320	177- 01	新土器 盤	SK372	B42 No.17-42	8.0			外:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ 内:二重ノハケル内:平)	砂 岩	黄 褐色	直部平行 底部外側に太側面	外側:新規あれ 底部外側に太側面
321	178- 01	新土器 盤	SK372	B42 No.17-31	(21.0)			外:内:コロナリハサゲ(ヨコテナガ)以上	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
322	178- 01	新土器 盤 D1	SK372	D-642 No.30	17.0	8.0	24.0	外:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ)ナマ	砂 岩	黄 褐色	直部平行 底部外側	直部平行
323	180- 01	新土器 盤	SK372	B42 No.28	9.0			外:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
324	178- 03	新土器 盤	SK372	B42 No.34	(7.0)			外:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:平(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
325	178- 01	新土器 高杯 A2a	SK372	B42 No.21	(21.0)			外:内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
326	180- 04	新土器 高杯	SK372	B42 No.55				外:二重ノハケル内:直壁型文4段 (ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
327	178- 01	新土器 高杯	SK372	B42 No.13-15- 16-66-47	(14.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 四方透孔±1.0cm
328	174- 03	新土器 高杯	SK372	B42 No.28				外:二重ノハケル内:直壁型 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
329	180- 03	新土器 高杯	SK372	B42 No.1				外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
330	174- 04	新土器 高杯	SK372	B42 No.45				外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
331	175- 01	新土器 高杯	SK372	B42 No.7				外:二重ノハケル内:直壁型 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
332	176- 01	新土器 高杯	SK372	B42 No.10-12- 38	(14.0)			外:二重ノハケル内:直壁型 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 直孔あり
333	174- 02	新土器 高台	SK372	B42 No.44	(18.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 三方透孔
334	180- 01	新土器 高杯 C1	SK372	E42 No.2	(12.0)	4.2	10.5	外:二重ノハケル内:直壁型 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
335	183- 01	新土器 高杯 C2	SK416	H-114 No.3	(16.0)	17.0	28.6	外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
336	180- 02	新土器 高杯 A3	SK416	H-114	(13.0)			外:内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
337	149- 01	新土器 高杯 A2	SK416	H-114 No.15-17				外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 直孔付付
338	151- 02	新土器 高杯 E2	SK416	H-114 No.5	10.5	4.0	18.3	外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 直孔付付
339	180- 01	新土器 高杯 A1	SK416	H-114	(15.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
340	155- 02	新土器 高杯 A1	SK416	H-114	(17.0)			外:内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
341	162- 01	新土器 高杯 A3	SK416	H-114 No.18				外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 直孔付付
342	162- 01	新土器 高杯 B1	SK416	H-114	(15.0)	4.3		外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
343	196- 01	新土器 高杯	SK419	H-114				外:内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
344	195- 02	新土器 高杯 D2	SK419	H-114	4.7			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
345	193- 01	新土器 高杯	SK419	H-114	(17.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
346	195- 01	新土器 高杯	SK419	H-114	(17.0)	7.0		外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
347	195- 03	新土器 高杯	SK419	H-114				外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
348	193- 01	新土器 高杯	SK419	H-114	(16.0)	12.0	23.9	外:内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
349	193- 01	新土器 高杯 A3	SK419	H-114	(16.0)	13.0	18.4	外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
350	195- 01	新土器 高杯 G2	SK419	H-114	(20.0)	17.5	4.0	外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行 直孔付付
351	194- 02	新土器 高杯 F3	SK420	MET-68	(13.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
352	193- 01	新土器 高杯 A2	SK420	MET-68	(20.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
353	194- 01	新土器 高杯 A3	SK420	MET-68	No.17			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
354	194- 02	新土器 高杯	SK420	No.9-20	7.5			外:内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
355	194- 03	新土器 高杯	SK420	MET-68	(8.0)			外:ナメ	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
356	194- 02	新土器 高杯 A3b	SK420	No.18	25.0			外:内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
357	193- 02	新土器 高杯	SK420	No.1				外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
358	194- 01	新土器 高杯 B1	SK420	No.19	(13.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
359	195- 01	新土器 高杯	SK420	No.15	(12.0)			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行
360	193- 02	新土器 高杯	SK420	MET-68	No.7			外:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ) 内:二重ノハケル内:直壁型(ヨコテナガ)	砂 岩	黄 褐色	直 部	直部平行

第24表 遺物觀察表⑨

番号	測量番号	種類	層位分類	出土位置	法面 (cm)	断面 (cm)		断面形状	地質	色調	既存	備考
						口径	底径					
361	962 04	新生土器 高杯	SK429	No.8				外:ハケ内:縁5mm 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存孔
362	964 04	新生土器 高杯	SK429	M67-68	(10.0)			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存孔
363	959 01	新生土器 高 A2	SK429	M67-68 No.11	22.4	7.7	16.1	外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 3/4
364	960 01	新生土器 高 A1	SK429	No.3	31.2			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D956/6) 口縫
365	962 01	新生土器 高 C3	SK429	No.16	(17.5)	4.1	(8.0)	外:ハケ内:縁5mm 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 既存孔
366	968 04	新生土器 盆 B2	SK429	L65 No.12	(11.2)	(3.2)	34.1	外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存孔 既存 (D957/5)
367	965 01	新生土器 盆 C2	SK429	L66 No.3	(12.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4)
368	966 01	新生土器 盆 A2	SK429	L66	(11.5)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4)
369	969 01	新生土器 盆 B3	SK429	L66 No.15-24				外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 漆
370	966 05	新生土器 盆 A1	SK429	L66 No.6	(29.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 口縫
371	967 01	新生土器 盆	SK429	L66 No.20				外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 漆
372	964 01	新生土器 盆	SK429	L66 No.14	(8.0)			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 漆
373	968 01	新生土器 盆 B1	SK429	L66				外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 外縫に漆仕事
374	967 01	新生土器 盆 A2	SK429	L66 No.27	(14.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 既存孔
375	967 01	新生土器 盆 A1	SK429	L66 No.16	(15.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 既存 (D957/5)
376	969 03	新生土器 盆	SK429	L66	4.1			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 漆
377	966 05	新生土器 盆	SK429	L66 No.5	8.5			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 漆
378	966 05	新生土器 盆	SK429	L66 No.15	(9.0)			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 漆
379	969 05	新生土器 高杯 A2	SK429	L66	(25.0)			外:内:コロナメー1.5mm 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存 (D957/5)
380	968 01	新生土器 高杯	SK429	L66				外:1.5mm、縁5mm 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存孔
381	965 05	新生土器 高杯	SK429	L66 No.8				外:1.5mm、縁5mm 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/5)
382	966 04	新生土器 高杯	SK429	L66 No.9				外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存孔
383	968 01	新生土器 高 C2	SK429	L66 No.21	12.7	5.0	10.5	外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 外縫に漆仕事
384	958 02	新生土器 高 A2	SK429	N61 No.4	(15.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存孔
385	928 04	新生土器 高 A1	SK429	N61 No.2	(16.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存孔
386	954 01	新生土器 高杯 Aha	SK429	N61 No.3-5	(22.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3)
387	953 03	新生土器 高杯	SK429	N61 No.3	(12.7)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/3) 既存孔 (1.0)
388	971 01	新生土器 盆 A3	SK428	K61 No.36	12.5	4.4	20.9	外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 外縫に漆仕事
389	971 01	新生土器 盆 B1	SK428	K61 No.1-13-16		3.6		外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/4) 既存孔
390	971 01	新生土器 盆 A1	SK428	K61 No.17	(22.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
391	976 02	新生土器 盆 F2	SK428	K61 No.1	(9.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
392	976 01	新生土器 盆 E1a	SK428	K61 No.37-38	7.8			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
393	972 01	新生土器 盆 E1a	SK428	K61 No.36	9.9	5.3	22.7	外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
394	971 02	新生土器 盆 E1a	SK428	N62 No.27	6.3			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 外縫に漆仕事
395	972 01	新生土器 盆 B1	SK428	N62 No.34		5.7		外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
396	975 04	新生土器 盆 S2	SK428	N62 No.1-2	(16.7)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
397	978 01	新生土器 盆 A3	SK428	N62 No.2-5-24-25	(16.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 外縫に漆仕事
398	972 01	新生土器 盆 A2	SK428		13.2	5.4	16.7	外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
399	977 01	新生土器 盆 B1	SK428	K61 No.10-11	(10.0)			外:32ミリ×1.5ミリ/底 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 既存孔
400	976 04	新生土器 盆	SK428	K61	(8.4)			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 内縫に漆仕事
401	975 04	新生土器 盆	SK428	K61 No.32	8.3			外:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ 内:ハコナメヨココリナメ	砂	灰 白	既存	既存 (D957/2) 外縫に漆仕事

第25表 遺物観察表⑩

番号	部品名	種類	部品分類	出土位置	伝承(c.m.)	直轄・陪葬・副葬	直轄・陪葬・副葬		地層	色調	現存	備考
							口径	底径				
402	915-03	寄生土器	高杯 Aka	SK425	K61 No.25	(16.4)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ、腹壁等	小矢 井	灰・黄褐色	1976/6/6	有部
403	978-03	寄生土器	高杯	SK426	No.20	(11.2)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 三方透孔φ1.3cm
404	974-03	寄生土器	高杯	SK426	K61		外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ、縁端文	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 二方透孔φ1.3cm
405	971-03	寄生土器	高杯	SK426	No.14		外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ、縁端文	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 三方透孔φ1.3cm
406	976-03	寄生土器	高杯	SK426	K61	(9.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ、縁端文	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 四方孔φ
407	973-03	寄生土器	器台	SK426	K61 No.9	11.9 10.5 11.5	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 直状部に三方透孔φ2mm
408	975-03	寄生土器	鉢	SK426	K61	(10.8)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 口縁部に横行穿孔
409	974-04	寄生土器	鉢	SK426	K61	4.6	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 二方孔φ
410	977-04	寄生土器	鉢	SK426	K61 No.8	(10.0) (5.6) 10.8	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 二方孔φ
411	977-04	寄生土器	鉢 F	SK426	No.2 中	9.8	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 口縁部に横行穿孔
412	974-02	寄生土器	土器 A	SK426	K61		外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	有部S/7 二方孔φ
413	933-03	寄生土器	砂輪鉢	SK426	K61	圓底大皿 2.1 3.1 0.4	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	重複3.07g
414	986-01	寄生土器	鉢 A	SE327	G77	(17.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
415	987-01	寄生土器	鉢 A3	SE327	G76	15.4	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
416	988-04	寄生土器	鉢 A3	SE327	G75	(14.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
417	988-04	寄生土器	鉢 C2	SE327	G77 No.16	(14.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
418	993-02	寄生土器	鉢 Eta	SE327	G77 No.33-33 44-124	(10.1)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
419	983-01	寄生土器	鉢 Eta	SE327	G77 No.82	10.8 3.5 22.0	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
420	987-03	寄生土器	鉢 C2	SE327	G76	(13.8)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
421	988-03	寄生土器	鉢 Eta	SE327	G76	(10.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
422	988-03	寄生土器	鉢 F3	SE327	G77		外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:サザエ	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
423	997-01	寄生土器	鉢 C1	SE327	G77 No.128	15.2 8.4 32.5	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
424	982-03	寄生土器	鉢 H3	SE327	G77 No.89-91 126	9.2 3.5 14.3	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
426	1001-01	寄生土器	鉢 E2	SE327	G77 No.25	(9.0) 4.5 17.0	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7 外面に黒斑あり
426	1002-01	寄生土器	土器 A2	SE327	G77	(6.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7 黒斑あり
427	104-02	寄生土器	鉢	SE327	G77 No.117	5.1	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
428	102-03	寄生土器	鉢 G2	SE327	G77 No.68-69	(11.3)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
429	1005-01	寄生土器	鉢 A2	SE327	G77 No.13	(11.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
430	1003-01	寄生土器	鉢 A2	SE327	G77 No.43	(11.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
431	109-01	寄生土器	鉢 A1	SE327	G77 No.87-90 92-97	19.0	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
432	109-01	寄生土器	鉢 A2	SE327	G77 No.18	(16.4)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
433	109-01	寄生土器	鉢 A3	SE327	G77	22.0	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7 刻文・縁端文
434	109-02	寄生土器	鉢 A1	SE327	G77 No.38	12.5	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
435	109-02	寄生土器	鉢 A2	SE327	G77	(12.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
436	101-03	寄生土器	鉢 A3	SE327	G77 No.127-128	13.0	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
437	103-02	寄生土器	鉢 A2	SE327	G77 No.95-100 ~112	11.8 14.0 12.4	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
438	109-02	寄生土器	鉢 B2	SE327	G77	(13.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7 小口
439	1006-01	寄生土器	鉢 A2	SE327	G77	8.9	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
440	109-02	寄生土器	鉢 B2	SE327	G77	8.4	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
441	109-04	寄生土器	鉢 B2	SE327	G77 No.15	(8.0)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7
442	109-04	寄生土器	鉢 B2	SE327	G77	(7.4)	外:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	内:ヨコリハーフテーク内:ヨコリハーフテーク	小矢 井	灰・黄褐色	1976/7/4	口縁 S/7

第26表 遺物観察表⑪

番号	測定 基準	種類	層位分類	出土位置	結果 (cm)			調査採取の特徴	土 成 性	色 調	理序	備考
					口径	底径	高さ					
443 691 05	出土土器	壺	SE327	G77	4.5			外:ハコ型多孔/内:一孔サザナ 内:ハコ型多孔/外:一孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	露頭完形
444 696 04	出土土器	壺	SE327	G77	6.7			外:ハコ型多孔/内:一孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	露頭完形
445 695 01	出土土器	壺	SE327	No.7~9* 79~80	(28.0)	18.0	26.5	外:ハコ型多孔/内:一孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:一孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	三方透孔 板状構造物
446 693 01	出土土器	壺	SE327	G77	(21.7)			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	包被層遺物に合併
447 699 02	出土土器	壺	SE327	G76	(23.0)			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	露頭完形
448 104 01	出土土器	壺	SE327	G77	(18.0)			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	露頭完形
449 692 01	出土土器	壺	SE327	G77	(18.0)			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	露頭完形
450 694 02	出土土器	壺	SE327	G77 No.19	(4.4)			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4緑	Ⅲ種	露頭完形
451 699 01	出土土器	壺	SE327	G75				外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	露頭完形
452 102 02	出土土器	壺	SE327	G77 No.35				外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:工芸イエクリーイエ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	四方透孔+1孔
453 101 05	出土土器	壺	SE327	G77 No.28	15.4~ 15.8			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	三方透孔+1孔
454 694 02	出土土器	壺	SE327	G77 No.87	13.5			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR6/2緑	Ⅲ種	三方透孔
455 693 01	出土土器	壺	SE327	No.3	11.6			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	露頭完形
456 102 01	出土土器	壺	SE327	G77	(11.0)			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	露頭完形+1孔 内:1孔サザナ
457 698 01	出土土器	壺	SE327	G76	(10.2)			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR6/2緑	Ⅲ種	露頭完形
458 697 01	出土土器	壺	SE327	G75	9.9			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR6/2緑	Ⅲ種	露頭完形
459 692 01	出土土器	壺	SE327	G77 No.3	10.0			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	露頭完形 四方透孔+1孔
460 694 01	出土土器	器皿 C2	SE327	G77 No.23	16.6 (14.0)	(17.0)		外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	四方透孔+1孔 内:1孔サザナ
461 100 03	出土土器	器皿 A2	SE327	G77 No.78				外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	柱状狀
462 697 04	出土土器	壺	SE327	G77				外:内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	柱状狀
463 698 01	出土土器	壺	SE327	G77	(8.0) (2.0)	(3.0)		外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR6/2緑	Ⅲ種	柱状狀
464 692 02	出土土器	壺 D2	SE327	G77	(14.0)			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	柱状狀
465 105 01	出土土器	壺 D2	SE327	G77 No.24	4.0 3.0			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	柱状狀
466 695 03	出土土器	壺 D3	SE327	G77	(14.0)			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4緑	Ⅲ種	柱状狀+1孔 内:1孔サザナ
467 699 03	出土土器	壺	SE327	G77 No.27	4.0			外:ハコ型多孔/内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	柱状狀
468 106 02	出土土器	甕状 土製品	SE327	G77 No.33				外:内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4	Ⅲ種	柱状狀
469 116 05	出土土器	壺 C1	SD303	NT3 No.39	11.8			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑 内:1孔サザナ	Ⅲ種	柱状狀
470 140 01	出土土器	壺 A2	SD303	No.153	(18.0)			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	柱状狀
471 138 01	出土土器	壺 A3	SD303	NT5-G76	16.6~ 17.0			外:内:1孔サザナハケ付	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/1	Ⅲ種	柱状狀+1孔 内:1孔サザナ
472 953 01	出土土器	壺 A2	SD303	H7	14.0			外:内:1孔サザナハケ付 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	柱状狀
473 125 01	出土土器	壺 C2	SD303	NT3 No.47	15.2			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/6	Ⅲ種	柱状狀
474 132 01	出土土器	壺 A2	SD303	A68				外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4緑	Ⅲ種	柱状狀
475 127 04	出土土器	壺	SD303	N72 No.22				外:内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/3	Ⅲ種	柱状狀
476 139 01	出土土器	壺	SD303	N74				外:内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4緑	Ⅲ種	柱状狀
477 142 04	出土土器	壺	SD303	N75 No.48				外:内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4緑	Ⅲ種	柱状狀
478 106 01	出土土器	壺 C2	SD303	NT3 No.59-60- 64-71-74- 87-87	8.3			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ 調査内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/3緑	Ⅲ種	柱状狀
479 122 01	出土土器	壺 B2	SD303	No.53	8.0			外:内:ハコ型多孔/内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/5YR7/4緑	Ⅲ種	柱状狀
480 115 01	出土土器	壺 N72	SD303	No.5-8	7.0			外:内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVT/4緑	Ⅲ種	柱状狀
481 645 02	出土土器	壺 C2	SD303	H57	4.0			外:内:1孔サザナ 内:1孔サザナ	少少 粘	黄褐色SVB1/1緑	Ⅲ種	柱状狀

第27表 遺物観察表②

番号	実物 番号	種類	着目部分	出土位置	法線 (cm)	標本技術的特徴	施 工 方 法	色 調	残存	備考
口径	底径	壁厚								
482 544 01	新生土器 ■ F3	SD363	P57	6.8	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	追加測定
483 111 01	新生土器 ■ F4	SD363	N74	10.1	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	追加測定
484 149 01	新生土器 ■ E3	SD363	N6-99	9.1	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	追加測定
485 143 01	新生土器 ■ R3	SD363	No.182~ 184-187~ 193-203	10.7~ 11.5	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	外:上部ターゲット 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	追加測定 外観に穿孔あり
486 999 01	新生土器 ■ B3	SD363	N72	5.6	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
487 110 02	新生土器 ■ B3	SD363	No.19-19~ 29-48	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり	
488 547 01	新生土器 ■ B1	SD363	G57	0.6	外:ナーベル調整不規 内:ナーベル調整不規	外:ナーベル調整不規 内:ナーベル調整不規	外:ナーベル調整不規 内:ナーベル調整不規	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
489 135 01	新生土器 ■ B1	SD363	N73	4.7	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
490 956 01	新生土器 ■ H2	SD363	N75	7.9	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
491 995 01	新生土器 ■ E2	SD363	M77	7.7	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
492 121 01	新生土器 ■ P1a	SD363	N73	11.0	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	外:ハンドル付上部 内:ハンドル付上部	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
493 129 01	新生土器 ■ P1a	SD363	N73	9.0	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
494 197 02	新生土器 ■ E2	SD363	N74	7.65	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
495 144 01	新生土器 ■ E2	SD363	N74	8.7	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
496 148 02	新生土器 ■ F2	SD363	No.156	9.6	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
497 117 01	新生土器 ■ F2	SD363	No.52	5.0	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
498 108 02	新生土器 ■ P1a	SD363	No.153	8.7	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
499 145 02	新生土器 ■ P1a	SD363	O76	7.5	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
500 142 02	新生土器 ■ E3	SD363	O78	4.3	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
501 139 01	新生土器 ■ E3	SD363	N74	3.4	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
502 111 04	新生土器 ■ G1	SD363	N73	14.6	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
503 150 01	新生土器 ■ A3	SD363	No.141~ 142-145~ 163-165	(7.1)	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
504 141 04	新生土器 ■ A3	SD363	N75	14.4	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
505 137 01	新生土器 ■ A3	SD363	N74	19.5	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
506 174 01	新生土器 ■ A3	SD363	No.7	20.5	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
507 121 01	新生土器 ■ A1	SD363	O76	21.4	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
508 146 01	新生土器 ■ A1	SD363	O76	21.9	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
509 123 01	新生土器 ■ A1	SD363	N73	21.4	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
510 147 01	新生土器 ■ A1	SD363	N74	6.0	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
511 124 01	新生土器 ■ A3	SD363	No.71-162~ 170	36.0	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
512 118 03	新生土器 ■ A1	SD363	N73	14.3~ 16.0	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
513 115 02	新生土器 ■ A1	SD363	N72	20.0	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
514 127 03	新生土器 ■ A1	SD363	N72	0.60	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	外:ナーベル 内:ナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
515 149 01	新生土器 ■ A1	SD363	No.75~ 177	0.60	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり
516 548 04	新生土器 ■ A2	SD363	D88-E87	17.4	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	外:コロナーベル 内:コロナーベル	青 白	標本196/5	外観に穿孔あり

第28表 漢物観察表⑬

番号	書名	著者	所属分類	出土位置	法寸 (cm)		調査方法の特徴	記入	機械	色 虹	現存	備考
					口径	底径						
517	994-01	佐竹生土	■ A1	SD303	65T	10.0	4.5	(10.0)	手	金	口縁/火	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
518	513-01	佐竹生土	■ A1	SD303	95T	13.0	6.0	28.3	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
519	140-03	佐竹生土	■ A1	SD303	Nd.129	13.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
520	162-01	佐竹生土	■ A1	SD303	OTF	13.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
521	599-01	佐竹生土	■ A2	SD303	J-3ET	12.0	3.0	(10.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
522	116-01	佐竹生土	■ A1	SD303	Nd.23	12.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
523	127-01	佐竹生土	■ A1	SD303	Nd.65-48	10.0	5.0	15.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
524	137-02	佐竹生土	■ A2	SD303	Nd.22	12.0	4.0	(10.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
525	144-02	佐竹生土	■ A2	SD303	Nd.124	14.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
526	993-01	佐竹生土	■ A	SD303	65T	12.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
527	118-01	佐竹生土	■ A	SD303	Nd.23	6.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
528	141-01	佐竹生土	■ A	SD303	Nd.23	5.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
529	158-01	佐竹生土	■ A	SD303	G-77	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
530	998-01	佐竹生土	■ A	SD303	65T	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
531	125-01	佐竹生土	■ F	SD303	O75	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
532	141-01	佐竹生土	■ A	SD303	Nd.139-162	11.0	3.0	9.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
533	130-01	佐竹生土	■ F	SD303	Nd.74	10.0	3.0	13.5	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
534	542-01	佐竹生土	■ F	SD303	G57	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
535	145-01	佐竹生土	■ B	SD303	Nd.134	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
536	64-01	佐竹生土	■ A2	SD303	Nd.74	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
537	167-01	佐竹生土	■ B2	SD303	Nd.3	10.0	2.0	(10.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
538	139-01	佐竹生土	■ A	SD303	Nd.75-76	10.0	2.0	13.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
539	111-01	佐竹生土	■ F	SD303	Nd.51	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
540	153-01	佐竹生土	■ A	SD303	No.209	7.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
541	135-01	佐竹生土	■ A	SD303	O75	9.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
542	108-02	佐竹生土	■ C	SD303	P57	8.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
543	143-02	佐竹生土	■ C	SD303	Nd.73	8.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
544	542-04	佐竹生土	■ C2	SD303	P57	11.0	5.0	9.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
545	119-02	佐竹生土	■ C2	SD303	Nd.43-44	10.0	4.0	10.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
546	143-03	佐竹生土	■ D1	SD303	Nd.92	10.0	4.0	10.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
547	146-01	佐竹生土	■ C3	SD303	Nd.37	10.0	4.0	11.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
548	544-02	佐竹生土	■ B	SD303	E87	10.0	4.0	10.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
549	514-01	佐竹生土	■ G1	SD303	65T	13.0	2.0	11.0	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
550	515-01	佐竹生土	■ G2	SD303	H57	12.0	3.0	(10.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
551	119-01	佐竹生土	■ E3	SD303	Nd.51	10.0	4.0	(6.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
552	126-01	佐竹生土	■ A1	SD303	No.15	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
553	122-01	佐竹生土	■ A1	SD303	Nd.16	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
554	121-01	佐竹生土	■ A1	SD303	Nd.15	10.0			手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
555	117-02	佐竹生土	■ A2	SD303	Nd.74	10.0		(20.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等
556	126-02	佐竹生土	■ A2	SD303	Nd.167	10.0		(20.0)	手	金	内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器	口縁付
								内:ヨコナマハレバタケノリ/外:二重土器				内面に焼付等

第29表 遺物觀察表⑭

番号	測定 番号	種類	標本番号	出土位置	法面 (cm) 口径 底径 高さ	断面形状の特徴	測定法の特徴		地 質	層 成	性 質	備 考
							内 外 寸 寸 寸	内 外 寸 寸 寸				
557	149- 01	骨生土器	高杯 A2b	SD303 No.209- 212-215	26.1	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	上部: 黄褐色 SVR6/4層 下部: 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
558	155- 01	骨生土器	高杯 A3a	SD303 O77 No.217	24.0 (17.5) (9.4)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
559	129- 02	骨生土器	高杯	SD303 NT3 No.69	23.5	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	外縫に朱跡
560	242- 01	骨生土器	高杯	SD303 E88	—	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
561	154- 01	骨生土器	高杯	SD303 O76 No.197	23.5	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
662	138- 03	骨生土器	高杯	SD303 O77 No.67	23.0 (17.0)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
564	143- 02	骨生土器	高杯	SD303 NT4 No.132	24.0 (14.7)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
665	127- 01	骨生土器	高杯	SD303 NT4 No.56-66	13.2	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
666	129- 01	骨生土器	高杯	SD303 NT3 No.63	14.5	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
567	133- 03	骨生土器	高杯	SD303 A68	9.2	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
568	142- 02	骨生土器	高杯	SD303 O73 No.174	—	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
669	156- 03	骨生土器	高杯	SD303 NT5 No.149	—	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
570	543- 02	骨生土器	高杯	SD303 G87	16.7	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
571	996- 01	骨生土器	高杯	SD303 J87	16.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
572	129- 02	骨生土器	高杯	SD303 No.155	18.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔 (三方通孔)
573	117- 02	骨生土器	高杯	SD303 NT2 No.1-3	17.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
574	129- 03	骨生土器	高杯	SD303 NT3 No.54	13.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	外縫に擦痕
575	139- 04	骨生土器	高杯	SD303 NT4 No.146	11.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	透孔 + 手標記
576	134- 01	骨生土器	高杯	SD303 NT4-075 No.180	—	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
577	996- 02	骨生土器	高杯	SD303 J57	17.3 (12.0) (13.7)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔 外縫に擦痕
578	144- 02	骨生土器	高杯	SD303 N-076 No.170-176	10.7	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	縫間に通孔なし T-1
579	152- 02	骨生土器	高杯	SD303 O77 No.214	9.8	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
580	162- 03	骨生土器	高杯	SD303 NT2 No.254	13.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
581	152- 01	骨生土器	高杯	SD303 NT4-175 No.137	—	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
582	108- 03	骨生土器	高杯	SD303 NT3-174	10.2	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
583	132- 03	骨生土器	高杯	SD303 NT4 No. A	17.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	三方通孔
584	169- 03	骨生土器	高杯 C1	SD303 NT4 No.168	21.0 (13.7) (13.7)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	柱状縫に三方通孔 2段
585	997- 04	骨生土器	高杯 C1	SD303 K57	16.5 (13.5) (15.2)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	平行縫に三方通孔 2段
586	106- 02	骨生土器	高杯 A1	SD303 NT3 No.55	3.8	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	平行縫
587	136- 04	骨生土器	高杯 C3	SD303 NT4-075 No.181	7.6 (3.0)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	平行縫
588	387- 01	骨生土器	高杯	SD12 GB	12.3 (5.5) (18.5)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	平行縫
589	170- 01	骨生土器	高杯 B1	SD329 G87	5.3	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	外縫に擦れ跡
590	181- 02	骨生土器	高杯 C3	SD326 H86	(11.4)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	～青斑
591	181- 03	骨生土器	高杯 A3	SD326 H-186	13.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	～青斑
592	181- 03	骨生土器	高杯 A2	SD326 H81	13.5	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	～青斑
593	131- 03	骨生土器	高杯 A3	SD299 NT4	22.0	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	柱状縫
594	139- 04	骨生土器	高杯 D2	SD299 NT4 No.F	—	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	柱状縫に構造跡か
595	170- 03	骨生土器	高杯 C1	SD299 NT4	5.0 (2.4) (4.5)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	～青斑
596	375- 04	骨生土器	高杯 F1	SD299 NT4 No.T-B	(13.4)	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	横断面 内: 断面	外: ハーフコーン 内: ハーフコーン	外: 砂 内: 砂	黄褐色 SVR6/4層 黄褐色 SVR6/4層	口縁 S/4	～青斑

第30表 遺物観察表(5)

番号 登録 番号	種類	器物分類	出土位置	法長 (cm)	調査方法の判斷	地 質	色 調	性 質	備 考
						口径	底径	高さ	
597 375 02	漆生土器	高杯	SK8 No.15	—	(内) 1.7cm 内: 1.7cm 脚部内: ナガーハコナガ	全小 地	青 口: 青・緑	5.96/4	井筒形
598 213 01	木製品	食具?	SK8 No.3	島大 田中 田中 大人 3.3 2.1 1.5	第三工房不修理 通常状況、追柱目録	建石	茶ナラ属		
599 2177 01	木製品	匙?	SK8 No.9	島大 田中 田中 大人 2.7 1.5 1.5	第三工房不修理 通常状況、追柱目録	—	—	—	ノブナシ
600 2185 02	木製品	匙	JK8 No.6	島大 田中 田中 14.9 9.9	第三工房不修理 木材その他の使用	全小 地	青 木村	4.96/4	樹脂不明
601 2186 01	木製品	匙	SK8 No.13	島大 田中 田中 14.7 9.7	第三工房不修理 木材そのまま使用	—	—	—	木種不明
602 2092 01	木製品	匙	SK8	島大 田中 田中 11.9 4.1	第三工房不修理 木材そのまま使用	小片	樹脂不明		
603 2091 02	木製品	匙状	SK8	島大 田中 田中 35.7 2.8	第三工房不修理 木材そのまま使用	—	—	—	樹脂不明
604 2091 03	木製品	匙形物	SK8	島大 田中 田中 2.8 1.5 1.5	第三工房不修理 通常状況、追柱目録	—	—	—	木種不明
605 2226 05	木製品	鍵状數點	SK8	島大 田中 田中 3.3 3.3 0.3	島大 田中 田中 表面に漆塗装、鍵孔付	全小 地	青 木村	4.96/4	樹脂不明
606 159 01	漆生土器	高杯	SK399 NT4	10.0	—	全小 地	青 口: 青(?)	5.96/4	三方透光
607 159 02	漆生土器	杯	SK489 H1 No.2	7.0	—	全小 地	青 木村	5.96/4	樹脂不明
608 945 04	土器類	盤	SK482 H3 F11	18.7 15.5	内: 18.7 外: 15.5 内: 18.7 外: 15.5 内: 18.7 外: 15.5	全小 地	青 内: 深青 外: 深青	5.96/4	樹脂不明
609 354 01	胎生土器	盤	SK37	10.2	内: 10.2 外: 10.2 内: 10.2 外: 10.2 内: 10.2 外: 10.2	全小 地	青 内: 黄褐色 外: 黄褐色	5.96/4	樹脂不明
610 287 01	土器類	盤	SK27 No.1	11.0	内: 11.0 外: 11.0 内: 11.0 外: 11.0 内: 11.0 外: 11.0	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
611 287 03	土器類	盤	SK27 H17	—	内: 11.0 外: 11.0 内: 11.0 外: 11.0 内: 11.0 外: 11.0	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
612 287 04	土器類	盤	SK27 No.4	12.4	内: 12.4 外: 12.4 内: 12.4 外: 12.4 内: 12.4 外: 12.4	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
613 287 01	土器類	盤	SK27 H17	10.0	内: 10.0 外: 10.0 内: 10.0 外: 10.0 内: 10.0 外: 10.0	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
614 288 04	土器類	杯	SK51 H19	13.0	—	全小 地	青 内: 淡青	5.96/4	樹脂不明
615 288 01	土器類	皿	SK51 H20	21.4 13.6 2.5	内: 21.4 外: 13.6 内: 21.4 外: 13.6 内: 21.4 外: 13.6	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
616 288 03	土器類	皿	SK51 H19-20	22.0 12.4 2.8	内: 22.0 外: 12.4 内: 22.0 外: 12.4 内: 22.0 外: 12.4	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
617 288 05	土器類	皿	SK51	12.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
618 288 02	土器類	皿	SK51 H19	21.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	樹脂不明
619 288 07	漆器類	杯	SK53 H20	11.5 5.0 5.3	漆器不詳	全小 地	青 内: 淡青	5.96/4	漆器不明
620 288 03	漆器類	杯	SK53	12.7 8.0 4.0	内: 12.7 外: 8.0 内: 12.7 外: 8.0 内: 12.7 外: 8.0	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
621 288 04	漆器類	杯	SK51 H19	—	内: 12.7 外: 8.0 内: 12.7 外: 8.0 内: 12.7 外: 8.0	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
622 194 02	土器類	台舟形	SK396 P-G44	10.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
623 194 01	土器類	杯	SK396 P-G44 No.3-5-9-12	10.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
624 198 01	土器類	盤	SK396 P-G44 No.19-21-22	14.3 18.6 17.0	内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
625 197 01	土器類	盤	SK396 P-G44 No.4-16	—	内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
626 197 02	土器類	盤	SK396 P-G44 No.27	—	内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
627 197 03	土器類	盤	SK396 P-G44 No.1-22	—	内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6 内: 14.3 外: 18.6	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
628 193 03	土器類	盤	SK445 K50	20.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
629 193 01	土器類	盤	SK445 K50	14.9	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
630 193 02	土器類	盤	SK445 K50 No.2	14.9	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
631 193 05	土器類	高杯	SK445 K50	—	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
632 193 04	漆器類	杯	SK446 K50	12.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
633 2198 05	漆器類	杯	SK446 K50	14.8	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
634 2198 03	漆器類	杯	SK446 K50 No.3	15.0	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
635 2198 04	漆器類	杯	SK446 K50	—	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
636 2198 05	漆器類	杯	SK446 K50	10.4	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
637 2198 04	漆器類	杯	SK446 K50	10.6	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	漆器不明
638 2198 01	木製品	骨柄	SK446 K50 No.1	42.1 8.6 2.1	—	全小 地	青 内: 淡青 外: 淡青	5.96/4	中央に穿孔 樹脂不明

第31表 遺物観察表⑤

番号	測量 場所	種類	種類分類	出土位置	法長 (cm)	調査地點の特徴	地 理	色 調	存 在	備 考
口径	進度	備考								
639	344-03	土師器	皿	SE37	(18.6)-(16.3) (2.5)	外: 口コナリ-イサニ-ナダ 内: 口コナリ-アーチナダ	今 年 新	赤 口付1/8		
640	376-02	土師器	甕	SE37	No.26 (14.4)	外: 口コナリ-アーチナダ 内: 口コナリ-アーチナダ/1.2倍	今 年 新	赤 口付2.5W/3		
641	361-02	土師器	甕	SE37	15.8 (16.0) 19.5 (18.0)	外: 口コナリ-ハマハマノリ/3倍 内: 口コナリ-アーチナダ/1.2倍/アーチナダ/工具ナダ	今 年 新	赤 外: 口付-幅7.5W/4/4倍 内: 黒褐7.5W/3/1倍		
642	3173	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.14 50.4 4.5	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 木材その他の特徴			111回形 計測用
643	2171	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.12 59.3 3.0	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 木材その他の特徴			111回形 計測用
644	2171	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.21 62.3 5.1 3.9	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 直径目印			111回形 計測用
645	2171	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.23 62.3 5.1 3.9	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 直径目印			111回形 計測用
646	2172	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.13 53.3 4.5 4.5	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 直径目印			111回形 計測用
647	2172	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.2 61.4 3.4 2.6	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 板目印			111回形 計測用
648	2173	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.10 47.3 4.3 4.7	最大丸 最大幅 板状	先端木数回0.65 板目印			111回形 計測用
649	2173	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.24 40.3 8.1 2.7	最大丸 最大幅 板状	加工痕-斜面 鋸目印			111回形 計測用
650	2186	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.6 42.0 13.9 3.2	最大丸 最大幅 板状	先端の一方で削痕 鋸目印			111回形 計測用
651	2186	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.16 39.0 11.8 3.8	最大丸 最大幅 板状	先端の一方で削痕 鋸目印			111回形 計測用
652	2188	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.8 35.5 11.3 3.2	最大丸 最大幅 板状	先端木方で削痕 鋸目印			111回形 計測用
653	2188	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.26 33.0 4.2 4.0	最大丸 最大幅 板状	先端木方で削痕 鋸目印			111回形 計測用
654	2188	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.9 34.0 19.5 2.3	最大丸 最大幅 板状	先端木方で削痕 先端丸木 一方の先端すりむけ 鋸目印			111回形 計測用
655	2188	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.3 39.0 21.4 3.6	最大丸 最大幅 板状	先端木方で削痕 先端丸木 一方の先端すりむけ 新目印			111回形 計測用
656	2115	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.15 39.0 21.4 3.6	最大丸 最大幅 板状	加工痕不規則 削痕			111回形 計測用
657	2174	木製品	舟戸移 板組	SE37	No.5 51.5 32.7 3.2	最大丸 最大幅 板状	先端木方で削痕 先端丸木 通目印			111回形 計測用
658	660-01	土師器	甕	SE28	P36 No.4 15.1	外: 口コナリ-アーチナダ/1.2倍 内: 口コナリ-アーチナダ/板目印	今 年 新	赤 既W10W6/2倍		111回形
659	659-01	土師器	甕	SE28	E56 No.12 11.0	外: 口コナリ-アーチナダ/1.2倍	今 年 新	赤 既W2.5W/2倍		111回形
660	658-01	土師器	甕	SE28	E56 No.3-5-7-9 15.3	外: 口コナリ-アーチナダ/1.2倍 内: 口コナリ-アーチナダ/板目印/具ナダ	今 年 新	赤 既W6W7.5W/1.2倍		111回形
661	657-01	土師器	甕	SE28	E56 No.10-12 16.5	外: 口コナリ-アーチナダ/1.2倍 内: 口コナリ-アーチナダ/板目印/具ナダ	今 年 新	赤 既W2.5W/1.2倍		111回形
662	658-01	土師器	甕	SE28	E56 No.1-3-7-9 17.7	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ/3倍	今 年 新	赤 既W3.5W/3倍		111回形
663	661-01	土師器	甕	SE28	E56 No.4 15.1	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W1.2W/1.2倍		111回形
664	661-02	土師器	甕	SE28	E56 No.5-7-9-12 17.3	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ/3倍	今 年 新	赤 既W1.2W/1.2倍		111回形
665	660-02	土師器	甕	SE28	E56 No.1 15.1	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W3.5W/1.2倍		111回形
666	660-02	土師器	甕	SE28	E56 No.2-5 15.1	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W3.5W/1.2倍		111回形
667	657-02	土師器	甕	SE28	E56 No.6 15.1	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W3.5W/1.2倍		111回形
668	660-02	土師器	甕	SE28	E56 No.1-5 15.1	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W3.5W/1.2倍		111回形
669	686-01	土師器	甕	SE362	F46 No.3 12.0	外: 内: 口コナリ-ナダ	今 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
670	686-06	土師器	甕	SE362	F46 (13.2)	外: 内: 口コナリ-ナダ	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
671	686-07	土師器	甕	SE362	F46 No.6	外: ハマハマノリ/3倍	今 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
672	686-07	土師器	甕	SE362	F46 (15.0)	外: 口コナリ-ハマハマノリ/3倍 内: 口コナリ-ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
673	685-04	土師器	甕	SE362	F46 16.5	外: 口コナリ-ハマハマノリ 内: 口コナリ-ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
674	686-07	土師器	甕	SE362	F46 (24.0)	外: 内: 口コナリ-ナダ/ケメ	今 年 新	赤 既W3.5W/8/1.2倍		既W3.5W/8/1.2倍
675	686-08	土師器	甕	SE362	F46 16.5	外: 口コナリ-ハマハマノリ/3倍 内: 口コナリ-ハマハマノリ	今 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
676	686-02	土師器	甕	SE362	F46 No.1 9.6	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ/3倍	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
677	234-02	土師器	甕	SE37	No.26 15.0	外: 口コナリ-ハマハマノリ/3倍 内: 口コナリ-ハマハマノリ	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
678	236-02	土師器	甕	SE37	F43 (17.0)	外: 口コナリ-ナダ/3倍 内: 口コナリ-ナダ/3倍	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
679	234-01	土師器	甕	SE37	F43 13.5	外: 口コナリ-ハマハマノリ/3倍 内: 口コナリ-ハマハマノリ	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
680	234-01	土師器	甕	SE37	F43 (14.0)	外: 口コナリ-ハマハマノリ/3倍 内: 口コナリ-ハマハマノリ	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
681	234-04	土師器	甕	SE370	F43 No.14-15 19.5	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍
682	235-02	土師器	甕	SE370	F43 No.2-3-5-7-11	外: ハマハマノリ/3倍 内: ハマハマノリ	既 年 新	赤 既W1.2W/2倍		既W1.2W/2倍

第32表 遺物観察表①

番号	実物 番号	種類	器種分類	出土位置	法長 (cm)	器體形状	器體形状の特徴		地 工	地 成	色 表	残存	備考
							口径	底径					
583	235- 61	土器群	壺	SE370	F43 12-15	丸底	外:ハケ内:多孔 内:工芸チヌ		小今 前	良市縫2.5V7/4倍	黒目	更別外縫に縫跡	
694	2195- 01	木製品	蓋板	SH319	F43 No.28	大口直筒、直筒、直筒 32.0 29.5 3.3	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
685	2205- 01	木製品	蓋板	SE370	No.31	直筒、直筒、直筒 32.0 29.5 3.3	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
686	2208- 02	木製品	蓋板	SE370	No.26	直筒、直筒、直筒 32.0 29.5 3.3	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
687	2230- 02	木製品	蓋板	SE370	F43 No.33	直筒、直筒、直筒 27.5 14.5 4.0	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
688	2230- 03	木製品	蓋板	SE370	No.29	直筒、直筒、直筒 32.0 29.5 3.3	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
689	2230- 02	木製品	蓋板	SE370	F43 No.36	直筒、直筒、直筒 32.0 29.5 3.3	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
690	2199- 02	木製品	蓋板	SE370	F43 No.32	直筒、直筒、直筒 33.0 32.0 3.3	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
691	2230- 03	木製品	蓋板	SE370	F43 No.35	直筒、直筒、直筒 32.0 30.0 4.0	板状、加工痕不明瞭、板目現				黒目	定形	計測
692	214- 01	土器群	壺	SB393	M07 F116	(17.2) (11.2) (2.1)	丸底、ハコナガリナリ 内:ハコナガリナリ		小今 前	良市縫1.5V7/6倍	白目	/	
693	246- 04	土器群	壺	SB393	M07 F119	丸底	丸:ハコナガリナガツリ 内:ハコナガリナガツリ		小今 前	在:5V5V7/4倍	1/3	外縫に縫跡	
694	944- 01	土器群	壺	SB488	H13 F14	(14.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/4倍	1/4		
695	944- 01	土器群	壺	SB488	H13 F14	(13.8)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:1.5V1.5V7/3倍 内:外縫:3V3V7/3倍	1/3		
696	944- 02	土器群	壺	SB488	J12 F13	(15.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:1.5V1.5V7/3倍 内:外縫:3V3V7/3倍	1/3		
697	948- 01	土器群	直筒	SB488	H13 F12	(14.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/4倍	1/2		
698	941- 01	土器群	直筒	SB488	H13 F12	(14.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/4倍	1/2		
699	941- 01	土器群	壺	SB46	H12 F11	16.5	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/3倍	1/3	外縫に縫跡 x2	
700	345- 01	クロコ	壺	SB46	H12 F11	(12.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2倍	1/2		
701	405- 02	土器群	壺	SB45	H14 F14	(14.0)	(2.1) 体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2倍	1/2		
702	945- 01	土器群	壺	SB45	H14 F14	(14.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2倍	1/2		
703	945- 02	土器群	壺	SB45	H14 F14	(14.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2倍	1/2		
704	945- 01	土器群	壺	SB45	J21 F10	(13.6) (8.4) (2.5)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/4 内:外縫:3V3V7/4	1/3		
705	945- 04	土器群	直筒	SB45	F17 F13	9.5 3.6 2.25	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2	4/5		
706	694- 03	織物陶器	直筒	SB45	F17 F13	7.4	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/2倍	1/2	織物陶器 内縫に三叉+十角	
707	245- 01	土器群	直筒	SB383	G03 F11	(9.7)	(2.1) 体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2	DMH/7		
708	249- 06	土器群	直筒	SB384	H05 F12	(11.1)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2	DMH/7		
709	248- 02	土器群	直筒	SB376	K75 F11	(14.0)	体:コロナガリナダ 内:ガラス		老	在:5V5V7/2	DMH/7		
710	210- 06	土器群	直筒	SB378	M75 F11	(13.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/3	DMH/7		
711	249- 01	土器群	壺	SB378	L26 F11	(10.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/4	DMH/7		
712	246- 03	土器群	直筒	SB391	M96 F11	10.2	2.5 体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/1	DMH/6		
713	246- 05	クロコ	直筒	SB391	M88 F12	(9.6) (12.0)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2	DMH/7		
714	246- 01	土器群	直筒	SB392	L87 F14	13.7~14.1	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2	DMH/7		
715	246- 02	土器群	直筒	SB392	L86 F14	14.0	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	在:5V5V7/2	DMH/7		
716	246- 01	土器群	直筒	SB394	K96 F11	(13.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/2	DMH/7		
717	404- 01	陶器	直筒	SB381	F19 F10	(10.6) (7.0) (3.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	良白5V5V7/1	1/5		
718	404- 05	陶器	直筒	SN60	I24 F14	(11.0) (8.1) (3.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		小今 前	良白5V5V7/1	1/3		
719	405- 04	土器群	直筒	SB66	J24	(17.7)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/2	DMH/7		
720	405- 03	陶器	直筒	SB66	J24	(16.6)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/2	DMH/7	外縫に自然物	
721	404- 02	陶器	直筒	SB66	K23	(7.4)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/1	DMH/7	外縫に自然物 内縫に砂	
722	245- 03	陶器	直筒	SB381	J50 F14	(15.2)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/1	DMH/7		
723	247- 04	陶器	直筒	SB381	J41 F11	(10.0) (8.7) (3.7)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/1	DMH/7	+各種遺	
724	249- 01	土器群	直筒	SB385	N56 F116	(12.7)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/4	DMH/7		
725	249- 05	土器群	直筒	SB385	N56 F116	(12.7)	体:コロナガリナダ 内:コロナガリナダ		老	在:5V5V7/4	DMH/7	外縫に縫跡田?	

第33表 潜物観察表(⑪)

番号	測定 番号	種類	遺跡分類	出土位置	法長 (cm)	上種 底種 形質	蓄積指送の特徴	地 土 成 分	色 調	残存	備考	
726	248-04	ロクロ 土師器	皿	SB385	MBS_Pt12	5.0	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	黄 標準Y7/6	淡部 表面無光		
727	248-02	土師器	盤	SB385	MBS_Pt2	(13.2)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰白(0)Y8/2	口縁 小片		
728	248-05	黑色土器	碗	SB385	MBS_Pt1	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y2/1	口縁 内面無光	是非赤泥土に埋葬	
729	249-09	土師器	杯	SB386	MBS_Pt1	(13.5)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰白(0)Y8/2	口縁		
730	249-01	陶器	山高輪	SB386	MBS_Pt1	(15.0)	外:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y7/1	口縁小片 自然端		
731	249-07	土製品	土拂	SB396	MBS_Pt3	3.9	火候 外:内:ナメ	やや 乾	灰黃褐色(0)Y8/2	火形	重厚1.27g	
732	249-06	土製品	土拂	SB386	MBS_Pt3	4.7	火候 外:内:ナメ	やや 乾	灰黃褐色(0)Y8/2	火形	重厚1.25g	
733	249-08	土師器	皿	SB387	MBS_Pt10	(16.0)	外:内:ナメナメ	やや 乾	灰 灰褐色(1)Y6/3	口縁1/5		
734	250-04	土師器	杯	SB387	MBS_Pt6	(12.0)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 灰褐色(1)Y5/7/4	口縁1/5		
735	250-03	土師器	皿	SB387	MBS_Pt2	(16.0)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 灰褐色(1)Y5/7/4	口縁小片 外縁に擦り傷		
736	247-01	陶器	山高輪	SB387	MBS_Pt2	(16.0)	外:内:コロナリーベルト切欠	乾	灰白(0)Y7/1	口縁小片		
737	247-02	土師器	杯	SB390	MBS_Pt2	(13.0)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y7/1	口縁		
738	247-06	陶器	山高輪	SB390	MBS_Pt5	(8.0)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/1	口縁1/5		
739	247-05	黑色土器	瓶	SB390	H15_Pt3	(15.0)	外:内:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y5/1	口縁1/5		
740	979-01	土師器	皿	SB390	H15_Pt1	10.7	2.3 外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y7/2	火形 全体に黒泥付		
741	979-02	陶器	皿	SB390	H15_Pt1	10.5	3.3 外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y8/2	口縁1/5 自然端 内部に運行跡		
742	979-03	緑釉陶器	小皿	SB390	H15_Pt1	4.2	褐 外:内:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y7/1	口縁1/5		
743	356-05	土師器	皿	SK24	J15	(17.0)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	口縁1/5		
744	351-04	土師器	皿	SK24	J15	(12.5)	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	口縁1/5		
745	372-01	衛生土器	盒	SK42	P19	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y7/4	凹部火形		
746	366-01	衛生土器	盒	SK42	P19	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y7/5	凹部火形 内面に運行跡		
747	366-02	衛生土器	盒	SK42	P19	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y7/5	凹部火形 内面に化粧物付		
748	321-02	土師器	小皿	SK6	—	(10.2)	外:内:ナメナメ	やや 乾	灰 標準Y5/2	口縁1/2		
749	320-01	土師器	小皿	SK6	—	(10.0)	外:内:コロナリーベルト切欠	乾	灰 標準Y5/2	外縁に擦り傷		
750	320-02	土師器	杯	SK6	No.12	14.6	7.6 外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
751	319-02	土師器	杯	SK6	H8	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
752	320-01	土師器	杯	SK6	H9	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
753	319-01	土師器	杯	SK6	No.9	15.4	4.1 外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
754	319-03	ロクロ	瓶	SK6	H9	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
755	319-04	ロクロ	瓶	SK6	No.5	16.6	6.0 外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
756	319-05	ロクロ	瓶	SK6	H9	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
757	319-04	ロクロ	瓶	SK6	H9	—	外:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	凹部火形		
758	319-01	ロクロ	皿	SK6	H9	9.2	4.2 外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	凹部火形		
759	321-03	ロクロ	皿	SK6	No.7	—	外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	凹部火形		
760	321-01	ロクロ	皿	SK6	H9	10.3	4.7 外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	凹部火形 施錫付		
761	321-02	ロクロ	皿	SK6	H9	10.4	6.9 外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	凹部火形		
762	321-02	ロクロ	皿	SK6	No.7	11.4	6.0 外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/2	凹部火形		
763	322-04	土師器	盤	SK6	—	16.6	外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/3	外縁に擦り傷		
764	322-01	陶器	山高輪	SK6	H9	15.8	8.3 外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y5/1	凹部火形		
765	384-03	陶器	山高輪	SK6	—	8.0	外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y8/0	底部内面 外縁に擦り傷		
766	384-02	陶器	山高輪	SK6	No.12	—	外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y8/2	内面に自然端		
767	384-05	陶器	便	SK6	—	—	外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y7/1	自然端		
768	384-04	土師器	三工口盤	SK6	—	7.4	外:内:コロナリーベルト切欠 内:コロナリーベルト切欠	やや 乾	灰 標準Y8/2	底部内面 外縁に擦り傷		
769	2220-01	土製品	留置	SK6	—	8.8	—	—	—	灰	灰	計量用

第34表 遺物観察表⑩

番号	箇所 番号	種類	地種分類	出土位置	法長 (cm)	測量法の特徴	測量法の特徴	測量法	色 異	残り	備考		
770	2214	木製品	漆串 CV	SK68	No.16	最大: 長大さ 60.0 口徑: 1.7 厚さ: 1.1	切込み2ヶ所 梱包状	直	黒 内: 黒+白+黒+黒+黒/3 内: 黒+黒+黒/3	1/2	針集束		
771	393-06	土師器	瓶	SK45	D20-21	(12.2) (3.9) 0.95	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	黒 内: 黒+黒+黒+黒/3 内: 黒+黒+黒/3	1/2			
772	342-03	土師器	皿	SK45	No.19	14.4	1.2	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直	直+白+黒+黒/2		
773	342-02	土師器	皿	SK45	No.40	14.7	2.9	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直	直+白+黒+黒/2		
774	391-01	土師器	皿	SK45	D20	(13.8) (7.0) 0.115	内: 内ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2			
775	390-04	土師器	皿	SK45	—	(15.4) (7.0) 0.10	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	様子番		
776	342-05	瓦	瓦	SK45	E20	(14.1) (0.25) 0.10	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 黑+白+黒+黒/3	1/2	外側に瓦片付着		
777	392-01	土師器	皿	SK45	D20	(8.7) (4.2) 0.115	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2			
778	340-03	土師器	皿	SK45	No.22	8.9	4.7	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み	
779	349-06	土師器	皿	SK45	—	8.2	3.5	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマサ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み	
780	349-07	土師器	皿	SK45	No.25	8.8	5.1	1.9	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み
781	348-08	土師器	皿	SK45	No.29	8.2	4.2	1.6	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み
782	348-09	土師器	皿	SK45	No.20	8.0	3.4	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み	
783	348-07	土師器	小皿	SK45	No.77	8.8	5.3	1.8 外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面 丸み	
784	392-02	土師器	小皿	SK45	No.59	(8.4)	(2.2)	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み	
785	394-06	土師器	小皿	SK45	No.49	(9.6)	(1.4)	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
786	395-01	土師器	小皿	SK45	No.44	(9.6)	(0.17)	外: 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
787	394-02	土師器	小皿	SK45	No.4	(9.9)	(0.05)	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
788	394-09	土師器	小皿	SK45	No.62	(9.1)	(1.7)	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
789	394-03	土師器	小皿	SK45	No.16	(8.6)	(1.05)	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
790	395-02	土師器	小皿	SK45	No.44	(8.6)	(0.15)	外: 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
791	342-03	土師器	小皿	SK45	No.66	8.2	1.1	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
792	347-02	土師器	小皿	SK45	No.58	8.1	1.4	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面 丸み	
793	393-04	土師器	小皿	SK45	E20	(8.5) (0.2) 0.115	外: 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	良 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2			
794	389-06	土師器	小皿	SK45	—	8.3	1.3	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2	底面丸み	
795	348-04	土師器	小皿	SK45	No.69	8.9	1.6	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2		
796	394-07	土師器	小皿	SK45	No.30	(8.8)	(0.15)	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
797	390-01	土師器	小皿	SK45	—	(9.5)	(1.65)	外: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
798	395-01	土師器	小皿	SK45	No.72	8.3	2.2	1.45 外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
799	389-01	土師器	小皿	SK45	E20	(7.5) (1.0) 0.10	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2			
800	391-02	土師器	小皿	SK45	E20	(7.2) (0.1) 0.11	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2			
801	391-04	土師器	小皿	SK45	No.63	(9.4)	(1.4)	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
802	391-02	土師器	小皿	SK45	No.82	8.4	1.5	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	良 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2		
803	394-08	土師器	小皿	SK45	No.56	8.4	1.5	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
804	394-09	土師器	小皿	SK45	No.40	(9.0)	(0.35)	外: 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
805	347-04	土師器	小皿	SK45	No.50	8.8	1.5	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
806	389-02	土師器	小皿	SK45	—	8.4	1.0	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2	底面丸み	
807	394-05	土師器	小皿	SK45	No.23	(8.3)	(1.3)	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
808	394-04	土師器	小皿	SK45	No.2	(8.5)	(0.25)	外: 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/4	1/2		
809	347-03	土師器	小皿	SK45	No.70	8.2	1.5	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
810	390-02	土師器	小皿	SK45	—	8.4	1.65	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	直	良 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		
811	393-01	土師器	小皿	SK45	E20	(7.0) (2.0) 0.10	外: 内: ロココザマササニチナ 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/1	1/2			
812	390-03	土師器	小皿	SK45	—	(8.1)	(0.25)	外: 内: ロココザマササニチナ	やや 黒	直 内: 白+黒+黒+黒/2	1/2		

第35表 遺物観察表②

番号	実物 番号	種類	解説分類	出土位置	出土 (cm)		調査所の特徴	地 質	色 調	性 質	備 考
					口径	直径					
813	393-07	土器	小皿	SK45-E20	(0.4)	(0.0) 0.2	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	二重、壁厚7.5mm/4	1/2
814	394-06	土器	小皿	SK45-E21	(7.6)	(0.0) 0.05	外: 口内: リム: 脊壁 内: 口内: リム: 脊壁	今木 板	灰 灰	灰白1098/2	1/4
815	397-06	土器	小皿	SK45-E20	(3.4)	0.03 0.4	外: 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	2.5mm/3	1/4
816	347-07	土器	小皿	SK45-No.63	8.4	1.4	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/1 14mm厚	口縁
817	394-08	土器	小皿	SK45-No.34	(8.4)	0.4	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/2 14mm厚	口縁
818	347-08	土器	小皿	SK45-No.56	8.5	1.6	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/2	口縁形
819	347-06	土器	小皿	SK45-No.13	4.2	1.8	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/2	口縁形
820	393-02	土器	小皿	SK45-E20	(8.0)	(1.0) 0.25	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/1	外腹に黒斑
821	348-02	土器	小皿	SK45-No.61	8.9	1.4	外: 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	口縁2.5
822	265-07	土器	小皿	SK45-E20	(3.0)	(4.0) 0.3	外: 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/2	口縁1.5
823	347-05	土器	小皿	SK45-E20-21	7.6	1.1	外: 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	口縁1.5
824	348-05	土器	小皿	SK45-No.19	8.0	1.1	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	口縁 14mm厚
825	391-02	土器	小皿	SK45-No.68	(8.4)	0.22 0.4	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/2 14mm厚	1/4
826	390-02	土器	小皿	SK45-E20	(8.4)	(3.0) 0.05	外: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	1/3
827	391-03	土器	小皿	SK45-No.63	(8.7)	0.6	(0.15) 外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/1	口縁1.5
828	347-01	土器	小皿	SK45-No.12	8.9	1.5	外: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	口縁1.5
829	391-07	土器	小皿	SK45-No.78	(7.9)	0.30 0.45	外: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/1 14mm厚	1/4
830	391-01	土器	小皿	SK45-No.65	(2.0)	-	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	口縁1.5
831	343-01	土器	盤	SK45-No.19	(13.9) 底面 (25.0)	-	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白1098/3倍 14mm厚	外腹に黒斑
832	349-01	陶器	山皿	SK45-No.56	3.5	3.0	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	高台に粗粒
833	348-01	陶器	山高瓶	SK45-No.1	(15.6)	5.5	(5.0) 外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	高台付 高木灰
834	395-04	陶器	山高瓶	SK45-No.37	(16.0)	-	外: 内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白2.5mm/1倍	口縁1.5
835	395-05	陶器	山高瓶	SK45-No.9	(7.4)	-	外: リム: ボビナエ 内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白2.5mm/1倍 14mm厚	口縁1.5
836	395-04	陶器	山高瓶	SK45-E20	(18.0)	-	外: 内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	口縁1.5
837	392-04	陶器	山高瓶	SK45-E20	(18.0)	-	外: 内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	灰白2.5mm/1	口縁1.5
842	342-01	陶器	山高瓶	SK45-No.2	(6.7)	(7.4) 0.15	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	自然陶付 高木灰
843	342-02	陶器	山高瓶	SK45-No.46	(17.0)	(8.4) 0.25	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	自然陶付 高木灰
844	396-02	陶器	山高瓶	SK45-No.49	8.0	-	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1倍 14mm厚	高木灰 腹内面黒化
845	396-01	陶器	山高瓶	SK45-No.48	7.6	-	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	高木灰 腹内面黒化
846	343-01	陶器	山高瓶	SK45-No.48	7.6	-	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	高木灰 腹内面黒化
847	386-01	陶器	山高瓶	SK45-No.49	8.0	-	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	高木灰 腹内面黒化
848	343-01	陶器	山高瓶	SK45-No.48	7.6	-	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	高木灰 腹内面黒化
849	343-02	陶器	山高瓶	SK45-D21	-	-	外: リム: 壁: 高台付付内縁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	口縁1.5
844	349-05	土器	土縁	SK45-P21	最大直径 3.5	1.1 0.5	外: リム: 壁: ボビナエ 内: リム: 壁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	一部欠け 重量2.9kg
841	341-04	土器	土縁	SK45-E21	最大直径 4.7	1.4 0.5	外: リム: 壁: ボビナエ 内: リム: 壁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	14mm厚
846	346-02	土器	土縁	SK45-No.49	最大直径 4.6	2.1 1.12	外: リム: 壁: ボビナエ 内: リム: 壁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	14mm厚 重量2.9kg
847	347-02	土器	土縁	SK45-No.15	4.4	3.1	外: リム: 壁: ボビナエ 内: リム: 壁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	14mm厚 重量3.0kg
848	346-03	土器	土縁	SK45-No.15	44.5	3.6	外: リム: 壁: ボビナエ 内: リム: 壁: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	14mm厚 重量3.0kg
849	379-02	古式	萬形	SK45-H18	(14.4)	-	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	口縁1.5
850	379-04	古式	萬形	SK48-H19	(31.0)	-	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/3	口縁1.5
851	379-04	古式	萬形	SK48-H19	(7.2)	-	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	14mm厚
852	633-C3	土器	小皿	SK215-J30-31	(9.0)	0.0	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/1	14mm厚
853	634-C3	土器	小皿	SK215-J31	9.4	2.2	外: 口内: リム: 残缺不明-ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/2	14mm厚 打模印
854	635-C3	土器	小皿	SK215-J31	9.8	1.9	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/4	14mm厚
855	635-C3	土器	小皿	SK215-J31	9.6	2.3	外: 口内: リム: ボビナエ 内: 口内: リム: ボビナエ	今木 板	灰 灰	1098/4	14mm厚

第36表 遺物観察表②

番号	表面 番号	種類	埋蔵分類	出土位置	法面 (cm)		剥離方法の特徴	土 成 性	色 調	指 標	備 考
					上層 深度	下層 深度					
856	632-01	土師器	瓶	SK215-J31	14.5	4.0	外-内コロナード一ダサニ	砂 質 地 化	黒 茶 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 外縁に縦付帯
857	632-02	土師器	瓶	SK215-J30-33	15.0	3.6	内-外コロナード一ダサニエ	砂 質 地 化	黒 茶 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
858	636-04	土師器	作	SK215-J31	(14.0) (9.5)	(2.2)	外-内一ダサニエサニエ	粘 土 質	青 灰 色	底 部 高 温 化 度 12.5%	山形形
859	635-04	ロクロ	島	SK215-J31	10.2	4.4	外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 12.5%	山形形
860	634-06	ロクロ	島	SK215-J31	10.4	5.0	1.7 内-外コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 10.0%	山形形
861	635-02	土師器	瓶	SK215-J31	9.7	3.6	外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
862	637-04	ロクロ	島	SK215-J31	(9.7) (6.7)	(2.0)	外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
863	638-02	ロクロ	島	SK215-J31	(10.3)	3.7	外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
864	638-01	土師器	瓶	SK215-J31	(10.0)	4.0	2.0 外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 10.0%	山形形
865	637-03	ロクロ	島	SK215-J31	(10.0)	4.5	2.0 外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 10.0%	山形形
866	633-04	ロクロ	島	SK215-J31	(9.5)	6.0	0.0 外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 10.0%	山形形
867	637-03	土師器	台付皿	SK215-J31	(8.0)	(5.0)	(2.0) 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
868	637-02	土師器	台付皿	SK215-J31	(8.0)	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
869	636-04	ロクロ	島	SK215-J31	(10.0)	—	外-内コロナード一ホルマイト	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 10.0%	山形形
870	637-02	土師器	台付皿	SK215-J31	(14.7) (5.0)	(4.5)	4.0 外-内コロナード一弧削り切痕	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 10.0%	山形形
871	634-04	ロクロ	島	SK215-J31	(16.0)	7.0	(4.7) 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
872	632-04	ロクロ	島	SK215-J31	(14.0)	9.6	(3.0) 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
873	634-04	土師器	盤	SK215-J31	(18.0)	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
874	634-01	陶器	山高瀬	SK215-J31	(16.0)	7.6	(5.0) 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
875	632-01	土師器	島	SK215-J31	15.2	7.0	5.1 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形+横付
876	634-01	陶器	山高瀬	SK215-J31	(17.0)	(7.5)	(5.5) 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形+横付 白背景
877	637-01	陶器	山高瀬	SK215-J31	7.8	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形+横付 白背景
878	634-03	陶器	山岳	SK215-J30	(30.0)	4.0	2.7 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 口縁一部 内部に自然 発育形
879	633-01	陶器	山岳	SK215-J31	10.8	5.0	2.8 外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 内部に自然 発育形
880	202-01	土師器	皿	SK341-L73	11.0	6.1	2.0 外-内コロナード一イニエニダ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
881	202-02	土師器	皿	SK341-L73	10.4	4.9	2.4 外-内コロナード一ダ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
882	204-04	土師器	皿	SK341-L73	(11.0)	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
883	202-06	土師器	皿	SK341-L73-T4	(12.0)	(6.0)	(3.0) 外-内コロナード一サニエニダ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 小片
884	202-03	土師器	皿	SK341-L73-T4	(13.0)	—	外-内一ダ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
885	209-02	土師器	皿	SK341-L73	(15.0)	—	8.0 外-内コロナード一イニエニダ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
886	209-05	ロクロ	台付皿	SK341-L73	7.7	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
887	208-07	土師器	叶付皿	SK341-L73	5.4	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
888	202-08	土師器	盤	SK341-L73	—	—	外-内コロナード一サニエニダ 外-内コロナード一ハシメ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 小片
889	202-07	土師器	盤	SK341-L73-T4	—	—	外-内コロナード一ダ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 小片
890	209-01	土師器	皿	SK341-L73	(35.0)	—	外-内コロナード一サニエニダ 外-内コロナード一ハシメ	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 外縁に縦付帯
891	203-03	陶器	山高瀬	SK341-M74	(36.0)	—	外-内コロナード一	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
892	202-02	陶器	山高瀬	SK341-L73	(34.0)	—	外-内コロナード一	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 白背景
893	203-01	陶器	山高瀬	SK341-M73	7.6	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 底部V字
894	208-01	陶器	山高瀬	SK341-L73	8.4	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 底台V字
895	202-05	陶器	山岳	SK341-L73	13.4	7.4	2.3 外-内コロナード一コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形 内縫合
896	204-01	瓦	平瓦	SK341-L73	—	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形
897	204-02	瓦	平瓦	SK341-L-M73	—	—	外-内コロナード一高台付皿	砂 質 地 化	黑 色	底 部 高 温 化 度 7.5%	山形形

第37表 遺物観察表22

番号	実番	基盤	埋蔵位置	出土位置	法量 (cm)	測量技術の特徴	地 層 成 分	色 調	残存	備考	
899	199-02	陶土器 備	SK324 PT5		5.2	外:円柱形 内:コロナ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	遺物片	
899	200-01	陶土器 備 A3a	SK324 PT5	(D.1)		外:円柱形 内:コロナ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
900	200-04	陶生土器 直	SK324 PT5			外:ハケ付×13cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	直状鉢	
901	201-01	陶土器 器台	SK324 PT5	(D.1.0)		外: L型カーブ、側面横溝付12本×5本 内:コロナ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	西方透孔	
902	202-02	土器口 直	SK324 PT5		4.2	外:ワカ付×18cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	直状鉢	
903	202-03	土器口 土器底	SK324 PT5			外:ワカ付×18cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
904	199-02	海道 山岸船	SK324 PT5	(D.1.2)		外:ワカ付×18cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
905	199-01	海器 山岸船	SK324 PT5	15.8	8.3	4.8 外:ワカ付×18cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
906	905-02	クロロ 直	SK450 J-K49		4.5	外:ワカ付×18cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
907	936-06	土器群 小皿	SK450 J-K49	(H.2)		外:ワカ付×18cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
908	936-05	土器群 小皿	SK450 J-K49	(H.0)	0.9	外:内:ヨコナギナードササエ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
909	936-04	土器群 小皿	SK450 J-K49	(H.7)	0.40	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
910	936-03	土器群 小皿	SK450 J-K49	9.8	2.0	外:内:ナガリヨコナギサエ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
911	936-02	海道 山岸船	SK450 J-K49		7.3	外:ワカ付×18cm×1.5cm	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	萬古穴	
912	935-03	土製品 十輪	SK450 J-K49	大筒	5.2	1.58 ナギ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	重量:10.47g	
913	399-01	土器群 直	SE47		(D.7)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
914	708-04	土器群 直	SE47		(D.7)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
915	388-02	土器群 直	SE47		(D.6)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
916	400-01	土器群 直	SE47 H19		(D.7) (D.0)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	内部外縁に絞削アーチ	
917	397-05	土器群 直	SE47 H19	(D.0)	(D.0) (D.2)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	LH8.74	
918	400-02	土器群 直	SE47 G-H19	(D.4)		外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
919	399-04	土器群 直	SE47			内:ケツリ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
920	399-03	土器群 直	SE47 H19	(D.2)		内:ヨコナギ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
921	397-02	土器群 備	SE47		(D.5)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	内面に焼付	
922	397-03	土器群 備	SE47 H19	(D.7)		外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	内面に焼付	
923	397-03	土器群 備	SE47 H19	(D.8)		外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	内面に焼付	
924	388-06	土器群 高杯	SE47		(D.8) (D.0)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
925	399-05	土製品 勾頭上鏡	SE47			ナギ	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
926	3144-01	木製品 両手舟	SE47 No.4	大筒	60.2	33.8 5.8	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片
927	2144-02	木製品 両手舟	SE47 No.5	大筒	60.0	33.8 5.8	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片
928	2144-01	木製品 両手舟	SE47 No.1	大筒	59.4	33.8 5.8	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	スズ
929	2144-01	木製品 両手舟	SE47 No.2	大筒	56.5	37.9 3.8	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	計量器
930	2132-01	木製品 両手舟	SE47 No.3	大筒	60.5	30.2 5.7	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片 931と合表
931	2144-01	木製品 両手舟	SE47 No.3	大筒	57.0	33.8 5.7	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	計量器 931と合表
932	2120-01	木製品 両手舟	SE47	大筒	77.5	5.8 4.0	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片
933	2120-02	木製品 両手舟	SE47 No.12	大筒	77.7	6.0 2.7	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片
934	2120-01	木製品 両手舟	SE47 No.11	大筒	77.7	5.7 3.4	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片
935	2120-01	木製品 両手舟	SE47 No.10	大筒	55.8	10.8 3.7	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片
936	223-01	土器群 直	SE353 Nt.2		1.8	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
937	223-01	土器群 直	SE353 Nt.7		(D.0)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
938	223-02	土器群 直	SE353 Nt.7		(D.7)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
939	223-01	土器群 直	SE353 Nt.7			内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
940	222-01	土器群 備	SR353 Nt.7		(D.0)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	
941	222-02	土器群 備	SE353 Nt.7		(D.0)	外:内:ヨコナギナード	今 年 生 長	赤 色 系 色	保存	口縁片	

第38表 遺物観察表23

番号	高さ 基部 寸法	種類	基盤分類	出土位置 地名 口径 底径 高さ	直立 倒伏 倒伏	直径 (cm) 内径 底径 高さ	調査法の特徴		地 質	内 容	段 数	備 考
							内 容	特 徴				
842	232- 01	土製品	便	SE353 N87	(36.0)	-	外:コロナード、内:セラミック 内:コロナード上部付	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
843	232- 02	土製品	陶土器	SE353 N87	(36.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
844	228- 01	土製品	陶土器	SE353 N87	(35.0)	-	外:コロナード、内:セラミック 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
845	228- 02	土製品	陶土器	SE353 N87	(34.0)	-	外:コロナード、内:セラミック 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
846	227- 02	土製品	陶土器	SE353 N87	(33.0)	-	外:コロナード、内:セラミック 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
847	231- 04	土製品	陶土器	SE353 N87	(35.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
848	233- 04	土製品	陶土器	SE353 N87	(21.0) (33.0)	(5.5)	外:コロナード、内:セラミック 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	-
849	229- 05	土製品	陶土器	SE353 K87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	小井	-
850	229- 02	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	小井	-
851	229- 05	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
852	231- 05	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	粘 土	底付7.5mm/2段	小井	-
853	229- 01	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
854	230- 01	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
855	229- 08	土製品	陶土器	SE353 N87	(31.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
856	229- 05	土製品	陶土器	SE353 N87	(38.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
857	229- 07	土製品	陶土器	SE353 N87	(34.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
858	230- 05	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
859	231- 01	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:セラミック 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
860	229- 05	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
861	230- 05	土製品	陶土器	SE353 N87	-	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	小井	-
862	234- 03	木製品	舟形	SE353 No. 4	(50.0)	5.5 5.5 5.5	外:木 内:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	CBM/8	計量値
863	234- 01	木製品	舟形	SE353 No. 2	(56.0)	9.0 9.0 9.0	外:木 内:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	CBM/8	計量値
864	234- 02	木製品	舟形	SE353 No. 7	(66.7)	7.4 7.4 7.4	外:木 内:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	CBM/8	計量値
865	228- 07	木製品	舟形	SE353 N87	(51.2)	-	外:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	小井	計量値
866	226- 01	木製品	舟形	SE353 No. 2	(37.8)	4.1 4.1 4.1	外:木 内:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	CBM/8	計量値
867	220- 01	木製品	舟形	SE353 No. 4	(30.8)	3.0 3.0 3.0	外:木 内:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	CBM/8	計量値
868	229- 05	木製品	舟形	SE353 N87	(40.3)	3.0 3.0 3.0	外:木 内:木 内:木	加工痕不規則 底付凹凸	木 材	底付7.5mm/2段	小井	計量値
869	216- 07	土器	便	SE363 No. 5-6	(22.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
870	210- 07	土器	便	SE363 K47	(44.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
871	210- 05	土器	便	SE363 K47	(31.7)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
872	210- 03	土器	便	SE363 No. 1-2	(21.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
873	214- 02	土器	便	SE363 K47	(38.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
874	210- 05	土器	便	SE363 No. 4	(38.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
875	216- 04	土器	便	SE363 K47-07	(66.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
876	214- 02	土器	便	SE363 K47	(37.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
877	216- 01	土器	便	SE363 No. 7	(24.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/7	底付内側に斜削ドーナツ
878	218- 01	木製品	舟形	SE363 No. 5	(40.0)	11.3 1.5	外:木 内:木	底付不規則 底付凹凸	木 材	-	小井	計量値
879	210- 01	木製品	舟形	SE363 No. 3	(40.0)	11.3 1.5	外:木 内:木	底付不規則 底付凹凸	木 材	-	小井	計量値
880	210- 01	木製品	舟形	SE363 No. 3	(40.0)	11.3 1.5	外:木 内:木	底付不規則 底付凹凸	木 材	-	小井	計量値
881	222- 01	木製品	舟形	SE363 No. 2	(58.8)	12.1 2.5	外:木 内:木	底付不規則 底付凹凸	木 材	-	小井	計量値
882	222- 01	木製品	舟形	SE363 No. 9	(59.0)	12.2 2.6	外:木 内:木	底付不規則 底付凹凸	木 材	-	小井	計量値
883	222- 02	木製品	舟形	SE363 No. 6	(59.0)	9.4 2.6	外:木 内:木	底付不規則 底付凹凸	木 材	-	小井	計量値
884	216- 01	土器	便	SE451 No. 4	(24.0)	3.1	外:コロナード 内:セラミック	底付不規則 底付凹凸	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/6	底付内側に斜削ドーナツ
885	216- 01	土器	便	SE451 J48	(32.0)	-	外:コロナード 内:セラミック	-	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/6	底付内側に斜削ドーナツ
886	217- 03	土器	便	SE451 No. 9	(32.0)	3.4	外:コロナード 内:セラミック	底付不規則 底付凹凸	砂 岩	底付7.5mm/2段	CBM/6	底付内側に斜削ドーナツ

第39表 遺物観察表24

番号	測定 番号	種類	種類分類	出土位置	法線 (cm)		器物指紋の特徴	地 点	地 質	塊 度	備 考
					口徑	厚度					
987 987- 01	土師器	杯	SE451	J47-48	0.4.10	1.0.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/3	口縁/4	
988 988- 02	土師器	杯	SE451	J48	13.0	2.4	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/6	3/4	
989 989- 03	土師器	杯	SE451	J48 No.1	13.0	3.4	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	3/4	
990 990- 04	土師器	杯	SE451	J48 No.2	13.0	0.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	口縁/4	全体縁付
991 991- 01	土師器	杯	SE451	No.6	13.0	1.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2 内: 口内:VSYR/5	1/3	
992 992- 02	土師器	杯	SE451	J48 No.18	13.4	3.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	3/4	
993 993- 03	土師器	杯	SE451	J48 No.14	13.0	0.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/6	口縁/4	
994 994- 04	土師器	杯	SE451	J48 No.5	08.0	0.4	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	1/4	直曲内縁に網目あり
995 995- 01	土師器	皿	SE451	J48 No.7	09.0	0.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	口縁/16	
996 996- 02	土師器	皿	SE451	J48	08.0	0.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	外: 口内:VSYR/2 内: 口内:VSYR/2	口縁/16 外部に網目
997 997- 01	土師器	盤	SE451	J48 No.16	15.8	1.6	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	4/5	選択表面に隕折一
998 998- 02	土師器	盤	SE451	J48	18.0	1.6	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/3	3/4	外縁に黒斑あり
999 999- 03	土師器	盤	SE451	J48	08.0	1.6	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	3/4	
1000 1000- 01	土師器	盤	SE451	J48	09.0	1.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/6	1/4	内縁に灰化物付
1001 1001- 01	土師器	杯	SE451	J48	21.0	1.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	1/6	内縁に黒斑あり
1002 1002- 02	土師器	杯	SE451	No.22	21.0	1.6	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/6	1/4	内縁に黒斑あり
1003 1003- 03	土師器	皿	SE54	-	02.8	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/10	
1004 1004- 04	土師器	皿	SE54	-	0.8	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/4	
1005 1005- 05	ロクロ	土師器	SE54	H21	-	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/6	1/4	選択表面
1006 1006- 06	ロクロ	土師器	SE54	H21	-	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	選択表面
1007 1007- 07	ロクロ	土師器	SE54	H21	-	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/1	口縁/4	内縁に黒斑あり
1008 1008- 08	ロクロ	土師器	SE54	H21	-	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/0	1/4	内縁に黒斑あり
1009 1009- 09	セラミック	皿	SE54	-	10.3	0.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/1	1/4	板石4~5
1010 1010- 01	木製品	漆器	SE54	No.6	55.5	29.5	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1011 1011- 02	木製品	漆器	SE54	No.11	48.1	20.1	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1012 1012- 03	木製品	漆器	SE54	No.7	55.0	29.5	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1013 1013- 02	木製品	漆器	SE54	No.12	61.4	23.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1014 1014- 03	木製品	漆器	SE54	No.14	61.5	15.2	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1015 1015- 04	木製品	漆器	SE54	No.2	55.0	29.5	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1016 1016- 01	木製品	漆器	SE54	No.15	113.0	45.2	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	選択表面
1017 1017- 02	木製品	漆器	SE54	No.3	10.0	25.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	選択表面
1018 1018- 01	木製品	漆器	SE54	No.16	10.0	27.3	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	選択表面
1019 1019- 02	木製品	漆器	SE54	No.4	10.0	16.5	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	選択表面
1020 1020- 03	木製品	漆器	SE54	No.8	10.0	1.8	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1021 1021- 04	木製品	漆器	SE54	No.10	11.3	2.3	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	1/4	
1022 1022- 01	木製品	漆器	SE54	No.11	42.8	25.3	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	2/2	
1023 1023- 02	木製品	漆器	SE54	K21	(1.0)	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/5	
1024 1024- 03	木製品	漆器	SE54	K21	(0.0)	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/5	
1025 1025- 04	木製品	漆器	SE54	K21	(0.0)	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/5	
1026 1026- 05	木製品	漆器	SE54	K21	15.0~	4.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/5	
1027 1027- 06	木製品	漆器	SE54	K21	15.0	4.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/5	
1028 1028- 07	木製品	漆器	SE54	K21	15.0	4.0	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/2	1/5	
1029 1029- 08	陶器	山薺瓶	SE54	K21	7.2	-	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	今今 良	板状VSYR/1	1/4	内部内面溝入り
1030 1030- 09	木製品	漆器	SE54	K21	113.0	50.5	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	2/2	底部丸孔 0.20x2.5
1031 1031- 10	木製品	漆器	SE54	K21	113.0	40.4	外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整 外: 口内:ナメ未調整 内: 口内:ナメ未調整	良	板状VSYR/2	2/2	

第40表 遺物観察表2

番号	測定番号	種類	形態分類	出土位置	法線 (cm)		調査注記の特徴	地 上 土 層	地 下 土 層	色 調	残 存 状 況	備 考	
					口径	底径							
1032	2123	木製品	舟戸舟	SE217	KG1 No.3	10.0 (16.0-14.1) × 3.1	内:木軸不修理、底付目釘、両側に切妻型部材あり 外:木軸修理、底付目釘、両側に切妻型部材あり			黒褐色	良好		
1033	2134	木製品	舟戸舟	SE217	KI1 No.5	9.0 (7.0-12.2) × 3.0	内:木軸不修理、底付目釘、両側に切妻型部材あり 外:木軸修理、底付目釘、両側に切妻型部材あり			黒褐色	良好		
1034	2240	木製品	舟戸舟	SE217	KI1 No.12	47.0 (32.2-32.7)	内:木軸不修理、底付目釘、底付目釘、底付目釘 外:内縫合方向のヒビ			黒褐色	良好		
1035	531-01	シリカ	藍	SD218	J19	(6.0)	内:コロナリーナー付切妻型 外:内縫合方向のヒビ	中 空 船	田園Y.5V9/6/2	無酸光沢			
1036	532-06	土葬器	小皿	SE219	J19	(8.0)	内:コロナリーナー付、オサズ 内:コロナリーナー	中 空 船	田園・漁場Y.5V9/7/2	Q3/3			
1037	532-09	土葬器	小皿	SE219	J19	(8.0)	内:内コロナリーナー	中 空 船	田園2.5V7/2	Q3/3			
1038	453-01	土葬器	小皿	SE219	J19	(8.0)	内:ナードー一部オサズ 内:ナードー	中 空 船	田園Y.5V7/2/2	Q3/3			
1039	518-01	土葬器	盤	SE219	J19	(19.0)	内:コロナリーナー付ササズ 内:コロナリーナー	中 空 船	田園2.5V7/2/2 内:波紋Y.5V3/3	Q3/3			
1040	516-06	陶器	山高瀬	SE218	J19	16.0 No.2	7.7 5.7	内:コロナリーナー高台付付目釘コナザ 内:コロナリーナー	中 空 船	田園・原野Y.5V7/1 内:波紋Y.5V3/3	Q3/3	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V3/3	
1041	516-09	陶器	山高瀬	SE218	J19	(16.0)	7.2 6.5	内:コロナリーナー高台付付目釘コナザ付付目釘 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V3/1	Q3/3	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V3/1	
1042	517-04	陶器	山高瀬	SE218	J19	(16.0) (8.0)	5.8 5.8	内:コロナリーナー高台付付目釘コナザ付付目釘 内:コロナリーナー	中 空 船	田園・原野Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	Q3/3	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	
1043	516-06	陶器	山高瀬	SE218	J19	(16.0)	8.8 5.3	内:コロナリーナー高台付付目釘コナザ付付目釘 内:コロナリーナー	中 空 船	田園・原野Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	Q3/3	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	
1044	516-05	陶器	山高瀬	SE218	J19	(16.0) No.11	6.2 6.2	内:コロナリーナー高台付付目釘コナザ付付目釘 内:コロナリーナー	中 空 船	田園・原野Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	Q3/3	自然施設	
1045	517-01	陶器	山高瀬	SE218	J19	(16.0) (8.0)	5.8 5.8	内:コロナリーナー高台付付目釘コナザ付付目釘 内:コロナリーナー	中 空 船	田園・原野Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	Q3/3	波紋Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	
1046	223-01	木製品	舟子舟	SE218	J19	(7.0)	7.0 7.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭不明		
1047	2058-01	木製品	舟底	SE218	J19	(2.0)	2.0 1.5	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭不明		
1048	2243	木製品	舟戸舟	SE218	J19	(48.0) No.12	5.0 5.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1		
1049	531-01	木製品	舟戸舟	SE218	J19	(31.0) No.1	7.0 7.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1		
1050	2234	木製品	舟底	SE218	J19	(48.0) No.33	10.0 6.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭不明		
1051	2233	木製品	舟底	SE218	J19	(40.0) No.30	12.0 6.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭不明		
1052	223-01	木製品	舟戸舟	SE218	J19	(2.0) No.24	4.2 4.2	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭不明		
1053	2089	木製品	舟戸舟	SE218	J19	(53.0) No.22	7.2 3.1	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1		
1054	2088	木製品	舟戸舟	SE218	J19	(30.0) No.34	27.0 1.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭	
1055	501-01	木製品	舟戸舟	SE218	J19	(47.0) No.25	2.0 2.3	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1 内:波紋Y.5V7/1		
1056	223-02	木製品	舟底	SE218	J19	(9.0)	9.0	内:木軸不修理、底付目釘 内:木軸不修理	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1		
1057	221-05	土葬器	皿	SE223	F77-78	No.36	1.7	内:内コロナリーナー付オサズ	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1		
1058	221-05	土葬器	皿	SE223	F77-78	No.36	9.0	内:内コロナリーナー付オサズ	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1		
1059	221-04	シリカ	皿	SE223	F77-78	(6.0)	内:コロナリーナー付オサズ 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1060	221-05	シリカ	皿	SE223	F77-78	No.7	4.2	内:コロナリーナー付オサズ 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1		
1061	221-01	土葬器	皿	SE223	F77	(22.0)	内:内コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1062	225-01	土葬器	皿	SE223	F78	(17.0)	内:内コロナリーナー付オサズ 内:内コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1063	225-01	土葬器	皿	SE223	F78	(20.0)	内:内コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1064	226-06	土葬器	皿	SE223	F78	6.6	内:内コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1065	223-05	土葬器	皿	SE223	F77	(20.0)	内:内コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1066	223-04	陶器	山高瀬	SE223	F77-78	No.1	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1067	224-03	陶器	山高瀬	SE223	F77-78	(7.0)	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1068	223-03	陶器	山高瀬	SE223	F77-78	No.1	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1069	224-06	陶器	山高瀬	SE223	F78	(8.0)	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1070	222-04	陶器	山高瀬	SE223	F77-78	(5.4)	内:内コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1071	224-01	陶器	山高瀬	SE223	F78	6.8	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1072	222-05	陶器	山高瀬	SE223	F77	(7.0)	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1073	221-01	陶器	山高瀬	SE223	F77-78	No.18	11.2 4.0 3.4	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1		
1074	220-02	陶器	山高瀬	SE223	F77	(11.0) 5.0 3.3	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			
1075	220-03	陶器	山高瀬	SE223	F77-78	(10.0) 6.1 2.8	内:コロナリーナー高台付付目釘ノギ付 内:コロナリーナー	中 空 船	田園Y.5V7/1	輪郭Y.5V7/1			

第41表 遺物観察表26

番号	測定 番号	種類	基準分類	出土位置	法線 (cm)	調査生垣の特徴	計 数 主 要 性 状	地 色 調 理	方 向	備 考
1076	222- 05	土製品	土器	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/2	青葉3.5kg
1077	226- 61	土製品	井戸枠	SE323	P77-79	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1078	223- 02	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1079	219- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1080	219- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1081	222- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1082	222- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1083	219- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1084	219- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1085	222- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1086	219- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1087	219- 01	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1088	222- 02	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1089	222- 02	土製品	井戸枠	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1090	224- 01	土製品	骨物	SE323	P77-78	鹿入路、鹿入門、穴径 3.5cm、高さ2.0cm	赤・ナガ	是(田白1096)	北/4	青葉
1091	226- 05	土器	鉢	SE337	H80	(10.0)	3.0 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉2.5kg/3
1092	226- 06	土器	皿	SE337	H80	(10.5)	内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉
1093	226- 04	土器	皿	SE337	H80	10.3	2.0 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉2.5kg/2
1094	226- 03	土器	皿	SE337	H80	(10.9)	(2.0) 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉2.5kg/2
1095	227- 04	土器	付付釜	SE337	H80	9.7	6.1 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉2.5kg/3
1096	222- 02	陶器	山高瓶	SE337	H80	(10.3)	7.8 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉
1097	226- 01	陶器	山高瓶	SE337	H80	(14.6)	7.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉2.5kg/1
1098	222- 02	土製品	井戸枠	SE337	H80	7.2	6.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉
1099	219- 01	土製品	井戸枠	SE337	H80	7.3	6.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	青葉
1100	222- 01	土製品	曲物	SE337	H80	46.2 No.14	18.1 1.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根のみ
1101	222- 01	土製品	曲物	SE337	H80	No.13	71.1 54.2 0.9 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根のみ
1102	209- 01	土製品	彫彫	SE337	H80	No.10	14 1.5 0.9 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根不明
1103	216- 01	土製品	杯	SE343	H80	31.7 No.8	5.5 1.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根不明
1104	216- 04	土製品	皿	SE343	H80	10.1- No.33	3.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根のみ
1105	215- 02	土器	皿	SE345	H83	10.0- No.10	3.4 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根のみ
1106	215- 04	土器	皿	SE345	H83	10.0- No.27	4.4 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根不明
1107	216- 03	土器	碗	SE345	H83	(14.0)	内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根不明
1108	216- 06	土器	皿	SE345	H83	No.25	6.4 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根不明
1109	215- 01	土器	盤	SE345	H83	No.3-3 13-16-17	27.8 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	外縁に縦割合
1110	216- 07	陶器	山高瓶	SE345	H83	No.3	(7.3) 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根のみ
1111	216- 04	陶器	山高瓶	SE345	H83	No.34	6.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	内面に自然模
1112	216- 01	土製品	井戸枠	SE345	H83	No.26	34.8 17.2 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根不明
1113	220- 02	土製品	井戸枠	SE345	H83	No.37	17.2 12.1 3.1 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根
1114	220- 01	土製品	井戸枠	SE345	H83	No.39	24.0 17.2 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根
1115	221- 02	土製品	曲物	SE345	H83	No.45	25.0 18.0 0.5 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根のみ
1116	223- 01	土製品	曲物	SE345	H83	No.44	22.9 26.2 2.2 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根
1117	218- 04	土器	皿	SE357	H90	9.5	3.2 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根
1118	213- 03	土器	皿	SE357	H90	9.2	2.1 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根
1119	213- 01	クロロ 土器	皿	SE357	H90	9.6	4.3 内:ヨコナタマサリ 外:ヨコナタマサリ	是(田白1096)	北/1	板根

第42表 遺物観察表②

番号	表面 基面 名前	種類	断層分類	出土位置	深度 (cm)	断面 口径 底径 壁高	断面法の特徴		地 質	色 調	種序	備考	
							内径	外径					
1126	213- 07	土器部 器	SE357	N96 No.2	10.2	4.9	2.0	内:コロナリーポリカーボ	砂 岩	灰D2-EYR2	丸形		
1121	213- 05	土器部 器	SE357	N96 No.7	9.1	3.9	2.2	外:コロナリーポリカーボー 内:切妻	砂 岩	灰黄褐E1094/2他	丸形		
1122	213- 06	土器部 器	SE357	N96	9.2	4.8	2.8	内:コロナリーポリカーボ	砂 岩	灰黄褐V8/3他	丸形		
1123	214- 04	土器部 器	SE357	A98	(14.8)			外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-6-VYR7/3 内:褐E23/V5/1	山形		
1124	214- 03	陶器	SE357	N89	3.6			内:コロナリーポリカーボー 外:内:コロナリ	砂 岩	EYV5/1	圓錐形		
1125	214- 02	陶器	SE357	N89	7.0			外:コロナリーポリカーボー 内:コロナリ	砂 岩	EYV5/1	圓錐形		
1126	2094- 03	木製品 櫛	SE357	N95 No.3	7.4	5.0	1.0				1/2	複雑不明	
1127	214- 04	木製品 櫛	SE357	N95 No.7	4.7	2.4	1.0	内:切妻 外:加工不規則、経年削	木	灰	小片	計測用	
1128	2206- 01	木製品 櫛	SE357	N96 No.6	9.7	9.3	2.4	内:切妻 外:加工不規則、経年削	木	灰	小片	計測用	
1129	2230- 02	木製品 舟形	SE357	No.19	最大径 底大径 幅	33.0	3.4	木工痕不明確、内縫隙平行のツバキ				無形状	計測用
1130	211- 03	土器部 器	SE358	D41-42	(11.0)			外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/6	口錐形		
1131	212- 01	土器部 器	SE358	D41-42	(38.0)			外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/3	口錐形		
1132	212- 02	土器部 器	SE358	D41-42	(29.0)			内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/4	口錐形		
1133	212- 03	土器部 器	SE358	D41-42	(17.0)			外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/4	口錐形		
1134	212- 04	陶器	SE358	D41-42	(14.0)			内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/1	圓錐形		
1135	212- 05	土器部 器	SE358	D41-42				外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/4	圓錐形		
1136	211- 06	土器部 器	SE358	D41-42	最大径 底大径 幅	2.3	0.8	穴開	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/1	口錐形	量測2.3%	
1137	211- 07	土器部 器	SE358	D41-42	6.5	4.3	4.6	内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/1	口錐形	量測2.3%	
1138	2096- 02	木製品 櫛	SE358	D43 No.13	43.2	16.2	2.0	内:切妻 外:直角不規則、板目凹	木	灰	1/3	計測用	
1140	236- 03	動物生息 巣	SD21	L16	5.1			内:ケルボ/内:コロナリ 外:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/3	圓錐形	直面に木製巣	
1141	320- 02	洞窟部 井戸	SD21	J12	(13.7) (11.7) (3.0)			外:内:コロナリ	砂 岩	灰白W6/3他	圓錐形		
1142	351- 03	土器部 器	SD21	J12	(21.3) (23.2)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ/コビオサニ 外:内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/6他	口錐形		
1143	352- 04	土器部 器	SD21	L17	(18.0)			外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/6	口錐形	内面に焼文	
1144	354- 02	土器部 器	SD28	J19	(15.0)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4	口錐形		
1145	344- 04	土器部 器	SD39	N14	(0.4)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/2	CMH1/6		
1146	345- 02	土器部 器	SD37	J17	(21.0)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ 外:内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/3他	口錐形		
1147	327- 03	土器部 器	SD4	J18	(24.4)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ 外:内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4	CMH1/5		
1148	325- 04	土器部 器	SD4	J18	(15.7)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4他	中部		
1149	327- 01	土器部 器	SD4	J23	(19.2)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/8/4	口錐形		
1150	413- 01	土器部 器	SD4	J19				内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/9/1他 内:灰E12-4-5-VYR5/7/4	小片	腹中央のひしの一部	
1151	330- 03	洞窟部 井戸	SD4	J20	(12.7) (12.0) (3.0)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4他	口錐形		
1152	329- 04	洞窟部 井戸	SD4	H24	(23.1) (14.3) (4.3)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ 外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4他	口錐形		
1153	329- 05	洞窟部 井戸	SD4	J19	(19.9)			内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/1他	1/2	骨壺	
1154	331- 02	洞窟部 井戸	SD4	J20	8.7			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4他	口錐形		
1155	409- 02	土器部 器	SD4	J22	(18.0)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/6	口錐形		
1156	412- 02	土器部 器	SD4	J19	(20.0)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/6	口錐形		
1157	327- 03	土器部 器	SD4	J17	17.3	10.0	2.3	内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/6	口錐形		
1158	411- 01	土器部 器	SD4	J21	(21.4)			内:コロナリ/ハサクル/オサズ 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/3	口錐形		
1159	411- 01	土器部 器	SD4	H23	(35.4) (31)			内:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/6	口錐形	外に累積あり	
1160	412- 01	土器部 器	SD4	J19	(16.0)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/6	口錐形		
1161	411- 01	土器部 器	SD4	H19	(16.1) (11.1) (2.1)			内:コロナリ/コビオサニ 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4	CMH1/6		
1162	339- 02	洞窟部 井戸	SD4	H24	(15.0)			内:コロナリ/ハサクル/内:コロナリ 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/3他	1/3		
1163	339- 03	洞窟部 井戸	SD4	H19	(16.2)			内:コロナリ/ハサクル 外:内:コロナリ/ハサクル	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/4	口錐形		
1164	407- 02	土器部 器	SD4	H19	(16.0) (9.0) (2.1)			内:コロナリ/ハサクル/コビオサニ 外:内:コロナリ	砂 岩	灰E12-4-5-VYR5/7/6	CMH1/9		

第43表 遺物観察表28

番号	測定 場所 部位	種類	断面分類	出土位置	法量 (cm)	測定技術の特徴	地盤		施工	現状	備考
							地 盤 成 分	色 調			
1165	326- 02	土質部 基	SD4	J17	17.9	3.8. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R6/4地	1/2		
1166	411- 02	土質部 基	SD4	J23	(21.7) 05.03	2.0. 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6	CBR7/6		
1167	358- 01	土質部 基	SD4	J19	(0.7)	3.7. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/3	泥炭地帯に露出する	V-21
1168	358- 04	土質部 基	SD4	J18	(3.4)	3.10. 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地	CBR7/5		
1169	326- 01	土質部 基	SD4	J15	(0.4)	4.2. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地	CBR7/2	後無隙層10.0m/3	LBR7/2
1170	358- 04	土質部 基	SD4		(5.0)	3.11. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地	CBR7/5	泥炭地帯に露出する	V-21
1171	408- 04	土質部 基	SD4	J20	07.0	3.8. 地コナード+ナード+ナード 内: 地コナード+エクスナード	砂 良	褐色S9R7/6	CBR7/6		
1172	408- 01	土質部 基	SD4	J21	04.0 (0.3)	3.5. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6	CBR7/6		
1173	411- 05	土質部 基	SD4	J19	04.0 (0.4)	3.1. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/5	不規則地盤10.0m/2	LBR7/2
1174	412- 04	土質部 基	SD4	J19	(0.2) (0.4)	2.9. 地コナード+コビオニアエナード 内: 地コナード	砂 良	褐色S9R7/4地	CBR7/5	泥炭地帯に露出する	V-21
1175	411- 03	土質部 基	SD4	J19	(3.0) (0.3) (0.1)	3.12. 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地	CBR7/5		
1176	408- 03	土質部 基	SD4	J20	(0.4)	3.1. 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6	CBR7/6		
1177	326- 01	土質部 基	SD4		13.3	3.1. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	A/5		
1178	357- 02	土質部 基	SD4	J18	(0.4)	3.7. 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地	CBR7/12	泥炭地帯に露出する	V-21
1179	408- 01	土質部 基	SD4	J16	(3.2)	2.7. 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/6	CBR7/4		
1180	326- 07	土質部 基	SD4		(0.4)	3.11. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/4		
1181	325- 04	土質部 基	SD4	J15	(2.0)	3.8. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6	CBR7/5		
1182	325- 02	土質部 基	SD4	J17	12.7	3.0. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6	CBR7/5		
1183	307- 01	土質部 基	SD4	J19	(1.0)	3.6. 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地	CBR7/4		
1184	411- 04	土質部 基	SD4	J24	(0.1)	3.8. 地コナード+ナード 内: 地コナード	砂 良	褐色S9R7/4地	CBR7/4		
1185	411- 01	土質部 基	SD4	J16	(0.1)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/3	CBR7/4	様子	
1186	325- 03	土質部 基	SD4	J14	(0.7)	2.3. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/2地	CBR7/3		
1187	358- 01A	土質部 基	SD4	J19	(0.7)	3.1. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/5	泥炭地帯に露出する	V-21
1188	326- 02	土質部 基	SD4	J17	(0.1)	3.11. 地コナード+コビオニアエナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地	CBR7/3		
1189	410- 02	土質部 基	SD4	J17-18	(0.4) (0)	3.8. 地コナード+エクスナード 内: 地コナード+ナード+ナード 内: 地コナード+ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/3地 内: 地コナード+ナード+ナード	CBR7/3		
1190	327- 04	土質部 基	SD4	J18	(0.2)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/2地 内: 地コナード+ナード	CBR7/2		
1191	410- 03	土質部 基	SD4	J17-18	(0.7)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/2地 内: 地コナード+ナード	CBR7/4		
1192	407- 03	土質部 基	SD4	J20	(0.0)	3.0. 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/3		
1193	412- 01	土質部 基	SD4	J18	(0.4)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/2地 内: 地コナード+ナード	CBR7/12		
1194	408- 01	土質部 基	SD4	J21	(0.7)	3.6. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/3地 内: 地コナード+ナード	CBR7/3		
1195	413- 02	土質部 基	SD4	J19	(0.9)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/4		
1196	325- 01	土質部 基	SD4	J17-18	(0.1) (0.1)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/8		
1197	407- 03	土質部 基	SD4	J19	(0.7)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/6地 内: 地コナード+ナード	CBR7/5		
1198	327- 05	土質部 基	SD4	J18	(0.1)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/12		
1199	326- 02	土質部 基	SD4	J18	(0.2)	3.0. 地コナード+ナード 内: 地コナード+ナード	今今 差	褐色S9R7/4地 内: 地コナード+ナード	CBR7/2		
1200	409- 01	土質部 敷土部	SD4	J18	(0.8)	3.0. 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		
1201	408- 07	土製品 敷土部	SD4	J18	(0.1)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/4		
1202	408- 05	土製品 敷土部	SD4	J18	(0.0) (0.7) (0.1)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/6		
1203	410- 01	土製品 敷土部	SD4	J18	(0.6)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		
1204	407- 04	土製品 敷土部	SD4	J19	(0.0)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		
1205	325- 02	土製品 敷土部	SD4	J17	(0.0)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		
1206	358- 03	土製品 敷土部	SD4	J17	(0.0)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地 内: 地ナード+ナード	小介		
1207	408- 05	土製品 敷土部	SD4	J18	(0.0)	3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		
1208	411- 05	土製品 敷土部	SD4	J17		3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/4地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		
1209	407- 04	土製品 敷土部	SD4	J19		3.0. 地ナード+ナード 内: 地ナード+ナード	砂 良	褐色S9R7/6地 内: 地ナード+ナード	CBR7/8		

第44表 遺物観察表29

番号	学名	種類	群別分類	樹木位置	法線 (cm)		調査技術の特徴	樹 種	株 高	色 調	理由	備考	
					口徑	直径 差							
1210	407-05	土壌被	側生土被	S04	H19		外+内チテ	樹	良	灰+白	樹H7/4	小片	
1211	409-02	土壌被	側生土被	S04	J18		外+内チテ+オサエ	桜	良	樹SY7/5	口鐘子片		
1213	407-05	土壌被	側生土被	S04	I19		外+内チテ	樹	良	灰+白	樹H7/4	麗都小片	
1213	407-05	土壌被	側生土被	S04	H19		外+内チテセサシチテ	樹	良	灰+白	樹H7/4	麗都小片	
1214	330-01	根被	側生根被	S04	K21	(21.1)	外+ロコリナ+チカメ	樹	良	良	樹SY7/1	口鐘子片	
1215	229-02	根被	側生根被	S04	K22	(28.6)	外+ロコリナ+チカメ	樹	良	灰	樹H7/0	口鐘子片	
1216	330-01	根被	側生根被	S04	H18	(33.0)	外+ロコリナ+チカメ	樹	良	良	樹H7/0	口鐘子片	
1217	406-02	陶器	側	S04	J21	(33.8)	外+タコシ+ロコリナ+チカメ+ヒビセサシ	樹	良	良	樹2.8/1	麗都小片	
1218	201-01	瓦	瓦片	S04	J13		内+ロコリナ	樹	良	灰+白	樹H7/3	山丘?	
1219	331-01	陶器	山廻被	S04	J18	(34.6)	内+ロコリナ	樹	良	良	樹SY7/1	口鐘子片	
1220	330-04	陶器	山廻被	S04	I19	8.0	内+ロコリナ	樹	良	良	樹SY7/1	麗都小片	
1221	330-01	土壌被	土被	S04	J22	6.5	外+大木+内木	松	良	灰+白	樹H7/2	樹冠形	
1222	412-06	土壌被	土被	S04	H24	6.2	外+大木+内木	松	良	灰+白	樹H7/3	先端 葉量2.4kg	
1223	157-02	陶器	山廻被	SXK48	E77	9.2	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	良	良	樹SY7/1	山丘4所	
1224	157-01	陶器	山廻被	SXK48	E77	13.3	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	良	良	樹SY7/1	ロコリナの形	
1225	990-08	陶器	山廻被	SXK49	H16-17	16.8	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	良	良	樹H7/0	先端	
1226	944-02	土壌被	小丘被	SB4931	H16-P16	8.6	内+ロコリナ+チカメ+内木+チカメ	松	良	灰	樹SY7/3	樹冠形	
1227	944-04	土壌被	小丘被	SB4931	J17-P17	9.4	内+ロコリナ+チカメ	松	今	良	樹SY7/3	樹冠形	
1228	945-03	陶器	山丘	S4931	H16-P16	9.2	2.6	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	良	良	樹H7/0	内面に黒地模
1229	945-01	陶器	山廻被	S4931	H16-P16	(4.3)	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	今	良	樹SY7/1	樹H7/0	
1230	945-02	陶器	山廻被	S4931	H16-P16	9.3	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	今	良	樹H7/0	高台1/2	
1231	388-04	土壌被	小丘被	SK16		0.7	外+ロコリナ+チカメ	松	今	良	樹H7/0	山丘に特徴	
1232	388-05	土壌被	小丘被	SK16		0.0	内+ロコリナ+チカメ	松	今	良	樹H7/0	山丘2/5	
1233	323-01	土壌被	側	SK16	-	4.4	外+ロコリナ+内木	松	今	良	樹H7/3	山丘2/3	
1234	323-02	土壌被	側	SK16	GS	0.5	外+ロコリナ+内木	松	今	良	樹H7/2	山丘元年	
1235	303-01	土壌被	側	SK16	-	0.0	外+ロコリナ+内木	松	今	良	樹H7/2	1/6	
1236	388-02	陶器	山廻被	SK16		8.2	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	樹	良	灰	樹H7/0	高台1/2	
1237	388-05	土壌被	山廻被	SK16	G8	0.5	内+ロコリナ+チカメ	松	今	良	樹H7/1	山丘に自然	
1238	789-01	海藻	山廻被	SK16		(17.2)	外+ロコリナ+チカメ+高木+内木+チカメ	樹	良	灰H7/0	1/3	内面に自然模	
1239	323-04	海藻	山廻被	SK16	GB	7.9	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	松	今	良	樹H7/0	高木2/5	
1240	323-02	海藻	山廻被	SK16	GB	7.9	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	松	今	良	樹H7/0	高木2/5	
1241	361-01	微生物	糞	CK22	I12-13	(1.0)	調査用	松	今	良	樹SY7/4	樹冠形	
1242	352-01	土壌被	土被	SK22	I12-13	6.4	外+ロコリナ+チカメ	松	今	良	樹H7/4	樹冠形	
1243	304-04	土壌被	大型 高木被	SK22	-	(0.9)	内+チテ	松	良	灰	樹H7/4	樹冠形	
1244	351-01	土壌被	側	SK22	J12	(0.9)	内+ロコリナ+チテ	松	今	良	樹H7/2	背面に付木	
1245	361-01	微生物	糞	SK22	J12	(7.6)	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	松	良	良	樹H7/0	樹冠形	
1246	350-01	海藻	山廻被	SK22	J12	7.6	外+ロコリナ+高木+低木+内木+チカメ	松	良	良	樹H7/0	樹冠形	
1247	341-01	微生物	糞	SK43	G16	0.2	外+チテ	松	今	良	樹H7/0	樹冠形	
1248	338-01	微生物	糞	SK43	C1	0.7	内+チテ+新芽+棘毛	松	今	良	樹H7/2	外に裏出	
1249	338-01	微生物	糞	SK43	G17	(0.7)	内+チテ+新芽+棘毛	松	今	良	樹H7/4	裏出4/6	
1250	338-02	微生物	糞	SK43	G18	(0.9)	内+チテ+新芽+棘毛	松	今	良	樹H7/0	裏出4/6	
1251	338-01	微生物	糞	SK43	G18	(0.5)	内+チテ+新芽+棘毛	松	良	良	樹H7/0	裏出4/6	
1252	338-01	微生物	糞	SK43	G18	(0.5)	内+チテ+新芽+棘毛	松	良	良	樹H7/0	裏出4/6	
1253	338-01	クロク	糞	SK43	G18	0.7	内+チテ+新芽+棘毛	松	今	良	樹SY7/0	裏出完形	
1254	338-02	微生物	糞	SK43	G18	0.7	内+チテ+新芽+棘毛	松	今	良	樹H7/0	裏出1/8	
1255	338-02	微生物	糞	SK43	G17	(0.9)	内+チテ+新芽+棘毛	松	今	良	樹H7/2	小片	

第45表 遺物觀察表(3)

番号	実測 寸法	種類	部品分類	出土位置	測定 寸法	測定 部位	測定用途の特徴		地 上 風	色 錆	残存	備考
							寸法 (cm)	寸法 (cm)				
1255	386- 04	土師器	壺	SK43	H18	G16.7	内: ポリマー・ハケ・内底/1.2cm 内: ポリマー・ハケ・内底/1.3cm 外: ポリマー・ハケ・外底/1.2cm	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/4	
1256	386- 05	土師器	壺	SK43	G18	G23.7	内: ポリマー・ハケ・内底/1.1cm 外: ポリマー・ハケ・外底/1.1cm 内: ポリマー・工具/1	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/5	
1257	386- 03	土師器	壺	SK43	G18	G12.0	内: ポリマー・ハケ・内底/1.0cm 外: ポリマー・工具/1	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/6	
1258	379- 06	陶器	山萬瓶	SK43	G18	G13.40	内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/12	
1259	379- 05	陶器	山萬瓶	SK43	G17	G18.0	内: ポリマー・粘付・萬古・一些の痕 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1 内に白粉跡	
1260	386- 08	陶器	山萬瓶	SK43	G18	G18.0	内: ポリマー・粘付・萬古・一些の痕 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/4	
1261	379- 07	土製品	敷装土器	SK43	G18	G18.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/4	
1262	341- 05	土製品	土罐	SK43	G18	G16.0	内: ポリマー・内底/1.6cm 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/5	
1263	644- 06	土師器	壺	SK229	K19	G14.0	内: ポリマー・ハケ・オサエ 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/6	
1264	642- 07	土師器	壺	SK229	K20	G15.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/5	
1265	642- 04	ロクロ	壺	SK229	K19	5.4	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2	
1266	644- 03	土師器	壺	SK229	K19	10.4	2.1 内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1	
1267	644- 04	ロクロ	壺	SK229	K20	9.6	1.8 内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/4	
1268	642- 02	土師器	壺	SK229	K19	G24.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー・工具/1	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/12 外面に様付帯	
1269	645- 04	土師器	壺	SK229	K20	G16.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1	
1270	644- 07	土師器	小壺	SK229	L19	G18.0	1.1 内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2	
1271	642- 02	陶器	山萬	SK229	K20	G11.0 (0.4) (3.1)	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/3 内面に漆	
1272	644- 02	陶器	山萬	SK229	L19	9.3	4.5 内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/3 内面に工具	
1273	645- 01	陶器	山萬瓶	SK229	K19	G15.7 (0.5) (0.9)	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1	
1274	643- 01	陶器	山萬瓶	SK229	K20	G16.0 (7.6 7.6 13.0)	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1 足元外側に墨跡 口縁/7/2 漆剥離 足元に墨跡	
1275	644- 02	陶器	山萬瓶	SK229	L19	G17.5	内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2	
1276	643- 02	陶器	山萬瓶	SK229	L19	G17.8 (0.8 0.8 0.8)	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 瓢箪内側に墨跡 瓢箪外側に墨跡	
1277	642- 03	陶器	山萬瓶	SK229	L19	8.1	内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/3 瓢箪内側に墨跡 瓢箪外側に墨跡	
1278	642- 01	陶器	山萬瓶	SK229	K19	G18.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 瓢箪内側に墨跡 瓢箪外側に墨跡	
1279	644- 02	陶器	山萬瓶	SK229	K19	7.6	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 瓢箪内側に墨跡 瓢箪外側に墨跡	
1280	642- 06	陶器	山萬瓶	SK229	L19	7.3	内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/3 瓢箪内側に墨跡 瓢箪外側に墨跡	
1281	642- 03	陶器	山萬瓶	SK229	K19	6.6	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 瓢箪内側に墨跡 瓢箪外側に墨跡	
1282	643- 03	陶器	山萬瓶	SK229	L19	6.5	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 内面に墨跡	
1283	641- 01	陶器	壺	SK229	K19	G14.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 壁面に墨跡	
1284	641- 05	土製品	土罐	SK229	L19	S.4.2 5.4	内: ポリマー・ハケ 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1 黒斑/1.1g	
1285	640- 04	土製品	土罐	SK229	L20	S.4.2 7.1	内: ポリマー・ハケ 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/1 黒斑/0.1g	
1286	187- 05	土製品	壺	SK267	B44	G12.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 黒斑/0.1g	
1287	189- 02	土製品	壺	SK267	F44	G11.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/2 黒斑/0.1g	
1288	189- 09	土製品	壺	SK267	F44	G12.0 (9.9)	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	灰 灰	口縁/7/3 内面に黒斑/0.7g 小片	
1289	191- 04	土製品	壺	SK267	F44	G14.0	内: ポリマー・ハケ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/4	
1290	192- 05	土製品	壺	SK267	F44-45	G15.20	内: ポリマー	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/5 黒斑/0.9g/4個	
1291	192- 07	土製品	壺	SK267	F44	G9.5	内: ポリマー・ハケ 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/6	
1292	193- 01	土製品	壺	SK267	F44	G9.8	内: ポリマー・ハケ 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/4 黒斑/0.05g	
1293	193- 02	土製品	壺	SK267	F44	G10.0	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/7 黒斑/0.1g	
1294	193- 06	土製品	壺	SK267	F44	G9.5	内: ポリマー・ハケ 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/6 黑斑/0.1g	
1295	193- 04	土製品	壺	SK267	B-F44	G8.33	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/4 黑斑/0.05g/2個	
1296	193- 06	土製品	壺	SK267	B-F44	G8.10	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/2 黑斑/0.05g/4個	
1297	193- 06	土製品	壺	SK267	F44	4.5	内: ポリマー・ハケ 内: ポリマー	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/2 外側に黒斑/0.6g	
1298	193- 02	土製品	壺	SK267	F44	G9.5	内: ポリマー・ハケ・内底 内: ポリマー・テグ	直 良	灰 灰	直 良	口縁/7/3 黑斑/0.05g/3個	

第46表 遺物観察表①

番号	実物名	種類	部類分類	出土位置	法量 (cm)		器物特徴	地質上 成層	色調	残存	備考	
					13件	既存						
1299 04	土師器	皿	SK367	E-F44	(8.5)		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	赤 透黄褐色	0.5cm/1		
1300 05	土師器	皿	SK367	B-F44	(10.0)		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/3	0.5cm/3		
1301 06	土師器	皿	SK367	F44	10.5	6.5	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透黄褐色	1.2cm/3		
1302 07	土師器	皿	SK367	F44	(11.0)	5.5~ 6.0	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透黄褐色	1.2cm/3	内側・氧化物付着	
1303 08	土師器	皿	SK367	F44		6.5	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.5cm/1	0.5cm/0.5		
1304 09	土師器	皿	SK367	E44	8.5~ 9.0		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/1	0.5cm/0		
1305 10	土師器	皿	SK367	D44	(6.4)		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透黄褐色	0.5cm/2		
1306 11	土師器	皿	SK367	F44	10.0	5.4	1.4	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.5cm/4	1.2cm/2	透視観察
1307 12	土師器	皿	SK367	E-F44	(10.0)	(2.1)	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透黄褐色	0.5cm/3	0.5cm/1	
1308 13	土師器	皿	SK367	F44	10.0	6.0	2.0	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.5cm/5	0.5cm/0	
1309 14	土師器	皿	SK367	E-F44	(9.0)	(4.0)	外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透黄褐色	0.5cm/1		
1310 15	土師器	皿	SK367	F44	4.3		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	透視観察		
1311 16	土師器	皿	SK367	F44	4.0		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.5cm/2	透視観察		
1312 17	土師器	付合皿	SK367	F44	(7.5)		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2強	透視観察/内部に墨跡	(二)	
1313 18	土師器	皿	SK367	E-F44	(10.0)		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/0.5		
1314 19	土師器	皿	SK367	E-F44	(10.0)		外: ロココ調・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/0		
1315 20	土師器	皿	SK367	F44			外: ロココ調	小今 透	透 透白10.0cm/2	小片		
1316 21	陶器	山皿	SK367	E-F44	(10.0)	(5.7)	外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1		
1317 22	陶器	山皿	SK367	F44	(10.0)	6.0	0.2 外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/0	0.5cm/0		
1318 23	陶器	山萬柄	SK367	F44	(20.0)		外: 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1		
1319 24	陶器	山萬柄	SK367	F44	(14.0)	(6.3)	外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1		
1320 25	陶器	山萬柄	SK367	B-F44	10.5	7.0	3.4 外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1	透視観察	
1321 26	陶器	山萬柄	SK367	F44	(9.0)		外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1	透視観察	
1322 27	陶器	山萬柄	SK367	F44	(7.5)		外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1	内部に骨粉附	
1323 28	陶器	山萬柄	SK367	F44	(8.7)		外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1	透視観察	
1324 29	陶器	山萬柄	SK367	F44	(8.7)		外: ロココ調・萬古焼付合皿ナガーニ切口直 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1	透視観察/墨跡(二)	
1325 30	陶器	山萬柄	SK367	F44			外: 内: ロココ調	小今 透	透 透白8.5cm/1	0.5cm/1	透視観察	
1326 31	土製品	瓶	SK367	F44	高大長 N.H. 7.0		先端丸・腹皮模・本村氏の土生使用	高 透	透 透白7.0cm/1	0.5cm/0	繩文	
1327 32	ロコリ	土師器	SK223	J40	8.0		外: ロコリ調・角形直腹 内: ロコリ調	小今 透	透 透白10.0cm/3	透視観察		
1328 33	土師器	皿	SK223	N.H. 13			外: ロコリ調・角形直腹 内: ロコリ調	小今 透	透 透白10.0cm/3	透視観察		
1329 34	土師器	皿	SK223	J40	(10.0)		外: ロコリ調・オラニエ 内: ロコリ調	小今 透	透 透白10.0cm/3	0.5cm/1		
1330 35	土師器	皿	SK223	N.H. 13	12.1	2.8	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白12.3cm/2	0.5cm/4		
1331 36	土師器	皿	SK223	N.H. 5	12.0	2.3	外: ナチュラル 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/0		
1332 37	土師器	皿	SK223	J40	11.5	2.5	外: ナチュラル・オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/3	0.5cm/0	透視観察	
1333 38	土師器	皿	SK223	J40	10.5~ 11.0	2.6	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/1	0.5cm/1	透視観察	
1334 39	土師器	皿	SK223	N.H. 8	(12.0)	2.6	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/1強	0.5cm/2		
1335 40	土師器	皿	SK223	J40	7.6	1.4	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/0	透視観察	
1336 41	土師器	皿	SK223	J40	7.6	0.95	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/4		
1337 42	土師器	皿	SK223	N.H. 3	7.9	1.2	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/1	0.5cm 第一次		
1338 43	土師器	皿	SK223	J40	12.0	8.1	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/1	0.5cm/4		
1339 44	土師器	皿	SK223	N.H. 17	7.7	1.2	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/2	透視観察	
1340 45	土師器	皿	SK223	N.H. 15	1.6	1.4	外: ナチュラル 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm/0		
1341 46	土師器	皿	SK223	J40	12.0	1.0	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/1	0.5cm/0	透視観察	
1342 47	土師器	皿	SK223	N.H. 18	7.2	1.1	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm 第一次		
1343 48	土師器	小皿	SK223	J40	7.8	1.1	外: オラニエ 内: ナチュラル	小今 透	透 透白10.0cm/2	0.5cm 第一次		

第47表 遺物観察表③

番号	器物 番号	種類	層位分類	出土位置	延長 (cm)	口径 横径 高さ	遺物検出の特徴		持 土 者	色 調	性 別	備 考
							内 径	底面				
1343	628- 02	海殻	小海殻	SK223 No.26	24.0	6.8	外-ヨコリザ-テ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	今今 良	庄典L.SY7/2	黒褐色		
1344	989- 02	土師器	杯	SK407 F18	0.5.40	(1.0)	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	今今 良	庄典SYN/2	口輪1/4		
1345	988- 01	土師器	盃	SK407 No.1	11.5	2.0	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典L.SY6/3	口輪1/2		
1346	988- 02	土師器	盃	SK407 F17-19	0.2.40	(1.0)	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典L.SY6/2	口輪1/4		
1347	988- 03	土師器	盃	SK407 No.5	11.7-18	16.5	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典SYN/1	口輪1/4		
1348	991- 01	土師器	盃	SK418 E13	15.0	2.6	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典SYN/3	1/2		
1349	992- 03	土師器	小盃	SK418 E13	0.4.03	0.4.0	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典SYR/1	1/4		
1350	992- 04	土師器	小盃	SK418 E13	0.4.03	0.4.0	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典SYR/2	1/4	内面に茶褐色	
1351	992- 05	土師器	縁	SK418 E13	22.0	2.4	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-キ整	良	庄典SYR/2	口輪1/6		
1352	992- 06	海殻	山貝	SK418 F13	0.8.2	0.91	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/9	1/2		
1353	992- 07	海殻	山貝	SK418 F13	8.2	3.0	2.4	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/5	4/5	個体の形態から 高台形貝殻
1354	993- 02	海殻	山貝	SK418 F13	16.0	7.3	5.4	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/1	1/2	内面に茶褐色
1355	993- 03	海殻	山貝	SK418 F13	16.3	7.0	5.4	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/6	1/2	内面に茶褐色 高台形貝殻
1356	993- 04	海殻	山貝	SK418 F13	17.0	7.0	5.6	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/9	1/2	内面に茶褐色 高台形貝殻
1357	993- 05	海殻	山貝	SK418 F13	17.0	7.0	5.6	外-ヨコリザ-キ整 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/9	1/2	内面に茶褐色
1358	993- 06	海殻	山貝	SK418 F9	0.1.03		外-ヨコリザ-	良	庄典SY/9	口輪1/4		
1359	993- 07	海殻	山貝	SK418 F9	6.0		外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	今今 良	庄典SY/9	萬合筋付縫		
1360	333- 07	土師器	小盃	SK46	9.4	1.65	外-ヨコリザ-サニ 内-ヨコリザ-ニチニチ	良	庄典SY/2.5%9/2	JEK形態		
1361	402- 06	土師器	小盃	SK46	7.3	1.4	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-ニチ	今今 良	庄典SY/2.5%9/3	JEK形態		
1362	333- 01	土師器	小盃	SK46	8.5~	0.8	外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	今今 良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/5		
1363	335- 06	土師器	小盃	SK46	8.45	1.65	外-ヨコリザ-サニ	良	庄典SYR/0%9/3	口輪1/5		
1364	401- 06	土師器	小盃	SK46	8.45	0.21	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-ニチ	今今 良	庄典SYR/0%9/4	口輪1/4		
1365	335- 05	土師器	小盃	SK46	8.5	1.45	外-ヨコリザ-ナニ	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1366	402- 08	土師器	小盃	SK46	22.1-22	0.4	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	老	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1367	401- 01	土師器	小盃	SK46	0.43	0.23	外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/4	口輪1/2		
1368	402- 01	土師器	小盃	SK46	0.39	0.21	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1369	403- 01	土師器	小盃	SK46	0.41	0.4	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	今今 良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1370	335- 04	土師器	小盃	SK46	8.8	1.45	外-ヨコリザ-ナニ	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1371	402- 05	土師器	小盃	SK46	8.5	1.05	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	老	庄典SYR/0%9/1	口輪1/2		
1372	333- 02	土師器	小盃	SK46	8.2~	0.6	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	老	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1373	335- 02	土師器	小盃	SK46	8.8	1.5	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-ナニサニ	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1374	334- 01	土師器	小盃	SK46	8.5	1.55	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1375	335- 03	土師器	小盃	SK46	7.8	1.75	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/3	口輪1/2		
1376	402- 08	土師器	小盃	SK46	0.84	0.23	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	老	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1377	401- 03	土師器	小盃	SK46	0.84	1.55	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	今今 良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1378	402- 05	土師器	小盃	SK46	9.1	1.5	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-ナニサニ	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2		
1379	403- 07	土師器	小盃	SK46	11.0	0.41	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-ナニ	良	庄典SYR/0%9/4	口輪1/4		
1380	332- 03	土師器	縁	SK46	22.6		外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/1	萬合筋付縫		
1381	332- 02	土師器	縁	SK46	0.15		外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/2	外周に縫合縫		
1382	332- 05	土師器	縁	SK46	0.17.0		外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-ナニ	今今 良	庄典SYR/0%9/2	外周に縫合縫		
1383	336- 02	クロコ	縁	SK46	13.7	5.8	0.75	外-ヨコリザ-ナニ 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/2	口輪1/2	
1384	332- 10	海殻	山貝	SK46	9.2	5.0	外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/1	萬合筋付縫		
1385	336- 03	海殻	山貝	SK46	0.85	5.3	0.85	外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/1	萬合筋付縫	
1386	402- 09	陶器	山葉鍋	SK46	0.4.40		外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/1	口輪1/4	口輪に自然施	
1387	332- 04	海殻	山貝	SK46	(16.1) 18.2	5.4	外-ヨコリザ-萬合筋付縫チテ-ホ-リ直 内-ヨコリザ-	良	庄典SYR/0%9/1	口輪1/4	萬合筋付縫	

第48表 遺物観察表⑩

試験番号	種類	基盤寸法	出土位置	試験 (cm)		測量注釈の特徴	地 盤 成 分	色 調	現 存	考 察
				口径	高さ					
1388-04	陶器	山茶型	SE66	16.9	7.45	4.9 外:コロナリーパターン萬古台 内:コロナリーパターン萬古台	良 良	土:赤褐色 底:黄褐色 底:灰褐色	現存	現存
1389-03	陶器	山茶型	SE66		9.1	外:コロナリーパターン萬古台 内:コロナリーパターン萬古台	良 良	土:赤褐色 底:黄褐色 底:灰褐色	現存	現存
1390-01	黒色土器	輪相	SE65	(13.0)	(6.8)	(10.0)	良:1.9 内:1.9 外:1.9	良 良	土:赤褐色 底:灰褐色	現存
1391-04	土器	カコ	SE66		6.4	外:コロナリーパターン萬古台付銀ナメ 内:コロナリーパターン萬古台付銀ナメ	良 良	土:赤褐色 底:灰褐色	現存	現存
1392-05	陶器	加工土器	SE66	22.1-22	7.2	外:コロナリーパターン	良 良	土:灰褐色 底:灰褐色	現存	現存
1393-2110	木製品	舟物	SE66	5.9	4.4	4.4 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1394-2112	木製品	舟物	SE66	6.2	4.7	4.3 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1395-2114	木製品	舟物	SE66	6.0	4.3	4.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1396-2116	木製品	舟物	SE66	5.8	4.0	3.9 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1397-2153	木製品	舟物	SE66	21	6.9	4.3 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1398-2135	木製品	舟物	SE66	23	6.9	4.2 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1399-2149	木製品	舟物	SE66	30	6.7	5.7 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1400-2151	木製品	舟物	SE65	30	5.6	4.2 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1401-2152	木製品	舟物	SE65	40.2	22.0	5.6 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1402-2151	木製品	舟物	SE65	40	28.2	5.6 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1403-2153	木製品	舟物	SE65	36	29.3	11.4 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1404-2127	木製品	舟物	SE66	18	66.3	39.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1404-2167	木製品	舟物	SE66	25	66.3	39.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1405-2161	木製品	舟物	SE65	27	62.2	40.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1406-2130	木製品	舟物	SE66	50	55.0	10.3 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1407-2157	木製品	舟物	SE66	45	51.0	11.1 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1408-2153	木製品	舟物	SE66	5	46.1	26.2 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1409-2105	木製品	舟物	SE66	54	80.3	30.6 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1410-2151	木製品	舟物	SE66	53	80.3	7.6 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1411-2132	木製品	舟物	SE65	52	78.7	12.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1412-2167	木製品	舟物	SE66	47	64.2	14.3 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1413-2151	木製品	舟物	SE66	2	66	14.9 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1414-2158	木製品	舟物	SE65	45	53.2	38.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1415-2120	木製品	舟物	SE66	42	80.3	18.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1416-2132	木製品	舟物	SE66	51	78.7	16.7 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1417-2108	木製品	舟物	SE66	17	81.0	15.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1418-2151	木製品	舟物	SE66	35	81.0	16.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1419-2164	木製品	舟物	SE65	17	40.7	14.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1420-2181	木製品	舟物	SE66	34	53.1	8.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1421-2151	木製品	舟物	SE66	1	54.4	14.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1422-2196	木製品	舟物	SE66	8	54.9	16.4 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1423-2165	木製品	舟物	SE65	34	45.0	16.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1424-2151	木製品	舟物	SE66	24	45.0	16.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1425-02	木製品	舟物	SE65	26	46.7	20.7 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1426-2169	木製品	舟物	SE65	38	58.2	13.0 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1427-2163	木製品	舟物	SE65	32	54.4	14.4 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1428-2183	木製品	舟物	SE66	4	52.2	14.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1429-2151	木製品	舟物	SE66	33	52.2	14.1 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1430-01	木製品	舟物	SE66	11	58.2	25.5 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1431-2117	木製品	舟物	SE66	57	57.0	13.3 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存
1432-2118	木製品	舟物	SE66	29	57.0	13.3 外:木舟 内:木舟	良 良	木:深紅褐色 木:深紅褐色	現存	現存

第49表 遺物觀察表34

番号	測定 番号	種類	標本合計	出土位置	遺物 (cm)	調査技術の特徴	地 質	色 調	性 質	備 考
1433	2313- 01	木製品 魔板	SE66 No.46	唐大島 高台 西面	40.2 17.7 6.4	内コロナマーク 加工痕 板目節		黄褐色 ヒノキ等	木製品 針葉樹	
1434	2314- 01	木製品 魔板	SE66 No.61	唐大島 高台 西面	44.7 15.9 5.5	内コロナマーク 加工痕 板目節		黄褐色 ヒノキ等	木製品 針葉樹	
1435	2399- 01	木製品 井戸枠	SE45 No.56	唐大島 高台 西面	139.6 18.5 10.4	内コロナマーク 加工痕 板目節		浅灰 灰	木製品	
1436	2347- 01	木製品 井戸枠	SE66 No.55	唐大島 高台 西面	138.0 18.2 16.3	内コロナマーク 加工痕 板目節		黄褐色 ヒノキ等	木製品 スギ	
1437	278- 04	土師器 小豆	SE55 No.1		7.7	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 灰	泥状 泥炭質
1438	378- 03	陶器 山廻柄	SE55 H22		7.4	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 灰	泥状 泥炭質
1439	2109- 01	木製品 曲物	SE66 上	唐大島 高台 西面	43.0 27.2 5.5	内コロナマーク 内皮膜 内面水平平行のシビ	砂 白色	浅灰 灰	木製品 针葉樹	上部 灰
1440	2110- 01	木製品 曲物	SE65 下	唐大島 高台 西面	31.0 32.0 5.8	内コロナマーク 内皮膜 内面水平平行のシビ	砂 白色	浅灰 灰	木製品 スギ	上部 灰
1441	639- 04	ロクロ 皿	SE207 G26	11.0	3.0 2.1	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	灰	木製品 スギ
1442	640- 05	土師器 盤	SE207 G25	(29.0)		内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV3	白 灰	泥状 泥炭質
1443	646- 01	土附器 皿	SE207 G26	11.2	2.3	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	白 灰	泥状 泥炭質
1444	649- 04	土附器 皿	SE207 G26	(3.0)		内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	白 灰	泥状 泥炭質
1445	650- 02	陶器 山廻柄	SE207 G26	(11.2) (7.0)	15.0	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	白 灰	泥状 泥炭質
1446	652- 03	陶器 山廻柄	SE207 Q27	7.6		内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1447	2221- 01	木製品 舟	SE207 G26	唐大島 高台 西面		内面に黒斑斑 有合節のあり	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1448	2256- 02	木製品 舟	SE207 G25	21.5 1.3	1.0	内面に黒斑斑	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1449	2065- 01	木製品 舟状	SE207 G25	29.5 5.1	1.5	内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV2	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1450	2257- 01	木製品 舟物	SE207 F26	(2.4) (2.7)	1.0	内面に黒斑斑 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1451	2306- 02	木製品 舟物	SE207	唐大島 高台 西面	(1.6) 0.8	内面に黒斑斑 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 灰	泥状 針葉樹
1452	2032- 02	木製品 舟形 C	SE207 G25	唐大島 高台 西面	11.0 1.5 0.25	上部断面不規則 切端に左右1ヶ所 板目節				1/4 針葉樹
1453	649- 01	ロクロ 皿	SE221 J18		(8.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	板目節	板目節
1454	652- 03	土附器 盤	SE221 J18		(13.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	口縁部分	板目節
1455	652- 02	土附器 盤	SE221 J18		(14.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	口縁部分	外縁に様子
1456	652- 01	陶器 山廻柄	SE221 J18 No.5		(8.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	外縁 泥炭質	泥炭質
1457	2082- 01	木製品 舟形	SE221 J18 No.10	唐大島 高台 西面	5.2 3.8 2.4	内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV1	小片 針葉樹	小片 針葉樹
1458	2084- 01	木製品 舟形	SE221 J18 No.9	唐大島 高台 西面	44.3 4.5	内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV1	小片 針葉樹	小片 針葉樹
1459	2084- 01	木製品 舟形	SE221 J18 No.1	唐大島 高台 西面	43.5 8.0 2.2	内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV1	小片 針葉樹	小片 針葉樹
1460	2056- 02	木製品 舟形	SE221 J18 No.11	唐大島 高台 西面	16.4 2.2 1.45	内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV1	小片 針葉樹	小片 針葉樹
1461	2082- 01	木製品 舟形	SE221 J18 No.12	唐大島 高台 西面		内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV1	小片 針葉樹	小片 針葉樹
1462	2216- 01	木製品 舟物	SE221 J18 No.13	唐大島 高台 西面	40.5 28.5 3.5	内面に黒斑斑 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	1/4 スギ	泥状 スギ
1463	2244- 01	木製品 舟物	SE221 J18 No.15	唐大島 高台 西面	43.4 24.0 3.0	内面に黒斑斑 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状のみ スギ	泥状 スギ
1464	652- 03	土附器 小皿	SE224 A7		7.9	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1465	662- 04	土附器 小皿	SE224 D9		(8.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV4	口縁 泥状	泥状 泥炭質
1466	662- 02	土附器 小皿	SE224 J39		(12.2)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	口縁 泥状	泥状 泥炭質
1467	652- 01	陶器 山廻柄	SE224 J18 No.1		(7.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1468	2071- 01	木製品 舟形	SE224 J19 No.1-2	唐大島 高台 西面	54.7 8.5	内面に黒斑斑 板目節	砂 白色	淡灰色 SNTV1	小片 針葉樹	小片 針葉樹
1469	648- 03	土附器 皿	SE225 H-F29 No.4	唐大島 高台 西面	11.0 11.3	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1470	648- 02	土附器 皿	SE225 H-F29 No.5	唐大島 高台 西面	11.0 11.5	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1471	648- 05	土附器 皿	SE225 H-F29 No.6	唐大島 高台 西面	11.0 11.5	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV2	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1472	2070- 01	木製品 舟物	SE225 H-F29 No.7	唐大島 高台 西面	14.0 4.6 0.5	内面に黒斑斑 難可燃性あり	砂 白色	淡灰色 SNTV1	1/4 スギ	泥状 スギ
1473	905- 02	土附器 皿	SE226 J43 No.3		13.1	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1474	655- 05	土附器 皿	SE226 J43 No.12.0		(2.80)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状のみ スギ	泥状 泥炭質
1475	651- 01	土附器 皿	SE226 J43 No.16.0		(2.0)	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	泥状 泥炭質	泥状 泥炭質
1476	504- 04	陶器 山廻柄	SE226 J43 No.1-4		13.0 6.4 4.1	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	口縁 泥状	泥状 泥炭質
1477	504- 04	陶器 山廻柄	SE226 J43 No.1-4		18.2 6.4 4.1	内コロナマーク 内皮膜	砂 白色	淡灰色 SNTV1	口縁 泥状	泥状 泥炭質

第50表 遺物観察表33

番号	測定 番号	種類	種類分類	出土位置	法線 (cm)	測量指沿の特徴	地 質	地 層	色 調	残存	考 察		
1476	2076-01	木製品	曲物	SE226	J43	直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高)	加工度:半完成 内面に斜字印のラビキ 加工度:半完成 内面に斜字印のラビキ 加工度:半完成 内面に斜字印のラビキ				表面のみ スギ		
1479	2076-03	木製品	曲物	SE226	J43	直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高)	加工度:半完成 内面に斜字印のラビキ 加工度:半完成 内面に斜字印のラビキ				1/3 スギ		
1480	656-01	木製品	曲物	SE226	J43	直大(直) 高大(高) 高大(高)	直大(直) 高大(高) 高大(高)	チヂ	良	底白1098/2	SLB形態 墨書き		
1481	656-05	土器器	直	SE221	H37	7.3	1.0	内	チヂマササニ、チヂ 内	少 少	底白1098/2 DML/2		
1482	549-01	土器器	直	SE231	E37	(12.0)	内	チヂマササニ、チヂ 内	少 少	底黄褐7.5YR8/3 DML/3			
1483	653-01	土器器	直	SE231	D-E37	23.6	16.4	外 内	チヂマササニ、チヂ 内	少 少	底白1098/2 DML/3		
1484	504-01	陶器	山手柄	SE231	D-H37	No.1	13.2	0.5	4.35	内	チヂマササニ、高台點付後ナメー化の痕 内	底白107/3 スギ	
1485	549-05	陶器	山手柄	SE231	E37	(18.0)	内	チヂマササニ 内	少 少	底白107/1 DML/4			
1486	5079-01	木製品	曲物	SE231	D-E37	No.9+10	直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高)	加工度:半完成 内面斜面ラビキ			小片 スギ		
1487	2077-01	木製品	曲物	SE231	D-E37	直大(直) 高大(高) 高大(高) No.2	直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高)	加工度:半完成 内面斜面ラビキ			SLB形態 スギ		
1488	549-03	土器器	直	SE232	J-K37	(15.0)	内	内	コロナチテ	少 少	底白1098/2 DML/3		
1489	2087-01	木製品	板状	SE232	J-K37	直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高)	直大(直) 高大(高) 高大(高) 直大(直) 高大(高) 高大(高)	井戸跡 小 番号記入			碎片 計数用		
1490	7242-01	木製品	曲物	SE232	J-K37	45.0	20.7	0.6	加工度:半完成 内面斜面平行ラビキ			1/3 スギ	
1491	549-01	陶器	山手柄	SE233	K58	7.2	0.8	5.5	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1492	2077-01	木製品	曲物	SE233	K58	12.5	0.8	5.5	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1493	2078-01	木製品	曲物	SE233	K58	34.0	22.0	0.6	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1494	549-02	土器器	小皿	SE268	H44	45.0	14.0	0.5	加工度:半完成 内面斜面ラビキ			SLB形態 計数用	
1495	219-01	土器器	小皿	SE268	H44	7.2	0.8	5.5	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1496	219-02	土器器	小皿	SE268	G44	(10.0)	1.2	1.2	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1497	219-01	土器器	直	SE268	G44	(9.4)	1.2	1.2	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1498	219-03	土器器	直	SE268	H44	(10.0)	1.2	1.2	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1499	219-01	土器器	直	SE268	H44	(14.0)	1.2	1.2	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1500	519-04	土器器	直	SE268	H44	(25.4)	1.2	1.2	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1501	519-01	土器器	直	SE268	G444	(24.4)	内	コロナチテ		少 少	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1502	519-03	土器器	直	SE268	G444	(29.4)	内	チヂマササニ 内		少 少	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1503	519-04	土器器	直	SE268	G444	(41.0)	内	チヂマササニ 内		少 少	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1504	217-04	陶器	山手柄	SE268	H444	(16.0)	内	内	100%チテ		底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1505	217-05	陶器	山手柄	SE268	H444	(7.2)	内	内	チヂマササニ 内	少 少	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1506	519-01	陶器	山手柄	SE268	B56	16.2	7.1	5.35	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1507	519-01	陶器	山手柄	SE268	B56	(16.0)	(7.4)	(5.2)	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1508	519-02	陶器	山手柄	SE268	B56	(15.0)	0.8	0.1	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1509	626-01	陶器	山手柄	SE268	B56	6.3	—	—	内	チヂマササニ 内	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1510	549-02	泥生土器	直	SE268	E26	(19.1)	内	チヂマササニ 内	チヂマササニ 内	少 少	底白1098/0 SLB形態 墨書き		
1511	2074-01	木製品	曲物	SE268	E26	No.10	15.5	0.6	加工度:半完成 内面斜面ラビキ			1/2 スギ?	
1512	5079-01	木製品	曲物	SE268	E26	No.9	(10.0)	10.6	0.5	加工度:半完成 内面斜面ラビキ			1/2 スギ?
1513	549-01	泥生土器	直	SD472	H47	2.5	2.7	0.4	直壁不規則 一部欠け 内	良	底白1098/0 SLB形態		
1514	538-01	シラフ	直	SD472	C47	10.2	4.8	3.1	内	チヂマササニ 内	底白1098/2 SLB形態		
1515	519-01	土器器	直	SD472	H47	(7.0)	内	ナダ		少 少	底黄褐7.5YR8/3 SLB形態		
1516	519-01	土器器	直	SD472	H47	17.6	内	内	チヂマササニ 内	少 少	底黄褐7.5YR8/3 SLB形態		
1517	519-01	陶器	山手柄	SD472	H47	(14.7)	内	チヂマササニ 内		少 少	底白1098/0 SLB形態		
1518	519-04	陶器	山手柄	SD472	H47	(7.6)	内	チヂマササニ 内		少 少	底黄褐7.5YR8/3 SLB形態		
1519	519-01	陶器	山手柄	SD472	H47	7.1	内	チヂマササニ 内		少 少	底白1098/0 SLB形態		
1520	586-01	土器器	直	SK25	H16	(14.0)	内	内	チヂマササニ 内		少 少		
1521	586-02	土器器	直	SK25	H16	(11.0)	内	内	チヂマササニ 内		少 少		

第51表 遺物観察表

番号	測量 方法	基準点名	出土位置	法線 [c.m.]		調査技術の特徴	地 盤	地 色	残存	備考
				仰 覆	透 視					
1522	35°	土師器 盆	SK25 H16	13.2	—	地: 口縁トライサス、ナメ 内: ナメ	砂 岩	灰白0.95W/2	△印S/3	
1523	35°	土師器 小盆	SK25 H16	47.0	—	(D)6 内: 本体壁 外: ナメ	砂 岩	灰黄2.5W/3	△印S/3	
1524	386°	土師器 盆	SK25 H16	0.9	—	地: 内ナメ	砂 岩	灰白2.5W/1	△印S/4	
1525	286°	土師器 盆	SK25 H16	7.7	2.38	地: ナメ、ナメ 内: ナメ	砂 岩	灰白2.5W/1	△印S/7	
1526	286°	土師器 盆	SK25 H16	9.6	—	地: 内ナメ	砂 岩	灰白0.95W/2	△印S/4	
1527	286°	土師器 盆	SK25 H16	9.0	—	地: 内ナメ	砂 岩	灰白2.5W/2	△印S/4	
1528	366°	陶器 参	SK25 H16	(8.1)	—	地: フラットドリーベルト付白高台+ロコリナ 内: ロコリナ	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	内部に焼き落
1529	386°	陶器 罐	SK25 H16	(13.9)	—	地: ロコリナ+アカ高台付白ロコリナ 内: ロコリナ	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	自然陶/手作 糞化・工具痕・修理痕
1530	222°	木製品 箱	SK25	10.5	(7.8)	高木箱 内: 開閉可能	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	木製箱/手作 内部風呂土壌付後付
1531	266°	ロクロ 五形土器	SK313 E75-76	9.5	4.0	1.9 地: ロクロナ 内: ロクロナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1532	267°	ロクロ 五形土器	SK313 D18	4.0	—	地: ロクロナ+ロクロナ 内: ロクロナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	断面X形
1533	267°	ロクロ 五形土器	SK313 U75	1.8	—	地: ロクロナ+ロクロナ 内: ロクロナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	断面X形
1534	265°	土師器 壺	SK313 E75	(16.0)	—	地: ロコリナナ 内: ロコリナ+ナメ	中 等	灰白2.5W/1	△印S/4	
1535	267°	土師器 壺	SK313 D75	—	—	地: ロコリナナ 内: ロコリナ+ナメ	中 等	灰白2.5W/2	△印S/2	小片
1536	306°	土師器 壺	SK313 E75	(14.5)	—	地: ロコリナ 内: ロコリナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1537	256°	陶器 山形高輪	SK313 D76	—	7.0	地: ロコリナ+アカ高台付白ロコリナ 内: ロコリナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	高台+工具痕
1538	267°	土師器 壺	SK313 E75-76	(10.0)	—	地: ロコリナナ 内: ロコリナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1539	267°	土師器 壺	SK313 E75-76	(10.0)	—	地: ロコリナナ 内: ロコリナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1540	265°	土師器 盆	SK313	10.0	—	2.6 地: 内ナメナメ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/1	△印S/2	
1541	266°	土師器 盆	SK313 C74	(11.0)	(2.0)	地: 内ナメナメ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/3	△印S/2	
1542	266°	土師器 小盆	SK313 E75-76	7.0	1.0	地: 内ナメナメ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/1	△印S/2	工具痕
1543	266°	土師器 小盆	SK313 E75-76	7.5	0.8	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	工具痕
1544	266°	土師器 小盆	SK313	6.5	1.2	地: 内ナメナメ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	工具痕
1545	265°	土師器 小盆	SK313 E75-76	(7.0)	(0.8)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1546	215°	木製品 仮板	SK313	20.9	0.9	高木板 表面無黒斑 裏面無黒斑	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	腐損不明
1547	94°	陶器 海螺	SK323 H67	—	(7.5)	地: ロコリナナ+アカ高台付白ロコリナ 内: ロコリナ	中 等	灰白0.95W/1	△印S/2	内面: 日光照射 裏面: 赤褐色
1548	94°	土師器 瓢	SK423 H67	—	(20.0)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1549	94°	土師器 瓢	SK423 H67	—	(20.0)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1550	94°	土師器 瓢	SK423 H67	—	(20.0)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1551	94°	土師器 瓢	SK423 H67	—	(20.0)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1552	94°	土師器 瓢	SK423 G66	—	3.0	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1553	266°	土師器 瓢	SK356	—	—	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1554	2137°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1555	2138°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1556	—	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1557	2136°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1558	2136°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1559	2136°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1560	2136°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1561	2138°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1562	2138°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1563	2137°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1564	2154°	木製品 枝	SK356 N8.5	—	—	地: 木板 内: 木板	良 質	灰白0.95W/2	△印S/2	棒状小件
1565	650°	土師器 瓢	SD264 G27	(2.0)	(1.0)	地: 内ナメ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1566	650°	地熱陶器 瓢	SD264 G27	—	6.7	地: ロコリナナ 内: ロコリナ	中 等	灰白0.95W/1	△印S/2	
1567	650°	土師器 瓢	SD264 F27	6.1	2.1	地: 内ナメ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	重量: 1.42kg
1568	650°	土師器 瓢	SD264 G25	(10.0)	(4.0)	地: ロコリナナ 内: ロコリナナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1569	650°	土師器 瓢	SD264 G25	(10.0)	(4.0)	地: ロコリナナ 内: ロコリナナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1570	650°	土師器 瓢	SD264 G25	(10.0)	(4.0)	地: ロコリナナ 内: ロコリナナ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1571	241°	土師器 瓢	SD371 D42	(7.0)	(0.5)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1572	241°	土師器 瓢	SD371 D42	(8.0)	(0.5)	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	
1573	242°	土師器 瓢	SD371 P-G44	7.8	1.5	地: ロコリナナ 内: ナメ	中 等	灰白0.95W/2	△印S/2	

第52表 遺物觀察表³⁷

番号	測定 番号	種別	群種分類	出土位置	延長 (cm)			測量技術の特徴	地 質	地 形	種 存	備 考
					上	中	下					
1567	242- 04	土葬器	小皿	SD371	P-G44	7.8	1.4	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/0	砂丘地形	
1568	242- 05	土葬器	小皿	SD371	P-G44	7.8	1.5	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/3	砂丘地形	
1569	243- 09	土葬器	小皿	SD371	G44	7.2	1.1	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/3	海岸	
1570	244- 06	土葬器	小皿	SD371	P43	(0.4)	0.39	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1571	242- 07	土葬器	小皿	SD371	P-G44	7.9	1.4	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/3	砂丘V/0	
1572	242- 09	土葬器	小皿	SD371	P-G44	8.0	1.0	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘地形	
1573	244- 04	土葬器	小皿	SD371	B-F43	8.1	1.3	井干法テープ	砂	海岸1.0%V/2	海岸	
1574	244- 07	土葬器	皿	SD371	P44	(10.0)	0.30	井干法テープ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘	
1575	240- 03	土葬器	皿	SD371	B-F43	(10.0)	0.20	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1576	241- 01	土葬器	皿	SD371	B-G44	(10.0)	0.70	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1577	240- 02	土葬器	皿	SD371	F43-44	11.6	2.3	井干法テープ	砂	海岸1.0%V/3	砂丘V/0	
1578	237- 01	土葬器	皿	SD371	P44	12.0	2.8	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	海岸	
1579	240- 05	土葬器	皿	SD371	F43-44	(11.0)	0.30	井干法テープ	砂	海岸1.0%V/1	砂丘V/0	
1580	237- 02	土葬器	皿	SD371	P44	(11.0)	0.20	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1581	240- 01	土葬器	皿	SD371	E43	11.3-	2.3	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	海岸	
1582	240- 05	土葬器	皿	SD371	P44	10.7	2.4	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1583	244- 01	土葬器	皿	SD371	G44	(10.0)	0.30	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1584	242- 02	土葬器	皿	SD371	P-G44	(10.0)	0.30	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1585	240- 02	土葬器	皿	SD371	P44	(10.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1586	240- 05	土葬器	皿	SD371	E43-44	(12.0)	2.0	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1587	240- 01	土葬器	皿	SD371	E43-44	(11.0)	0.30	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1588	242- 07	土葬器	皿	SD371	P-G44	(11.0)	0.30	井干法テープ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1589	237- 08	土葬器	皿	SD371	P44	(10.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1590	244- 06	土葬器	皿	SD371	G44	9.6	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1591	241- 06	土葬器	皿	SD371	G44	9.6	0.30	井干法テープ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	
1592	238- 01	土葬器	皿	SD371	P44	(9.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸1.0%V/2	砂丘V/0	外側に煤化層
1593	240- 02	陶器	山高輪	SD371	E43-44	(16.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	
1594	244- 08	陶器	山高輪	SD371	G44	(16.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1595	244- 07	陶器	山高輪	SD371	G44	16.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1596	240- 05	陶器	山高輪	SD371	G44	16.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	
1597	240- 08	陶器	山高輪	SD371	G44	16.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1598	240- 02	陶器	山高輪	SD371	G44	(16.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1599	243- 03	陶器	山高輪	SD371	G44	(8.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	耕作面
1600	245- 03	陶器	山高輪	SD371	G44	6.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1601	239- 01	陶器	山高輪	SD371	E43-44	(5.4)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1602	241- 07	陶器	山高輪	SD371	P44	6.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1603	245- 01	陶器	山高輪	SD371	G44	6.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1604	240- 03	陶器	山高輪	SD371	E43-44	6.0	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1605	241- 01	陶器	山高輪	SD371	G44	7.8	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1606	242- 01	陶器	皿	SD371	G44	(8.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	高台に耕作面
1607	249- 02	陶器	皿	S2227	H18	(9.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	外側に自然層
1608	249- 01	陶器	皿	S2227	H18	7.7	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/1	砂丘V/0	底部内面部分
1609	248- 03	土葬器	皿	S2227	H18	10.9-	2.2	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	高台地形
1610	248- 04	土葬器	皿	S2227	No.2-3	(8.0)	0.30	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	
1611	249- 06	土葬器	皿	S2227	H-038	6.4	2.2	井干法テープサニ	砂	海岸2.5%V/2	砂丘V/0	重量1.6kg 高さあり

第53表 遺物観察表38

番号	索引番号	種類	基層分類	出土位置	出土(cm)	調査技術の特徴		検出	感度	色 質	性別	備考
						(後)	前					
1612	651-05	金属製品	鍍金	S2227	H-138	3.41	0.7	火薬通販	発見	重量3.0g		
1613	651-03	金属製品	鍍金	S2227	H-138	3.47	0.7	火薬通販	発見	重量2.40g		
1614	651-01	金属製品	鍍金	S2227	H-138	3.41	0.7	火薬通販	発見	重量2.30g		
1615	651-02	金属製品	鍍金	S2227	H-138	3.41	0.7	火薬通販	発見	重量2.0g		
1616	651-02	金属製品	鍍金	S2227	H-138	3.44	0.5	火薬通販	発見	重量2.0g		
1617	2586-02	木製品	杖	S2227	H-138	44.5	6.0	火薬通販	発見	内面不規則		
1618	560-01	土器類	盆	S2210	I22 第5層	15.0	2.7	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1619	516-04	土器類	盆	S2210	I20 第5層	19.0	2.7	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1620	330-01	土器類	盆	S2210	I22 第5層	17.3	10.2	火薬通販	発見	内面凹凸不規則×	口縁L/2	内面凹凸不規則×
1621	514-02	土器類	盆	S2210	I25 第5層	18.0	12.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1622	536-06	土器類	盆	S2210	I25 第5層	18.0	12.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則	口縁L/2	内面凹凸
1623	531-01	土器類	盆	S2210	I21 第5層	17.0	12.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1624	531-02	土器類	盆	S2210	I23 第5層	18.0	12.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1625	538-03	土器類	盆	S2210	I26 第5層	17.0	12.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1626	560-02	土器類	盆	S2210	J23	15.3	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1627	562-04	土器類	盆	S2210	F11 第5層	15.0	7.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸×
1628	569-02	土器類	盆	S2210	I26 第5層	12.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1629	531-02	土器類	盆	S2210	I22 第5層	13.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1630	513-07	土器類	盆	S2210	H23 第5層	18.0	10.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1631	560-04	土器類	盆	S2210	F17 第5層	17.0	11.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸の25%付帯
1632	561-02	土器類	盆	S2210	F17 第5層	17.0	12.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則	口縁L/2	内面凹凸
1633	567-03	土器類	盆	S2210	I26 第5層	11.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯上部/内部下部
1634	594-02	土器類	盆	S2210	J26 第5層	12.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯上部
1635	567-04	土器類	盆	S2210	K27 第5層	10.1	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯上部
1636	540-02	土器類	盆	S2210	H21 第5層	12.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸
1637	584-03	土器類	盆	S2210	J25 第4層	12.4	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1638	528-01	土器類	盆	S2210	I25 第5層	14.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1639	561-02	土器類	盆	S2210	F17 第5層	10.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1640	613-04	土器類	盆	S2210	H18 第2層	12.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1641	560-01	土器類	盆	S2210	H23 第5層	12.1	4.2	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1642	502-01	土器類	盆	S2210	V24 第5層	12.5	4.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1643	526-03	土器類	盆	S2210	K23 第5層	12.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1644	567-02	土器類	盆	S2210	J28 第5層	11.4	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1645	566-02	土器類	盆	S2210	K23 第5層	10.7	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1646	566-02	土器類	盆	S2210	K23 第5層	10.7	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1647	581-05	土器類	盆	S2210	G18 第4層	10.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1648	532-01	土器類	盆	S2210	S24 第5層	10.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1649	571-03	土器類	盆	S2210	K27 第4層	12.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1650	597-02	土器類	盆	S2210	K27 第5層	12.4	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1651	566-04	土器類	盆	S2210	G20 第5層	11.7	10.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1652	507-01	土器類	盆	S2210	T26 第5層	12.5	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1653	582-02	土器類	盆	S2210	S21 第5層	12.5	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1654	566-01	土器類	盆	S2210	F19 第5層	13.5	4.0	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯
1655	521-01	土器類	盆	S2210	S24 第5層	11.0	—	火薬通販	発見	内面凹凸不規則/火薬通販	口縁L/2	内面凹凸付帯

第54表 遺物観察表39

番号	部品番号	種類	部品分類	出土位置	出土状況	寸法 (cm)	調査指摘の特徴		地	地	色	形	備考	
							口径	底径						
1656	511-01	土器部	杯	SR210	J25 第5層	16.7	3.65	内:コロナードササ 外:コロナードササ	青	青	深緑	筒形 内面:暗緑	4/5 内面:暗緑	
1657	519-02	土器部	杯	SR210	H18 第4層	(9.0)	-	内:コロナードササ	青	青	青	筒形 内面:青	1/4(1/3)	
1658	587-01	土器部	杯	SR210	J25 第4層	15.0	8.8	内:コロナードササ 外:コロナードササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青 外側:白・小格子 内側:白・小格子	
1659	591-02	土器部	杯	SR210	K29 第5層	16.8	4.1	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青 外側:白・小格子 内側:白・小格子	
1660	596-05	土器部	杯	SR210	F19 第5層	(10.0)	(13.0)	(0.4)	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青 外側:青	筒形 内面:青 外側:白・小格子 内側:白・小格子
1661	549-02	土器部	杯	SR210	H18 第5層	(8.0)	-	内:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1662	559-01	土器部	杯	SR210	G28 第5層	15.2	9.8	3.31 内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1663	561-01	土器部	杯	SR210	F18 第4層	16.9	3.3	内:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1664	575-03	土器部	杯	SR210	J24 第4層	13.1	3.5	内:コロナードササ 外:コロナードササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1665	581-02	土器部	杯	SR210	D25 第5層	16.5	3.6	内:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1666	582-02	土器部	杯	SR210	J126 第4層	(15.0)	(2.0)	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1667	591-02	土器部	杯	SR210	J23 第4層	(12.0)	(3.0)	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1668	598-04	土器部	杯	SR210	H19 第5層	(13.5)	(0.4)	内:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1669	600-01	土器部	杯	SR210	J21 第5層	16.3	3.4	内:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1670	601-07	土器部	杯	SR210	D25 第4層	(9.0)	(0.8)	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1671	602-02	土器部	杯	SR210	H26 第5層	13.4	3.6	内:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 (3本交差)	
1672	603-03	土器部	杯	SR210	F17 第5層	(8.0)	-	内:コロナード	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1673	674-06	土器部	杯	SR210	G17 第4層	(4.0)	(0.1)	内:コロナード	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1674	587-01	土器部	杯	SR210	J25 第5層	(4.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナード	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1675	609-01	土器部	杯	SR210	F19 第5層	(27.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナード	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1676	546-01	土器部	深鉢	SR210	I26 第5層	(3.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル調整不明 外:コロナードササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1677	543-01	土器部	深鉢	SR210	Z26 第5層	(2.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1678	611-01	土器部	深鉢	SR210	Z24 第5層	-	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1679	574-02	土器部	深鉢	SR210	Z24 第5層	(5.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1680	619-01	土器部	深鉢	SR210	H21 No.3	(3.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1681	526-07	土器部	深鉢	SR210	Z25 第5層	(4.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1682	588-01	土器部	深鉢	SR210	F19 第4層	(5.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1683	539-01	土器部	深鉢	SR210	F16	25.2	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1684	580-02	土器部	深鉢	SR210	H21-24 第5層	(20.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1685	535-01	土器部	深鉢	SR210	J22 第5層	(3.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1686	608-01	土器部	深鉢	SR210	F19-19	(3.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1687	589-01	土器部	深鉢	SR210	Z24 第5層	(4.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1688	539-02	土器部	深鉢	SR210	Z26 第5層	(2.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1689	612-01	土器部	深鉢	SR210	H21	(3.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1690	609-05	土器部	深鉢	SR210	H21	(4.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1691	557-06	土器部	深鉢	SR210	J21 第5層	(23.0)	-	内:コロナード具脚+ハーベル 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1692	596-01	土器部	深鉢	SR210	F19 第5層	25.0	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1693	541-03	土器部	深鉢	SR210	Z25 第5層	(4.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1694	559-03	土器部	深鉢	SR210	G18 第3層	(22.0)	-	内:コロナード 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1695	529-02	土器部	深鉢	SR210	G25 第5層	(4.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1696	586-01	土器部	深鉢	SR210	H22 第5層	(4.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1697	589-03	土器部	深鉢	SR210	G17 第4層	(10.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	
1698	599-02	土器部	深鉢	SR210	G18 第5層	(17.0)	-	内:コロナードササササ 外:コロナードササササ	青	青	青	筒形 内面:青	筒形 内面:青	

第5表 遺物観察表4

番号	実物 番号	種類	施設分類	出土位置	法寸 (cm)	断面法寸 寸法 横幅 高さ	断面法の特徴		形状	機 械 部	色 調	存 在	備 考
							外 部 寸 法	内 部 寸 法					
1699 01	土師器	瓶	SR210	I28 第5層	07.31		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.3cm(横)コビヤサエ 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2		口縁/1/6	
1700 02	土師器	瓶	SR210	G19 第5層	06.40		外:ヨコナタリ-ハシル等 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1701 04	土師器	瓶	SR210	I25 第5層	03.30		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.4cm(横)テグイ 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.98/2 内:灰白褐色/0.98/2		口縁/1/2	内面に研磨面
1702 06	土師器	瓶	SR210	I25 第5層	04.60		外:ヨコナタリ-ハシル等/後口付-1.2cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.98/2		口縁/1/4	
1703 06	土師器	瓶	SR210	G18 第5層	04.60		外:ヨコナタリ-ハシル等		外:不 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/4	
1704 02	土師器	瓶	SR210	I25 第5層	03.30		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.5cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/後口付-1.3cm(横)セグリ		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/6	
1705 06	土師器	瓶	SR210	P17 第5層	16.30		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/6	
1706 02	土師器	瓶	SR210	G19 第5層	04.60		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.2cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	内面に研磨面
1707 03	土師器	瓶	SR210	I23 第5層	03.00		外:ヨコナタリ-ハシル等 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.96/2 内:灰白褐色/0.96/2		口縁/1/2	
1708 01	土師器	瓶	SR210	H12 第5層	丸底		外:ヨコナタリ-ハシル等 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	底部外周に鋸歯状切欠
1709 03	土師器	瓶	SR210	P-G19 第4-5層	丸底		外:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/4		口縁/1/2	
1710 002	土師器	瓶	SR210	H19 第4層	40.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:良 内:良	灰白褐色/0.98/2		口縁/1/2	把手2ヶ所
1711 01	土師器	瓶	SR210	I25 第5層	07.35	側面凹 0.30	外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm(横)テグイ-5cm/底 内:ヨコナタリ-ハシル等/底テグイ		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/4	把手2ヶ所
1712 01	土師器	瓶	SR210	I23 第5層	09.40		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.2cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1713 01	土師器	瓶	SR210	G17 第5層	21.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1714 01	土師器	瓶	SR210	G17 第5層	24.70		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1715 01	土師器	瓶	SR210	G17-18 第5層	19.8		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm(横)ケズリ 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm(横)ケズリ		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/2	
1716 02	土師器	瓶	SR210	G19 第5層	20.60		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/2	
1717 01	土師器	瓶	SR210	H21 第5層			外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cmオリエ		外:不 内:良	灰白褐色/0.98/2 内:灰白褐色/0.98/2		口縁/1/2	内面に研磨面
1718 01	土師器	瓶	SR210	D24 第5層	20.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm		外:不 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1719 02	土師器	瓶	SR210	H21	22.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1720 02	土師器	瓶	SR210	J26 第6層	丸底 15.5		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	外周に様付面 内面に化粧面
1721 02	土師器	瓶	SR210	K24 第5層	14.0		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/6 内:灰白褐色/0.97/6		口縁/1/2	把手2ヶ所
1722 02	土師器	瓶	SR210	I21 第5層	22.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/6 内:灰白褐色/0.97/6		口縁/1/2	
1723 02	土師器	瓶	SR210	G18 第4-5層	16.40		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1724 02	土師器	瓶	SR210	P19 第5層	17.0		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	
1725 01	土師器	瓶	SR210	I23 第5層	20.0		外:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm 内:ヨコナタリ-ハシル等/1.8cm		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/4	内面に研磨面
1726 01	土師器	瓶	SR210	I22 第5層	20.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:不 内:良	灰白褐色/0.97/6 内:灰白褐色/0.97/6		口縁/1/4	
1727 01	土師器	瓶	SR210	G19-20 第5層	24.5		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.98/1 内:灰白褐色/0.98/1		口縁/1/4	把手2ヶ所
1728 02	土師器	瓶	SR210	F19-G17 第4-5層	20.0		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/2 内:灰白褐色/0.97/2		口縁/1/2	内面に様付面
1729 01	土師器	瓶	SR210	G18 第5層	23.40		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/4 内:灰白褐色/0.97/4		口縁/1/4	内面に様付面
1730 02	土師器	瓶	SR210	F19-G18 第4-5層	23.0		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/4 内:灰白褐色/0.97/4		口縁/1/4	内面に様付面
1731 02	土師器	瓶	SR210	J22 第6層	25.00	0.20	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/6 内:灰白褐色/0.97/6		口縁/1/4	把手2ヶ所
1732 02	土師器	瓶	SR210	J20 第5層	13.60	0.21	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/3 内:灰白褐色/0.97/3		口縁/1/2	内面に焼文
1733 01	土師器	瓶	SR210	H23 第5層	24.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/6 内:灰白褐色/0.97/6		口縁/1/2	内面に焼文
1734 02	土師器	瓶	SR210	I20 第4層	10.5		外:ハケル等/1.8cm(横)コビヤサエ 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/5 内:灰白褐色/0.97/5		口縁/1/4	
1735 03	土師器	瓶	SR210	G19 第5層	21.00		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/6 内:灰白褐色/0.97/6		口縁/1/4	
1736 03	土師器	瓶	SR210	P19 第5層	つぶみ 2.5		外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		上部のみ	
1737 02	土師器	瓶	SR210	G18 第5層	15.0	3.5	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/2	
1738 04	土師器	瓶	SR210	F19 第4層	16.5	2.9	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:小 内:良	灰白褐色/0.97/4 内:灰白褐色/0.97/4		口縁/1/2	
1739 02	土師器	瓶	SR210	F19 第4層	23.0	0.10	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/4	
1740 02	土師器	瓶	SR210	I25 第6層	10.00	4.40	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/2	
1741 06	土師器	瓶	SR210	I22 第5層	12.4	0.11	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/2	
1742 02	土師器	瓶	SR210	H19 第4層	12.00	0.00	外:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横) 内:ヨコナタリ-ハシル等/2.0cm(横)		外:良 内:良	灰白褐色/0.97/1 内:灰白褐色/0.97/1		口縁/1/2	

第56表 遺物観察表④

番号	器物 器物名	種類	剖面分類	出土位置	法量 (cm)		調査社注の特徴	地 上 流	地 質	段 階	備 考
					口径	底径					
1743	612-03	直底盤	杯	SR210 125 第4層	10.01	18.71	内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナード	今今 良	真	浜田7/9	口川小片 砂質土
1744	678-01	直底盤	杯	SR210 G18 第4層	12.4	9.0	3.8 内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	並	浜田10/15/1	口川小片
1745	581-03	直底盤	杯	SR210 G20 第4層	13.40	13.2	14.11 内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	真	浜田10/15/1 内:浜田10/15/1	口川小片
1746	584-01	直底盤	杯	SR210 G28 第4層	13.40	8.6	9.48 内:コロナードー外:鋸歯	街 良	浜田7/6	浜田7/3	浜田7/4
1747	602-02	直底盤	杯	SR210 D26 第4層	14.50	14.5	14.11 内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	良	浜田6/0	口川小片
1748	532-03	直底盤	杯	SR210 D26 第4層	14.40	13.0	9.35 内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	並	浜田6/0	浜田7/5
1749	629-02	直底盤	杯	SR210 H23 第1層	13.40		内:コロナード	街 良	浜田7/15/2 内:浜田10/15/1	浜田7/3	浜田のみ
1750	686-04	直底盤	杯	SR210 H24 第1層			内:コロナード	今今 良	浜田7/1	浜田のみ	
1751	600-02	直底盤	杯	SR210 H24 第3層			内:コロナード	今今 良	浜田7/1	浜田のみ	背面に自然縫
1752	538-01	直底盤	杯	SR210 H22 第3層			内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	浜田7/6/7	浜田7/4	浜田の形
1753	566-01	直底盤	杯	SR210 G22	13.8		内:コロナード	老	浜田7/7/1	浜田7/3	
1754	627-04	直底盤	杯	SR210 G19	14.40		内:コロナード	今今 良	浜田7/15/2 内:浜田10/15/1	浜田7/3	浜田小片
1755	674-04	直底盤	杯	SR210 F18 第4層			内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	浜田7/6	浜田7/3	遺跡付
1756	568-01	直底盤	杯	SR210 P19 第3層	9.0	9.0	9.0 内:コロナードー外:鋸歯	今今 良	浜田6/0	浜田7/2	付近用具 浜田7/5 浜田近傍に縫跡×
1757	523-02	直底盤	杯	SR210 G15 第3層			内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナード	今今 良	浜田7/3/5/2 内:浜田7/3/5/2	浜田7/3	浜田失火
1758	669-05	直底盤	小皿	SR210 H-421 第1層	4.8		内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナード	老	浜田7/5/6/1 内:浜田7/5/6/1	浜田7/3	浜田のみ
1759	556-02	直底盤	小皿	SR210 H23 第5層	14.80	13.30	13.4 内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナードー外:ヨコササエ	老	浜田7/3/7/1	浜田7/6	浜田7/4
1760	562-02	直底盤	平底	SR210 F19 第4層			内:コロナード	老	浜田6/0	浜田7/4	浜田付付
1761	537-02	直底盤	深	SR210 H21 第5層			内:コロナード	老	浜田7/5/6/1 内:浜田7/5/6/1	浜田7/3	
1762	597-01	直底盤	深	SR210 H24 第3層	14.40		内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナードー外:鋸歯 内:コロナードー外:鋸歯	老	浜田6/0	浜田7/4	
1763	591-06	土師器	盆	SR210 F19 第3層	14.0	13.0	2.0 内:コロナードー外:鋸歯	老	浜田7/15/2/3 内:浜田7/15/2/3	浜田7/4	
1764	669-04	土師器	盆	SR210 H21 No.3	13.0		内:コロナードー外:オサエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/15/2/4	浜田7/3	内:浜田10/15/1-ハマク
1765	579-01	土師器	盆	SR210 G15 第4層	13.0		内:コロナードー外:オサエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/15/2/4	浜田7/6	
1766	566-01	土師器	盆	SR210 G26 第3層	16.6		2.1 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7 内:浜田7/5/6/7	浜田7/12	
1767	566-02	土師器	盆	SR210 F19 第3層	17.3		2.3 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7 内:浜田7/5/6/7	浜田7/6	浜田用具に基盤十
1768	591-01	土師器	盆	SR210 J24 第3層	14.3		内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7 内:浜田7/5/6/7	浜田7/4	小片 底部表面に墨書き
1769	523-01	土師器	盆	SR210 G15 第3層	14.0		内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7 内:浜田7/5/6/7	浜田7/4	
1770	568-03	土師器	盆	SR210 D25 第3層	17.0		1.5 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/4	浜田7/4	
1771	595-01	土師器	盆	SR210 J28 第3層			内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/10/9/3	浜田7/4	底部表面に縫跡付
1772	509-02	土師器	盆	SR210 H20 第4層	18.0		2.5 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/10/9/2	浜田7/4	底部表面に縫跡 リーフマーク
1773	664-02	土師器	盆	SR210 H22 第4層	14.40		3.0 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/10/9/3	浜田7/4	
1774	559-01	土師器	盆	SR210 J25 第3層	13.50	13.00	2.8 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/5/6/5	浜田7/4	底部表面に縫跡 数点
1775	567-04	土師器	盆	SR210 J24 第4層	13.0		2.9 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/5/6/3	浜田7/4	底部表面に墨書き
1776	587-03	土師器	盆	SR210 D29-24 第3層	15.8		3.6 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/3	浜田7/4	底部表面に墨書き
1777	586-03	土師器	盆	SR210 D25 第3層	14.0		3.1 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/4	浜田7/3	底部表面に墨書き 部分1-内部失火
1778	526-01	土師器	盆	SR210 D24 第3層	14.0		3.0 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/5/6/5	浜田7/4	
1779	527-04	土師器	盆	SR210 D23 第4層	15.0		4.15 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/6	浜田7/4	
1780	590-06	土師器	盆	SR210 D21 第3層	15.2		3.0 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/5/7/6	浜田7/3	
1781	596-01	土師器	盆	SR210 J24 第3層	16.0		3.3 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7/8/9/10 内:浜田7/5/6/7/8/9/10	浜田7/3	底部表面に墨書き 木目
1782	575-01	土師器	盆	SR210 D24 第4層	13.3		3.0 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/7/6	浜田7/3	底部表面に墨書き
1783	601-02	土師器	盆	SR210 K23 第3層	15.4		4.10 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7/8/9/10 内:浜田7/5/6/7/8/9/10	浜田7/3	
1784	595-03	土師器	盆	SR210 G18 第3層	14.0		4.15 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	今今 老	浜田7/5/6/7/8/9/10 内:浜田7/5/6/7/8/9/10	浜田7/4	
1785	595-02	土師器	盆	SR210 J24 第3層	18.0		4.0 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/5/6/7/8/9/10	浜田7/4	
1786	533-01	土師器	盆	SR210 H24 第5層	12.1		3.0 内:コロナードー外:ヨコササエ 内:コロナード	老	浜田7/5/7/8/9/10	浜田7/4	

第57表 遺物観察表42

番号	実測 等号	種類	種類分類	出土位置	基盤 口径(直径) 幅高	断面(cm)	開削後底の特徴		土 質	色 調	性 質
							内	外			
1787	573- 03	土葬墓	杯	SR216	03 第4層	0.60	0.0	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1788	619- 01	土葬墓	杯	SR216	J30 第2層	04.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1789	604- 03	土葬墓	杯	SR216	H24 第1層	03.40	0.30	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1790	610- 03	土葬墓	杯	SR216	P17 第1層	03.00		内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1791	571- 04	土葬墓	杯	SR216	J26 第1層	03.00	0.10	内: 内 H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1792	604- 06	土葬墓	杯	SR216	I29 第3層	04.50	0.20	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1793	605- 05	土葬墓	杯	SR216	K30 第3層	03.00	0.20	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1794	613- 01	土葬墓	杯	SR216	J22 第2層	04.40	0.30	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1795	555- 05	土葬墓	杯	SR216	G26 第5層	05.00	0.70	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1796	602- 06	土葬墓	杯	SR216	H24 第3層	05.00	0.20	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1797	599- 05	土葬墓	杯	SR216	H24 第3層	05.00	0.20	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1798	595- 02	土葬墓	杯	SR216	H23 第3層	03.00	0.10	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1799	571- 01	土葬墓	杯	SR216	H23 第3層	03.00	3.5	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1800	540- 02	土葬墓	杯	SR216	I25 第3層	05.00	0.10	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1801	619- 05	土葬墓	杯	SR216	J29 第2層	03.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1802	603- 01	土葬墓	杯	SR216	K27-30 第2-3層	16.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1803	603- 02	土葬墓	杯	SR216	K27-30 第2-3層	16.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1804	533- 05	土葬墓	杯	SR216	G24 第5層	02.00	0.30	外: H20ナード 内: H20ナード	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1805	561- 05	土葬墓	杯	SR216	G26 第5層			内: H20ナード	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1806	503- 01	土葬墓	杯	SR216	H20 第3層	13.2	3.1	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1807	576- 04	土葬墓	杯	SR216	P17 第1層	03.00	0.0	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1808	574- 03	土葬墓	杯	SR216	I24 第4層	12.8	3.0	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1809	532- 02	土葬墓	杯	SR216	I24 第5層	05.00	0.30	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1810	601- 02	土葬墓	杯	SR216	I21 第5層	13.8	2.9	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1811	515- 04	土葬墓	杯	SR216	J20 第4層	12.00	0.20	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1812	581- 02	土葬墓	杯	SR216	H23 第4層	04.20	0.20	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1813	549- 03	土葬墓	杯	SR216	I22 第5層	13.00		内: 内 H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1814	599- 03	土葬墓	杯	SR216	H23 第3層	12.7	0.45	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1815	559- 03	土葬墓	杯	SR216	G16 第5層	15.00	3.05	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1816	531- 02	土葬墓	杯	SR216	I22 第5層	14.00	3.0	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1817	517- 02	土葬墓	杯	SR216	I24 第5層	14.00	0.40	外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1818	518- 03	土葬墓	杯	SR216	I24 第5層	08.40	0.45	内: 内 H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1819	564- 02	土葬墓	杯	SR216	J26 第5層	16.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1820	529- 01	土葬墓	杯	SR216	I23 第5層	16.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1821	551- 01	土葬墓	杯	SR216	K29 第5層	07.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1822	549- 03	土葬墓	杯	SR216	H25 第5層	07.00		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1823	554- 09	土葬墓	杯	SR216	K29 第5層	07.40		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1824	559- 01	土葬墓	杯	SR216	F19-19 第1層	05.10		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1825	627- 01	土葬墓	杯	SR216	I25	04.80		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1826	587- 03	黑色土	杯	SR216	G14-K23 第3層	06.00		内: 内 H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1827	595- 04	土葬墓	小鼎	SR216	J22 第5層	01.10	0.10	内: 内 H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1828	624- 05	クロロ	豆	SR216	J23 第1層	8.0		外: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1829	595- 05	ソリ	豆	SR216	H15 第5層	5.5		外: H20ナード+オサエ 内: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1830	625- 03	ソリ	豆	SR216	J22	1.0		外: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2
1831	619- 02	クロロ	豆付盆	SR216	H19 第1層	4.0		外: H20ナード+オサエ	砂	黄 色	底: 5.5m/2 内: 5.5m/2

第58表 遺物観察表④

番号	測量 場所	種類	基層分類	出土位置	法線 (cm)	断面 寸法	断面 形状	測量直前の作業	地 主 風	色 調	性 質	備 考
内 外	内 外											
1821 05	ヨコロ 合付皿	SR210	G20 第1層		3.8		内-コロゾーナ-リの痕 内-コロゾーナ-リの痕	定 定	灰白0.098/2	濃部充利		
1833 05	ヨコロ 鉢	SR210	H22 第1層		(7.7)		内-コロゾーナ-リの痕 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/3	高台1/4		
1834 04	ヨコロ 鉢	SR210	H18 第1層		3.8		内-コロゾーナ-リの痕 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2 内-黒青空気孔3/1	濃部充利		
1835 04	土質鉢	SR210	K25 第1層	(11.4)			外-内-ヨコロ-ナ-リ	シ シ	灰白0.097/3	口綫1/2	内面に化粧仕事	
1836 03	土質鉢	SR210	J24	(19.4)			内-コロゾーナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.097/3	口綫1/2		
1837 02	土質鉢	SR210	J27 第2層	(20.4)			内-コロゾーナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/1他	口綫1/2		
1838 01	土質鉢	SR210	P19 第5層				内-ハラモ-ナ-リ-ナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2	濃部のみ		
1839 04	土質品 製塙土器	SR210	J24 第4層				内-ナ-リ-ナ-リ-ナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.095/4	口綫小井		
1840 03	土質品 製塙土器	SR210	K25 第3層				内-ナ-リ	中 中	灰白0.095/3	口綫小井		
1841 02	土製品 製塙土器	SR210	J24 第3層				内-ナ-リ	中 中	灰白0.095/3	濃部小井		
1842 03	土製品 製塙土器	SR210	H22 第2層				内-ナ-リ	中 中	灰白0.095/4	濃部小井		
1843 03	土製品 製塙土器	SR210	I25 第5層				内-ナ-リ	中 中	灰白0.095/4	濃部小井		
1844 03	土質鉢	SR210	J29 第2層	(7.4)	(1.0)		内-ナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1845 04	土質鉢	SR210	K29 第2層	(7.4)	(0.9)		内-ナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/1	口綫1/2		
1846 01	土質鉢	SR210	K28 第1層	6.8	1.1		内-内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/1	口/3		
1847 10	土質鉢	SR210	J24 第1層	7.4	1.2		内-内-コロゾーナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口/4		
1848 05	土質鉢	SR210	K29 第2層	7.2	1.3		内-コロゾーナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/3	実跡 室内		
1849 02	土質鉢	SR210	K29 第3層	(8.0)	0.3		ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1850 02	土質鉢	SR210	K29 第2層	7.6	1.45		内-コロゾーナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2	実跡		
1851 04	土質鉢	SR210	J27 第1層	8.4	1.3		内-コロゾーナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1852 04	土質鉢	SR210	K26 第1層	7.7	1.3		ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1853 05	土質鉢	SR210	J27 第4層	8.7	1.6		内-ナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2他	口綫1/2		
1854 03	土質鉢	SR210	K29 第3層	8.0	1.3		ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1855 03	土質鉢	SR210	J29 第3層	8.0	1.4		ナ-リ-ナ-リ-ナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2他	口/4		
1856 02	土質鉢	SR210	K29 第2層	8.4	1.3		内-ナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1857 02	土質鉢	SR210	J29 第2層	11.5	2.4		ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1858 05	土質鉢	SR210	K27 第1層	(11.0)	1.25		ナ-リ	中 中	灰白0.098/3	口綫1/2		
1859 05	土質鉢	SR210	K27 第1層	(12.0)	0.7		ナ-リ-ナ-リ-ナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口/4		
1860 02	土質鉢	SR210	I29 第3層	(12.2)	0.4		ナ-リ-ナ-リ-ナ-リ 内-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2他	口綫1/2		
1861 01	土質鉢	SR210	K28 第1層	13.0	2.9		内-コロゾーナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2	元形		
1862 05	土製品	SR210	K23 第2層	9.6	0.4		ナ-リ	中 中	灰白0.098/3	口綫1/2		
1863 04	土製品	SR210	K21 第1層	9.4	0.45		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1864 05	土製品	SR210	H21 第1層	9.4	1.0		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1865 04	土製品	SR210	I26 第3層	9.5	1.2		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1866 07	土製品	SR210	G19 第2層	9.6	0.4		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	上穴欠け 重慶1kg		
1867 04	土製品	SR210	H21 第1層	9.4	1.0		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/1他	口綫1/2		
1868 04	土製品	SR210	H19 第3層	9.4	1.3		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/1他	口綫1/2		
1869 02	土製品	SR210	H26 第1層	9.5	0.45		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/1他	口綫1/2		
1870 02	土製品	SR210	H26	9.7	2.4		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	元形 重慶1kg		
1871 04	土製品	SR210	I26 第1層	9.5	2.2		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2他	口綫1/2		
1872 04	土製品	SR210	H23 第3層	9.3	3.3		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/1他	元形 重慶1kg		
1873 03	土製品	SR210	K27 第3層	9.3	3.5		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	元形 重慶1kg		
1874 02	陶器	SR210	G21 第2層	9.9	0.4		ナ-リ-ナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1875 03	陶器	SR210	G21 第2層	9.6	0.2	0.6	内-コロゾーナ-リ-萬葉時代後ナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/2	口綫1/2		
1876 07	陶器	SR210	G20	(9.5)	4.4	(3.1)	内-コロゾーナ-リ-萬葉時代後ナ-リ 内-コロゾーナ-リ	中 中	灰白0.098/1	濃部充利 自然物		

第59表 遺物観察表44

番号	実物 番号	種類	着目分類	出土位置	法線 (cm)	測定方法	測定結果の特徴		測定 方法	色 調	現存 状況	備考
							口径	迷径	裏裏			
1877	581-06	陶器	山系	SR210 J26 第4層	(9.0) (14.0)	(2.3)	外:コロコロマーク-鶴の目付合	内:コロコロマーク	小・中 空	灰白D.5VW/1	C4H/1	高台に軽取道
1878	420-05	陶器	山系	SR210 G21 第1層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合	内:コロコロマーク	小・中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1879	421-07	陶器	山系	SR210 J22	(14.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合	内:コロコロマーク	小・中 空	灰白D.5VW/1	定期	—
1880	421-03	陶器	山系	SR210 H23 第1層	(17.0) (17.0) (8.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/2	定期/2	内地に自然地
1881	423-02	陶器	山系	SR210 J26	(15.0)	—	外:内:コロコロマーク	内:コロコロマーク	小・中 空	灰白D.5VW/1	C4H/1	—
1882	626-06	陶器	山系	SR210 J22	(16.0) (7.0) (13.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1883	612-04	陶器	山系	SR210 G21 第2層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1884	594-04	陶器	山系	SR210 G20 第3層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1885	555-02	陶器	山系	SR210 J22 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1886	581-01	陶器	山系	SR210 J26 第4層	(7.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期/2	内地に自然地
1887	426-05	陶器	山系	SR210 J19	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期/2	内地に自然地
1888	581-03	陶器	山系	SR210 J22 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1889	556-01	陶器	山系	SR210 J27 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1890	555-03	陶器	山系	SR210 J28 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1891	626-02	陶器	山系	SR210 J20	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期/2	内地に自然地
1892	605-03	陶器	山系	SR210 J20 第3層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1893	612-01	陶器	山系	SR210 J27	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1894	612-04	陶器	山系	SR210 G21 第2層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1895	624-03	陶器	山系	SR210 H23 第3層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1896	581-02	陶器	山系	SR210 F19 第2層	(7.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1897	581-05	陶器	山系	SR210 J19 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1898	581-04	陶器	山系	SR210 J22 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1899	556-02	陶器	山系	SR210 F18 第2層	(7.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/2	定期定期	内地に自然地
1900	624-02	陶器	山系	SR210 J27	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1901	581-03	陶器	山系	SR210 J28 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1902	612-02	陶器	山系	SR210 J22 第3層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1903	612-02	陶器	山系	SR210 G21 第1層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1904	616-01	陶器	山系	SR210 G20 第2層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1905	581-05	陶器	山系	SR210 J27 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1906	624-02	陶器	山系	SR210 J27	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1907	581-03	陶器	山系	SR210 J28 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1908	581-04	陶器	山系	SR210 J22	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1909	581-02	陶器	山系	SR210 F18 第2層	(7.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/2	定期定期	内地に自然地
1910	624-02	陶器	山系	SR210 J27	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1911	623-01	陶器	山系	SR210 J19 第2層	(7.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1912	623-02	陶器	山系	SR210 J22 第5層	—	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1913	623-03	陶器	山系	SR210 J19 第2層	(7.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1914	581-05	陶器	山系	SR210 J23	(16.0)	—	外:コロコロマーク-鶴の目付合-切妻の痕	内:コロコロマーク	中 空	灰白D.5VW/1	定期定期	内地に自然地
1915	2003-01	木製品	骨	SR210 J23 第4層	(6.0)	—	表面に使用痕	表面に使用痕	中 空	灰白S.VW/1	定期/5	外に自然地
1916	2003-02	木製品	骨	SR210 K27 第5層	(1.0)	—	表面に使用痕	表面に使用痕	中 空	灰白S.VW/1	定期/5	内地に自然地
1917	2004-02	木製品	骨	SR210 K25 第4層	(12.0)	—	表面に使用痕	表面に使用痕	中 空	灰白S.VW/1	定期/5	内地に自然地
1918	2004-03	木製品	骨	SR210 J26 第1層	—	—	表面に使用痕	表面に使用痕	中 空	灰白S.VW/1	定期/5	内地に自然地
1919	2005-03	木製品	骨	SR210 H18 第4層	(10.0)	—	表面に使用痕	表面に使用痕	中 空	灰白S.VW/1	定期/5	内地に自然地

第60表 遺物観察表45

番号	実測 寸号	種類	基盤分類	出土位置	法線 (cm)		調整接合の特徴	施 工	被 覆	色 調	残 存	考 察
					口径	旋び						
1926	2064	木製品	複合五	SR210	F18 第4番	南北	加工痕不規則	2/3	樹種不明			
1926	2148	木製品	木舟	SR210	F19 第4番	南北	加工痕不規則	2/3片	樹種不明			
1921	2065	木製品	浮子	SR210	H21 第6番	南北	六方柱	小片	樹種不明			
1923	2219	木製品	浮子	SR210	H21 第6番	南北	六方柱	小片	樹種不明			
1924	2051	木製品	浮子	SR210	K2	南北	六方柱	小片	樹種不明			
1924	2052	木製品	浮子	SR210	K2	南北	六方柱	28.1 4.15 0.8	加工痕不規則 合成孔カリ 赤目駄	7	樹種不明	
1925	2013	木製品	板状	SR210	H21 第6番	南北	六方柱	27.3 2.3 0.7	加工痕不規則 穴あき 板目駄	7	樹種不明	
1926	2067	木製品	板状	SR210	G17 第6番	南北	六方柱	27.3 2.3 0.7	加工痕不規則 穴あき 板目駄	7	樹種不明	
1921	2047	木製品	板状	SR210	K15 第3番	南北	六方柱	36.0 1.0 0.8	加工痕不規則 板目駄	7	樹種不明	
1926	2217	木製品	板状	SR210	J24 第5番	南北	六方柱	37.7 1.0 0.8	加工痕不規則 板目駄	7	樹種不明	
1929	2047	木製品	板状	SR210	K20 第5番	南北	六方柱	30.8 1.3 1.3	加工痕不規則 板目駄	7	樹種不明	
1930	2065	木製品	板状	SR210	J23 第5番	南北	六方柱	41.3 12.5	一部削痕 木材そのまま使用		樹種不明	
1931	2056	木製品	板状	SR210	K26 第5番	南北	六方柱	南北	加工痕不規則 穴あき 赤目駄	7	樹種不明	
1932	2064	木製品	板状	SR210	J27 第4番	南北	六方柱	33.6 8.5 2.3	加工痕不規則 板目駄	7	樹種不明	
1933	2067	木製品	板状	SR210	I24 第4番	南北	六方柱	30.0 10.6 1.4	加工痕不規則 穴あき	7	樹種不明	
1934	2051	木製品	板状	SR210	K26 第5番	南北	六方柱	30.2 1.2 1.2	加工痕不規則 穴あき	7	樹種不明	
1935	2053	木製品	板状	SR210	J27 第5番	南北	六方柱	30.7 1.7 1.5	加工痕不規則 穴あき	7	樹種不明	
1936	2062	木製品	板	SR210	H21 第6番	南北	六方柱	36.0 3.5	先端尖ら 木材そのまま使用	1/2	樹種不明	
1937	2052	木製品	板	SR210	F19 第4番	南北	六方柱	30.7 1.0 0.4	先端尖ら 木材そのまま使用	1/2	樹種不明	
1938	2043	木製品	板	SR210	J22	南北	六方柱	30.0 8.7	先端尖ら 木材そのまま使用	1/2	樹種不明	
1939	2055	木製品	板状	SR210	A1	南北	六方柱	12.9 0.8 0.8	一方の面削痕 木材そのまま使用	1/2	計算値	
1940	2051	木製品	板状	SR210	A19 第4番	南北	六方柱	40.2 2.0 0.8	一方の面削痕 切込み左に4ヶ所 板目駄	1/2	計算値	
1941	2251	木製品	板状	SR210	K2 第5番	南北	六方柱	30.7 1.0 0.4	上端斜面部 切込みなし 下端斜面部 木目駄	1/2	計算値	
1942	2024	木製品	板状	SR210	C1	南北	六方柱	16.2 1.0 0.5	上端斜面部 切込みなし 下端斜面部 木目駄	1/2	計算値	
1943	2053	木製品	板状	SR210	E23 第5番	南北	六方柱	23.1 1.0 0.5	尖端尖ら削むけ 上端斜面部 下端斜面部 線目駄	1/2	計算値	
1944	2054	木製品	板状	SR210	G19 第4番	南北	六方柱	24.4 2.0 0.4	尖端から削むけ 上端斜面部 線目駄	1/2	計算値	
1945	2062	木製品	板状	SR210	N23 第4番	南北	六方柱	24.4 2.3 0.9	上端斜面部 切込み左右2ヶ所 下端斜面部 板目駄	1/2	計算値	
1946	2050	木製品	板状	SR210	K2 第5番	南北	六方柱	21.7 1.0 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所 下端斜面部 線目駄	1/2	計算値	
1947	2217	木製品	板状	SR210	G2 第5番	南北	六方柱	32.0 2.5 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1948	2218	木製品	板状	SR210	G3 第5番	南北	六方柱	36.2 2.4 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1949	2059	木製品	板状	SR210	K26 第5番	南北	六方柱	31.1 2.3 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1950	2042	木製品	板状	SR210	I22 第5番	南北	六方柱	33.5 1.9 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1951	2215	木製品	板状	SR210	E20 第4番	南北	六方柱	40.6 1.2 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1952	2057	木製品	板状	SR210	J22 第5番	南北	六方柱	21.2 1.5 0.7	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1953	2059	木製品	板状	SR210	I22 第4番	南北	六方柱	25.0 1.9 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1954	2219	木製品	板状	SR210	G17 第4番	南北	六方柱	31.4 1.2 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1955	2055	木製品	板状	SR210	C19 第4番	南北	六方柱	32.0 2.3 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1956	2056	木製品	板状	SR210	J22 第5番	南北	六方柱	27.0 1.2 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1957	2012	木製品	板状	SR210	I23 第5番	南北	六方柱	21.2 1.5 0.7	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1958	2059	木製品	板状	SR210	I22 第4番	南北	六方柱	31.1 1.7 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1959	2055	木製品	板状	SR210	J12 第5番	南北	六方柱	31.7 2.2 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1959	2216	木製品	板状	SR210	G17 第4番	南北	六方柱	32.0 2.3 0.4	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1960	2054	木製品	板状	SR210	J18 第5番	南北	六方柱	26.2 3.2 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1961	2020	木製品	板状	SR210	G28 第5番	南北	六方柱	21.5 1.9 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1962	2054	木製品	板状	SR210	G19 第4番	南北	六方柱	24.2 2.1 0.5	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	
1963	2053	木製品	板状	SR210	K25 第5番	南北	六方柱	18.4 1.4 0.3	上端斜面部 切込み左右2ヶ所以上で複数回入る	1/2	計算値	

第61表 遺物観察表

第62表 遺物觀察表④

番号	学術 参考 番号	種類	基準分類	出土位置	延長 (cm)	調査花紋の特徴	地 域	内 容	存 在	備 考
2008	-01	木製品	漆串 C	SR210 J23 第5層	67.2	3.8 0.7	上端斜削状、切込み深さを右より左にあり、間に複数	JR3	計測用	
2009	-01	木製品	漆串 C	SR210 J23	7.5	1.6 0.4	上端斜削状、切込み子母、嵌目取		計測用	
2010	-04	木製品	漆串 C	SR210 J23 第5層	12.2	2.0 0.5	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2111	-2215	木製品	漆串 C	SR210 G17 第4層	9.0	1.8 0.35	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2012	-2538	木製品	漆串 C	SR210 J22 第5層	10.4	2.8 0.4	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2013	-01	木製品	漆串 C	SR210 J22 第5層	11.0	2.1 0.4	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2014	-03	木製品	漆串 C	SR210 G19 第4層	10.0	1.3 0.5	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2015	-2215	木製品	漆串 C	SR210 N21 第4層	8.3	1.1 0.4	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2016	-2214	木製品	漆串 C	SR210 G18 第5層	13.5	3.9 0.8	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2017	-04	木製品	漆串 C	SR210 J24 第8層	9.0	2.5 0.2	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2018	-2040	木製品	漆串 C	SR210 J22 第5層	10.4	2.8 0.4	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2019	-2215	木製品	漆串 C	SR210 J22 第5層	17.0	2.2 0.55	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2020	-02	木製品	漆串 C	SR210 K23 第4層	14.7	2.3 0.8	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2021	-2405	木製品	漆串 C	SR210 H21 第4層	10.4	2.0 0.2	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2022	-2040	木製品	漆串 C	SR210 K27 第5層	10.4	2.2 0.3	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2023	-04	木製品	漆串 C	SR210 K26 第5層	12.2	1.3 0.4	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2024	-2040	木製品	漆串 C	SR210 J22 第5層	10.4	2.0 0.2	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2025	-2218	木製品	漆串 C	SR210 K24 第4層	15.7	3.8 0.8	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2026	-03	木製品	漆串 C	SR210 K29 第5層	25.4	1.2 0.2	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2027	-2210	木製品	漆串 C	SR210 K26 第5層	10.4	2.0 0.2	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2028	-03	木製品	漆串 C	SR210 H21 第5層	20.7	2.1 0.7	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2029	-03	木製品	漆串 C	SR210 K22 第5層	30.0	1.8 1.1	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2030	-04	木製品	漆串 C	SR210 K22 第5層	20.3	1.5 0.4	上端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2031	-03	木製品	漆串 C	SR210 J25 第5層	20.4	1.2 0.2	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2032	-01	木製品	漆串 C	SR210 K21 第5層	21.6	1.6 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2033	-2041	木製品	漆串 C	SR210 J19 第3層	10.4	2.0 0.2	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2034	-2047	木製品	漆串 C	SR210 K24 第4層	6.6	1.9 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2035	-01	木製品	漆串 C	SR210 G20 第5層	25.7	2.0 0.7	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2036	-2040	木製品	漆串 C	SR210 K22 第5層	10.4	2.1 0.5	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2037	-01	木製品	漆串 C	SR210 K21 第5層	2.4	1.9 0.2	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2038	-01	木製品	漆串 C	SR210 G17 第4層	20.0	1.7 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2039	-2213	木製品	漆串 C	SR210 K26 第5層	10.4	1.9 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2040	-04	木製品	漆串 C	SR210 J28 第5層	7.3	1.6 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2041	-01	木製品	漆串 C	SR210 J24 第4層	20.4	2.1 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2043	-04	木製品	漆串 C	SR210 J22 第5層	10.4	2.0 0.2	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2044	-02	木製品	漆串 C	SR210 K25 第5層	10.4	1.9 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2045	-2214	木製品	漆串 C	SR210 K22 第5層	10.4	2.0 0.2	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2046	-03	木製品	漆串 C	SR210 J24 第5層	22.3	1.9 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2047	-04	木製品	漆串 C	SR210 H23 第5層	13.0	2.3 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2048	-03	木製品	漆串 C	SR210 K25 第5層	12.7	1.8 0.4	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2049	-02	木製品	漆串 C	SR210 J28 第5層	15.6	1.9 0.5	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2050	-03	木製品	漆串 C	SR210 H24 第4層	14.9	2.1 0.5	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	
2051	-02	木製品	漆串 C	SR210 J24 第4層	17.0	1.9 0.45	下端斜削状、切込み不規、嵌目取		計測用	

第63表 遺物観察表48

番号	実物	種類	選択分類	出土位置	遺物 (cm)	測量接合の特徴	地 上	地 下	色 調	性 質	備 考
2052	2050-01	木製品	柾目 C	SRG10 G26 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約17.4、2.2、0.9				T端部付	計測用
2053	2054-02	木製品	柾目 C	SRG10 G18 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約16.5、0.6、0.3				T端部付	計測用
2054	2054-03	木製品	柾目 C	SRG10 J22 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約16.5、0.6、0.3				T端部付	計測用
2055	2057-02	木製品	柾目 C	SRG10 J24 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約14.0、2.4、0.45				T端部付	計測用
2056	2053-04	木製品	柾目 C	SRG10 G16 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約17.0、1.3、0.6				T端部付	計測用
2057	2059-01	木製品	柾目 C	SRG10 J23 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、2.1、0.6				T端部付	計測用
2058	2040-03	木製品	柾目 C	SRG10 J24 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、1.5、0.5				T端部付	計測用
2059	2032-04	木製品	柾目 C	SRG10 J26 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約17.2、2.1、0.3				T端部付	計測用
2060	2061-01	木製品	柾目 C	SRG10 J24 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、2.1、0.6				T端部付	計測用
2061	2053-03	木製品	柾目 C	SRG10 J23	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約14.2、2.0、0.6				T端部付	計測用
2062	2062-01	木製品	柾目 C	SRG10 J24 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約15.7、2.1、0.6				T端部付	計測用
2063	2057-05	木製品	柾目 C	SRG10 G19 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、2.1、0.6				T端部付	計測用
2064	2055-02	木製品	柾目 C	SRG10 J22	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約14.4、1.0、0.3				T端部付	計測用
2065	2218-05	木製品	柾目 C	SRG10 H21 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約12.0、1.1、0.7				T端部付	計測用
2066	2052-02	木製品	柾目 C	SRG10 K25 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、2.1、0.6				T端部付	計測用
2067	2039-03	木製品	柾目 C	SRG10 K27 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約13.9、1.4、0.5				T端部付	計測用
2068	2041-02	木製品	柾目 C	SRG10 J22 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約10.8、1.3、0.6				T端部付	計測用
2069	2040-01	木製品	柾目 C	SRG10 J24 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、2.1、0.6				T端部付	計測用
2070	2038-02	木製品	柾目 C	SRG10 K27 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約12.4、2.0、0.25				T端部付	計測用
2071	2034-04	木製品	柾目 C	SRG10 H14 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約9.2、2.2、0.6				T端部付	計測用
2072	2035-03	木製品	柾目 C	SRG10 H22 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約11.8、2.1、0.6				T端部付	計測用
2073	2067-01	木製品	柾目 C	SRG10 J28 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約12.1、1.4、0.3				T端部付	計測用
2074	2067-04	木製品	柾目 C	SRG10 G19 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約12.3、1.5、0.6				T端部付	計測用
2075	2036-04	木製品	柾目 C	SRG10 J28 第4層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約18.0、2.1、0.6				T端部付	計測用
2076	2215-05	木製品	柾目 C	SRG10 H23 第5層	高大木・高大幅・厚板	下端斜角状、切込み不規則、板目数約9.2、1.2、0.3				T端部付	計測用
2077	2043-01	木製品	柾目 C	SRG10 T23 第5層	高大木・高大幅・厚板	切込み削除、裏面は丸く削除、板目数約15.5、4.0、1.3				1/2	計測用
2078	2054-04	木製品	柾目 C	SRG10 J23	高大木・高大幅・厚板	切込み削除、裏面は丸く削除、板目数約18.0、2.1、0.6				1/4	計測用
2079	2043-02	木製品	柾目 C	SRG10 H22 第5層	高大木・高大幅・厚板	切込み削除、裏面は丸く削除、板目数約16.9、3.4、2.6				1/2	計測用
2080	2067-01	木製品	柾目 C	SRG10 P19 第4層	高大木・高大幅・厚板	切込み削除、裏面は丸く削除、板目数約14.4、2.0、0.65				1/4	計測用
2081	2064-03	木製品	柾目 C	SRG10 J27 第5層	高大木・高大幅・厚板	切込み削除、裏面は丸く削除、板目数約18.0、2.1、0.6				1/4	計測用
2082	2006-01	木製品	人形	SRG10 J22 第5層	高大木・高大幅・厚板	切込み削除、裏面は丸く削除、手の握りの切込み、下端斜角状、切込み				1/4	計測用
2083	2032-03	生土工	柾目 C	柱穴 G11 PH1	(8.0) 保水率 (13.8)	保水率 内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	小 量	大 量	白 色	1/2	計測用
2084	2037-02	生土工	柾目 C	柱穴 G12 PH1	6.0	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	小 量	大 量	白 色	1/4	計測用
2085	2032-03	生土工	柾目 C	柱穴 A-4~6	1.05 PH1	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	小 量	大 量	白 色	1/2	計測用
2086	2037-01	生土工	柾目 A	柱穴 F17 PH10	17.0	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	黄 褐色	1/4	全体に採用
2087	2039-01	生土工	柾目 D	K74 PH3	3.0 (3.4)	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	小 量	大 量	白 色	1/4	採用
2088	2039-02	生土工	柾目 E	I-16 PH1	23.8	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	小 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落あり
2089	2039-06	土埋蔵	柾目 F	J38 PH16	13.0	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落あり
2090	2039-04	土埋蔵	柾目 G	J37 PH3	11.6 (7.0) (2.0)	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落
2091	2039-04	土埋蔵	柾目 H	O95 PH6	13.0	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落
2092	2037-03	土埋蔵	柾目 I	O95 PH6	11.8~12.1	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落
2093	2037-02	土埋蔵	小柱	O95 PH6	10.2	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落
2094	2036-03	土埋蔵	小柱	ZD PH1	9.8	内:コロナーディテナード、底面4×4本 内:コロナーディテナード、側面4×2本	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落
2095	2043-01	土埋蔵	小柱	H16 PH2	10.0 (0.0)	外:内:ナット	中 量	大 量	白 色	1/2	外壁に一部剥落

第64表 遺物観察表④

番号	実物 番号	種類	基準分類	出土位置	法線 (cm)	調整方法の特徴	調 整 方 法	色 調	堆 存	備 考
口径	津押	底面								
2096	267- 01	土師器	小皿	柱穴	M84 Ph2	9.5	1.95 内:コロナリーナード 内:コロナリーナード、ヨビササニ	重 層 法	青 内:灰白0.98/2 内:灰白0.98/2	完形
2097	268- 01	土師器	小皿	柱穴	G85 Ph3	9.0- 11.1	2.5 内:内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2 内:灰白0.98/2	凹印/4
2098	267- 06	土師器	台付盆	柱穴	N84 Ph1	10.0	5.0 2.6 内:コロナリーナード/内:底面 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2 内:灰白0.98/2	底面 底面完形
2099	268- 04	土師器	台付盆	柱穴	L87 Ph3	10.0	6.2 2.7 内:コロナリーナード/高台付盆/内:底面+コロナリーナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面完形
2100	268- 06	土師器	台付盆	柱穴	L77 Ph1	14.4	7.5 3.3 内:コロナリーナード/内:底面 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面完形
2101	267- 05	土師器	碗	柱穴	E78 Ph1	13.1	8.2 3.3 内:コロナリーナード/高台付盆/内:底面+コロナリーナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面完形
2102	425- 01	土師器	碗	柱穴	E23 Ph4	15.1	12.5 内:コロナリーナード/内:底面 内:コロナリーナード+コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面 底面/4 外面に灰化物付着
2103	670- 01	土製品	土敷瓦	柱穴	J43 Ph102	最大長 6.1 最大幅 6.1 厚さ 5.3	手削で企子+側面彫刻あり、下部丸み+ナード	粗 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹/2
2104	670- 06	土製品	度板土蔵	柱穴	F16 Ph2	-	内:コロナリーナード/内:底面 内:コロナリーナード	粗 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹/2
2105	269- 03	土製品	度板土蔵	柱穴	L-M85 Ph1	22.2	(S.95) 内:内:内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	底面/4 外面に灰化物付着
2106	671- 04	土師器	小皿	柱穴	J46 Ph4	7.4	0.95 内:コロナリーナード 内:工芸ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面完形
2107	671- 03	土師器	小皿	柱穴	J46 Ph4	7.4	1.2 内:コロナリーナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印
2108	671- 02	土師器	小皿	柱穴	F39 Ph1	7.4	1.45 内:コロナリーナード 内:工芸ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2 内:底面+灰白0.98/4	凹印/4 底面完形
2109	268- 02	陶器	直底	柱穴	L-M85 Ph1	13.5	7.3 2.8 内:コロナリーナード/高台付盆/内:底面+ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面完形 底面内側面+凹
2110	268- 05	陶器	直底	柱穴	H81 Ph2	11.0	7.2 2.5 内:コロナリーナード/高台付盆/内:底面+ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面内側面+凹
2111	426- 01	陶器	直底	柱穴	H19 Ph9	17.2	7.2 9.4 内:コロナリーナード/内:底面+ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1	凹印/4 底面内側面+凹
2112	569- 05	陶器	直底	柱穴	J43 Ph3	15.0	6.0 4.0 内:コロナリーナード/高台付盆/内:底面+ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1	凹印/4 底面完形
2113	274- 02	微生物土器	包合層	EB	-	内:コロナリーナード/ハケルガル/コロナリーナード、鏡面に凹に見える 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面	
2114	265- 01	微生物土器	包合層	B-C78	8.0	4.0 21.4 内:コロナリーナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面完形	
2115	419- 01	微生物土器	包合層	E7	8.8	5.0 16.0 内:コロナリーナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面完形	
2116	264- 01	微生物土器	包合層	P79	12.0	- 内:コロナリーナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面完形	
2117	264- 01	微生物土器	包合層	D68 No.1-2	11.6	内:コロナリーナード/ハケルガル/コロナリーナード、鏡面に凹に見える 内:コロナリーナード/内:ナード/コロナリーナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面	
2118	264- 01	微生物土器	包合層	P79	19.8	- 内:コロナリーナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面	
2119	417- 04	微生物土器	包合層	P15 ハンガ	18.0	外:コロナリーナード/内:底面+ナード 内:コロナリーナード/内:ナード/ハケルガル	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面/4 外面に埋付事	
2120	255- 01	微生物土器	包合層	P79	18.0	外:コロナリーナード/内:ナード/ナード、斜面凹段 内:コロナリーナード/内:ナード/ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面凹段	
2121	665- 03	微生物土器	C2	包合層	G58	11.0	4.0 23.2 内:コロナリーナード/内:ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面/4 外面に埋付
2122	665- 04	微生物土器	C1	包合層	G58	10.0	3.3 10.0 内:コロナリーナード/内:ナード 内:コロナリーナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面
2123	418- 01	微生物土器	C1	包合層	N17	10.2	4.0 9.0 内:コロナリーナード/内:ナード 内:コロナリーナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面/4 底面完形
2124	264- 01	微生物土器	C3	包合層	B-C75	10.0	3.4 8.15 内:コロナリーナード/コロナリーナード 内:コロナリーナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面完形
2125	262- 01	微生物土器	E1	包合層	D68 No.1-1	17.5	6.4 14.05 内:コロナリーナード/内:ナード/コロナリーナード/内:ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面
2126	417- 01	微生物土器	E3	包合層	E43	6.1	0.95 内:コロナリーナード/コロナリーナード 内:コロナリーナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面
2127	275- 05	微生物土器	土師A1	包合層	E69 ハンガ	14.7	3.1 10.75 内:コロナリーナード/ハケルガル/内:ナード/ハケルガル 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面完形
2128	275- 03	微生物土器	土師A1	包合層	N72 ハンガ	2.9	- 内:ナード/壁面凹段/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/4	凹印/4 底面完形
2129	414- 04	微生物土器	土師A1	包合層	H24	3.7	- 内:コロナリーナード/内:ナード/コロナリーナード/内:ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面
2130	252- 09	微生物土器	土師B	包合層	J79	2.5	- 内:ナード/壁面凹段/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/1泡	凹印/4 底面
2131	252- 03	微生物土器	土師B	包合層	J81	(4.5)	3.9 (5.0) 内:ナード/内:ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	凹印/4 底面
2132	276- 04	微生物土器	土師C2	包合層	N73	(2.0)	1.2 1.0 内:ナード/壁面凹段/内:ナード 内:コロナリーナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/6	凹印/4 底面
2133	430- 01	石器	石錐	包合層	J18	2.5	2.3 0.5 内:大丸/直丸/直大丸/直大丸 内:直丸/直丸/直丸	重 層 法	青 内:灰白0.98/4	チャート 重量:0.4kg
2134	624- 01	石器	石臼	包合層	J18	2.5	2.3 0.5 内:大丸/直丸/直大丸 内:直丸/直丸/直丸	重 層 法	青 内:灰白0.98/4	石臼/直底 重量:0.4kg
2135	624- 01	石器	直底	包合層	J7	12.0	5.9 21.25 内:コロナリーナード/ハケルガル/内:ナード/ハケルガル/内:ナード/内: ナード	重 層 法	青 内:灰白0.98/2	外観に異常あり

第65表 遺物観察表50

番号	表面 番号	種類	表面部分	出土位置	遺物(c.m.)		調査発見の特徴	新 土 成 分	色 調	残存	備考		
					口径	溝深							
2136	419- 02	古文 丸筒	包合層	P28	8.0	3.55	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	レ-レ-黄褐色/0987/3			
2137	422- 03	古文 丸筒	包合層	O15	14.9	10.3	12.9	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(1986/6 内-V97/6)	1/2	
2138	429- 01	古文 丸筒	包合層	O15	16.1	10.6	12.8	赤-コロナードマーカリ-コロナードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(1986/6 内-V97/6)		
2139	276- 03	鐵錠	包合層	P23	12.6	3.5	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(1986/6 内-V97/6)	1/2		
2140	251- 01	漆器蓋	鉢身	G85	13.2	5.0	3.4	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(1986/6 内-V97/6)	1/2	
2141	422- 02	土陣器	直	包合層	H26	0.85	0.40	0.85	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	赤-黒-褐色/0986/4 内-赤-黒-褐色/0987/3	遺物表面に縦列 状の凹凸
2142	568- 01	土陣器	直	包合層	紳士中	15.5	8.0	3.3	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	赤-褐色/0985/4 内-にんじん褐色/0984/4	遺物表面に縦列・斜列状
2143	411- 01	土陣器	直	柱合層	L18	10.70	0.20	0.23	赤-黒コドマードマーカリ	密	良	良(1987/6 内-V98/3)	
2144	415- 02	土陣器	直	包合層	L19	13.4	2.85	2.85	赤-黒コドマードマーカリ	密	良	良(1987/6 内-V98/3)	外側に縦列する様子
2145	463- 02	土陣器	直	包合層	O25	0.30	0.20	0.30	赤-黒コドマードマーカリ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(1987/6 内-にんじん褐色/0987/3)	1/2
2146	251- 02	土陣器	直	包合層	M84	0.10	0.40	0.10	赤-黒コドマードマーカリ-オサニ	密	良	赤-褐色/0987/2 内-灰褐色/0987/2	1/2
2147	256- 01	土陣器	直	包合層	P76	14.9	3.8	3.8	赤-黒コドマードマーカリ-黒コロビオシス-工具痕	今今 色	良	良(1988/2)地	1/4
2148	276- 02	土陣器	直	包合層	貴士中	0.10	0.30	0.30	赤-黒コドマードマーカリ-工具痕	今今 色	良	良(1988/2)	1/4
2149	422- 02	土陣器	直	竹合層	J31	0.15	4.05	0.80	赤-黒コドマードマーカリ-黒コロビオシス-工具痕-黒コロビオシス-工具痕	密	良	良(2.59%3/1)	1/3
2150	252- 06	土陣器	直	竹合層	P76	0.15	5.6	2.0	赤-黒コドマードマーカリ-黒コロビオシス-工具痕	今今 色	良	赤-褐色/0987/2 内-灰褐色/0987/2	1/4
2151	684- 08	土陣器	直	包合層	J24	9.0	3.0	1.8	赤-黒コドマードマーカリ-工具痕	密	良	良(1988/3 内-コロナードマーカリ)	1/2
2152	479- 01	土陣器	直	包合層	G8	0.80	4.5	5.1	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	今今 色	良	良(1988/2)	1/2
2153	251- 04	土陣器	直	包合層	P76	9.5	4.2	1.7	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	密	良	良(1988/2)	1/2
2154	275- 04	土陣器	直	包合層	O85	10.4	5.0	4.75	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	密	良	赤-灰褐色/0987/1 内-灰褐色/0987/1	1/2
2155	261- 02	土陣器	直	包合層	B75	10.3	6.0	1.95	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	今今 色	良	赤-褐色/0987/2 内-灰褐色/0987/2	1/2
2156	263- 02	土陣器	直	包合層	D74	9.8	5.1	1.8	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	今今 色	良	良(1988/3 内-コロナードマーカリ)	1/2
2157	417- 02	土陣器	直	包合層	J26	12.7	4.6	6.65	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	密	不	良(0.59%2地)	1/4 部分失
2158	422- 03	土陣器	直	包合層	D21	0.43	6.1	0.55	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	密	良	良(0.59%2)	1/2
2159	254- 03	土陣器	直	包合層	P86	0.10	7.4	0.55	赤-黒コドマードマーカリ-オサニ-黒コロビオシス-工具痕	密	不	にんじん褐色/0987/3	遺物表面
2160	418- 01	土陣器	直	包合層	J25	0.10	6.8	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	密	良	良(0.59%2)	1/2
2161	279- 01	土陣器	直	包合層	F75-76	26.8	—	—	赤-黒コドマードマーカリ-オサニ-黒コロビオシス-工具痕	密	不	良(2.59%3)	1/2
2162	251- 02	土陣器	直	包合層	F76	0.20	26.0	—	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	今今 色	良	良(0.59%2)	1/2
2163	664- 06	土陣器	小底	包合層	J28	8.1	1.2	0.40	赤-黒コドマードマーカリ	密	良	良(2.59%3/1)	1/2
2164	687- 02	土陣器	小底	包合層	J25	7.9	1.25	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-ビビサニ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(2.59%3/1)	1/2
2165	464- 01	土陣器	小底	包合層	K18	9.6	1.5	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-ビビサニ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(2.59%3/1)	1/2
2166	159- 01	土陣器	小底	包合層	P75	9.6	1.05	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-ビビサニ 内-コロナードマーカリ-工具痕	密	良	良(2.59%3/2)	1/2
2167	683- 01	土陣器	小底	包合層	試掘No.17	8.7	1.7	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-ビビサニ 内-コロナードマーカリ	密	良	良(2.59%3/2)	1/2
2168	255- 03	土陣器	直	包合層	M84	0.10	0.40	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-工具痕-ビビサニ 内-コロナードマーカリ	今今 色	良	良(0.59%2)	1/2
2169	275- 01	土陣器	直	包合層	L75	0.40	0.40	0.40	赤-黒コドマードマーカリ-鉛鉄痕	密	良	良(0.59%2)	1/2
2170	272- 02	ロクロ	直	包合層	—	0.45	6.6	0.50	赤-黒コドマードマーカリ-高台形付け根ナメル-鉛鉄痕	今今 色	不	良(2.59%3/2)	1/2
2171	251- 05	ロクロ	直	包合層	P75	0.15	0.40	0.55	赤-黒コドマードマーカリ-高台形付け根ナメル-鉛鉄痕	今今 色	不	良(2.59%3/2)	1/2
2172	274- 05	土陣器	陶復原	包合層	N87	0.40	0.80	0.50	赤-黒コドマードマーカリ-ビビサニ 内-コロナードマーカリ	密	良	赤-褐色/0987/3	1/2
2173	272- 04	土製品	陶復原	包合層	N87	0.60	—	—	赤-内-ナメル-付合ナメル	今今 色	良	にんじん褐色/0987/4	1/2
2174	565- 01	海螺	山底	包合層	L19	7.7	4.4	2.25	赤-内-コロナードマーカリ-萬古田貝付合ナメル-ビビサニ	密	良	良(0.59/0)	5%
2175	661- 07	海螺	山底	包合層	J24	0.10	0.50	0.30	赤-内-コロナードマーカリ-萬古田貝付合ナメル-ビビサニ	密	良	赤-白(0.59/0)	1/2
2176	261- 06	海螺	山底	包合層	J80	0.10	0.50	0.30	赤-内-コロナードマーカリ-萬古田貝付合ナメル-ビビサニ	密	良	赤-白(0.59/0)	1/2
2177	272- 01	海螺	山底	包合層	N85	0.40	6.5	0.50	赤-内-コロナードマーカリ-萬古田貝付合ナメル-ビビサニ	密	良	赤-白(0.59/0)	1/2
2178	665- 03	海螺	山底	包合層	Z11	0.10	0.30	0.50	赤-内-コロナードマーカリ-萬古田貝付合ナメル-ビビサニ	密	良	赤-白(0.59/0)	1/2

第66表 遺物観察表(5)

番号	実物 番号	種類	器種分類	出土位置	径高 (cm)			調査柱面の特徴	地 成	色 調	性 状	備 考	
					口径	底径	高さ						
2179	417- 03	陶器	山高輪	包含層	722	16.4	7.7	5.25	内・外コロナゲー船形II高台一舟Q7底 内・外コロナゲ	老	灰白S1Y1/1	口幅	
2180	256- 02	陶器	山高輪	包含層	PT5-26	16.5	8.0	5.2	内・外コロナゲー船形II高台一舟Q7底 内・外コロナゲ	老	灰白S1Y1/1	口幅	内部に焼け跡 底部に二重輪
2181	260- 01	陶器	山高輪	包含層	ET6	17.1	7.6	5.55	内・外コロナゲー船形II高台一舟Q7底 内・外コロナゲ	老	灰白S1Y1/1 内・外S1Y1/1	口幅	内部に焼け跡
2182	257- 02	陶器	山高輪	包含層		16.4	7.3	5.85	内・外コロナゲー船形II高台一舟Q7底 内・外コロナゲ	老	灰白S1Y1/1	口幅	底部内面滑らか
2183	265- 02	土製品	土標	包含層	ET6	最大高 約14cm 4.75	1.0	0.5	内・外 内・外	今今 老	黄白S1Y1/1地 灰白	重量3.0kg	
2184	266- 02	土製品	土標	包含層	ET6	最大高 約14cm 4.25	1.0	0.5	内・外 内・外	今今 老	黄白S1Y1/1 灰白	重量2.0kg	
2185	911- 03	金属製品	鉛貝	包含層		直径	穴径	0.55	内・外 内・外	モード黑S1Y1/1 灰白	モード	重量1.47g	

第67表 遺物観察表⑤

V 自然科学分析

1 堀町遺跡（第1次）における自然科学分析

はじめに

堀町遺跡は、柳田川左岸の柳田川低地に位置する。柳田川低地は、柳田川の形成した扇状地性氾濫源ならびに河口三角州からなり、河口付近では自然堤防・旧河道が交錯している（水越、1975）。本遺跡では、発掘調査により弥生時代から室町時代までの遺構・遺物が検出されている。

本報告では、出土した木製品や植生遺体の種類を明らかにし、過去の植物利用に関する資料を得る。また、出土した獸骨や昆蟲化石の種類を明らかにし、土坑の性格推定や古環境に関する資料を得る。なお、獸骨については金子浩昌氏、昆蟲化石については藤山家盛先生にご協力頂いた。その成果を、それぞれ署名原稿として3、4、に掲げた。

1 木製品の樹種

（1）試料

試料は、弥生時代から室町時代の板材・井干材など82点（試料番号1～82）で、試料番号82は炭化材である。各試料の詳細については、樹種同定結果と共に第68表に記した。

（2）方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）、桿目（放射断面）、板目（接縫断面）の3断面の徒手切片を作製する。切片は、ガム・クロラール（塗水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の観察を行い、その特徴から種類を同定する。

炭化材は、木口・桿目・板目の削断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（3）結果

樹種同定結果を第68表に示す。試料の中には、保存状態が良好でないために樹種の同定にいたらない

ものがあった。それらの試料については、観察できた範囲で木材組織の特徴などを記し、組織の観察が全く行えなかった場合には不明とした。また、試料番号11,13,55,76,79,81は樹皮であった。針葉樹2種類（スギ・ヒノキ属）と広葉樹12種類（ハンノキ属、コナラ属、コナラ属、コナラ属、クヌギ属、コナラ属、アカガシ属、ツバツジ・シイノキ属、ヤマグワ・シキミ・クヌキ科、サカキ・ウツギ属、タイミンタチバナ・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

早材部から晚材部への移行はやや急で、晚材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晚材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晚材部への移行は緩やか～やや急で、晚材部の幅は狭い。樹脂細胞は晚材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ハンノキ属 (*Alnus* sp.) カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2～4個が複合または単独、横断面では橢円形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は密に対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～30細胞高のものと集合放射組織がある。

・コナラ属 コナラ属、クヌギ属 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科

環孔材で孔隙部は1～3列、孔隙外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射

組織は同性、單列、1~20細胞高のものと複合放射組織がある。柔組織は周囲状および短接線状。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.) ナメ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1~15細胞高のものと複合放射組織がある。柔組織は短接線状および散在状。

・ツブライジ (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ナメ科シノキ属

環孔材~放射孔材で孔圈部は3~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1~20細胞高のものと集合~複合放射組織がある。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。

・シノキ属 (*Castanopsis* sp.) ナメ科

環孔材~放射孔材で孔圈部は3~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、道管内壁の壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1~20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。

上記のツブライジまたはスダジイ (*C. cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) と考えられるが、確定には至らなかった。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で孔圈部は1~5列、乾材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は單穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性II~III型、1~6細胞幅、1~50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・シキミ (*Illium anisatum* L.) シキミ科シキミ属

散孔材で管壁厚は中庸~薄く、横断面では多角形、単独または2~4例が複合し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状~対列状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性II~I型、1~2細胞幅、1~20細胞高。

・クヌキ科 (*Lauraceae* sp.)

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独まれに2~3個が放射方向に複合する。道管は單穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

以上の特徴から、クヌキ・タブノキ属を除くクヌキ科と考えられるが、種類の同定には至らなかった。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独または2~3個が複合し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列~階段状に配列する。放射組織は異性、單列、1~20細胞高。

・ツツギ属 (*Deutzia* sp.) エキノシタ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独であるがまれに複合する。道管は階段穿孔を有し、段数は20~30。放射組織は大型の異性で、1~4細胞幅、細胞壁が認められる。

・タイモンタチバナ (*Myrsine seguinii* Lev.) ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

散孔材で、道管は単独もしくは2個が放射方向または接線方向に複合し、道管の分布密度は高くない。道管は單穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列する。放射組織は大型の異性で、1~8細胞幅。

・トネリコ属 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科

環孔材で孔圈部は2~3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は單穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性(~異性III型)、1~3細胞幅、1~40細胞高であるが、20細胞高前後のものが多い。

(4) 考察

出土した木製品の時代・時期は、弥生時代後期、弥生時代末期、平安時代、鎌倉時代、室町時代である。このうち、鎌倉時代の試料が最も多い。

各時代の用途別樹種構成を第69表に示す。用途が明確な木製品は、斧柄、舟檣、曲物、漆器等、他

番号	遺構番号	取り上げ番号	時代・時期	用途など	種類
1	SK6	No.	平安時代末期	財	ヤマガラ
2	SK6	No.17	平安時代末期	板	コナラ属アガシ亜属
3	SK8	No.3	鎌生時代末期	板	コナラ属
4	SK8	No.	鎌生時代末期	板	ウツクシ属
5	SK8	No.9	鎌生時代末期	板	ツバキ属
6	SK10	No.	鎌生時代末期	板(板製品)	ハクモク属
7	SK8	No.	鎌倉時代	材(一部焼化)	クスノキ属
8	SK15	No.106	鎌生時代後期	材(一部焼化)	不明
9	SK25	No.	空所時代(戰国期)	漆器	トネリコ属
10	SK31	No.	鎌生時代後期	漆器	サカキ
11	SK31	No.	鎌生時代後期	皮	柳皮
12	SK31	No.	鎌生時代後期	材(一部炭化)	ツブツジ
13	SK31	No.37	鎌生時代後期	板	柳皮
14	SK31	No.35	鎌生時代後期	薄板製品	シイノキ属
15	SK31	No.37	鎌生時代後期	材	コナラ属アガシ亜属
16	SK31	No.53	鎌生時代後期	材	シイノキ属
17	SK31	No.69	鎌生時代後期	材	コナラ属
18	SK31	No.61	鎌生時代後期	骨	コナラ属コナラ亜属タヌキ節
19	SK43	No.	鎌倉時代	漆器	ヒノキ属
20	SK43	No.	平安時代末期	漆器製品	シキ属
21	SK15	No.104	弘生時代(後期)	木製品	コナラ属アガシ亜属
22	SK46	No.4	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
23	SK46	No.8	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
24	SK46	No.11	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
25	SK46	No.15	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
26	SK46	No.17	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
27	SK46	No.18	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
28	SK46	No.71	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
29	SK46	No.8	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
30	SK46	No.25	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
31	SK46	No.26	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
32	SK46	No.27	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
33	SK46	No.29	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
34	SK46	No.30	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
35	SK46	No.31	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
36	SK46	No.32	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
37	SK46	No.33	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
38	SK46	No.54	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
39	SK46	No.36	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
40	SK46	No.40	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
41	SK46	No.45	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
42	SK46	No.47	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
43	SK46	No.15	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
44	SK46	No.46	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
45	SK46	No.47	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
46	SK46	No.48	鎌倉時代	舟戸杓	針葉樹
47	SK46	No.52	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
48	SK46	No.33	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
49	SK46	No.54	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
50	SK46	No.55	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
51	SK46	No.56	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
52	SK46	No.57	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
53	SK46	No.59	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
54	SK46	No.61	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
55	SK46	No.63	鎌倉時代	舟戸杓(漆皮)	柳皮
56	SK46	No.62	鎌倉時代	舟戸杓	スギ
57	SE47	No.1	平安時代前葉	財	スギ
58	SE47	No.3	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
59	SE47	No.4	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
60	SE47	No.5	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
61	SE47	No.10	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
62	SE47	No.11	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
63	SE47	No.12	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
64	SE47	No.13	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
65	SE47	No.2	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
66	SE47	No.3	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
67	SE47	No.4	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
68	SE47	No.5	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
69	SE47	No.8	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
70	SE47	No.9	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
71	SE47	No.11	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
72	SE47	No.12	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
73	SE47	No.13	平安時代前葉	舟戸杓	ツブツジ
74	SE47	No.14	平安時代前葉	舟戸杓	スギ
75	SK15	No.105	鎌生時代後期	舟柄	サカキ
76	SE47	No.	平安時代後期	舟柄(漆皮)	柳皮
77	SE47	No.	平安時代後期	舟柄	スギ
78	SE47	No.1	鎌倉時代	舟柄	スギ
79	SE47	No.1	鎌倉時代	舟柄	スギ
80	SE47	No.2	鎌倉時代	舟柄	スギ
81	SE55	No.2	鎌倉時代	舟柄(漆皮)	柳皮
82	SK61	No.2	先生時代後期	板	タイシタチバナ

第68表 樹種同定結果①

は用途の詳細が不明である。斧柄は、弥生時代後期の3点があり、1点がクヌギ節に、2点がサカキにそれぞれ同定された。農・工具の柄については、これまでにも多くの遺跡で樹種が明らかにされている（島地・伊東、1988）。その結果を見ると、斧柄ではサカキが最も多く使用されている。また、サカキ以外にも多くの樹種が確認されているが、基本的に緻密で堅いある木材が多い。今回の結果はいずれも確認例が比較的多い種類であり、これまでの結果と調和的である。ところで、島地・伊東（1988）によれば鉤・動の柄にはアカガシ亜属が多く認められ、斧柄とは用材選択が異なるということである。このことは、使用する用途に合わせて柄の材質も変えていたことを示唆する。

井戸枠は多くがスギであり、他にはヒノキ属、種類不明の針葉樹、ツブライジが少數確認された。井戸枠の樹種としては、これまでの調査でもヒノキ属やスギが多く確認されており（島地・伊東、1988）、今回の結果も調和的である。これらの種類が多く使用されている背景には、耐水性・耐朽性・加工性などがあったと考えられるが、詳細は不明である。本地域周辺でこれまで行ってきた調査結果からは、スギ材が周辺で比較的手が容易であったことが推定される。

曲物は全てスギであり、「櫛皮」は樹皮であった。曲物には、これまでの調査結果ではヒノキ属が最も多くスギが次にくる（島地・伊東、1988）。これら

の種類が多い背景には、井戸枠と同様に耐水性や加工性を考慮した用材選択があったと考えられる。ヒノキ属とスギについては、使用者の階級等による用材の違いがあったことも考えられるが、現時点では詳細は明らかではない。しかし本地域の場合、スギが容易に入手できることが選択の背景にあったと考えられる。曲物の櫛皮については、調査を行った例が少ない。しかし、当社がこれまで調査してきた試料では、多くの場合樹皮が使用されている。このことから樹皮の使用が一般的であったことが推定される。

室町時代の漆器はトネリコ属であった。トネリコ属は漆器木地として現在でも一般的な木材であり、薄手物に適するとされる（橋本、1979）。遺跡からの出土例は、愛知県清洲城下町遺跡など認められる（鈴木、1992）。これらのこと考慮すれば、本地域でも漆器木地として古くからトネリコ属が利用されていたことが推定される。清洲城下町の例では散孔材のブナ属やトチノキが多く、環孔材のケヤキやトネリコ属は少ない（パリノ・サーヴェイ株式会社、1990；鈴木、1992）。また、時期によって樹種構成が異なる可能性が指摘されている（鈴木、1992）。本地域では、漆器の樹種に関する資料が蓄積段階にあるので、清洲城下町遺跡で認められた変化が本地域でも認められるのは今後の課題である。

その他の木材を見ると、時代・時期に問わらず多くが広葉樹である。その樹種はアカガシ亜属やツブライジを含むシノキ属など、現在の暖温帯に分

樹種	時代別・用途別樹種構成																
	後期 製品名	材 皮	木 材	板 材													
スギ										1	6	9	1			28	4
ヒノキ属										1	1				1		3
針葉樹																	3
ハンノキ属										1							1
クヌギ属																	1
アカガシ亜属		1		1													3
ツブライジ		1															2
ツブライジ		1															2
シイノキ属		1	1														2
ヤマグワ																	1
シキミ																	1
クヌギ科																	1
サカキ			2														2
ウツギ属																	1
タイミンタチバナ							1										1
トネリコ属		1															1
樹皮		1						1									6
不明		1						2									1
合計		2	4	1	3	1	2	1	2	1	1	7	10	1	2	1	82

第69表 時代別・用途別樹種構成

布の中心がある種類が多い。のことから当時の遺跡周辺には、これらの広葉樹を中心とした植生が見られたと推定される。また、ハンノキ属やトネリコ属は、河川沿い等を中心に生育していたことが推定される。この植生は、基本的に現在の周辺地域における植生とも一致しており、遺跡周辺の植生環境はほぼ現在と同様であったと推定される。

2 種実遺体の種類

(1) 試料

試料は、弥生時代から室町時代の遺構から検出された種実遺体は12点(試料番号1~12)である。各試料の詳細は、同定結果と共に第70表に記した。

(2) 方法

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定する。

(3) 結果

結果を第70表に示す。12点の試料はいずれも木本類で、針葉樹1種類(マツ属)と広葉樹3種類(ムクノキ、モモ、エゴノキ属)が同定された。以下に検出された種類の形態的特徴について記す。

・マツ属 (*Pinus sp.*) マツ科

球果が検出された。円錐状卵型で、大きなもので5cm程度。柄はほとんどない。種被は長楕円状の矩形を呈し、先端部は肥厚する。先端部の肥厚は、不規則な4~5角形である。今回検出された個体は肥厚部が比較的薄く、中央に短い突起があることからアカマツ(*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.)の可能性が高い。

・ムクノキ属 (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

番号	遺構	時代・時期	種類
1	SK 6	平安時代末期	ムクノキ
2	SK 8	弥生時代末期	エゴノキ属
3	SK15	弥生時代後期	モモ
4	SK25	室町時代	マツ属
5	SK25	室町時代	モモ
6	SK31	弥生時代後期	モモ
7	SK31-I	弥生時代後期	モモ
8	SK31-IV	弥生時代後期	モモ
9	SE46	鎌倉時代	モモ
10	SE47	平安時代前期	モモ
11	SE47	平安時代前期	モモ
12	SE54	平安時代末期	モモ

第70表 種実同定結果①

種子が検出された。黒色で大きさは7mm程度。いびつな楕円形で、明瞭な「へそ」が存在する。表面は薄くて堅く、ややざらつく。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。褐色~黒褐色で、大きさは小さなもので2cm、大きなもので3cm程度。核の形は楕円形で、大きなものほど偏平である。基部は丸く大きな騎点がありへこんでおり、先端部は大型のものほど尖る傾向にある。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・エゴノキ属 (*Styrax sp.*) エゴノキ科

核が検出された。灰黒色。側面觀は楕円形、上面觀は円形、長さ1cm程度。下端に大きな「へそ」があり、表面に3本の浅い溝がある。核は厚く硬い。

(4) 考察

今回検出されたもののうち、マツ属、ムクノキ、エゴノキ属は、周辺植生に由来するものと考えられ、遺跡付近に生育していたものと考えられる。また、モモは弥生時代、鎌倉時代、室町時代の各遺構から検出されており、古来から栽培して利用されていたと推測される。今回のモモの形態を見る限りでは、新しい時代になるにつれて、核が大型、偏平になる傾向が窺える。奈良県の布留遺跡では、時代が新しくなると、小型のものに混じて大型で偏平な個体が検出されるようになることが指摘されている(金原ほか, 1992)。しかし、同じ布留遺跡でも、弥生時代から大型の核が検出されることから、時代を追っての大型化については慎重な意見もある(南木, 1991)。モモは出土する時代、個数、地点とも多いだけに、今後検出されるものを含めて整理、検討が必要になるであろう。

(パリノ・サーヴェイ株式会社)

3 昆虫化石の種類

(1) 試料

平安時代末の土坑(SK 6)より出土した2個体と、弥生時代後期の上坑(SK 31)より出土した1個体の計3個体である。

(2) 結果

① SK 6 941201(平安時代末)

ゴミムシの上翅2個

(大きい方) オオゴミムシ *Lestecus magnus*
(Motschulsky)

大きさ、外観の間室の孔点などからオオゴミムシと判断される。北海道から、朝鮮、台湾、中国に分布する。

(小さい方) アオゴミムシ *Chlaenius pallipes*
Gebler

上翅の間室のしわなどからアオゴミムシ類と判断される。近似種が多いが、アオゴミムシと思われる。北海道～九州、朝鮮、中国北部、シベリアにすむ。

②SK31 950120 (弥生時代後期)

コガネムシ類の左上翅、前腕背板右半分

上の条線やしわなどからコガネムシ *Mimela splendens Gyllengal* と思われる。分布は、北海道から九州、朝鮮、中国、台湾、インドネシア半島と広い。

(3)まとめ

今回調査した3個体は、いずれも現在の山野農村付近でみつかる種であった。ゴミムシ類は石下、枯れ草の下などで発見され、コガネムシ類は樹木上にいて、灯火に飛来する。本結果からみる限り、いずれの時代の試料でも現在との気候の差は認められない。
(藤山家徳)

4 平安時代土坑SK6より出土した獸骨の種類

(1) 試料

平安時代末の土坑(SK6)より出土した獸骨3点である。いずれも破損が著しく細片化したものが多くだったので、パリノ・サーヴェイ株式会社にてバインダー処理を行い、接合した。その結果、頭骨・四肢骨各1点と、小片1点の計3点に復元すること

ができた。

(2) 結果

小片1点は、種類・部位とも不明であったが、他の2点はウシであった。観察所見を以下に記す。

ウシ *Bos taurus* ド顎骨と脛骨が検出されている。下顎骨：左側、近心部、下顎角部などを破損して失われているが、ほぼ全体の形状をうかがえる標本である。近心部の破損は古いようであるが、他の部分はほとんど破損することなく埋存していたのではないかと思われる。

骨体の舌側中央部に切痕かと思われる傷がみられる。解体時に付いた傷ではないかと考えている。歯は3本を残すのみであるが、これも埋存時には他の歯もあったのではなかろうか。歯槽内がきれいだからである。

歯：残っている歯はP4・M1・M3であって、咬耗は進み咬面上には小さな半月状のエナメル質の指歯を一部みるのみである。

P4:20.4 × 12.4, M1:21.0 × 14.3, M3:37.6
× 15.0mm(歯冠長×歯冠幅) M1～M3:78.0mm

脛骨：左側、遠・近位両骨端を欠損する。最小径37.7mm。

(3)まとめ

今回調査したウシは、日本の在来牛のなかでは小型の口之鳥牛に匹敵するような体躯であったと推定される。

本試料の土坑内の埋存状況は明らかでないが、今回の試料が土坑内の獸骨の全てであったとすれば、何らかの儀礼的な意味をもって土坑内に埋葬されたものであったとも考えられる。
(金子浩昌)

2 堀町遺跡から出土した木製品の樹種

はじめに

堀町遺跡では、第1次調査の際にも弥生時代から室町時代に至る各時代の遺構から出土した木製品等の樹種同定が実施されており、井戸枠にはスギが多く利用され、斧の柄にクスギ節やサカキなどが利用されたことが判っている。これらの結果は、これまでに周辺地域で行われてきた樹種同定結果とも調和

的であり、古くからそれぞれの用途に応じた樹種の選択が行われていたことを示唆する。今後、類例の蓄積が望まれる。

本報告では、堀町遺跡第2次調査区の平安時代～鎌倉時代の井戸から出土した曲物、井戸枠、縦板の樹種を明らかにし、用材選択に関する資料を得る。

1 試料

試料は、平安時代～鎌倉時代に属すると考えられる8基の井戸から出土した曲物、井戸枠、継板で、合計21点（試料番号1～21）である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に第71表に記した。

2 方法

試料は、剃刀の刃を用いて、木口（横断面）・極目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を作成する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとした。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結果

樹種同定結果を第71表に示す。試料は針葉樹2種類（スギ・ヒノキ属）と広葉樹1種類（クスノキ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don)

スギ科

早材部から晚材部への移行はやや急で、晚材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晚材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晚材部への移行は緩やかへやや急で、晚材部の幅は狭い。樹脂細胞は晚材部に限って認められ、樹脂細胞の水平壁はじゅず状に肥厚しているものが多い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Presl) クスノキ科クスノキ属

散孔材で、道管は散孔材としては比較的大きい。道管の管壁は薄く、横断面では格円形、単独まれに2～3個が放射方向に複合する。道管は單穿孔孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ型、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

番号	地区	遺構番号	取り上げ番号	時代・時期	用途	樹種
1	E26	SE207		鎌倉時代	曲物	スギ
2	E26	SE208	No. 9	鎌倉時代	曲物	スギ
3	J19	SF218	No.23	平安時代末期	継板	スギ
4	J19	SE218	No.24	平安時代末期	継板	スギ
5	J19	SH218	No.25	平安時代末期	継板	スギ
6	K21	SE217	No. 6	平安時代末期	井戸枠	スギ
7	K21	SE217	No. 7	平安時代末期	井戸枠	スギ
8	K21	SE217	No. 8	平安時代末期	井戸枠	スギ
9	K21	SH217	No. 9	平安時代末期	井戸枠	スギ
10	K21	SE217	No.12	平安時代末期	曲物	スギ
11	J19	SE218	No. 1	平安時代末期	井戸枠	クスノキ
12	J19	SE218	No.12	平安時代末期	井戸枠	クスノキ
13	J19	SE218	No.31	平安時代末期	曲物	スギ
14	J19	SF218	No.30	平安時代末期	曲物	スギ
15	J18	SF221	No.12	鎌倉時代	曲物	スギ
16	J18	SE221	No.13	鎌倉時代	曲物	スギ
17	E40	SE225		鎌倉時代	曲物	スギ
18	J43	SE226		鎌倉時代	曲物	スギ
19	E37	SE231	No. 1	鎌倉時代	曲物	ヒノキ属
20	E37	SH231	No. 2	鎌倉時代	曲物	スギ
21	K37	SE232		鎌倉時代	曲物	スギ

第71表 樹種同定結果②

4 考察

平安時代・鎌倉時代の井戸枠、曲物、縦板とともにスギが多く、SE231から出土した曲物1点がヒノキ属に、SE218の井戸枠2点がクスノキにそれぞれ同定された。井戸枠や曲物にスギが多い結果は、堀町遺跡第1次の結果でも得られている。同様の結果は、本地域周辺の多くの遺跡でも確認されており、同様の用材選択が本地域で広く行われていたことが推定される。これまで各地で行われてきた結果では、井戸枠や曲物にはスギとともにヒノキ属が多く確認されている。材質面から見れば、ヒノキ属のほうが耐水性に優れており、スギよりはヒノキ属の方が適

材といえる。縦板は、本地域で出土した板材など板状の加工を施す製品にスギが多い結果と調和的である。本地域でこのようにスギが多く用いられている背景には、周辺地域でスギの入手が容易であったことなどが推定される。

SE218の井戸枠で確認されたクスノキは、広葉樹材の中でも比較的耐水性・耐朽性に優れた材質を有しており、近畿地方から出土した井戸枠でスギやヒノキ属と共に比較的多く確認されている種類である（島地・伊東、1988）。これらの結果から、井戸枠には耐水性を重視した用材選択が行われていたことが推定される。（パリノ・サーヴェイ株式会社）

3 堀町遺跡出土動植物遺体の種類について

はじめに

堀町遺跡の発掘調査では、弥生時代から室町時代に至る各時代の遺構・遺物が検出されている。このうち、第1次調査区、第2次調査区から出土した木製品や構築材などについては、これまでに樹種同定が行われており、スギが多い結果が得られている。

今回は、第1～3次調査区から出土した種実遺体および木製品の種類を明らかにし、植物質食糧や用材等に関する資料を得る。また、出土した獸骨についても種類も明らかにする。なお、骨の同定については、早稲田大学の金子浩昌先生にご協力を得た。

1 種実遺体の種類

(1) 試料

試料は、旧河道や井戸などから検出された種実遺体137点である。基本的に容器1点に1個体が収納されていたが、破片が複数入っているものもあり、またまれに2種類入っているもののが存在した。分析試料の詳細は、同定結果とともに第72・73表に示す。

(2) 方法

試料を水洗したあと、双眼実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種類を同定する。種類毎にケースに入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液中に保存する。

(3) 結果

結果を第72・73表に示す。以下に、検出された種類の形態的特徴を記す。

・マツ属 (*Pinus* sp.) マツ科

種果は、円錐状卵型で、大きさは6cm程度。柄はほとんどない。種皮は長楕円状の矩形を呈し、先端部は肥厚する。先端部の肥厚は、不規則な4～5角形である。

種子は、大きさ4mm程度。垂三角形で褐色。種皮は厚くて堅く、表面はざらつく。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

種子が検出された。楕円形で大きさは1.5cm程度。褐色で、種皮は薄くて堅い。表面は筋状の模様がある。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核が検出された。褐色。大きさは3cm程度。側面の両側に縫合線が発達する。広卵形で、基部は丸くなっているが、先端部はやや尖る。表面は荒いしわ状となり、縱方向に溝が走っている。

・コナラ属 (*Quercus* sp.) ブナ科

果実が検出された。大きさ1.5cm程度。黒褐色で、楕円形。基部には座についていた部分が大きく円形に残る。座についていた部分は褐色で疣状の突起が密に配列し、ざらつく。果皮は薄くて堅く、光沢がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。黒褐色で大きさは2cm程度。側面観は準三角形で、片側が彎曲する。表面は薄くて堅く光沢があるが、辺についていた部分は淡褐色でざらつく。

- ・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。褐色～黒褐色で大きさは3cm程度。核の形は楕円形でやや偏平である。基部は丸く大きな筋点がありへこんどおり、先端部はやや尖る。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線上のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

- ・スモモ (*Prunus salicina* Lindl.) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。黒褐色、大きさは1.5cm程度。核の形は楕円形で、偏平である。下端には、丸く大きな筋点があり凹んでおり、上端は丸い。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、浅いくぼみが不規則にみられる。

- ・ウメ (*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.) バラ科サクラ属

核が検出された。褐色、核の形は楕円形で偏平である。大きさは1.5cm程度。丸く大きな筋点がありへこむ。側面の一方には縫合線が発達する。表面は、不規則にくぼみが配列する。

- ・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

種子および果実の破片が検出された。種子は、縫合部がくびつな球形。黒色で、種皮は薄くて堅く、大きさは4cm程度。表面には黒く艶のある部分と、黒褐色でざらつく部分がある。果実の破片は、大きさ4cm程度。褐色で、厚くて弾力があり、表面はざらつく。

- ・エゴノキ属 (*Styrax* sp.) エゴノキ科

核が検出された。灰黒色。側面観は楕円形、上面観は円形。大きさは1cm程度。下端に大きな「へそ」があり、表面に3本の深い溝がある。核は厚く硬い。

- ・ヒメビシ (*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.) ヒメビシ科ヒメビシ属

果実の破片が検出された。大きさは1cm程度。果

皮は比較的薄くて堅く、やや光沢がある。側面観は準三角形。4つの刺がある。

- ・ヒョウタン類 (*Lagenaria* sp.) ウリ科ヒョウタン属

種子・果皮が検出された。種子は褐色で長さ10mm程度。長楕円形をしており、縦軸方向にしわが存在する。果皮は褐色で肉厚、弾力がある。

(4) 考察

同定を行った試料は、主として奈良時代～中世にかけてのものが多い。検出された種類を見ると、遺構内を中心に、有用植物が多くあった。

旧河道や溝から検出された種実遺体は、オニグルミ、エゴノキ属、クリ、コナラ属、トチノキ、マツ属等であり、とくにトチノキとマツ属の個数が比較的多い。トチノキをみると、表面が削耗している点や、食用に不適な幼果が含まれていることから、利用後の残渣が投棄されたのではなく、周辺植生に起因していたものと考えられる。このことから、上記の種類は、遺跡周辺に生育していたものと推定される。このうち、オニグルミ、クリ、トチノキ、コナラ属は種殻が可食であることから、食糧としても利用された可能性がある。

井戸や土坑からは、モモ、ヒメビシ、ヒョウタン類、ウメなどが検出され、モモが圧倒的に多い。ヒメビシをのぞくといずれも渡来種であり、食用、觀賞用などを目的として、周辺でこれらの種類が栽培されていたと考えられる。一方ヒメビシは、保存状態が良いことから考えて、遺構廃絶後に生育している可能性もある。

今回多量に検出されたモモは、各地の遺跡で数多く検出されている。遺跡出土のモモ核に関する研究は多く、時代によって形状に違いがあるとの報告もあるが(太田, 1986; 金原ほか, 1992など)、実際にはその詳細を明らかにするには至っていない(南木, 1991)。今回検出されたものをみても、図版に示した形態のものが目立つものの、大きさ、形状ともにばらつきが大きい。これが品種の違い等を示しているか否かは、今後の課題として残される。

2 木製品の樹種

(1) 試料

試料は、第1次調査区および第3次調査区から出

した木製品 3 点（試料番号 138～140）である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに第 74 表に記した。

（2）方法

試料は、剃刀の刃を用いて、木口（横断面）・粂目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の切片を作成する。切片は、ガム・クロラール（拡水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレバラートとした。プレバラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（3）結果

樹種同定結果を第 74 表に示す。試料は針葉樹 1 種類（ヒノキ）と広葉樹 2 種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晚材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹齢細胞が晩材部付近に接線方向に配列する。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野隙孔はヒノキ型～トウヒ型で 1～3 個。放射組織は単列、1～15 構胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

試料のほとんどは早材部を欠いた 1 年分の組織しか観察できないが、年輪のはじめに大型の道管が 1ヶ所見られたことから、環孔材と判断した。小道管は漸減しながら放射状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1～20 構胞高のものと複合放射組織がある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では梢円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1～15 構胞高のものと複合放射組織がある。

（4）考察

同定を行った 3 点のうち、試料番号 138 は、丸歯また泥除け未製品とされている。同定されたアカガ

シ亜属は、これまで行われてきた調査でも鉄・錫に多数確認されており、とくに西日本では出土した歯・齒のほとんどがアカガシ亜属である。（島地・伊東、1988；伊東、1991）。一方、泥除けは、アカガシ亜属も利用されているが、クスノキ、ヒノキ、ホオノキなど他にも多くの種類が利用されており（奈良国立文化財研究所、1993）、鉄・錫よりは利用される木材の範囲が広いことが推定される。今回の結果は、丸歯と泥除けのいずれであってもこれまでの傾向と調和的といえる。

一方、丸歯または泥除け未製品と同時期とされる杭は、ヒノキであった。ヒノキは、これまで木造跡で行った調査でも出土しているが、多くは平安時代の試料であり、弥生時代後期の試料には認められていない。この結果から、ヒノキの利用が弥生時代後期まで遡ることが明らかとなった。杭に利用されていることから、遺跡周辺に生育していたものを利用したり、遺跡内で木材が利用され、加工時の余材や廢材が転用された可能性がある。

弥生時代末期の陽物形は、クヌギ節であった。陽物形の材質については比較的硬いことが挙げられる。陽物形については、多少の樹種同定の例が知られているが、同様に硬質の材が比較的多い。（島地・伊東、1988；伊東、1991）。軟質の材よりも硬質の材の方が細かい加工を施しやすいため、選択されたのかも知れない。

3 獣骨の種類

（1）試料

試料は、室町時代以降とされる土坑 (SK456) から出土した獸骨 1 点である。

（2）方法

ルーペなどを用いて形態的特徴を観察し、種類・部位を同定する。なお、同定は、早稲田大学金子浩昌先生にお願いした。

（3）結果

試料は、ウマの左側上腕骨であった。骨体の最小幅は 31.0 mm であり、骨格の大きさからみて、体高 130 cm 前後と考えられる。これは、中世頃にもっとも普通にみられる大きさのウマである。

（パリ・ノ・サーヴェイ株式会社）

*本章の内容については、パリノ・サーヴェイ株式会社の分析によるものである。報告書作成を進めていくうえで、遺構の時期・遺物の用途などが分析当

時と若干の食い違いができたため、パリノ・サーヴェイ株式会社の成果を基に加筆、修正を加えたことを断っておきたい。

(小演 学)

[引用文献]

橋本鉄男 (1979) ものと人間の文化史31 ろくろ、444p.,法政大学出版局

金原正明・粉川昭平・太田三喜 (1992) モノ核を中心とする古代用植物の変遷、日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集、p.76-77。

南木鉄次 (1991) 枝接植物、石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石一郎編「古墳時代の研究4 生産と流通」、p.165-174、雄山閣。

水越光治 (1975) 地形区分とその性状等の概要、「縄尺20万分の1 土地分類図24(三重県)付属資料」、p.1-5、国土地理院。

パリノ・サーヴェイ株式会社 (1990) 材質(樹種)同定。

(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告第17集「清洲城下町

遺跡」、p.98-102、財團法人愛知県埋蔵文化財センター、鳥島 譲・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品叢観、296p.,雄山閣。

鈴木正賀 (1992) 朝日西遺跡開闢出土木製品材質同定、(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告第28集「朝日西遺跡」、p.223-232、財團法人愛知県埋蔵文化財センター。

伊東隆夫 (1991) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ、木材研究・資料、26, p.91-189。

奈良国立文化財研究所 (1993) 木器集成図録 近畿原始篇(解説)、410p.

太田三喜 (1986) 古代遺跡出土のモノ核について、考古学と自然科学、19,p.85-100。

整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果	整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果
1	1	-	SE37	土器内	奈良時代	モモ	30	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	ヒゴノキ属
2	1	-	SE58	隣倉時代	-	ヒヨウタン属	31	1	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
3	2	G24	SE207	(d)	隣倉時代	ココラ属	32	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
4	2	G24	SE207	(d)	隣倉時代	オニグルミ	33	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
5	2	G24	SE207	(d)	隣倉時代	種子ではない	34	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	クリ
6	2	G24	SE207	(d)	隣倉時代	モモ	35	2	J23	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
7	2	H24	SE210	第3層	奈良～中世(旧河道)	モモ	36	2	K27	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
8	2	H24	SE210	第3層	奈良～中世(旧河道)	モモ	37	2	I22	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
9	2	L28	SE210	第3層	奈良～中世(旧河道)	モモ	38	2	I22	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
10	2	K24	SE210	第3層	奈良～中世(旧河道)	モモ	39	2	I22	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
11	2	I25	SE210	第4層	奈良～中世(旧河道)	コナラ属	40	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
12	2	I24	SE210	第4層	奈良～中世(旧河道)	モモ	41	2	H21	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ
13	2	J25	SE210	第4層	奈良～中世(旧河道)	モモ	42	2	G20	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	オニグルミ
14	2	J20	SE210	第4層	奈良～中世(旧河道)	オニグルミ	43	2	J18	SE221	-	隣倉時代	モモ
15	2	J25	SE210	第4層	奈良～中世(旧河道)	モモ	44	3	G77	SE327	集石の中 井戸	弥生時代後期	コナラ属
16	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	45	3	SX313	-	-	-	ヒメビシ
17	2	J23	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	モモ	46	3	D75	SX313	-	室町時代	ヒメビシ
18	2	J22	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	47	3	SX313	-	室町時代	ヒメビシ	
19	2	I23	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	モモ	48	3	SX313	-	室町時代	ヒメビシ	
20	2	K27	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	モモ	49	3	SE323	-	平安時代初期(井戸)	モモ	
21	2	I24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	モモ	50	3	F78	SE323	-	平安時代末期(井戸)	モモ
22	2	K26	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	51	3	F78	SE323	石組の下	平安時代末期(井戸)	モモ
23	2	K26	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	52	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ
24	2	K26	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	53	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ
25	2	K26	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	54	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ
26	2	K26	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	55	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ
27	2	I22	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	トチノキ	56	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ
28	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	スモモ	57	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ
29	2	J24	SE210	第5層	奈良～中世(旧河道)	モモ	58	3	F77	SE323	IV	平安時代末期(井戸)	モモ

第72表 権実同定結果②

整理番号	調査次	遺構番号	時代・時期	同定結果	整理番号	調査次	地区番号	遺構番号	層位など	時代・時期	同定結果
57	3	F77 SE323	IV 平安時代末期(井戸)	モモ	97	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
58	3	F77 SE323	IV 平安時代末期(井戸)	モモ	98	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
59	3	F77 SE323	IV 平安時代末期(井戸)	モモ	99	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
60	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	モモ	100	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
61	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	カヤ	101	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
				トチノキ	102	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
62	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	モモ	103	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
63	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	ヒメビシ	104	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
64	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	ヒメビシ	105	3	M73	SK341	-	平安時代末期	モモ
65	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	モモ	106	3	G75	SK326	I	弥生時代後期	モモ
66	3	F78 SE323	III 平安時代末期(井戸)	モモ	107	3	G75	SK326	I	弥生時代後期	モモ
67	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	108	3	G75	SK326	I	弥生時代後期	ヒヨウタンヅ
68	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	109	3	G76	SK326	I, III	弥生時代後期	モモ
69	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	110	3	G76	SK326	I, IV	弥生時代後期	モモ
70	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	111	3	G76	SK326	I	弥生時代後期	モモ
71	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	112	3	G76	SK326	I	弥生時代後期	モモ
72	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	113	3	G76	SK326	IV	弥生時代後期	モモ
73	3	F77 SE323	IV 平安時代末期(井戸)	モモ	114	3	G75	SK326	-	弥生時代後期	モモ
					115	3	H83	SK345	井戸の上	平安時代末期(井戸)	モモ
74	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	116	3	-	SE245	-	平安時代末期(井戸)	ウメ
75	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	117	3	H83	SK345	-	平安時代末期(井戸)	ヒヨウタンヅ
76	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	118	3	N87	SE353	-	平安時代前半	モモ
77	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	119	3	N89	SK356	-	室町時代以前	ヒメビシ
78	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	120	3	D43	SE358	曲物付近	平安時代末期(井戸)	モモ
79	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	121	3	D43	SE358	-	平安時代末期(井戸)	モモ
80	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	122	3	-	SE362	-	奈良時代	マツ属
81	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	123	3	-	SE367	-	鎌倉時代	モモ
82	3	F77 SE323	I 平安時代末期(井戸)	モモ	124	3	-	SE370	裏	奈良時代(井戸)	スモモ
83	3	M73 SK341	I 平安時代末期	モモ	125	3	F43	SE370	井戸脇の中	奈良時代(井戸)	スモモ
84	3	M73 SK341	I 平安時代末期	モモ	126	3	F44	SD371	sec内	室町時代(裏)	マツ属
85	3	M73 SK341	I 平安時代末期	モモ	127	3	F44	SD371	sec内	室町時代(裏)	マツ属
86	3	M73 SK341	I 平安時代末期	モモ	128	3	F44	SD371	sec内	室町時代(裏)	マツ属
87	3	M73 SK341	I 平安時代末期	モモ	129	3	F44	SD371	II	室町時代(裏)	マツ属
88	3	M73 SK341	I 平安時代末期	モモ	130	3	F44	SD371	III	室町時代(裏)	モモ
89	3	L73 SK341	平安時代末期	モモ	131	3	F44	SD371	III	室町時代(裏)	モモ
90	3	L73 SK341	III 平安時代末期	モモ	132	3	F44	SD371	III	室町時代(裏)	モモ
91	3	M74 SK341	II 平安時代末期	モモ	133	3	F44	SD371	III	室町時代(裏)	マツ属
92	3	M74 SK341	II 平安時代末期	モモ	134	3	F44	SD371	III	室町時代(裏)	マツ属
93	3	M74 SK341	II 平安時代末期	モモ	135	3	F44	SD371	III	室町時代(裏)	マツ属
94	3	M74 SK341	II 平安時代末期	モモ	136	3	E43	SD371	V	室町時代(裏)	マツ属
95	3	M74 SK341	II 平安時代末期	モモ	137	3	E43	SD371	V	室町時代(裏)	マツ属

第73表 種実同定結果③

整理番号	調査次	遺構番号	時代・時期	用途など	樹種
138	1	SK31(井戸?)	弥生時代後期	No.42 丸鍛または泥除け未製品	コナラ属アカガシ亞属
139	1	SK8	弥生時代末期	陽物形	コナラ属コナラ亞属クヌギ節
140	3	SK305(井戸?)	弥生時代後期	No.203 桧	ヒノキ

第74表 樹種同定結果③

V 結語

1 遺構群の変遷

堀町遺跡は、遺跡が立地する自然堤防を縱断する形で発掘調査を4ヶ年に渡って行ってきた。その成果を踏まえ、遺構群の変遷を時代別に概観する。

弥生時代後期（一部末期も含む）については、掘立柱建物、土坑、井戸、環濠、溝を確認した。環濠については、環濠内出土遺物の時期差はあるものの、弥生時代後期に阿形遺跡^①、杉垣外遺跡^②、草山遺跡^③とこの地域に集中していることは、当時の社会動態を考える上で興味深い。環濠内には掘立柱建物を3棟確認しているものの、堅穴住居跡は検出されなかった。地元の古老人の証言では、堀町遺跡を含む一帯は「ヤマ」と呼称されていたようで、周辺よりも一段高い微高地であったことが容易に推測できる。現代の農地整理や生活道路建設などにより削平されたようである。これらのこととも堅穴住居跡が検出されなかつた一因といえよう。土坑や井戸が多く検出されたのは、遺構自体が深く、遺構検出面をかなり削平されても痕跡をとどめたのだろう。弥生時代だけではなくそれ以降の時代でも同様のことがいえるのではないかだろうか。掘立柱建物については、高床倉庫と考えるのが通常である。堀町遺跡のものもそれと考えられる。環濠外にあるものについては、どのような性格なのかも判断に苦しむ。また、土坑からは銅鐸形土製品が出土しているが、堀町遺跡から約1.5km西には、時期が中期後半と若干遅るが銅鐸形土製品が出土した涌早崎遺跡^④や、約1.8km南の丘陵上には弥生時代後期の草山遺跡では銅鐸形土製品が出土している。このように銅鐸関連の遺物がこの地域に集中しているのは、当時の人々が行っていた祭祀や拠点集落の存在の有無を考える上で興味深い。土器については後述しているが、弥生時代後期前半に属する遺物が、良好な一括資料として多数出土している。それらの様相から伊勢湾沿岸や畿内の両地方との交流があったことが窺われる。

古墳時代になると調査区内の遺構は激減し、調査区南側に土坑がみられる程度である。堀町遺跡から北西へ0.5kmのところには佐久米古墳群があり、何らかの関連が考えられる。

奈良時代になると遺構数が漸増する。掘立柱建物、土坑、井戸を確認した。土器や祭祀木製品が大量に出土した旧河道については弥生時代から中世にかけての遺物が出土した。それらの間存在したことになるのだろう。

平安時代になると、遺構数はより増加傾向にある。この遺跡の最盛期と考えられる。掘立柱建物、土坑、井戸、溝などを確認した。掘立柱建物については、大型掘立柱建物があるにもかかわらずあまり規則性はない。調査区南東部のS B385～390やS B391～394では、同地点で数度の建て替えが確認でき、他の掘立柱建物群の様相とは一線を画している。この地点に掘立柱建物を建てるに何らかの意味があるのかもしれない。また、平安時代初期創建と伝えられる朝田寺が遺跡から至近にあり、この時期の集落が朝田寺を中心にして発展した可能性や、前期と後期・末期に属する遺構がほとんどで中期の遺構がみられないことから集落の移動があった可能性も想定できよう。

鎌倉時代についても前時代と同様に遺構数が多い。もう一つの最盛期といえよう。掘立柱建物、土坑、井戸、溝などを確認した。調査区中央部の溝を境にして、南北に生活空間が分かれているのであろうか。

室町時代に入ると、遺構数は激減する。掘立柱建物はなくなり、土坑の数も少なくなる。この時期から集落は衰退していくものの、遺物には近世の遺物がみられることから、その時期まで人々が生活していたことがわかる。

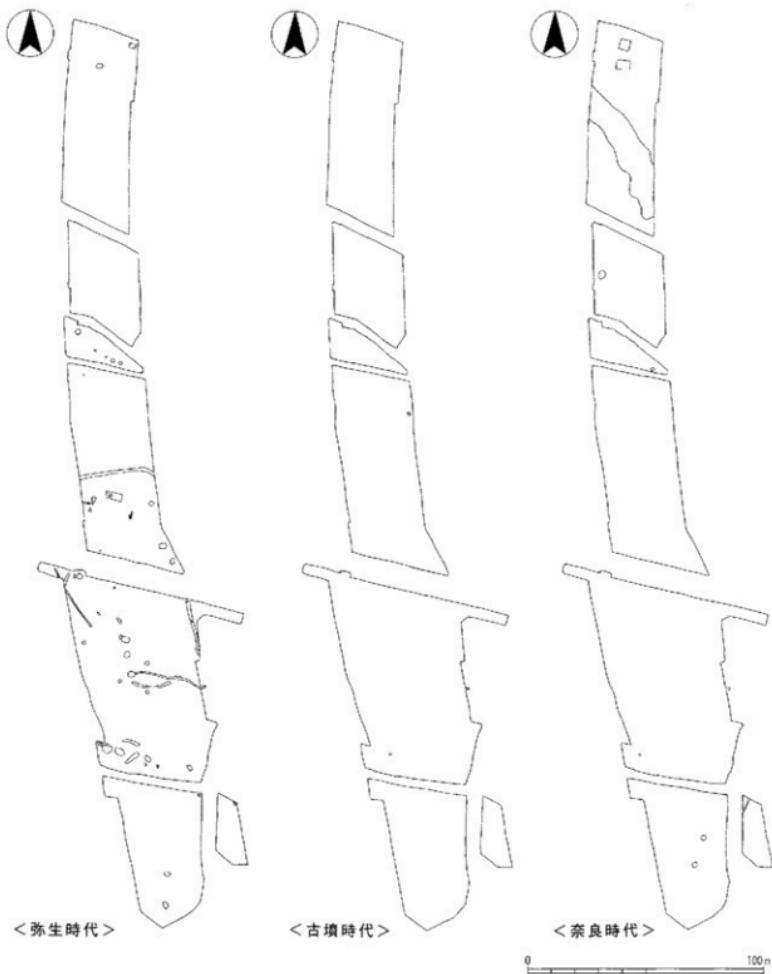
堀町遺跡では、弥生時代から人々の営みが始まり、断続的ではあるが近世に至るまでの長期間、連続と人が生活してきた。なかでも、弥生時代と平安時代から鎌倉時代がこの遺跡の集落としての最盛期であり、2つの画期と考えられる。このことは、井戸や

井戸の可能性がある遺構が多数検出されたことなど、この地域が自然堤防上に立地し、地下水位が高く、水の確保が容易で、人々が生活する上で好条件であったことが大いに関係しているのではないだろうか。また、古代以降は古代官道などとの位置関係から交

通の利便性も考慮に入れなければならないだろう。

2 後期前半弥生土器の分類

堀町遺跡出土の弥生土器については、概ね後期前



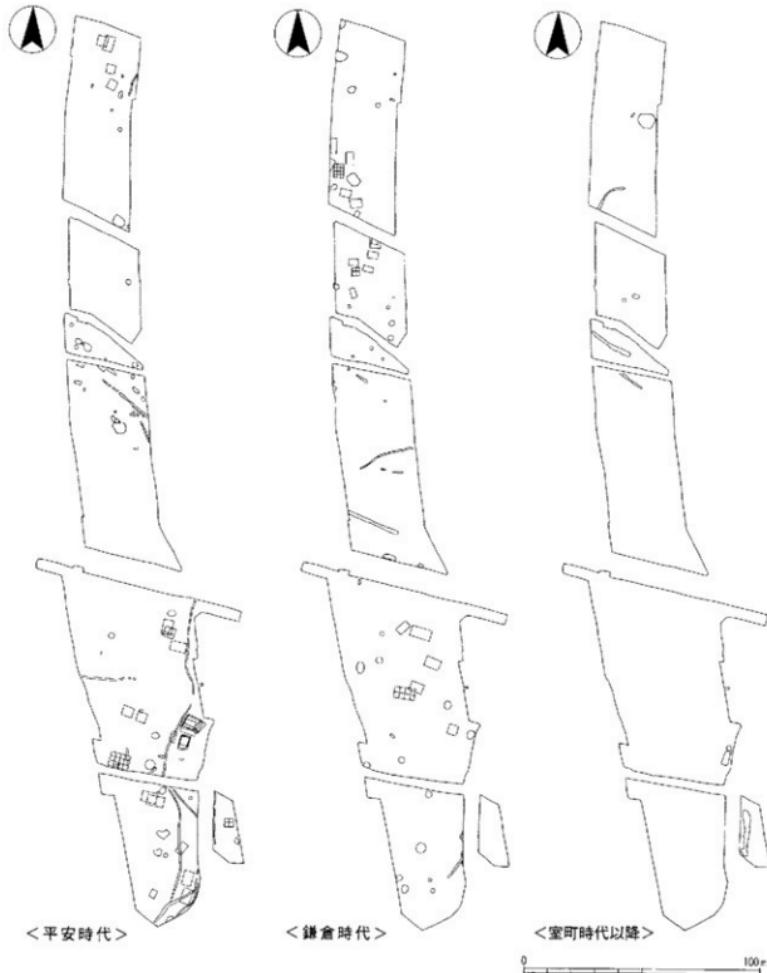
第191図 潟構の変遷① (1 : 2,000)

半に属するものと考えられる。それらは山中式⁹、寄道式¹⁰あるいは伊勢湾V様式¹¹と呼称される土器群と共に通の要素をもっており、伊勢湾沿岸の文化圏に入っていたことが確認できる。また、壇体部外面にタタキを施す畿内的な要素をもつものや近江地方に多く

見られる受け口状口縁を有する壇の存在など、伊勢湾沿岸や畿内の両地方との交流が土器の様相から窺われる。以下に分類を行う。

<壇A>

いわゆる広口壇。口縁部が大きく外反し体部が膨



第192図 遺構の変遷② (1:2,000)

れる。バレス系のものである。口縁端部の形態により、A₁(370など)、A₂(93など)、A₃(98など)に分類した。

<壺B>

いわゆる広口壺。口縁部が大きく外反し、体部が膨らむ。体部形態の相違により、B₁(196など)、B₂(366など)、B₃(283など)に分類した。

<壺C>

広口壺の範疇。口縁部が大きく外反し、体部が大きく張り出すものの、口縁端部が受け口状になるものもみられる。C₁(423など)、C₂(335など)、C₃(108など)に分類した。

<壺D>

口頭部細長く延び、体部の張り出しあまりなくスマートなものである。口縁端部が受け口状になるものもみられる。D₁(181など)、D₂(182など)、D₃(210)に分類した。

<壺E>

直口壺にあたる。口頭部が直線的に延び外反する。体部があまり張り出さずスマートなもの、体部が球形のもの、体部下半が張り出すものに分類した。

E₁、E₂(2114)、E₃(104など)、E₄(107など)、E₅(299など)に分類した。

<壺F>

口頭部が上方に大きく延び、体部が大きく張り出す。いわゆる長頭壺を一括した。大型品もみられる。出土は少量である(53など)。

<壺G>

壺底部に台が付くもの、台付壺を一括した。器形により、G₁(215)、G₂(428)、G₃(502)、G₄(74)に分類した。

<壺H>

小型壺を一括した。器形により、H₁(217など)、H₂(216など)、H₃(424など)、H₄(219)に分類した。

<壺I>

・見口頭部が無く、体部だけに見える。いわゆる無頭壺である(110など)。

<壺A>

口縁部が外反し、体部が膨れるもの。体部の形態により、A₁(224など)、A₂(128など)、A₃(234

など)に分類した。

<壺B>

口縁部が受け口状を呈するもの。B₁(131など)、B₂(238など)に分類した。

<壺C>

口縁部が外反し、口縁端部が内外面とも肥厚するもの(119など)。

<壺D>

口縁部が外反し体部が影れ底部に台が付く。いわゆる台付壺である。壺Aに台が付いた感がする。体部の形態により、D₁(240など)、D₂(289など)に分類した。

<壺E>

口縁部が受け口状を呈し、底部に台が付く。いわゆる台付壺である(2120など)。

<壺F>

口縁部が外反し体部が膨れる小型壺。壺Aが縮小した感がある(533など)。

<壺G>

口縁部が外反し体部が膨れ底部に台が付くもの。小型台付壺である。壺Dがそのまま縮小したものという感がある(538)。

<高杯A>

杯部に段を有するもの。いわゆる有段高杯である。口縁部の外反、口縁部と杯底部の境界に稜の有無、杯底部の形態などから、A₁(25など)、A₂(445など)、A₃(256など)、A₄(5など)、A₅(349など)、A₆(448)、A₇(257)に分類した。

<高杯B>

ワイングラス形の高杯である。杯部口縁の形態により、B₁(26など)、B₂(148など)に分類した。

<高杯C>

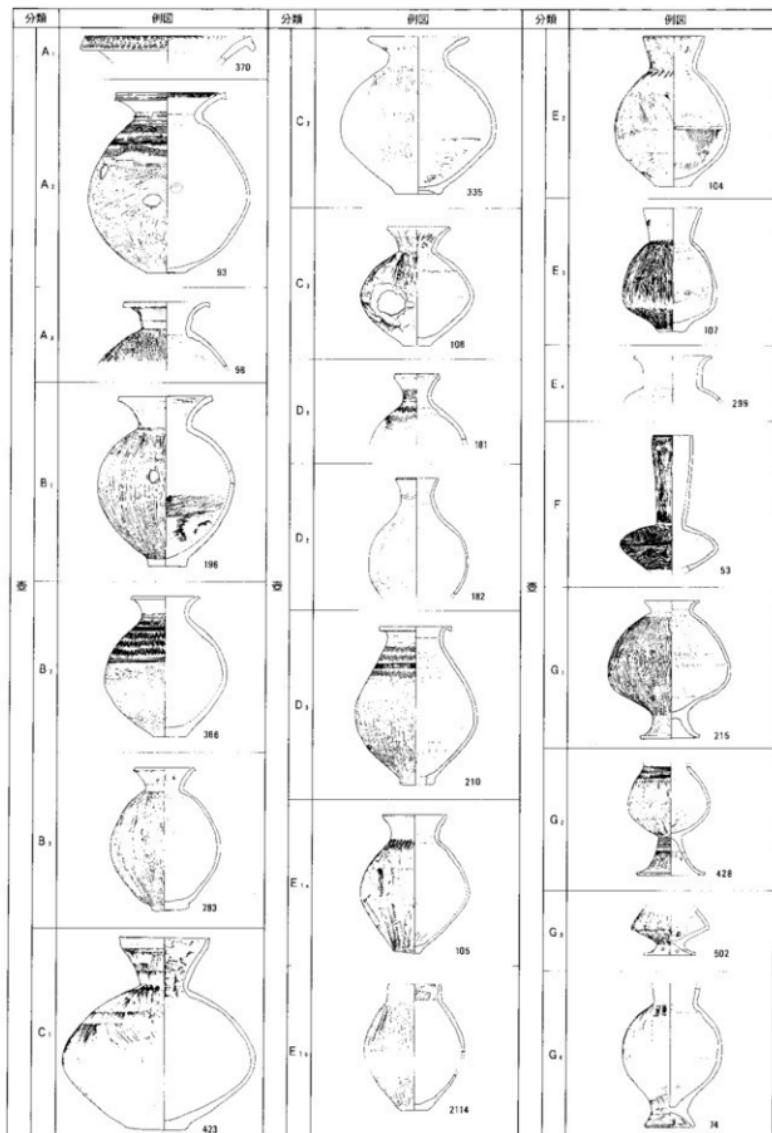
杯部が皿状のもの。杯底部の開き具合により、C₁(152など)、C₂(179など)に分類した。

<鉢A>

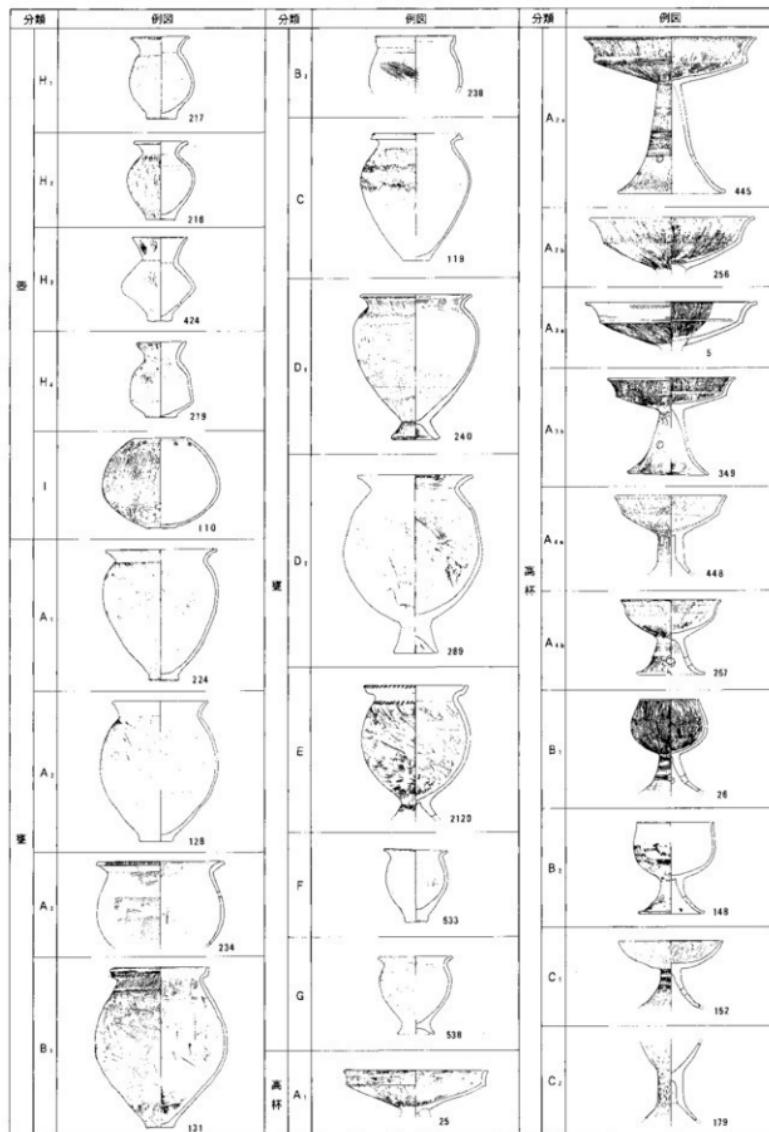
口縁部から体部にかけて全体的に外反するもの。大型品である。出土量は少量である。外反の度合いにより、A₁(552など)、A₂(363)に分類した。

<鉢B>

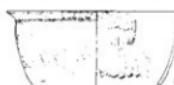
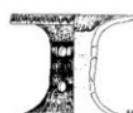
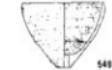
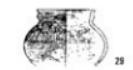
短い口縁部が外反し、体部が大きく張り出せずんぐりした感のあるもの(304など)。



第193図 後期前半弥生土器分類(案)① (1 : 8)



第194図 後期前半弥生土器分類(案)② (1 : 8)

分類	例圖	分類	例圖	分類	例圖
A ₁	 552	E ₁	 2125	C ₁	 584
A ₂	 363	E _{2a}	 163	C ₂	 460
B	 104	E _{2b}	 275	A ₃	 277
C ₁	 334	E ₃	 551	A ₄	 428
C ₂	 247	F	 410	二 チ 3 B	 278
C ₃	 385	G ₁	 548	ア 土 若	 585
C ₄	 560	G ₂	 350	C ₁	 30
D ₁	 548	A	 68	C ₂	 567
D ₂	 455	器 台	 6		
D ₃	 29	B ₁	 407		

第195図 後期前半弥生土器分類(案)③ (1 : 8)

<鉢C>

口縁部から体部にかけて全体的に外反するもの。鉢Aの縮小版といつてもおかしくはない。外反の度合いにより、C₁(334など)、C₂(247など)、C₃(365など)、C₄(550)に分類した。

<鉢D>

口縁部が受け口状を呈し、体部が偏平となるもの。口縁部と体部の形態により、D₁(546)、D₂(465など)、D₃(29など)に分類した。

<鉢E>

一見すると底部片のようにみえ、口縁部が直線的に外反するもの。器高や土器全体の形態により、E₁(2125)、E₂(163など)、E₃(275)、E₄(551など)に分類した。

<鉢F>

台付鉢。鉢C₁の底部に台を取り付けたようなものである(410など)。

<鉢G>

底部から外反する底部穿孔の鉢を一括。口縁部に把手が付くものもみられる。口縁部と体部の形態により、G₁(549)、G₂(350)に分類した。

<器台A>

受け部と柱状部の境界が明確に屈曲し、受け部の端部がバレス状になるもの(88など)。

<器台B>

受け部と柱状部の境界が明確に屈曲し、受け部が直線的であるもの。受け部の形態から、B₁(6)、B₂(407)に分類した。

<器台C>

受け部と柱状部の境界が明確でないもの。口縁端部や受け部の形態から、C₁(584など)、C₂(460)に分類した。

<ミニチュア土器A>

壺形のものを一括した。A₁(277など)、A₂(426など)に分類した。

<ミニチュア土器B>

壺形のものである(276など)。

<ミニチュア土器C>

鉢形のものを一括した。器形の違いから、C₁(595など)、C₂(30など)、C₃(587など)に分類した。

3 後期前半弥生土器の統計的傾向

報告書掲載(621点)の土器についてのみの傾向であるが、全体の傾向は据めると考える。ミニチュア土器については少量の出土であったがほとんどを掲載している。そのためミニチュア土器の割合は数値よりも実際は低くなるものと思われる。

器種構成の比率は、壺35.9%(223点)、甕28.2%(175点)、高杯23.0%(143点)、鉢6.9%(43点)、器台2.1%(13点)、ミニチュア土器3.1%(19点)であった。器種構成は壺が35.9%と最も多く甕が28.2%でそれに続く。

器種別の分類比率について述べたい。壺は分類可能なものは181点であった。その内訳には、A₁4.4%(8点)、A₂11.0%(20点)、A₃6.6%(12点)、B₁5.0%(9点)、B₂8.3%(15点)、B₃7.7%(14点)、C₁3.3%(6点)、C₂4.4%(8点)、C₃4.4%(8点)、D₁1.6%(3点)、D₂3.8%(7点)、D₃0.6%(1点)、E₁12.1%(22点)、E₂0.6%(1点)、E₃10.5%(19点)、E₄2.8%(5点)、E₅1.1%(2点)、F₁1.6%(3点)、G₁0.6%(1点)、G₂0.6%(1点)、G₃0.6%(1点)、H₁1.6%(3点)、H₂1.1%(2点)、H₃2.2%(4点)、I₁0.6%(1点)、I₂1.1%(2点)であった。壺A系、壺B系、壺C系ではほぼ70%を占め、壺G₁を含む台付壺は2.4%と低い割合であった。

甕は分類可能なものは126点であった。その内訳については、A₁29.4%(37点)、A₂29.4%(37点)、A₃11.8%(15点)、B₁7.1%(9点)、B₂1.6%(2点)、C₁1.6%(2点)、D₁9.5%(12点)、D₂2.4%(3点)、E₁3.2%(4点)、F₁3.2%(4点)、G₁0.8%(1点)であった。甕A系では70%を占め、甕Aが主流を占めていることがわかる。いわゆる台付甕は15.1%を占める。眞部だけ出土したものも少なくはないので、比率についてはもう少し上がるだろう。

高杯は分類可能なものは59点を数える。その内訳は、A₁5.1%(3点)、A₂18.5%(11点)、A₃10.2%(6点)、A₄13.6%(8点)、A₅10.2%(6点)、A₆1.7%(1点)、A₇1.7%(1点)、B₁1

13.6% (8点)、B: 16.9% (10点)、C: 5.1% (3点)、C: 3.4% (2点)であった。高杯A、いわゆる有段高杯がほぼ70%の割合を占めている。ワーリングラス形の高杯Bの2倍強という結果であった。

鉢は分類可能なものは39点を数える。その内訳については、A: 5.1% (2点)、A: 2.6% (1点)、B: 5.1% (2点)、C: 17.9% (7点)、C: 17.9% (7点)であった。C: 7.7% (3点)、C: 2.6% (1点)、D: 2.6% (1点)、D: 5.1% (2点)、D: 5.1% (2点)、E: 2.6% (1点)、E: 5.1% (2点)、E: 2.6% (1点)、E: 7.7% (3点)、F: 5.1% (2点)、G: 2.6% (1点)、G: 2.6% (1点)であった。鉢の多様性が窺われる。

器台は分類可能なものは、出土数が少なく10点を数えるのみであった。その内訳は、A: 50.0% (5点)、B: 10.0% (1点)、C: 20.0%

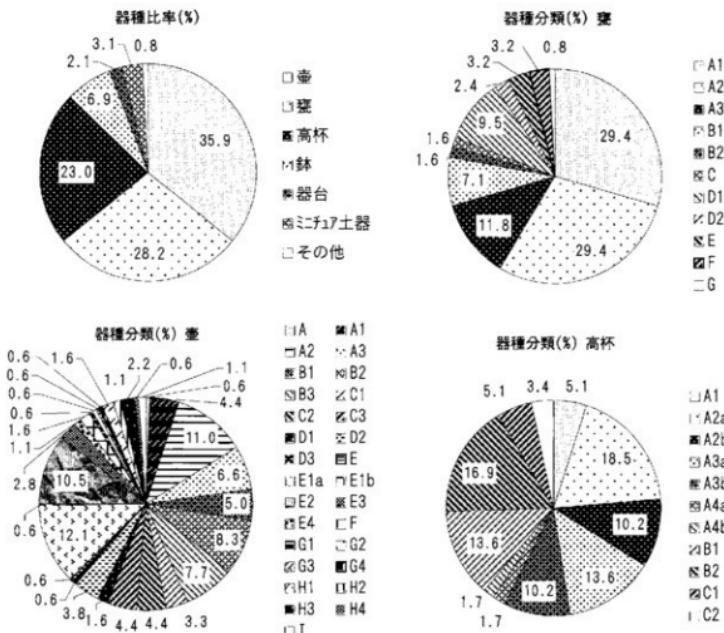
(2点)、C: 10.0% (1点)であった。

4 後期前半弥生土器の遺構別器種構成

弥生時代後期前半の遺構から出土した弥生土器種構成について考えてみたい。当該期は土坑がほとんどで、一部に井戸がみられる。土坑については井戸の可能性も考えられる。ここでは、代表的な遺構 (SK31・326、SE327) を抽出して比較を行う。

SK31は銅鋸形土製品が出土しており祭祀的な色合いが濃い遺構である。壺26.0% (19点)、甕12.0% (3点)、高杯12.0% (3点) であった。鉢、器台、ミニチュア土器などは確認していない。また、木製農具や用途不明の木材が共伴する。

SK326出土土器の器種構成は、甕35.1% (32点)、壺27.5% (25点)、高杯25.3% (23点)、鉢



第196図 後期前半弥生土器統計結果①

4.4% (4点) 、器台 3.3% (3点) 、ミニチュア土器 3.3% (3点) であった。

S E327 出土土器の器種構成は、壺25.5% (14点) 、甕29.1% (16点) 、高杯27.3% (15点) 、鉢 10.9% (6点) 、器台 3.6% (2点) 、ミニチュア土器 1.8% (1点) であった。S K326 と S E327 の器種構成については、鉢の比率に問題はあるがほほ同傾向と考えてよいであろう。また、この2つの遺構については、位置関係も近接している。土器出土状況も同じ状況であった。相違点は、S E327 には底部で集水するためと考えられる石組みが存在していることである。

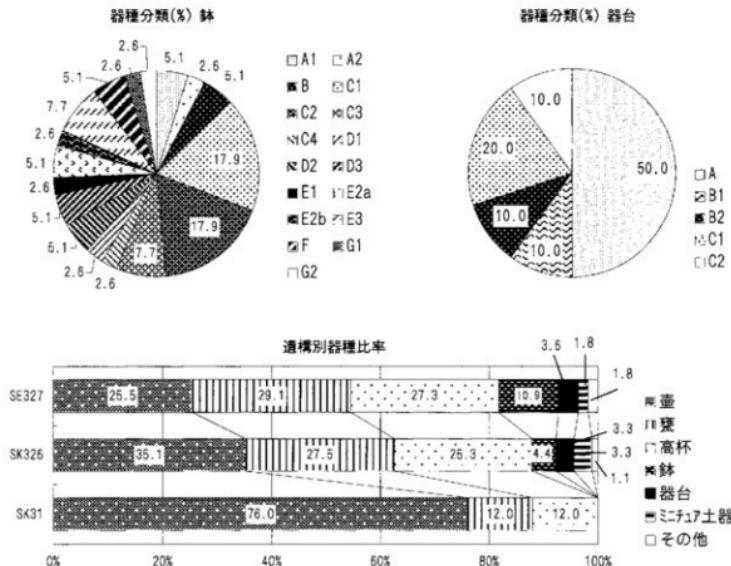
S K31は壺が76.0%を占め、鉢、器台、ミニチュア土器などを確認しておらず、S K326 と S E327 の器種構成と比較すると一種特異な感を受ける。また、S K326 と S E327 にはみられない銅鐸形土製品や木製農具などが共伴していることは、S K31が他の2遺構とは違う性質のものであることを示して

いるのではないだろうか。

5 祭祀木製品の統計的傾向

堀町遺跡においては、舟車・人形・舟形といった祭祀木製品が大量に出土している。報告書掲載分で146点を数える。県内においても資料の豊富さは松阪市杉垣内遺跡とともに群を抜いている。そこで祭祀木製品の統計的傾向を概観したいと思う。報告書掲載分の傾向であるが全体の傾向もつかめるものと考える。舟車95.9% (140点) 、人形 0.7% (1点) 、舟形 3.4% (5点) という傾向が堀町遺跡においてみられる。

舟車は、細長い薄い板を尖らせたり、板の側面に切り込みなどを施した車のものである。舟車については、出土量が多く型式分類を行った。分類については『木器集成図録－近畿古代篇－』掲載の分類を参考にした。堀町遺跡出土の舟車については、A1、



第197図 後期前半弥生土器統計結果②

A V、C I、C II、C III、C IV、C V の 7 型式に分類できる。特徵については第198図を参照されたい。

斎弔が出土した遺構については、S R210 からの出土が全体の98.6% (138点) で、ほとんどを占める。S K 6、S E207 はともに0.7 % (1点) であった。S R210 については、量の多少のばらつきはあるものの、調査区内の地区ほぼ全域で出土しているといつていいだろう (第199 図参照)。遺跡周辺で斎弔を使った祭祀が行われ、その斎弔が流れ込んできたと考えられる。また、壇土の層位別出土を概観すると、第5層が66.7% (92 点) で最も多く、第4層が24.6% (34 点) とそれに続く。第1・2 層については出土が多くなる遺構底部での出土が目立つ。

型式分類比率については、A I 0.7% (1点) 、A V 0.7% (1点) 、C I 1.4% (2点) 、C II 1.4% (2点) 、C III 1.4% (2点) 、C IV 33.6% (47点) 、C V 11.4% (16 点) で、C IV が多くを占める。C I ~ C V に含まれないものの、概ね C 型式と考えられるものが49.3% (69 点) を占める。これらを含んで考えると斎弔の98.6% (138点) がC 型式であるという統計結果であった。

ここで祭祀木製品が大量に出土し、其伴土器がほぼ同時期で、S R210 と同様の旧河道も存在する松阪市杉垣内遺跡出土の祭祀木製品の傾向との比較を行いたい。祭祀木製品については、75点が報告書に掲載されている。その内訳は、斎弔77.3% (53 点) 、人形 1.3% (1点) 、馬形 1.3% (1点) 、刀形 2.8% (2点) 、刀子形 1.3% (1点) 、隔物 4.0% (3点) であった。斎弔がほとんどを占めているものの、堀町遺跡と違い祭祀木製品が多種多様である。斎弔の型式分類比率は、A I 1.7% (1点) 、B I 3.4% (2点) 、B III 25.9% (15 点) 、B VII 5.2% (3点) 、C III 58.7% (34 点) 、C IV 1.7% (1点) 、C VI 1.7% (1点) 、D 1.7% (1点) という統計結果であった。堀町遺跡よりも型式が豊富であることが窺えよう。堀町遺跡出土斎弔のように100 % 近い比率ではないもののC 型式と考えられる斎弔が62.0% (36 点) と他型式を圧倒している。地域的に近接している2 遺跡で同傾向という結果が出たことは興味深い。また、堀町遺跡では確認できなかったB 型式が多く存在している。

6 堀町遺跡の井戸について

堀町遺跡では、井戸の検出例が多く、弥生時代から鎌倉時代のものを29基確認している。ここでは、奈良時代から鎌倉時代の井戸について分類を行いたい。いわゆる井筒の形態差により分類を行っており、井戸の部分名称や分類名については先行の研究を基にしている。名称についてもそのまま引用した。以下に分類を述べる。

<素掘り井戸>

木組や石組がなく地面を掘削しただけのもの。具体例としては、S E230・362・451・224・225 があげられる。

<木組円形縦板組無支持型井戸>

縦板が円形に並び、縦板を支持する横桟などがみられないもの。具体例としては、S E37である。

<木組方形縦板組無支持型井戸>

縦板が方形に並び、縦板を支持する横桟などがみられないもの。具体例としては、S E370・358 があげられる。

<木組方形縦板組横桿型井戸>

縦板が方形に並び、縦板の内側に方形に横桿が組まれているもの。具体例としては、S E47・353・363・357 があげられる。

<木組方形横板組+縦板組横桿型井戸>

方形の井筒の向かい合う位置にそれぞれ横板と縦板が組まれ、縦板の内側に横桿が組まれているもの。具体例としては、S E54・217・323 があげられる。

<木組円形曲物単独型井戸>

曲物が単独で井戸底部にみられるもの。縦板などの井戸枠はみられない。具体例としては、S E207・208・232・368 があげられる。

<木組円形曲物積み上げ型井戸>

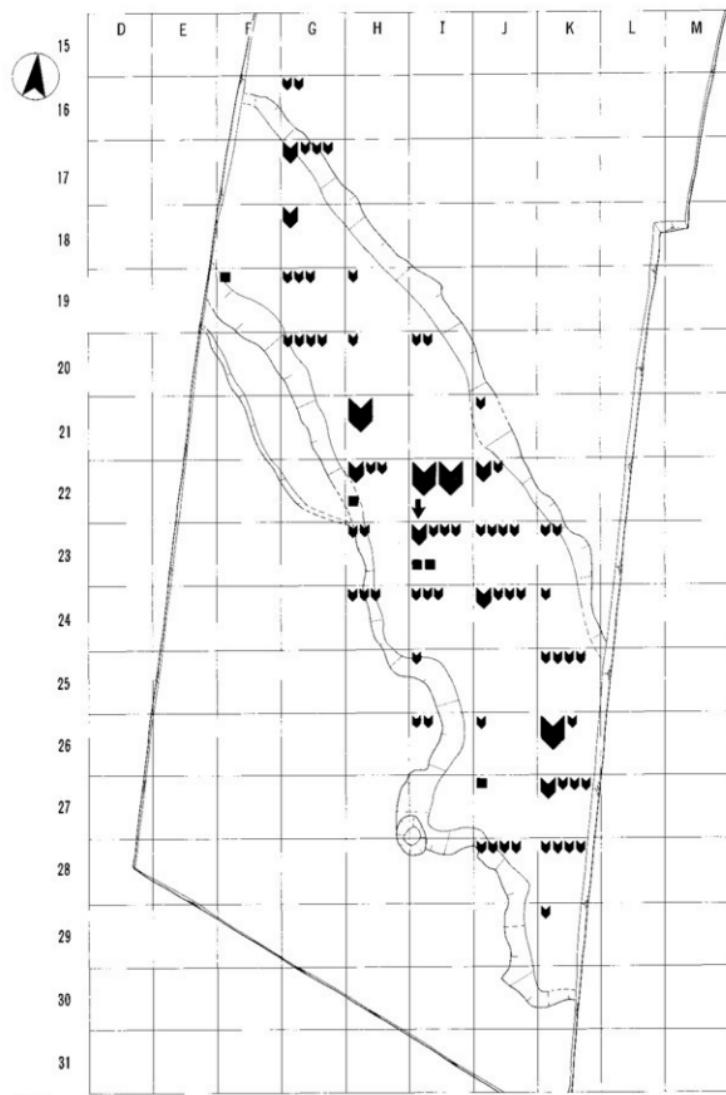
曲物が複数積み上げられているもの。具体例としては、S E55・221・231・233・337 があげられる。

<木組円形丸太くり抜き型+曲物積み上げ型井戸>

丸太をくり抜いたような井戸枠と曲物が複数積み上げられているものとの複合型。S E218 がこれに相当しよう。

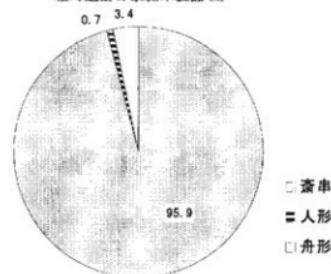
分類	例図	特徴	分類	例図	特徴
I		・板材の両端をそれぞれ一側面から斜めに切り落とし、切込みがないもの。 1938	III		・板材の上端は圭頭状に、付近の側面の左右1ヶ所に切込みをいれるもので、上端の斜辺から切込むものも含む。 1945
A	V	・板材の両端をそれぞれ一側面から斜めに切り落とし、側面の左右2ヶ所以上に切込みをいれるもので、1ヶ所の切込み回数が複数回に及ぶもの。 1940	IV		・板材の上端近くは圭頭状に、下端は剣先状で、上端近くの側面の左右に2ヶ所以上切込みをいれるもので、1ヶ所の切込み回数は1回と考えられる。 1953
C	I	・板材の上端は圭頭状に、下端は剣先状で、切込みをいれないもの。 1942	C		・板材の上端近くは圭頭状に、下端は剣先状で、上端近くの側面の左右に2ヶ所以上切込みをいれるもので、1ヶ所の切込み回数は4~5回に及ぶことがある。 1954
C	II	・板材の上端は圭頭状に、下端は剣先状で、板の側面を割裂くように上端木口から割れ目をいれるもの。 1943			

第198図 斎串型式分類(案) (1:6)

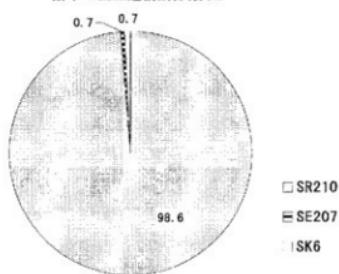


第199図 SR 210祭祀木製品出土状況 (1 : 300)

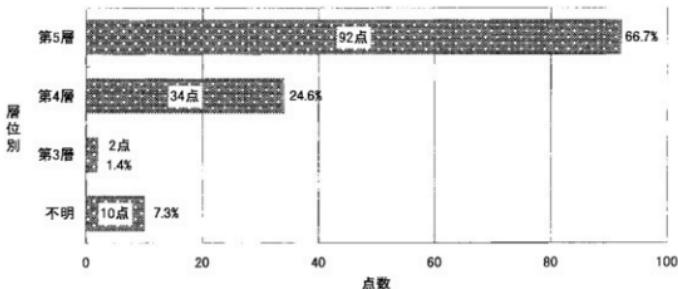
堀町遺跡の祭祀木製品(%)



斎串の出土遺構別分類(%)



SR210 層位別出土状況



第200図 祭祀木製品統計結果

＜木組円形縦板組無支持型+曲物積み上げ型井戸＞

縦板が円形に並び、縦板を支持する横桟などがみられないものと曲物が複数積み上げられているものとの複合型。SE46がこれに相当する。

＜木組方形縦板組横桟型+曲物積み上げ型井戸＞

縦板が方形に並び、縦板の内側に方形に横桟が組まれているものと曲物が複数積み上げられているものとの複合型。具体例としては、SE345があげられる。

＜土器組+曲物單独型井戸＞

井戸底部に土器と曲物があるもの。縦板などの井戸枠はみられない。SE226がこれに相当する。

以上のように、井側については11に分類することができた。素掘り井戸は奈良～鎌倉時代に至るまでみられ、平安時代まで井側の形態については円形と方形がそれぞれ存在し、鎌倉時代になると井側が円形のみになるという傾向がみられる。また、堀町遺跡では、石組み井戸の検出例がなく、井戸の時期別の変遷を考える上で興味深い結果である。なお、堀町遺跡だけの傾向であるので他遺跡との比較検討が必要と考える。

7 堀町遺跡出土の線刻・墨書き土器

堀町遺跡において、時期差はあるものの報告書掲

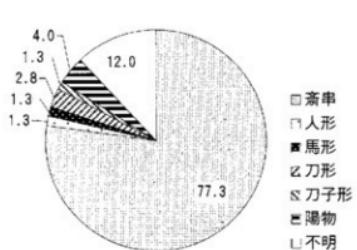
載分で線刻土器が58点、墨書き土器が33点を数える。当遺跡で出土したほとんどのものを報告書に掲載している。

線刻土器は、58点のうち50点が土師器である。その50点のうち杯皿類が36点（皿15点、杯21点）で、最も多い。線刻を施す部位については底部外面がほとんどである。なお底部内外面に線刻を施すものも7点存在する。線刻は、「-」、「×」、放射状になっているもの、交差しているものなどがあり、「ドーマン」を意味すると考えられるものが21点を数える。線刻土器の40%近くを占めることになり、当時の人々の精神世界を考える上で興味深い結果である。

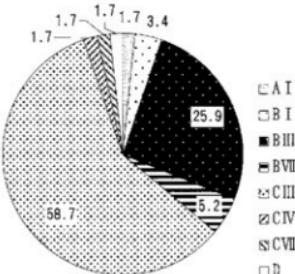
墨書き土器は、33点のうち22点が土師器である。すべて杯皿類（皿5点、杯17点）であった。墨書きを施す部位についてはほとんどが底部外面である。なお内外面に墨書きを施すものは1点、内面に墨書きを施すものは3点であった。墨書きは「上」「大吉」「宮」「律」「西」「秋木」などがみられる。「大吉」や「律」はマジナルな意味をもつものか、「上」の墨書き土器については斎宮跡でも出土例があり、遺跡内には斎宮という字名が残っていることからも、斎宮との何らかの関連が考えられる。斎宮に関連のある施設や墓田などが遺跡の周辺に存在していた可能性も否定はできない。

線刻に多くみられた「ドーマン」の類は、墨書き

杉垣内遺跡祭祀木製品分類(%)



杉垣内遺跡の審査型式分類(%)



第201図 杉垣内遺跡祭祀木製品統計結果

器にはほとんどみられず1点を確認しているだけである。堀町遺跡の出土例から、線刻や墨書きは、土器に施すものにより使い分けしていた可能性を考えられる。これは、堀町遺跡出土例だけの傾向であり、他遺跡との比較を十分に行わなければいけないだろうし、土器の所属時期についても十分に吟味しなければならないだろう。

8 総括

堀町遺跡の発掘調査から様々な成果を得ることができた。以下に列記して総括としたい。

①環濠聚落であることが判明し、弥生時代後期当時の社会動態を考える上で貴重な成果を得ることができた。

②銅鐸形土器製品の出土から、近隣に銅鐸を持つ集団の存在が想定でき、阿形遺跡や草山遺跡との関係を考えると興味深いものがある。

③弥生時代後期前半の土器群はほとんどが造機からの中出でもあり、当該期の基準資料となりえることが考えられる。

④弥生時代後期から中世にかけて盛衰はあるものの集落が連繩と存続していくことが判明した。

⑤井戸が多く検出され、調査区内に限られるが右組井戸ではなくすべて素掘りか木組井戸であり、井戸の形態の変遷を考える上で貴重な成果を得ることができた。

⑥旧河道からは多くの遺物が良好な形で出土したが、祭祀木製品の出土や「ドーマン」の線刻が施された土器などから古代から中世にかけて当時の人々の精神世界を知る上で貴重な成果であるといえる。

⑦自然科学分析の結果からは、昆虫化石から弥生時代と現代の気候が何条件であったこと、種実遺体から弥生時代から中世までの植物質食料事情の復元や、井戸枠や木製農具の樹種同定からそれぞれの使用木材が全国的な傾向と合致することなどが判明し、当時の人々の生活や自然環境を復元する上で貴重な成果を得ることができた。

以上のように弥生時代後期から中世にかけてのこの地域の様相を解明する手がかりを得ることができたといえる。

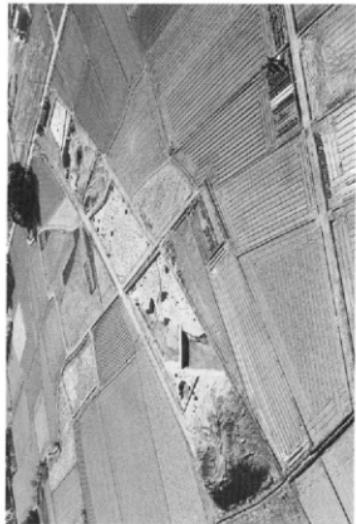
(小濱 学)

[註]

- ① 福田哲也ほか「IV、阿形遺跡」「ヒタキ庵寺・打田遺跡・芳形遺跡はか」(1992年)。
- ② 松阪市教育委員会『松阪市史第2巻安政篇・考古』(1978年)。
- ③ 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査月報』1~19(1982~1985年)。
- ④ 稲田 昭『透早崎遺跡発掘調査報告』(松阪市教育委員会、1992年)。
- ⑤ ④に同じ。
- ⑥ 赤塚次郎ほか『山中遺跡』(附) 愛知県埋蔵文化財センター、1992年)。
- ⑦ 久永泰男『弥生式土器地誌』『湖沼』(豊橋市教育委員会、1963年)。
- ⑧ 鈴木敏訓『山中模式三河型(寄道株式)』『三河考古』創刊号(1988年)など。
- ⑨ 森本六賀・小林行雄『弥生式土器集成』(1989年)。
- ⑩ 河瀬信幸ほか「IV、杉川内遺跡」[昭和61年度農業基盤整備事業地塊 墓藏文化財発掘調査報告] (三重県教育委員会、1989年)。
- ⑪ 奈良国立文化財研究所『木器集成図録—近畿古代編一』(1985年)。
- ⑫ 「杉川内遺跡」の報告書には、素車の分類はより細分された案が提示されている。今後の分析については、細分まで踏み出す『木器集成図録—近畿古代編一』の分類によっている。
- ⑬ 奈良国立文化財研究所『木器集成図録—近畿古代編一』(1985年)。
- ⑭ 奈良歴史博物館村村寛之氏のご教示による。
- ⑮ 奈良歴史博物館村村寛之氏のご教示による。
- ⑯ 奈良歴史博物館村村寛之氏のご教示による。

[参考文献]

- ・ 奈良市教育委員会『高井遺跡』(1996年)。
- ・ 西沢廉・森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年—近畿編I~』(1989年)。
- ・ 志津廣・森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年—近畿編II~』(1990年)。
- ・ 東海考古学フォーラム『鍋と壺そのデザイン』(1996年)。
- ・ 奈宮跡調査事務所『奈宮の土加暮』『奈宮跡調査事務所年報』(1984年)。
- ・ 伊藤裕理『中世伊勢系の土器群に関する一試論』『Mie history vol. 1』(三重歴史文化研究会、1990年)。
- ・ 藤沢良祐『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要第3号』(三重県埋蔵文化財センター、1994年)。
- ・ 菅村史隆『伊勢・志摩海民の流播と信仰』『伊勢と熊野の海』(小学館、1992年)。
- ・ 三重県埋蔵文化財センター【『般若道42号松阪・多気バイパス 墓藏文化財発掘調査概報V~Ⅵ』(1995~1998)】



第2次調査区空中写真（北西から）



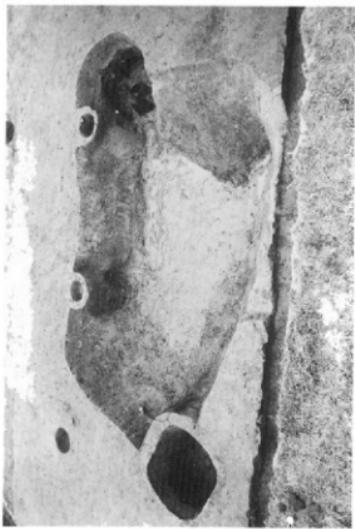
第3次調査区空中写真（南から）



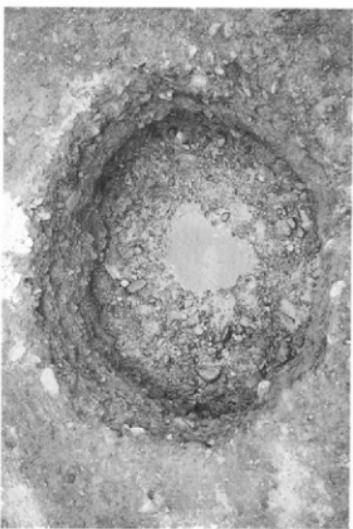
調査前風景（南から）



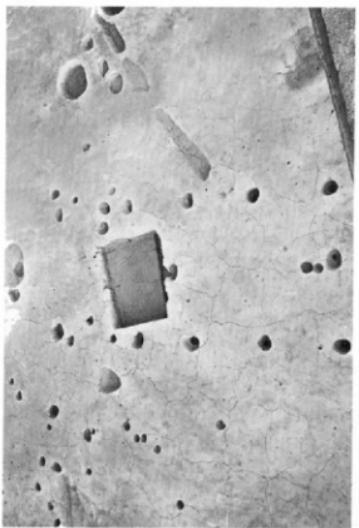
第1次調査区空中写真（上から）



S K15 (北から)



S K340 (南西から)



S B257・258 (東から)



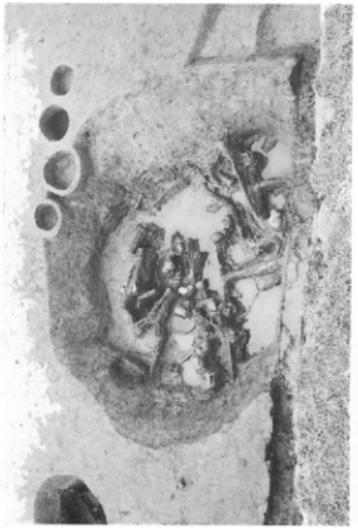
S B480 (南から)



S K305 出土状況（南から）



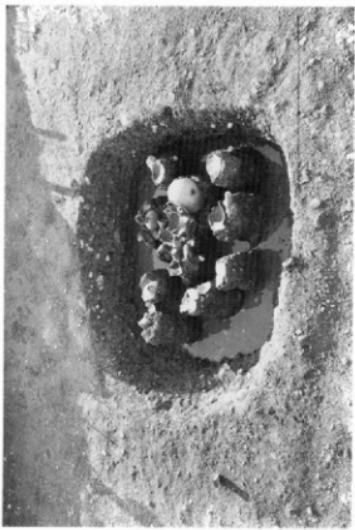
S K305 棚出土状況（西から）



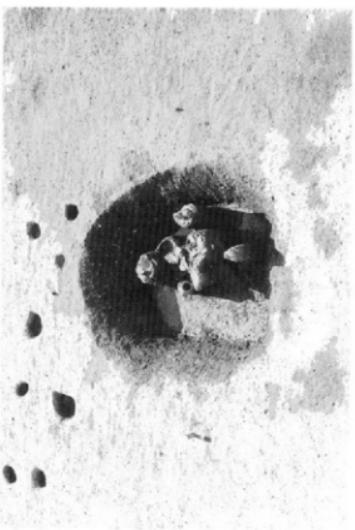
S K31 出土状況（北から）



S K31 編繩形土製品出土状況（西から）



SK359 出土状況（北から）



SK410 出土状況（東から）



SK326 出土状況（北から）



SK326 （北から）



S K426 出土状況（西から）



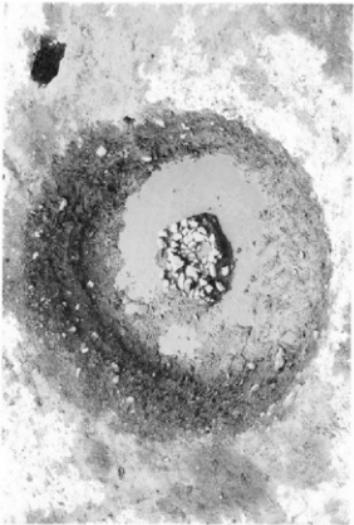
S K426 土器集中地点（南から）



S K420 出土状況（東から）



S K421 出土状況（北から）



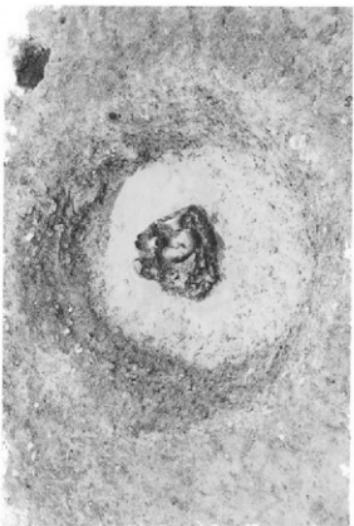
S E327 集水遺構出土状況（北から）



S E327 瓦状土製品出土状況（東から）



S E327 上層出土状況（東から）



S E327 下層出土状況（北から）



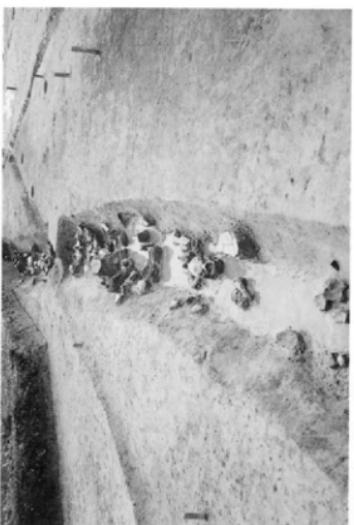
S D303 土層断面（第3次調査区 南から）



S D303 (南から)



S D303 土器集中状況（第3次調査区 南から）



S D303 出土状況（第3次調査区 北から）